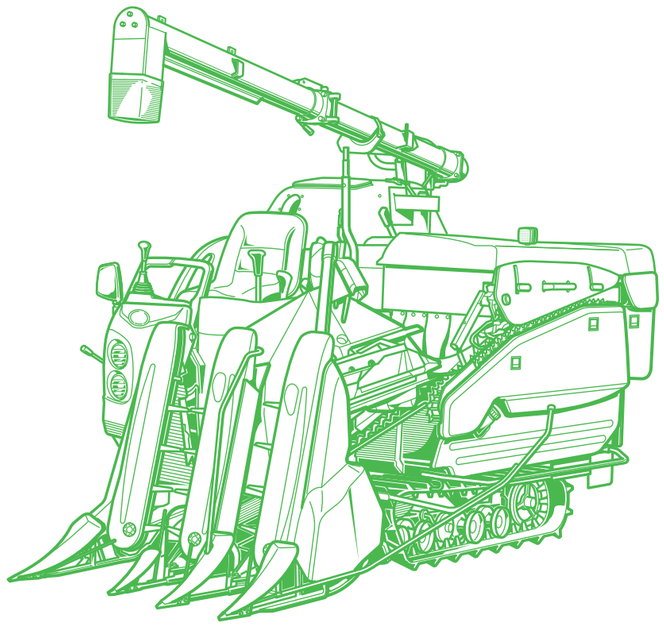
XC321・323

コンバイン

取扱説明書

XC321・323



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。


ホーン


エンジン回転数［**低回転**］


エンジン回転数［**高回転**］


ウインカランプ


ヘッドランプ


ヘッドランプと作業灯


エンジン停止


燃料

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

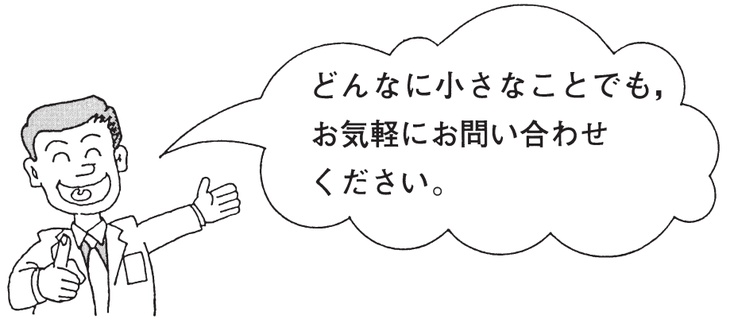
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

専門用語の説明

• **予熱（グロー）**	エンジンの始動を容易にするための補助装置
• **SF ワンレバー**	機体の操向操作と刈取部の昇降を行うレバー
• **デバイダ**	こくかんを分けすくい上げる部分
• **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓、ラジエータの水を抜く栓
• **HST**	油圧式の無段変速装置
• **アジャスト**	調節を意味する
• **主変速レバー**	**［前進］［後進］**の切換えおよびそのスピードをコントロールするレバー
• **スローブローヒューズ**	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
• **１番スクリュ**	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
• **２番スクリュ**	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
• **チャフシーブ（選別板）**	こく粒を粗選する桟状の板
• **トウミ**	選別風を発生させるファン
• **グレンシーブ**	こく粒を精選するあみ体
• **送じん調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• **排じん調節**	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
• **こぎ胴**	脱こくするドラム
• **フィードチェーン**	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
• **縦スクリュ**	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
• **こぎ胴オープン**	こぎ胴を上に上げる機構
• **揺動板（シーブケース）**	揺動運動してこく粒を選別する装置
• **アンローダ**	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびは、三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございます。製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書は、いつでもご覧頂ける場所に、大切に保管してください。なお、予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が、製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示がある安全ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠安全ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要 ：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足 ：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲･麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は**［XC323 仕様］**を基本とし、**［XC323 仕様］**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

［例］　XC323 G Y
①　②　③

①刈取条数・
エンジン出力によって ……［321］（3 条刈り・21PS）
［323］（3 条刈り・23PS）

②グレンタンク仕様 …… ［G 仕様］

③クローラによって……

クローラ幅（mm）	
ー	［Y仕様］
360	400

諸装置		仕様 321	仕様 323	備考
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止装置］	○	○	
	自動脱こく制御	○	○	
	アンローダ 自動旋回装置	○	○	
	アンローダ 排出位置選択	○	○	
	自動エンジン停止装置	○	○	
刈取部横スライド装置［スライドヘッダ］		○	○	
刈取突込み防止装置		○	○	
左分草かん開閉装置		○	○	
枕こぎオートプレート		○	○	
枕こぎエンジン緊急停止［手こぎあんしん機構］		○	○	
パワークラッチ［刈取・脱こく］		○	○	
集中注油装置		○	○	
バッテリカットスイッチ		○	○	
ＤＣ電源ソケット		○	○	
燃料供給台		○	○	
ドリンクホルダ		○	○	
もみシャッタ		○	○	
アンローダリモコン		△	△	無線
パワークラッチ［もみ排出］		△	△	
刈取防じんカバー		△	△	

○：標準装備 △：オプション（後付け可）

目次

安全作業をするための注意事項 9

サービスと保証について 41

ご相談窓口 41
認定番号 41
補修用部品の供給年限について 42
取扱説明書の収納場所について 42
小型特殊自動車について 42
1. 小型特殊自動車取得の届出および標識（ナンバプレート）の取付け 43
2. 損害賠償保険について 43
3. 運転免許証の携帯 43

装置の名称と取扱い 44

機体方向説明 44
装置各部の名称とはたらき 45
1. 機体前方の装置の名称 45
2. 機体後方の装置の名称 47
3. レバー、スイッチ類の名称 48
4. エンジン操作関係の名称とはたらき 50
4.1 メインスイッチ 50
4.2 アクセルレバー 50
4.3 非常エンジン停止レバー 50
5. 走行操作関係の名称とはたらき 51
5.1 主変速レバー、副変速レバー 51
5.2 ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 51
5.3 SF ワンレバー 51
5.4 刈取下降ロックスイッチ 52
6. 刈取、脱こく関係の名称とはたらき 53
6.1 作業スイッチ（楽刈ボタン） 53
6.2 刈取かき込みスイッチ 53
6.3 刈取変速レバー 54
6.4 左分草かん開閉レバー 54
6.5 エンジン停止スイッチ 54
6.5.1 機体の作業状態への復帰のしかた 54
6.6 トウミ調節レバー 56
6.7 チャフ調節レバー 56
7. グレンタンク関係の名称とはたらき 56
7.1 もみ排出クラッチレバー 56
8. 電装関係の名称とはたらき 56
8.1 メータユニット 56
8.1.1 メータユニットの各メータ 57
8.1.1.1 燃料計 57
8.1.1.2 水温計 57
8.1.1.3 アワメータ 57
8.1.1.4 エンジン回転数表示 57
8.1.2 メータユニットの各ランプ 57
8.1.2.1 充電ランプ 58
8.1.2.2 オイルランプ 58
8.1.2.3 2 番ランプ 58
8.1.2.4 作業可能ランプ（OK ランプ） 58
8.1.2.5 作業灯点灯ランプ 58
8.1.2.6 排わらランプ 58
8.1.2.7 もみランプ 58
8.1.2.8 負荷／脱こくランプ 58
8.2 コンビネーションスイッチ、ホーンスイッチ 58

8.2.1 ライティングスイッチ 59
8.2.2 ホーンスイッチ 59
8.2.3 ウインカスイッチ 59
8.3 バッテリカットスイッチ 59
8.4 DC 電源ソケット 59
9. その他の装置の名称とはたらき 60
9.1 運転席（シート） 60
9.2 ドリンクホルダ 60
9.3 燃料供給台 61
9.3.1 燃料供給台の設置のしかた 61
自動化装置の名称およびはたらき 62
1. 自動化装置の刈取、脱こく関係の名称とはたらき 62
1.1 自動こぎ深さ制御装置 62
1.1.1 自動こぎ深さスイッチ 62
1.1.2 手動こぎ深さ制御装置 62
1.1.2.1 手動操作でのこぎ深さの制御方法 62
1.1.2.2 穂先センサの位置調節について 63
1.1.3 刈取オートクラッチ 63
1.1.3.1 オートクラッチ切換えスイッチ 63
2. 自動化装置のグレンタンク関係の名称とはたらき 64
2.1 アンローダ自動旋回制御装置 64
2.1.1 アンローダ自動旋回スイッチ（右、後） 64
2.1.2 収納スイッチ 65
2.1.3 停止スイッチ 65
2.2 アンローダ手動スイッチ 65
運転のしかた 67
運転前の点検 67
1. 前日の異常箇所の点検 67
2. コンバイン周りの点検 67
3. 日常点検項目 68
新車時の扱い方法 70
1. ならし運転について 70
エンジンの始動と停止のしかた 70
1. エンジンの始動のしかた 70
2. 暖機運転について 72
3. 寒冷時の始動のしかた 72
4. 燃料切れ後のエンジン再始動のしかた 72
5. バッテリが上がったときのエンジン始動のしかた 73
6. エンジンの停止のしかた 73
移動走行について 73
1. 移動走行前の準備 74
2. 発進のしかた 75
3. 旋回のしかた 76
4. 停車、駐車のしかた 77
5. 道路走行時の注意事項 77
5.1 ウインカスイッチの操作 78
輸送について 78
1. トラックとあゆみ板の準備 78
2. トラックへ積込み時のコンバインの準備 78
3. トラックへの積込み、積降しのしかた 78
3.1 トラックへの積込み、積降し操作のしかた 79
4. トラック上でのコンバインの処置 80
収穫作業のしかた 81
作物とほ場の条件 81
1. 作物の条件 81
1.1 作物の長さ 81

1.2 作物の倒伏 81
1.3 作物の濡れ 81
2. ほ場の条件 81
2.1 ほ場のぬかるみ 81
2.2 ほ場の傾き 82
ほ場の準備 82
1. あぜぎわの手刈り（枕刈り） 82
刈取作業のためのコンバインの準備 82
1. 刈取作業の準備のしかた 82
1.1 各部への注油 82
1.2 デバイダキャップの取外しと収納 83
1.3 左分草かん前、後のセット 83
1.4 排わら処理の選択 83
1.5 リヤシュート、サイドシュートの準備 84
1.5.1 リヤシュート、サイドシュートのセット位置 85
1.5.1.1 通常作業時のサイドシュートのセット 85
1.5.1.2 中割り作業時のサイドシュートのセット 85
1.6 アンローダの準備 86
2. アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法 86
2.1 アンローダを折りたたむ方法 87
2.2 アンローダを伸ばす方法 88
刈取作業のしかた 89
1. ほ場の出入りのしかた 89
2. ソリを接地した刈取方法、ソリを浮かせた刈取方法 90
2.1 ソリを地面に接地した刈取方法の概要 91
2.2 ソリを接地した刈取方法ができない作業状況 91
2.2.1 ソリを接地した刈取に適さないほ場 91
2.2.2 ソリを接地した刈取に適さない作物 91
2.2.3 ソリを接地した方法が適さない刈取作業 91
3. 刈取作業の手順 91
4. ほ場で刈る方法と旋回のしかた 95
4.1 刈取部のデバイダの条合わせのしかた 95
4.1.1 あぜぎわ刈り、中割り作業のときのデバイダの条合わせ 95
4.1.2 通常の回り刈りのときのデバイダの条合わせ 96
4.2 広いほ場の場合の刈取り 96
4.3 刈取作業後の旋回のしかた 97
5. 湿田作業のしかた 97
6. 作物に合わせた変速の選択方法 98
6.1 刈取時の作業速度の選択方法 98
6.1.1 刈取変速の選択方法 100
7. もみの排出のしかた 100
8. 手刈りでの枕刈り脱こくのしかた 103
9. 作業に合わせた各部の調整、調節のしかた 104
9.1 刈取部の調整、調節 104
9.1.1 デバイダの上下調整 104
9.1.1.1 デバイダの出荷時の位置 105
9.1.1.2 ソリを地面から上げて刈取作業を行う場合のデバイダ位置 105
9.1.2 引起し爪高さの調節 105
9.2 脱こく部の調整、調節 106
9.2.1 こぎ室送じん調節レバーの調節 106
9.2.2 排じん調整板の調整 107
9.2.3 トウミの開度による風力とチャフ（選別板）のすき間の開度の調節 107
10. メータユニットによる異常の確認と処置 110
メンテナンス 115
各部の開閉と脱着のしかた 115
1. エンジンルームの開閉 115
1.1 エンジンルームを開く方法 115

1.2 エンジンルームを閉じる方法 115
2. こぎ胴の開閉 115
2.1 こぎ胴を開く方法 116
2.2 こぎ胴を閉じる方法 116
3. レバーガイドシートの開閉 116
3.1 レバーガイドシートを開く方法 116
3.2 レバーガイドシートを閉じる方法 117
4. カッタ部の開閉 117
4.1 カッタ部を開く方法 117
4.2 カッタ部を閉じる方法 118
5. シーブケースの脱着 119
5.1 シーブケースの抜出し方法 119
5.2 シーブケースの取付け方法 121
6. 受あみの脱着 122
7. 運転席左側板の脱着 123
7.1 運転席左側板の取外し方法 123
8. 引起しサイドカバーの脱着 123
8.1 引起しサイドカバーの取外し方法 123
8.2 引起しサイドカバーの取付け方法 123
9. 引起しカバーの脱着 123
9.1 引起しカバーの取外し方法 123
9.2 引起しカバーの取付け方法 124
10. 左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの脱着 124
10.1 左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの取外し 124
10.1.1 左サイドカバー上、下の取外し方法 124
10.1.2 カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法 124
10.2 左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの取付け方法 124
11. グレンタンク下カバーの脱着 125
11.1 グレンタンク下カバーの取外し方法 125
11.2 グレンタンク下カバーの取付け方法 125
12. カッタ切換えカバーの開閉 125
12.1 カッタ切換えカバーを開く方法 125
12.2 カッタ切換えカバーを閉じる方法 125
13. グレンタンクの脱着 126
13.1 グレンタンクの取外し方法 126
13.2 グレンタンクの取付け方法 128
14. グレンタンクの開閉 128
14.1 グレンタンクを開く方法 128
14.2 グレンタンクを閉じる方法 129
各部の掃除と注油のしかた 129
1. 各部の掃除 130
1.1 各部の掃除のしかた 130
1.2 掃除箇所 130
1.2.1 脱こく部内の掃除 130
1.2.2 ベルトカバー内の掃除 131
1.2.3 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の掃除 131
1.2.4 1 番スクリュ上部左掃除口の掃除 131
1.2.5 1、2 番横スクリュ下部掃除口の掃除 132
1.2.6 1 番縦、横スクリュ掃除口の掃除 132
1.2.7 2 番処理胴（ツースバー）掃除口の掃除 133
1.2.8 2 番縦スクリュ掃除口の掃除 133
1.2.9 シーブケース後部（3 番出口）の掃除 133
1.2.10 カッタ部内の掃除 133
1.2.11 グレンタンク内の掃除 134
1.2.12 グレンタンク下部掃除口の掃除 134
1.2.13 アンローダ縦スクリュ掃除口の掃除 134
1.2.14 アンローダ水平スクリュ掃除口の掃除 134
1.3 掃除後の処置と確認 135

2. 各部の注油 135
2.1 自動集中注油装置による注油 135
2.1.1 自動集中注油装置による注油のしかた 135
2.2 エア抜きの方法 136
2.3 注油箇所、集中注油ノズルの掃除、グリース塗布 137
2.3.1 自動集中注油箇所と掃除のしかた 137
2.3.1.1 刈刃の自動集中注油箇所 137
2.3.1.1.1 刈刃のノズル掃除 137
2.3.1.2 引起しチェーン、右穂先チェーン、右株元チェーン、左株元チェーン、株元供給チェーンの自動集中注油箇所 138
2.3.1.2.1 引起しチェーンのノズル掃除 138
2.3.1.2.2 右穂先チェーン、株元供給チェーンのノズル掃除 139
2.3.1.2.3 右株元チェーンのノズル掃除 140
2.3.1.2.4 左株元チェーンのノズル掃除 140
2.3.2 手差し注油箇所 140
2.3.2.1 枕こぎオートプレート支点部の手差し注油 140
2.3.2.2 フィードチェーンの手差し注油箇所 141
2.3.2.3 左穂先チェーンの手差し注油 141
2.3.2.4 排わら株元チェーンテンション部の手差し注油 141
2.3.2.5 排わら穂先チェーンの手差し注油 141
2.3.3 グリース塗布箇所 141
2.3.3.1 クローラ張りボルト（左、右）のグリース塗布箇所 141
2.3.3.2 スライド軸、スクリュ軸、スライドブッシュ、スライドガイドのグリース塗布箇所 142
2.3.3.3 サポートスプリングガイドのグリース塗布 142
2.3.4 注油、ノズル掃除後の処置と確認 142
定期点検 142
1. オイル、フィルタ類の交換とチェーン、ベルト、クローラの張り調整 142
2. 廃棄物の処理について 143
3. 洗車時の注意 143
4. 使用者が行ってはいけない修理 143
5. 定期点検一覧表 144
6. 給油、給水、注油点検一覧表 149
7. 燃料、オイル、グリースの点検、補給、交換 152
8. 燃料の補給 152
8.1 燃料の給油 152
8.2 燃料の補給方法 153
9. エンジンオイルの点検、補給、交換 153
9.1 エンジンオイルの点検、補給 153
9.2 エンジンオイルの交換 153
9.2.1 エンジンオイルの排油のしかた 153
9.2.2 エンジンオイルの給油のしかた 154
10. トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換 154
10.1 トランスミッションケースオイルの点検、補給 154
10.2 トランスミッションケースオイルの交換 155
10.2.1 トランスミッションケースオイルの排油のしかた 155
10.2.2 トランスミッションケースオイルの給油のしかた 155
11. フィードチェーン駆動ケースオイルの補給 155
11.1 フィードチェーン駆動ケースオイルの補給方法 155
12. こぎ胴駆動ケースオイルの補給 155
12.1 こぎ胴駆動ケースオイルの補給方法 156
13. 各部のグリース補給 156
13.1 グリースニップルからのグリース補給 157
13.2 転輪部、後輪部のグリース補給 157
13.3 アンローダ部のグリース補給 157
14. ラジエータ冷却水の点検、補給、交換 158
14.1 ラジエータ冷却水の点検、補給 158
14.2 ラジエータ冷却水の交換 158
15. エアクリーナの点検、掃除、交換 159

15.1 エアクリーナの点検、掃除、交換方法 159
16. パイプ、ホース類の点検 160
16.1 パイプ、ホース類の点検方法 160
17. 防じんあみ、ラジエータフィン、オイルクーラフィンの掃除方法 161
18. 燃料フィルタアッシの交換方法 162
19. 燃料フィルタの掃除、燃料フィルタエレメントの交換 162
19.1 燃料フィルタの掃除方法、燃料フィルタエレメントの交換方法 162
20. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 163
20.1 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換方法 163
21. ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換 164
21.1 ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換方法 164
22. 各部ワイヤ、ロッドの点検、調整 165
23. 駐車ブレーキロッドの点検、調整 165
24. 排わら切換えワイヤの点検、調整 165
25. 排わらレールワイヤの点検、調整 167
26. 各部ベルトの点検、調整 169
26.1 各部ベルトの点検 172
26.2 各部ベルトの調整 172
27. ファン駆動ベルトの点検、調整 172
28. 走行（ミッション）駆動ベルトの点検、調整 173
29. 刈取駆動ベルトの点検、調整 173
30. 脱こく駆動ベルトの点検、調整 174
31. 補助搬送（突起付）ベルトの点検、調整 174
32. こぎ胴駆動ケース駆動ベルトの点検、調整 175
33. こぎ胴駆動ベルトの点検、調整 176
34. 1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルトの点検、調整 176
35. カッタ駆動ベルトの点検、調整 176
36. グレンタンク駆動ベルトの点検、調整 177
37. 各部チェーンの点検、調整 178
37.1 各部チェーンの点検 178
37.1.1 各部チェーンの点検箇所 178
37.1.2 各部チェーンの調整 178
38. 引起しチェーンの点検、調整 179
39. 左穂先チェーン、右穂先チェーンの点検 179
40. 左株元チェーン、右株元チェーン、株元供給チェーンの点検 180
41. フィードチェーンの点検、調整 180
42. 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーンの点検、調整 181
43. 排わら入力チェーンの点検 181
44. 刈刃の点検、調整 181
44.1 刈刃の点検、取外し 181
44.2 刈刃のすき間調整 182
44.3 刈刃の取付け 184
45. こぎ歯の点検、交換 184
45.1 こぎ歯の点検 184
45.2 こぎ歯の交換 184
46. わら切刃の点検、交換 185
46.1 わら切刃の点検 185
46.2 わら切刃の交換、取付け 186
47. カッタ部の点検 186
48. 吐出口ブーツの点検、交換 187
48.1 吐出口ブーツの交換 187
49. バッテリの点検、交換 188
49.1 補水が不要なバッテリの点検、交換 188
49.1.1 バッテリの点検 188
49.1.2 バッテリの補充電、交換 190
49.2 補水が必要なバッテリの点検、交換 191
49.2.1 補水が必要なバッテリの点検、補水 191
49.2.2 補水が必要なバッテリの補充電、交換 191

50. 電気の各配線コード、各ヒューズの点検、交換 192
50.1 各配線コードの点検、交換 192
50.2 各ヒューズの交換 192
50.3 スローブローヒューズの点検、交換 194
51. ランプの電球の点検、交換、ホーンスイッチの点検 194
52. 反射器の点検、交換 195
53. クローラの点検、調整 195
54. スライドガイドの点検、注油 197
54.1 スライドガイドの点検 197
54.2 スライドガイドの注油箇所 197
刈取作業後の手入れ 197
1. 毎日の作業後の手入れ 197
2. 長期格納時の手入れ 197
2.1 長期格納時の各部の掃除、注油と補修 197
2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の保管 197
2.2.1 長期格納時のラジエータ冷却水の排水 197
2.2.2 長期格納時のラジエータ冷却水と不凍液の配合 197
2.3 長期格納時のバッテリの保管 198
2.4 長期格納時の各レバー、その他の操作 198
コンバインの不調と処置 199
コンバインの処置時の注意 199
わらが詰まるときの処置 199
1. 自動エンジン停止装置がはたらいたときの処置 199
1.1 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の処置 199
1.2 2 番縦スクリュ掃除口の処置 199
1.3 カッタ部、排わらチェーン部の処置 199
もみが詰まるときの処置 200
1. アンローダからもみが排出されないときの処置 200
泥やわらが詰まるときの処置 201
1. 供給搬送部のわらを取り除く方法 201
2. 株元搬送通路の泥やわらを取り除く方法 201
3. 刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥を取り除く方法 201
その他の不調と処置 202
1. 安全ピンについて 202
2. けん引フックについて 202
付表 204
主要諸元 204
付属部品 210
オプション（別売品） 210
1. 刈取部のオプション 210
1.1 スイスイデバイダ一覧 210
1.2 刈取防じんカバー一覧 210
2. 脱こく部のオプション 210
2.1 種子用交換部品一覧 210
3. こく粒処理部のオプション 210
3.1 無線アンローダリモコン一覧 210
3.2 作業灯一覧 210
4. 排わら処理部のオプション 210
4.1 セラミック切断刃一覧 210
4.2 カッタ後部標準結束機一覧 210
4.3 カッタ後部ドロッパ一覧 210
4.4 簡易拡散装置一覧 210
5. 運転席部のオプション 210
5.1 キャノピ一覧 210
消耗部品 211
1. バッテリ一覧 211

2. ヒューズ一覧 211
3. スローブローヒューズ一覧 211
4. ランプ（電球、LED）一覧 212
5. ラジエータホース、オイルドレーンゴムホース一覧 212
6. インレットパイプ、オイルクーラホース一覧 212
7. 燃料パイプ、燃料フィルタアッシ、燃料フィルタエレメント一覧 213
8. オイルフィルタカートリッジ、ファン駆動ベルト一覧 213
9. ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ一覧 213
10. エアクリーナエレメント一覧 214
11. 吐出口ブーツ一覧 214
12. 脱こくフロントハンプ一覧 214
13. 受あみ一覧 214
14. こぎ歯一覧 215
15. 刈刃一覧 215
16. 株元センサ、穂先センサ一覧 215
17. 各チェーン一覧 216
17.1 フィードチェーン一覧 216
17.2 引起しチェーン、穂先供給チェーン、右株元チェーン、左株元チェーン一覧 216
17.3 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン一覧、安全ピン一覧 216
18. カッタ刃、ギヤローター一覧 216
19. クローラ一覧 217
20. 突起付ベルト一覧 217
21. 各ベルト一覧 218
指定オイル 220
1. 指定オイルについて 220
索引 221

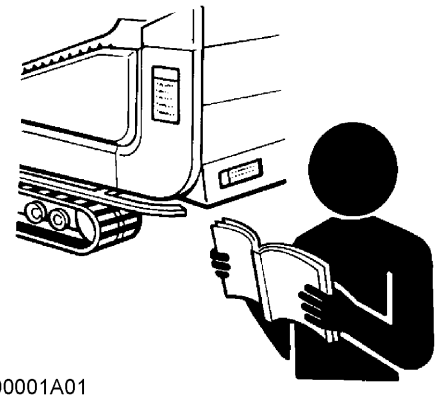
安全作業をするための注意事項

安全作業をするために、本章の注意事項を必ず守ってください。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章で述べたとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、補足としてそのつど取り上げています。

一般的な注意事項

1. 正しい運転および作業方法

- 取扱説明書および機械に貼り付けている安全ラベルをよく読み、正しい運転、作業方法を覚えてください。死亡または傷害を負うおそれがあります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。安全ラベルはいつもきれいにしておいてください。



1GAGG00001A01

2. 体の調子が悪いとき

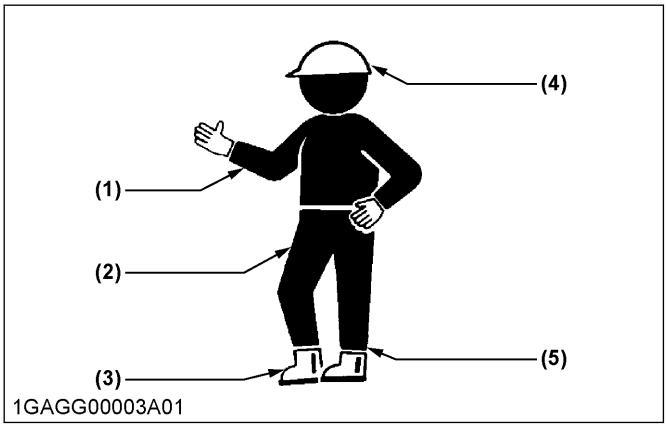
- 体の状態が悪いときには運転操作をしないでください。思わぬ事故の原因になります。
- 運転操作には的確な判断が必要です。次の状態の方は、機械の運転操作を行わないでください。
  - お酒を飲んでいる方
  - 睡眠不足の方
  - 妊娠中の方
  - 過労、病気の方
  - 16 歳未満の方



1GAGG00002A01

3. 作業に適した服装

- 作業時には、運転者、補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット、滑りにくい靴を着用してください。レバーや作動部に引っ掛かったり、滑ったりして、傷害を負うおそれがあります。
- だぶついた服は着用しないでください。
- そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルは着用しないでください。
- サンダル、スリッパなどの履物は着用しないでください。
- 必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などの保護具を着用してください。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。
  作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。



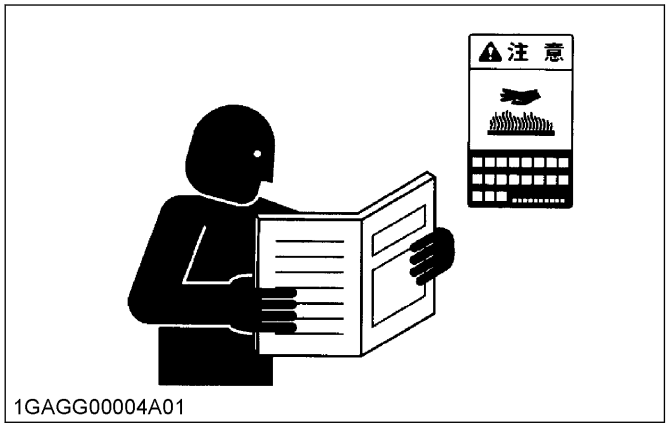
1GAGG00003A01

(1) スッキリしたそで口
(2) 身に合った服
(3) 滑りにくい靴
(4) ヘルメット
(5) スッキリしたスソ

⚠ 安全作業をするための注意事項

4. 運転してはいけない人

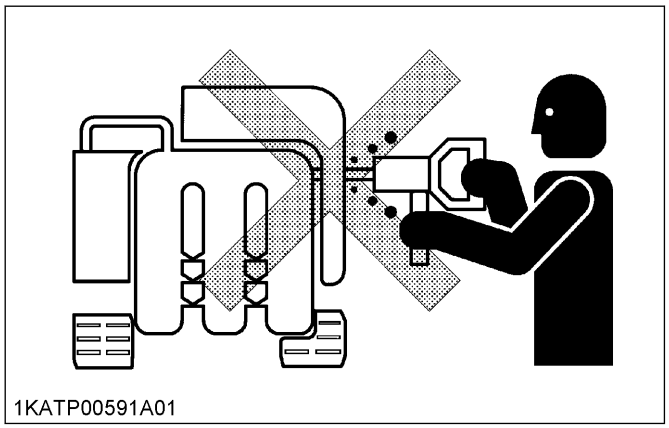
- 取扱説明書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。死亡または傷害をまねくおそれがあります。
- 機械を他人に貸すとき、運転させるときは、取扱説明書を読ませるとともに、取扱方法や安全な使用方法を説明して、安全な作業ができるよう指導してください。



1GAGG00004A01

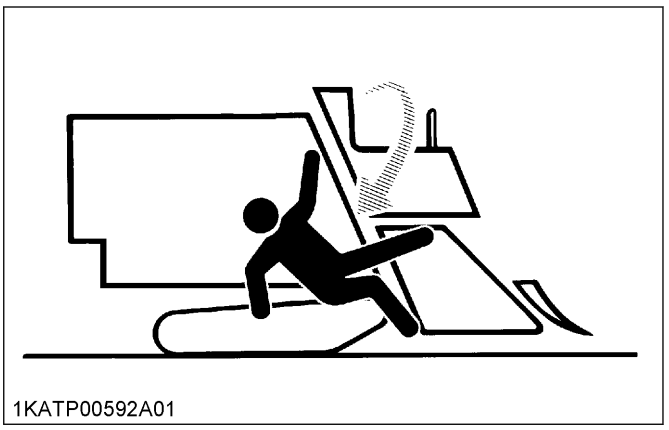
5. 改造禁止

- 機械を改造しないでください。安全性を損ない、思わぬ事故の原因になります。


1KATP00591A01

6. 飛乗りおよび飛降り禁止

- 運転席に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒、転落し、傷害を負うおそれがあります。
- 平たんな場所でハンドルをしっかり握り、すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りしてください。


1KATP00592A01

7. 同乗禁止

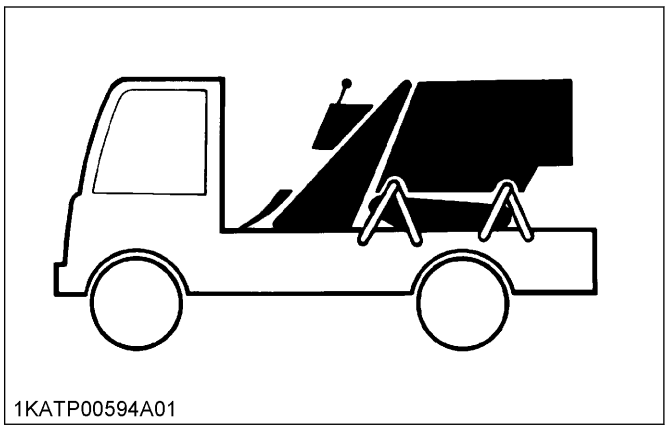
- 運転者以外は機械に乗らないでください。振り落とされたり、ひかれたりして、死亡または傷害を負うおそれがあります。
- 動いている機械に飛び乗ったり、飛び降りたりしないでください。


1KATP00593A01

8. 公道の走行

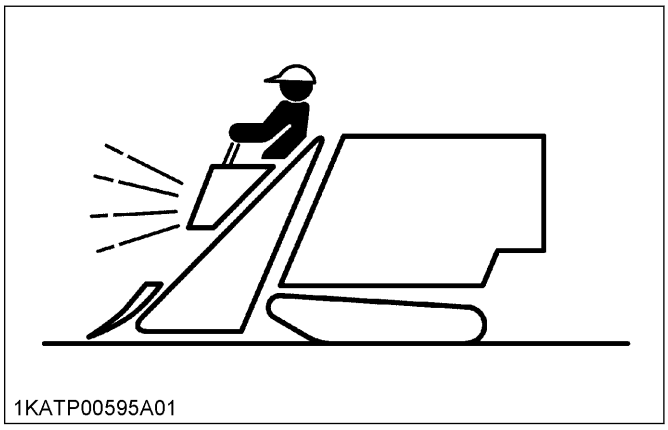
- 公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守ってください。交通事故をまねき、死亡または傷害を負うおそれがあります。
- 公道を走行する場合は、所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は、トラックで運搬してください。

⚠ 安全作業をするための注意事項


1KATP00594A01

9. 夜間の使用禁止

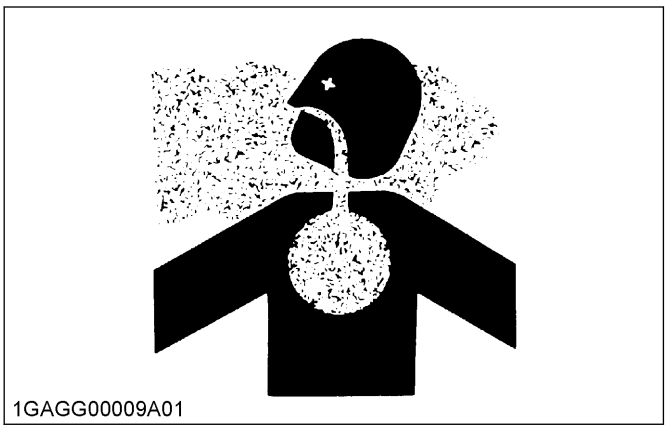
- 夜間の作業や移動走行は避けてください。交通事故や転倒、転落をまねき、死亡または傷害を負うおそれがあります。
- やむをえず夜間作業を行うときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
- やむをえず夜間に移動走行するときは、必ずヘッドランプを点灯し、作業灯は消灯させてください。


1KATP00595A01

作業前の注意事項

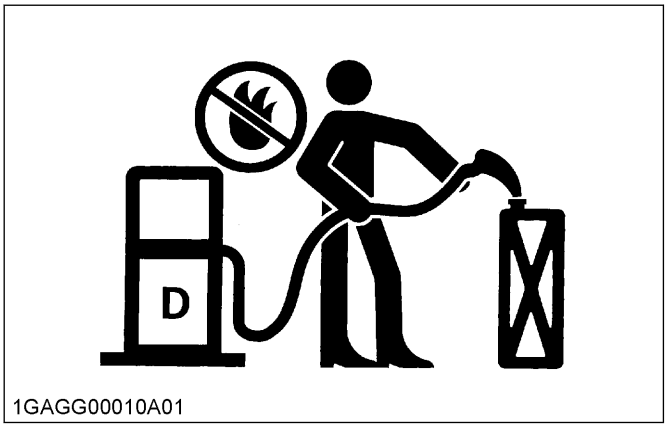
1. 屋内で運転するとき

- 屋内で運転するときは、排気ガスに注意して適切な換気をしてください。エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気がじゅうぶん入るようにしてください。


1GAGG00009A01

2. 火気厳禁

- 燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。火災の原因になります。
- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいに拭き取ってください。

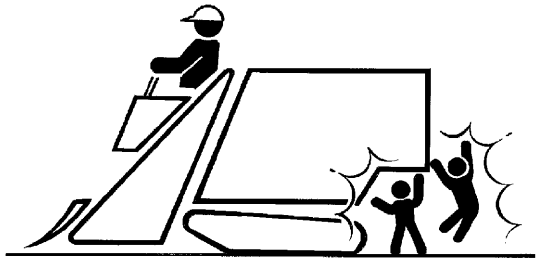


1GAGG00010A01

3. 周囲の安全

- 機械を動かすときは周囲の安全に気をつけてください。回転物に巻き込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、運転席に座って、主変速レバー、副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にし、駐車ブレーキを踏み込み、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや作業スイッチを押すときは、ホーンを鳴らすなど合図してから行ってください。

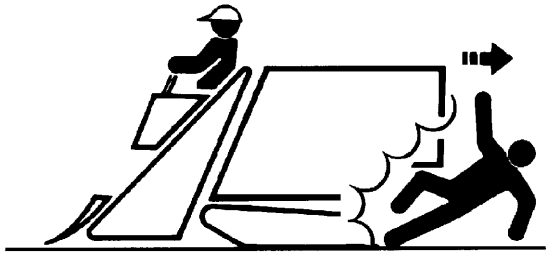
⚠ 安全作業をするための注意事項



1KATP00596A01

4. 初めての運転

- 初めて運転する人は、操作になれるまで低速で運転してください。思わぬ事故の原因となります。



1KATP00597A01

5. 作業前点検

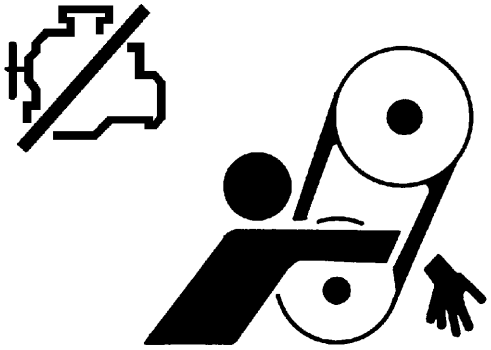
- 作業前点検（日常点検）を実施してください。整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。
- 運転の前には運転前の点検（67 ページ）の点検を行ってください。異常があれば整備してから運転してください。



1GAGG00013A01

6. 点検、整備、掃除、および給油するとき

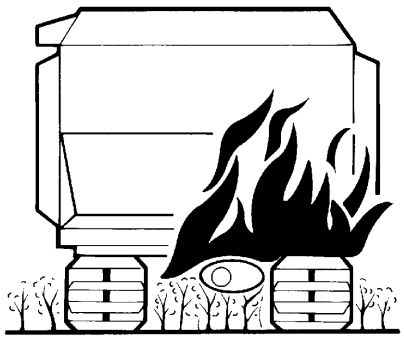
- 点検、整備、掃除、給油するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。回動部に巻き込まれて傷害を負うおそれがあります。
- 取り外した安全カバー、保護カバーは必ずもとどおりに取り付けて作業してください。



1GAGG00014A01

7. わらくずの付着点検

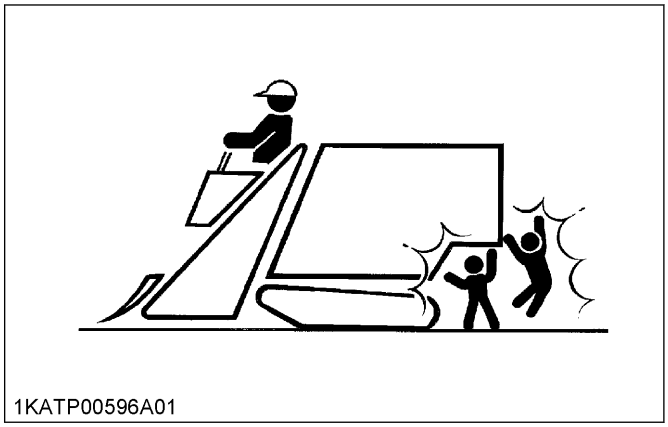
- 次の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積、付着した燃料はきれいに取り除いてください。火災の原因になります。
  - 各ベルトカバー内
  - 各回転物カバー内
  - エンジン周辺
  - マフラおよびその周辺（排気口までの部位）
  - バッテリ周辺
  - プーリ周辺
  - 配線部周辺
  - 燃料タンク周辺
  - 燃料配管周辺（タンク、フィルタ、ポンプ、配管）
  - 防じんあみ周辺



1GAGG00015A01

8. 子供を機械に近づけない

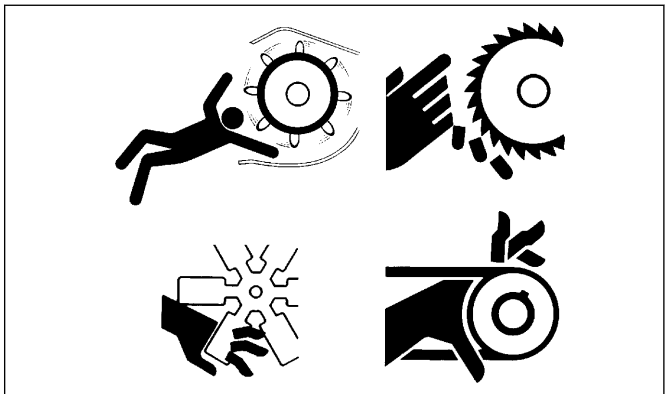
- 点検整備中および作業中は機械に子供を近づけないでください。回転物に巻き込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1KATP00596A01

9. 各部を開閉するとき

- 刈取部、こぎ胴、カッタ部、結束機、エンジンルーム、グレンタンクを開閉するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- 各部の開閉やグレンタンクの取外しは平たんな場所で行ってください。
- こぎ胴、カッタ、結束機を開いたときは、ストッパを掛けてください。
- 各部を開いたままエンジンを始動しないでください。



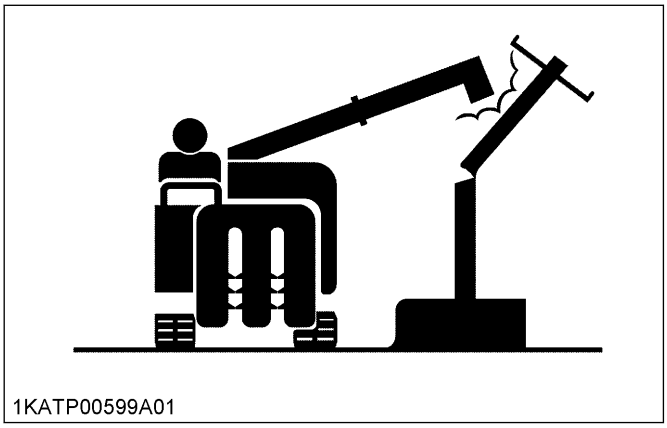
1KATP00598A01

移動走行、ほ場の出入り、駐車時の注意事項

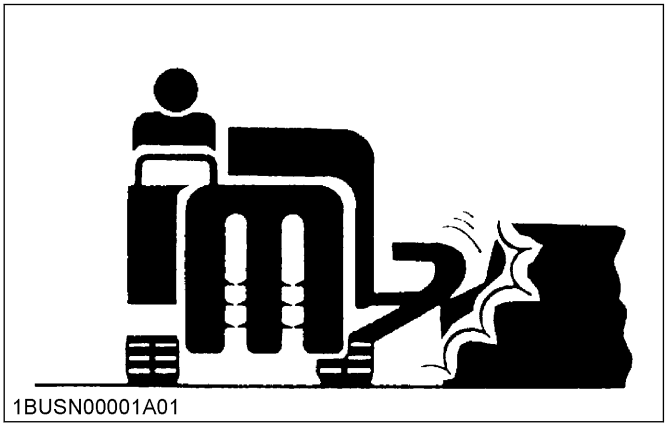
1. 移動走行するとき

移動走行するときは、次の事項を守ってください。人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

- 機体各部に付着しているわらくずや排気管に堆積している泥、付着した燃料はきれいに取り除いてください。
- 作業スイッチを“切（消灯）”、もみ排出クラッチレバーを“切”位置にし、運転者以外に人を乗せないでください。
- もみはすべて排出してください。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダキャップを取り付けてください。
- 左分草かんを収納して、機体幅を狭くしてください。
- アンローダを下げ、折りたたんでからアンローダ支えに収納してバンドを掛けてください。



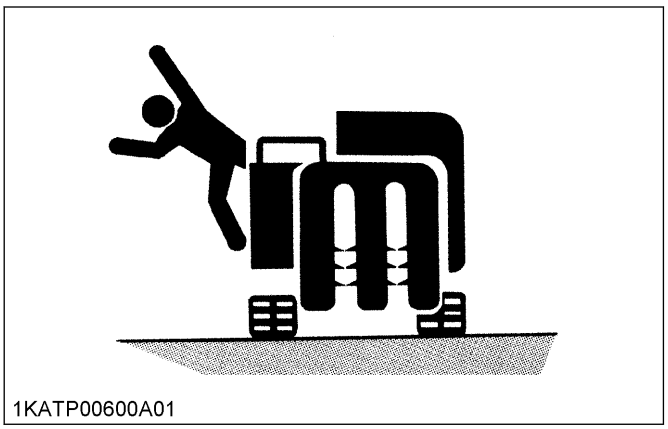
1KATP00599A01



1BUSN00001A01

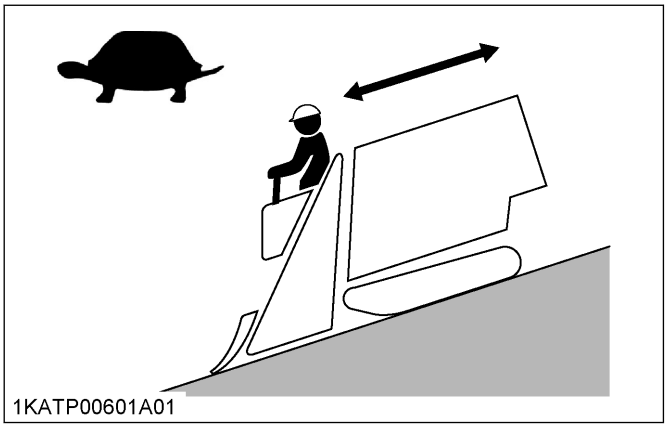
2. 急旋回禁止

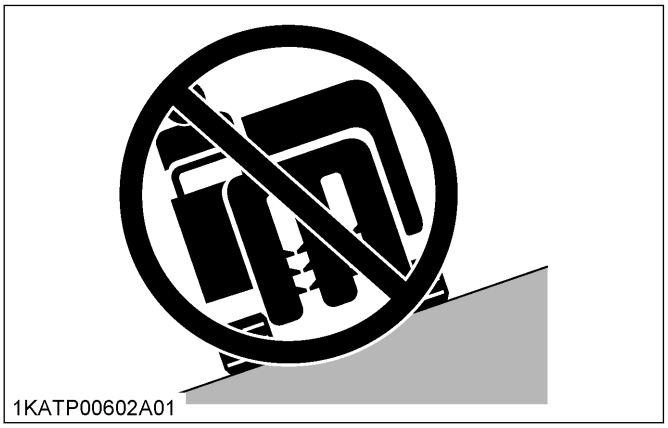
- 移動走行時は急旋回をしないでください。機械から振り落とされたり、転倒するおそれがあります。
- 方向を変えるときは、走行速度を落として（低速にして）、SF ワンレバーをゆっくり操作して旋回してください。


1KATP00600A01

3. 左右の傾きのある傾斜地での走行

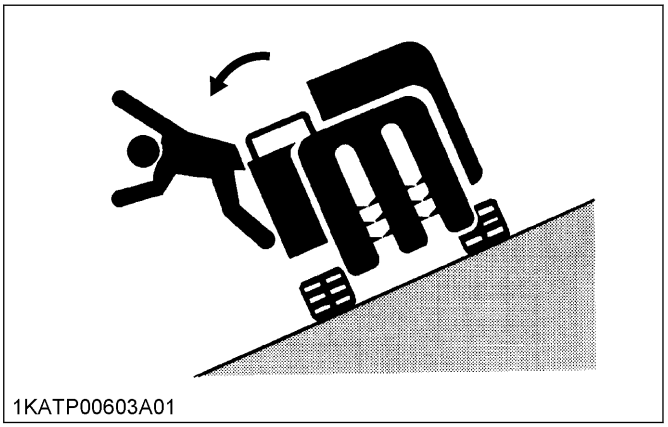
- 右または左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では、上りまたは下り方向に低速でゆっくりと走行してください。
- 坂道（傾斜地）では、右または左に傾いた方向に走行しないでください。
- 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回をしないでください。


1KATP00601A01


1KATP00602A01

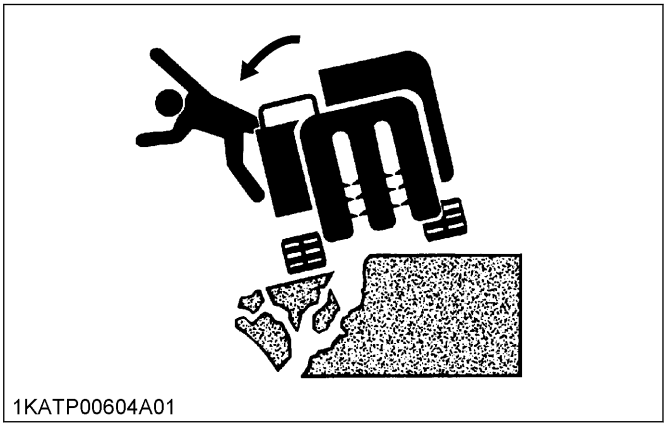
4. 坂道での走行

- 坂道（傾斜地）では走行速度を落としてください。暴走したり、転倒するおそれがあります。
- もみはすべて排出してください。
- 坂道（傾斜地）では、走行速度が変わる副変速レバーの操作、進路方向が変わる急な SF ワンレバーの操作、エンジン回転数が自動上昇する作業スイッチの操作はしないでください。
- 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回はしないでください。


1KATP00603A01

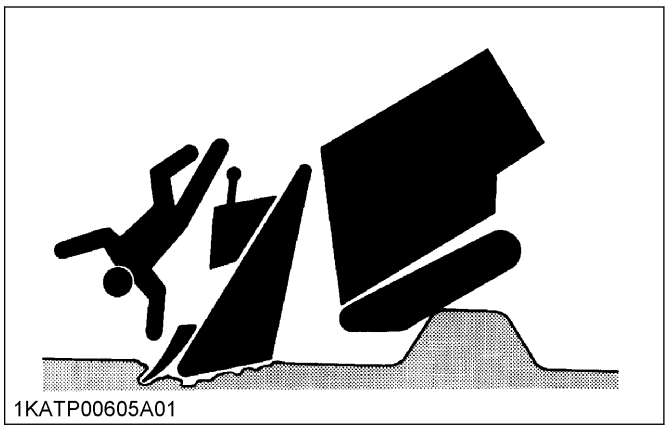
5. 道幅が狭く、高所にある道路

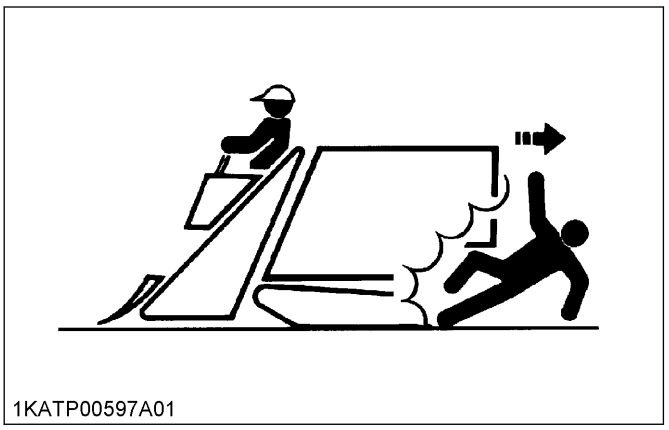
- 道幅に余裕が無く高所にある道路（土手）は、走行しないでください。機体のバランスをくずして転倒、転落するおそれがあります。
- 溝のある農道や、両側が傾斜している農道は路肩に注意してください。
- 溝、穴、土手の近くは走行しないでください。
- 水溜まりや草のおい茂った場所など、地面がよく見えないときは、事前に降車してよく確かめてください。


1KATP00604A01

6. ほ場の出入り

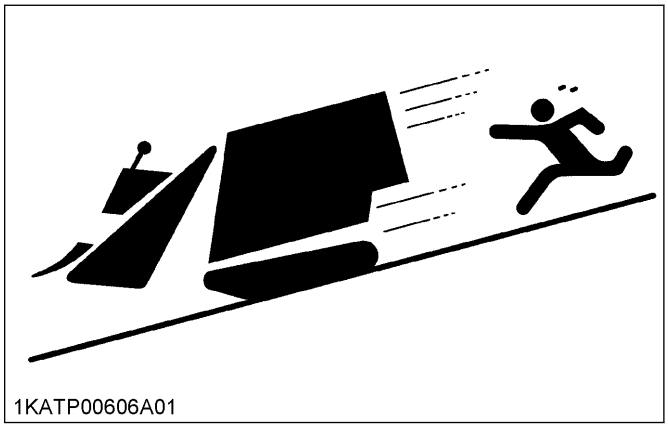
- ほ場の出入りで、あぜなど段差のある場所ではあゆみ板を使ってください。機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 10 cm 以上の段差のある場所では、段差の 4 倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使ってください。
- あゆみ板は段差に直角に置いてください。
- もみはすべて排出、または降ろしてください。


1KATP00605A01


1KATP00597A01

7. 駐車するとき、運転席を離れるとき

- 駐車するときや運転席を離れるときは、平たんな場所に止め、副変速立レバーを**[作業]**位置または**[移動]**位置にし、駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当たるまで降ろして、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。機械が暴走し、思わぬ事故のおそれがあります。
- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは、さらに木片など固定できる物で確実に車止めをしてください。


1KATP00606A01

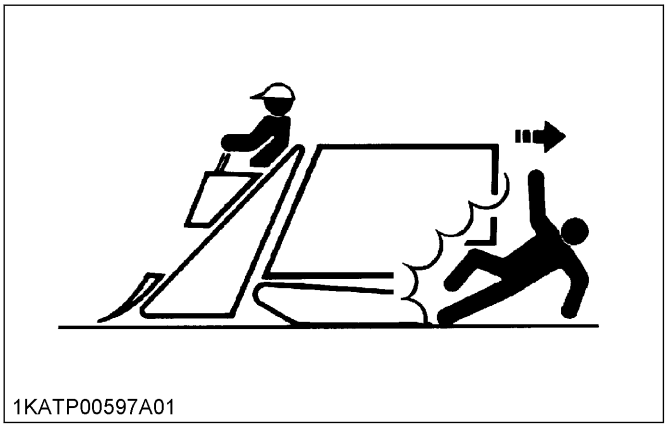
作業時の注意事項

1. 共同作業するとき

- 共同作業するときは、ホーンを鳴らすなどの合図を行ってください。補助者は運転席から見えにくい位置にいることがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- エンジン始動時、および各作業のクラッチやスイッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなど合図し、必ず補助者の OK をもらってください。
- 補助者が機械に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。

2. 刈取作業をするとき

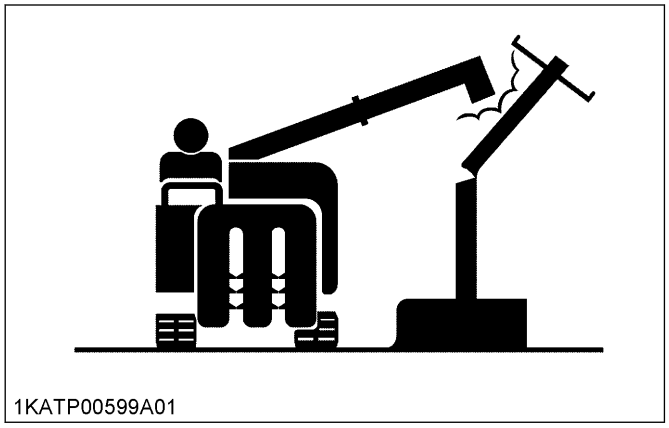
- 刈取作業中は、運転者以外がほ場に立ち入らないようにしてください。
  後進時等に補助者等が運転席から見えにくい位置にいることがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。


1KATP00597A01

3. アンローダを動かすとき

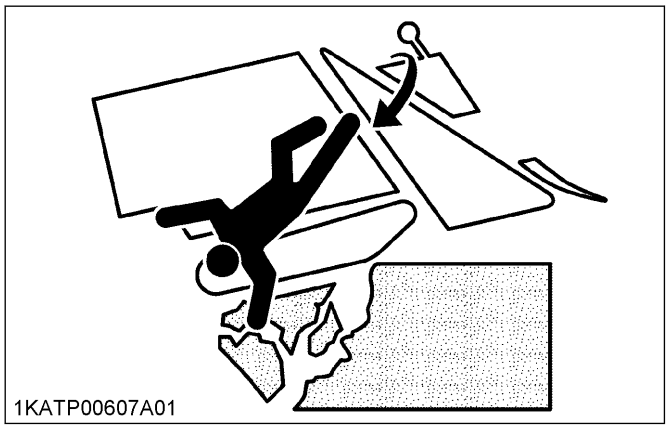
- アンローダを動かすときは、旋回範囲に人がいないことや障害物が無いことを確認してください。人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 旋回範囲に人がいたり、障害物があるときは、アンローダを動かさないでください。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは、周囲に人や障害物が無いことを確認してください。
- アンローダは、アンローダ支えに収納した状態で作業を行ってください。

⚠ 安全作業をするための注意事項


1KATP00599A01

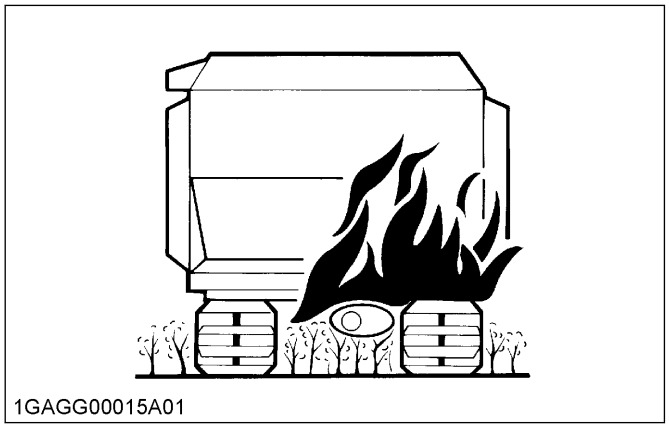
4. すみ刈りを行うとき

- すみ刈りを行うときは後方をじゅうぶん確認してください。後退し過ぎると、転倒、転落するおそれがあります。


1KATP00607A01

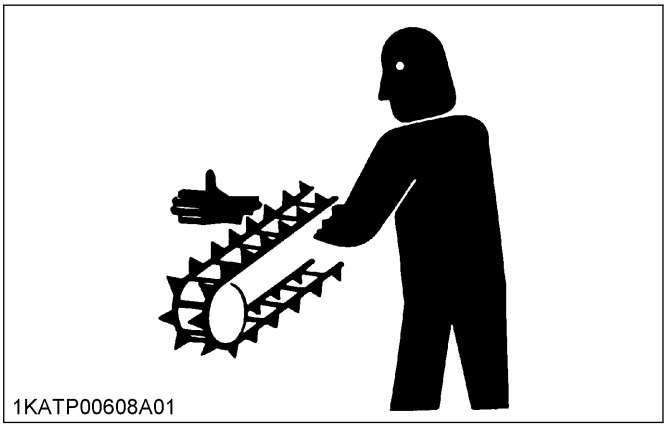
5. 湿田で作業するとき

- マフラの排気口が泥で詰まるような湿田のほ場では作業をしないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 湿田の状態により刈取作業を行うとき、ほ場の状態をよく確認して、泥が排気管内に侵入しないようにしてください。


1GAGG00015A01

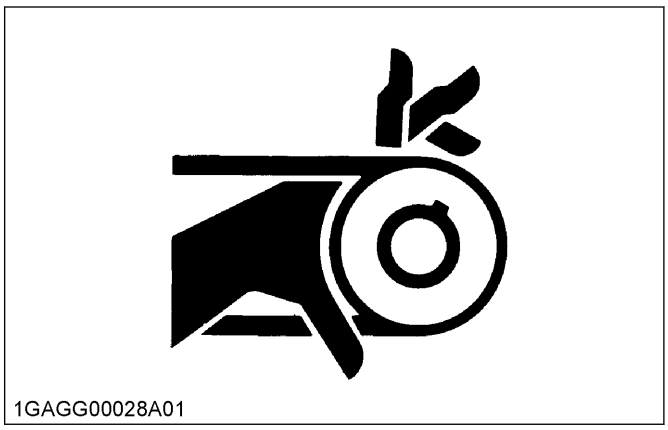
6. 手こぎ作業するとき

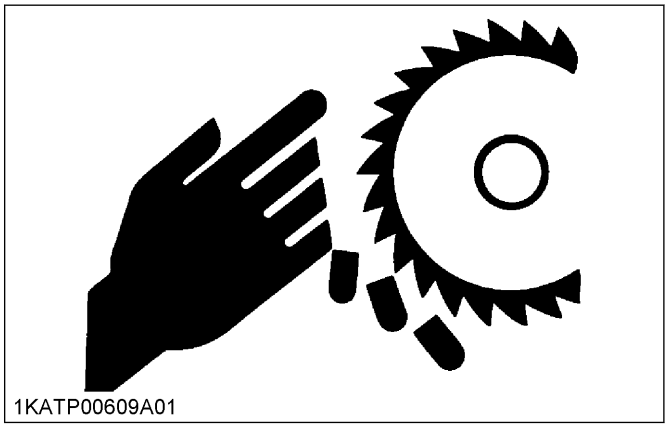
- 手こぎ作業するときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして、少量ずつ供給してください。チェーンに巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- 機械は平たんな場所に止めて、刈取部を地面に接地させて刈取部を止め、駐車ブレーキを掛けてください。
- そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルは着用しないでください。
- 刈取防じんカバー付きの機械は、刈取防じんカバーを開けてください。
- 主変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にして刈取部の回転が停止した状態で、供給ガイドを起こし、枕こぎプレートの上にわらを乗せて手刈り脱こくを行ってください。
- 脱こく部入り口にたまった、わらやもみなどの作物を脱こく部に入れるときは、チェーンに手や腕が巻き込まれないように、少量ずつ行ってください。


1KATP00608A01

7. 異常に気づいたら

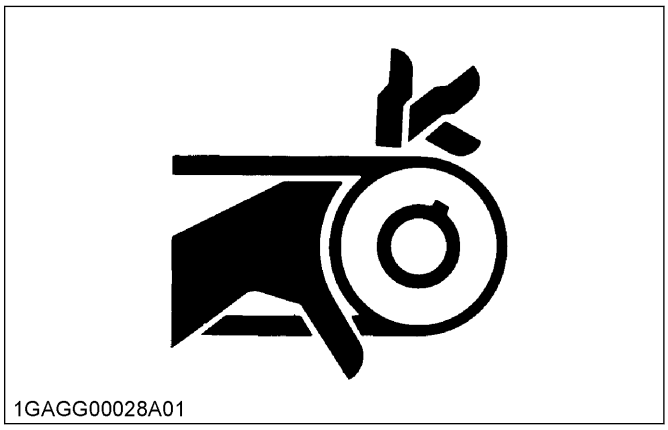
- 異常に気づいたら、すぐエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり、巻き込まれて、重大な傷害を負うおそれがあります。
- わらの巻付きや詰まりを取り除くときや、もみの点検、掃除をするときは、各作業クラッチレバーを“切”位置にし、エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどの作物を取り除くときは、厚手の手袋を着用して少しずつ取り除いてください。
- 素手で刃先には触らないでください。


1GAGG00028A01


1KATP00609A01

8. 点検および掃除で外したカバー

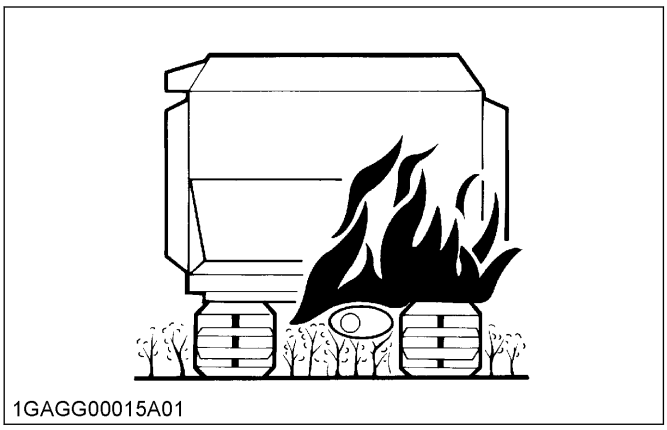
- 点検や掃除で外したカバーは、必ず取り付けてください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- ベルトやチェーンのカバー、および掃除口や点検窓のカバーなどのカバー類を外したままで運転しないでください。


1GAGG00028A01

作業後、格納時の注意事項

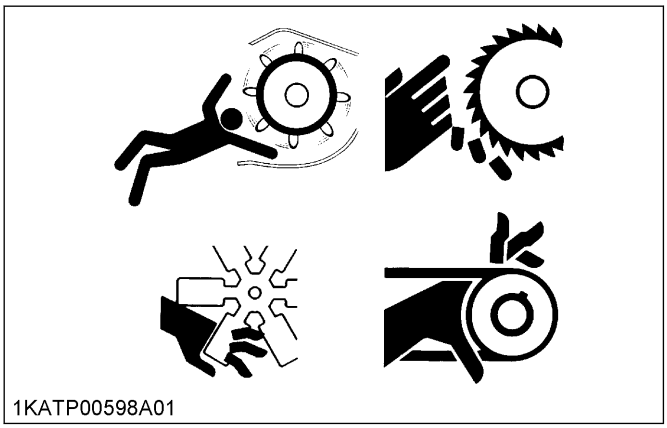
1. 駐車場所

- わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めないでください。わらくずや枯れた雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。


1GAGG00015A01

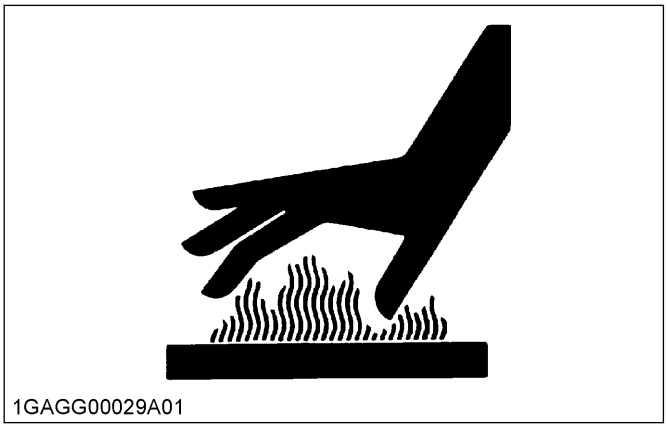
2. 点検および掃除をする前に

- 点検、掃除する前に、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。機械に巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1KATP00598A01

3. 点検および掃除をするとき

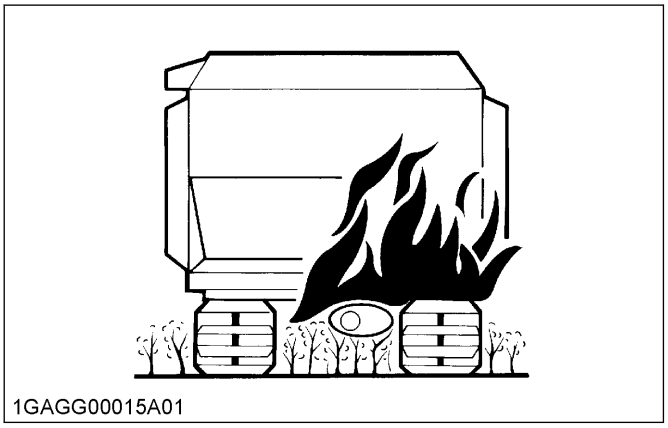
- 点検、掃除は、エンジン停止後、各部が冷えてから行ってください。やけどを負うおそれがあります。
- エンジン本体、マフラ、排気管は、エンジン停止直後は触れないでください。


1GAGG00029A01

⚠ 安全作業をするための注意事項

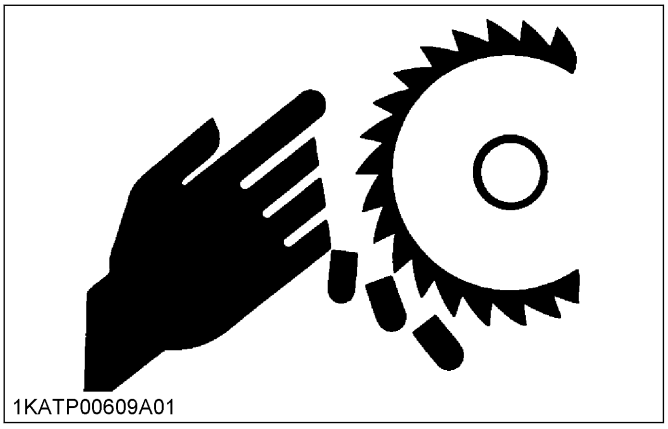
4. わらくずの除去

- 次の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積、付着した燃料は、きれいに取り除いてください。火災の原因になります。
  - 各ベルトカバー内
  - 各回転物カバー内
  - エンジン周辺
  - マフラおよびその周辺（排気口までの部位）
  - バッテリ周辺
  - プーリ周辺
  - 配線部周辺
  - 燃料タンク周辺
  - 燃料配管周辺（タンク、フィルタ、ポンプ、配管）
  - 防じんあみ周辺


1GAGG00015A01

5. 刈刃に触らない

- 掃除するときは、刈刃やカッタ刃の刃先に触らないでください。刃先で傷害を負うおそれがあります。


1KATP00609A01

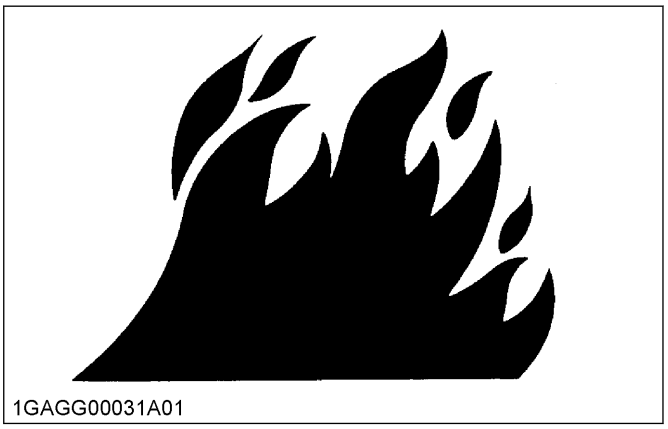
6. バッテリの取扱い

- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、バッテリケーブルをショートさせないでください。バッテリからは水素ガスの発生があり、引火爆発のおそれがあります。


1GAGG00030A01

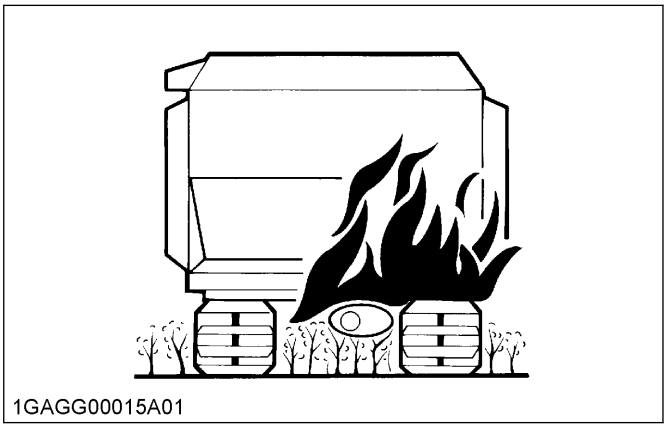
7. 電気配線の点検

- ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや、挟込みが無いか点検してください。ショートによる火災発生のおそれがあります。


1GAGG00031A01

8. 機体にカバー（おおい）を掛けるとき

- 機体にカバー（おおい）を掛けるときは、エンジン、マフラが冷えてから掛けてください。火災が発生するおそれがあります。


1GAGG00015A01

点検整備時の注意事項

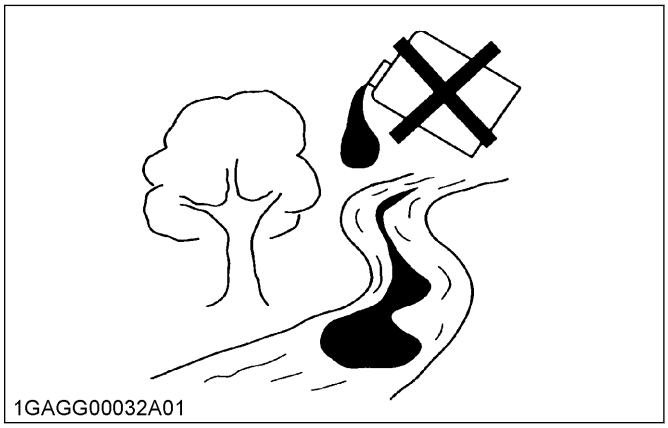
1. 定期点検整備

- 定期点検整備を行い、各部の保守をしてください。整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00013A01

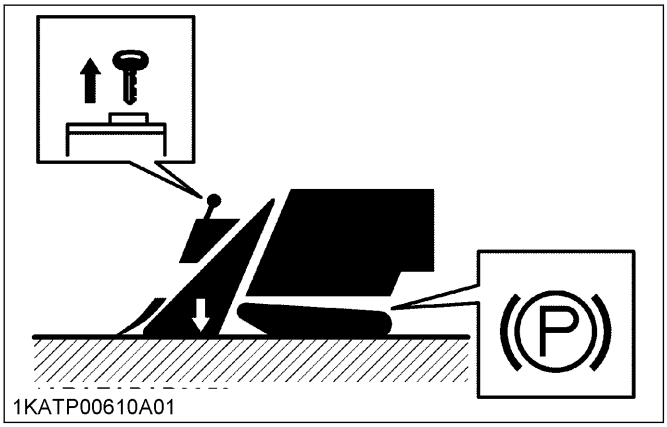
2. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などの事業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。


1GAGG00032A01

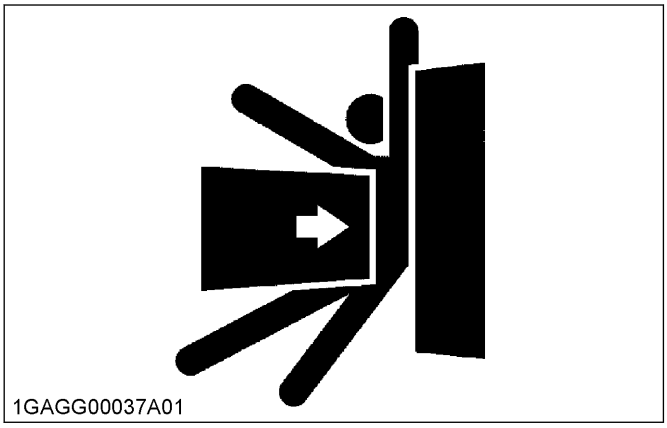
3. 点検、整備、交換、および掃除を行うとき

- 各部の点検、整備、交換、掃除を行うときは、平たんな場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜き、各クラッチレバーを“切”位置にして、駐車ブレーキを掛けてください。機械に挟まれたり、巻き込まれて傷害を負うおそれがあります。


1KATP00610A01

4. こぎ胴、カッタ、結束機、およびグレンタンクを開くとき

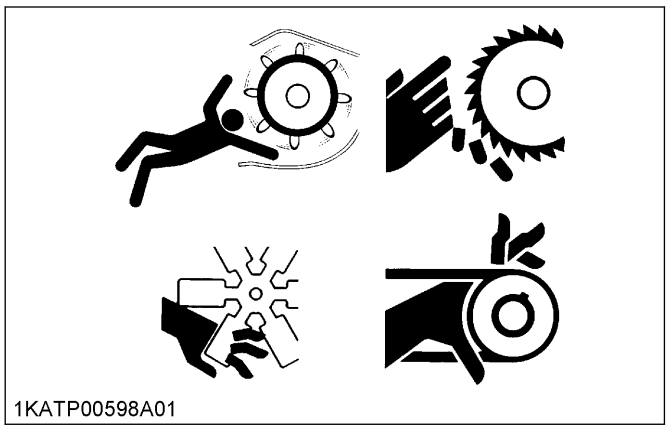
- こぎ胴、カッタ、結束機、グレンタンクを開いたときは、ストッパで固定してください。機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00037A01

5. エンジンを回すとき

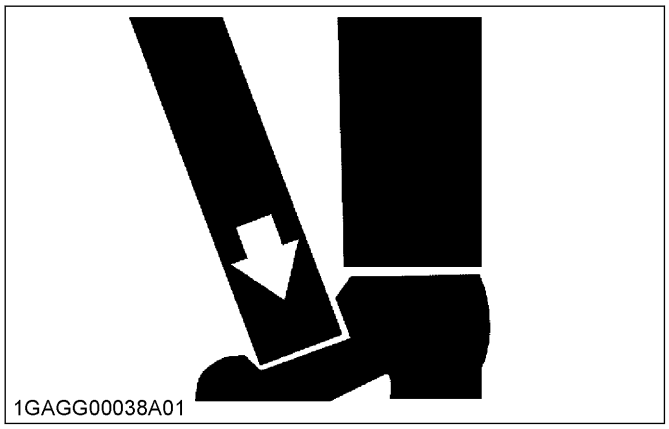
- こぎ胴、カッタ部、結束機、グレンタンクを開いたままやグレンタンクを取り外したままエンジンを回さないでください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 安全作業をするための注意事項


1KATP00598A01

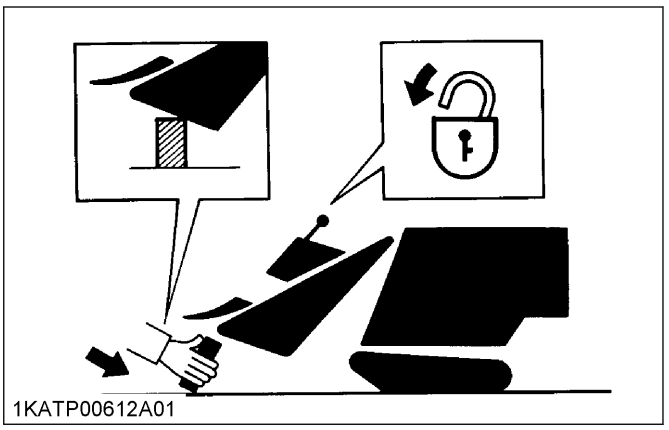
6. 重量物の脱着作業

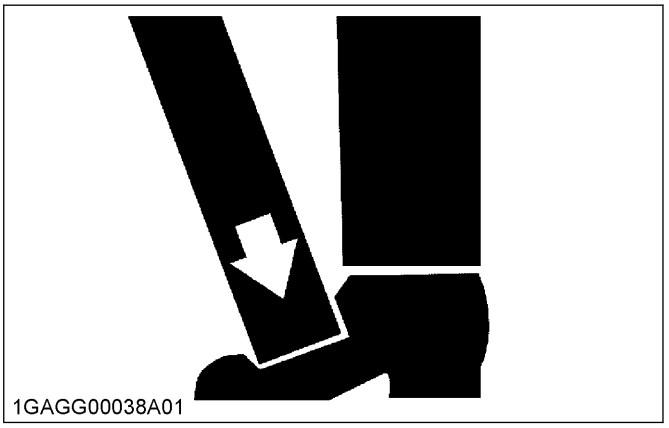
- シーブケースやカッタ、結束機など重量物の脱着作業は、二人以上で行ってください。不意の落下により、傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00038A01

7. 刈取部を上げて点検、整備、および掃除するとき

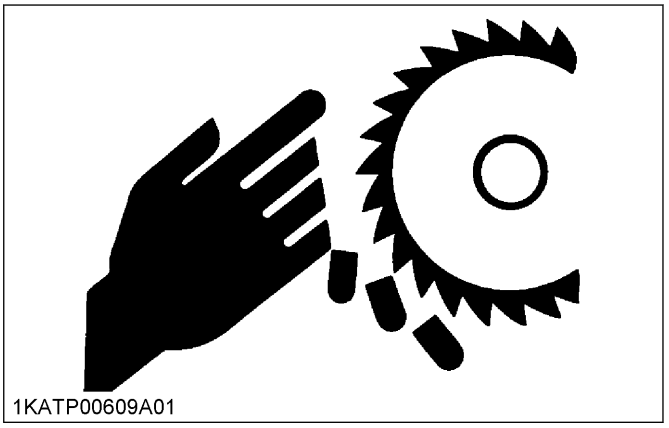
- 刈取部を上げて点検、整備、掃除するときは、刈取部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。機械に挟まれて、傷害を負うおそれがあります。
- 作業前に、エンジンを必ず止めて、駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。


1KATP00612A01


1GAGG00038A01

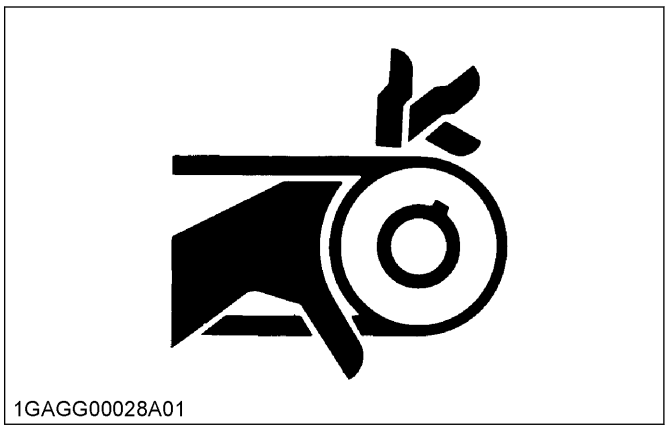
8. 刈刃、カッタ刃、およびわら切刃の調整および交換

- 刈刃、カッタ刃、わら切刃を調整、交換するときは、手袋を着用し、直接刃先に触らないでください。刃先で傷害を負うおそれがあります。


1KATP00609A01

9. 取り外したカバー類

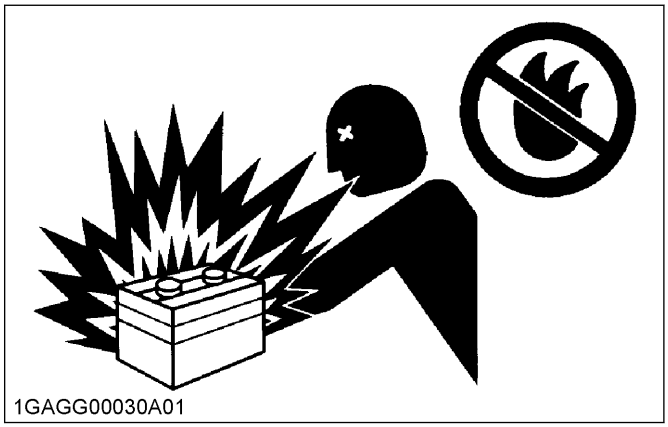
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00028A01


1GAGG00040A01

10. バッテリを取り外すとき

- バッテリを取り外すときは、最初にマイナス（–）側のケーブルを取り外してください。ヤケドや発火爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、バッテリケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリを取り付けるときは、最初にプラス（+）側のケーブルをプラス（+）側の端子に取り付けてください。


1GAGG00030A01

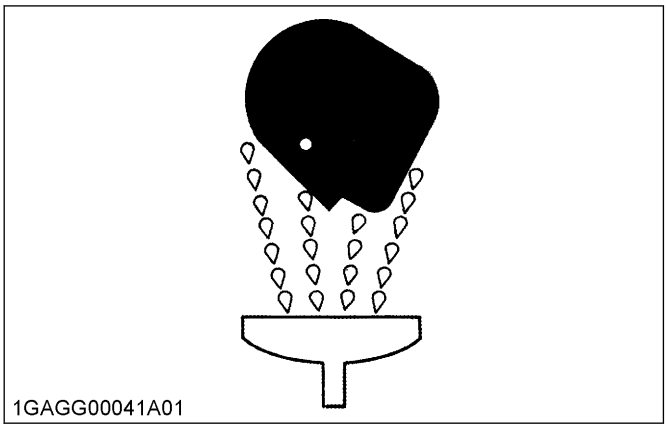
11. バッテリの液量

補水タイプ

- バッテリは液面が*"LOWER*（最低液面線）*"*以下になったままで使用や充電をしないでください。*"LOWER*（下限）*"*以下で使用や充電を続けると、爆発の原因となることがあります。
- バッテリ液が不足していれば、すぐに*"UPPER LEVEL*（上限）*"*と*"LOWER LEVEL*（下限）*"*の間に補水してください。
- 充電は機械から取り外して行ってください。
- 充電は風通しの良い場所で行ってください。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどの配線コードを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。

12. バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない

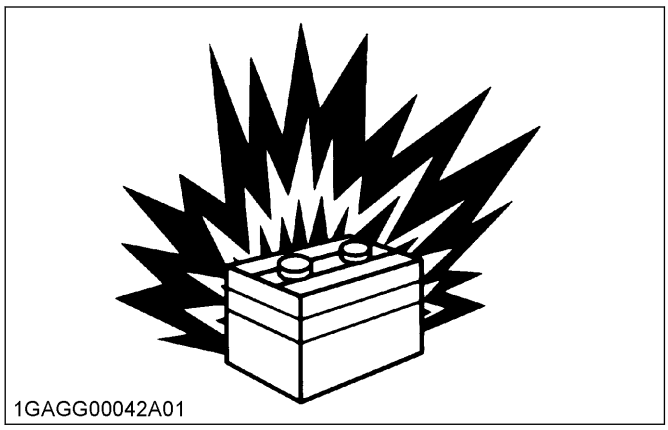
- バッテリ液（希硫酸）を体に付着させないでください。失明やヤケドのおそれがあります。
- 目に入ったときや飲み込んだときは、すぐ水でよく洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
- 皮ふ、衣服に付いたときは、すぐ水でよく洗ってください。

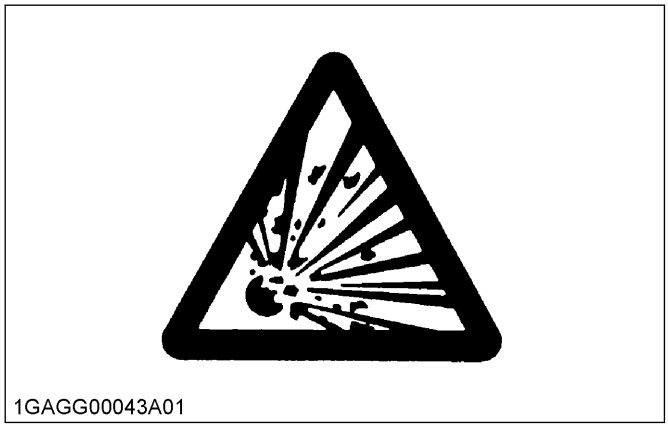

1GAGG00041A01

13. 指定外のバッテリは使わない

- 指定外のバッテリは使わないでください。思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用してください。

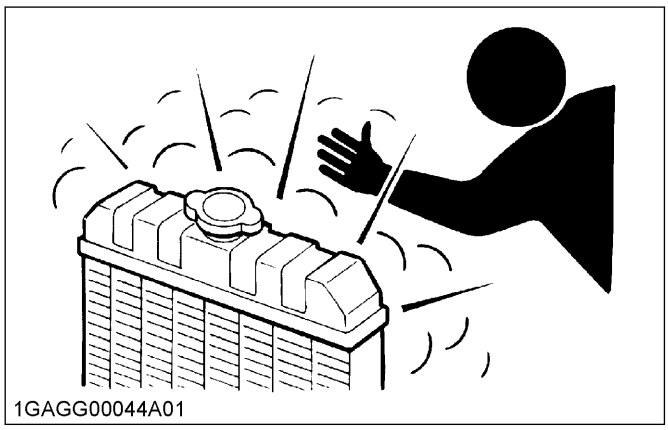
⚠ 安全作業をするための注意事項

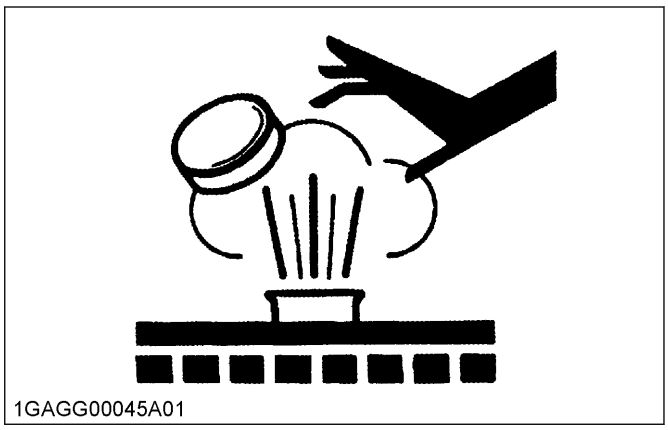

1GAGG00042A01


1GAGG00043A01

14. ラジエータの圧力キャップおよびリザーブタンク

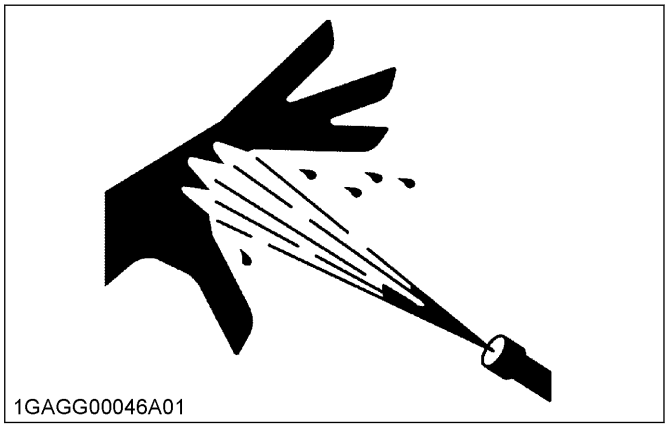
- ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは、エンジンが冷えてから開けてください。熱湯や蒸気が吹き出して、ヤケドや傷害を負うおそれがあります。
- エンジン停止後、30 分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

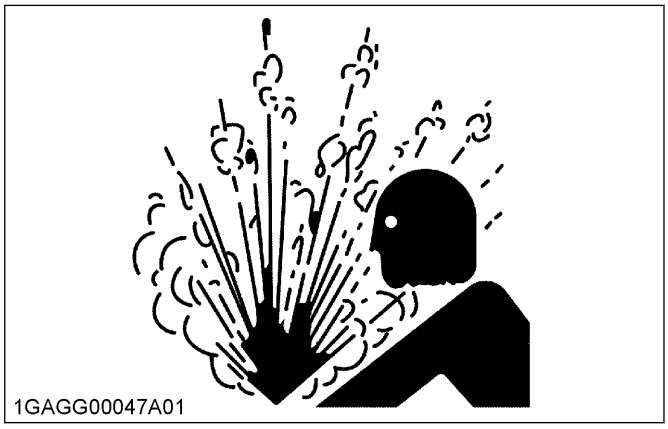

1GAGG00044A01


1GAGG00045A01

15. ホース類の交換

- 燃料ホース、ラジエータホース、オイルドレンホースは、2 年ごとに交換してください。燃料や熱湯が漏れて、火災やヤケドを負うおそれがあります。
- ゴム類は時間がたつと劣化するので、定期的に交換してください。

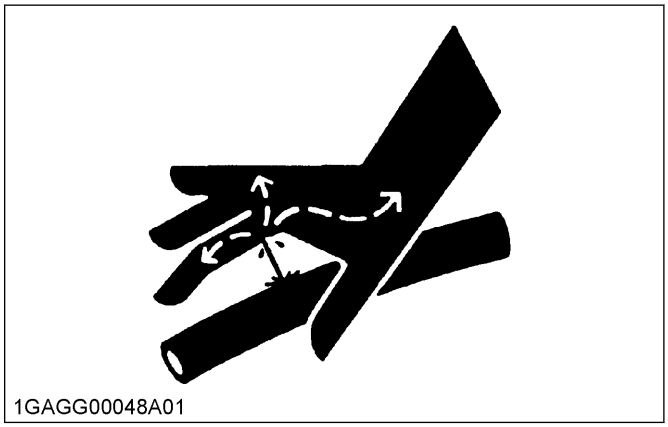

1GAGG00046A01

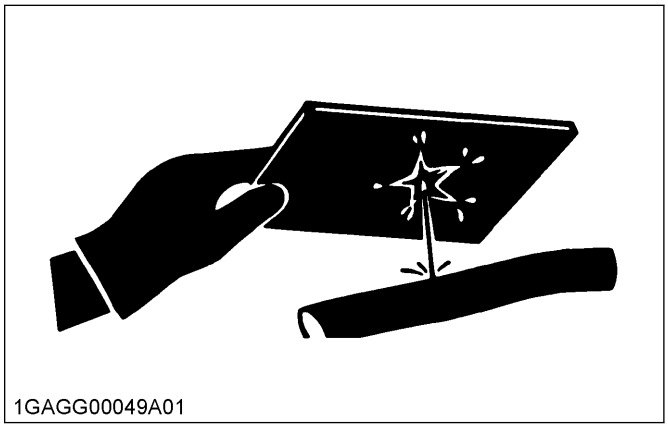

1GAGG00047A01

16. 燃料噴射管および油圧パイプの漏れ点検

- 燃料噴射管や油圧パイプなどの配管類からの高圧油の漏れは、厚紙や板などの面材を使って点検してください。油が皮ふに侵入して、強度のアレルギーや感染症を引き起こす可能性があります。

- 高圧噴油に直接手を触れないでください。もし、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。

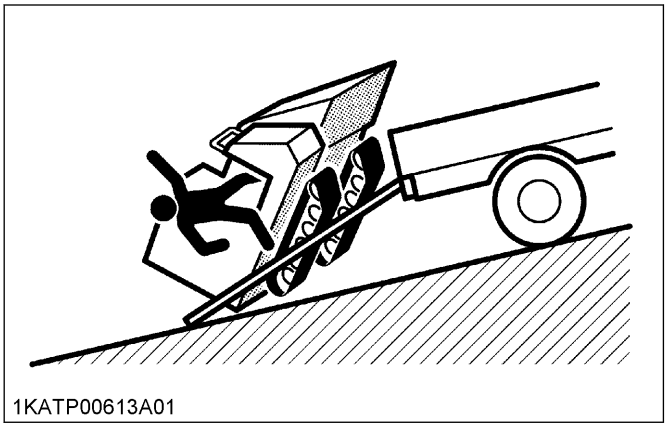

1GAGG00048A01


1GAGG00049A01

運搬時の注意事項

1. 機械の積込みおよび積降し作業

- トラックへの積込み、積降しは平たん地で行ってください。あゆみ板がずれたり、トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。
- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーを“*R*（後進）”または“*1* 速”に入れたあと、さらにタイヤに車止めを行い、トラックが動かないようにしっかり固定してください。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行ってください。
- 周囲に人を近づけないでください。


1KATP00613A01

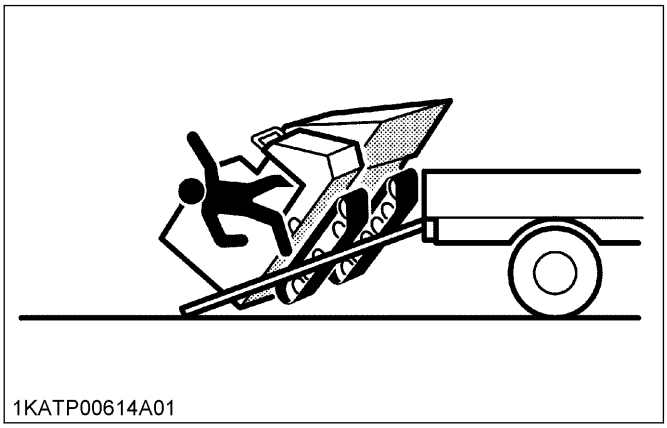
2. あゆみ板

- 積込み、積降しには基準に合ったあゆみ板を使ってください。あゆみ板がずれたり、外れたりして機械が落下するおそれがあります。

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	50 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 1200 kg 以上に耐えうる

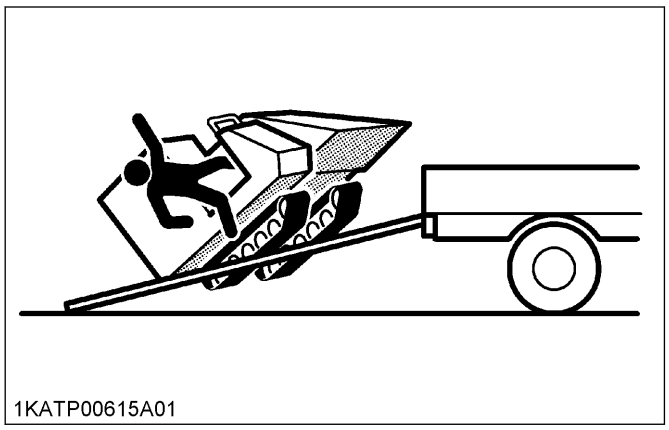
- あゆみ板はフック、すべり止めが付いている物を使ってください。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛けてください。

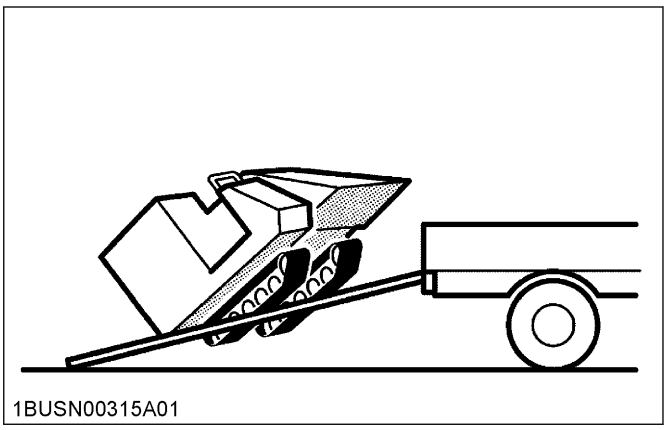

1KATP00614A01

3. 機械の積込みおよび積降し前

- 積込み、積降し前に、もみはすべて排出または降ろしてください。バランスがくずれて、転倒、転落するおそれがあります。
- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してバンドを掛けてください。
- アンローダは、折りたたんで収納してください。

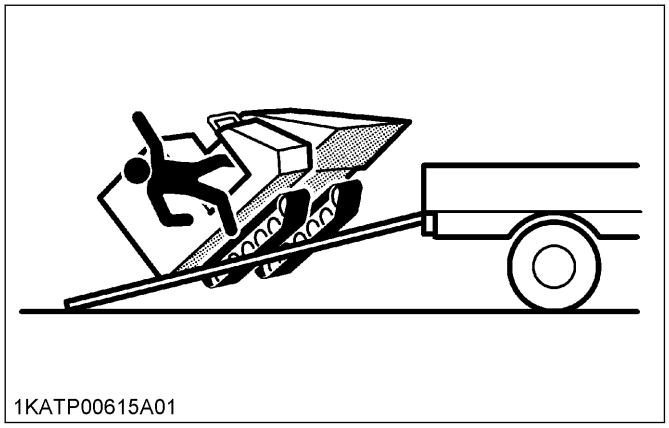
⚠ 安全作業をするための注意事項


1KATP00615A01


1BUSN00315A01

4. 機械の積込みおよび積降し時の速度

- トラックへの積込み、積降しは最低速で行ってください。バランスがくずれて、転倒、転落するおそれがあります。
- 作業スイッチを“切（消灯）”、もみ排出クラッチレバーを“切”位置にしてください。
- 積込みは前進で、積降しは後進で行ってください。
- 結束機付きの場合は、後進で積込み、前進で積降しを行ってください。

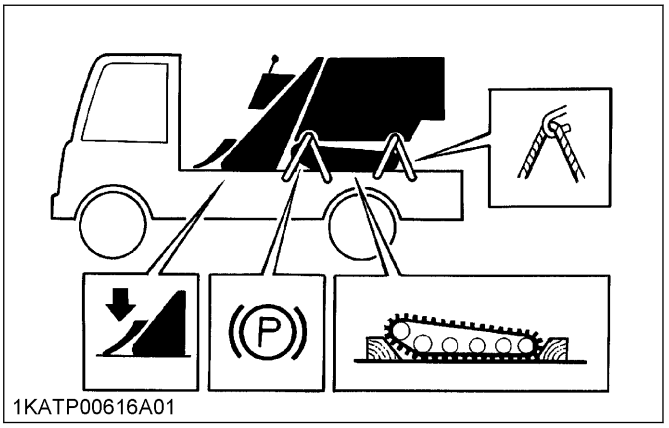

1KATP00615A01

5. 機体の方向修正時の注意

- あゆみ板の上では方向修正しないでください。急旋回したり、暴走して落下するおそれがあります。
- あゆみ板の上では、、SF ワンレバー、副変速レバーは操作しないでください。
- 方向を変えるときは、いったん地上または荷台にもどって方向を修正し、再度やり直してください。

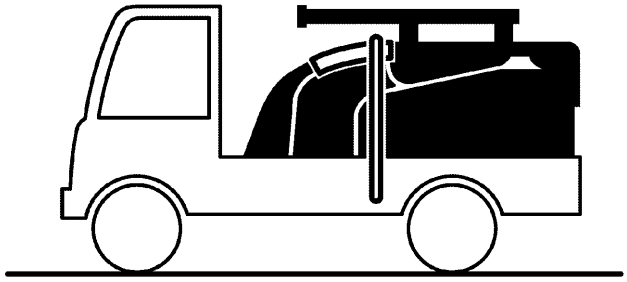
6. トラック荷台上での機械の固定方法

- トラックの上では、刈取部を床に当たるまで降ろして、駐車ブレーキを掛けてください。機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。
- 副変速レバーを**[作業]**位置または**[移動]**位置にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 所定の“ロープ掛けフック *4* か所”にロープを掛けてしっかり床に固定してください。
- 車止めをしてください。


1KATP00616A01

7. 機体の各カバーの固定

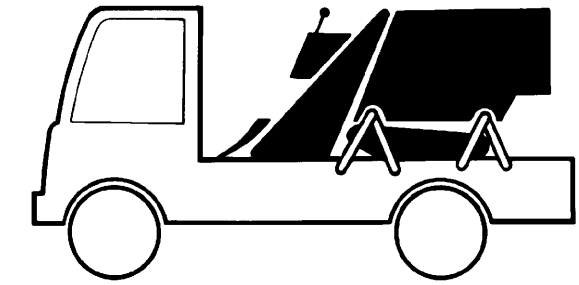
- トラックに積んだときは、機体の各カバーを固定してください。輸送中に風圧で破損、脱落のおそれがあります。
- 樹脂カバー、着脱の簡単なカバー、折りたたみ部品など動くおそれのある物は、ロープで確実に固定するか、外して荷台に置いてください。
- **[刈取防じんカバー付]** 刈取防じんカバーは閉じてください。



1KATP00617A01

8. 機械輸送時の注意

- 輸送中の急発進、急ブレーキ、急旋回は避けてください。輸送中に機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。



1KATP00594A01

⚠ 安全作業をするための注意事項

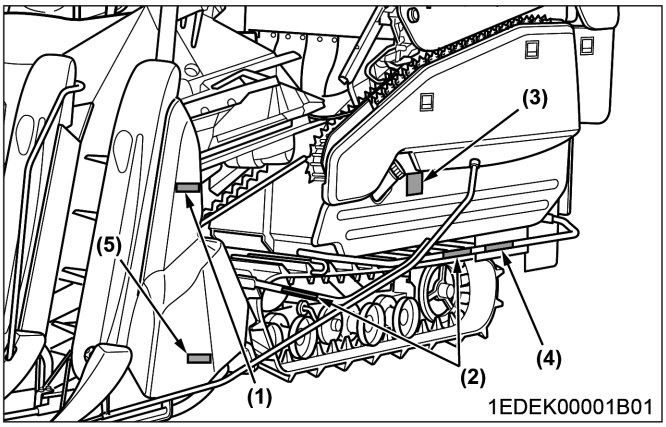
安全作業するための表示ラベル

1. 表示ラベルの内容、貼付位置

(1)品番　97700001260

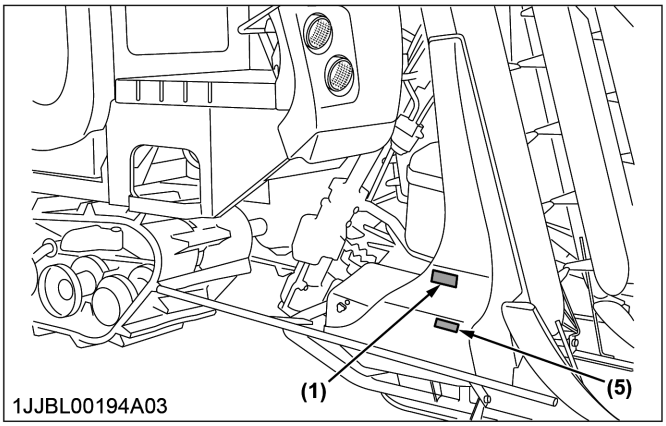
⚠ 警　　告

中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



⑵ 品番　97700001770

⚠警告	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。



⑶ 品番　97700001700

⚠ 警　告

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

⑷ 品番　97700001200

⚠警告	変形しケガをするおそれがあるので、人は、絶対に乗らないこと。

⑸ 品番　97700001220

⚠ 警　　告

中に刈刃があり、ケガをするおそれがあるので、絶対に手などを入れないこと。

1WCLL00001A01jaJP

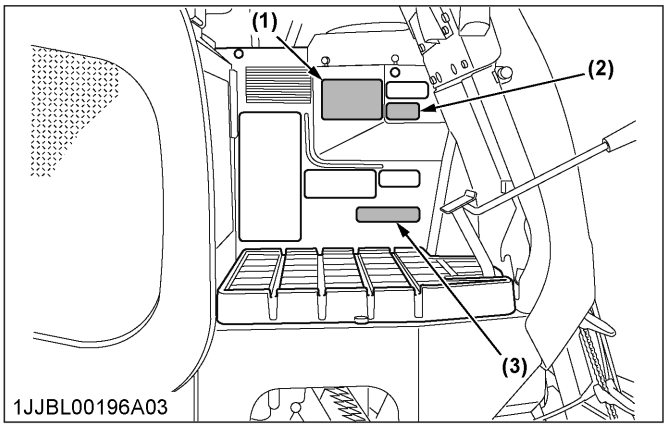
(1)品番　97700001150

⚠警告	積込み、積降ろし、坂道走行中に楽刈ボタンを押すと、エンジン回転が上がり急に速度が変化して、転倒・転落のおそれがあるので、楽刈ボタンを押さないこと。

楽刈ボタン(作業クラッチ)

脱こく・刈取クラッチの「入」「切」、及びエンジン回転数を刈取作業可能状態に自動調整するボタンです。

ボタン「切」消灯状態のときにボタンを押すと、ブザーが3回鳴り、ボタン「入」点灯状態になります。同時にエンジン回転数がセットされ、脱こくクラッチ「入」状態になり、脱こく部が回転します。さらに刈取クラッチが「入」状態になり、主変速レバーを前進側に操作すると刈取部が回転します。



(2) 品番　97700001210

⚠ 警　告
旋回できない場合がある為 走行時はエンジン回転数を ２０００ｒｐｍ以上にすること。

(3) 品番　97700001190

⚠警告	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ずデバイダキャップを取り付けること。

1WCLL00002A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1)品番　97700001160

⚠ 警　告

作業前

1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし、主変速レバーを『N』（中立）にすること。
3. 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1. 発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ、合図をして、機械に人を近づけないこと。
2. 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して『N』（中立）の位置にすること。
3. 転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また、移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4. 急発進・暴走のおそれがあるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを『N』（中立）にし、ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5. 刈取作業時以外（あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時、坂道（傾斜地）走行時）は「もみ」はすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にすること。M仕様（車体水平制御）は、機体を一番下げた状態にすること。

積込み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよびあぜ越えをするときは以下を守ること。

① 上がるときは前進で、降ろすときは後進で行う。結束機付きの場合は、上がるときは後進で、降ろすときは前進で行うこと。
② 副変速レバーを「作業」にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、主変速レバーを低速にすること。
③ 運転者は機械から降りて操作すること。
④ パワーステアリングレバーを操作しないこと。
方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
⑤ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

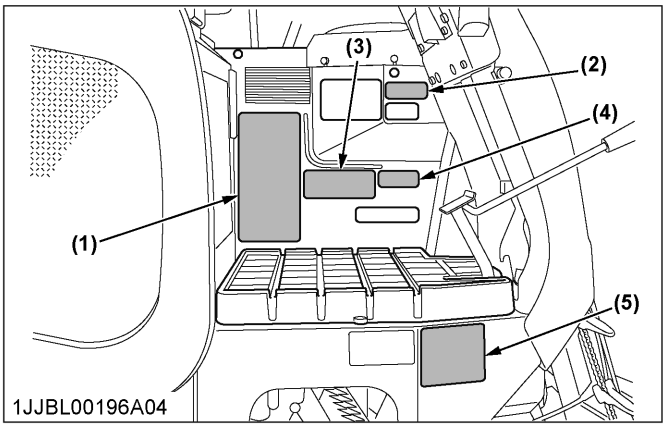
駐・停車

1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわらや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。

(2) 品番　97700000420

⚠ 警　告

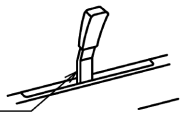
中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



(3) 品番　97700001720

⚠ 警　告

坂道で副変速レバーを操作すると，機械が暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと。



(4) 品番　97700001140

⚠ 警　告

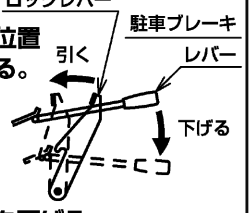
エンジンを始動するときは、主変速レバーを「N」（中立）にし駐車ブレーキを踏み込み各作業クラッチを「切」にすること。

(5) 品番　97700001180

⚠ 警　告

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1. 駐車するときは、車止めをすること。
2. 駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「作業」にし、主変速を「N」にすること。

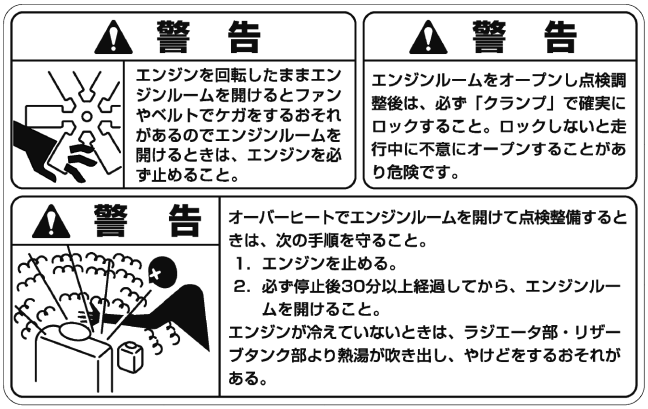
駐車ブレーキの操作方法

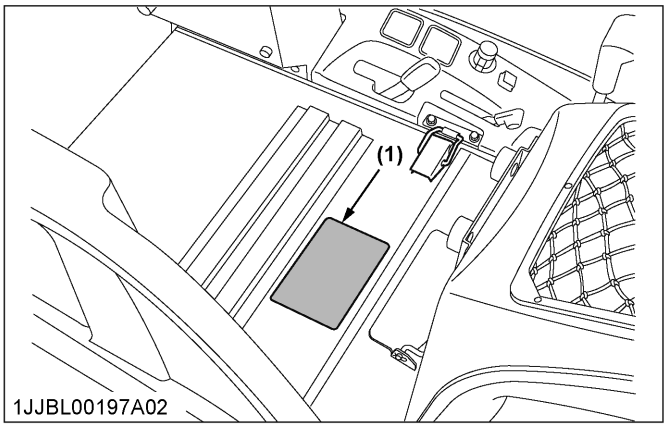


①主変速レバーを「N」位置にしエンジンを停止する。
②駐車ブレーキレバーを下げながら、ロックレバーを引いてフックを引っ掛ける。
③ロック解除は、レバーを下げる。

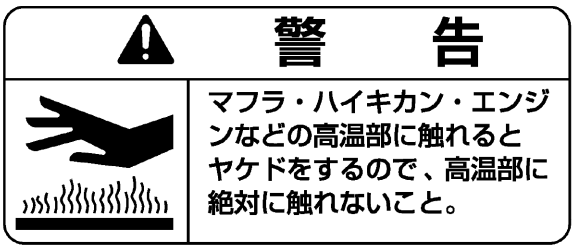
1WCLL00003A01jaJP

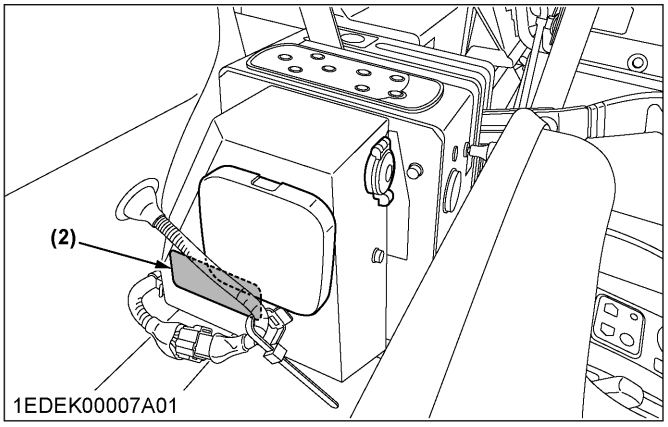
(1)品番　97700001130





(2) 品番　96030000400

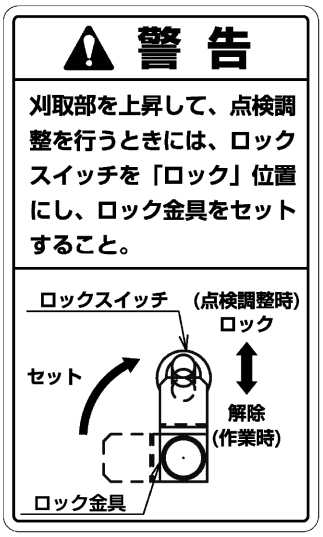


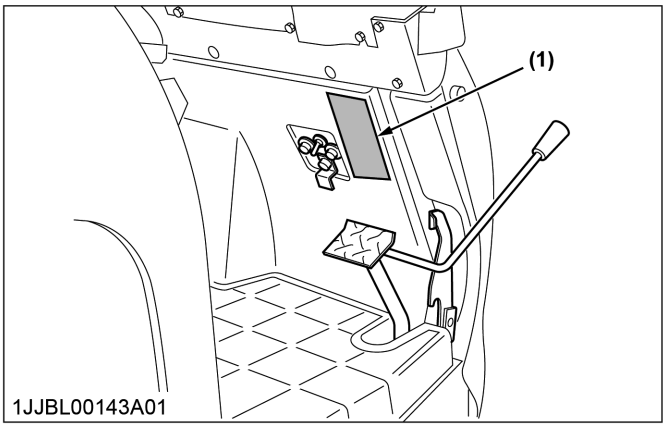


1WCLL00004A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

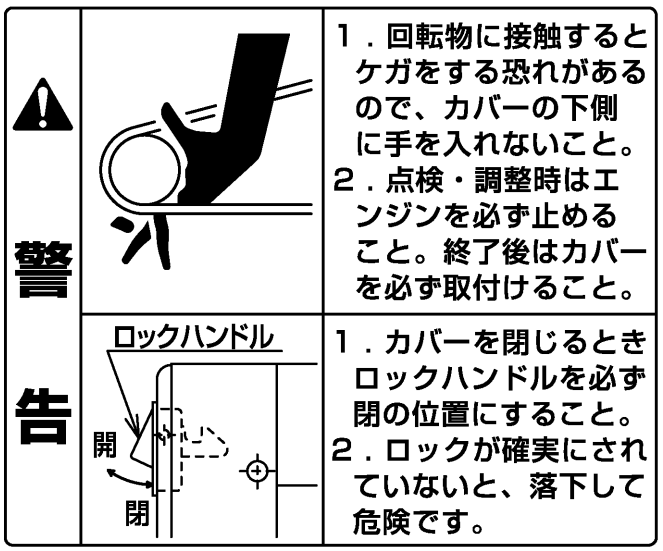
(1)品番　97700001170

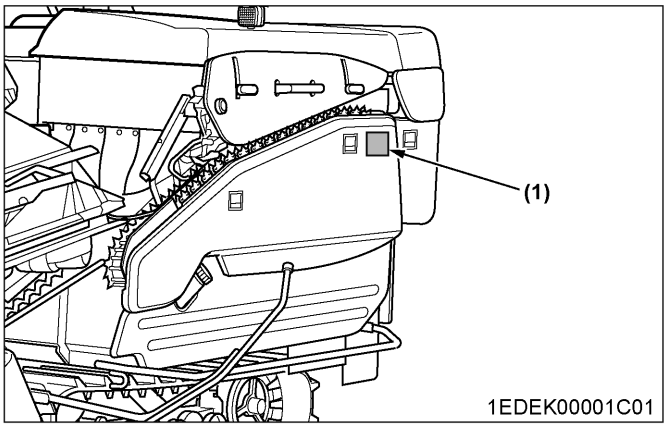


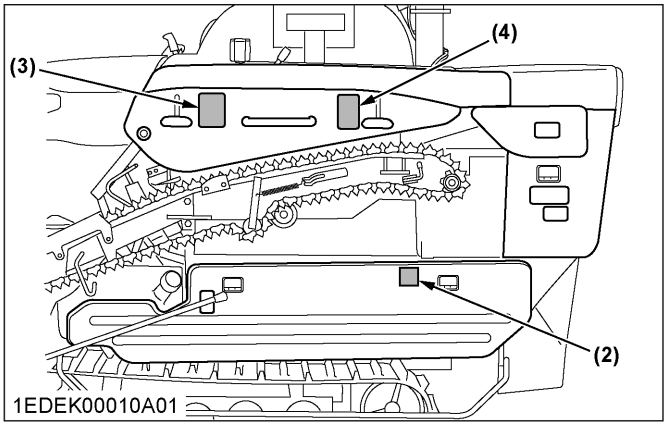


1WCLL00005A01jaJP

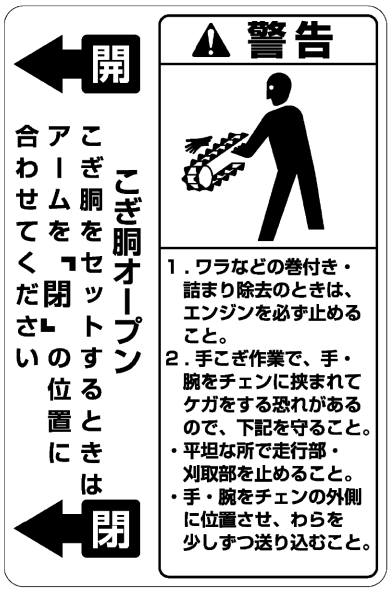
(1)品番　97700001740
(2) 品番　97700001270



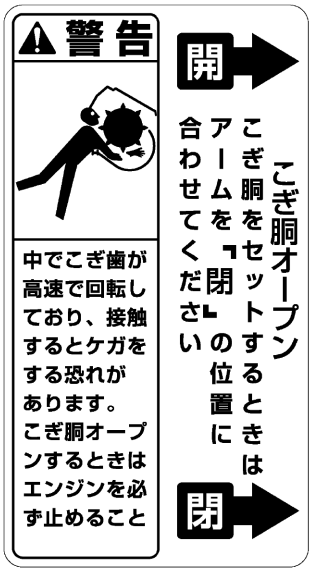




(3) 品番　97700001670



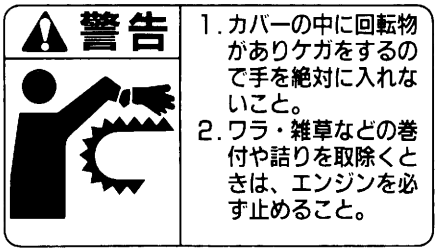
(4) 品番　97700001680

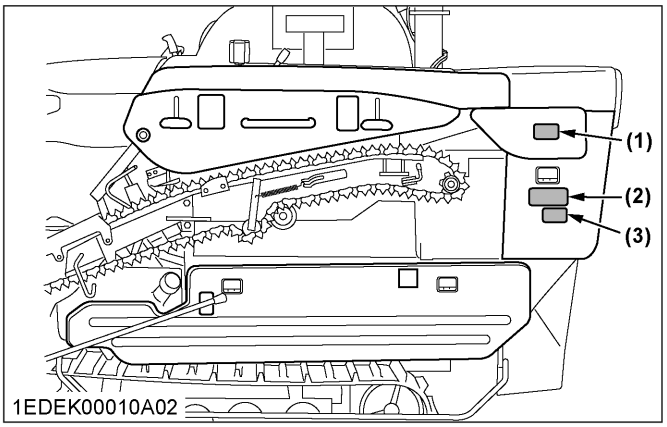


1WCLL00006A01jaJP

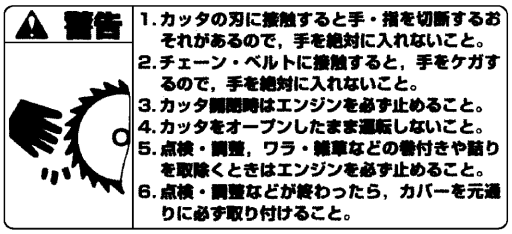
⚠ 安全作業をするための注意事項

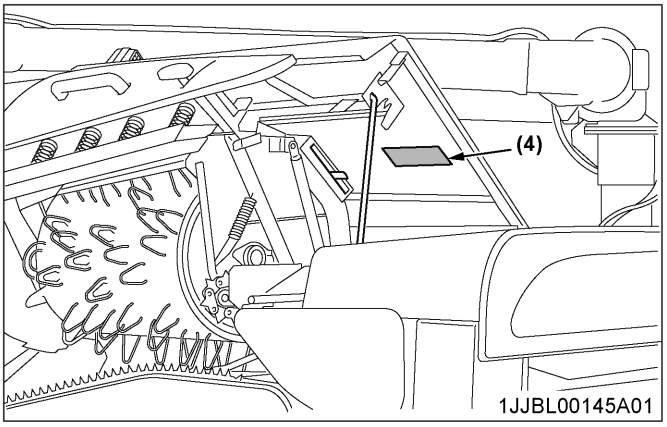
(1)品番　97430004190



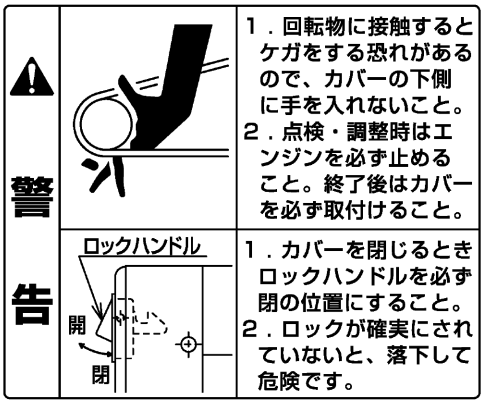


(2)品番　97430001820

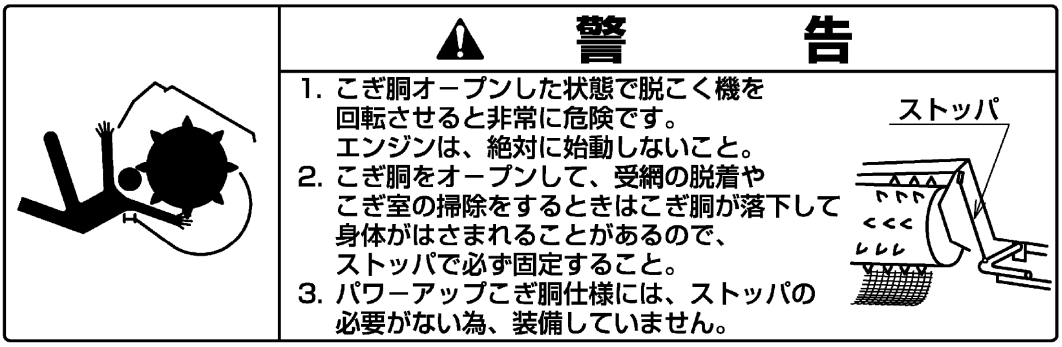




(3)品番　97700001740

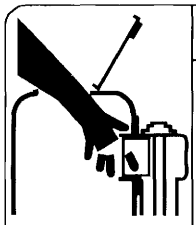


(4)品番　97430004210



1WCLL00007A01jaJP

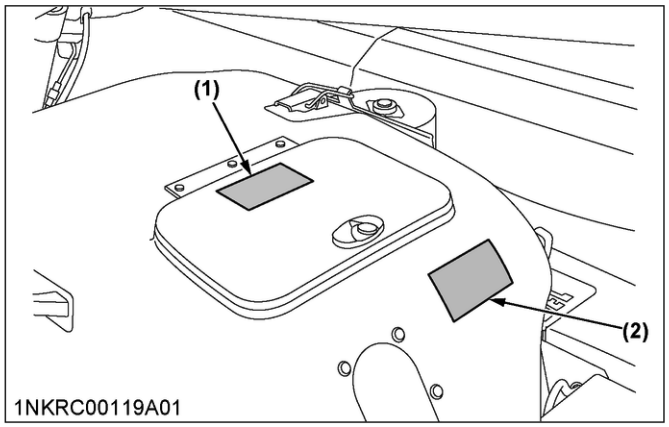
(1)品番　97430001680



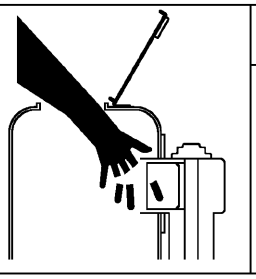
⚠ 警　告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

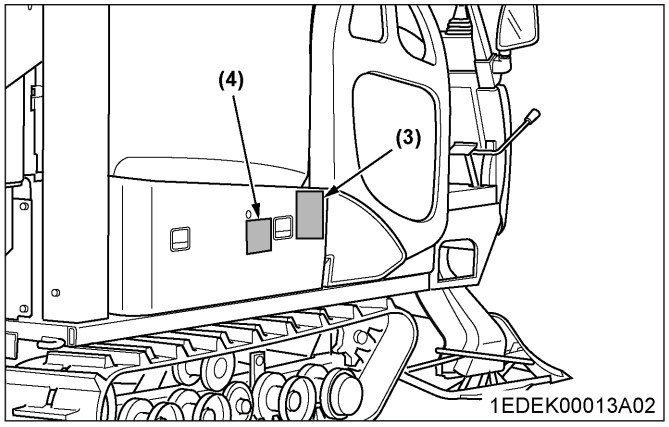


(2) 品番　97430015050



⚠ 警　告

運転中に
手を入れるな



(3) 品番　97700000380

⚠ 警　告

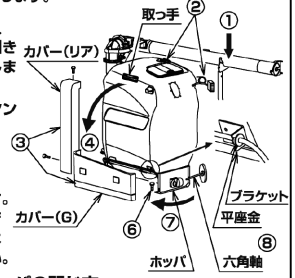
タンクを外すときは、中に回転物がありケガをするおそれがあるので、必ずもみ排出クラッチを切り、エンジンを止めること。

グレンタンクの脱着・ホッパ開閉のしかた

◆タンク内の「もみ」はすべて排出します。
◆主変速レバー及び副変速レバーを「N」(中立)位置にし、各作業クラッチ（刈取、脱こく、もみ排出）を切ります。
①アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。
②カプラを外し、タンク上部のロックを外します。
③カバー(G)とカバー(リア)を外します。

1．グレンタンクの外しかた

④タンク上部の取っ手を手前に引きタンクが地面に接するまで倒します。
⑤タンク後ろの取っ手を持ってタンクを外します。



2．ホッパの開きかた

⑥ホッパ固定ボルトを外します。
⑦ホッパを手前に引いて開きます。
◆ホッパにタンクを乗せた状態で開くときはタンクが落ちないようにゆっくりと開いてください。

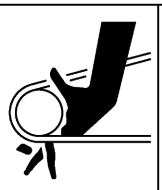
3．グレンタンクの取付、ホッパの閉じ方

⑧ グレンタンクの外しかた、ホッパの開きかたと逆の手順で組付します。
◆ タンクのブラケットをホッパの平座金の間に入るように組んでください。
◆ 六角軸がギャケースの六角穴に入らないときは、エンジンルームをオープンし、六角軸を手で回しながらグレンタンクを押して閉じてください。
⑨ ③、② の手順で組付します。

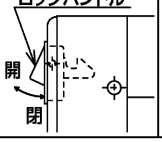
1WCLL00008A01jaJP

(4) 品番　97700001270

⚠ 警 告



1．回転物に接触するとケガをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。



1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

⚠ 安全作業をするための注意事項

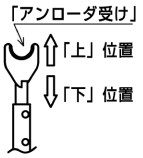
(1)品番　97700000450

⚠ 警　告			
		アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。	あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので、下記を守ること。 1．「アンローダ受け」を「下」位置にする。 2．アンローダを収納する。 3．アンローダを折りたたむ。 4．アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。
手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。	アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダをうごかさないこと。		

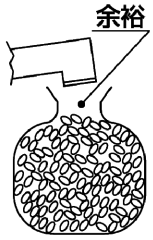
「アンローダ受け」の取扱い

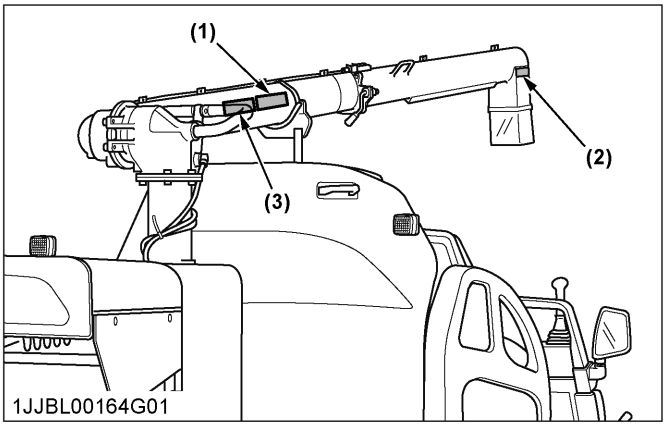
アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。

1．作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2．「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3．アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してから折りたたんでください。



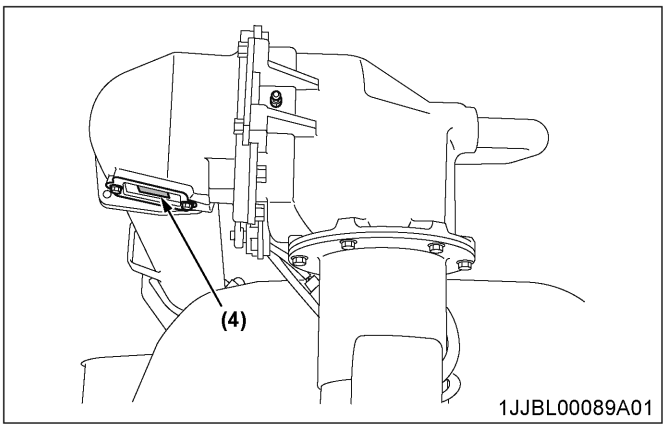
(2) 品番　97700001730

⚠ 警　告	余裕
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。	 袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。 アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。



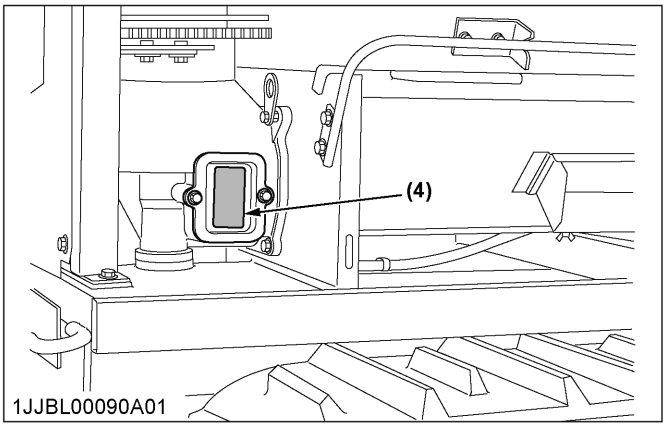
(3) 品番　97700000390

⚠ 警　告
アンローダが自然に動き、人、物にぶつかるおそれがあるので、アンローダを折りたたんだときには、ロック金具が、フックに確実にかかっていることを確認すること。



(4) 品番　97700000440

⚠警 告
掃 除 口 中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。



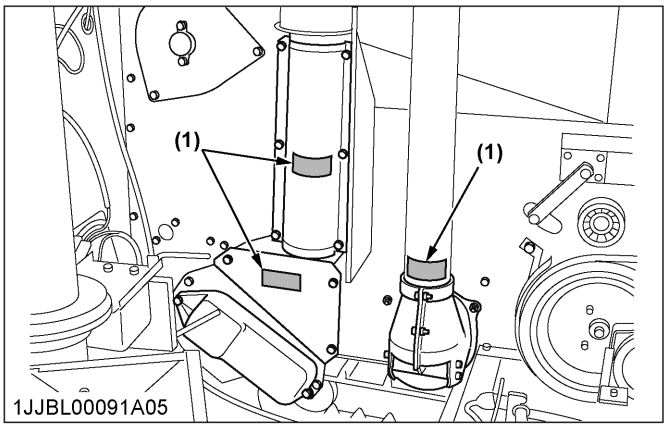
1WCLL00009A01jaJP

(1)品番　97700001750

警告

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



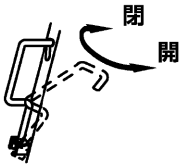
---

(2) 品番　97700001660

⚠ 警　告

掃除口　中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

スクリューケースの掃除



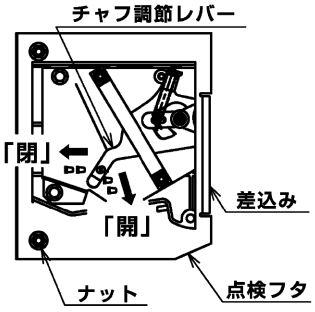
- 掃除口を開ける時はレバーを「開」の方へ倒し、閉じる時は「閉」の方へもどしてください。
- レバーは必ず穴に固定してください。

注意

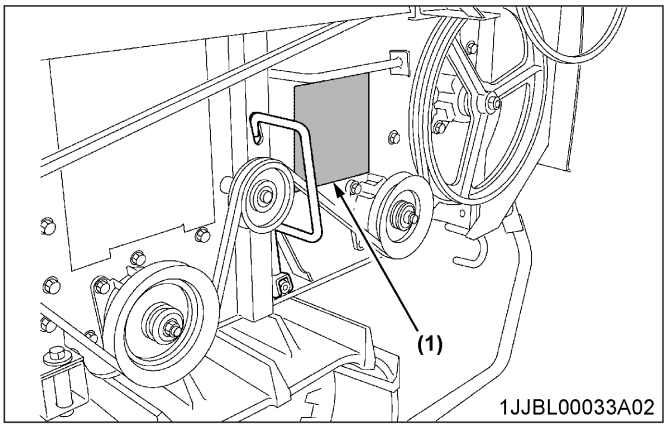
- 掃除口を開ける時は、事前に必ず３分間脱こく部の空運転をしてください。
- 湿田で作業した後は必ずクローラ部分の泥を取り除いてからレバーを動かしてください。
- 掃除が終わった時は必ず2、3回レバーを動かして、掃除口に籾の付着がないことを確かめてから掃除口を閉じてください。
- スクリュの掃除口レバーを「開」の位置のままで、走行しないでください。

チャフ（選別板のすきま）調節

KR220～323



1. ナット２個を外し、点検フタを外してください。
2. チャフ調節レバーは図の位置が基準固定位置です。
3. わらくず、切れわら、小枝梗が多いときは、チャフ調節レバーを「閉」の方向に移動して固定してください。
4. ロス、脱ぶが多いときは、チャフ調節レバーを「開」の方向に移動して固定してください。
5. 点検フタを取りつけるときは、右横の差込み部をソクバンに掛けてから、ナットを締めてください。



1WCLL00010A01jaJP

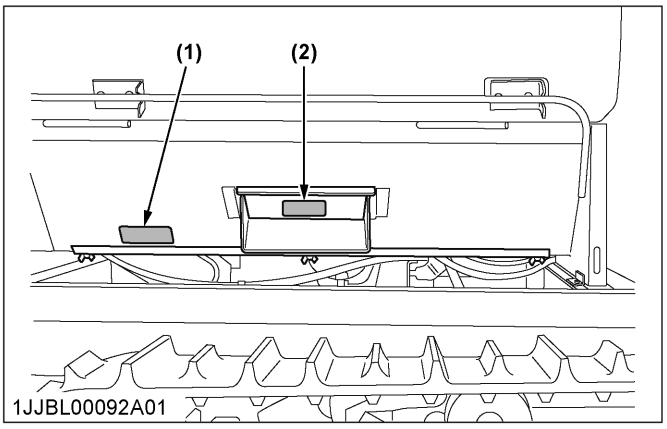
⚠ 安全作業をするための注意事項

(1)品番　97700001760

⚠ 警告

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



(2) 品番　97700000430

⚠ 警　告

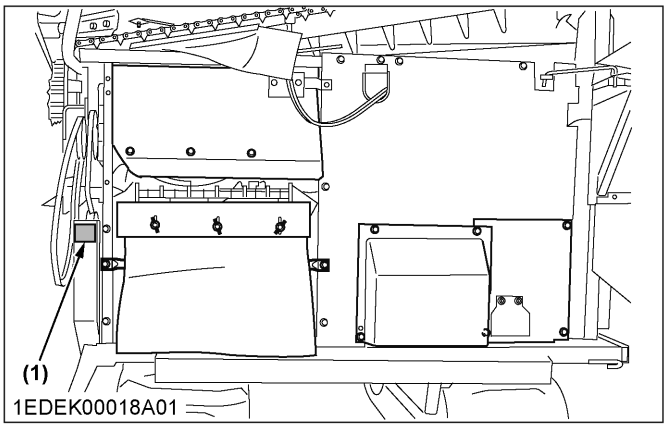
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に開けないこと。

1WCLL00011A01jaJP

(1)品番　97700001690

⚠ 警　告

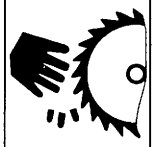
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



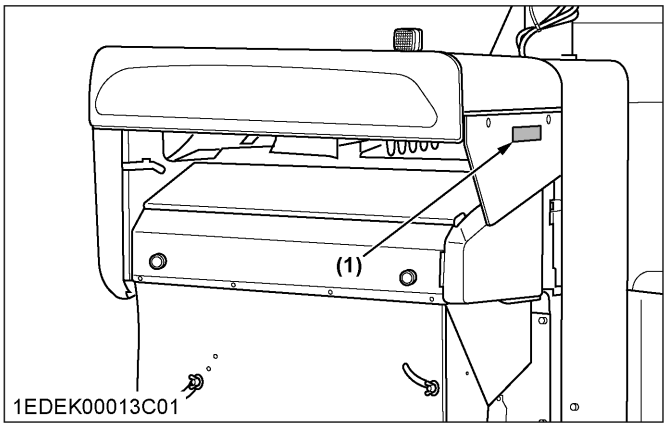
---

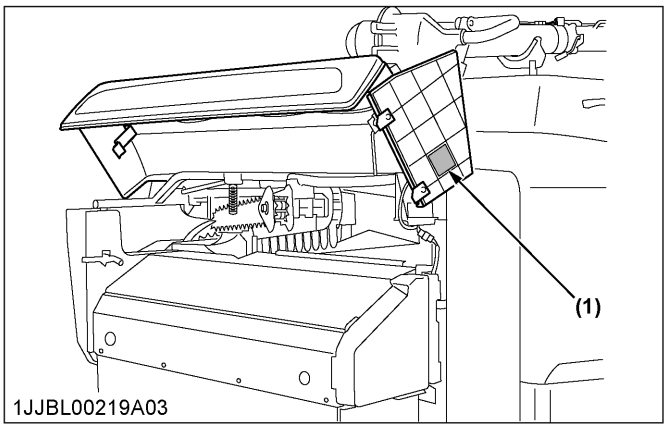
(1) 品番　97430001550

⚠警告



1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

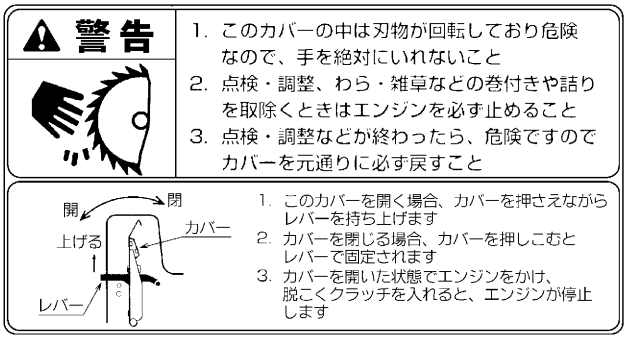


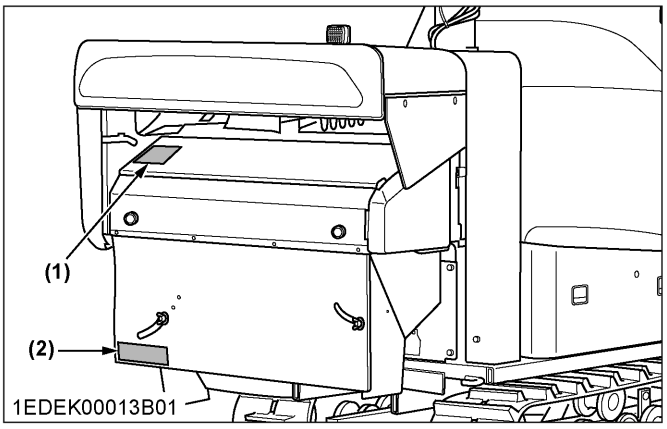


1WCLL00012A01jaJP

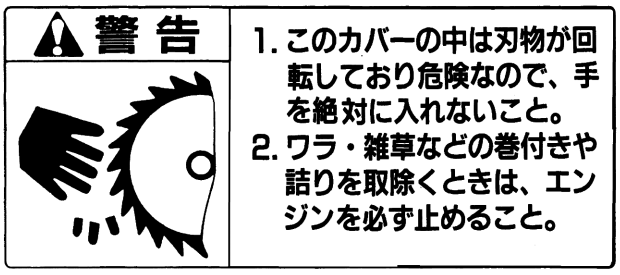
⚠ 安全作業をするための注意事項

(1)品番　97430001610



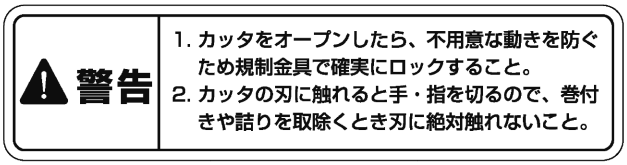


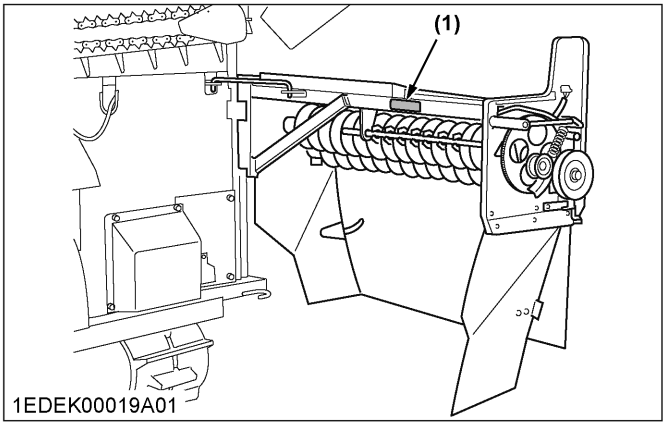
(2)品番　97430001590



---

(1) 品番　97700000310

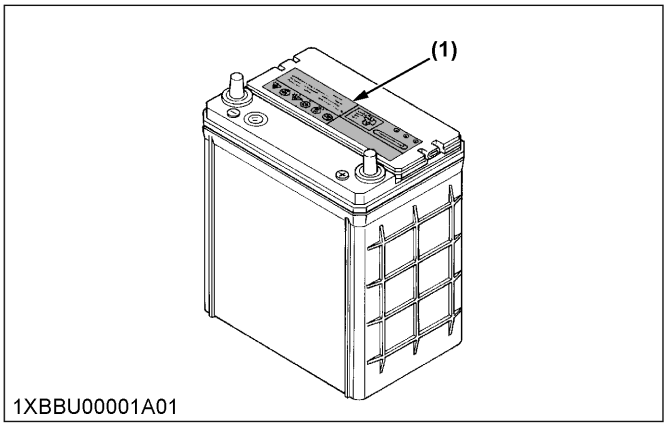




1WCLL00013A01jaJP

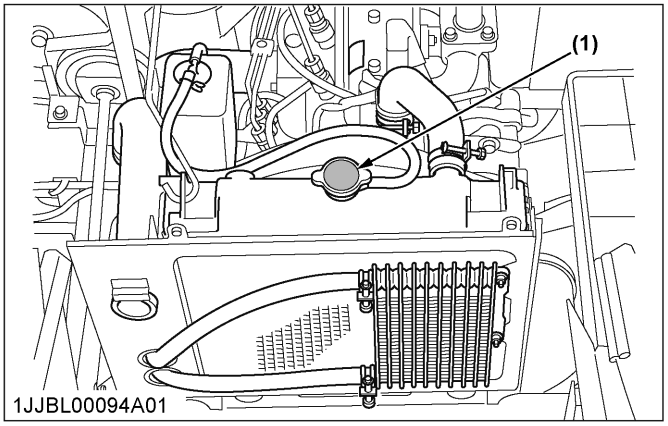
(1)品番　99920000320





(1) 品番　97430001500





1WCLL00014A01jaJP

2. 安全ラベルの取扱い

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守ってください。

- 安全ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。
  シンナー、アセトンなどの溶剤を使うと、文字または絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損または紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

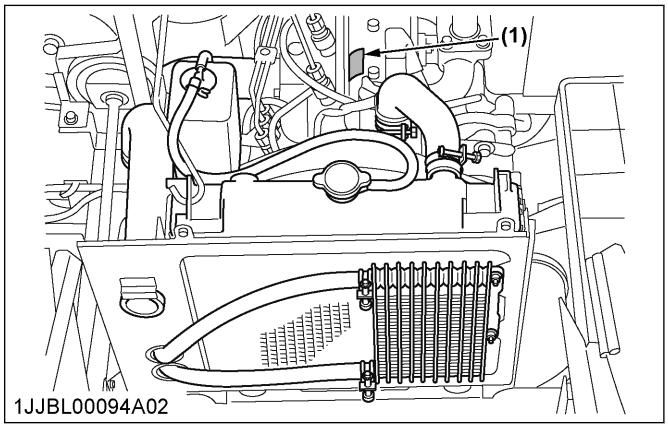
ご相談窓口

⚠ 警告
- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。**

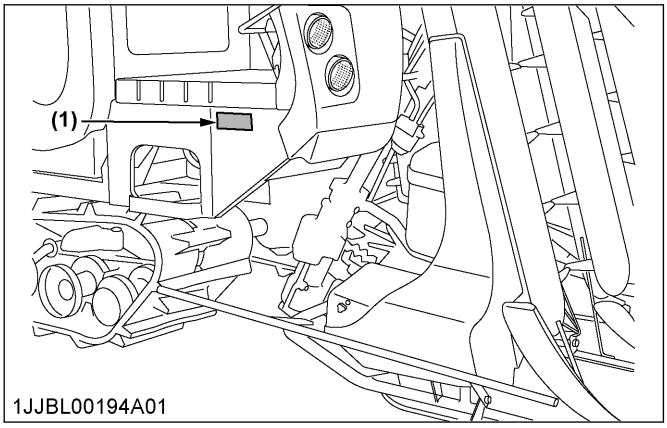
重要：
- **機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

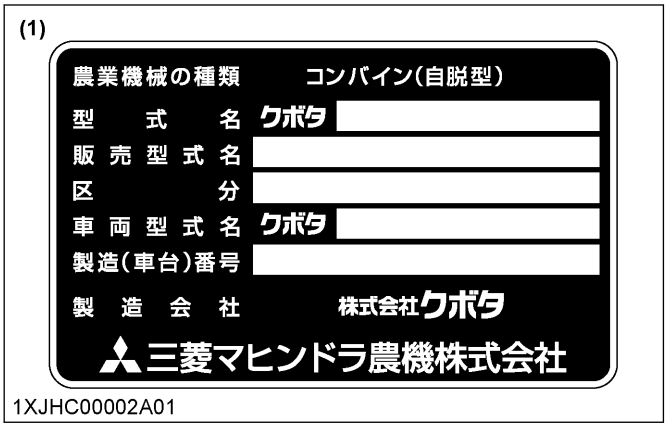
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、次の事項を併せてご連絡ください。
- 販売型式、区分と車台番号
- エンジンの型式名(model)と番号(serial)

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

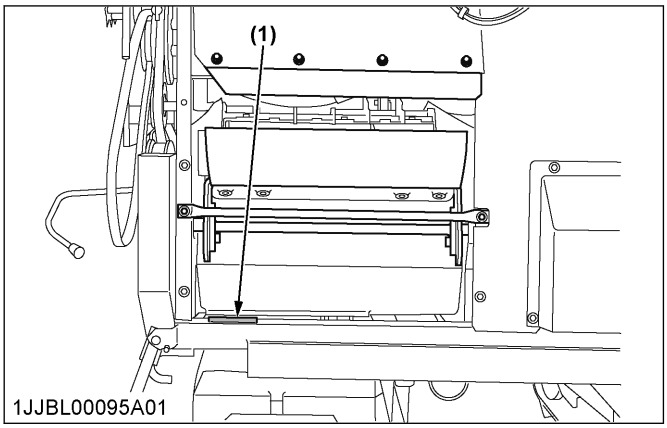


(1) エンジン番号





(1) 銘板



(1) 車台番号

認定番号

安全性検査、型式検査（国検）の農機型式名および認定番号が必要な場合は、次表の型式名および番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全性検査合格番号	小型特殊自動車
			車両型式名
XC321	クボタ R2102	申請中	クボタ C330
XC323	クボタ R2101	申請中	

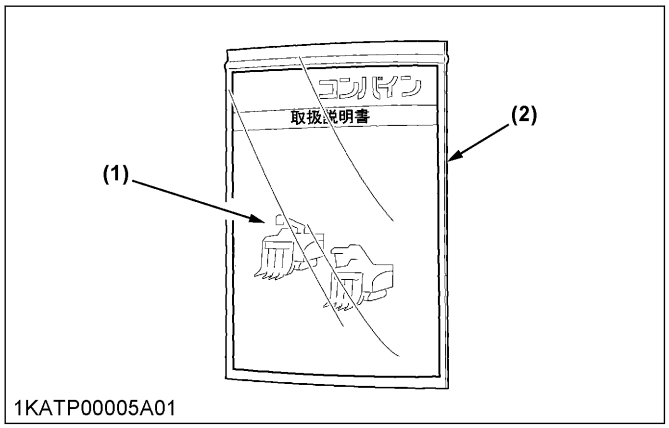
補足：
- **届出には型式認定番号が必要ですが、打刻されている車台番号で代用することができます。**
- **詳しくは購入先に連絡してください。**

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などの条件についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に既述の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

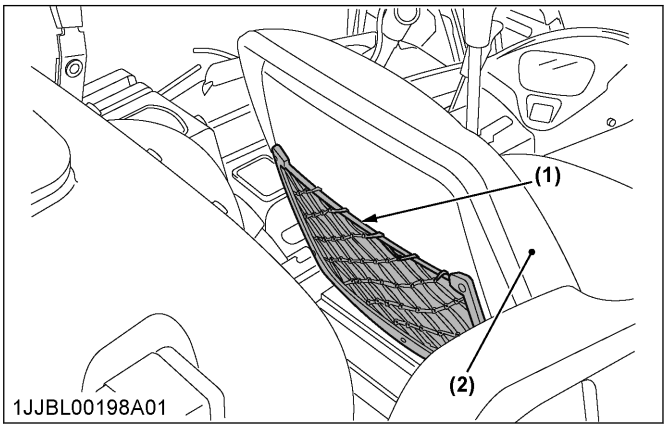
取扱説明書の収納場所について

1. 本冊子を付属部品のビニール袋にいれてください。
   出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。



(1) 取扱説明書　　*(2)* ビニール袋

2. 運転席（シート）裏側にある取扱説明書収納場所に本冊子を収納して、常時携帯してください。



(1) 取扱説明書収納場所　　*(2)* 運転席（シート）

補足：
- **取扱説明書収納場所は、デバイダキャップの保管場所としても使用してください。**
  （デバイダキャップの取外しと収納（83 ページ）を参照）

小型特殊自動車について

このコンバインは、道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

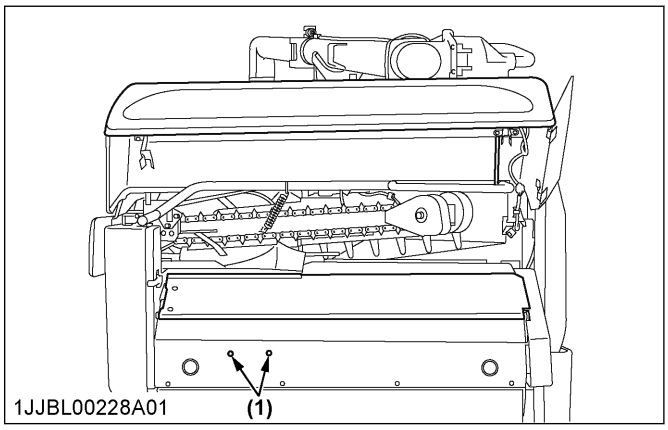
⚠ 警告
- **道路を走行するときは、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。**

補足：
- **作業灯は『道路運送車両法の保安基準第 *42* 条（灯火の色等の制限）』において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。**
- **このコンバインは、小型特殊自動車で『道路運送車両法』の保安基準が適用されます。次のうち 1 つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。**
  - **認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。**
  - **エンジンおよび本機で封印されている箇所は触らないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証はいたしません。**

- **認定時の構造を変更した状態では、道路走行することはできません。**
- **結束機、スイスイデバイダなどのオプションを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは、トラック輸送してください。カッタ、ドロッパは、装着したままで走行できます。**
  （トラックとあゆみ板の準備（78 ページ）、トラックへ積込み時のコンバインの準備（78 ページ）、トラックへの積込み、積降しのしかた（78 ページ）、トラック上でのコンバインの処置（80 ページ）を参照）

1. 小型特殊自動車取得の届出および標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届け、標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。
届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されますので、車体の取付け位置に取り付けてください。



(1) 標識（ナンバプレート）取付位置

2. 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

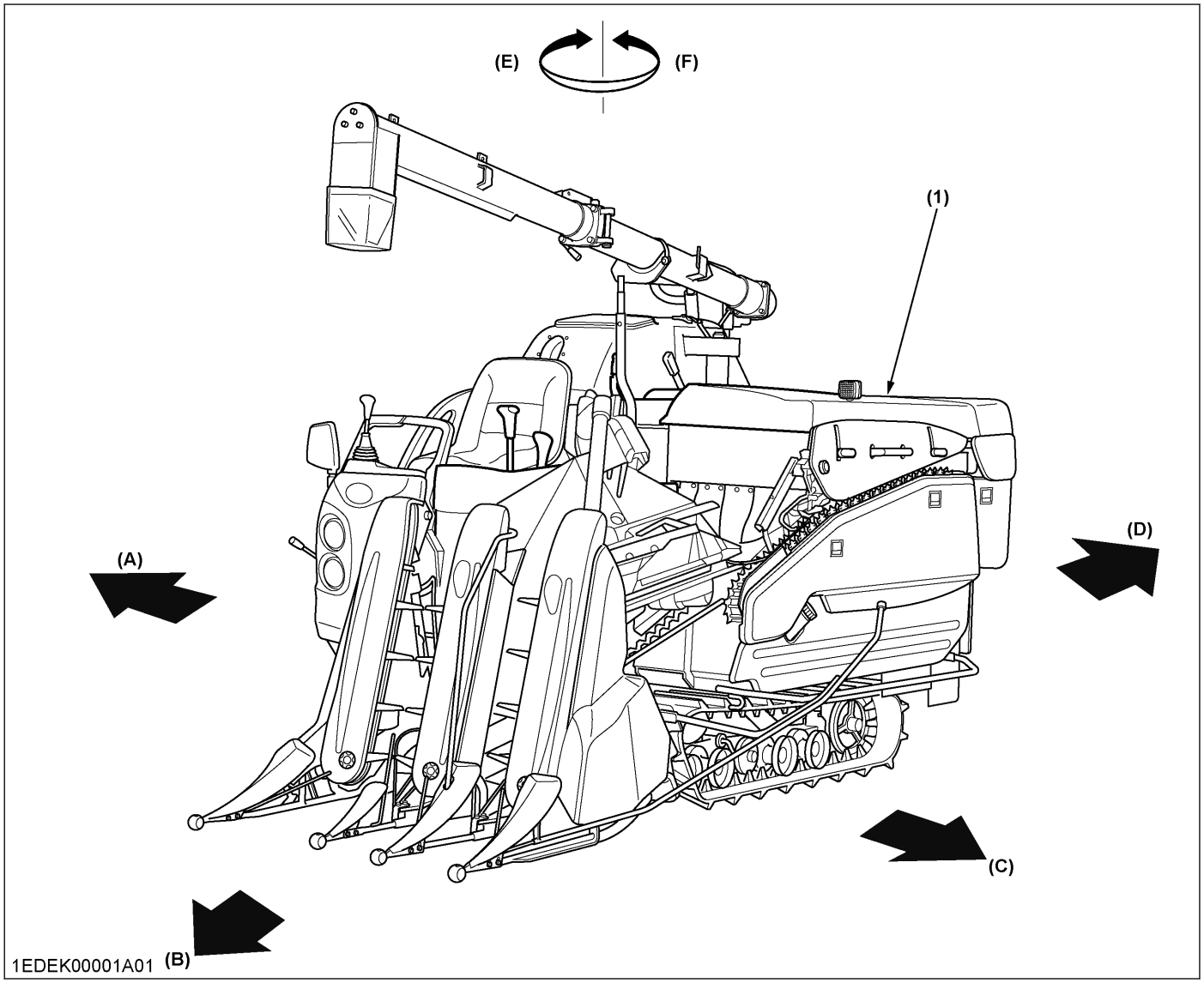
3. 運転免許証の携帯

公道走行時は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

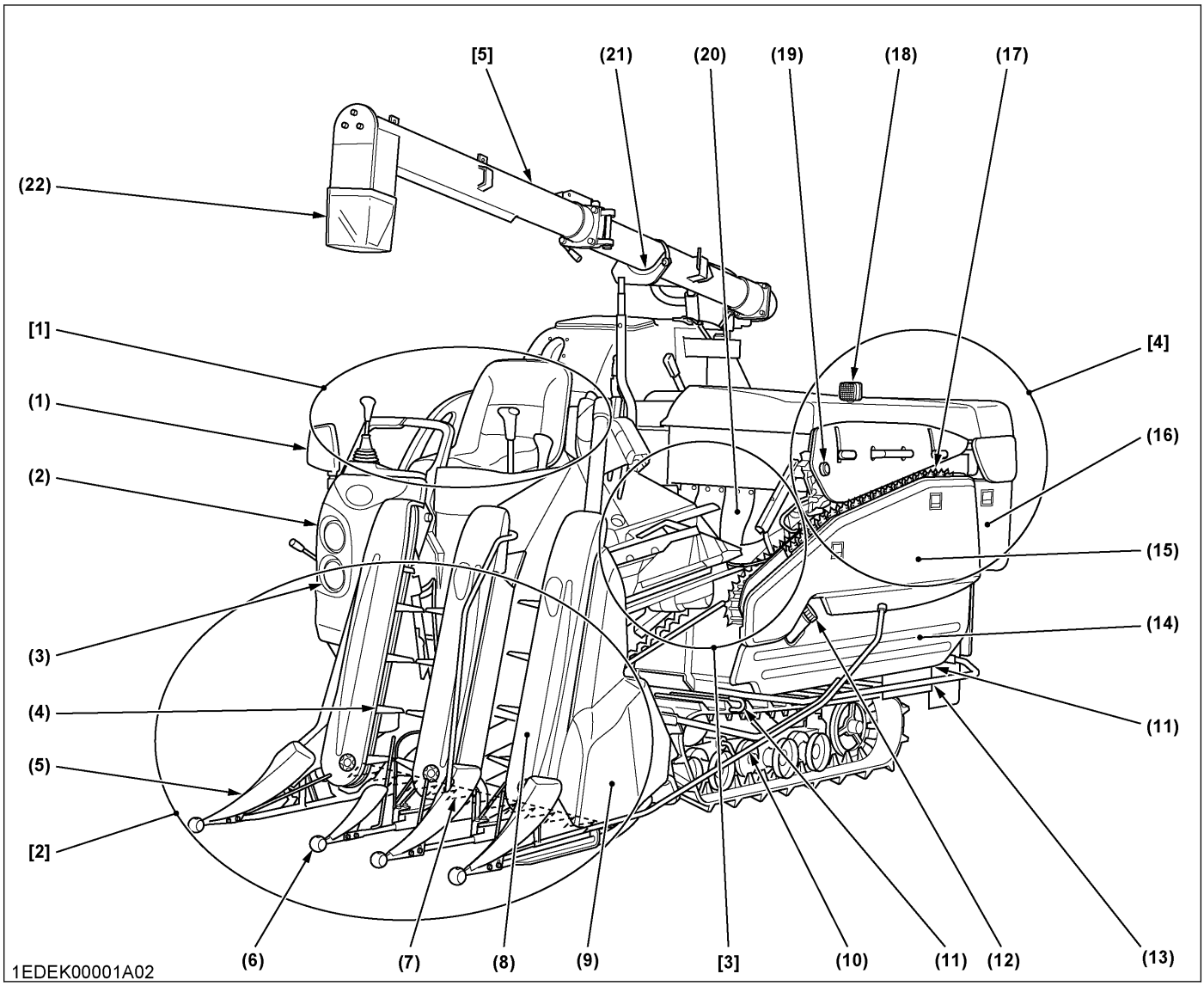
この取扱説明書で使用している“前後”、“左右”、“左回り”、“右回り”などの方向は、次図のとおりです。



(1) 機体
(A) 右側
(B) 前方
(C) 左側
(D) 後方
(E) 右回り（時計方向）
(F) 左回り（反時計方向）

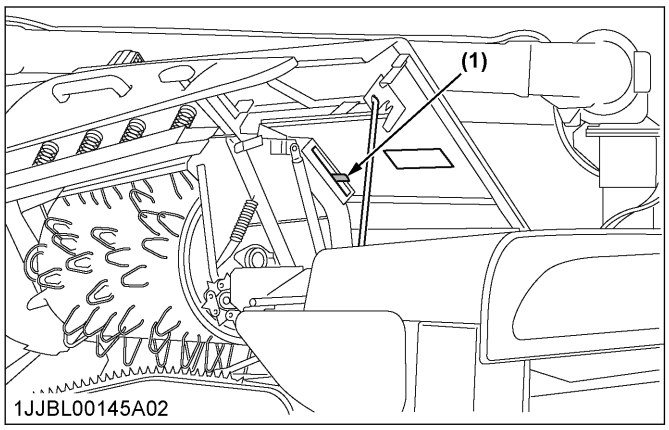
装置各部の名称とはたらき

1. 機体前方の装置の名称



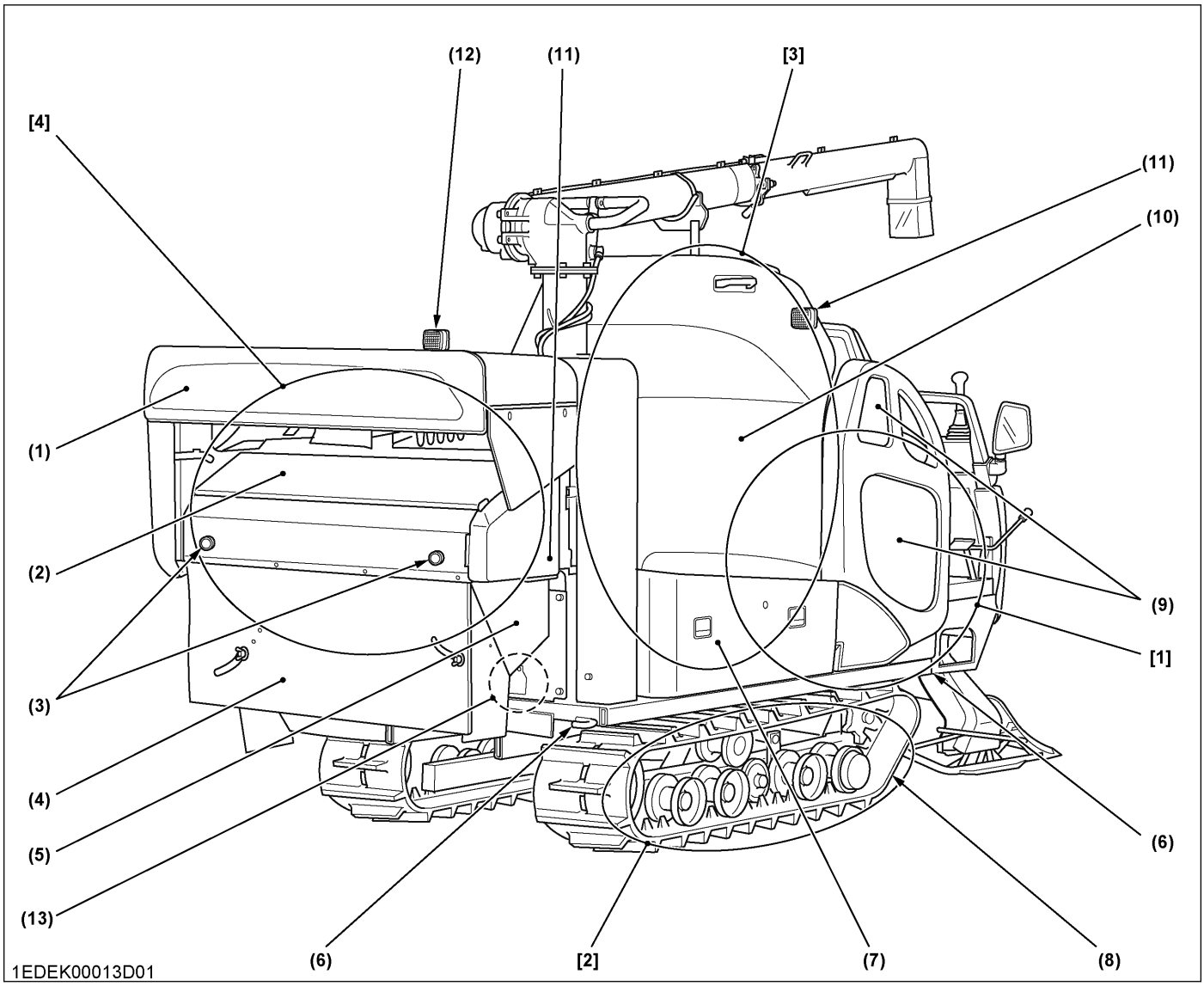
(1) バックミラー
(2) ヘッドランプ
(3) 作業灯
(4) 引起し爪
(5) デバイダ
(6) デバイダキャップ
(7) 刈刃
(8) 引起しカバー
(9) 引起しサイドカバー左
(10) 左分草かん前
(11) ロープ掛けフック
(12) 燃料供給口
(13) 左分草かん後
(14) 左サイドカバー下
(15) 左サイドカバー上
(16) カッタ左サイドカバー
(17) フェードチェーン
(18) ウインカランプ（方向指示器）
(19) エンジン停止スイッチ
(20) 脱こく部入口
(21) アンローダ受け（支え）
(22) 吐出口

[1]	運転操作部	エンジンの始動、停止や移動走行、刈取作業を運転操作する所
[2]	刈取部	作物の引起しおよび刈取りする所
[3]	供給搬送部	刈り取った作物を脱こく部へ搬送する所
[4]	脱こく部	作物を脱こくする所
[5]	アンローダ	グレンタンクからもみを排出する筒



(1) こぎ室送じん調節レバー

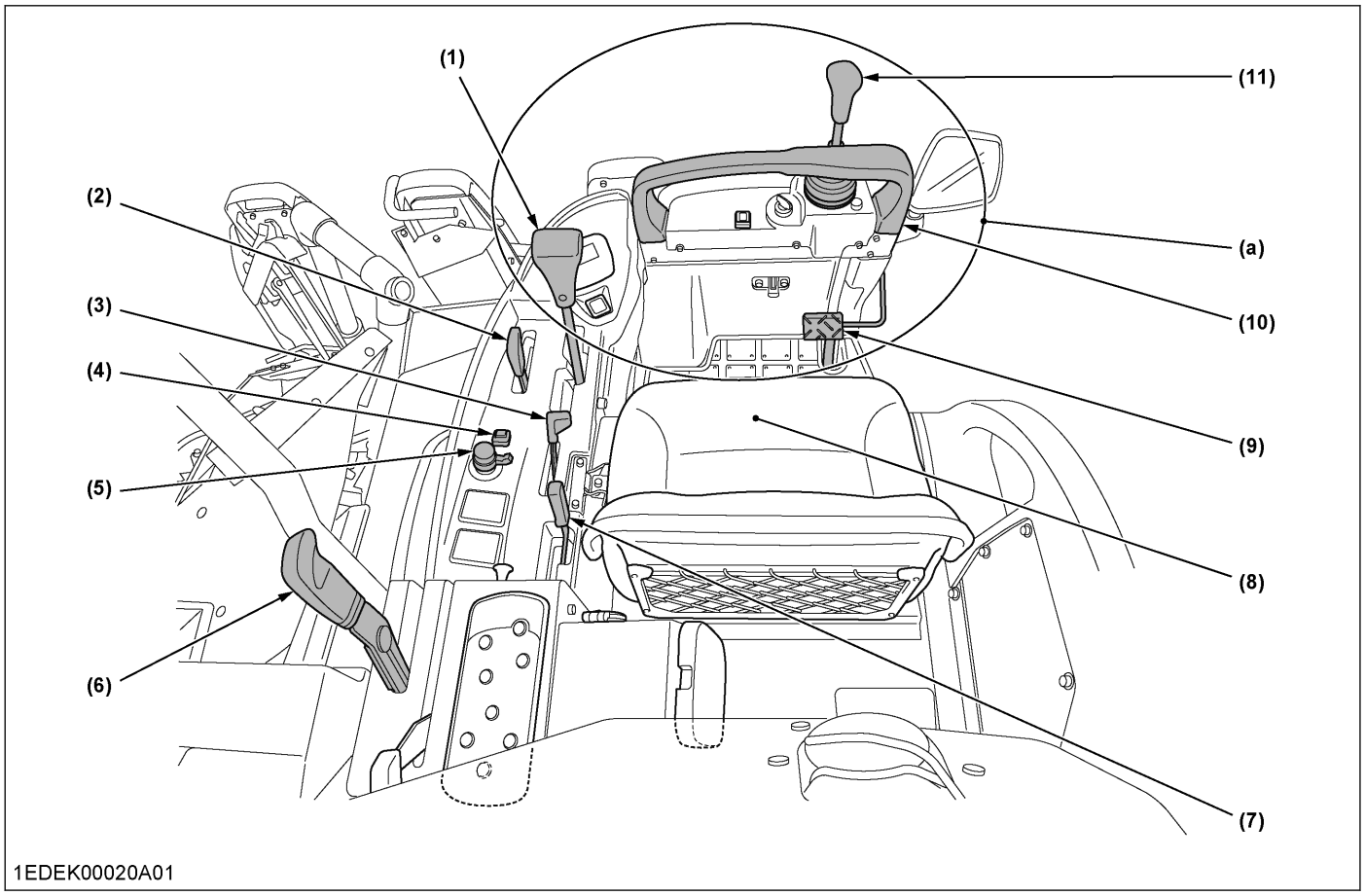
2. 機体後方の装置の名称

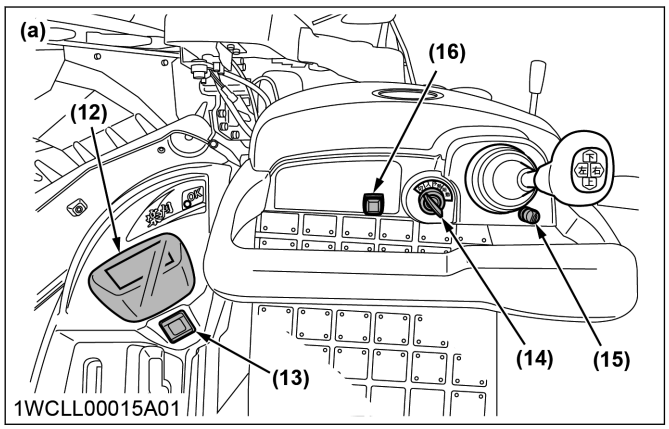


(1) 上部カバー
(2) カッタ切換えカバー
(3) 反射器
(4) リヤシュート
(5) サイドシュート
(6) ロープ掛けフック
(7) グレンタンク下カバー
(8) クローラ
(9) 防じんカバー
(10) グレンタンク
(11) カッタ右サイドカバー
(12) ウインカランプ（方向指示器）
(13) バッテリカットスイッチ

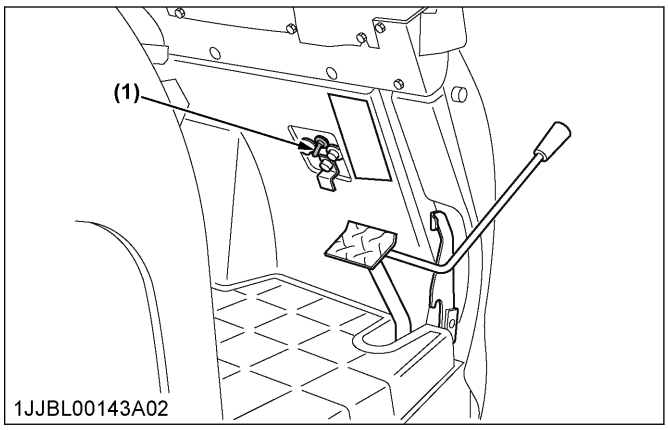
[1]	エンジン部	運転席下部にある動力装置
[2]	走行部	クローラにより走行する所
[3]	グレンタンク部	脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出する所
[4]	わら処理部	わらの切断やばら落しなどわらを処理する所

3. レバー、スイッチ類の名称

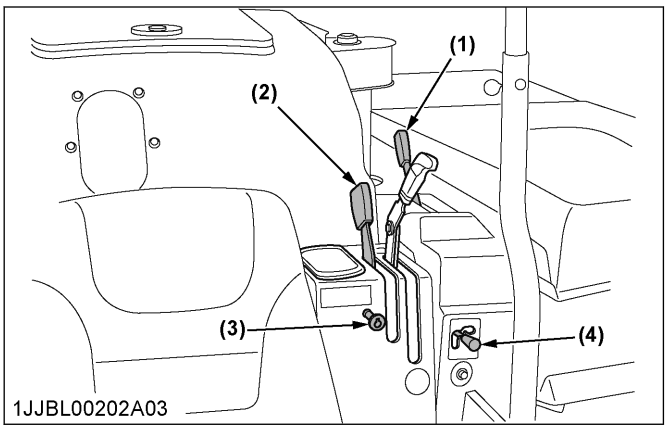




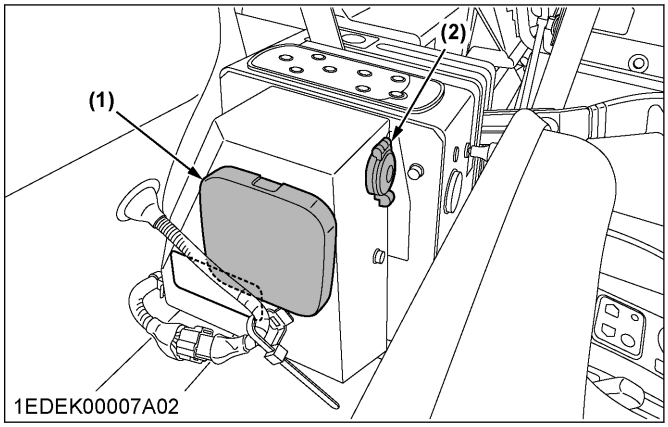
(1) 主変速レバー
(2) 副変速レバー
(3) アクセルレバー
(4) 刈取オートクラッチスイッチ
(5) コンビネーションスイッチ
(6) 左分草かん開閉レバー
(7) 刈取変速レバー
(8) 運転席（シート）
(9) ブレーキペダル（駐車ブレーキ）
(10) ハンドル
(11) *SF* ワンレバー
(12) メータユニット
(13) 作業スイッチ
(14) メインスイッチ
(15) ホーンスイッチ
(16) 刈取かき込みスイッチ



(1) 刈取下降ロックスイッチ



(1) わら作業切換えレバー
(2) もみ排出クラッチレバー
(3) 非常エンジン停止レバー
(4) トウミ調節レバー

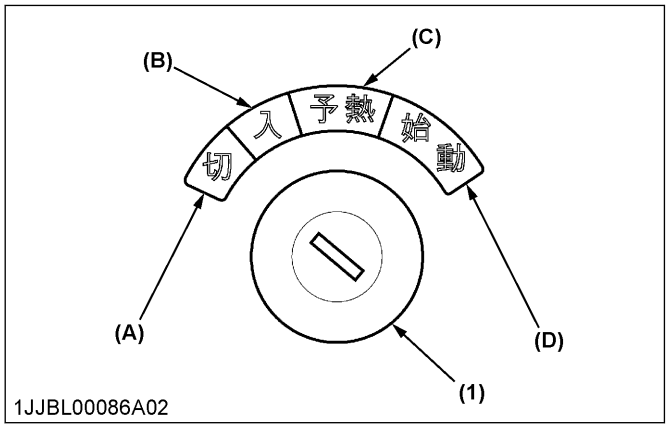


(1) ドリンクホルダ
(2) *DC* 電源ソケット

4. エンジン操作関係の名称とはたらき

4.1 メインスイッチ

コンバインの電源の“入”、“切”、およびエンジンの“始動”、“停止”を行うスイッチです。



(1) メインスイッチ

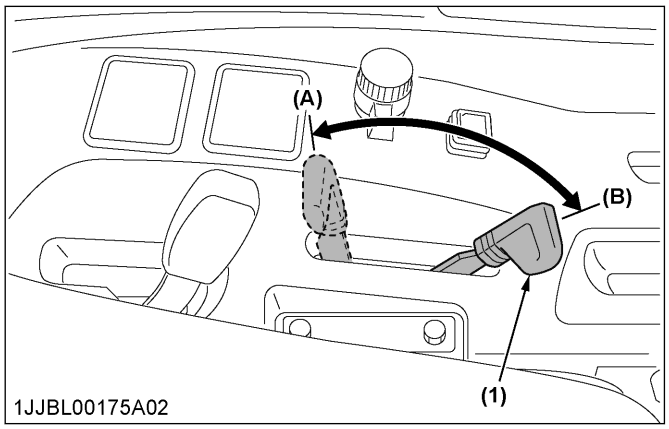
(A)	切	キーが抜き差しできるエンジン停止中の位置
(B)	入	電気（電装）装置がはたらく位置
(C)	予熱	エンジンの燃料室内が予熱される位置
(D)	始動	セルモータが回転し、エンジンが始動する位置

補足：

- **エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとキーは、[入]の位置に戻ります。**

4.2 アクセルレバー

アクセルレバーはエンジン回転をコントロールするレバーです。
アクセルレバーを後方に引くと回転数が上がります。



(1) アクセルレバー

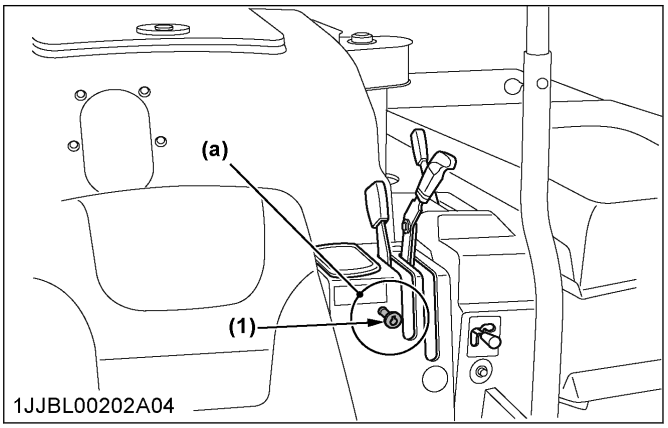
(A)		エンジン回転数が高回転の位置
(B)		エンジン回転数が低回転の位置

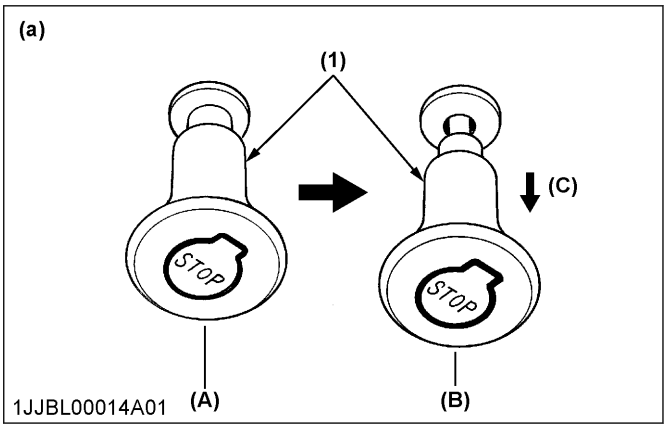
補足：

- **エンジン始動後、作業スイッチが消灯状態のとき、作業スイッチを押すと、作業スイッチのランプが“点灯”すると同時にブザーが 3 回鳴り、アクセルレバーが 方向いっぱいまで自動的に動いて刈取作業時のエンジン回転数となります。**
- **作業スイッチが点灯状態で、供給ガイドを上げると、自動でエンジンの回転数が少し下がり、供給ガイドを戻すと、自動で刈取作業時の回転数になります。**
  （供給ガイドについては、手刈りでの枕刈り脱こくのしかた（103 ページ）を参照）
- **エンジン回転計は、メータユニット（56 ページ）を参照してください。**

4.3 非常エンジン停止レバー

メインスイッチのキーを**[切]**位置にしてもエンジンが止まらないときなど“非常時”に、エンジンの停止を行うレバーです。





(1) 非常エンジン停止レバー
(A) 始動
(B) 停止
(C) 引く

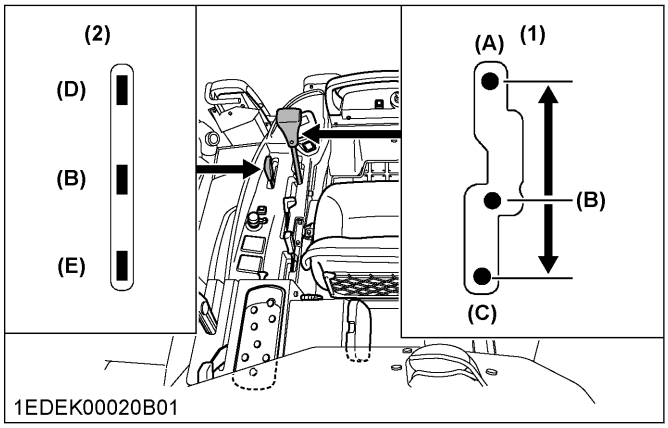
補足：

- **非常エンジン停止レバーが停止状態では、エンジンは始動しません。**

5. 走行操作関係の名称とはたらき

5.1 主変速レバー、副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。



(A) 前進
(B) *N*（中立）
(C) 後進
(D) 作業
(E) 移動

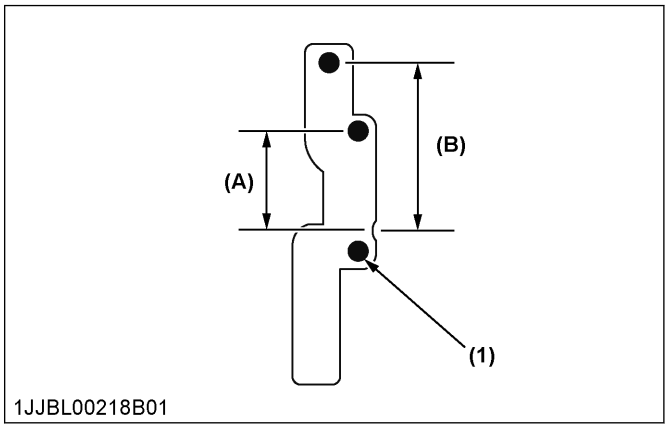
(1)	主変速レバー	機体の前進、後進を無段階で操作できる
(2)	副変速レバー	**[作業]**、**[移動]**の 2 段階

重要：

- **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。**

補足：

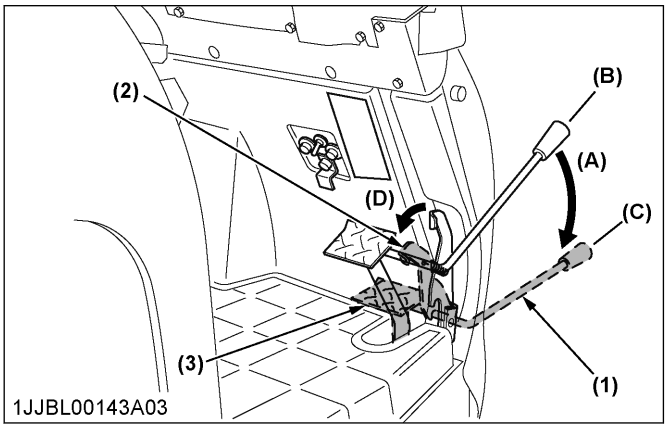
- **ブレーキペダルを踏み込む、または駐車ブレーキを掛けると、主変速レバーは[N]“（中立）”位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。**
- **主変速レバーを[後進]位置にするとバックブザーが鳴ります。**
- **刈取作業を行うとき、作物やほ場の状態に合わせて、主変速レバーを“中割、周囲刈範囲”または“3 条刈取範囲”の範囲内で刈取速度の調整を行ってください。**
  （刈取時の作業速度の選択方法（98 ページ）を参照）



(1) 主変速レバー位置
(A) 中割、周囲刈範囲
(B) *3* 条刈取範囲

5.2 ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

1. 駐車ブレーキレバーを下げるとブレーキが掛かり、ブレーキロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。
2. 駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを強く踏み込むまたは駐車ブレーキレバーを押し下げて、ロックを解除してください。



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) ブレーキロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) 解除
(C) ロック（駐車ブレーキ位置）
(D) ロック

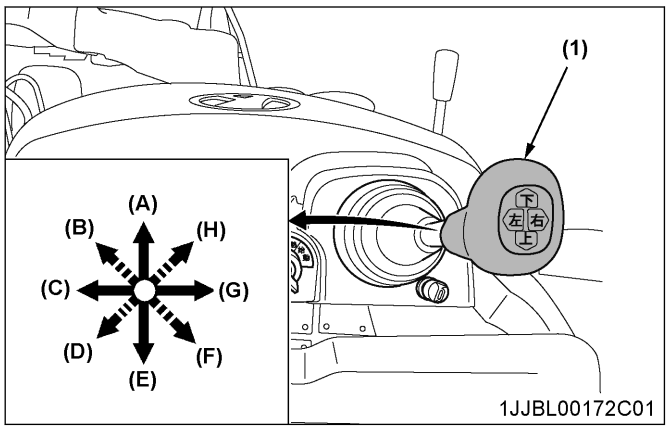
補足：

- **駐車ブレーキレバーを押さえると、減速すると同時に主変速レバーが[N]“（中立）”側に戻ります。**
- **駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは、[N]“（中立）”位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません**
- **駐車ブレーキペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。**

5.3 SF ワンレバー

SF ワンレバーは、機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行うレバーです。

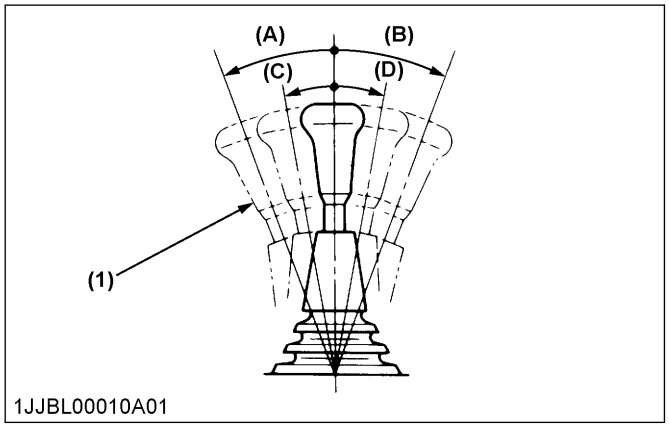
左⟷右	レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行います。
下げ ↕ 上げ	レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。
左･下　右･下 左･上　右･上	レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に、刈取部が上下に動きます。



(1) *SF* ワンレバー

(A) 下（刈取部下げ）
(B) 左・下
(C) 左（左旋回）
(D) 左・上
(E) 上（刈取部上げ）
(F) 右・上
(G) 右（右旋回）
(H) 右・下

運転席に座って操作する方向



(1) *SF* ワンレバー

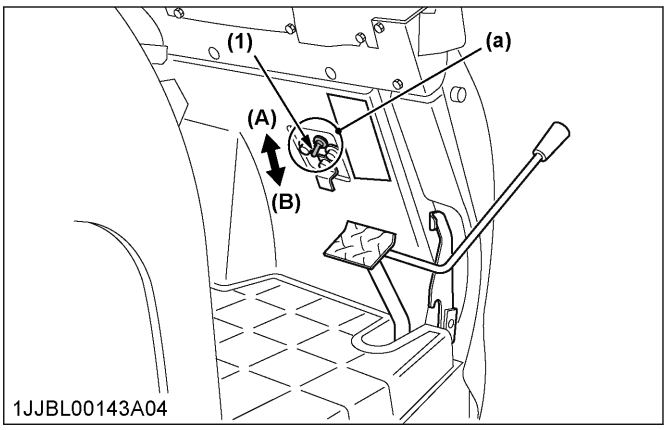
(A) 左旋回
(B) 右旋回
(C) 左方向修正
(D) 右方向修正

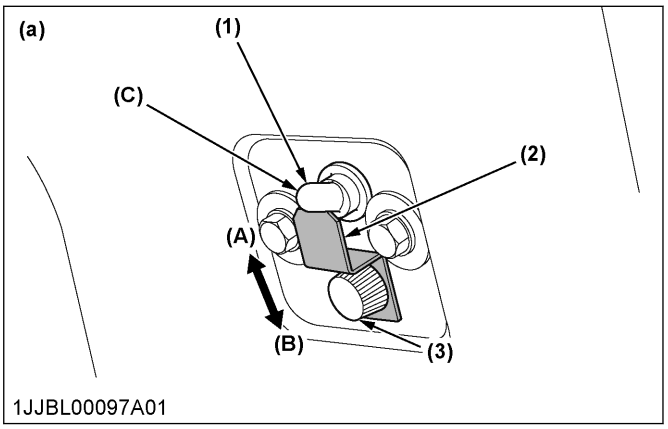
補足：

- **エンジンが停止中で、刈取部が上がっているときに SF ワンレバーを前方（“下”方向）に倒しても刈取部は下がりません。**

5.4 刈取下降ロックスイッチ

刈取部の下降防止を行うロックスイッチです。
刈取下降ロックスイッチを上げる（“ロック”位置）と、SF ワンレバーを操作しても刈取部は下降しません。





(1) 刈取下降ロックスイッチ
(2) スイッチロック金具
(3) 樹脂ボルト

(A)	ロック	刈取下降ロックスイッチを上げる（“ロック”位置）と、SF ワンレバーを操作しても刈取部は下降しない
(B)	解除	解除するときは、刈取下降ロックスイッチを下げる（“解除”位置）
(C)	ロック状態	

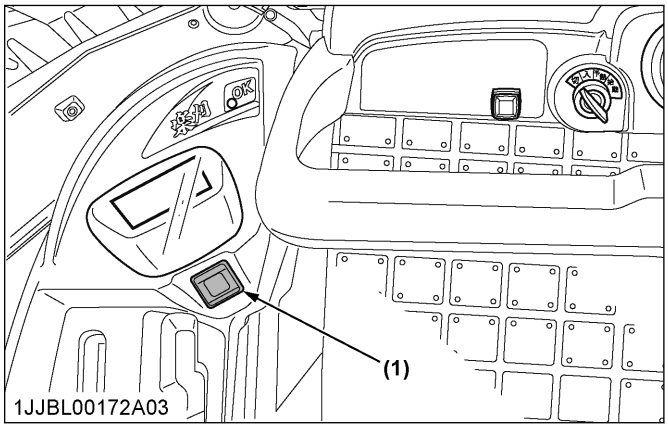
補足：

- **刈取下降ロックスイッチを上げたときは、必ずスイッチロック金具で刈取下降ロックスイッチを固定し、解除防止を行ってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。**
- **エンジンを始動しないと刈取部は上昇、下降しません。**
- **メンテナンスなど刈取部を上げる必要がある場合において、刈取部を上げた状態で点検、調整などの作業を行うときは、刈取下降ロックスイッチを上げてください。**

6. 刈取、脱こく関係の名称とはたらき

6.1 作業スイッチ（楽刈ボタン）

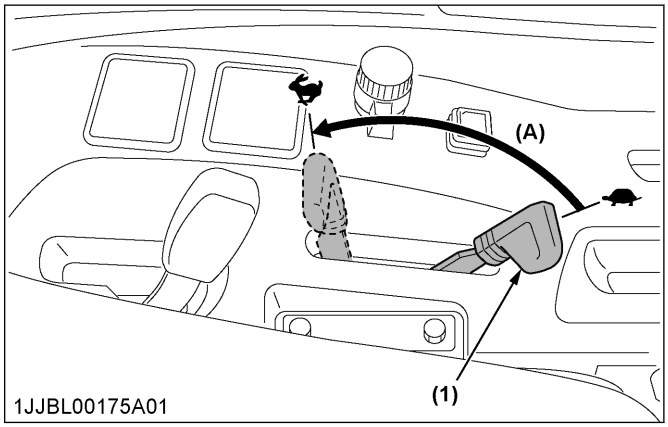
脱こく部、刈取部各動力の“入、切”およびエンジン回転数を、刈取作業時の回転数に自動調整するスイッチです。



(1) 作業スイッチ（楽刈ボタン）

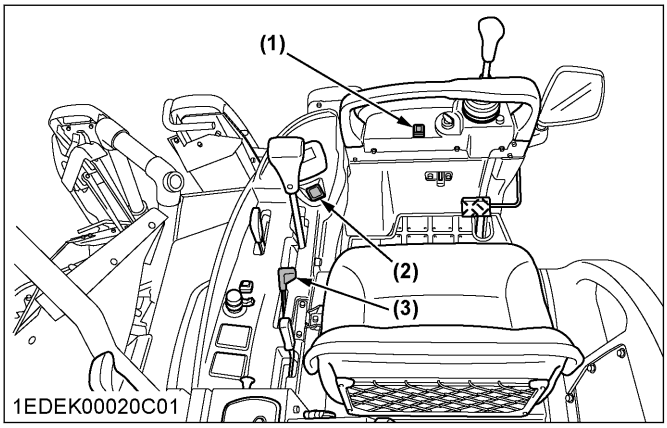
補足：

- **刈取、脱こくの各クラッチが“入”の状態で、エンジンをいったん停止したあと、再度エンジンを始動するときは、約 5 秒間待ってから始動してください。刈取、脱こくの各クラッチが切れていないため、メインスイッチのキーを[始動]位置にしてもエンジンは始動しません。また、刈取、脱こくの各クラッチが“入”状態のとき、作業スイッチのランプが“点灯”状態となります。**
- **エンジン始動後、作業スイッチが消灯状態のとき、作業スイッチを押すと、ブザーが 3 回鳴り作業スイッチのランプが“点灯”すると同時に、アクセルレバーが 方向いっぱいまで自動的に動いて刈取作業時のエンジン回転数となります。**
  また、脱こくおよび刈取のクラッチが“入”の状態となります。



(1) アクセルレバー　　*(A)* 自動的に動く

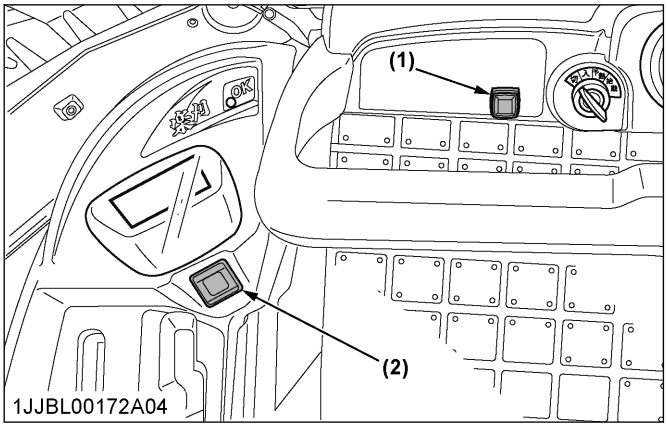
- **主変速レバーが[N]“（中立）”または[後進]位置のときは、作業スイッチを“入”にしても刈取部は作動しません。主変速レバーを[前進]側に操作すると、機体が前進すると同時に刈取部が作動します。**
- **エンジン停止中でメインスイッチのキーが[入]の状態のとき、作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押すと、脱こくクラッチが“入”の状態となります。そのあと、刈取かき込みスイッチを押すと刈取クラッチが“入”の状態となります。このとき、作業スイッチのランプ、刈取かき込みスイッチのランプはそれぞれ“点灯”状態となります。メンテナンスのベルトの点検、調整など駆動部の処置時に使用してください。**



(1) 刈取かき込みスイッチ　　*(3)* アクセルレバー
(2) 作業スイッチ

6.2 刈取かき込みスイッチ

あぜぎわなどの状況で前進しながら刈取作業が行えない場合、機体の走行を停止した状態で作物の刈取りを行うときに、刈取部を作動させるスイッチです。
主変速レバーが**[N]**“（中立）”位置で機体の走行が停止しているとき、作業スイッチを押して“入”にし、脱こく部が作動している状態で刈取かき込みスイッチを押すと、刈取部が作動します。



(1) 刈取りかき込みイッチ　　*(2)* 作業スイッチ

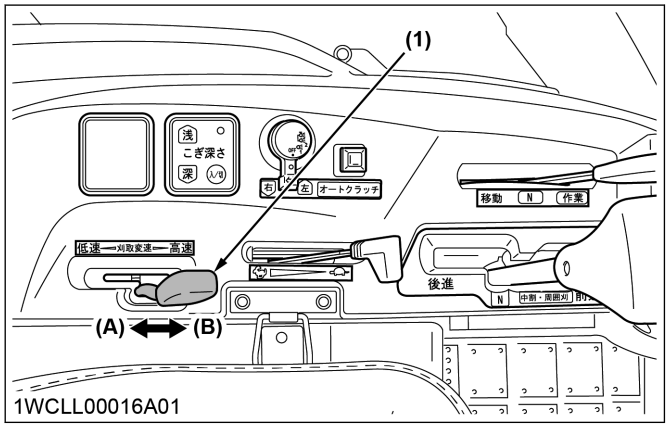
補足：

- **刈取オートクラッチが“入”の状態で、刈取部が“最上昇位置”にあるときには、刈取かき込みスイッチを押しても刈取部は作動しません。**
- **エンジン停止中でメインスイッチのキーが[入]の状態のとき、作業スイッチを押したままの状態で刈取**

かき込みスイッチを押すと、脱こくクラッチが“入”の状態となります。
そのあと、刈取かき込みスイッチを押すと刈取クラッチが“入”の状態となります。このとき、作業スイッチのランプ、刈取かき込みスイッチのランプはそれぞれ点灯状態となります。
メンテナンスでのベルトの点検、調整などの作業で使用してください。

6.3 刈取変速レバー

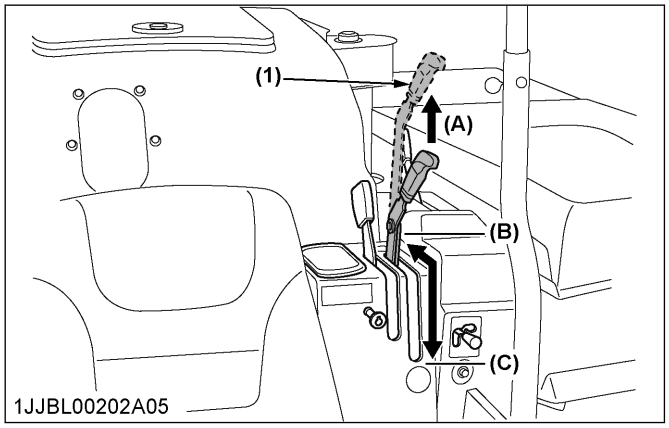
刈取部の速度を切り換えるレバーです。
作物や作業状態に合わせて**[高速]**と**[低速]**の 2 段階に変速できます。



(1) 刈取変速レバー　　*(A)* 低速
(B) 高速

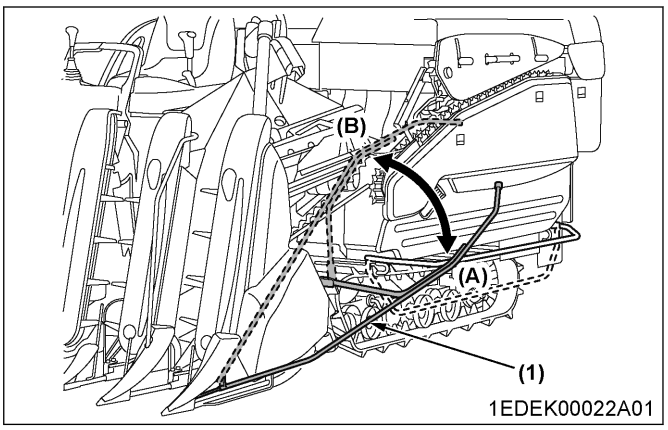
6.4 左分草かん開閉レバー

左分草かん前を開閉するレバーです。



(1) 左分草かん開閉レバー　　*(A)* 伸ばす

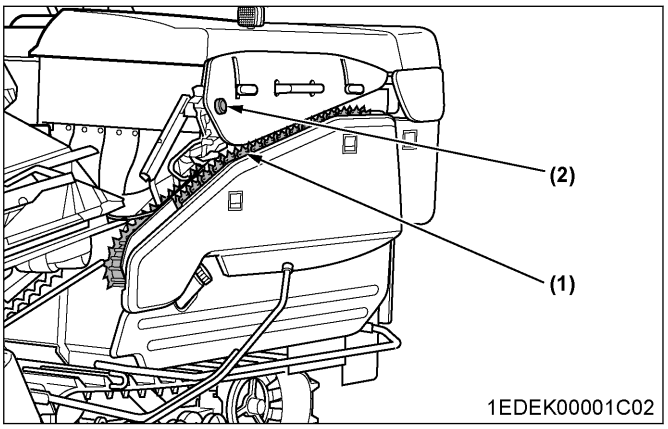
(B)	**[開]**	伸ばして引き上げると左分草かんが開く（倒れる）
(C)	**[閉]**	伸ばして倒すと左分草かんが閉じる（上がる）



(1) 左分草かん前　　*(A)* 開
(B) 閉

6.5 エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。
エンジンが停止すると同時にブザーが鳴り、フィードチェーンが急停止し、こぎ胴が上方へ開きます。



(1) フィードチェーン　　*(2)* エンジン停止スイッチ

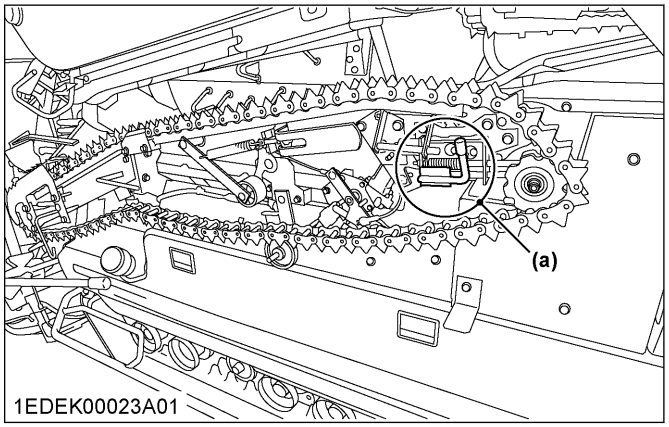
補足：
- **エンジン停止スイッチを押すと、こぎ胴のロックが解除され、こぎ胴が上方へ開く状態となります。万が一異物がかみ込んだ場合、こぎ胴が上方に解放されます。作物等が搬送されていない状態では、こぎ胴の開き量が小さい場合がありますが、機能上の問題はありません。**
- **メインスイッチのキーを[切]位置にするとブザーは止まります。**

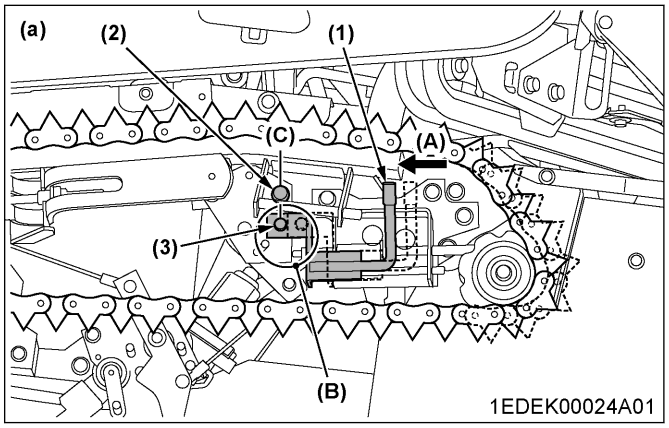
6.5.1 機体の作業状態への復帰のしかた

エンジン停止スイッチで停止した機体を作業状態へ復帰するための手順です。

1. メインスイッチのキーを**[切]**位置、主変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にします。
2. 左サイドカバー上を取り外します。

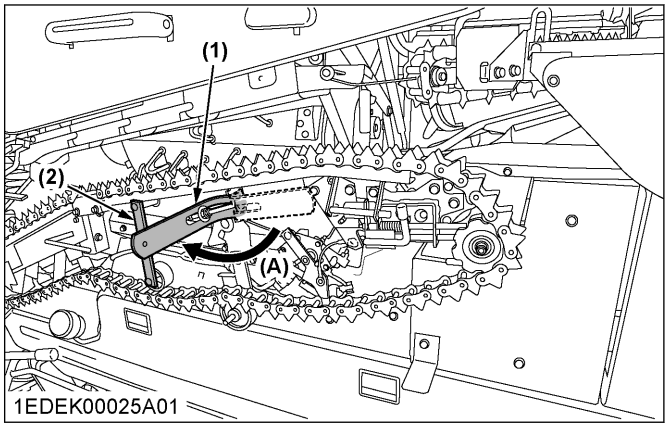
3. 黄色のレバーを機体前方に動かしロックします。（ロック位置：ボルトとピンが縦に並ぶ位置）





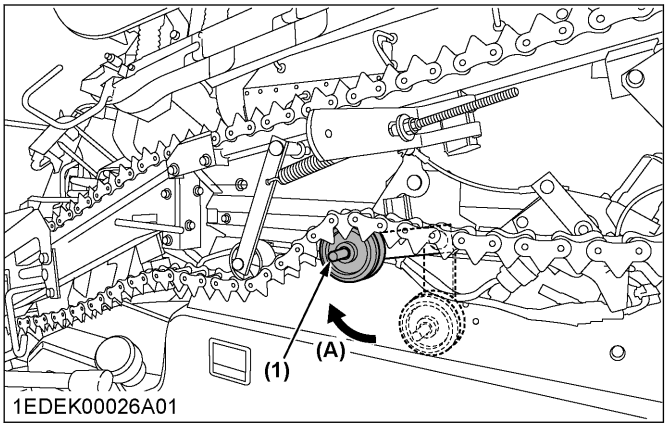
(1) 黄色のレバー
(2) ボルト
(3) ピン
(A) 前方
(B) ロックする
(C) 並んだ位置

4. フィードチェーンテンションレバーを引き、テンションアームをゆるめます。



(1) フィードチェーンテンションレバー
(2) テンションアーム
(A) 引く

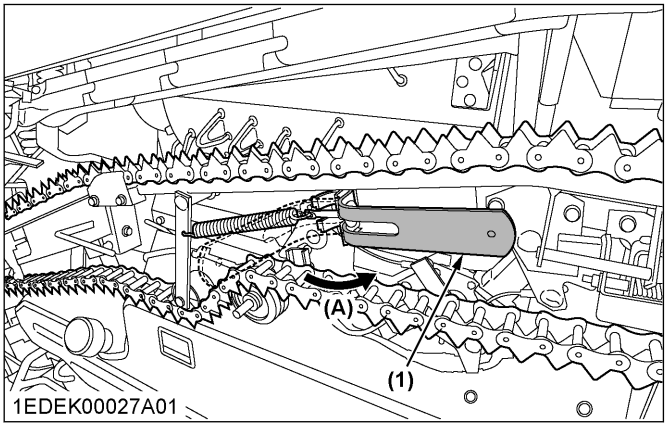
5. 青色のレバーをガチャンと音がするまで時計回りに動かします。



(1) 青色のレバー
(A) 動かす

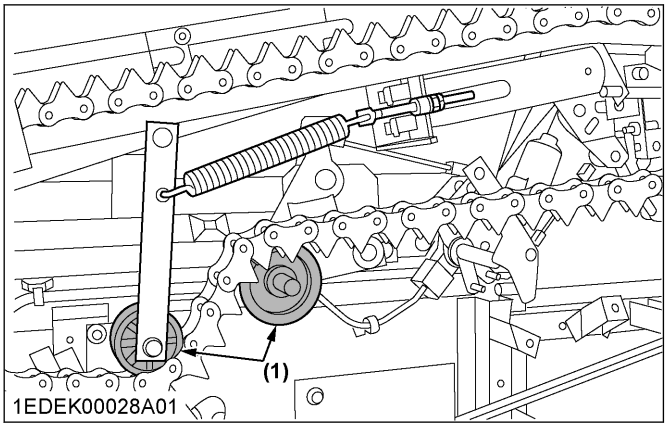
重要：
- **ローラがチェーンに収まっていることを確認してください。**

6. フィードチェーンテンションレバーを元の位置に戻します。



(1) フィードチェーンテンションレバー
(A) 戻す

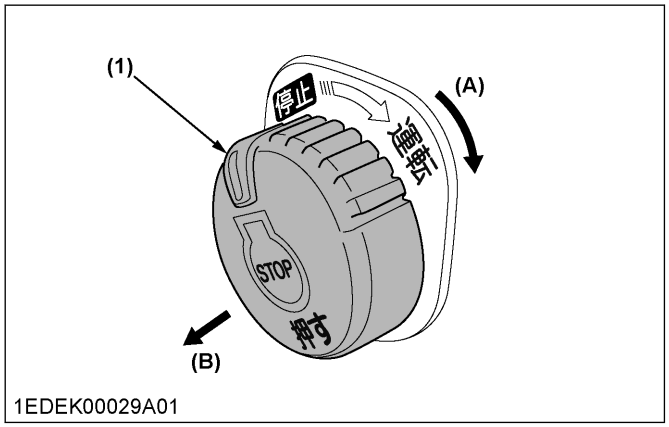
重要：
- **各テンションローラが次図の位置関係にあることを確認してください。**



(1) テンションローラ

7. 左サイドカバー上を取り付け、こぎ胴を閉じます。

8. エンジン停止スイッチを**[停止]**位置から時計方向いっぱいまで回してから、手前方向にコツンと音が鳴るまで確実に引き上げ、**[運転]**位置にします。



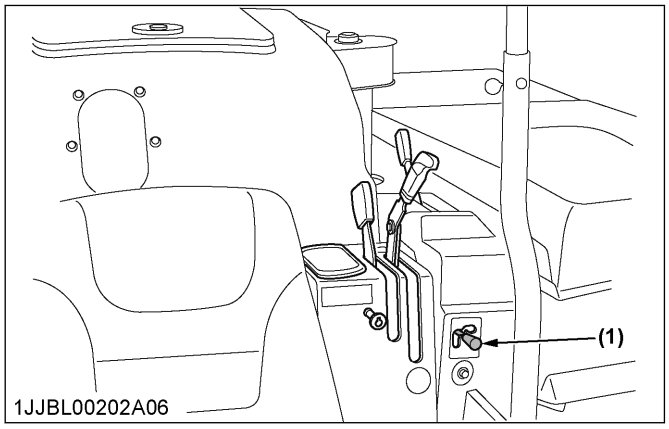
(1) エンジン停止スイッチ　*(A)* 回す　*(B)* 引く

補足：

- **レバー、テンション関係の復帰操作をしない場合、エンジンおよび脱こく部は作動しますが、フィードチェーンは作動しません。**

6.6 トウミ調節レバー

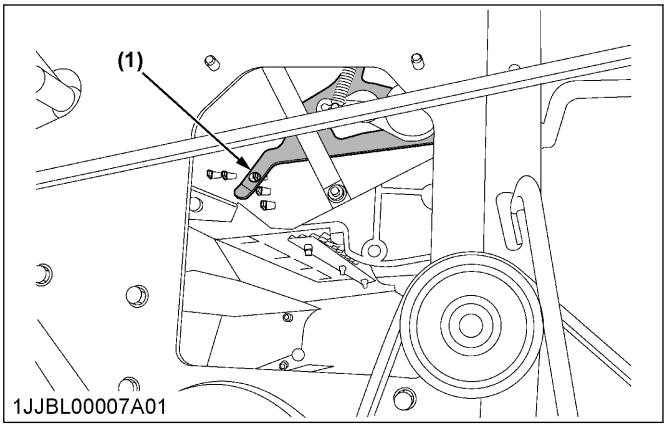
トウミの風力調節を行うレバーです。
作物や選別状態に合わせて 3 段階の調整ができます。
(トウミの開度による風力とチャフ（選別板）のすき間の開度の調節（107 ページ）を参照)



(1) トウミ調節レバー

6.7 チャフ調節レバー

シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行うレバーです。
作物や選別状態に合わせて 5 段階の調節ができます。
(トウミの開度による風力とチャフ（選別板）のすき間の開度の調節（107 ページ）を参照)



(1) チャフ調節レバー

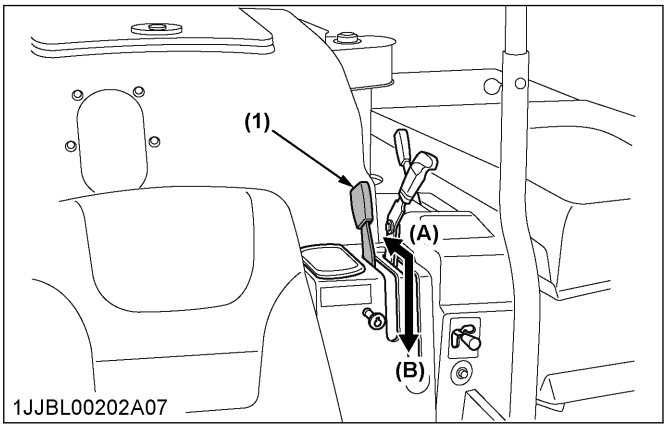
補足：

- **チャフ調節レバーは、左サイドカバーを取り外し、脱こく部左の掃除口カバーを取り外すとあります。**

7. グレンタンク関係の名称とはたらき

7.1 もみ排出クラッチレバー

グレンタンク内のもみ排出操作を行うレバーです。



(1) もみ排出クラッチレバー

(A)	“切”	もみの排出を停止します。
(B)	“入”	もみを排出します。

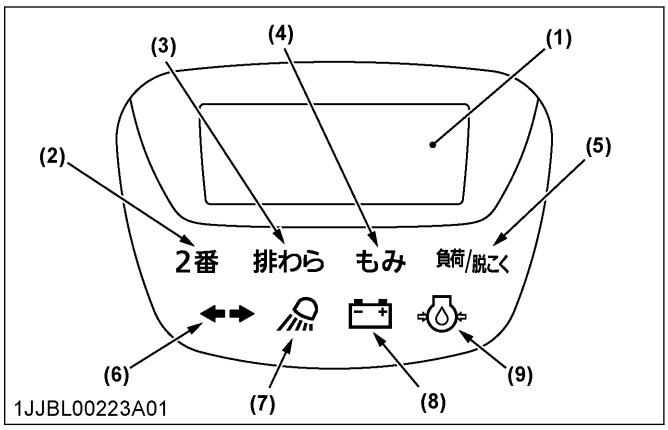
補足：

- **もみ排出クラッチレバーを“切”位置にしないと、エンジンは始動しません。ラベルの“切”位置（黄色部）にレバーが入るまで確実に操作してください。**

8. 電装関係の名称とはたらき

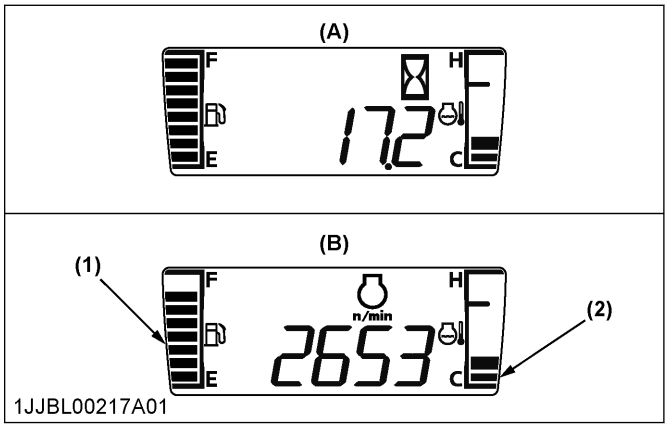
8.1 メータユニット

液晶ディスプレイは、エンジン始動前や始動後、異常発生のときなど機械の状態や状況に応じて、マイコンが判断した必要な情報を表示します。



(1) 液晶ディスプレイ
(2) 2番ランプ
(3) 排わらランプ
(4) もみランプ
(5) 負荷／脱こくランプ
(6) ウインカ表示ランプ
(7) 作業灯点灯ランプ
(8) 充電ランプ
(9) オイルランプ

液晶ディスプレイ表示パターン

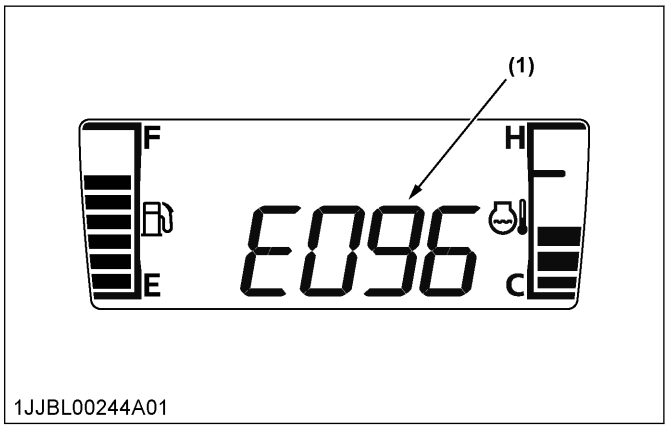


(1) 燃料計
(2) 水温計
(A) アワメータ表示例
(B) エンジン回転数表示例

補足：

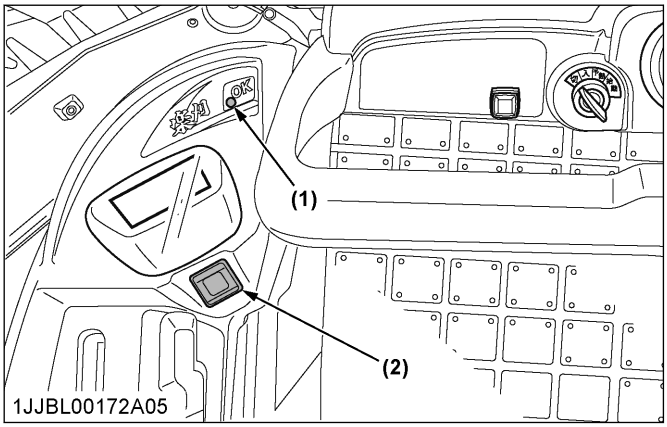
- **異常が発生すると、メータユニットの液晶ディスプレイに異常のエラーメッセージを表示します。故障によるエラーメッセージが表示されたときは刈取作業を中止し、購入先に連絡して処置してください。**

異常発生表示例



(1) エラーメッセージ

- **液晶ディスプレイに異常のエラーメッセージが表示されたとき、警報ブザーは鳴りませんので注意してください。ただし、異常が同時に発生したときは、警報ブザーが鳴ります。**
- **機械に異常が発生すると、液晶ディスプレイにエラーコードとエンジン回転数を交互に表示します。また作業可能ランプが“点滅”します。**



(1) 作業可能ランプ（*OK* ランプ） *(2)* 作業スイッチ（楽刈ボタン）

8.1.1 メータユニットの各メータ

8.1.1.1 燃料計

燃料の残量を液晶の目盛り 8 段階で表示します。
燃料計はメータユニットに常時表示されます。

8.1.1.2 水温計

エンジンの冷却水温を目盛り 7 段階で表示します。
水温計はメータユニットに常時表示されます。
エンジンの冷却水温が高温になると水温計の目盛がすべて“点滅”し、警報ブザーが鳴ります“（水温警報）”。

8.1.1.3 アワメータ

エンジン停止中のメインスイッチ**[入]**時、エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。
単位は h（時間）です。

8.1.1.4 エンジン回転数表示

エンジン作動中、1 分間のエンジン回転数をデジタル表示します。
エンジン回転数の単位は r/min (rpm)です。

8.1.2 メータユニットの各ランプ

補足：

- **処置については、メータユニットによる異常の確認と処置（110 ページ）を参照してください。**
- **エンジンが停止しているとき、メインスイッチのキーを[入]位置にすると、充電ランプ、オイルランプが点灯しますが異常ではありません。**

8.1.2.1 充電ランプ

充電系統に異常が発生すると点灯します“（充電警報）”。

8.1.2.2 オイルランプ

エンジンオイルの圧力が異常に低下すると点灯します“（油圧警報）”。

8.1.2.3 2 番ランプ

2 番処理ケース内または 2 番縦スクリュケース内が詰まると点滅し、ブザーが鳴ります“（2 番警報）”。

8.1.2.4 作業可能ランプ（OK ランプ）

作業スイッチが押され、作業可能状態（エンジン回転数が“作業範囲”、脱こくクラッチ、刈取クラッチが“入”）になると点灯します。
作業可能ランプが“点灯”したのを確認してから、刈取作業を開始してください。

補足：

- **油圧警報、充電警報を除く警報、異常が発生したときは、作業可能ランプが“点滅”します。**

8.1.2.5 作業灯点灯ランプ

⚠ 注意

- **やむをえず夜間に移動走行するときは、必ずヘッドランプを点灯し、作業灯は消灯してください。**

コンビネーションスイッチを“ヘッドランプ、作業灯点灯位置”にすると、作業灯が点灯すると同時に、作業灯ランプが“点灯”します。

8.1.2.6 排わらランプ

フィードチェーン終端部およびわら処理（カッタ）部にわらが詰まり、エンジン自動停止装置によりエンジンが自動停止すると点滅し、ブザーが鳴ります“（排わら警報）”。

補足：

- **オプションで結束機をつけた場合、排わらランプ表示は、わら詰まり、ひも切れ、ひも詰まりでも点滅します。**

8.1.2.7 もみランプ

グレンタンク内のもみが満杯になると点滅し、警報ブザーが鳴ります“（もみ満杯警報）”。

8.1.2.8 負荷／脱こくランプ

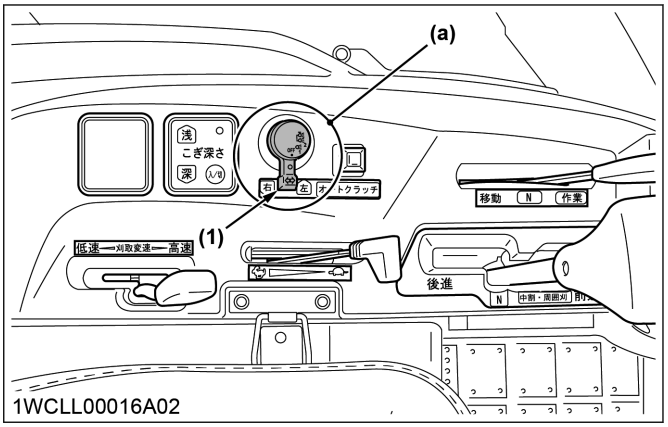
エンジンに負荷が掛かってくると点滅し、警報ブザーが鳴ります“（負荷警報）”。
また、脱こく機のシーブケース上で詰まりが発生するとランプが点滅し、警報ブザーが鳴ります“（シーブ警報）”。

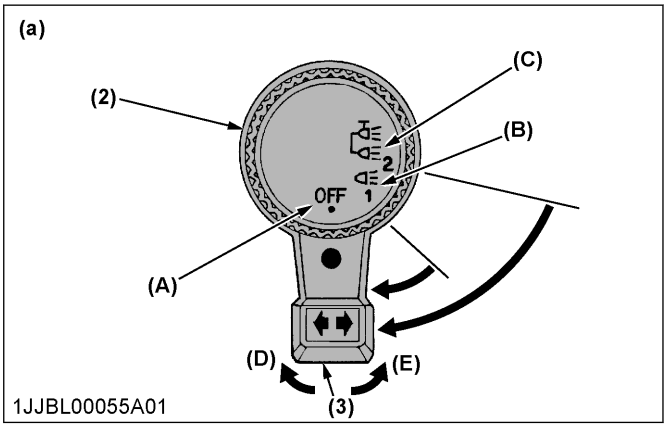
補足：

- **エンジン回転数は、負荷が大きくなるほど下がります。負荷／脱こくランプ表示で次表のようになります。**

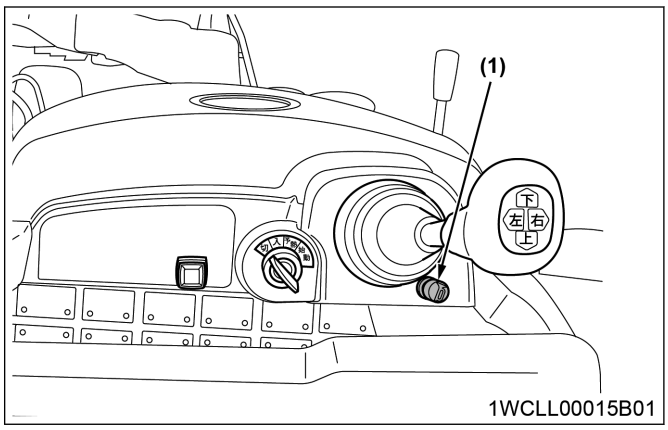
状態	ランプ、ブザー
適正範囲	ランプ“消灯”
⬇	
即時減速	ランプ“点滅” 警報ブザーが長い間隔で断続的に鳴る
⬇	
即時作業停止	ランプ“点滅” 警報ブザーが短い間隔で断続的に鳴る

8.2 コンビネーションスイッチ、ホーンスイッチ





(1) コンビネーションスイッチ
(2) ライティングスイッチ
(3) ウインカスイッチ
(A) ヘッドランプ、作業灯消灯位置
(B) ヘッドランプ点灯位置
(C) ヘッドランプ、作業灯点灯位置
(D) 右点滅
(E) 左点滅



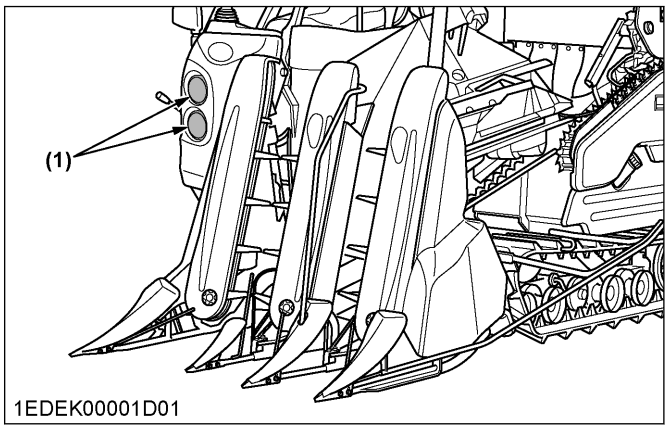
(1) ホーンスイッチ

8.2.1 ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

重要：

- **刈取部の右にあるヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは、保護ビニールをはがしてください。ライトの熱でビニールが溶けたりライトが高熱になり破損する原因となります。**



(1) 保護ビニール

補足：

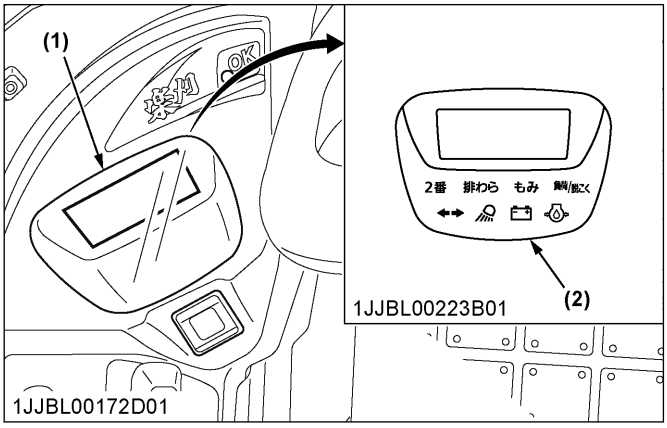
- **作業灯はオプション部品です。**

8.2.2 ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

8.2.3 ウインカスイッチ

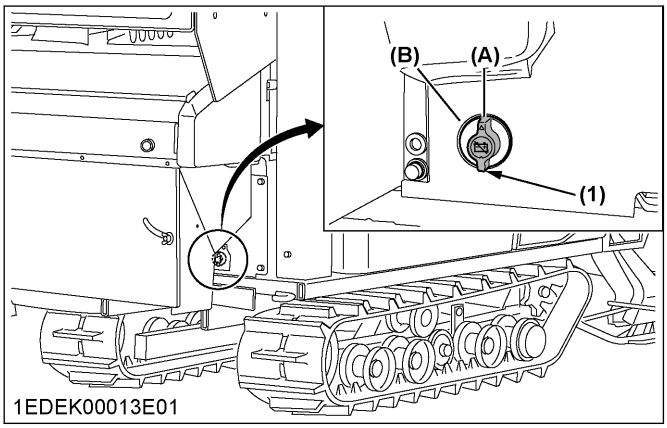
旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅すると同時にメータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。



(1) メータユニット　*(2)* ウインカ表示ランプ

8.3 バッテリカットスイッチ

バッテリの電流を遮断するスイッチです。
エンジン始動時は**[入]**位置にします。
長期保管時には**[切]**位置にしてください。



(1) バッテリカットスイッチ　*(A)* 入　*(B)* 切

重要：

- **エンジン始動中はバッテリカットスイッチを[切]位置にしないでください。スイッチの機能の低下や破損、その他の電子部品の破損のおそれがあります。**

補足：

- **バッテリカットスイッチを[切]位置にすることで、バッテリのマイナス側のケーブルを外すことと同じ効果があります。**

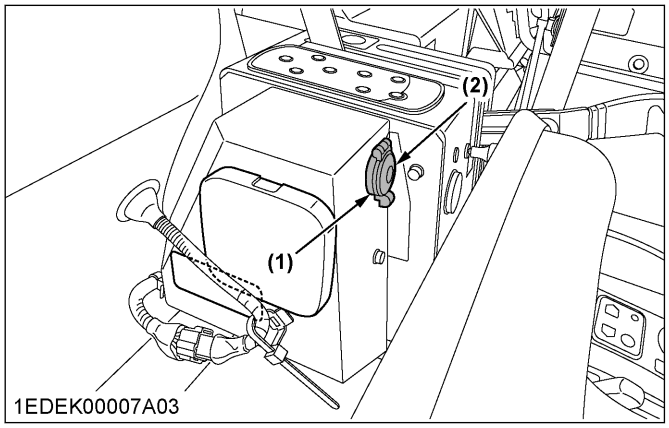
8.4 DC 電源ソケット

12 V 用電源として使用してください。

DC 電源ソケットを使用するときは、キャップを上げてソケットを差し込んでください。また、使用後はキャップを閉じてください。

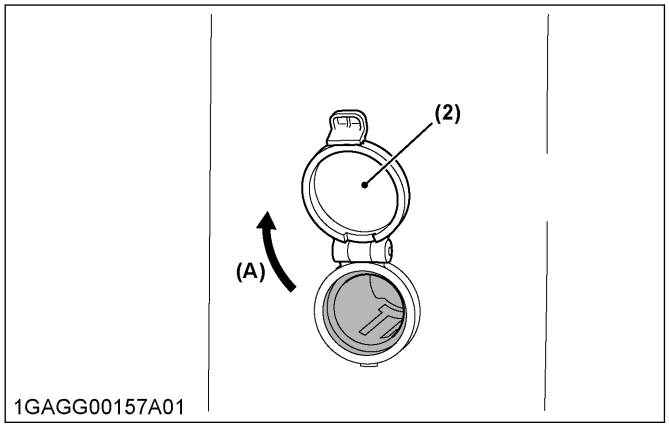
DC 電源の最大容量

ライト消灯時	120 W
ライト点灯時	24 W



(1) *DC* 電源ソケット　　*(2)* キャップ

DC 電源ソケット拡大図



(2) キャップ　　*(A)* 上げる

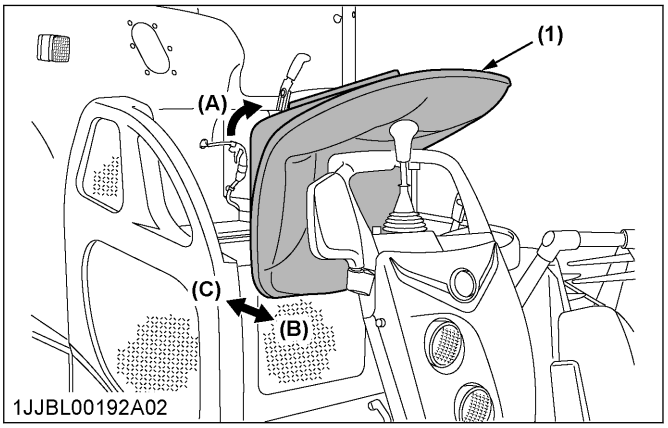
補足：

- **DC 電源ソケットは、メインスイッチのキーが[切]位置のときは使用できません。**

9. その他の装置の名称とはたらき

9.1 運転席（シート）

運転席（シート）は、前方に倒しながら"前、後"に調節が行えます。



(1) 運転席（シート）

(A) 前方に倒す
(B) 前
(C) 後

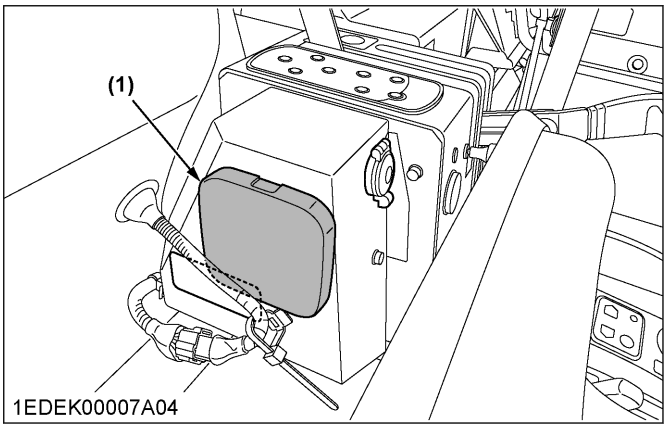
9.2 ドリンクホルダ

飲料水の置き場として使用してください。

補足：

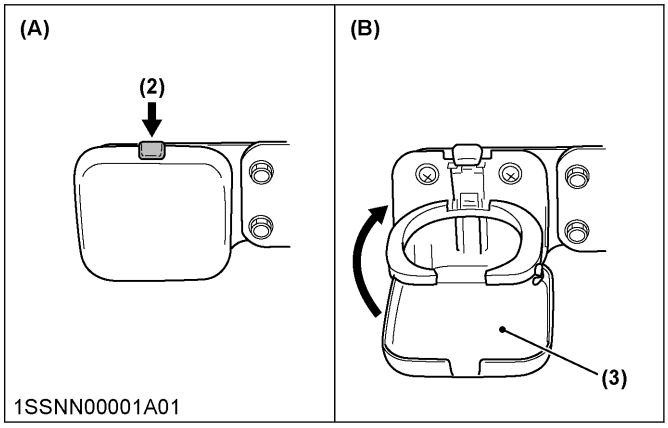
- **ドリンクホルダに飲料水以外のものはのせないでください。重い物をのせると破損するおそれがあります。**

1. 使用するときはボタンを押して開きます。
2. 収納するときはホルダ底をロックするまで下から持ち上げます。



(1) ドリンクホルダ

ドリンクホルダの詳細



(A) 開くとき　　*(B)* 閉じるとき

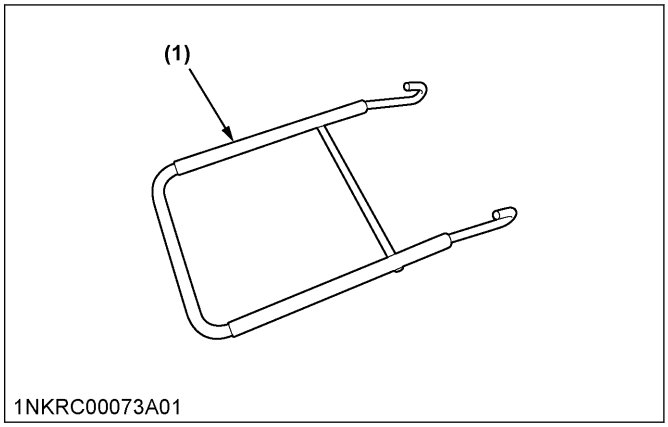
(2)	ボタン	押すと開く
(3)	ホルダ底	下から持ち上げると閉じる

9.3 燃料供給台

⚠ 警告

- **燃料供給台には、絶対に乗らないでください。変形し、ケガをするおそれがあります。**

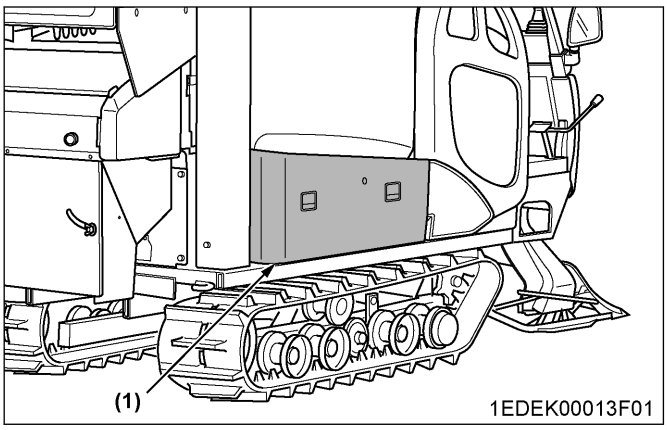
燃料供給時に携行缶を載せる台です。



(1) 燃料供給台

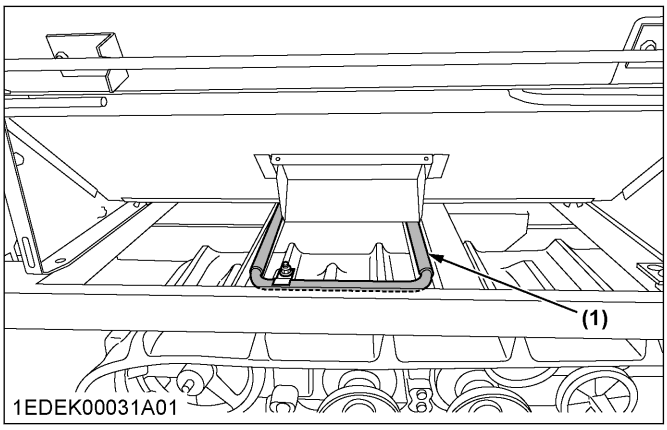
9.3.1 燃料供給台の設置のしかた

1. グレンタンク下カバーを取り外します。



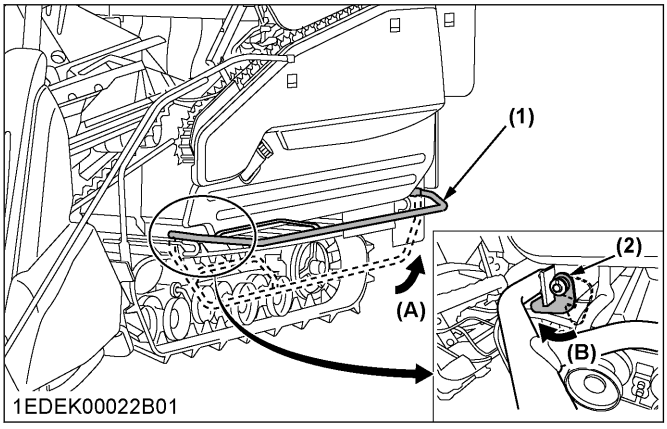
(1) グレンタンク下カバー

2. 燃料供給台を取り出します。



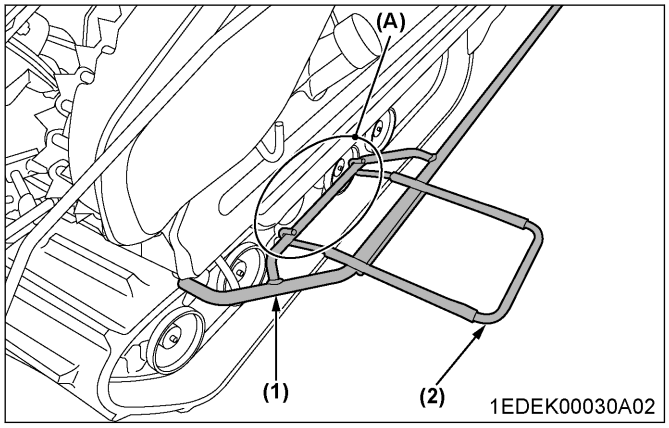
(1) 燃料供給台

3. 左分草かん後を上げて、ロック金具でロックします。

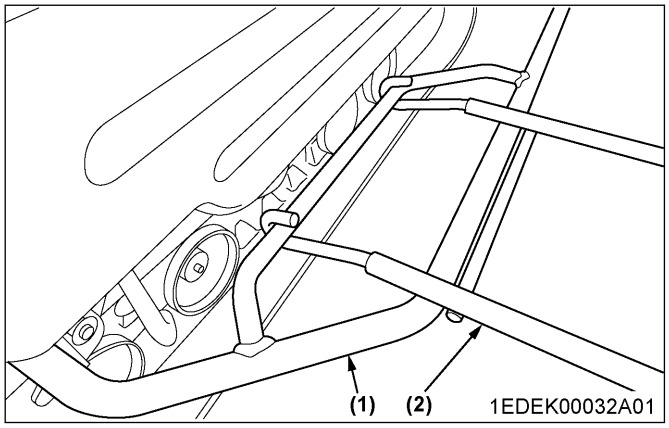


(1) 左分草かん後
(2) ロック金具
(A) 上げる
(B) ロックする

4. 左分草かん後に燃料供給台を設置します。



A 部拡大図

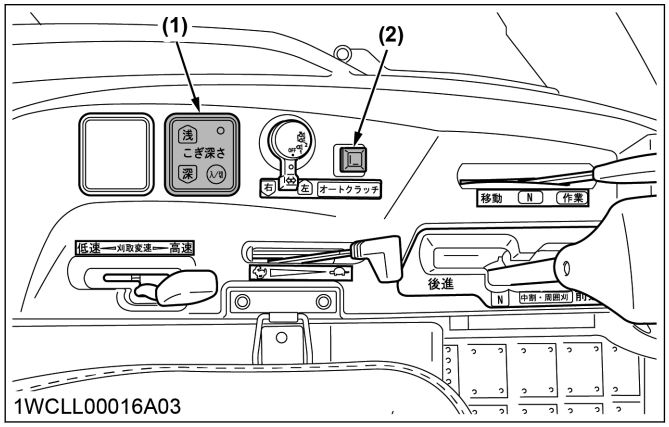


(1) 左分草かん後　　*(2)* 燃料供給台

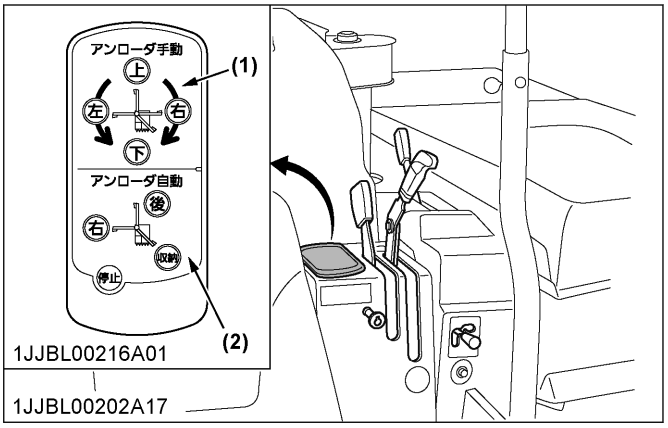
重要：

- **燃料供給台を使用するときは、ロック金具を必ずロックして使用してください。**
- **燃料供給台には、燃料補給用の携行缶以外は載せないでください。重い物を載せると、変形するおそれがあります。**

自動化装置の名称およびはたらき



(1) 自動こぎ深さ制御装置　　*(2)* 刈取オートクラッチスイッチ



(1) アンローダ手動スイッチ　　*(2)* アンローダ自動旋回制御装置

1. 自動化装置の刈取、脱こく関係の名称とはたらき

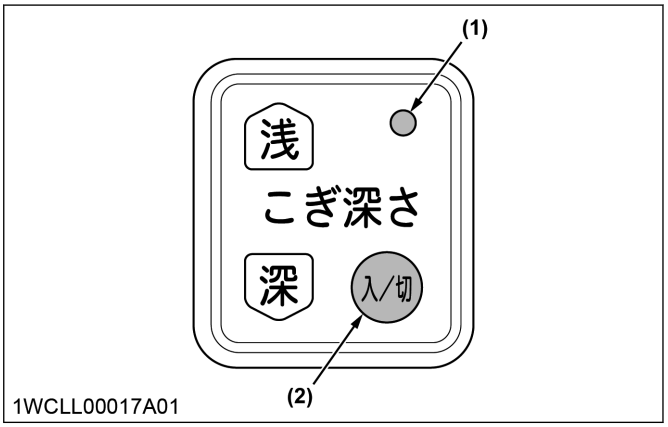
1.1 自動こぎ深さ制御装置

自動こぎ深さ制御装置は、作物の長さに応じて、適正なこぎ深さを保つ装置です。

1.1.1 自動こぎ深さスイッチ

自動こぎ深さ制御の“入／切”をするスイッチです。

自動こぎ深さ制御“入”	ランプが点灯し、自動こぎ深さ制御が作動します。
自動こぎ深さ制御“切”	ランプが消灯し、自動こぎ深さ制御が解除されます。

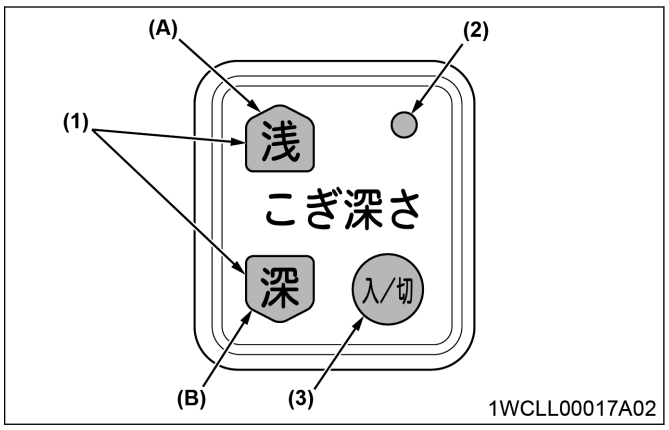


(1) ランプ　　*(2)* 自動こぎ深さスイッチ

1.1.2 手動こぎ深さ制御装置

1.1.2.1 手動操作でのこぎ深さの制御方法

手動こぎ深さスイッチでこぎ深さの調節を行います。こぎ深さを手動で制御する場合は、自動こぎ深さスイッチを“切（ランプ消灯）”にしてください。



(1) 手動こぎ深さスイッチ
(2) ランプ
(3) 自動こぎ深さスイッチ

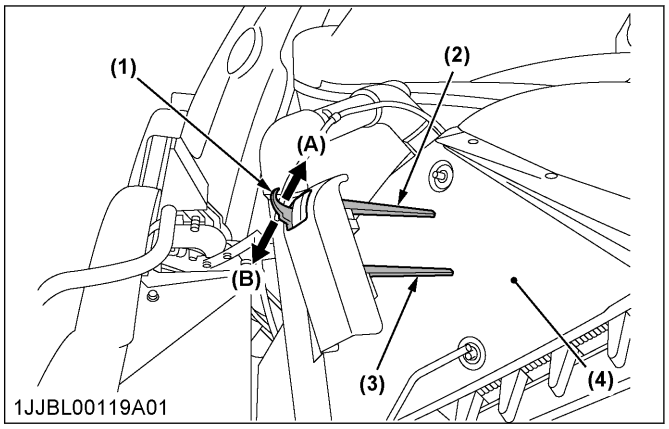
(A)	**[浅]**（浅こぎ）を押すと供給搬送部が上がる
(B)	**[深]**（深こぎ）を押すと供給搬送部が下がる

スイッチの操作	供給搬送部の動き
深	下がる
浅	上がる

補足：
- **自動制御がはたらいているときでも、手動こぎ深さスイッチによる操作が優先されます。**

1.1.2.2 穂先センサの位置調節について

穂先センサの位置調節はこぎ深さ調節レバーで行います。
こぎ深さ調節レバーは、通常は“ほぼ中央”に合わせてください。
穂先センサの調節は、こぎ深さ調節レバーを“深”の方向に倒すと、深こぎ気味に保持され、こぎ深さ調節レバーを“浅”の方向に操作すると、浅こぎ気味に保持されます。



(1) こぎ深さ調節レバー
(2) 穂先センサ（穂先側）
(3) 穂先センサ（株元側）
(4) 供給搬送部
(A) 浅
(B) 深

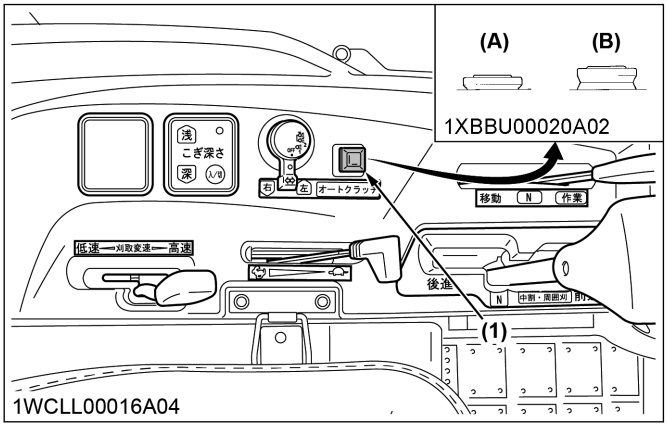
補足：
- **穂先センサ（株元側、穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かると、正常な自動制御ができませんので取り除いてください。**
- **次の状況に当てはまるときは、手動で操作してください。**
  - **約 130 cm 以上の長かん作物を刈り取るとき**
  - **遅れ穂が多く、こぎ残しの出るとき**
  - **極端に作物の長さが不揃いのとき**
  - **作物よりも長い雑草が多いとき**
  - **倒伏作物を刈り取るとき**

1.1.3 刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは、刈取部および脱こく部が作動中に SF ワンレバーを操作したとき、刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し、一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

1.1.3.1 オートクラッチ切換えスイッチ

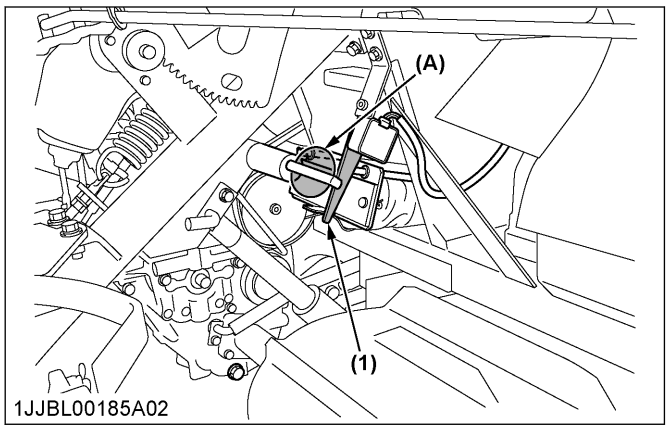
刈取オートクラッチの“入／切”をするスイッチです。



(1) 刈取オートクラッチ切換えスイッチ

(A)	オートクラッチ“入”	ランプが点灯し、刈取オートクラッチが作動します。
(B)	オートクラッチ“切”	ランプが消灯し、刈取オートクラッチが解除されます。

補足：
- **刈取オートクラッチ切換えスイッチ“入”（ランプ点灯）で、刈取搬送部が停止しているとき、切換えスイッチを“切”（ランプ消灯）にすると刈取搬送部を再度動かすことができます。**
- **刈取作業中に刈取部を上昇してもオートクラッチが切れない（作物の搬送が停止しない）ときは、センサ部に溜まっている泥やゴミを掃除して取り除いてください。**

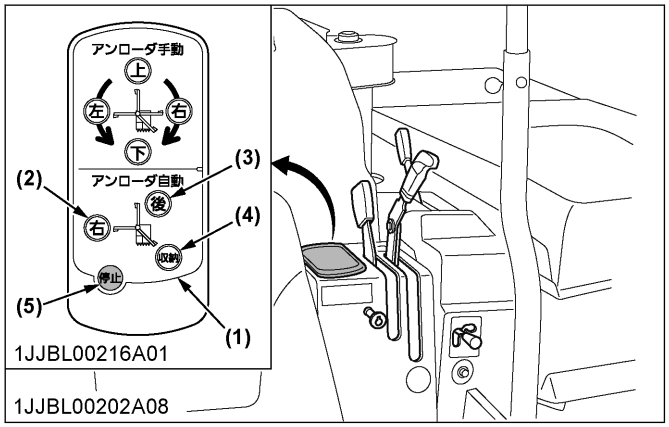


(1) 刈取オートクラッチセンサ　*(A)* ゴミや泥などの異物を取り除く

2. 自動化装置のグレンタンク関係の名称とはたらき

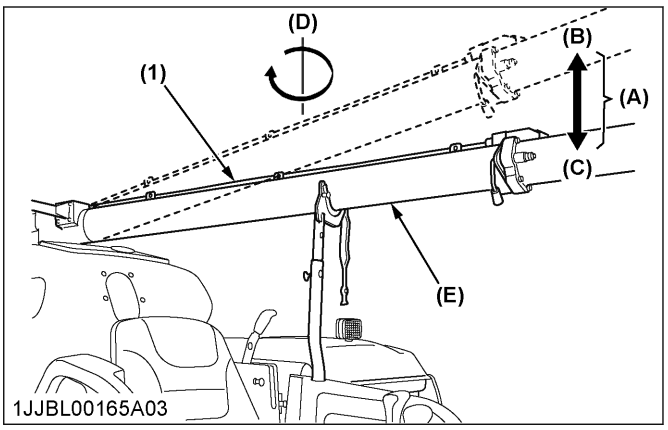
2.1 アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は、**[右]**、**[後]**のアンローダ自動旋回スイッチの操作によりアンローダが“排出位置”に自動旋回し、収納スイッチの操作によりアンローダが“収納位置”に自動旋回する装置です。



(1) アンローダ自動スイッチ

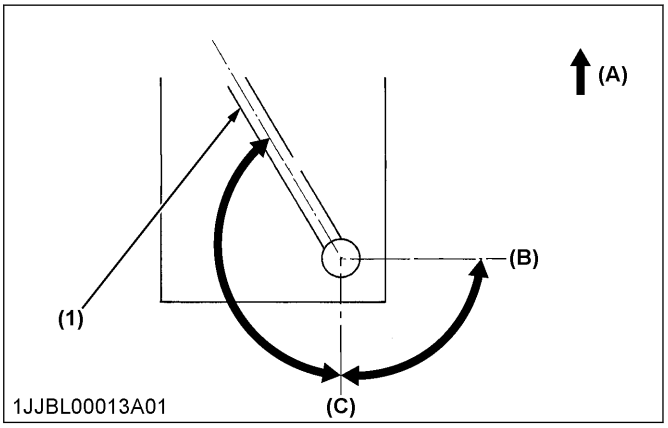
(2)	**[右]**	アンローダ自動右旋回スイッチ	押すとアンローダが選択した排出位置まで自動旋回する
(3)	**[後]**	アンローダ自動後旋回スイッチ	
(4)	収納スイッチ		押すとアンローダが収納位置まで自動旋回する
(5)	停止スイッチ		アンローダの自動旋回中に押すと、動作が停止



(1) アンローダ

(A) 動作開始範囲内
(B) 上昇
(C) 下降
(D) 旋回
(E) 収納位置

排出位置



(1) アンローダ

(A) 前方
(B) 右
(C) 後方

重要：

- **エンジン停止中でもメインスイッチのキーが[入]の位置で旋回操作はできますが、長時間エンジンを停止した状態で操作すると“バッテリ上り”の原因となりますので、操作するときは、エンジンを必ず始動して行ってください。**

補足：

- **自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。**
- **自動旋回制御でアンローダが収納位置に戻った直後に、再度アンローダ自動旋回スイッチの[右]、[後]を押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってからアンローダ自動旋回スイッチを押してください。**

2.1.1 アンローダ自動旋回スイッチ（右、後）

アンローダがアンローダ受けに収納状態にあるとき、**[右]**、**[後]**のアンローダ自動旋回スイッチを押すと、アンローダが選択した位置まで自動旋回します。

2.1.2 収納スイッチ

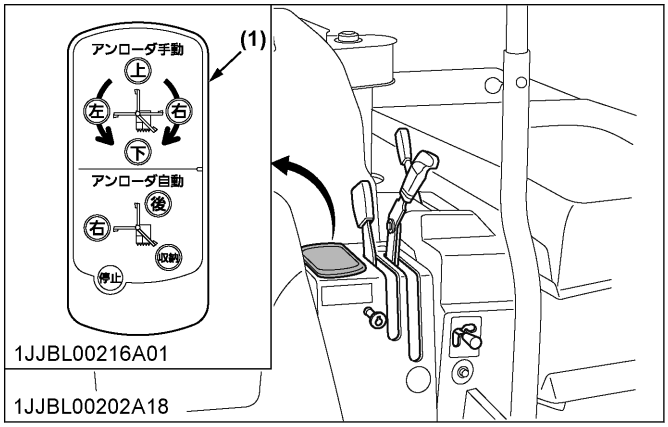
アンローダが収納位置以外にあるときに、**[収納]**スイッチを押すと、アンローダが収納位置まで自動的に戻ります。

2.1.3 停止スイッチ

自動上昇、旋回、下降途中で**[停止]**スイッチを押すと、その位置でアンローダが停止します。

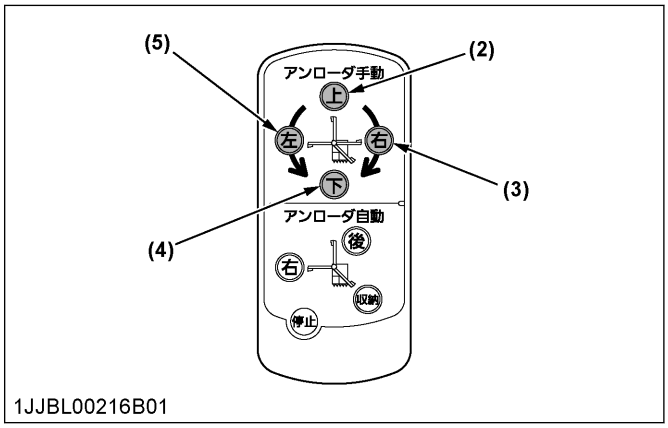
2.2 アンローダ手動スイッチ

アンローダの旋回および上昇、下降の操作を行う手動の操作スイッチです。



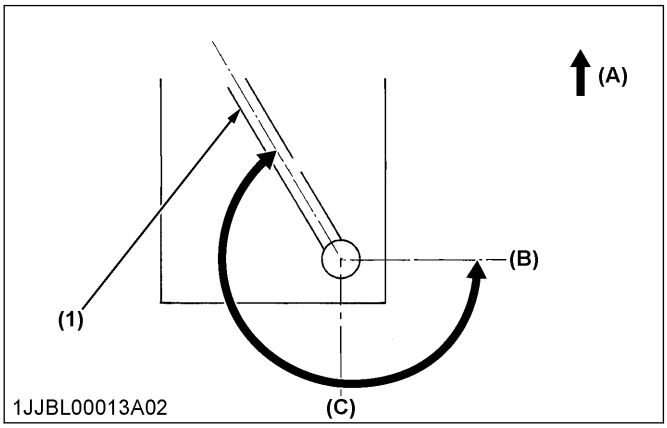
(1) アンローダ手動スイッチ

(1)アンローダ手動スイッチの詳細



(2)	**[上]**	押すとアンローダが上昇する
(3)	**[右]**	押すとアンローダが左（反時計方向）に動く
(4)	**[下]**	押すとアンローダが下降する
(5)	**[左]**	押すとアンローダが右（時計方向）に動く

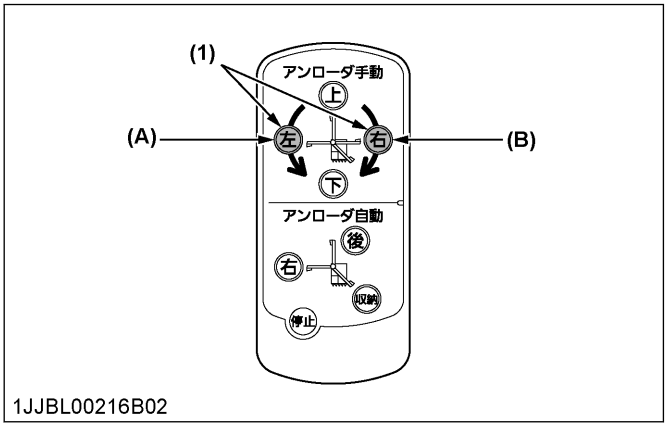
旋回位置



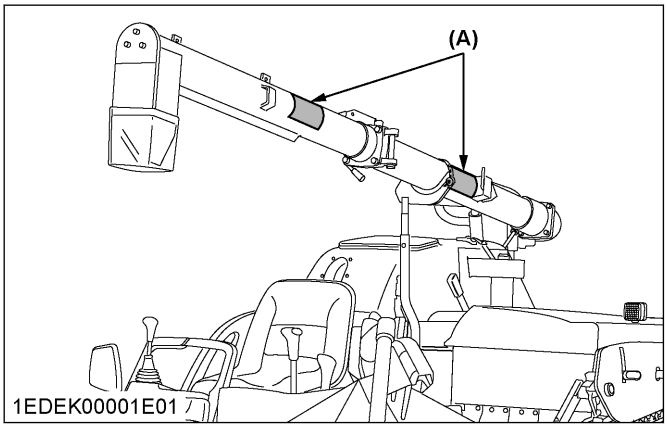
(1) アンローダ
(A) 前方
(B) 右
(C) 後方

補足：

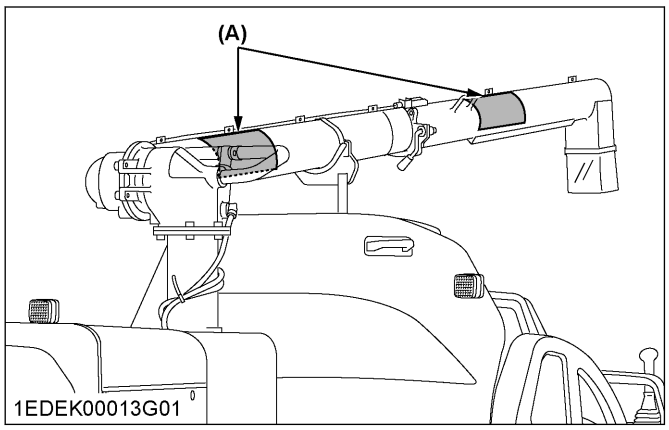
- **アンローダ手動スイッチの[左]、[右]とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの[左]“（赤色）”を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ手動スイッチの[右]“（青色）”を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。**



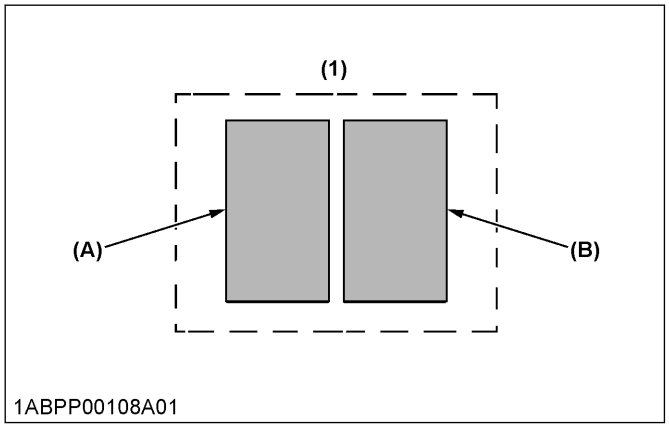
(1) アンローダ手動スイッチ
(A) 赤色（左旋回）
(B) 青色（右旋回）



(A) アンローダ操作方向識別ラベル貼付位置



(A) アンローダ操作方向識別ラベル貼付位置



(1) 操作方向識別ラベル

(A) 赤色（左旋回）
(B) 青色（右旋回）

運転のしかた

運転前の点検

⚠ 警告

- **平たんで安全な場所で、エンジンを始動してからの確認作業以外は、エンジンを止めて、メインスイッチのキーを抜き、駐車ブレーキを必ず掛けてから行ってください。**
- **バッテリの点検、充電、交換中は火気厳禁です。**
- **各部の調整、点検、交換を行うときは、各レバー類を“切”位置にして回転部を止め、エンジンを止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。**
- **刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などの固定用具を使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **取り外した回転部のカバー類は、外したままでは衣服など着衣の一部を巻き込むおそれがあり危険ですので、点検後は必ず取り付けてから作業をしてください。**
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **運転前にブレーキ、クラッチや安全装置など機体各部の日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **バッテリ、マフラ、エンジン、燃料タンク、ベルトカバー内、プーリ、カッタ部内、または配線部周辺にごみまたは燃料の付着、わらくず・泥の堆積などの異物があると火災の原因になることがありますので、日常点検をして取り除いてください。**
- **作業前にマフラ、排気管やその周辺の断熱材に破損やはがれが無いか点検してください。**
- **刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。**

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は 1 日 1 回、運転前に欠かさず行ってください。
（点検、調整方法の詳細は、定期点検一覧表（144 ページ）を参照）

重要：
各部への給油と交換時は次の事項を守ってください。

- **燃料、オイルを必要に応じて補給してください。**
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、必ず指定の“指定オイル、指定グリース”を使用してください。**
- **燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

1. 前日の異常箇所の点検

前日の作業中に異常を感じた箇所があれば、使用前に支障が無いか点検してください。

2. コンバイン周りの点検

コンバインの周りを歩いて次の項目を点検します。

- ボルトやナットのゆるみや脱落が無いか
- 車体各部の変形や損傷が無いか
- 油漏れや水漏れなどの異常が無いか
- 機体各部にわらくずがたまっていないか
- マフラ、排気管やその周辺の断熱材に破損やはがれが無いか

3. 日常点検項目

機体の周りを歩いて

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
機体各部	• 損傷や変形は無いか。	• 修理または交換する。	—
	• ボルトやナットのゆるみや脱落は無いか。	• 補充、増締めをする。	—
	• 油漏れや水漏れは無いか。	• ホースやパイプの取付部の締付け、または部品交換をする。	160
	• わらくずがたまっていないか。	• 掃除する。	130、199
	• 安全ラベル（⚠ マークのあるラベル）の損傷やはがれは無いか。	• 新しいラベルに貼り替える。	26
カッタ部内	• わら、泥の付着またはわらの巻き付きはないか。	• 掃除する。	133
刈刃	• 刃の損傷は無いか。	• 交換する、または購入先に連絡する。	181
わら切刃			185
カッタ刃		• 購入先に連絡する。	☆
受あみ	• 摩耗量の確認 極端な摩耗や破損は無いか。	• 組換えまたは交換する。	122
こぎ歯			184
クローラ	• たるみや損傷は無いか。	• 調整または交換する。	195
防じんあみ	• 詰まりは無いか。	• 掃除する。	161
反射器	• 汚れや損傷は無いか。	• 掃除または交換する。	195

• 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。

エンジンルームを開いて

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
エンジンオイル	• 油量は規定量（オイルゲージの“上限線と下限線の間”）あるか。	• 規定量まで補給する。 **エンジンオイル** 指定オイル D10W-30	153
ラジエータ冷却水	• リザーブタンクの水量は規定量（タンクの“*FULL* 線と *LOW* 線の間”）あるか。	• 清水を規定量まで補給する。	158
ラジエータフィン	• 詰まりは無いか。	• 掃除する。	161
オイルクーラフィン			
エアクリーナ	• エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	• 掃除またはエレメントを交換する。	159
ファン駆動ベルト	• たるみは無いか。	• 調整する。	172
	• 損傷は無いか。	• 交換する。	
パイプ、ホース	• 油漏れ、水漏れは無いか。	• 取付部の締付けまたは交換する。	160
配線コード	• コネクタの外れは無いか。	• 接続する。	192
	• 被覆の損傷は無いか。	• 交換する。	
断熱材	• 破損は無いか。	• 交換する。	115 ☆

• 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。

運転席に座りメインスイッチを入れて

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
各ランプ	• 各スイッチを操作すると点灯または点滅するか。	• 球切れを調べ、交換をする。	194
		• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの切れを調べ、交換または取付けをする。	192
		• バッテリの充電または交換する。	188
燃料計	• 作業に必要な燃料はあるか。	• ディーゼル軽油を補給する。	152
ホーン	• スイッチを押すと鳴るか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	194、192
バックブザー	• 主変速レバーを**[後進]**位置にするとブザーが鳴るか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	192
バッテリ	• エンジンは始動するか。	• 充電または交換する。	188

エンジンを始動して

点検箇所		点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
エンジン回転計		• 回転計の作動に異常は無いか。	• 購入先に連絡してください。	56
速度計		• 速度計の作動に異常は無いか。	• 購入先に連絡してください。	56
メータユニット	充電ランプ	• 各ランプは消灯するか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	192
	オイルランプ		• エンジンオイルを規定量まで補給する。 **エンジンオイル** 指定オイル D10W-30	56、153
警報パネル			• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	192
エンジン、マフラ		• 異音はしないか。 • 排気ガスの色に異常は無いか。	• 購入先に連絡してください。	—
刈刃		• 注油後の動きに異常は無いか。	• 調整または交換する。	181
各チェーン				178
各レバー		• 各レバーの作動に異常は無いか。	• 調整する。	165、165、165、167
駐車ブレーキ		• 駐車ブレーキは効くか。	• 調整する。	165
供給搬送部のこぎ深さ制御		• 手動こぎ深さスイッチを操作したときに、供給搬送部の上昇 ⟷ 下降の作動に異常は無いか。	• スライドガイドにグリースを塗布する。	135
			• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	192
エンジン停止スイッチ		• スイッチを押すと、ブザーが鳴りエンジンが停止し、こぎ胴が上がり、フィードチェーンが停止するか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	54、192

重要：

- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。**

新車時の扱い方法

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。
新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますが、コンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは、走行速度は低速で、過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。
新車時は、ならし運転期間の取扱い方法を遵守してください。

1. ならし運転について

- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期にコンバインを使用するときは、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
- 高速での刈取作業は避けてください。
- 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

これらはならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

⚠ 警告

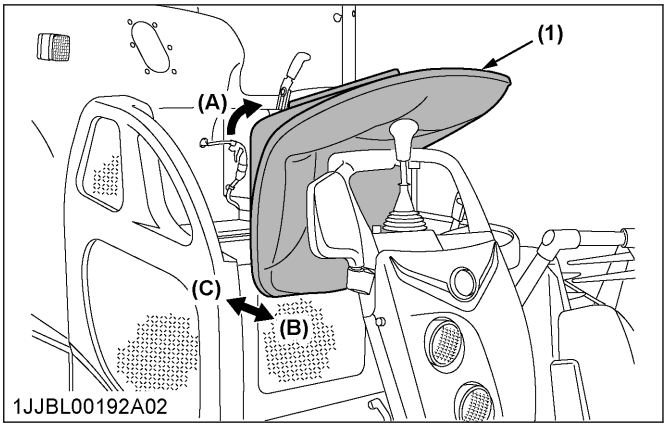
- **エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋、倉庫でエンジンを回さないでください。**
- **この取扱説明書前編の『安全に作業をするための注意事項』の内容を必ずお読みいただいて、安全作業を心掛けてください。**
- **コンバインに貼ってある警告、注意ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **コンバインに乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒、転落してケガをするおそれがあります。**
- **始動操作は、ホーンを鳴らすなど周囲の人に始動の合図をしてから行ってください。**

1. エンジンの始動のしかた

1. ハンドルをしっかりと握り、補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

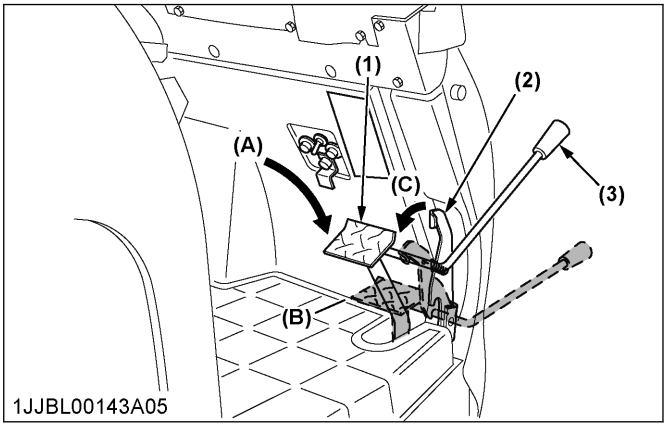
   重要：
   - **運転席へ乗り降りするときは、ハンドル以外は握らないでください。特に SF ワンレバーを握って乗り降りすると、変形したり、破損する原因となります。また、SF ワンレバーが変形したり破損すると、正常なコンバインの運転が行えなくなるおそれがあります。**

2. 運転席（シート）の調整を行って、楽な姿勢で運転操作が行える状態にします。
   （運転席（シート）（60 ページ）を参照）



(1) 運転席（シート）
(A) 前方に倒す
(B) 前
(C) 後

3. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. ブレーキペダルをロック位置まで踏み込みます。
   b. ロックレバーを引いて駐車ブレーキレバーをロックします。



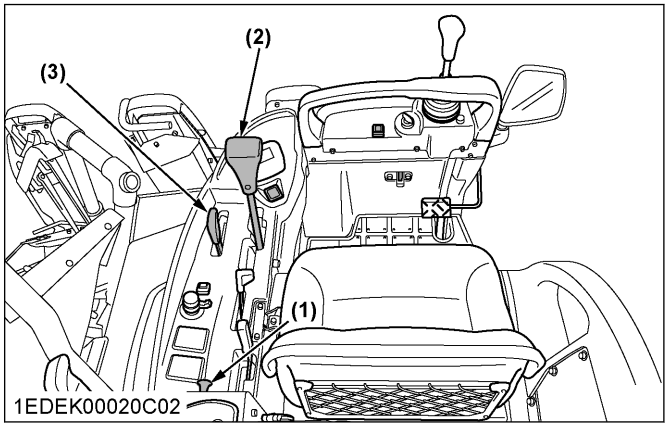
(1) ブレーキペダル
(2) ロックレバー
(3) 駐車ブレーキレバー
(A) 踏み込む
(B) ロック（駐車ブレーキ位置）
(C) 引く

補足：
- **ブレーキペダルをいっぱいまで踏むと主変速レバーが[N]“（中立）”位置に戻ります。また、駐車ブレーキが掛かっているときには、主変速レバーは動きません。**
- **駐車ブレーキを掛けていないときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンは始動しません。**

4. 各レバー位置の確認をします。
   a. 非常エンジン停止レバーを押し込み始動位置にします。
   b. 主変速レバーが**[N]**“（中立）”位置にあることを確認します。

      重要：
      - **ブレーキペダルを踏み込んだ状態では主変速レバーを前、後進方向に操作できません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。**

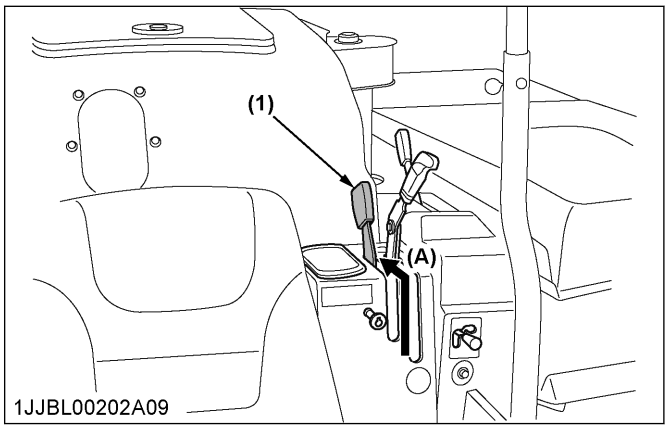
   c. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にします。



(1) 非常エンジン停止レバー　*(3)* 副変速レバー
(2) 主変速レバー

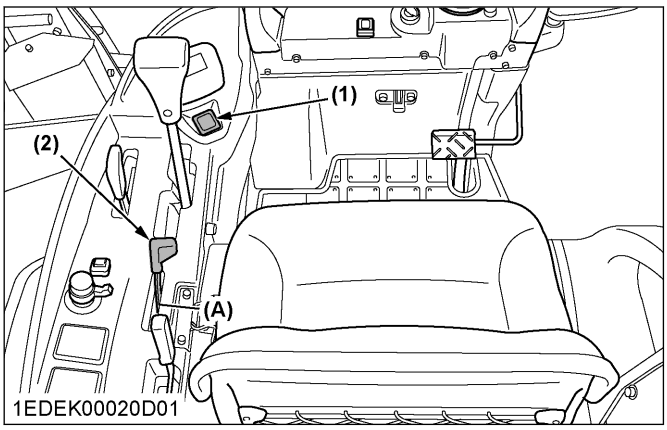
   d. 作業スイッチを“切（消灯）”にします。
   e. もみ排出クラッチレバーを“切”位置にします。

      補足：
      - **もみ排出クラッチレバーを“切”位置にしないとエンジンは始動しません。ラベルの“切”位置（黄色部）にレバーが入るまで確実に操作してください。**



(1) もみ排出クラッチレバー　*(A)* 切

   f. アクセルレバーを中間ぐらいの位置まで引きます。

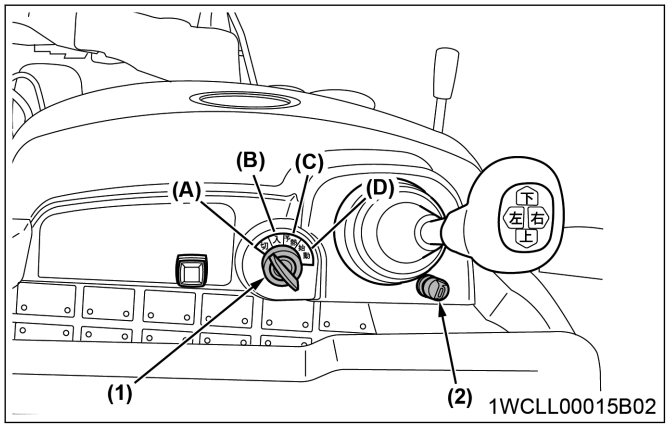


(1) 作業スイッチ　*(A)* 中間
(2) アクセルレバー

補足：
- **各ペダル、レバー、およびスイッチの状態がエンジンの始動条件に合っていないと、メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動しません。**
  このとき、液晶ディスプレイに次の内容が表示されます。表示内容に従い処置してください。

液晶表示	処置
*“AL 5”*表示	ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む。
*“AL 6”*表示	作業スイッチを押して“切（消灯）”にする。
*“AL 7”*表示	主変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にする。
*“AL 8”*表示	もみ排出クラッチレバーを“切”位置にする。
*“AL 9”*表示	作業スイッチを押して“切（消灯）”にする。

5. エンジンを始動します。
   a. メインスイッチのキーを差し込みます。
   b. メインスイッチのキーを**[入]**位置まで回します。
   c. ホーンスイッチを押してホーンを鳴らします。
   d. メインスイッチのキーを**[始動]**位置まで回します。



(1) メインスイッチ
(2) ホーンスイッチ
(A) 切
(B) 入
(C) 予熱
(D) 始動

重要：
- **メインスイッチのキーを[始動]位置に回して 10 秒たっても始動しないときは、いったんメインスイッチのキーを[切]位置にして、30 秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。[始動]位置で 10 秒以上回すと故障の原因になります。**
- **エンジン回転中にメインスイッチのキーを[始動]位置に回すと故障の原因になります。**
- **エンジン始動後、オイルランプ、充電ランプが“消灯”しないときは，購入先へ連絡してくだ さい。**

補足：
- **メインスイッチのキーを[始動]位置まで回したとき、各レバー、ペダル、スイッチが次の始動条件を満たしていない場合、「ピッ」と警告音が鳴ります。また、警告音が鳴ったときは、始動条件を満たすように処置してください。**
  - **ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んで駐車ブレーキを掛ける。**
  - **主変速レバーを[N]“（中立）”位置にする。**
  - **作業スイッチを“切（消灯）”にする。**
  - **もみ排出クラッチレバーを“切”位置にする。**
- **ホーンを鳴らすなどの手段で始動の合図を周囲の人に送ります。**

2. 暖機運転について

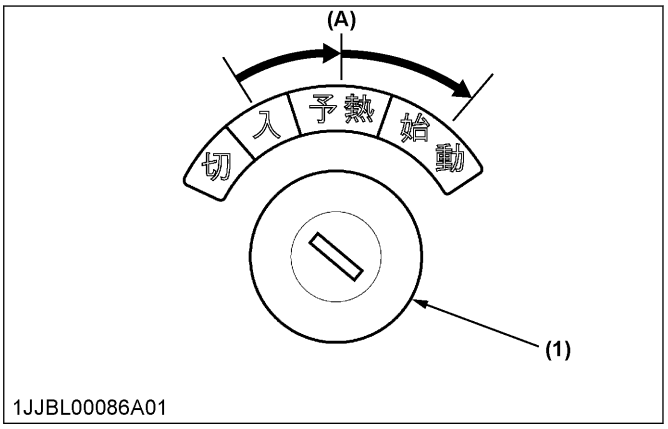
エンジン始動後、エンジン回転数を約 1500 rpm に合わせて通常（寒冷時以外）約 5 分間～10 分間は負荷を掛けずに暖機運転を行ってください。

重要：
- **暖機運転を行うのはオイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷を掛けると、エンジンの焼付きや、ミッションや油圧系統の故障の原因になります。**
- **寒冷時は暖機運転を怠ると SF ワンレバーが操作できなくなったりブレーキが効かなくなるなど“油圧系統の故障”につながりますので、次表を目安に暖機運転を行ってください。**

気温	暖機運転時間
0 ℃～-10 ℃	約 10 分
-10 ℃～-15 ℃	10 分～15 分
-15 ℃～-20 ℃	15 分～20 分
-20 ℃以下	20 分以上

3. 寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは、始動する前にメインスイッチのキーを**[予熱]**位置で 5 秒～10 秒間予熱したあと**[始動]**位置に回してください。



(1) メインスイッチ　　*(A)* *5* 秒～*10* 秒

4. 燃料切れ後のエンジン再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合の、エンジンを再始動する手順を述べます。

1. 作業スイッチを“切（消灯）”、メインスイッチのキーを**[切]**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. エンジンの始動のしかた（70 ページ）の“手順 *1*～手順 *4*”を確認後、メインスイッチのキーを**[入]**位置に保持してそのあと**[始動]**位置へという操作を 2 回～3 回繰り返します。

補足：
- **メインスイッチのキーを[入]位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。**

5. バッテリが上がったときのエンジン始動のしかた

危険

- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（–）端子が金属工具やブースタケーブルなど金属部品の接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは、バッテリの補充電または交換を行ってください。（バッテリの点検、交換（188 ページ）を参照）
補充電や交換がすぐに行えないときは、救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重要：

- **接続するバッテリは、必ず 12 V の物を利用してください。それ以外のバッテリを利用すると、故障の原因となります。**
- **バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。**
- **充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。**

補足：

- **ブースタケーブルの取扱いは、ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。**

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの“（+）端子”にそれぞれ接続します。
2. ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの“（–）端子”に接続し、コンバイン側はバッテリから離れた箇所の金属部で塗装がされていない箇所に接続します。
3. 利用するバッテリが車など車両用の場合は、エンジン回転を上げます。
4. コンバインのエンジンを始動します。
5. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取り外します。

6. エンジンの停止のしかた

1. 作業スイッチを“切（消灯）”位置にします。
2. アクセルレバーを（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを**[切]**位置にしてエンジンを停止します。

重要：

- **エンジン停止中にメインスイッチのキーが[入]位置で長時間放置すると、“バッテリ上り”となります。**
- **メインスイッチのキーを[切]（停止）の位置にしてもエンジンが停止しない場合は、“非常エンジン停止レバー”を引いてください。そのあと、購入先へ連絡してください。**

移動走行について

警告

- **グレンタンク内に残っているもみはすべて排出してください。**
- **安全のためヘルメットを着用してください。**
- **運転者以外の人を乗せないでください。**
- **あぜやコンクリートの畦畔など 10 cm 以上の段差のある所ではあゆみ板を使ってください。**
- **あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は、副変速レバーを[作業]位置にし、低速で走行してください。**
  走行途中に停止するときは、主変速レバーを操作して停止してください。
- **あゆみ板を使うときや、前後左右とも 10°をこえる傾斜地（坂道）を走行するときは、速度を最低速にし機械から降りて操作してください。**
  また、走行速度が変わる副変速レバーの操作、進路方向が変わる急な SF ワンレバーの操作、エンジン回転数が自動上昇する作業スイッチの操作をすると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下するおそれがありますので操作しないでください。
- **あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは、速度を最低速にし、あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。**
- **次のような所は、転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。**
  - **両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩**
  - **道幅に余裕が無く高い所にある道路（土手）**
  - **路肩の弱い道路**
  - **路面の凹凸（溝や穴、窪地など）の落差の大きい所や、路面が草などの障害物でおおわれてよく見えない所**
- **アンローダは必ず折りたたんでください。**
- **移動走行時は、エンジン回転数を 2000 rpm 以上にしてください。**

重要：

- **路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。**
- **アンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。**

補足：

- **結束機などのオプションを装着している場合は、『道路運送車両法』の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどの運搬車に乗せて移動してください。**
- **『道路運送車両法』の“保安基準”に抵触するおそれがあるため、公道走行する前には必ず次の項目を確認し、異常があるときは購入先に連絡して処置を行ってください。また、異常があるときは必ずトラック輸送を行ってください。**

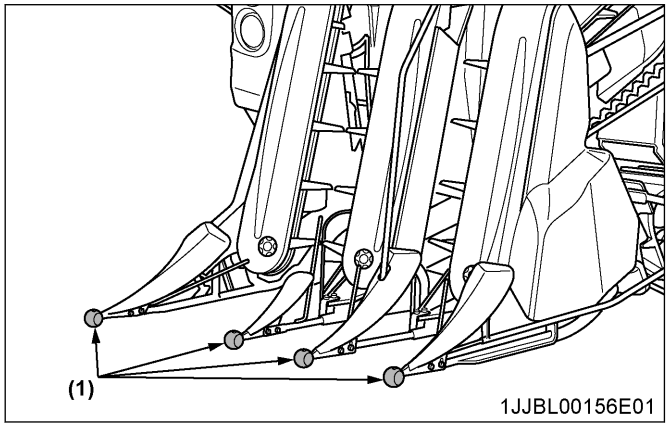
- **機械の周囲を回って油漏れ、水漏れ、燃料漏れが発生している場合**
- **エンジン音に異常がある場合**
- **旋回異常がある場合**
- **ブレーキ、各変速、各クラッチに異常がある場合**
- **各警報（ブザー）、灯火装置（スイッチ、ランプ）に異常がある場合**

1. 移動走行前の準備

警告

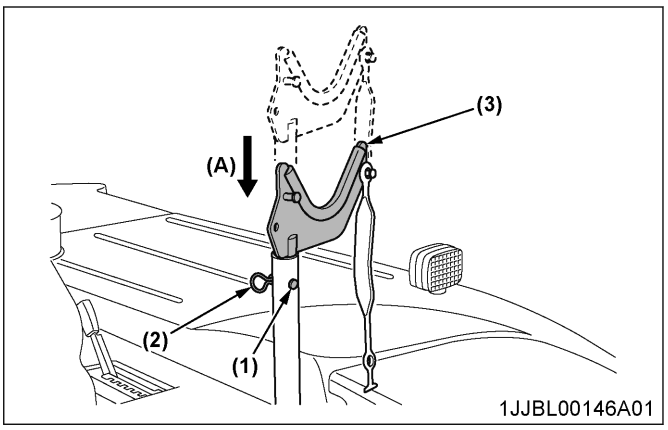
- **平たんな場所に置き、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **木や電線に接触して破損したり、周囲の人にケガをさせるおそれがあるので、アンローダを収納状態にしてください。**
- **取り外したカバー類は必ず取り付けてください。**

1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。
   （もみの排出のしかた（100 ページ）を参照）
2. デバイダキャップを取り付けます。



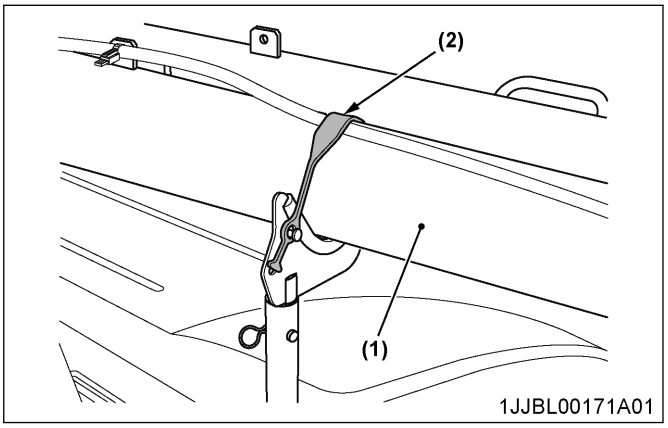
(1) デバイダキャップ

3. アンローダを折りたたんでアンローダを固定します。
   （アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法（86 ページ）を参照）
   a. スナップピンを取り外して頭付きピンを外します。
   b. アンローダ受けを下位置にします。
   c. 頭付きピンを取り付けます。



(1) スナップピン　　*(A)* 下位置にセット
(2) 頭付きピン
(3) アンローダ受け

   d. アンローダを折りたたみます。
   e. バンドを固定します。

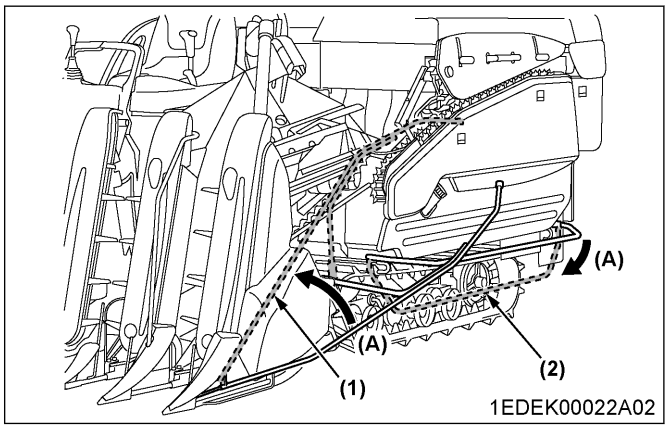


(1) アンローダ　　*(2)* バンド

補足：

- **アンローダ内にもみが残っていると、もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。**

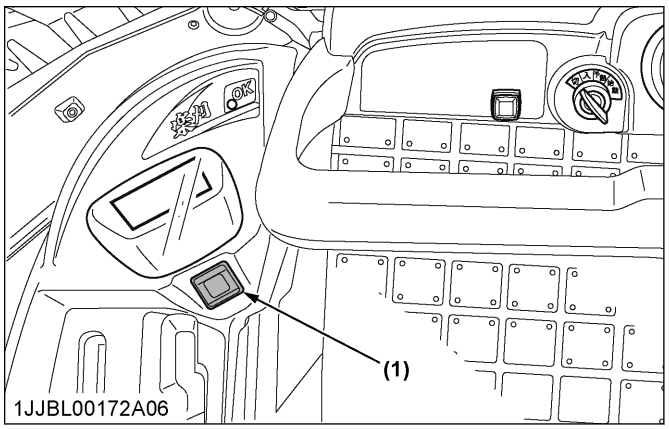
4. 左分草かん開閉レバーを操作して、左分草かん前を収納したあと、左分草かん後を収納します。
   a. 左分草かん前を収納します。
   b. 左分草かん後を収納します。



(1) 左分草かん前　　*(A)* 収納
(2) 左分草かん後

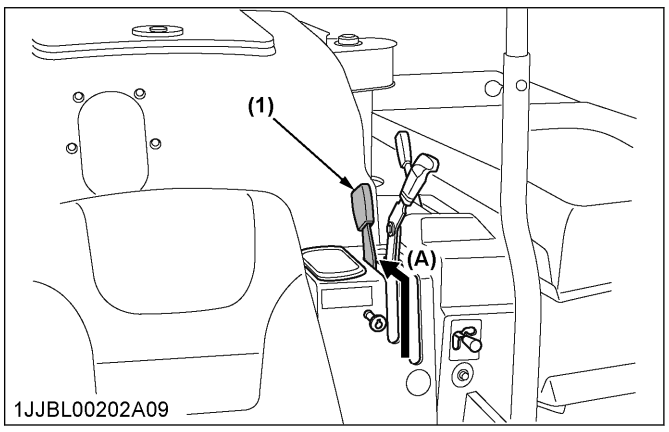
補足：
- **左分草かん後は手動で収納してください。**

5. 作業スイッチを“切（消灯）”、もみ排出クラッチレバーを“切”位置にします。
   a. 作業スイッチを“切（消灯）”にします。



(1) 作業スイッチ

   b. もみ排出クラッチレバーを“切”位置にします。

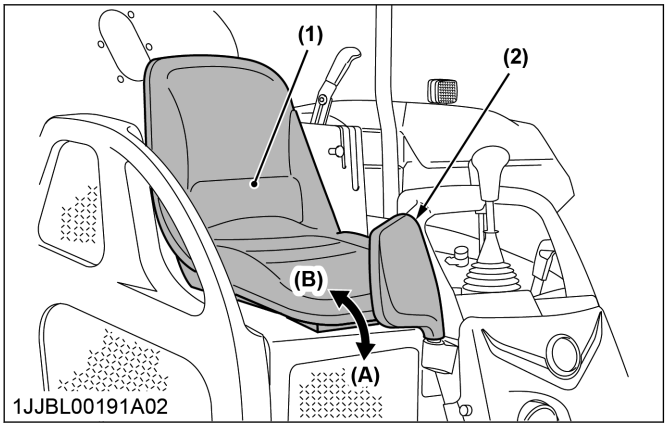


(1) もみ排出クラッチレバー　　*(A)* 切

2. 発進のしかた

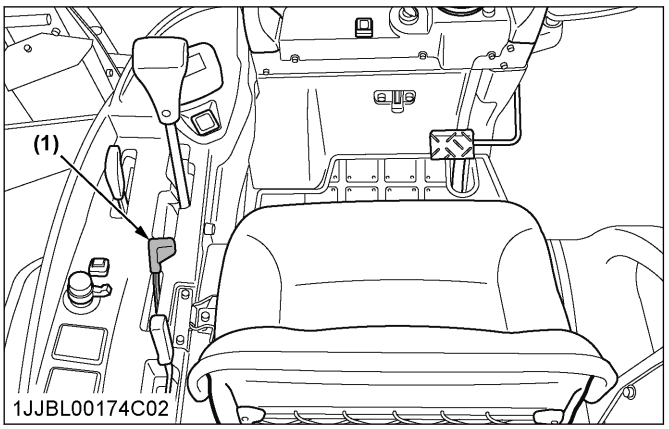
⚠ 警告
- **発進をするときは、周囲の安全を確かめてホーンを鳴らすなどの合図を行ってから発進してください。**
- **急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。**

1. 運転席、バックミラーの調整を行います。



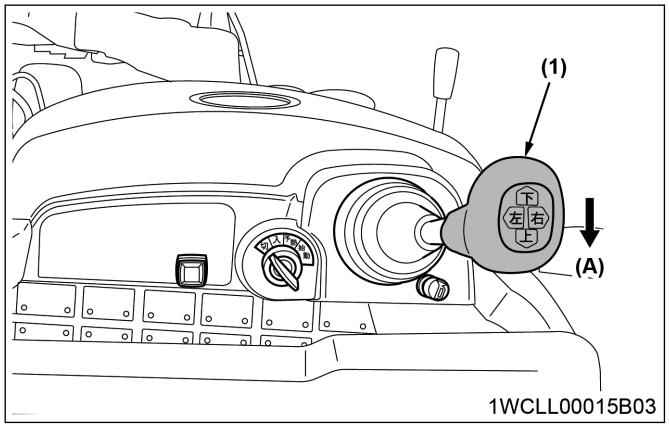
(1) 運転席　　*(A)* 前
(2) バックミラー　　*(B)* 後

2. アクセルレバーを操作します。
   a. エンジンを始動します。
   b. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を *“2000 rpm”*以上にします。

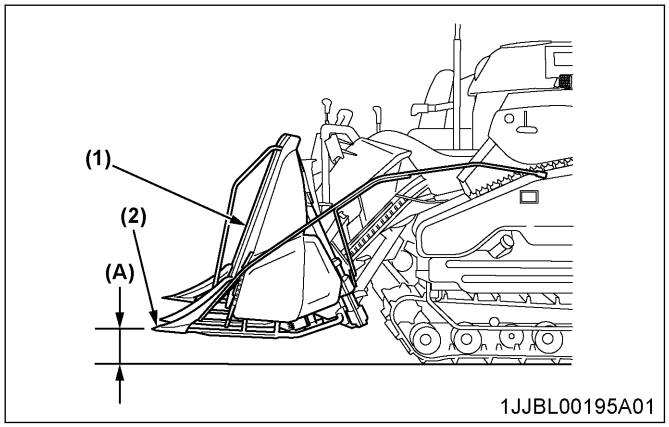


(1) アクセルレバー

3. 刈取部を上げます。
   a. SF ワンレバーを引き、刈取部のデバイダを地面から次図に示す高さまで上げます。

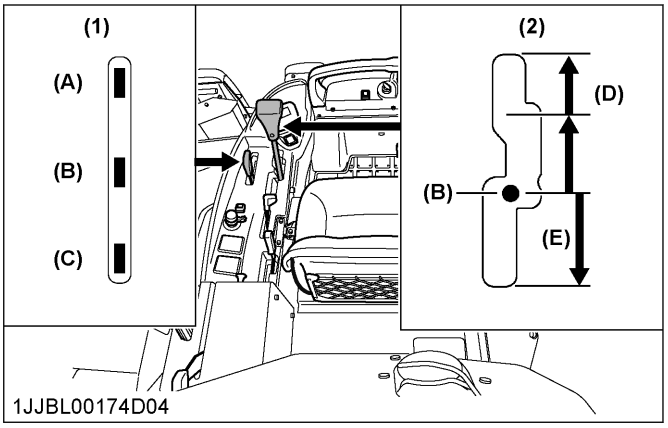


(1) *SF* ワンレバー　　*(A)* 引く

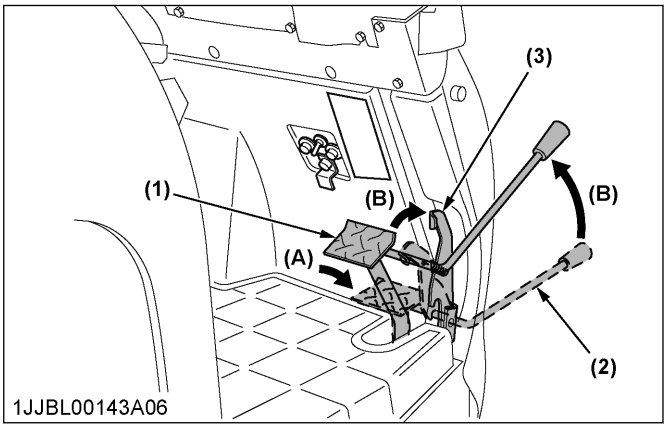


(1) 刈取部　　*(A)* 約 *45 cm*
(2) デバイダ先端

4. 走行速度を選んで発進します。
   ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除したあと、主変速レバーを**[N]**“（中立）”位置より前に押すと“前進”し、後ろに引くと“後進”します。
   a. 副変速レバーで速度を選びます。
   b. ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。
      ブレーキロックレバーが解除されます。
      駐車ブレーキは駐車ブレーキレバーを押し上げて解除することも可能です。
   c. 主変速レバーを操作し前、後進します。



(1) 副変速レバー
(2) 主変速レバー
(A) 作業
(B) *N*（中立）
(C) 移動
(D) 前進
(E) 後進



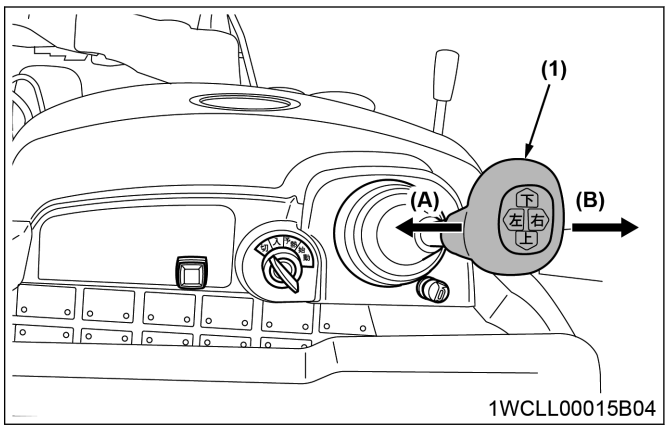
(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) ブレーキロックレバー
(A) 踏み込む
(B) 解除

重要：
- **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。**
- **副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを[N]“（中立）”位置にし、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込み走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**

3. 旋回のしかた

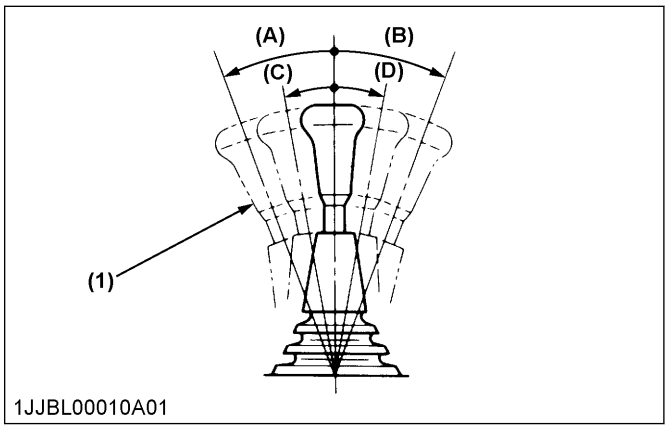
⚠ 警告
- **高速走行時、SF ワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。**

旋回する方向に SF ワンレバーを倒します。
倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また、いっぱいまで倒すと急旋回します。



(1) *SF* ワンレバー
(A) 左旋回
(B) 右旋回

運転席に座って操作する方向



(1) *SF* ワンレバー
(A) 左旋回
(B) 右旋回
(C) 左方向修正
(D) 右方向修正

重要：
- **砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。**

4. 停車、駐車のしかた

⚠ 警告
- **コンバインを離れるときは、平たんで安全な場所に置き、刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **やむをえず坂道で駐車するときは、木片など固定できる物で車止めをし、暴走を防いでください。**

1. 主変速レバーを**[停止]**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

   重要：
   - **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。**
3. アクセルレバーを🐢“（低回転）”位置にします。
4. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

5. 道路走行時の注意事項

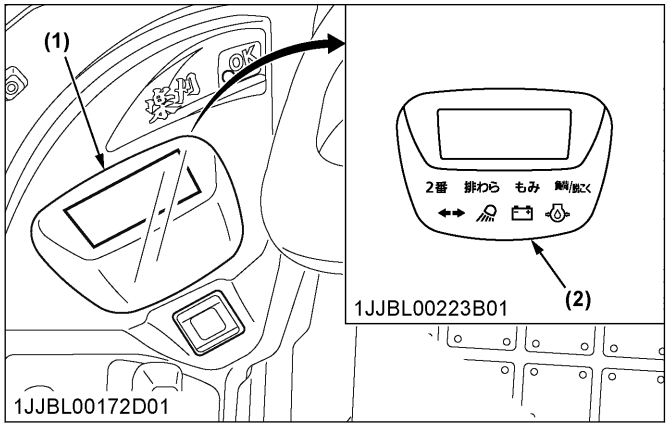
⚠ 警告
- **［オプションで結束機を付けた場合］結束機を装着した状態で移動するときは、トラック輸送してください。**
- **夜間など暗いときに移動走行する場合は、ヘッドランプを必ず点灯し、作業灯は必ず消灯してください。**

道路走行中、進路方向を変えるときは、ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

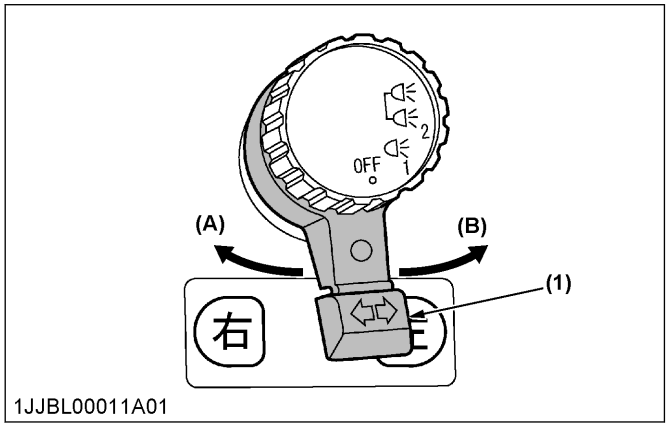
補足：
- **道路を走行するときは、小型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し、『小型特殊自動車の法規』を守り安全運転をしてください。**
- **作業灯は『道路運送車両法の保安基準第 *42* 条（灯火の色などの制限）』において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。**

5.1 ウインカスイッチの操作

1. ウインカスイッチを旋回方向に操作します。
   操作した方向に応じて、左または右のウインカランプが点滅し、メータユニット内の左または右のウインカ表示ランプが点滅します。



(1) メータユニット　*(2)* ウインカ表示ランプ



(1) ウインカスイッチ　*(A)* 右点滅
(B) 左点滅

補足：
- **旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。**

輸送について

1. トラックとあゆみ板の準備

⚠ 警告
- **積込み、積降しは平たん地を選び、トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーを R（後進）または 1 速に入れたあと、さらにタイヤに車止めを行い、トラックが動かないようにしっかりと固定してください。**
- **あゆみ板はフックが付いている物で、じゅうぶんな強度、幅、長さのある基準に合ったすべり止め付きの物を使用し、コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- **あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差が無く平行で、左、右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。**

あゆみ板の基準

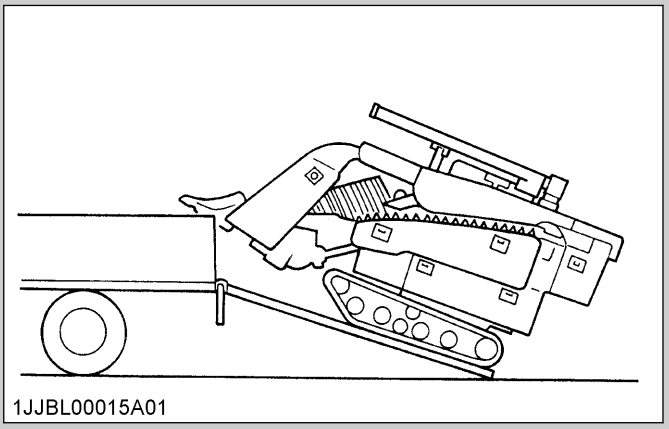
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	50 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 1200 kg 以上の重量に耐えうる

2. トラックへ積込み時のコンバインの準備

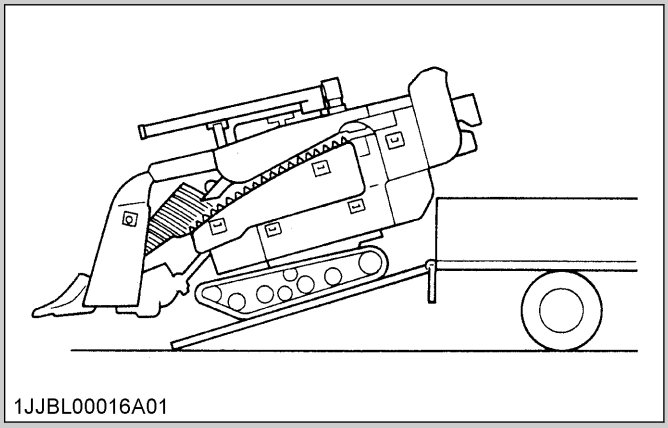
1. もみをすべて排出します。
2. アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納します。
3. 折りたたみ式アンローダを折りたたみます。
4. バンドで固定します。
5. 作業スイッチを“切（消灯）”位置にします。
6. もみ排出クラッチスイッチを“切”位置にします。
7. 左分草かん前、後をそれぞれ収納します。
8. デバイダキャップを取り付けます。
   （移動走行前の準備（74 ページ）を参照）

3. トラックへの積込み、積降しのしかた

⚠ 警告
- **積込みは前進で、積降しは後進で行ってください。［オプションで結束機を付けた場合］結束機を装着している機械は後進で積込み、前進で積降しを行ってください。**
- **積込み、積降し作業を行うときは、機体から降りて発進させてください。**
- **あゆみ板は走行中のコンバインから離してください。**

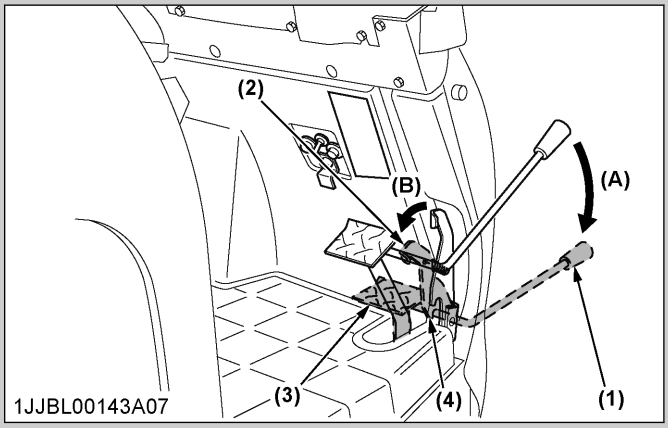


[オプションで結束機を付けた場合]



1JJBL00016A01

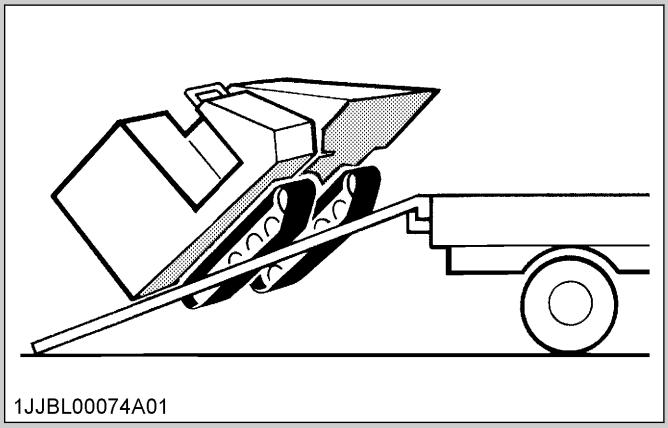
- **走行中に異常が発生し、緊急で停止するときは、駐車ブレーキレバーを素早くいっぱい押し下げて、ブレーキロックレバーで駐車ブレーキを掛けてください。**



1JJBL00143A07

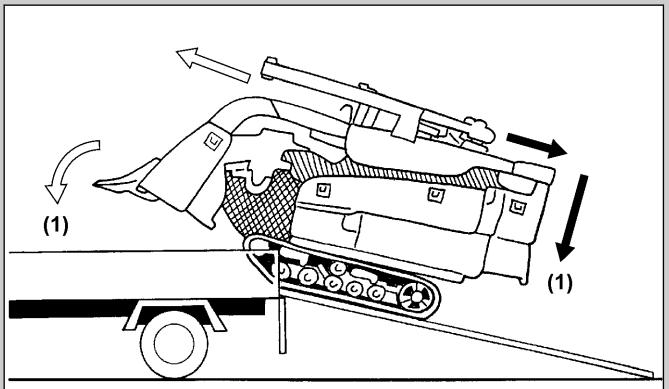
(1) 駐車ブレーキレバー
(2) ブレーキロックレバー
(3) ブレーキペダル
(4) フック部
(A) 押し下げる
(B) ロック

- **あゆみ板の途中で、走行速度が変わる副変速レバーの操作、進路方向が変わる急な SF ワンレバーの操作、エンジン回転数が自動上昇する作業スイッチの操作をすると、機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。**



1JJBL00074A01

- **機体が凸部を越えるときは、急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。**

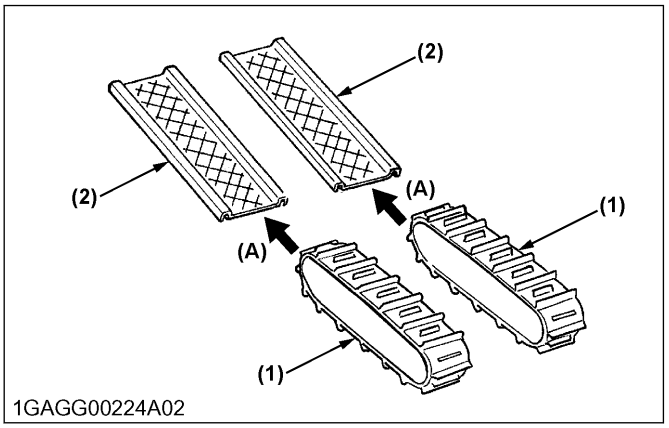


1XBBU00011A01

(1) 急に下がる箇所

3.1 トラックへの積込み、積降し操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを“切”位置にします。
2. SF ワンレバーで刈取部を上げます。
3. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を 2000 rpm 以上にし、副変速レバーを**[作業]**位置にします。
4. 主変速レバーをゆっくり操作して、“低速”で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ、機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み、積降ろしをします。



1GAGG00224A02

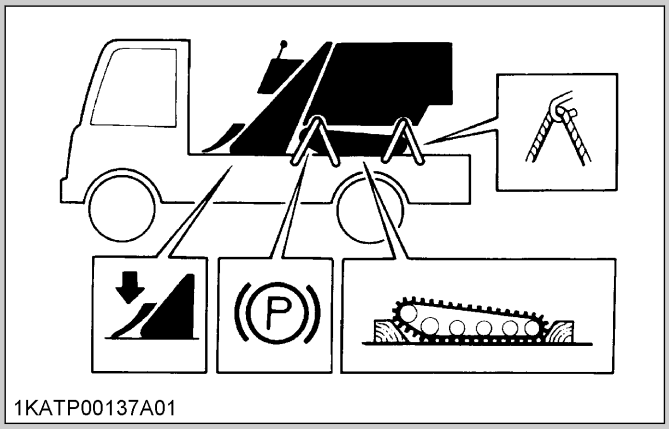
(1) クローラ
(2) あゆみ板
(A) 合わす

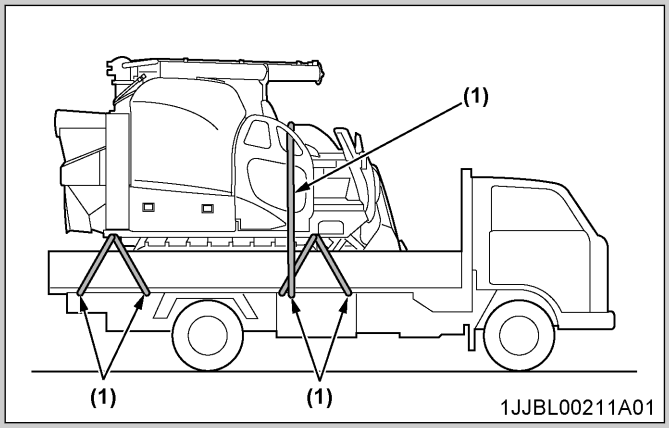
6. 荷台に乗せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

4. トラック上でのコンバインの処置

警告

- **刈取部を床まで降し、駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。**

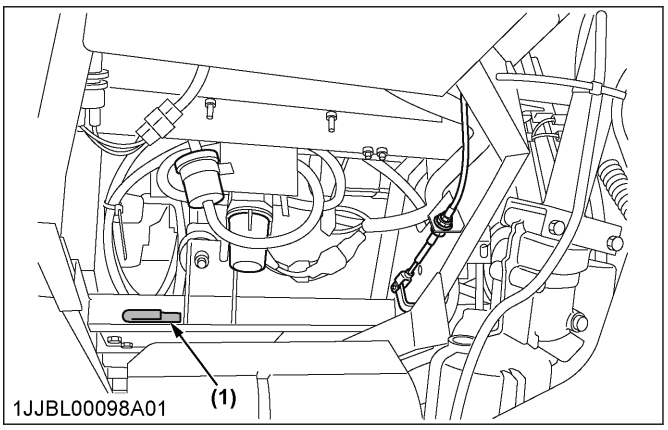




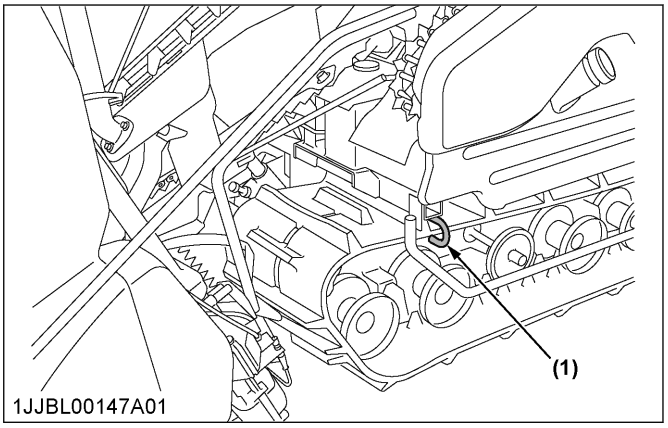
(1) ロープ

1. コンバインをトラックの荷台に乗せます。
2. 刈取部を床まで降ろし、駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
3. コンバインにロープを掛けます。
   ロープを掛けるときは、必ず指定のロープ掛け用のフック 4 か所に掛けてください。

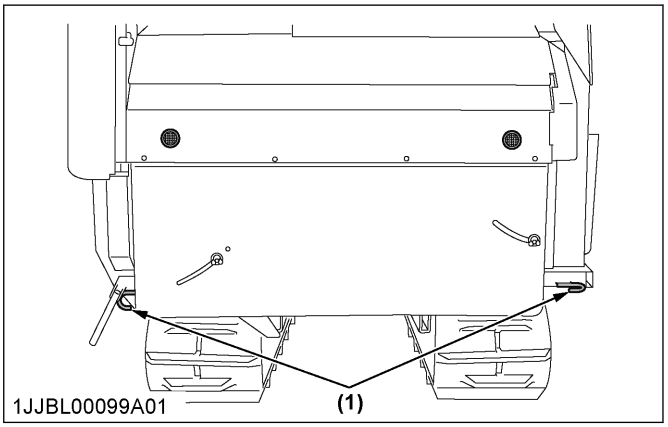
右前側



左前側



後側



(1) ロープ掛けフック

重要：

- **ロープ掛けフック以外の所には、ロープを掛けないでください。**
- **ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また、けん引作業を行うときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。**

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては、刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて、収穫量が上がる能率の良い作業を行ってください。

1. 作物の条件

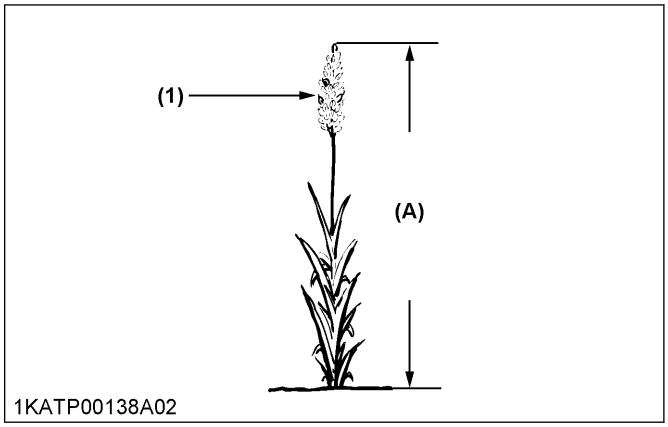
重要：

- **湿田の倒伏や濡れ作物の刈取作業を行うとき、受あみが目詰まりを起こすことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し、受あみの目詰まりを取り除いてください。**
  掃除を行うときは、必要に応じて受あみを取り外してください。
  （受あみの脱着（122 ページ）を参照）

1.1 作物の長さ

刈り取れる長さは、標準の刈高さで次の条件を満たしていること。

標準の刈高さ	全長約 55 cm～130 cm

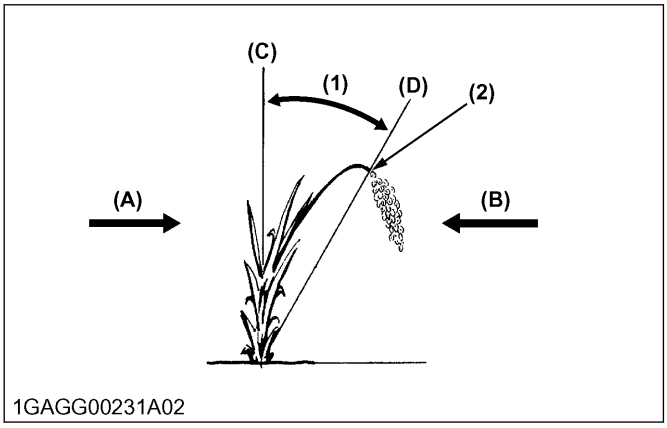


(1) 作物　　*(A)* 全長

1.2 作物の倒伏

作物の倒れた状態（倒伏角）により、刈取り方向に注意してください。

刈取り方法（方向）	倒伏角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下



(1) 倒伏角
(2) 穂首
(A) 追刈り
(B) 向刈り
(C) 立毛位置
(D) 倒伏位置

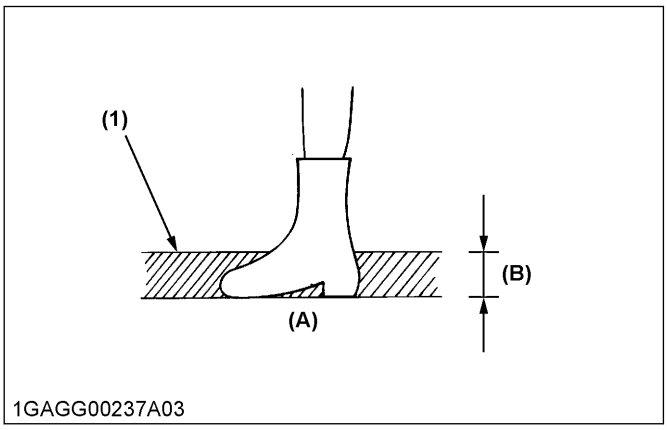
1.3 作物の濡れ

作物は乾いて、手でしごいて濡れていない状態が適期です。

2. ほ場の条件

2.1 ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。



(1) ほ場　　*(A)* 長靴をはいた状態

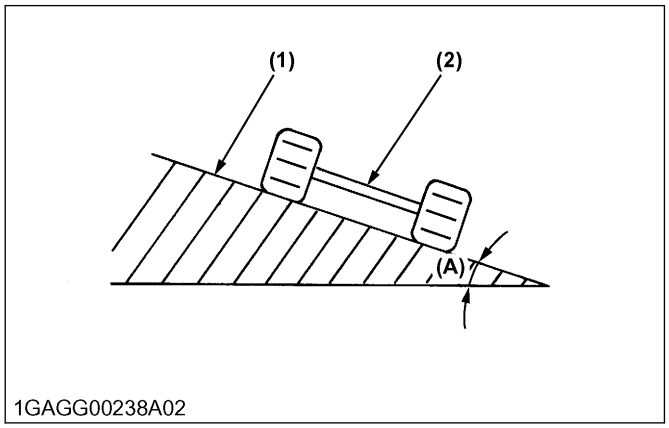
(B)	沈み量	**[標準]** 10 cm まで
		[Y 仕様] 15 cm～20 cm まで

補足：

- **刈取作業が行えるほ場のぬかるみの沈み量は、土の性質によって変わります。**

2.2 ほ場の傾き

傾斜角度 5 度以上では、刈取作業できません。

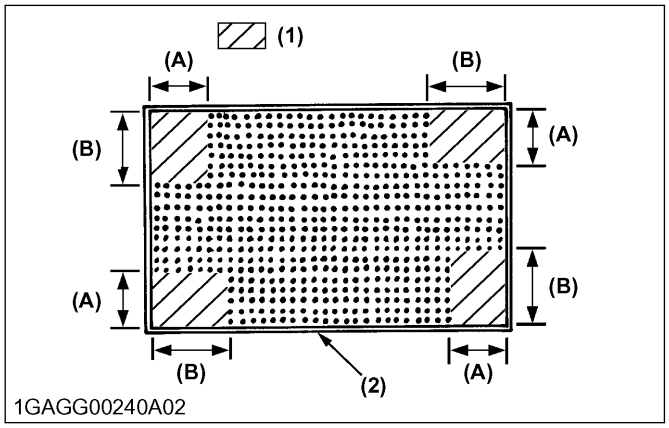


(1) ほ場
(2) コンバイン
(A) 傾斜角度

ほ場の準備

1. あぜぎわの手刈り（枕刈り）

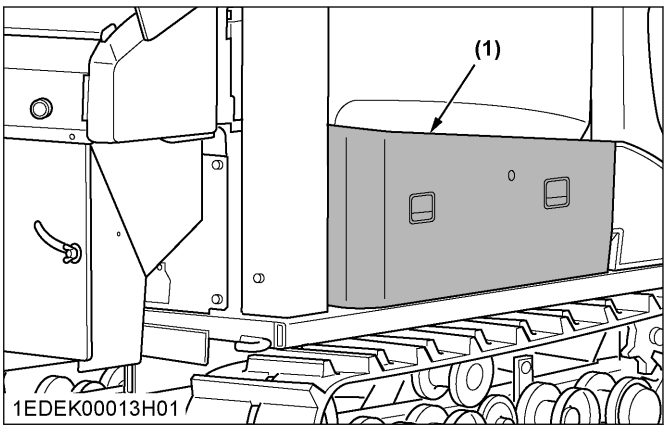
コンバインをほ場に入れる前に、あぜぎわの四隅で旋回が楽に行えるように、旋回ができる範囲（面積）の手刈りをします。これを枕刈りといいます。



(1) 手刈り範囲
(2) ほ場
(A) *2 m*
(B) *4 m～5 m*

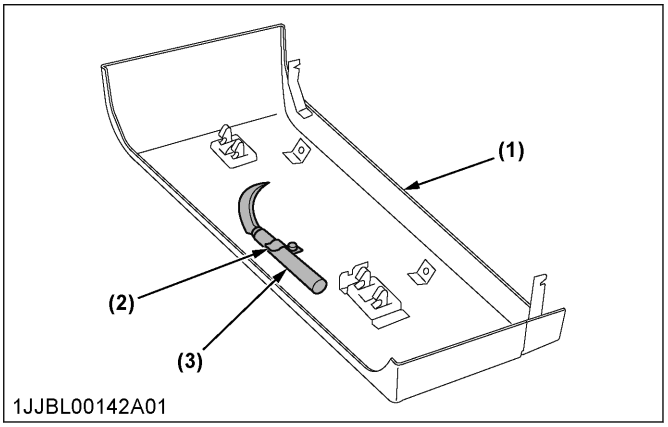
補足：

- **カマの収納場所は次図の位置にあります。**



(1) グレンタンク下カバー

(1)グレンタンク下カバーを開いた状態



(2) カマ差し金具
(3) カマ

刈取作業のためのコンバインの準備

⚠ 警告

- **平たんな場所に置き、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

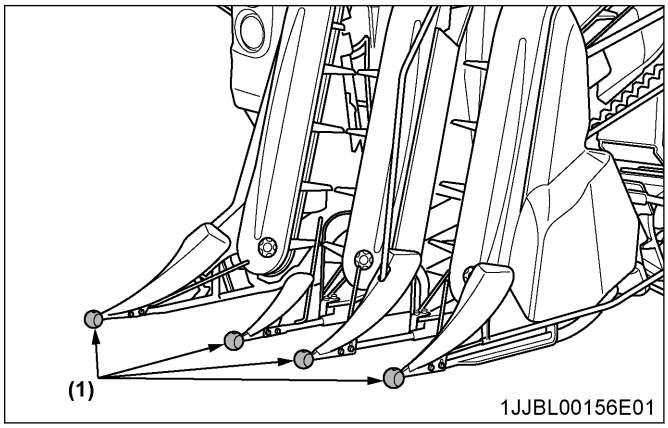
1. 刈取作業の準備のしかた

1.1 各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行ってください。
（各部の注油（135 ページ）を参照）

1.2 デバイダキャップの取外しと収納

1. デバイダキャップを外します。



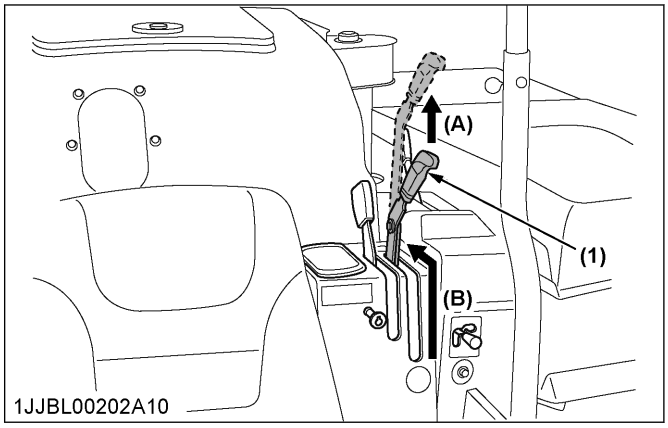
(1) デバイダキャップ

補足：

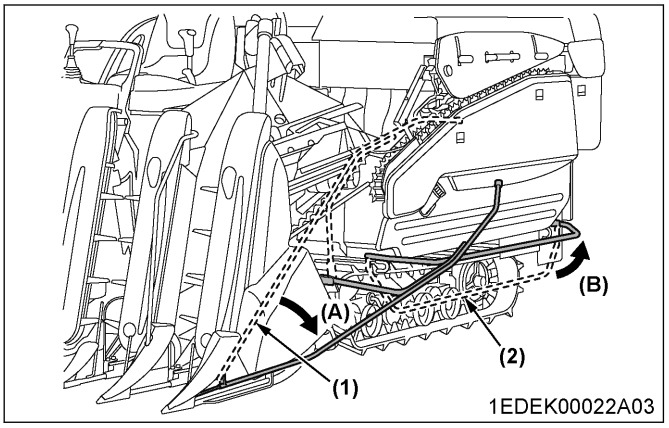
- **取り外したデバイダキャップは、ビニール袋など入れ物に入れてから、取扱説明書を収納する運転席後側の収納場所に入れて保管してくださ い。**

1.3 左分草かん前、後のセット

1. 左分草かん開閉レバーを伸ばします。
2. 左分草かん開閉レバーを引き上げて左分草かん前を倒します。
3. 左分草かん後を上げます。



(1) 左分草かん開閉レバー
(A) 伸ばす
(B) 引き上げる



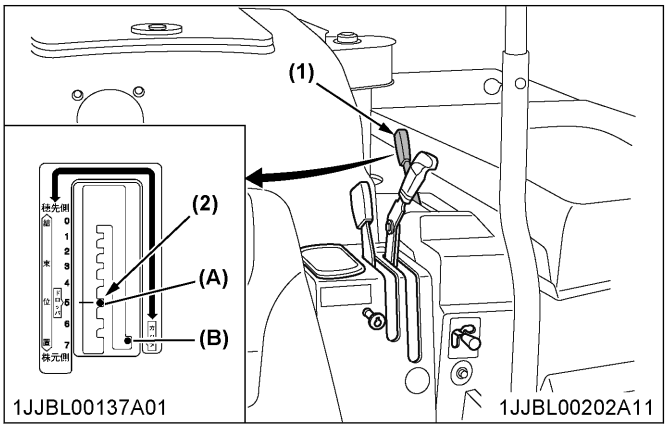
(1) 左分草かん前
(2) 左分草かん後
(A) 倒す
(B) 上げる

補足：

- **左分草かん後は手で上げてください。**

1.4 排わら処理の選択

わら作業切換えレバーを操作して、排わら処理の選択をしてください。



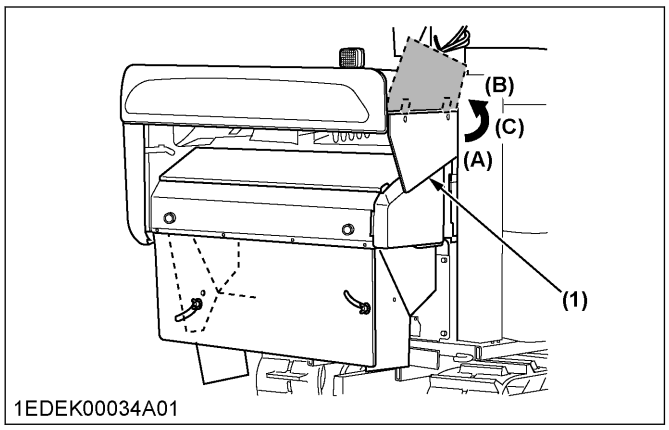
(1) わら作業切換えレバー
(2) 切欠部
(A) ドロッパ、バラ落し作業位置
(B) カッタ作業位置

重要：

- **作業中にわら作業切換えレバーを切り換えるときは、搬送されている作物が完全に流れ終わってから行ってください。故障の原因となります。**

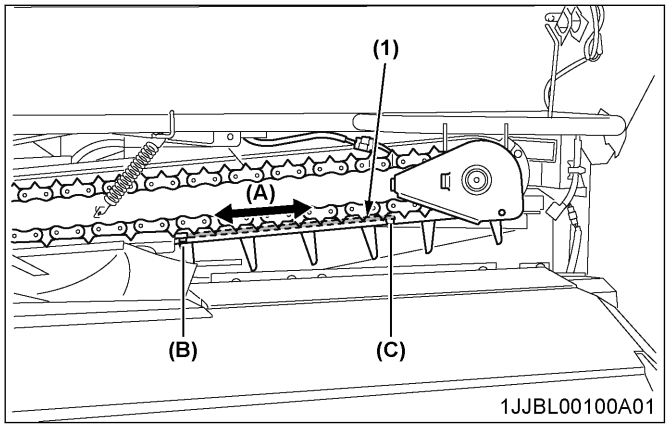
補足：

- **“ドロッパ、バラ落し”作業を選択するときは、わら作業切換えレバーを[5]の切欠部の位置にしてください。**
- **“ドロッパ、バラ落し”作業を選択したときに、わら作業切換えレバーの位置が[1]～[4]の切欠部にあると、リヤシュート、サイドシュートの準備時にわらを踏み付けたり、[6]～[7]の切欠部にあると、排わらチェーンがわらを巻き上げて詰まりの原因となります。**
- **“ドロッパ、バラ落し”作業のときは、穂先カバーを上げてください。**



(1) 穂先カバー
(A) カッタ作業位置
(B) ドロッパ、バラ落し作業位置
(C) 上げる

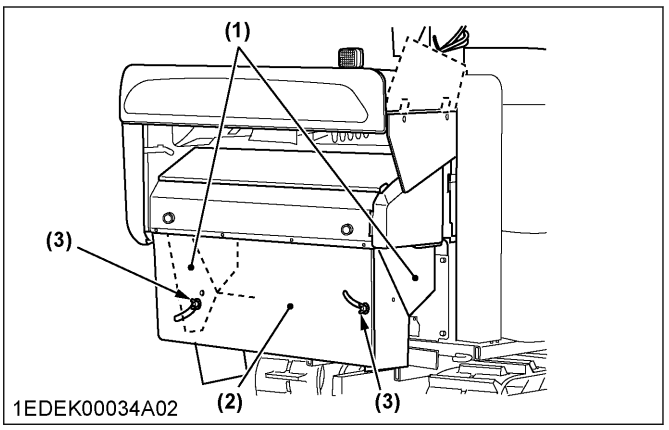
- **切換えレバーを操作すると、カッタ部の排わら切換えカバーが開閉すると同時に、排わらレールがスライドします。**



(1) 排わらレール
(A) スライド
(B) カッタ作業位置
(C) ドロッパ、バラ落し作業位置

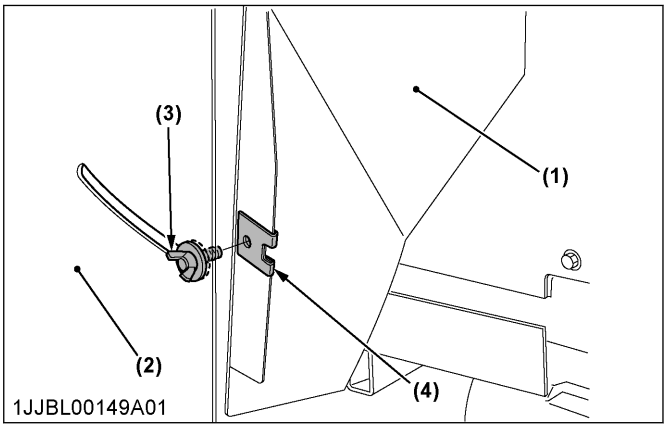
1.5 リヤシュート、サイドシュートの準備

1. 収納状態のリヤシュートとサイドシュートを固定している左、右の蝶ボルトをそれぞれゆるめて外し、リヤシュートとサイドシュートを広げます。
2. リヤシュートを後方に広げ、刈取作業に合わせた“セット位置”に左、右のサイドシュートを広げ、クリップナットに蝶ボルトを締め付けます。



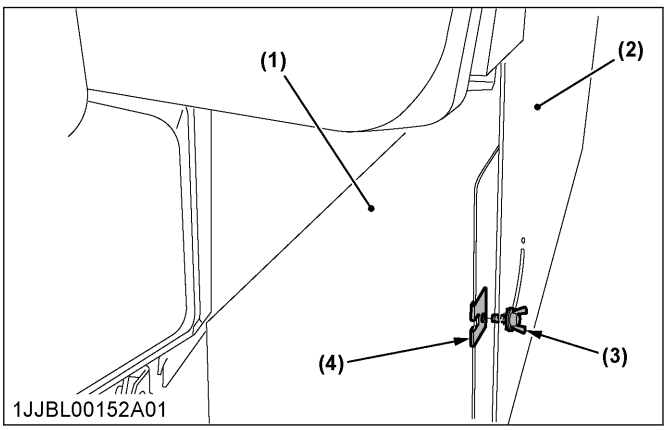
(1) サイドシュート
(2) リヤシュート
(3) 蝶ボルト

右側



(1) 右サイドシュート
(2) リヤシュート
(3) 蝶ボルト
(4) クリップナット

左側

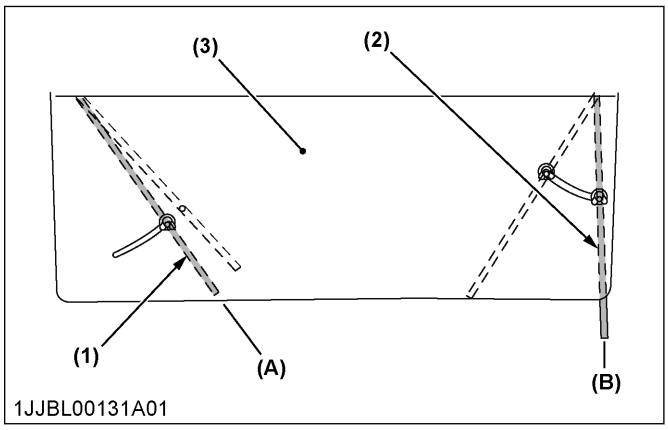


(1) 左サイドシュート
(2) リヤシュート
(3) 蝶ボルト
(4) クリップナット

1.5.1 リヤシュート、サイドシュートのセット位置

1.5.1.1 通常作業時のサイドシュートのセット

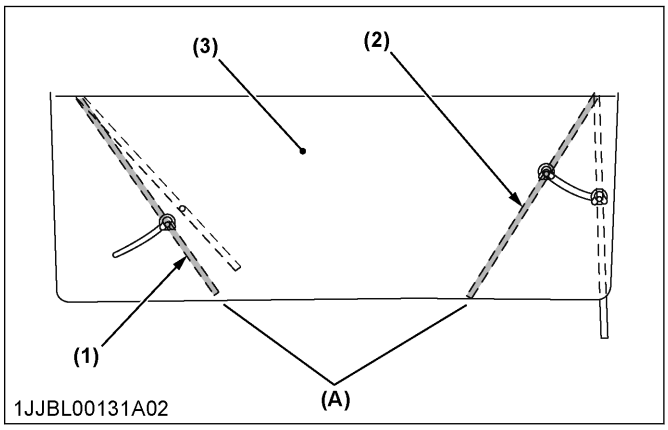
左サイドシュートは“内側”（長穴の右側いっぱい）の位置、右サイドシュートは“外側”（長穴の右側いっぱい）の位置にします。



(1) 左サイドシュート
(2) 右サイドシュート
(3) リヤシュート
(A) 内側
(B) 外側

1.5.1.2 中割り作業時のサイドシュートのセット

左、右のサイドシュートをそれぞれ“内側”（長穴のそれぞれ“内側”方向いっぱい）の位置にします。

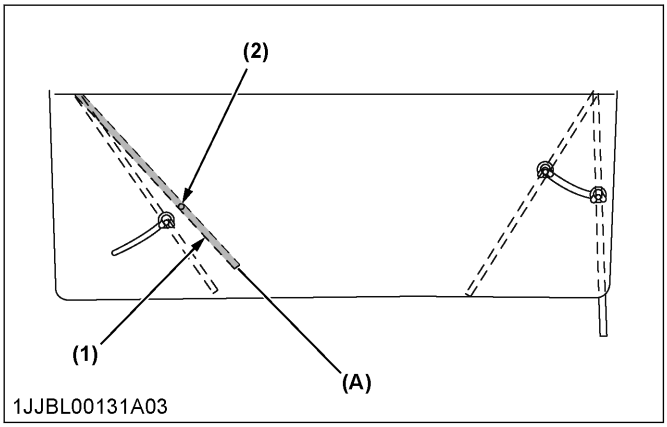


(1) 左サイドシュート
(2) 右サイドシュート
(3) リヤシュート
(A) 内側

補足：

- **中割り作業が終わったあとは、必ず“通常作業時”の位置にセットしてください。排わら処理を“カッタ作業”にしている場合は、わら詰まりの原因となります。**
- **ソリを地面に接地した刈取方法で次行程の刈取作業中に右デバイダがわら押しをする場合は、左サイドシュートを長穴のさらに内側の丸穴位置にセットしてください。**

（ソリを地面に接地した刈取方法の詳細は、ソリを接地した刈取方法、ソリを浮かせた刈取方法（90ページ）を参照）

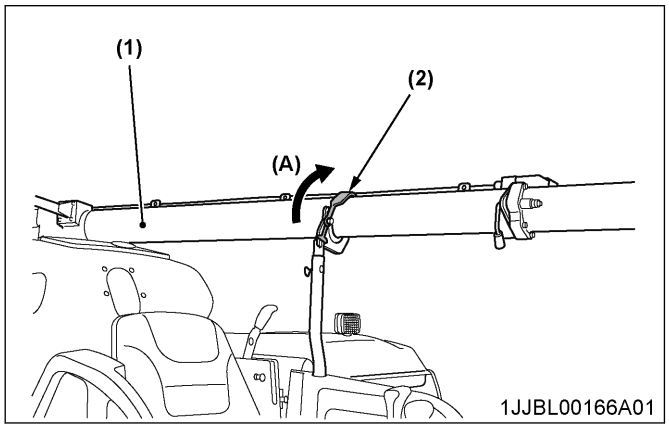


(1) 左サイドシュート
(2) 丸穴
(A) わら押しする場合の位置

- **切断わらを分散するときは、左サイドシュートを外側方向に調整してください。このとき、ソリが切わらに乗り上げるおそれがあるため、“デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法”で刈取作業を行ってください。**

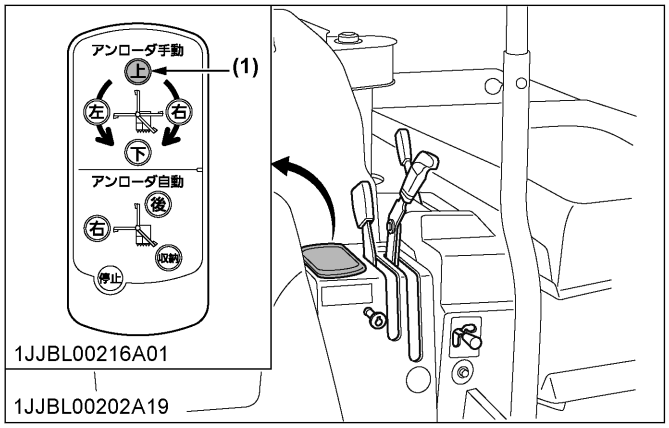
1.6 アンローダの準備

1. エンジンを始動して、アンローダを作業状態にします。
   a. 折りたたみ式アンローダを伸ばします。（アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法（86ページ）を参照）
   b. バンドを外します。



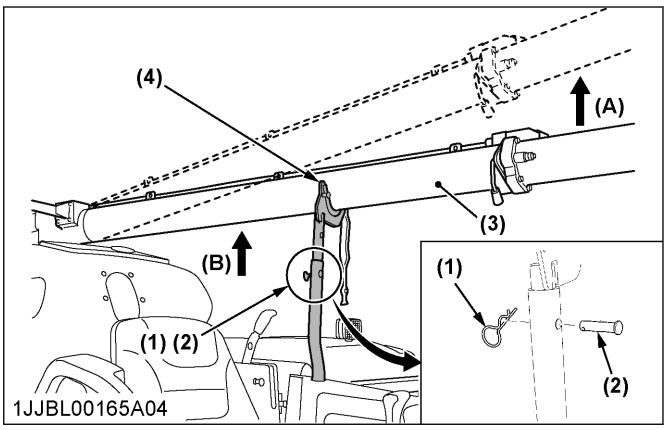
(1) アンローダ
(2) バンド
(A) 外す

   c. アンローダ手動スイッチの**[上]**を押してアンローダを上昇させます。



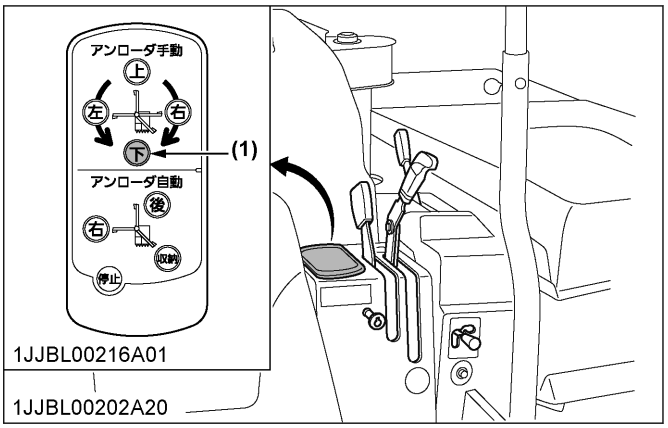
(1) アンローダ手動スイッチ（上）

   d. スナップピンを取り外し、頭付ピンを抜きます。
   e. アンローダ受けを上位置にします。
   f. スナップピンと頭付ピンを取り付けます。



(1) スナップピン
(2) 頭付ピン
(3) アンローダ
(4) アンローダ受け
(A) 上昇
(B) 上位置にセット

   g. アンローダ手動スイッチの**[下]**を押してアンローダを下降させます。



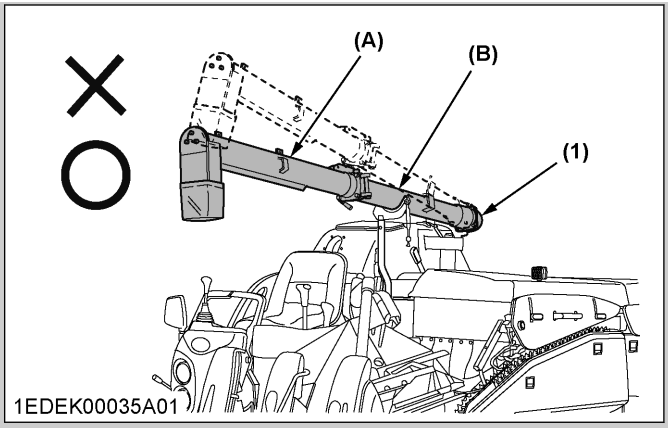
(1) アンローダ手動スイッチ（下）

2. エンジンを停止します。

2. アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法

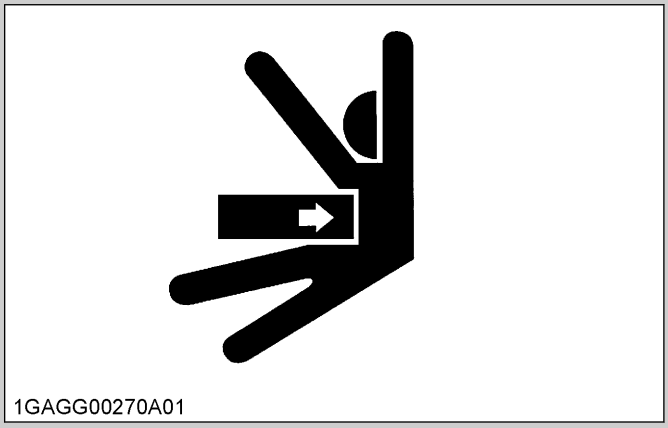
⚠ 警告

- **水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **機体やアンローダが傾いていると、吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので、アンローダは必ず水平状態にしてください。**

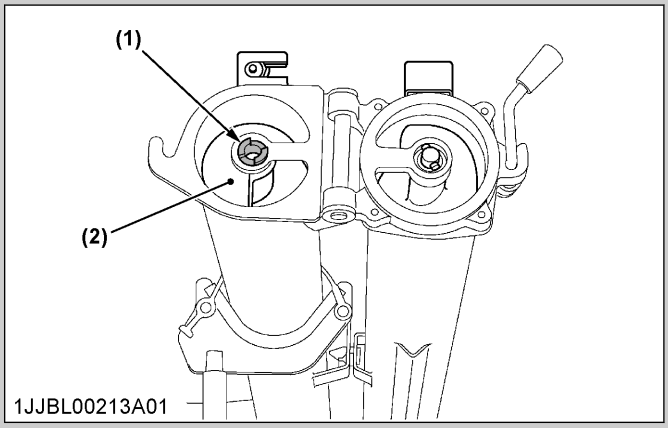


(1) アンローダ
(A) 吐出口側
(B) 本機側

- **アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。**
- **フックの金具が確実にロックされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。**



- **エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを“入”位置にしないでください。“入”位置にすると、本機側のアンローダスクリュが回転し、ケガをするおそれがあります。**



(1) ホルダ部
(2) アンローダスクリュ（本機側）

重要：

- **もみの排出作業を行うときは、アンローダを必ず伸ばした状態にしてください。アンローダを折りたたんだ状態でもみ排出クラッチレバーを“入”位置にすると、エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。**
  （もみの排出のしかた（100 ページ）を参照）

2.1 アンローダを折りたたむ方法

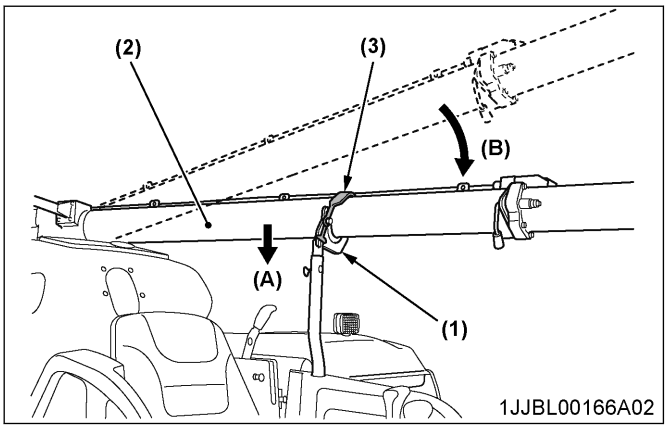
⚠ 警告

- **あぜ越え時、移動走行時、およびトラックで輸送するときは、アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。**
- **アンローダが開いて人や物にぶつかるおそれがあるので、必ずロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。**

1. SF ワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

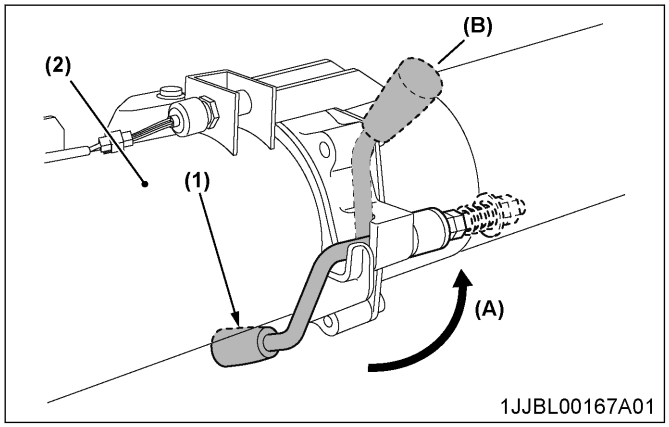
   補足：
   - **アンローダ内にもみが残っているときは、いったんアンローダを最上昇させてください。**

2. アンローダを収納します。
   a. アンローダ受けを下位置にします。
   b. アンローダをアンローダ受けに収納します。
   c. バンドで固定します。



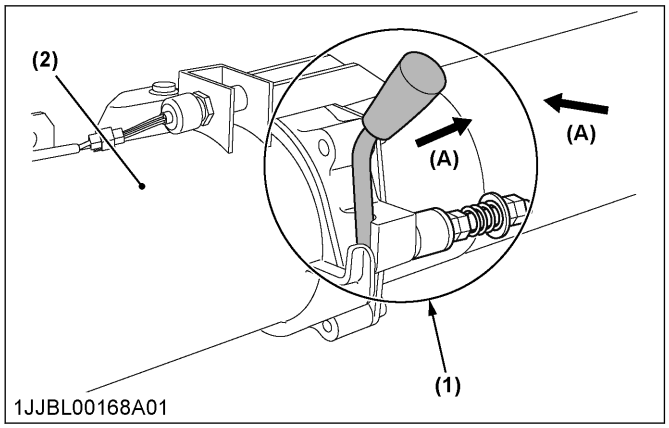
(1) アンローダ受け
(2) アンローダ
(3) バンド
(A) 下位置にセット
(B) 収納固定

3. アンローダを折りたたみます。
   a. ロックレバーを上側に回してロック解除の状態にします。



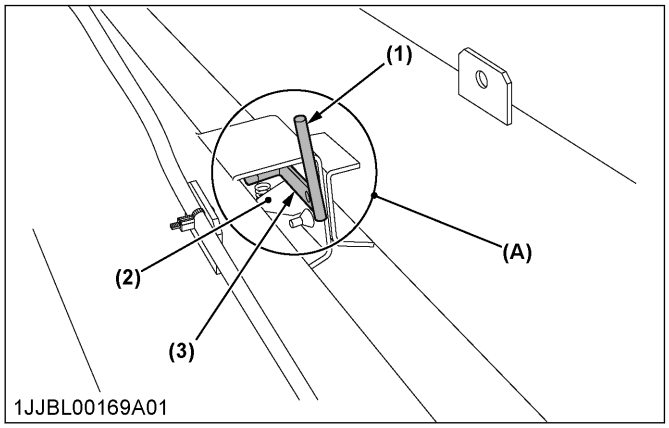
(1) ロックレバー　　*(A)* 回す
(2) アンローダ　　*(B)* 解除

   b. ロックレバーを押します。
   c. アンローダを押して左側に回動します。



(1) ロックレバー　　*(A)* 押す
(2) アンローダ

   d. 吐出口側のアンローダを左側に強く押して収納位置でロックします。

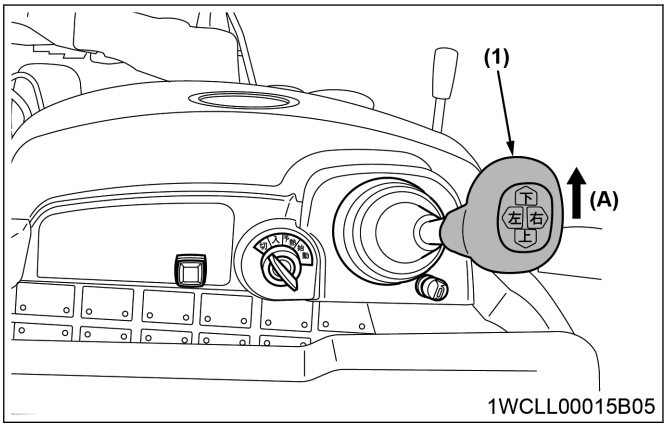


(1) ロック金具　　*(A)* ロック（収納状態）
(2) フック
(3) 溝

補足：
- **ロックしたあと、ロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。**
- **吐出口側のアンローダを強く押すと自動的にロックされます。**
- **もみの排出途中で排出を止めたとき、アンローダ内に残っているもみがこぼれますので、アンローダは折りたたまないでください。**

2.2 アンローダを伸ばす方法

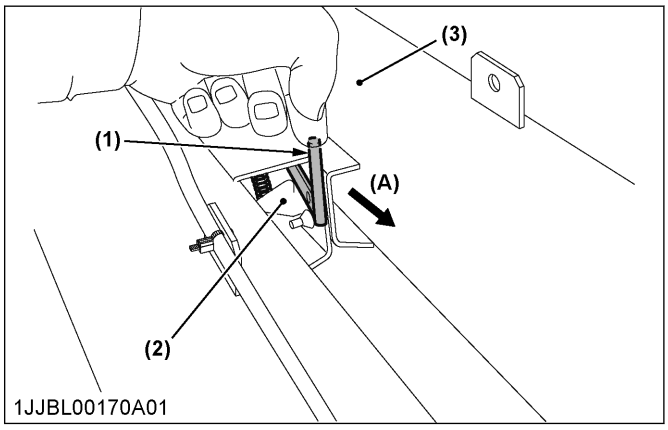
作業時はアンローダを伸ばしてください。
1. エンジンを始動します。
2. アンローダをいったん上昇します。
3. アンローダ受けを下位置にします。
4. アンローダをアンローダ受けに収納します。
5. SF ワンレバーを操作して刈取部が地面に着くまで降ろします。



(1) *SF* ワンレバー　　*(A)* 刈取部を下げる方向

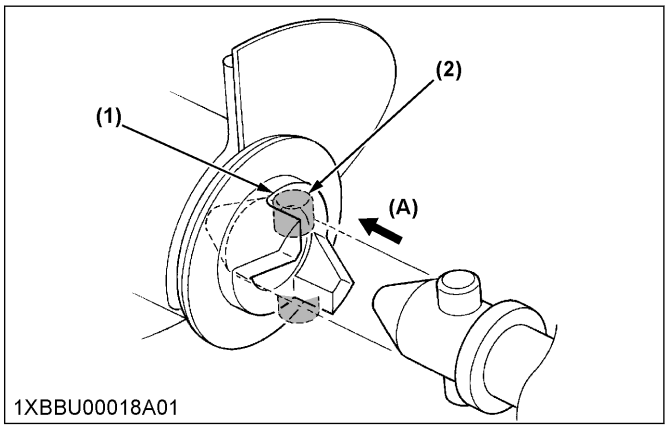
6. エンジンを停止します。

7. 吐出口側のアンローダを伸ばします。
   a. ロック金具を引いてフックから外し、解除します。
   b. 吐出口側のアンローダを伸ばします。

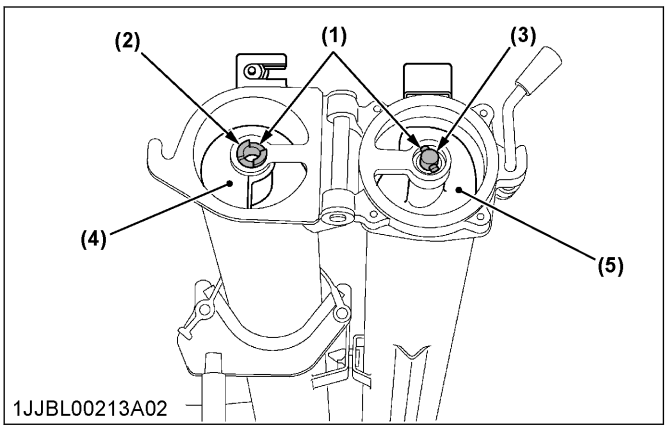


(1) ロック金具
(2) フック
(3) アンローダ（吐出口側）
(A) 解除

補足：
- **アンローダを伸ばすときは、本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合せてください。**

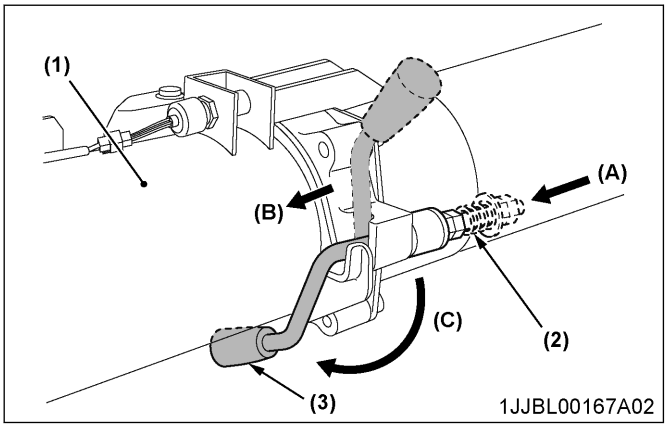


(1) 切欠
(2) ピン
(A) 差し込む



(1) 結合部
(2) 切欠部
(3) ピン部
(4) アンローダスクリュ（本機側）
(5) アンローダスクリュ（吐出口側）

8. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。
   a. スプリング部を指で押して、ロック溝にレバーを通して、下側に回してロックします。



(1) アンローダ
(2) スプリング部
(3) ロックレバー
(A) 押す
(B) ロック溝に通す
(C) 下側に回す

9. バンドを外します。
10. エンジンを始動します。
11. アンローダを上昇させます。
12. アンローダ受けを“上位置”にします。
13. アンローダをアンローダ受けに収納します。

刈取作業のしかた

1. ほ場の出入りのしかた

⚠ 警告
- **グレンタンク内に残っているもみはすべて排出してください。**
- **あぜやコンクリート畦畔など 10 cm 以上の段差のある場所ではあゆみ板を使ってください。**
- **あゆみ板はじゅうぶんな強度、幅、長さのある基準に合ったすべり止め付きの物を使用し、コンバイン**

の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また、あゆみ板はあぜに直角に置いてください。

あゆみ板の基準

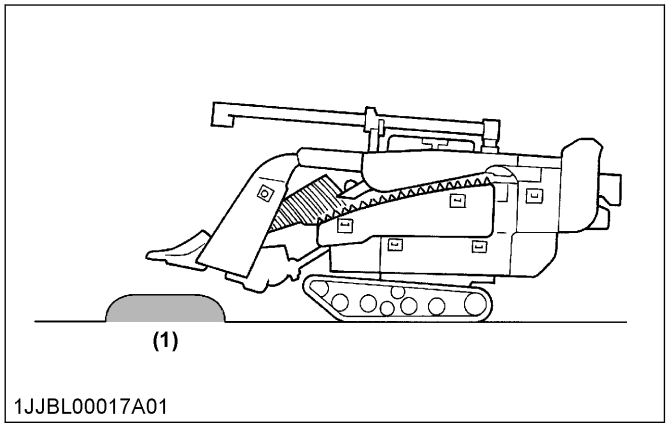
幅	50 cm 以上
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上

（あゆみ板の基準については、トラックとあゆみ板の準備（78 ページ）を参照）

- **あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは、速度を最低速にしてください。**
- **あゆみ板を使うときは、速度を最低速にし、あぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。**
  斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- **右または左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。**
- **後進する場合は後方の安全確認をし、また後方に川や用水路、またはがけがある場合は、転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。**
- **機体が凸部を越えるときは、重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。**

1. 副変速レバーを**[作業]**位置にし、アクセルレバーを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし、主変速レバーをゆっくり操作して、低速であぜ越えします。

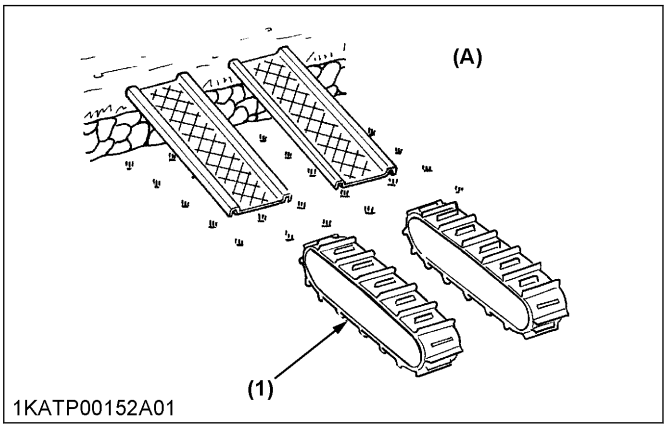
低いあぜごえ



(1) あぜ

- 10 cm 以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

高いあぜごえ

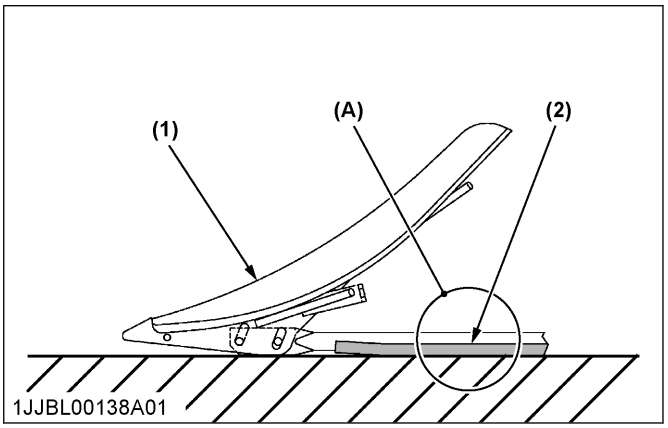


(1) クローラ　　*(A)* あゆみ板とクローラを合わす

2. ソリを接地した刈取方法、ソリを浮かせた刈取方法

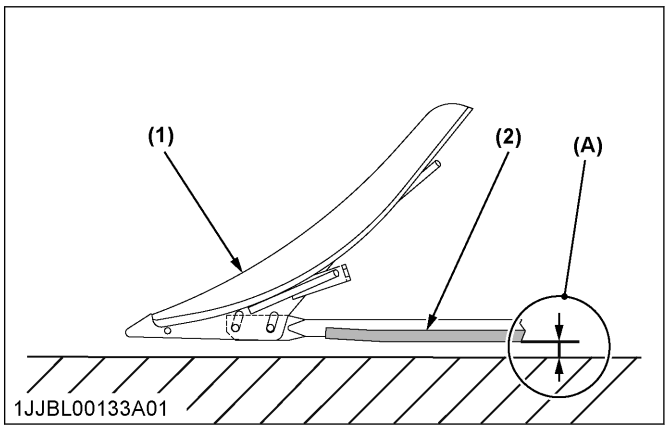
刈取作業は、刈取部のソリを地面に接地した状態で刈取りを行う方法、または地面からデバイダ、ソリを上げた状態で刈取りを行う方法で行ってください。
ソリを地面に接地した刈取方法は、ほ場や作物の条件により行えない場合があります。

ソリを地面に接地した刈取方法



(1) デバイダ　　*(A)* 接地
(2) ソリ

デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法



(1) デバイダ
(2) ソリ
(A) ソリが地面から上げっている

2.1 ソリを地面に接地した刈取方法の概要

乾田のほ場で稲の刈取りを行うときにはソリを地面に接地した刈取方法を行うことができます。
この刈取方法は、かたい地面にソリを接地して刈取りを行うため、ほ場、作物、刈取作業によっては正常な刈取りができない場合がありますので、そのときはデバイダ、ソリを地面から上げた状態で刈取作業を行ってください。

重要：

- **ソリが接地している状態で SF ワンレバーを前方に押すと、デバイダが地面に突っ込むおそれがあり、トラブルの原因となりますので、SF ワンレバーを前方に押さないでください。**

2.2 ソリを接地した刈取方法ができない作業状況

2.2.1 ソリを接地した刈取に適さないほ場

湿田や、ほ場面のやわらかいほ場

補足：

- **ソリを接地した刈取方法は、ソリがかたいほ場面（乾田）に接地した状態が必要です。ソリが沈み込むほ場では、ほ場面にデバイダが突っ込みトラブルの原因となります。**

2.2.2 ソリを接地した刈取に適さない作物

稲の倒伏状態により、デバイダ先端部を下げて刈取りを行う場合
（デバイダの上下調整（104 ページ）を参照）

重要：

- **デバイダ先端を下げた状態でソリを接地して刈取りを行うと、ほ場面にデバイダが突っ込みトラブルの原因となります。**

2.2.3 ソリを接地した方法が適さない刈取作業

排わら処理を“カッタ作業”にして刈取作業を行うとき、右デバイダが切わらを押す場合

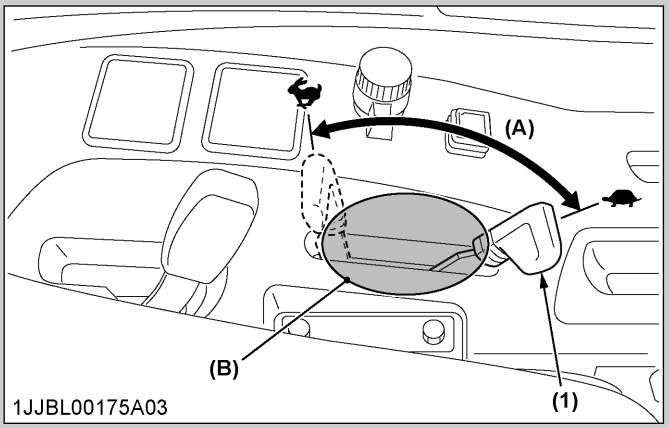
補足：

- **切わらの中を進むとソリが切わらに乗り上げて正常な刈取作業が行えなくなるおそれがあります。**

3. 刈取作業の手順

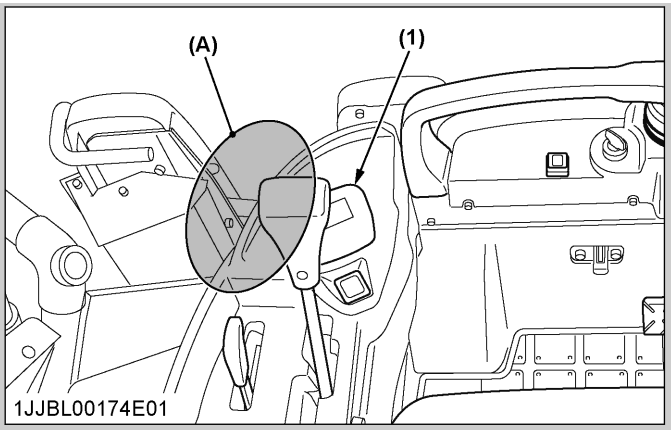
警告

- **コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。**
- **マフラの排気口が泥で詰まるような湿田ほ場では、刈取作業をしないでください。マフラの排気口に泥詰まりが発生すると、火災のおそれがあります。**
- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **機体後方に補助者がいないことを確認してください。機体に接触しケガをするおそれがあります。**
- **小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。**
- **夜間など暗い場所で作業するときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。**
- **共同作業するときは、ホーンを鳴らすなどの合図を行ってください。**
- **作業スイッチを押すと約 2 秒後にアクセルレバーが自動的に 位置まで動くため、アクセルレバーから手を離してください。指が挟まれてケガをするおそれがあります。**



(1) アクセルレバー
(A) 自動で動く
(B) 挟まれ注意

- **刈取部を上げたとき、手が挟まれるおそれがあるため、メータユニットの刈取部側に手を置かないでください。**

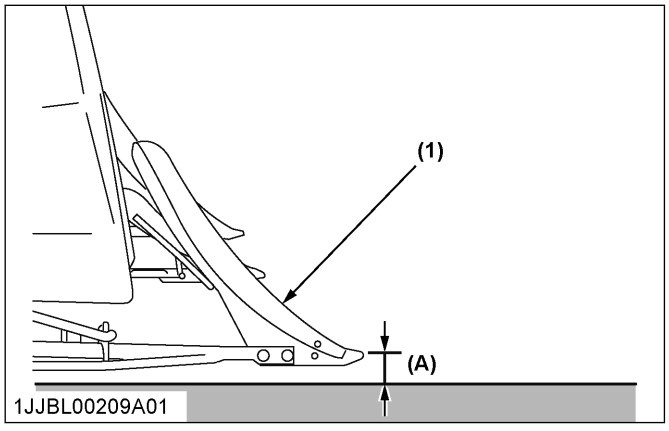


(1) メータユニット　　*(A)* 挟まれ注意

重要：

- **枕地を刈り取るとき、アンローダの先端が、電柱や壁などの障害物に当たり、破損するおそれがありますので、アンローダは折りたたんだ状態で作業を行ってください。**
- **作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば、そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと、エンジンオーバーヒートの原因になりますので注意してください。**
- **湿田で作業をする場合、特に一方刈りで何回も後進するときは、フレーム下部に切わらを大量に抱え込み、トラブルの原因になりますので、切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。**
- **副変速レバーを[移動]位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。**

1. SF ワンレバーを操作し、刈取方法に応じてデバイダを操作します。
   - **ソリを地面に接地した刈取方法**
     デバイダ先端を地面に接地してください。
     （ソリを接地した刈取方法、ソリを浮かせた刈取方法（90 ページ）を参照）
   - **デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法**
     デバイダ先端を地面から次図の所まで刈取部を下げてください。

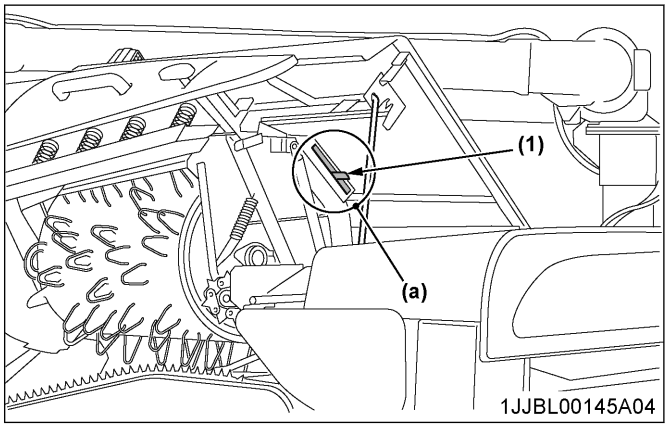


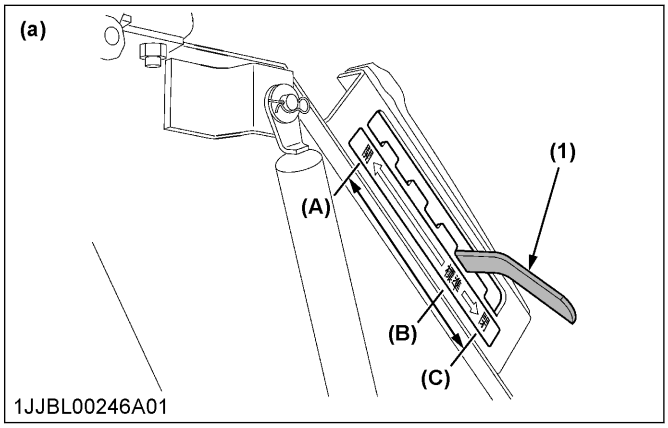
(1) デバイダ　　*(A)* 約 *2 cm～5 cm*

補足：

- **長かん作物、麦、雑草の多い作物は、高刈りしてください。**
- **ソリを地面に接地した刈取方法を行うとき、デバイダ先端位置がソリより下がっている場合は、デバイダの上下調整を行いデバイダの先端部をソリより高い位置にしてください。**
  （デバイダの上下調整（104 ページ）を参照）
- **乾田で立毛作物の刈取作業時、“低刈り”を行うときは、デバイダの上下調整を行いデバイダの先端部を上げてください。**
  （デバイダの上下調整（104 ページ）を参照）

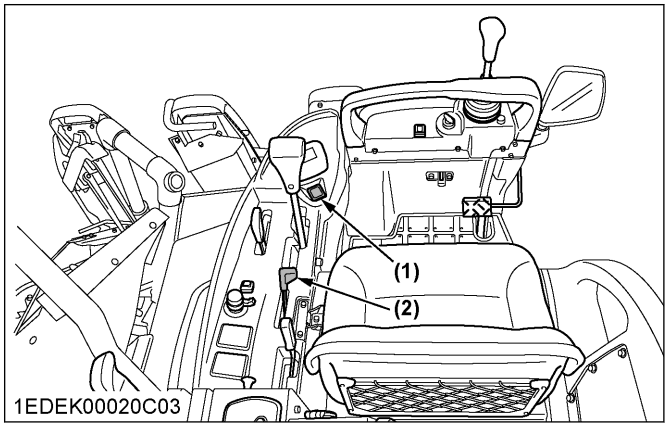
2. 各レバー、スイッチの操作を行います。
   a. こぎ室送じん調節レバーを**[標準]**位置にします。





(1) こぎ室送じん調節レバー
(A) 開
(B) 標準
(C) 閉

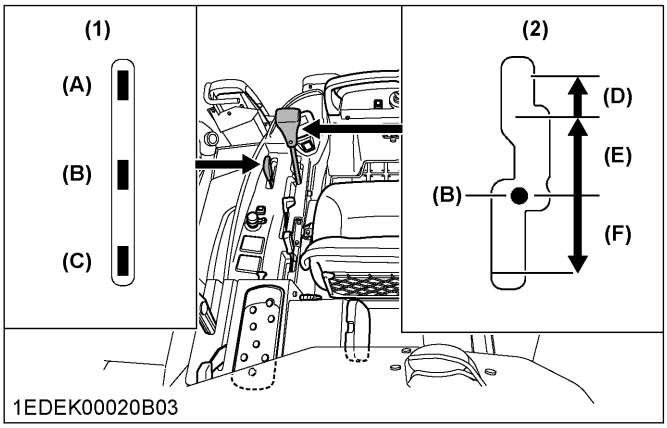
   b. 作業スイッチを押します。
   ブザーが 3 回鳴ったあと、アクセルレバーが自動的に動き、作業回転状態となります。



(1) 作業スイッチ
(2) アクセルレバー

補足：
- **主変速レバーが[N]“（中立）”位置または[後進]位置のときは、作業スイッチを“入”にしても刈取部は作動しません。主変速レバーを[前進]側に操作すると、機体が前進すると同時に刈取部が作動します。**
- **刈取オートクラッチスイッチが“入”の状態で、刈取部が“最上昇位置”にあるときには、刈取部は作動しません。**
- **作業スイッチを押すと、自動こぎ深さ制御スイッチのランプが点灯（自動こぎ深さ“入”）します。**

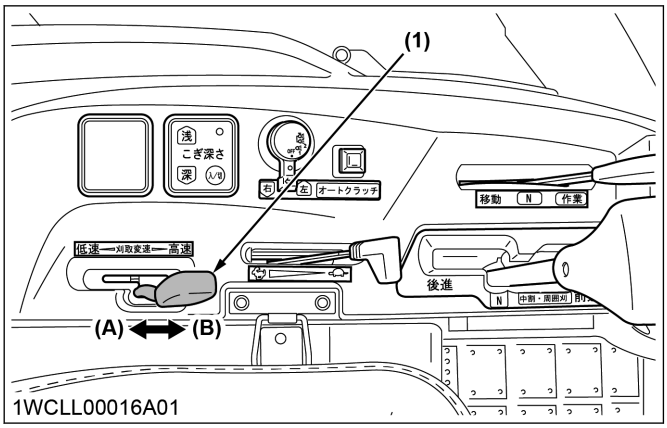
   c. 副変速レバーを**[作業]**位置にします。



(1) 副変速レバー
(2) 主変速レバー
(A) 作業
(B) *N*（中立）
(C) 移動
(D) *3* 条刈取
(E) 中割、周囲刈
(F) 後進

重要：
- **副変速レバーの切換えは、必ず主変速レバーを[N]“（中立）”位置にし、ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**
- **中割り、周囲刈りなど 4 条分を刈り取るときは、“中割、周囲刈”の範囲内で主変速レバーを調整してください。**

   d. 作物や作業の状態に合わせて、刈取変速レバーを押して**[高速]**または**[低速]**の位置にします。



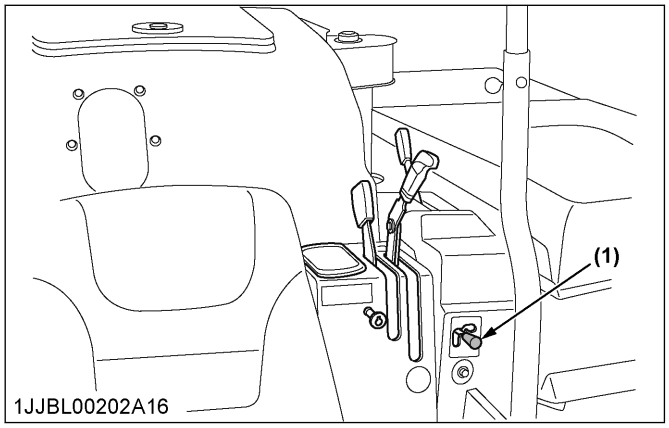
(1) 刈取変速レバー
(A) 低速
(B) 高速

補足：
- **刈取変速については刈取変速の選択方法（100 ページ）を参照してください。**

- **主変速レバーが[N]“（中立）”位置または[後進]位置にあるとき、作業スイッチを“入”にしても、刈取部は作動しません。主変速レバーの位置と作業スイッチの“入、切”に対する刈取部の動きは次のとおりです。**

主変速レバー位置	作業スイッチ	刈取部
–	切	停止
N（中立）または後進	入	
前進		作動

e. トウミ調節レバーを“標準”位置にします。

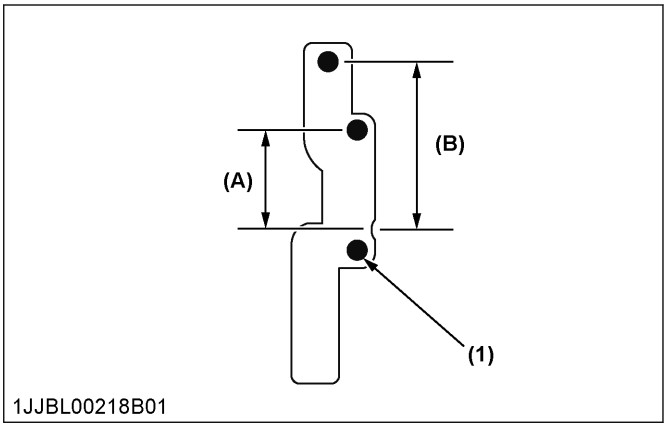


(1) トウミ調節レバー

補足：
- **トウミの調節は、脱こく部を必ず回転させてから行ってください。**

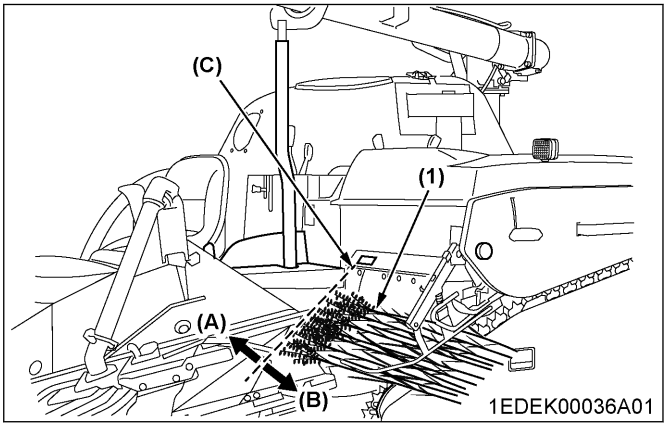
3. 作物が刈り取れる長さであることを確認します。
4. 刈始めのこぎ深さの調節をします。
   a. 手動こぎ深さスイッチでこぎ深さを合わせます。
   b. 自動こぎ深さスイッチを“入”（ランプ“点灯”）にします。
   （自動こぎ深さスイッチ（62 ページ）を参照）
5. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈り始めます。
   （刈取変速の選択方法（100 ページ）を参照）

補足：
- **刈取作業を行うとき、作物やほ場の状態に合わせて、主変速レバーを“中割、周囲刈”または“3条刈取”の範囲内で、刈取速度の調整を行ってください。**
  （刈取変速の選択方法（100 ページ）を参照）



(1) 主変速レバー位置
(A) 中割、周囲刈範囲
(B) *3* 条刈取範囲

6. 作物の穂先先端を脱こく入口の ▼ マーク（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。
   （自動こぎ深さスイッチ（62 ページ）、手動操作でのこぎ深さの制御方法（62 ページ）を参照）



(1) 作物
(A) 深こぎ（穂先側）
(B) 浅こぎ（株元側）
(C) ▼ マークラベルに穂先先端を合わせる

補足：
- **“浅こぎ状態”では、こぎ残しが出たり、“深こぎ状態”では、負荷が大きくなり作業能率が上がりません。**

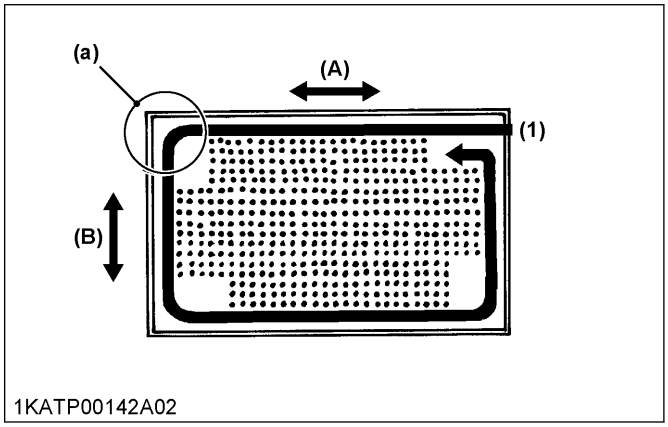
7. 刈取作業を少し行ったあと、選別状態やこぎ残しの有無を確認し、異常があれば各部の調節を行います。
   （こぎ室送じん調節レバーの調節（106 ページ）、排じん調整板の調整（107 ページ）を参照）

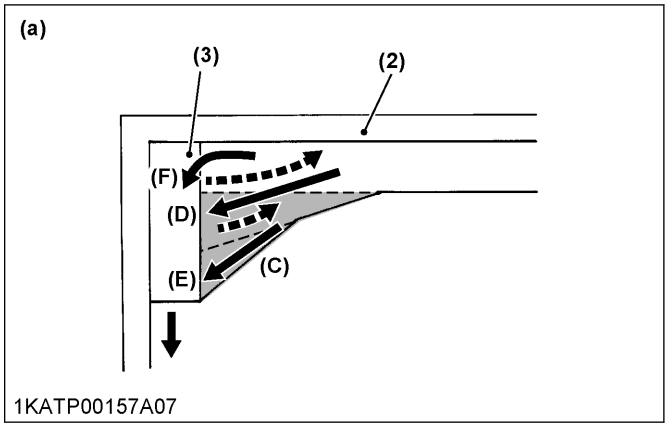
刈取作業終了後
刈取作業が終わると、脱こくが終わりもみがすべてグレンタンク内に入ったことを確認して、作業スイッチを“切（消灯）”位置にします。

4. ほ場で刈る方法と旋回のしかた

ほ場で作物を刈る方法は、作物、ほ場の状態や作業効率によって異なりますが、基本作業は、条刈りで左回りの2方向刈りを行ってください。

1. 1周目は手刈りで枕刈りした所から進入し、あぜぎわから左回りで4条分を刈り始めます。
2. 2周目からは3条分を刈り取ります。
3. あぜは旋回できるまで2回～4回斜め刈りします。D～Fの順で斜め刈りしてください。





(1) 入口
(2) あぜ
(3) 手刈り範囲
(A) 条刈り
(B) 横刈り
(C) 斜め刈り

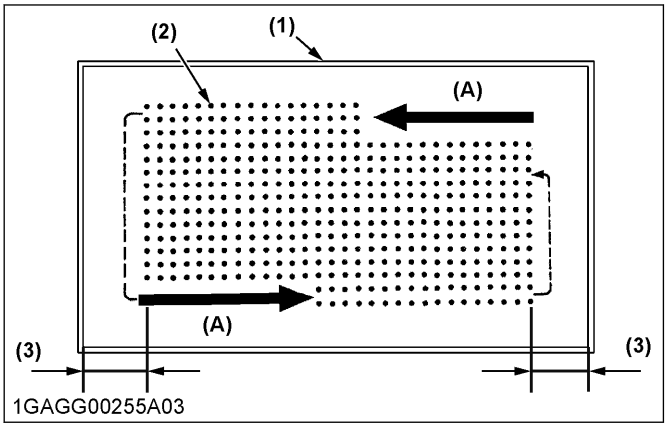
重要：

- **あぜぎわの刈取りを行うとき、デバイダをあぜに突っ込まないように、少し高刈りをしてください。また、コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると、クローラを切損する場合がありますので注意してください。**

補足：

- **斜め刈りをするとき、刈取途中で方向修正をすると、かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。**
- **あぜぎわや隅の斜め刈りを行うときは、あぜに突っ込むおそれがあるので、“デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法”で刈取りしてください。**
- **あぜぎわの刈取りを行うときは、自動こぎ深さ装置を“切”位置にして、こぎ残しが出ないように手動こぎ深さスイッチで“深こぎ”ぎみにしてください。**
- **刈終わりのとき、脱こく部内へ刈り取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。**
- **右回りでの刈取作業は避けてください。コンクリート畦畔など障害物があるあぜぎわで、左分草かんを収納した状態で刈取作業を行うと作物の搬送が乱れ、わら詰まりが発生する原因となります。**

4. 両端の枕地を旋回できる範囲に刈り取ったら両端は刈り取らずに旋回し、2方向刈りを行います。



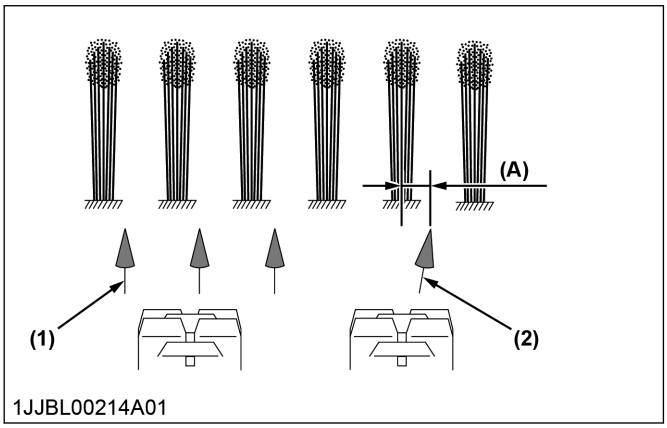
(1) ほ場
(2) 作物
(3) 枕地
(A) 刈取方向

4.1 刈取部のデバイダの条合わせのしかた

条合せをするときは、コンバインの速度を落としてください。

4.1.1 あぜぎわ刈り、中割り作業のときのデバイダの条合わせ

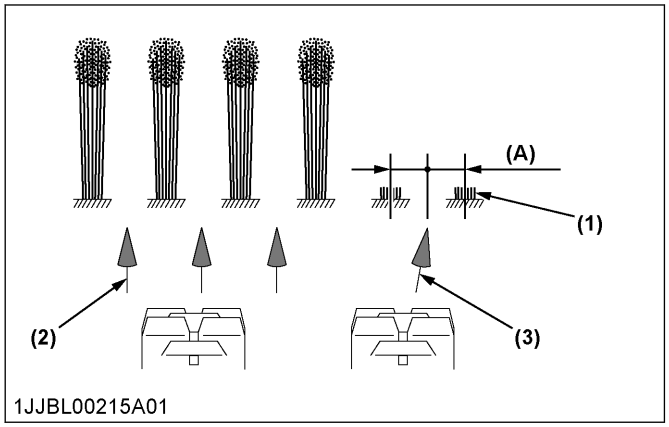
未刈株中心から次図の位置になるように右デバイダ先端を合わせて、4条分を刈り取ります。低速で作業してください。



(1) 左デバイダ
(2) 右デバイダ
(A) 約 *10 cm*

4.1.2 通常の回り刈りのときのデバイダの条合わせ

既刈株のほぼ中央位置に右デバイダ先端を合わせて 3 条で刈り取ります。



(1) 既刈株
(2) 左デバイダ
(3) 右デバイダ
(A) 中央

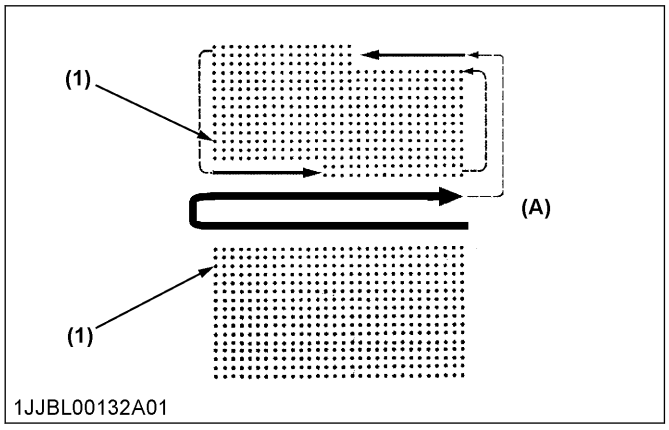
補足：

- **条合わせのときは、SF ワンレバーを小刻みに操作してください**

4.2 広いほ場の場合の刈取り

ソリを地面に接地した刈取方法

“中割り刈り”で分割して、4 条分を刈り取ります。このとき、必ず“*1* 往復”を同じ要領で刈り取ります。
また、右デバイダがわら押しするのを防ぐため、左、右のサイドシュートをそれぞれ長穴の内側の位置にします。
(リヤシュート、サイドシュートの準備（84 ページ）を参照)
1 往復刈取りが終わると右サイドシュートを外側に広げてください。



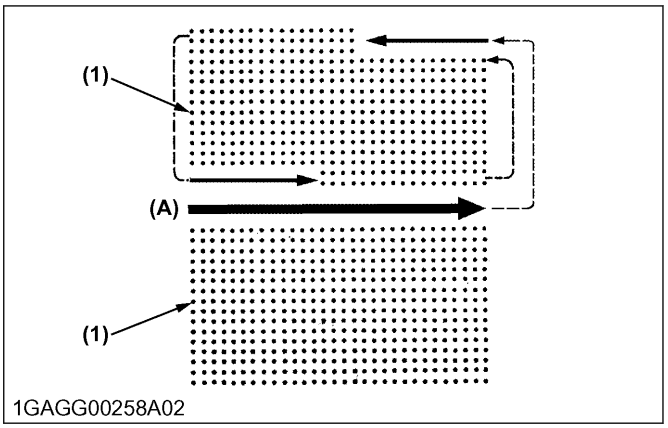
(1) 作物
(A) 中割り *1* 往復

補足：

- **1 往復するとき、復路で刈取作業中に右デバイダがわら押しするときは、左サイドシュートを長穴よりもさらに内側の丸穴位置に調整してください。**
  （リヤシュート、サイドシュートの準備 (84 ページ) を参照）
- **中割り刈りが終わったあと、右サイドシュートが長穴の内側の位置にあるとカッタ詰まりの原因となりますので中割り作業後は、必ず右サイドシュートを外側に広げた位置にしてください。**

デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法

“中割り刈り”で分割して、4 条分を刈り取ります。



(1) 作物
(A) 中割り

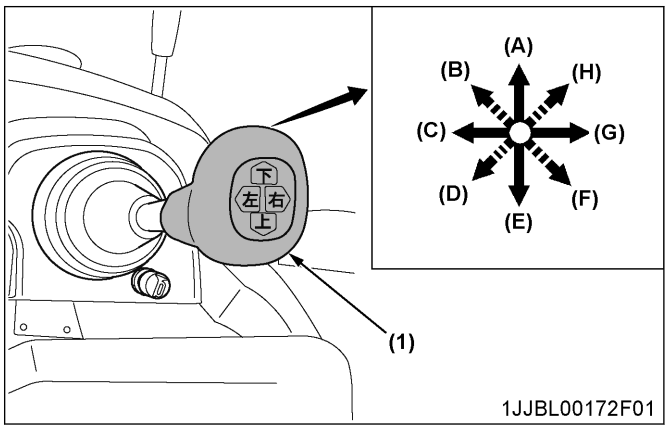
補足：

- **中割り刈り以外のときは、通常の回り刈りをしてください。**

4.3 刈取作業後の旋回のしかた

1. 刈り終わったら前進しながら刈取部を“最上昇位置”まで上げて旋回します。

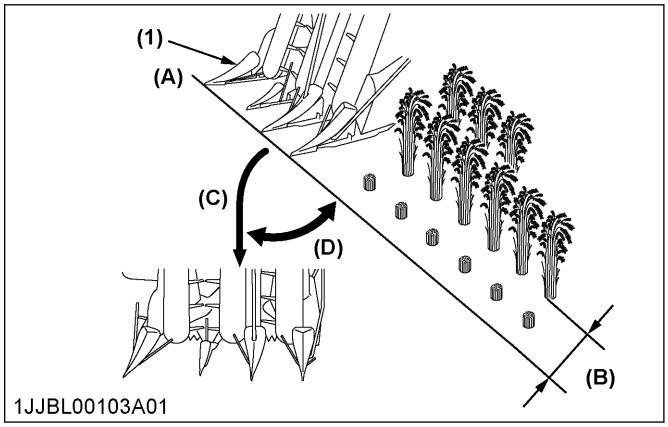
   補足：
   - **刈り終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。**
   - **エンジンの回転低下が大きいときは、旋回操作の前に減速してください。**
   - **SF ワンレバーを斜め方向に操作すると、機体の旋回と同時に刈取部が上下します。**



(1) *SF* ワンレバー

(A) 下（刈取部下げ）
(B) 左・下
(C) 左（左旋回）
(D) 左・上
(E) 上（刈取部上げ）
(F) 右・上
(G) 右（右旋回）
(H) 右・下

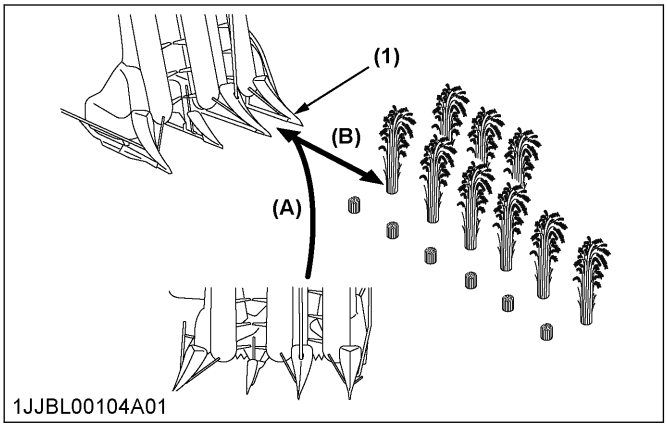
2. 最後の作物を刈り取ったあと、1 m～1.5 m 程度走行しながら刈取部を上げ SF ワンレバーを左に倒し、20 度～30 度くらい旋回した位置で走行を停止します。



(1) 刈取部

(A) 刈終わりの位置
(B) *1 m～1.5 m*
(C) 刈取部を上げて旋回
(D) *20* 度～*30* 度

3. 主変速レバーを**[後進]**位置に入れ、後進しながら SF ワンレバーを右に倒し、次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。



(1) 刈取部

(A) 後進
(B) 刈取部を下げて前進

重要：
- **エンジン回転数は、下げないでください。“選別が悪くなったり詰まりの原因”になります。**

補足：
- **刈取オートクラッチを“入”にしておくと、刈取部を上げたとき、自動的に刈取部の回転が停止するため、旋回が楽に行えます。**

5. 湿田作業のしかた

⚠ 警告
- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いて処置してください。**

湿田で刈取作業を行うときは、デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法で、倒伏角の大きさなど作物の状態や、ぬかるみや起伏の大きさなどほ場の状態をよく確認してください。
異常が発生したときは、次表を参照してください。

現象	処置
• スリップする。 • 沈下して動かなくなる。 • 機体が傾く。	• 低速で作業を行う。 • 同じ場所での旋回は避ける。 • 急旋回はしない。SF ワンレバーを小刻みに操作し、大回りする。 • 急発進はしない。 • 機体を軽くする。グレンタンク内のもみを早期排出する。
• 刈取部が詰まる。	• パッカ下部や搬送部の巻き付いた作物、わらくずや泥の付着を取り除く。 • 少し高刈りする。
• カッタ部が詰まる。	• わらくずや泥の付着を取り除く。

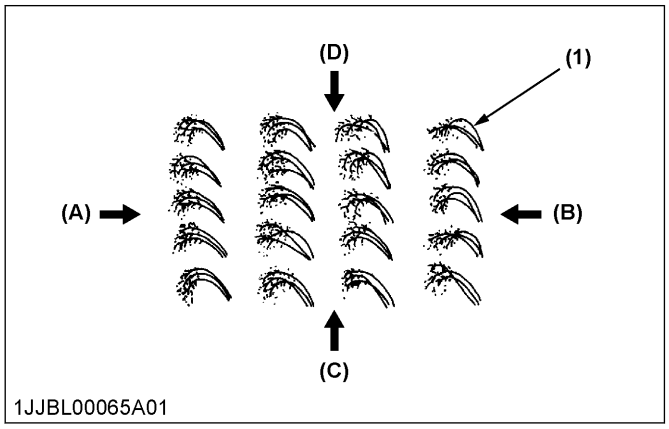
6. 作物に合わせた変速の選択方法

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

6.1 刈取時の作業速度の選択方法

次表を参考にして主変速レバーと副変速レバーで適正な作業速度を選んでください。
通常、倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は作業速度を遅くします。倒伏角が小さい（立毛）場合や水分が少ない（乾燥）場合は、作業速度を速くすることができます。

刈取方向

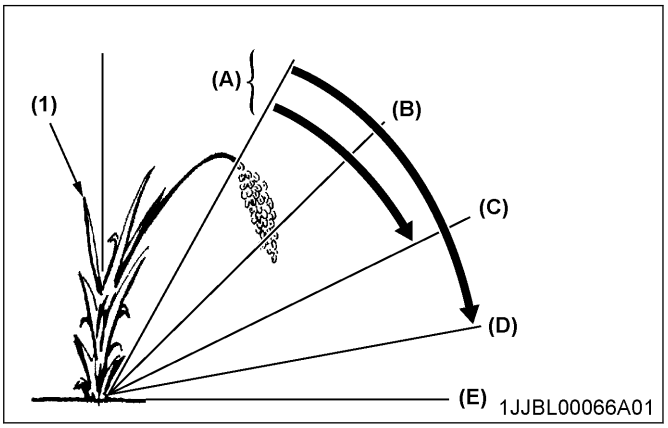


(1) 作物

(A) 向刈り
(B) 追刈り
(C) 左倒伏刈り
(D) 右倒伏刈り

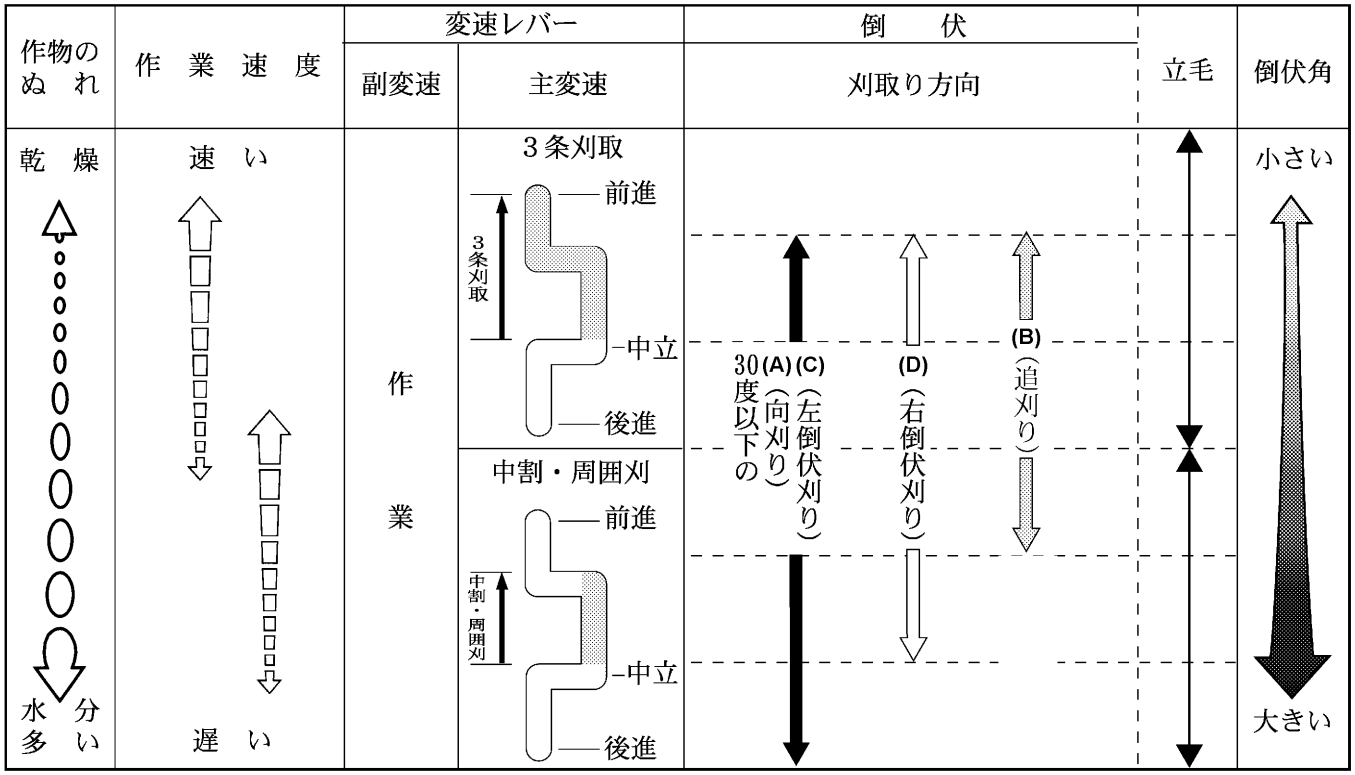
倒伏角が 70 度以下のときは向刈りで、70 度より大きく 80 度以下のときは追刈りで作業してください。

倒伏角



(1) 作物

(A) 適応範囲
(B) *45* 度
(C) *70* 度
(D) *85* 度
(E) 完全倒伏



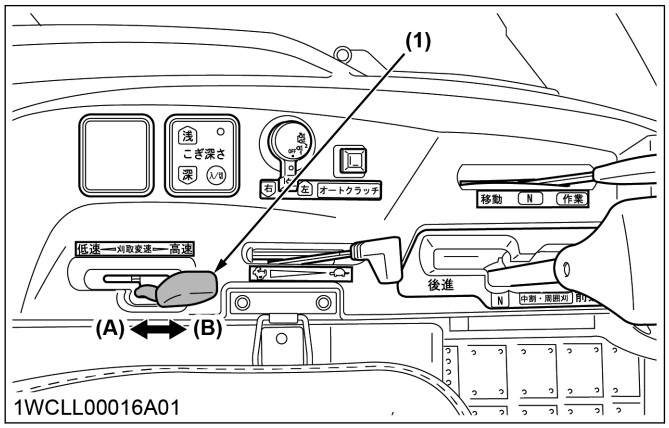
1JJBL00267A01

補足：

- **収量、成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので、その作物と機械に合った速度で作業を行ってください。**

6.1.1 刈取変速の選択方法

作物の状態に合わせて、次表を参考にして、刈取変速レバーで“低速”、“高速”の 2 段階の変速を行ってください。



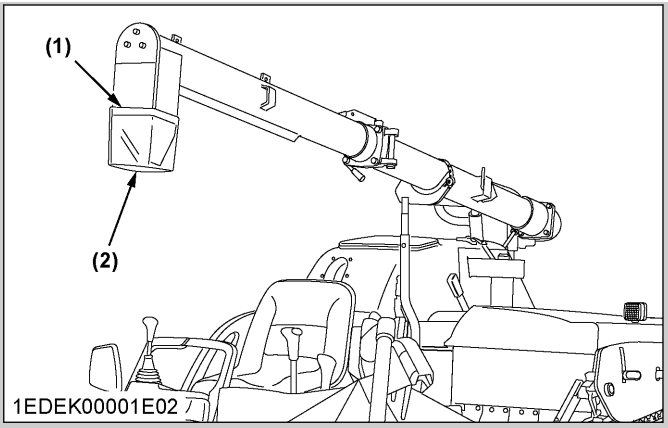
(1) 刈取変速レバー　　*(A)* 低速
(B) 高速

作物状態		変速選択位置
倒伏度合	その他の条件	刈取変速レバー
直立	一般的作物	“高速”
	周囲刈りなど低速刈取作業	“低速”
	脱粒しやすい作物	
	短かんで少量作物	
倒伏	45 度以下の倒伏作物	“高速”
	45 度以上の倒伏作物 長かん作物	
	45 度以上でかん切れが多い作物	“低速”

補足：
- **変速の選択方法の表は目安です。**
- **出荷時は“高速”位置です。**
- **かん切れが起こると、作物が途中で切れるため、搬送されずに刈取部前方に作物が滞留します。**

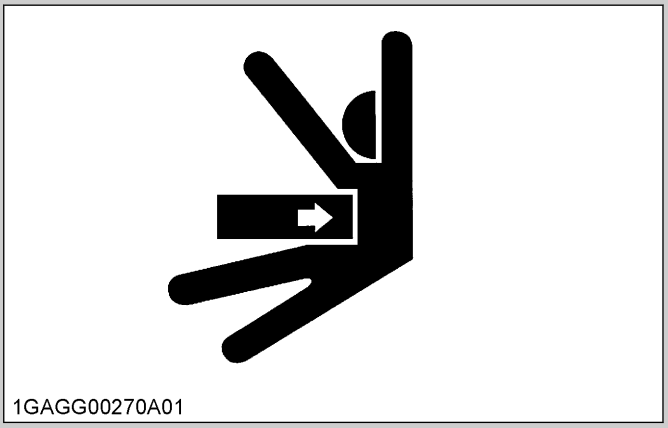
7. もみの排出のしかた

⚠ 警告
- **コンバインを必ず停止してください。**
- **吐出口に手は入れないでください。また、吐出口ブーツが破損したときは、直ちに交換してください。**



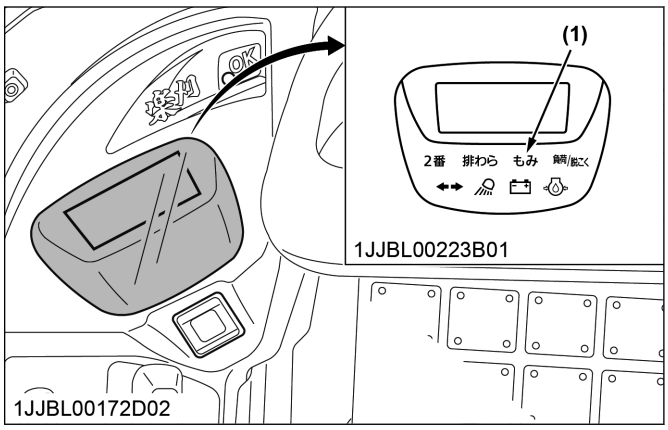
(1) 吐出口　　*(2)* 吐出口ブーツ

- **手を挟み、ケガをするおそれがあるので、アンローダ受けの上に手を置かないでください。**
- **もみ排出クラッチレバーを“入”位置にして、もみがアンローダ排出口から排出されるとき、頭部や顔など上半身をアンローダ先端部に近づけないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。**
- **アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあります。**



- **排出時は機体を水平な場所に停車させ、作業スイッチを“切（消灯）”してから排出作業を行ってください。**

- グレンタンク内のもみが満杯になると、メータユニットのもみランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



(1) もみランプ

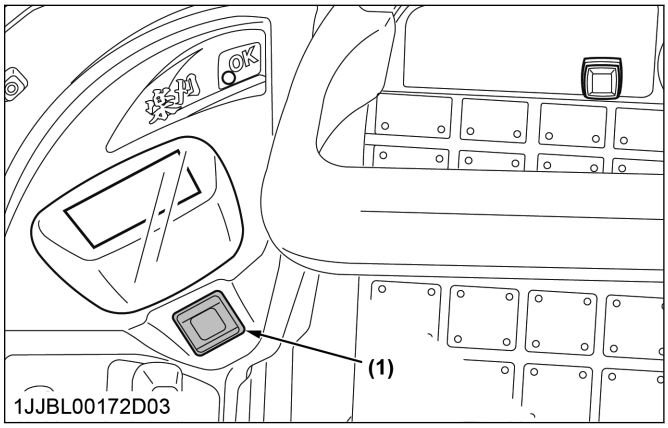
重要：

- **ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行うと、もみがあふれたり、1 番スクリュが詰まったりして、故障の原因となります。**

補足：

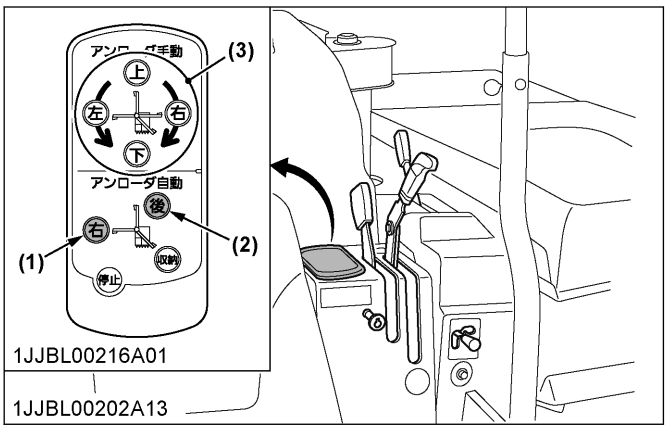
- **ホーンスイッチを押すと、ブザーは停止します。**

1. 刈取作業をいったん中止し、30 秒以上待ちます。
2. 作業スイッチを“切（消灯）”にして、所定の排出位置に移動します。



(1) 作業スイッチ

3. 主変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にして、駐車ブレーキを掛けます。
4. アンローダ自動旋回スイッチの**[右]**、**[後]**、またはアンローダ手動スイッチを操作して、アンローダを排出位置まで動かします。



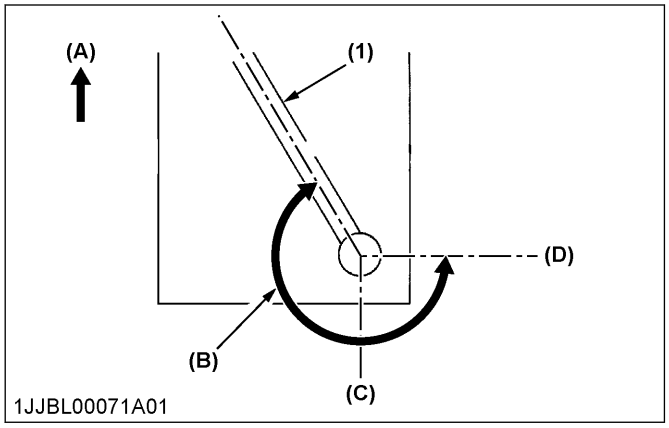
(1) アンローダ自動右旋回スイッチ
(2) アンローダ自動後旋回スイッチ
(3) アンローダ手動スイッチ

重要：

- **走行しながらアンローダ旋回操作を行わないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）およびアンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。**
- **アンローダ自動旋回スイッチ、停止スイッチを押す前に、アンローダの旋回範囲に障害物が無いか確認してください。**
- **傾斜地ではアンローダの操作やもみの排出は行わないでください。モータの破損など機械故障の原因になります。**
- **自動旋回制御装置を用いてアンローダを収納する際、次の条件下ではアンローダが受けに入らない場合があります。その場合は、アンローダ手動スイッチを操作して収納してください。**
  - **機体がわずかでも傾いている状態**
  - **アンローダにもみが残っている状態**
  - **風が強い場合**

補足：

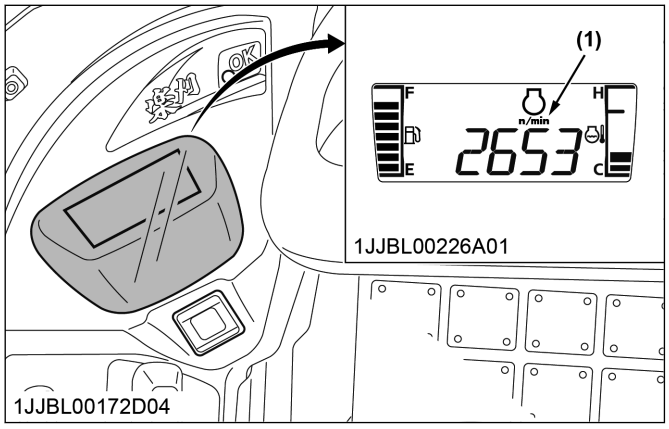
- **自動旋回制御装置作動中に、停止スイッチを押す、またはアンローダ手動スイッチを操作すると、自動旋回制御は停止します。**
- **アンローダ自動旋回スイッチの[収納]でアンローダが収納位置に戻った直後に、再度アンローダ自動旋回スイッチの[右]、[後]を押しても、作動しません。収納位置で 10 秒程度待ってから、押してください。**
- **アンローダを折りたたんだ状態でもみ排出クラッチレバーを“入”位置にすると、エンジンが停止すると同時に警報ブザーが鳴ります。パワーユニット、キット（GPK）（オプション）を装着しているときは、もみ排出クラッチが作動せず警報ブザーが数回鳴ります。**



(1) アンローダ
(A) 機体前方
(B) アンローダ旋回範囲（作業範囲）
(C) 後方
(D) 右

- **アンローダ手動スイッチとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの[左]“（赤色）”を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ手動スイッチの[右]“（青色）”を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。（アンローダ手動スイッチ（65 ページ）を参照）**

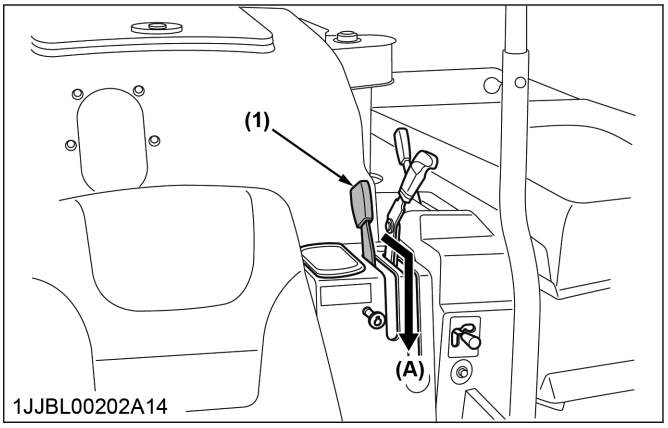
5. アクセルレバーで刈取作業時と同じエンジン回転数にします。



(1) エンジン回転計

補足：
- **排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。**
- **損傷しやすい作物は、エンジン回転数を約 2000 rpm 程度まで下げてください。**

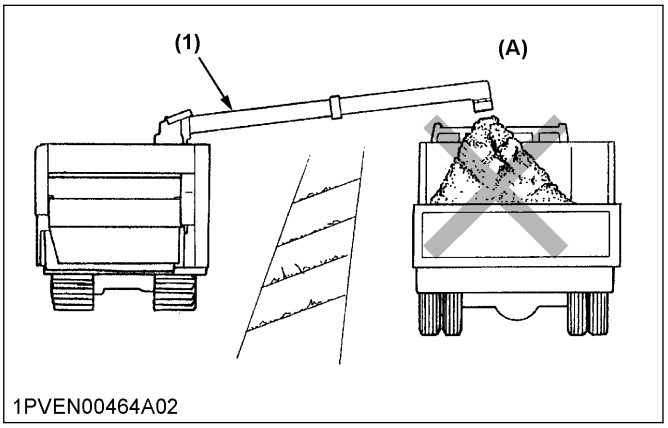
6. もみ排出クラッチレバーを“入”位置にし、もみを排出します。
排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。



(1) もみ排出クラッチレバー
(A) 入

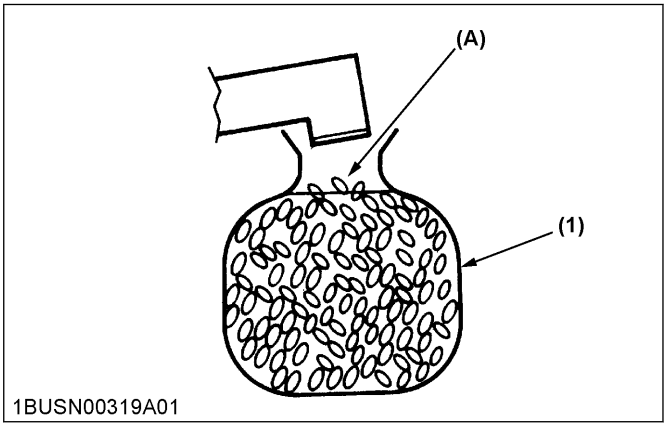
重要：
- **吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。**

アンローダ出口注意



(1) アンローダ
(A) 吐出口をふさがない

- **アンローダには、絶対に物を吊るさないでください。**
- **アンローダで袋詰め作業を行うとき、詰まり防止のため、袋に余裕のある状態で、もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。**



(1) もみ袋
(A) 余裕のあること

補足：
- **アンローダを折りたたんだ状態で、もみ排出クラッチレバーを“入”位置にすると、エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。また、エンジンを再始動するときは、メインスイッチのキーを[切]位置にし、5 秒以上待ってからメインスイッチのキーを[始動]位置まで回してください。**

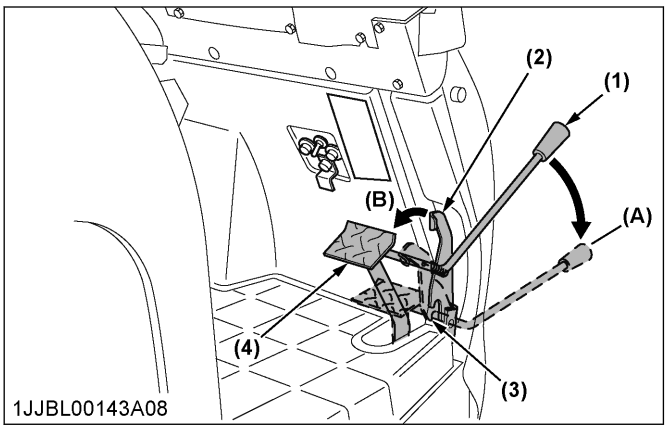
もみの排出終了後
1. もみ排出クラッチを“切”位置にし、排出を停止させます。
2. 停止スイッチまたはアンローダ手動スイッチを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補足：
- **アンローダ手動スイッチでアンローダを操作するときは、アンローダを最上昇位置にして旋回後、アンローダ受けに収納してください。**
- **アンローダ内にもみが残っていると、もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。**

8. 手刈りでの枕刈り脱こくのしかた

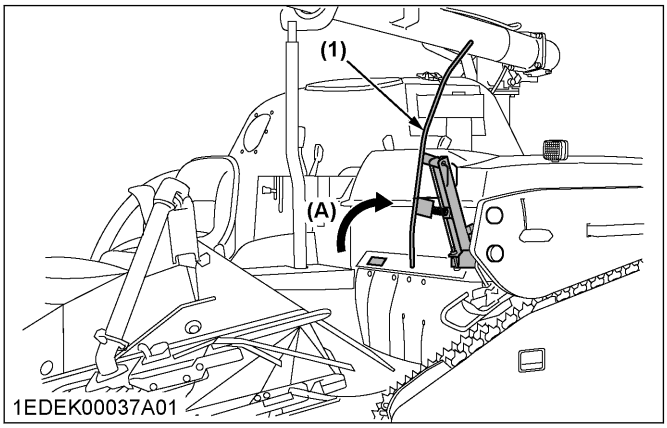
⚠ 警告
- **そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **コンバインは平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **刈取部は地面に接地させて、停止してください。**
- **手刈りで枕刈り脱こくするときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして、作物を少量ずつ供給してください。**
- **脱こく部入口プレートの上にたまったわらやもみなどの作物を脱こく部に押し込むときは、エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。**

1. 平たんな場所を選んで走行を停止します。
2. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にします。
3. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 駐車ブレーキレバーを下げ、ブレーキロックレバーを引いてフック部に掛けます。



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) ブレーキロックレバー
(3) フック部
(4) 駐車ブレーキペダル
(A) ロック（駐車ブレーキ位置）
(B) 引く

4. 作業スイッチを“切（消灯）”にします。
5. 供給ガイドを上げます。

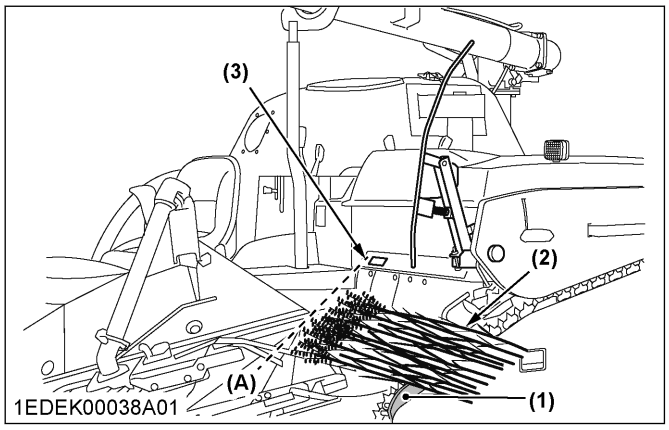


(1) 供給ガイド
(A) 上げる

6. 作業スイッチを“入”にします。

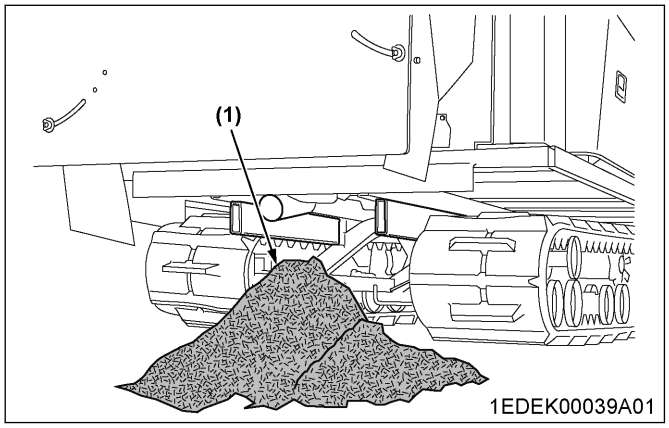
補足：
- **供給ガイドを上げると、自動的にエンジン回転数が少し下がります。**

7. 作物を少量ずつフィードチェーンに供給します。
   a. 枕こぎオートプレートに作物を乗せます。
   b. ▼ マークラベルに穂先先端を合わせます。



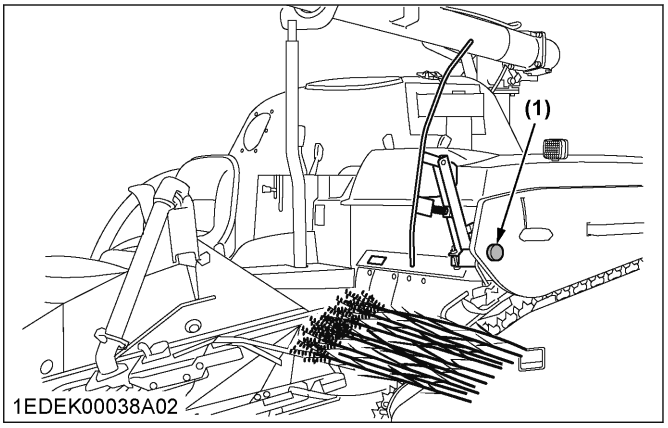
(1) 枕こぎオートプレート　　*(A)* 穂先先端を合わせる
(2) 作物
(3) ▼マークラベル

重要：
- **1 か所で多量の手こぎをすると、カッタやドロッパの下に排わらや切断わらが堆積し、カッタなどわら処理部が詰まる原因となりますので、機体を定期的に移動させてください。**
- **切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は、エンジンを必ず止めて取り除いてください。**



(1) わらくず

- **手刈り脱こく時に万一異物など混入物のかみ込みが発生したときは、エンジン停止スイッチを叩いてください。**
- **エンジン停止スイッチを押すと、エンジンが停止すると同時にブザーが鳴り、フィードチェーンが急停止し、こぎ胴が開きます。**
- **作業状態への復帰のしかたについては、機体の作業状態への復帰のしかた（54 ページ）を参照ください。**



(1) エンジン停止スイッチ

- **手こぎ作業終了後は、供給ガイドを下方（“作業位置”）に戻します。**
  “手こぎ位置”のまま作業すると、選別不良となるだけでなく、機械の故障の原因となります。

補足：
- **供給ガイドを戻すと、自動で刈取作業時の回転数に復帰します。**

9. 作業に合わせた各部の調整、調節のしかた

⚠ 警告
- **作業中の調整以外は、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから、調整、調節を行ってください。**
- **衣服など着衣の一部が回転部に巻き込まれ危険ですので、取り外した回転部のカバー類は必ず取り付けてください。**

⚠ 注意
- **平たんで安定した場所で行ってください。**
- **コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。**

9.1 刈取部の調整、調節

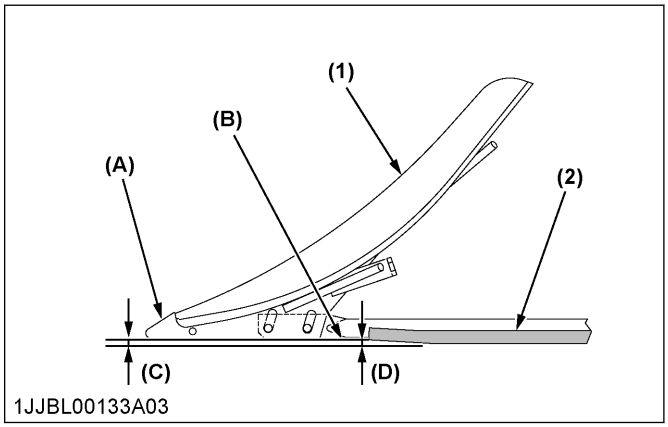
9.1.1 デバイダの上下調整

“出荷時”のデバイダ位置では、“ソリを地面に接地した刈取方法”と“デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法”のいずれの刈取方法でも行えます。
- “ソリを地面に接地した刈取方法”で刈取作業を行う場合は、必ずデバイダを“出荷時”の位置にセットしてください。
- “ソリを地面に接地した刈取方法”で刈取作業が行えない場合は、“デバイダ、ソリを地面から上げた刈取方法”で刈取作業を行ってください。
  （“ソリを地面に接地した刈取方法”ができない作業状況については、ソリを地面に接地した刈取方法の概要（91 ページ）を参照）

9.1.1.1 デバイダの出荷時の位置

“出荷時”のデバイダ位置は、ソリ底面からデバイダ先端下側の高さ、およびソリ底面からデバイダ後端の高さが次図のとおりです。

出荷位置

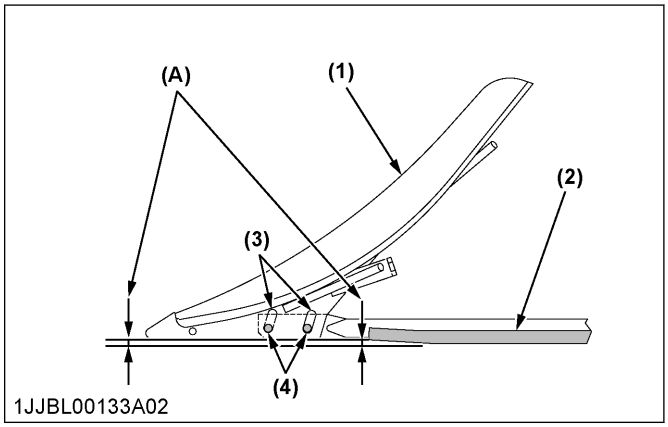


(1) デバイダ
(2) ソリ
(A) 先端
(B) 後端

(C)	ソリ底面からデバイダ先端下側の高さ	6 mm～8 mm
(D)	ソリ底面からデバイダ後端の高さ	0 mm～2 mm

“出荷位置”への調整のしかたは本項の手順のとおりです。

1. ナット 2 個をゆるめます。
2. デバイダ全体を長穴の下端部に溶接ボルトが接触するまで上げます。
3. デバイダが下がらない程度に後側のナットを仮締めします。
4. ソリの底面からデバイダの先端下側とデバイダ後端の高さをそれぞれ“出荷時”の高さに調整します。
5. ナット 2 個を締め付けます。
6. 他のデバイダもすべて同じ高さに調整します。

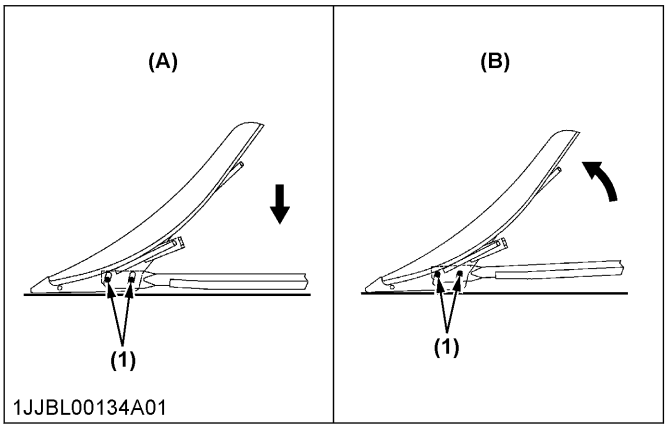


(1) デバイダ
(2) ソリ
(3) 長穴
(4) 溶接ボルト、ナット
(A) 出荷時の高さに調整

9.1.1.2 ソリを地面から上げて刈取作業を行う場合のデバイダ位置

次表の作物条件を目安にして、調整を行ってください。調整は、デバイダの出荷時の位置（105 ページ）を参照して同じ要領で行ってください。

作物、ほ場条件	デバイダのセット位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ全体を下げる (A)の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
倒伏刈りで刈残しがあるとき	デバイダ先端を下げる (A)または(B)の位置
株の引抜きが多いとき	



(1) 溶接ボルト、ナット

重要：

- **ソリを地面に接地して刈取作業を行うときは、必ず“出荷時”の位置にしてください。デバイダが地面に突っ込み、トラブルの原因となるおそれがあります。**

補足：

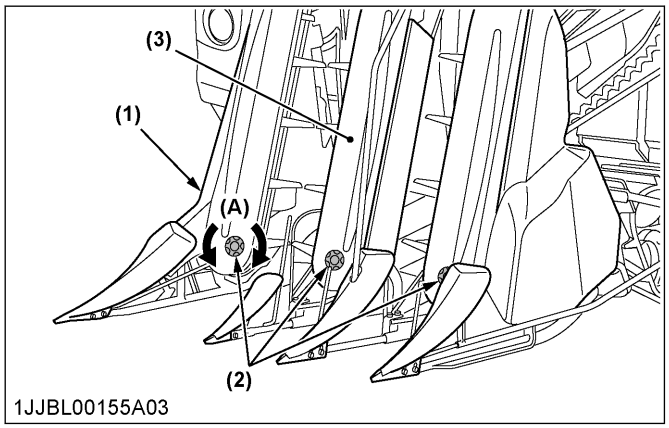
- **デバイダの上下高さは、すべてのデバイダを同じ高さにしてください。**

9.1.2 引起し爪高さの調節

作物条件に応じて、引起し爪が収納される位置の調節を行ってください。
調節は必ず“全条同じ位置”にしてください。

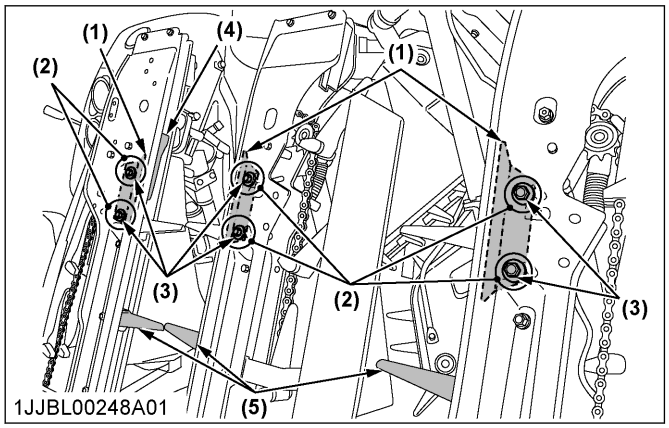
1. 引起しサイドカバー右を取り外します。

2. 引起しカバーのノブボルトを外して、引起しカバーをすべて外します。
   a. ノブボルトを外します。
   b. 引起しカバーを外します。



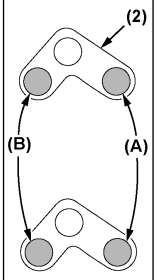
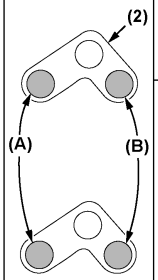
(1) 引起しサイドカバー右　　*(A)* 外す
(2) ノブボルト
(3) 引起しカバー

3. ナットを外して引起し爪ガイドを動かし調節します。



(1) 引起し爪ガイド　　*(3)* ナット
(2) 調節部（ガイド部）

(4)	引起し爪	収納状態
(5)		作動状態

(2)調節部（ガイド部）の調節位置			作物条件
右側	**中央、左側**		
		(A)	立毛状態の長かん作物
			立毛状態の標準かん長作物
			倒伏した作物
		(B)	立毛状態の標準かん長で脱粒や浮きわらが発生しやすい作物（過熟小麦など）
			立毛状態の短かん作物

補足：
- **出荷時は(A)の標準位置です。**
- **(B)の位置に調節する場合は、ナット 2 か所をゆるめて、上側のナットを(B)の位置で溝の上側に押し付けた状態で、下側のナットを締め付けてください。**

4. ナットを締め付けます。
5. 引起しカバーをすべて装着します。
6. ノブボルトを締め付けます。
7. 引起しサイドカバー右を取り付けます。

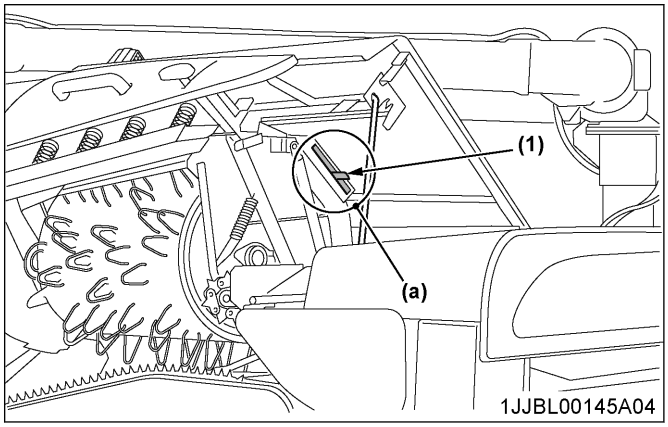
9.2 脱こく部の調整、調節

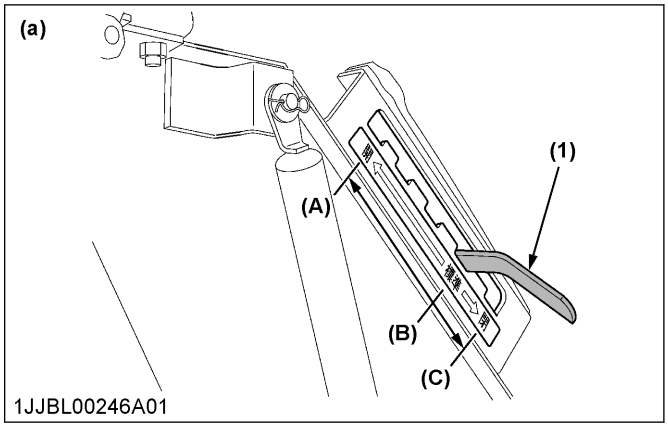
9.2.1 こぎ室送じん調節レバーの調節

1. こぎ胴を開きます。

2. 次表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現象（状態）、条件
“開” ⬆	• こぎ胴の負荷が大きく、ゴトゴトと大きな異音がする • 倒伏作物や濡れ作物の刈取り • 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い。
“標準”	
⬇ “閉”	• 選別が悪い。 – 芒、枝梗粒が多い – 穂切れ粒が多い – ササリ粒が多い • 排じんロス（もみの飛散）が多い





(1) こぎ室送じん調節レバー
(A) 閉
(B) 標準
(C) 開

3. こぎ胴を閉じます。

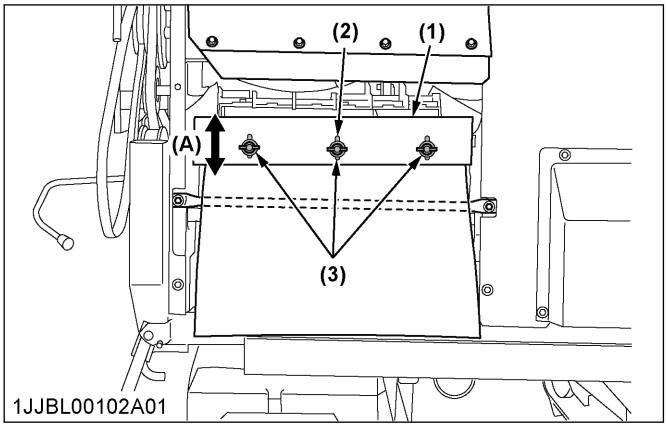
9.2.2 排じん調整板の調整

1. カッタ部を開きます。
（カッタ部の開閉（117 ページ）を参照）
2. 蝶ナット 3 個をゆるめます。

補足：
- **出荷時は、左、右の長穴横にある“標準位置合せマーク”位置に蝶ナットで締め付けています。**

3. 排じん調整板を動かして調整します。
次表を参照して排じん調整板を調整してください。

調節方向	現象（状態）
“上” ⬆	• 排じんロスが多い
“標準位置”	
⬇ “下”	• 濡れ作物の刈取り • 雑草が多い • 能率を上げる（高速刈取り）



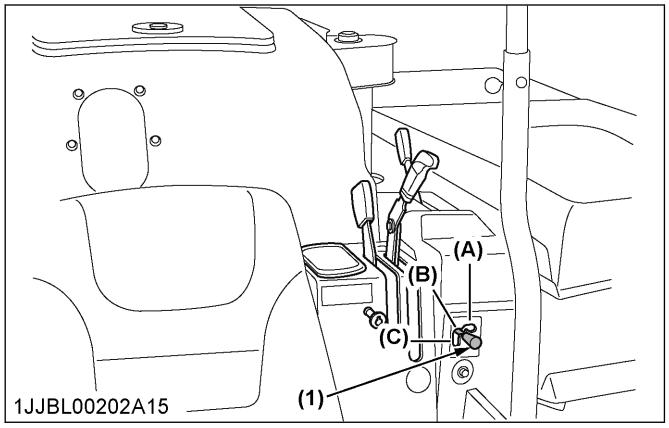
(1) 排じん調整板
(2) 長穴
(3) 蝶ナット
(A) 調整

4. 蝶ナットを締め付けて、カッタ部を閉じます。

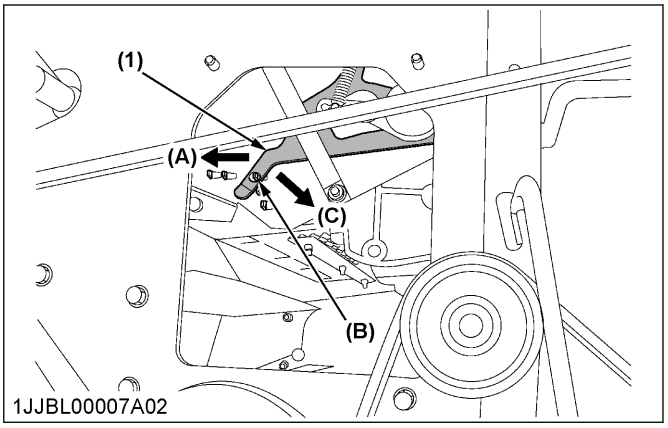
9.2.3 トウミの開度による風力とチャフ（選別板）のすき間の開度の調節

トウミの風力調節
作物の選別や飛散状態に合わせ、次表を参照してトウミ調節レバーで調節してください。

調節方向	現象（状態）
“強” ⬆	• 選別が悪い
“標準”	
⬇ “弱”	• 排じんロス（もみの飛散）が多い

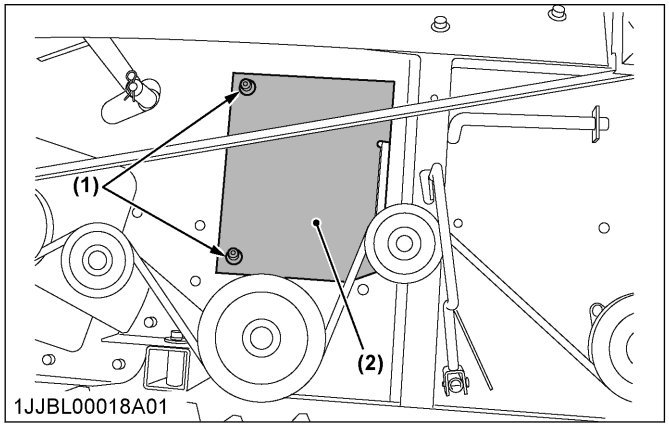


(1) トウミ調節レバー　　*(A)* 弱
(B) 標準
(C) 強



(1) チャフ調節レバー　　*(A)* 閉
(B) 標準
(C) 開

チャフ（選別板）のすき間調節
作物の選別や飛散状態に合わせ、次表を参照してチャフ調節レバーで調節してください。
1. 左サイドカバー上、下を取り外します。
2. ナット 2 個を取り外して 1 番スクリュ上部左掃除口の掃除口カバーを外します。



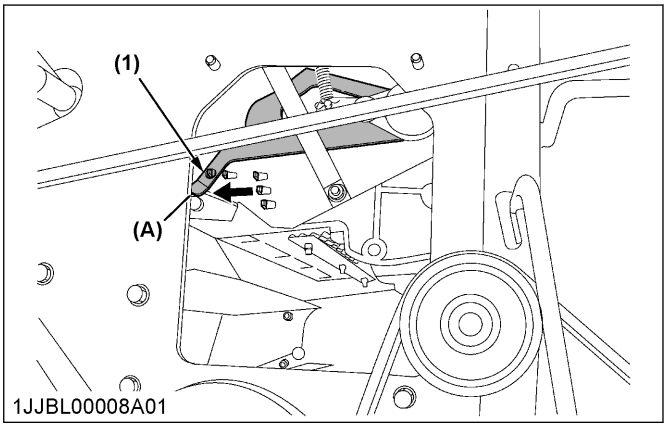
(1) ナット　　*(2)* *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー

3. チャフ調節レバーで調節します。

選別板すき間調節

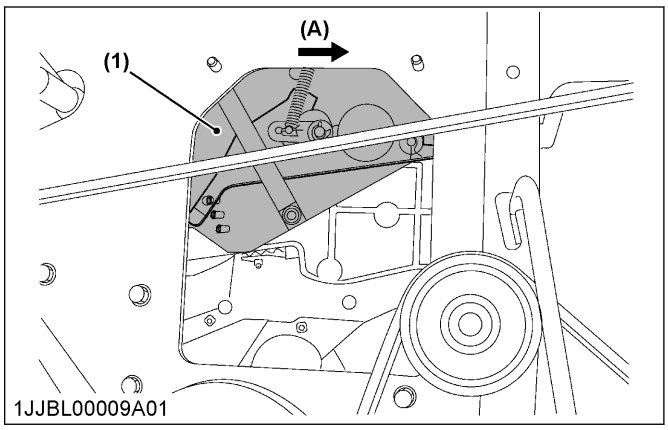
調節方向	現象（状態）
“閉” ⬆	• 選別が悪い • 小枝梗が多い
“標準”	
⬇ “開”	• 排じんロス（もみの飛散）が多い • 脱ぷが多い

補足：
- **チャフの調節は、脱こく機内にこく粒が残っていないときに行ってください。**
- **チャフ（選別板）のすき間はもみの量により自動開閉するようになっていますが、選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行ってください。**
- **“閉”方向に調節するときは、チャフ調節レバーを引いてください。**



(1) チャフ調節レバー　　*(A)* 閉

- **次図のような“閉”位置への調節がやりにくい位置の場合は、こぎ胴を回してシーブケースを後方に動かしてください。**



(1) シーブケース　　*(A)* 後方へ

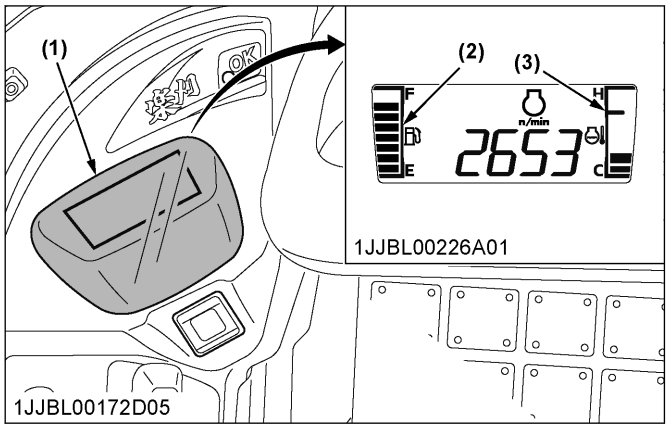
4. 掃除口カバーをナットで締め付けます。
5. 左サイドカバー（上、下）を取り付けます。

10. メータユニットによる異常の確認と処置

⚠ 警告

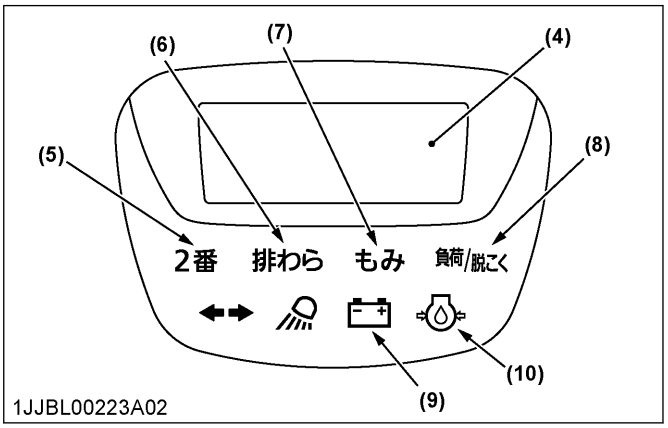
- **各部の点検やわら詰まりを取り除くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。**
- **エンジン停止直後は、エンジンに触ったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

メータユニットに警報が表示されたときは、次表を参照して処置してください。



(1) メータユニット
(2) 燃料計
(3) 水温計

(1)メータユニットの詳細



(4) 液晶ディスプレイ
(5) 2番ランプ
(6) 排わらランプ
(7) もみランプ
(8) 負荷／脱こくランプ
(9) 充電ランプ
(10) オイルランプ

燃料警報

警報 液晶表示	警報ブザー（吹鳴時間）	作業可能ランプ（OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
残り 1 目盛が点滅	○	点滅	燃料が少なくなっています。	燃料を補給します。	152

重要：

- **そのまま作業を続けると、“エンジンが停止します。”**

油圧警報

警報 ランプ表示	警報ブザー（吹鳴時間）	作業可能ランプ（OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
オイル ランプ 点灯	—	—	エンジンオイルの圧力が不足しています。	エンジンを停止後、オイル量を点検します。	153
				オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。	160
				バンドの増締めをします。	160

重要：

- **そのまま作業を続けると、“エンジンが焼付きを起こし停止します。”**
  購入先へ連絡してください。

充電警報

警報 ランプ表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置
充電ランプ 点灯	—	—	バッテリに充電されていません。	エンジンを停止後、次表の点検と処置をします。

充電発生時の点検と処置

点検箇所	現象	処置	参照ページ
ファン駆動ベルト	ゆるみ	張り調整	172
	破損などの異常	交換、調整	172
バッテリ	電圧低下	充電	188

重要：
- **そのまま作業を続けると、“バッテリ上りとなり、エンジンの始動ができなくなります。”**
- **バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは、交換してください。（バッテリの点検、交換（188 ページ）を参照）**

水温警報

警報 液晶表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置
目盛がすべて 点滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	エンジンの冷却水温が上昇しています。	エンジン停止後、30 分以上たってから次表の点検と処置をします。
			エンジン停止後、冷却水温が高温の状態です。	

水温警報発生時の点検と処置

点検箇所	現象	処置	参照ページ
冷却水量	不足	ラジエータ、リザーブタンクに清水を補給	158
	水漏れ	排水プラグ、ラジエータホースのバンドを増締め	158、160
ファン駆動ベルト	ゆるみ	張り調整	172
	破損などの異常	交換、調整	172
防じんあみ、ラジエータフィン	汚れ、詰まり	掃除して取り除く	161

重要：
- **そのまま作業を続けると、“エンジンが焼付きを起こし停止します。”**
  購入先へ連絡してください。

負荷警報

警報 ランプ表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
負荷／脱こくランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	エンジンや脱こく部に負担が掛かっています。	作業速度を落としてください。	51
				作業条件に合った調節や調整を行ってください。	98、106、107、107

重要：
- **そのまま作業を続けると、“エンジンが停止します。”**

シーブ警報

警報 ランプ表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置
負荷／脱こくランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	シーブケース上に詰まりが発生しています。	次表の順で処置します。
			刈取量が処理能力を超えています。	

シーブ異常時の処置

手順	処置	参照ページ
1	作業速度を落とします。	51
	⬇	
2	作業速度を落としても警報が解除されないときは、刈取作業を中止し脱こく機を空運転します。	53
	⬇	
3	空運転後も警報が解除されないときは、こぎ胴を開いてシーブ上の詰まりを取り除きます。	130

重要：

- **そのまま作業を続けると、“エンジンが停止します。”**

もみ満杯警報

警報 ランプ表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
もみランプ点滅	○ 断続 （処置後、またはホーンスイッチを押すと停止）	点滅	グレンタンク内のもみが満杯です。	刈取作業を中止し、もみを排出します。	100

重要：

- **そのまま作業を続けると、“グレンタンクからもみがあふれます。または、*1* 番スクリュが詰まります。”**

2 番警報

警報 ランプ表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
2 番ランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	2 番処理胴、2 番縦スクリュケース内が詰まっています。	2 番処理胴、2 番縦スクリュケースを掃除します。	130

重要：

- **そのまま作業を続けると、“エンジンが停止します。”**

排わら詰まり警報

警報 ランプ表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
エンジンが停止すると同時に自動的に表示します。					
排わらランプ点滅	○ 断続 （処置後、またはメインスイッチのキーが**[切]**で停止）	点滅	フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	こぎ胴を開いて、フィードチェーン終端部のわらを取り除きます。	115、199
			カッタ部にわらが詰まっています。	カッタの切換えカバーを開いて、わらを取り除きます。	199
			[オプションで結束機を付けた場合] 結束機のひも無し、ひも切れです。	新しいひものセット、ひもの再セットをします。	199
			[オプションで結束機を付けた場合] 結束機の結節部のビルにわらやひもが巻き付いているか、結束部にわらが詰まっています。	ビルからわらやひもを取り除きます。	

重要：

- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。**

緊急停止スイッチ

警報 液晶表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
"AL 0"表示	○ 断続 （メインスイッチのキーが**[切]**で停止）	点滅	緊急停止スイッチが押されています	メインスイッチのキーを**[切]**にした後、緊急停止スイッチを**[運転]**位置にしてください。	54
			エンジンが停止し、脱こく部が開き、フィードチェーン停止機構が作動します。		

供給ガイド戻し忘れ警報

警報 液晶表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
"AL 1"表示	○ 断続 （処置後停止）	点滅	供給ガイドが"手こぎ位置"の状態で刈取しています。	機械を停止し、供給ガイドを"作業位置"にしてください。	103

刈取下降ロック解除忘れ警報

警報 液晶表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
"AL 2"表示	○	点滅	刈取下降ロックスイッチが"ロック"位置の状態で、刈取下降操作している可能性があります。	刈取下降ロックスイッチを"解除"位置にしてください。	52

エンジン低回転警報

警報 液晶表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
"AL 3"表示	-	点滅	作業スイッチが点灯状態で、エンジン回転数が低いです。	アクセルレバーを手動で低回転の位置にした場合は、高回転の位置にしてください。	50
				アクセルワイヤの調整を確認してください。	144

もみクラッチ誤操作警報

警報 液晶表示	警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能ランプ （OK ランプ）	現象	処置	参照ページ
“AL 4”表示	○ 断続 （メインスイッチのキーが**[切]**で停止）	点滅	アンローダを折りたたんだまま、もみ排出クラッチの操作をしています。	アンローダを伸ばしてから、もみ排出クラッチを操作してください。	86
			エンジンが停止します。		

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた

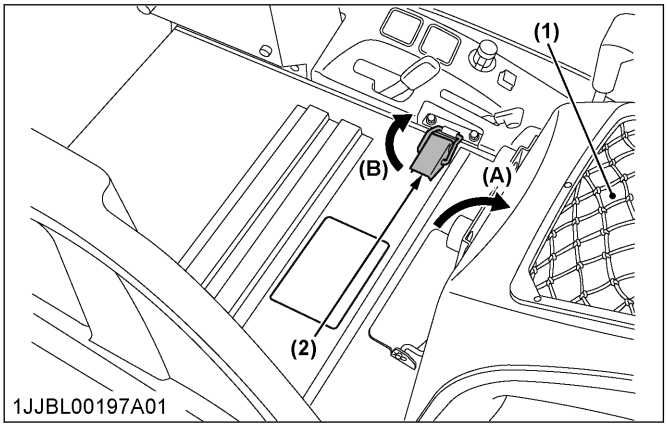
⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、機械の移動や各部を動かすとき以外は、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜き、駐車ブレーキを掛けてから行ってください。**
- **傾斜地では、開閉や脱着を行わないでください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

1. エンジンルームの開閉

⚠ 警告
- **オーバーヒートなどの異常でエンジンルームを開けて点検、整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **作業を中止します。**
  2. **エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転します。**
  3. **エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜きます。**
  4. **エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンルームを開けます。**
  5. **点検、整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性が無いことを確認します。**
- **エンジンが冷えていないときにエンジンルームを開けると、ラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

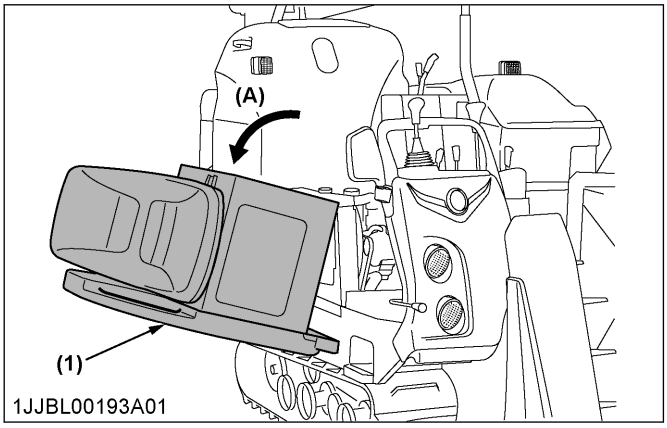
1.1 エンジンルームを開く方法

1. 運転席を前方に倒します。
2. クランプを外します。



(1) 運転席　*(A)* 倒す
(2) クランプ　*(B)* 外す

3. エンジンルームを開きます。



(1) エンジンルーム　*(A)* 開く

1.2 エンジンルームを閉じる方法

1. エンジンルームを閉じます。
2. クランプをロックします。

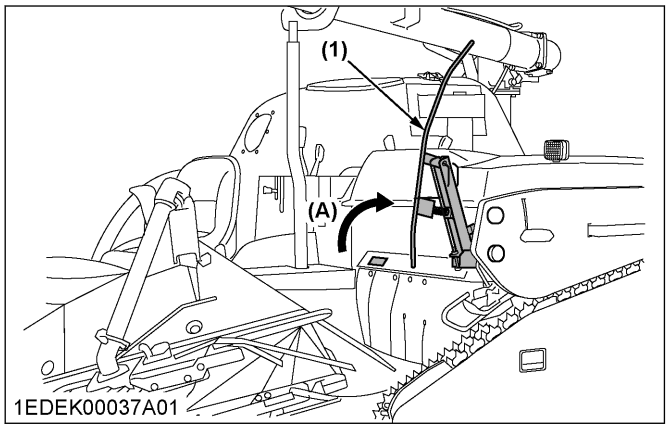
2. こぎ胴の開閉

⚠ 警告
- **こぎ胴を開閉するときは、平たんで安全な場所で行ってください。**
- **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **こぎ胴を開いて、受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは、こぎ胴が落下して身体が挟まれるおそれがあるので、オープンストッパで必ず固定してください。**
- **傾斜地では、こぎ胴の開閉は行わないでください。**

- **こぎ胴を開いた状態で走行しないでください。**
- **こぎ胴の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

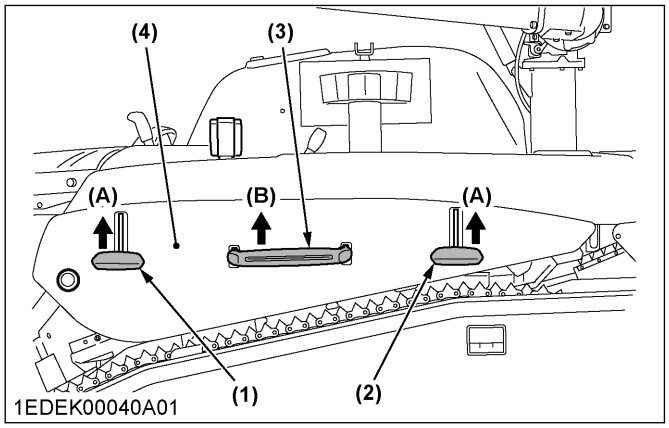
2.1 こぎ胴を開く方法

1. 供給ガイドを上げます。



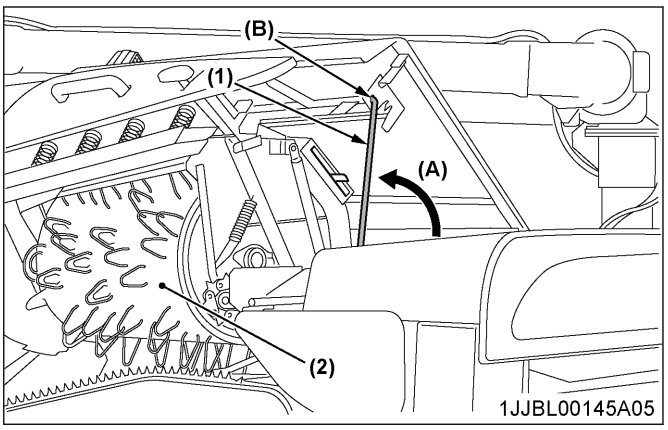
(1) 供給ガイド　　*(A)* 上げる

2. こぎ胴を開きます。
   a. ロックハンドル前、後を上に上げます。
   b. オープンハンドルを持ってこぎ胴カバーを押し上げます。



(1) ロックハンドル前　　*(A)* 上げる
(2) ロックハンドル後　　*(B)* 押し上げる
(3) オープンハンドル
(4) こぎ胴カバー

   c. オープンストッパを取付穴に差し込みます。



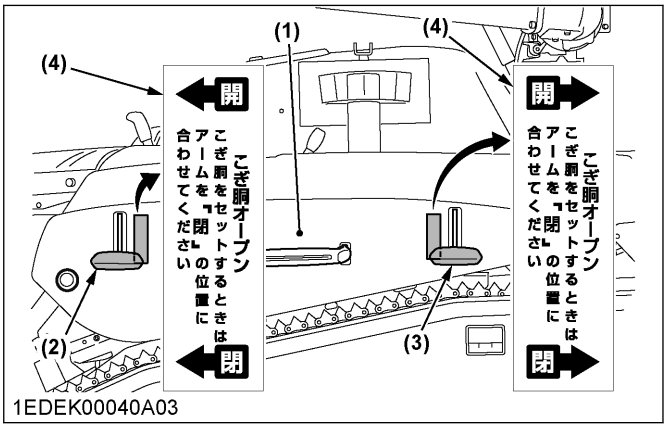
(1) オープンストッパ　　*(A)* 上げる
(2) こぎ胴　　*(B)* 取付穴に差し込む

2.2 こぎ胴を閉じる方法

1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って、こぎ胴カバーを押し下げます。

重要：

- **こぎ胴カバーを閉じたとき、ロックハンドル前と後が、ロックハンドル横の[開]⟷[閉]ラベルの[閉]の位置にあることを確認してください。[閉]の位置以外で作業を行うと、こぎ室フレームが変形することがあります。**



(1) こぎ胴カバー　　*(4)* 開 ⟷ 閉ラベル
(2) ロックハンドル前
(3) ロックハンドル後

3. 供給ガイドを下げます。

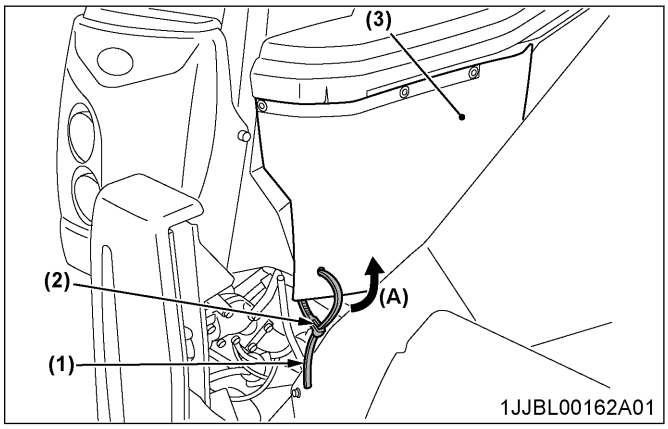
3. レバーガイドシートの開閉

刈取部側から運転席下側のメンテナンスを行うとき、レバーガイドシートをめくり上げて（開いて）から作業を行ってください。

3.1 レバーガイドシートを開く方法

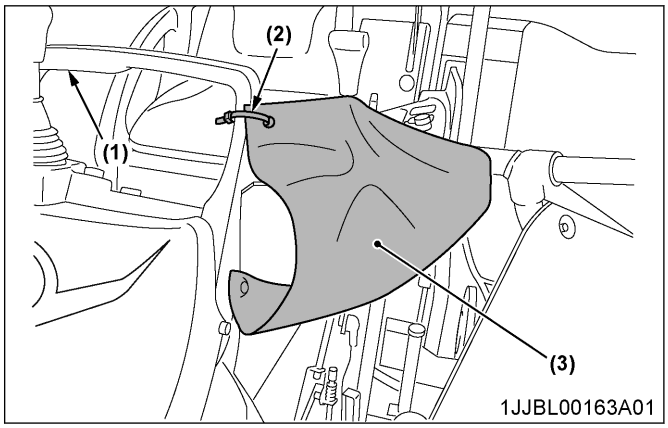
1. 刈取部を地面に降ろします。
2. エンジンを停止します。

3. コードバンドを取り外したあと、レバーガイドシートをめくり上げます。
   a. コードバンドのロック解除部を押しながらバンドを外します。
   b. レバーガイドシートをめくり上げます。



(1) コードバンド
(2) ロック解除部
(3) レバーガイドシート
(A) めくり上げる

4. ハンドルに、取り外したコードバンドでレバーガイドシートを共締めして固定します。



(1) ハンドル
(2) コードバンド
(3) レバーガイドシート

3.2 レバーガイドシートを閉じる方法

開く方法と逆の手順でレバーガイドシートを閉じてください。
（レバーガイドシートを開く方法（116 ページ）を参照）

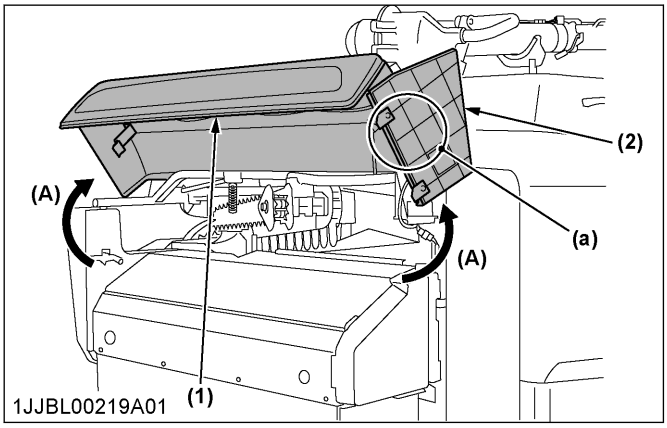
重要：
- **レバーガイドシートはコードバンドで必ず固定してください。**

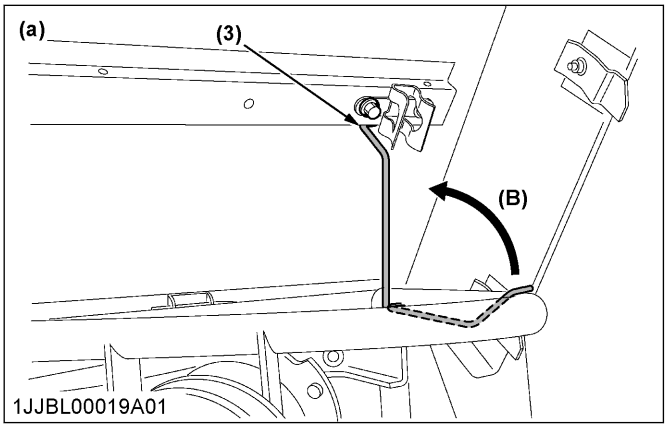
4. カッタ部の開閉

⚠ 警告
- **カッタ部を開いているときは、カッタの刃先に注意してください。**
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。**
- **カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、カッタ部の開閉をしないでください。**
- **カッタ部を開いて掃除をするときは、ステーで必ず固定してください。**
- **厚手の手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

4.1 カッタ部を開く方法

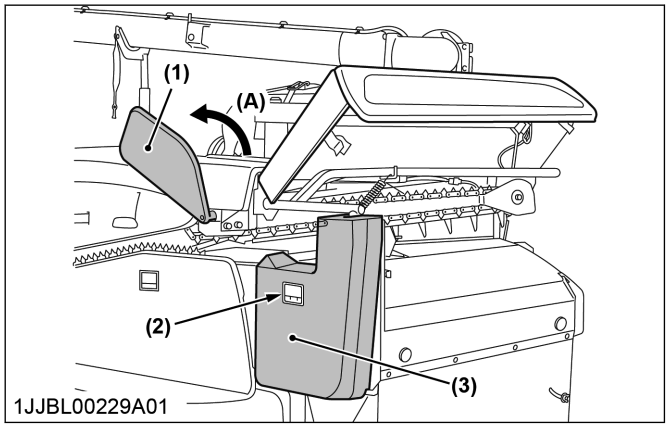
1. 上部カバーを上げて、カバーステーをセットしたあと、穂先カバーを上げます。
   a. 上部カバーを上げます。
   b. カバーステーをセットします。
   c. 穂先カバーを上げます。





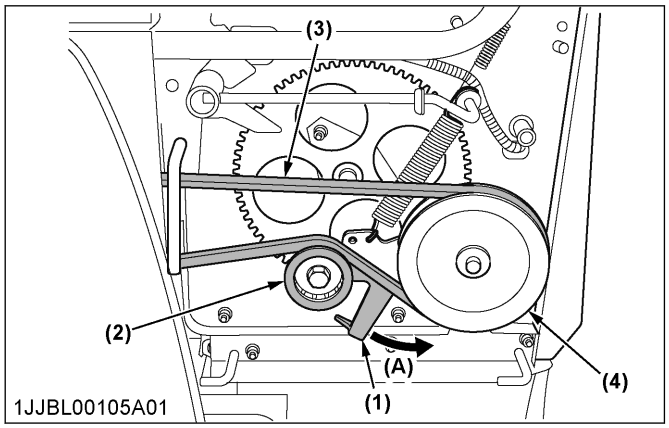
(1) 排わら上部カバー
(2) 穂先カバー
(3) カバーステー
(A) 上げる
(B) セット

2. 取手を引いてカッタ左サイドカバー後を外します。
   a. カッタ回動カバーを回動します。
   b. カッタ左サイドカバー後を取り外します。



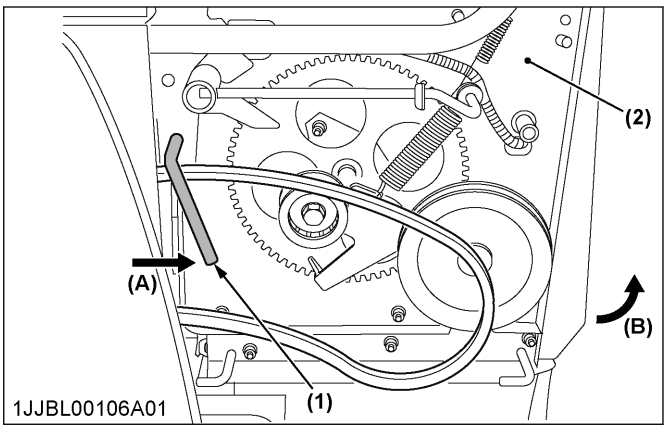
(1) カッタ回動カバー　　*(A)* 回動
(2) 取手
(3) カッタ左サイドカバー後

3. カッタ部を開きます。
   a. カッタテンションアームを引き、テンションローラを下げます。
   b. カッタ駆動ベルトをプーリから外します。



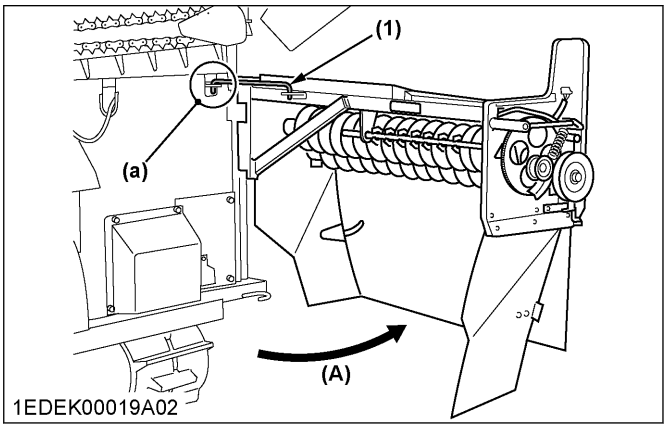
(1) カッタテンションアーム　　*(A)* 引く
(2) テンションローラ
(3) カッタ駆動ベルト
(4) プーリ

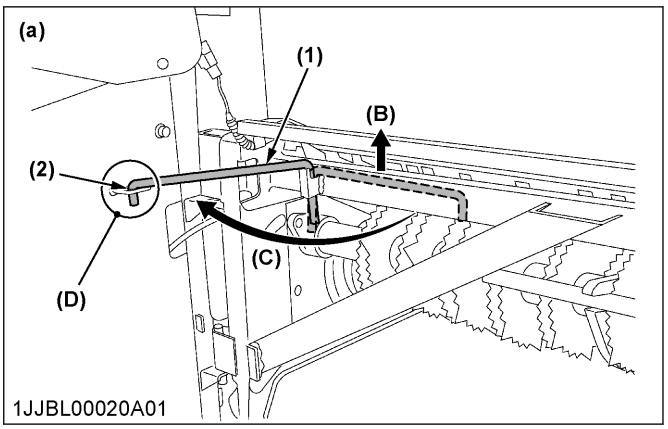
   c. オープンフックを引きながらカッタ部を開きます。



(1) オープンフック　　*(A)* 引く
(2) カッタ部　　*(B)* 開く

   d. オープンストッパを取付穴に差し込みます。





(1) オープンストッパ　　*(A)* 開く
(2) 取付穴　　*(B)* 上げる
(C) 回す
(D) 取付穴に差し込む

重要：
- **カッタ部を開きすぎないでください。開きすぎると、破損の原因となります。**

4.2 カッタ部を閉じる方法

開く方法と逆の手順でカッタ部を閉じてください。
（カッタ部を開く方法（117 ページ）を参照）

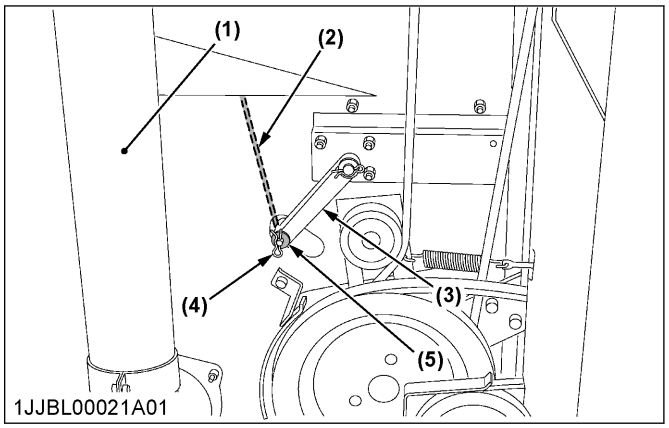
重要：
- **カッタ部を閉じたあとは、オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。**
- **カッタ駆動ベルトはオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。**

5. シーブケースの脱着

警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから脱着を行ってください。**
- **脱着作業は、合図を掛け合って二人以上で行ってください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

5.1 シーブケースの抜出し方法

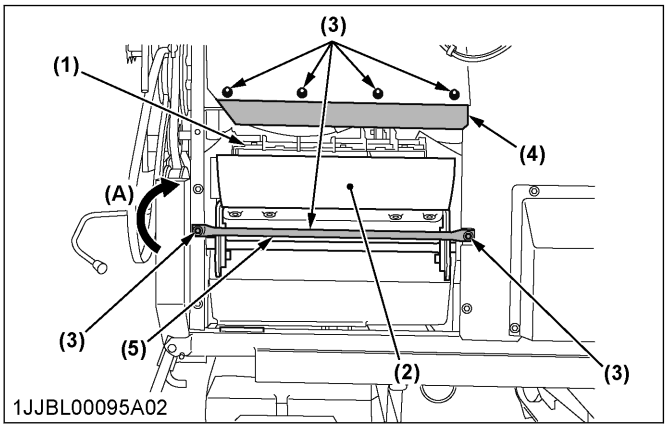
1. こぎ胴を開きます。
   （こぎ胴の開閉（115 ページ）を参照）
2. 左サイドカバー上、下、およびカッタ左サイドカバーを取り外します。
   （左サイドカバー上、下の取外し方法（124 ページ）、カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照）
3. 揺動アーム軸を抜く準備をします。
   a. グレンタンクを開きます。
      （グレンタンクの開閉（128 ページ）を参照）
   b. 1 番縦スクリュ軸前方にある、揺動アーム軸のスナップピンと平座金を取り外します。



(1) 1 番縦スクリュ軸
(2) 揺動アーム軸
(3) 揺動アーム
(4) スナップピン
(5) 平座金

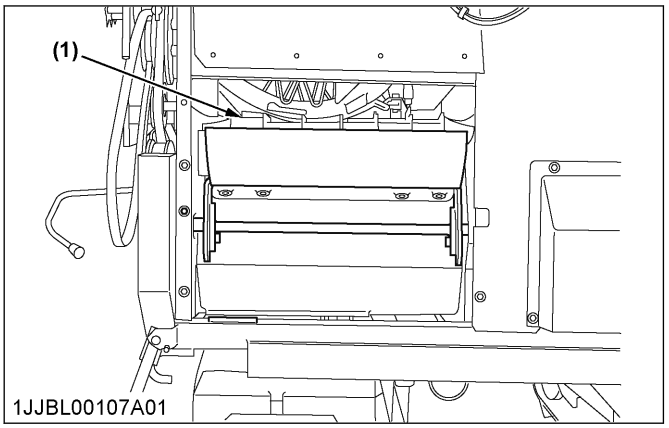
補足：
- **揺動アーム軸を後の工程で取り外すとき、かたくて引き抜きにくい場合がありますので、そのときは、揺動アームを取り外すと、揺動アーム軸が引き抜きやすくなります。**

   c. グレンタンクを閉じます。
4. カッタ部を開きます。
   （カッタ部の開閉（117 ページ）を参照）
5. シーブケースを引き出す準備をします。
   a. シール 5 をシーブケース上にめくり上げます。
   b. ボルトを外して排じんプレートと側板つなぎステーを取り外します。



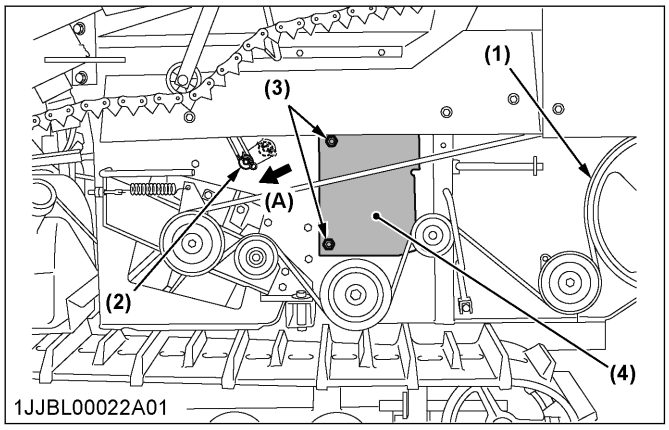
(1) シーブケース
(2) シール *5*
(3) ボルト
(4) 排じんプレート
(5) 側板つなぎステー
(A) めくり上げる

シーブケース引出し準備状態



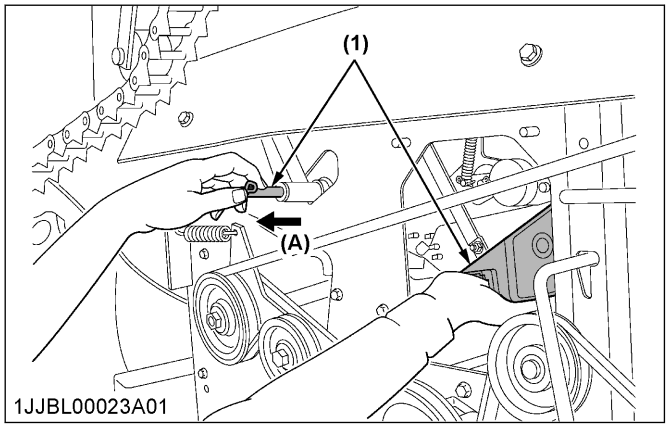
(1) シーブケース

6. 揺動アーム軸を手前側に引き抜きます。
   a. こぎ胴を回して、揺動アーム軸を前方へ動かします。
   b. ナットを外して掃除口カバーを取り外します。



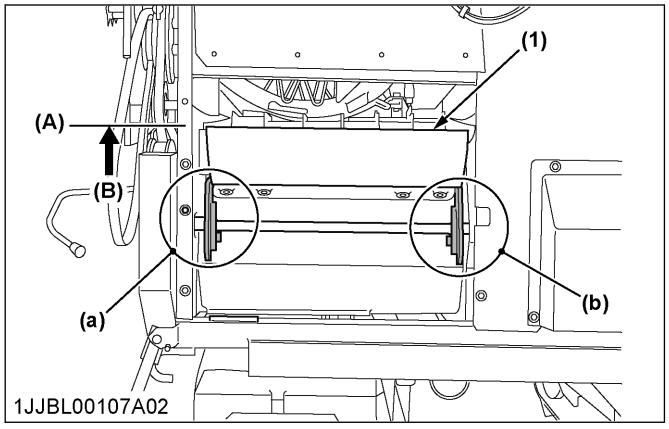
(1) 揺動プーリ
(2) 揺動アーム軸
(3) ナット
(4) 掃除口カバー
(A) 前方へ動かす

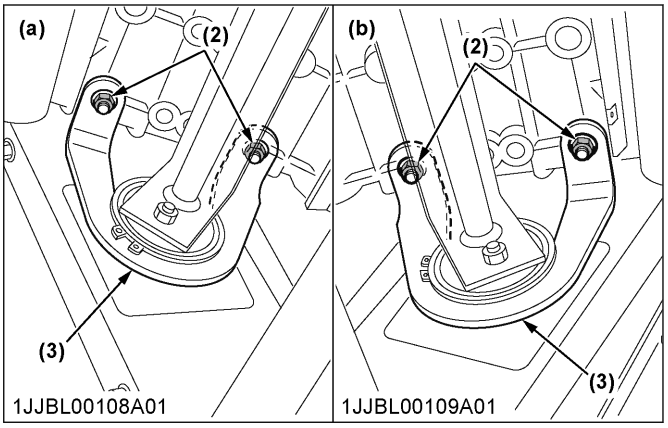
   c. シーブケースを持ち上げながら、揺動アーム軸を手前に引きます。



(1) 揺動アーム軸
(A) 引く

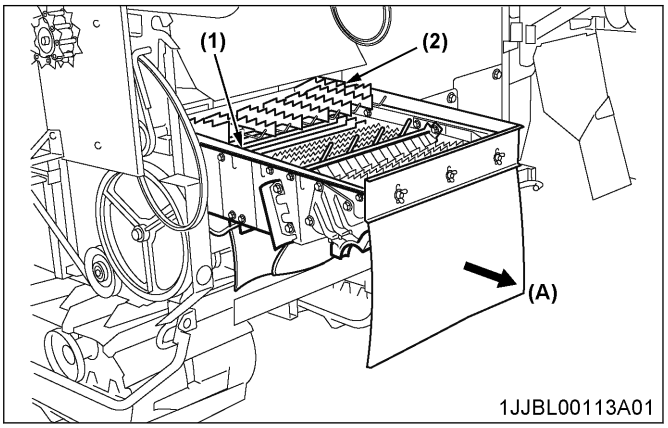
7. こぎ胴を回してシーブケースを“最上昇”位置にします。
8. ナットを取り外して左、右の揺動ブラケットを外します。





(1) シーブケース
(2) ナット
(3) 揺動ブラケット
(A) 最上昇位置
(B) 上げる

9. シーブケースを引き出します。

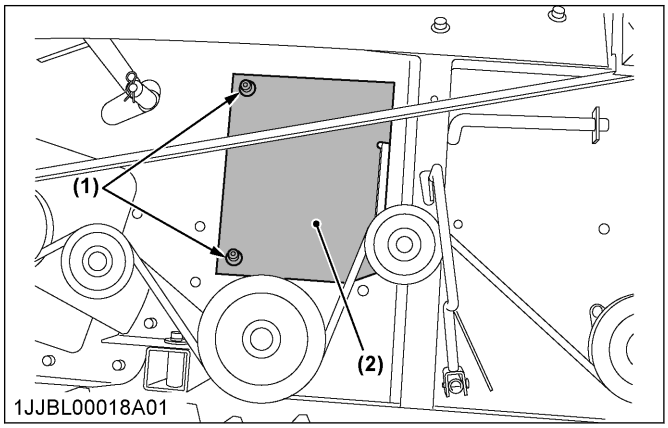


(1) シーブケース
(2) ストローラック
(A) 引き出す

補足：
- **ストローラックの引掛かりに注意してください。**

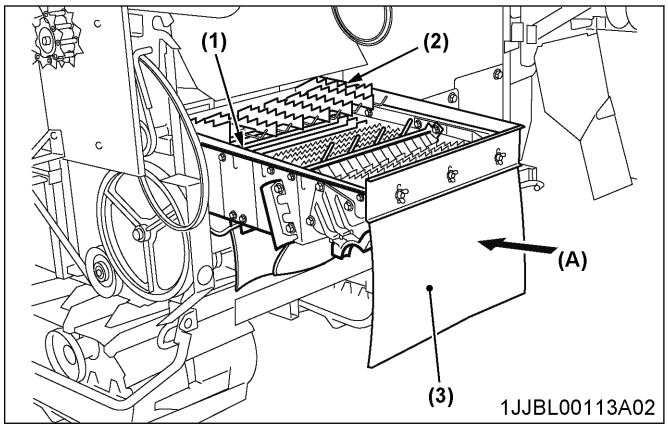
5.2 シーブケースの取付け方法

1. ナットを取り外して 1 番スクリュ上部左掃除口カバーを取り外します。



(1) ナット
(2) *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー

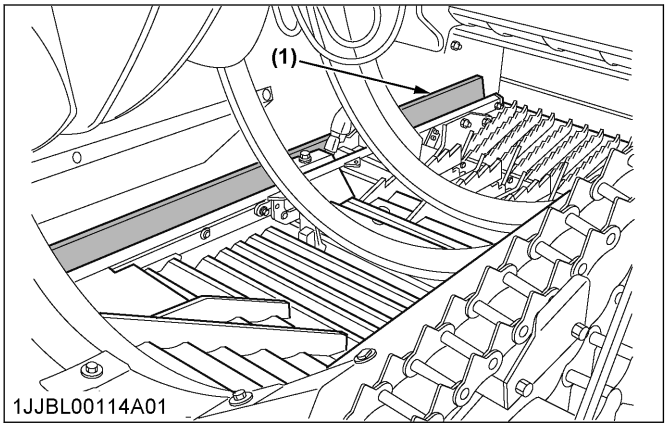
2. シーブケース後部のシール 5 をシーブケース上にめくり上げます。
3. シーブケースをそう入します。



(1) シーブケース
(2) ストローラック
(3) シール *5*
(A) そう入

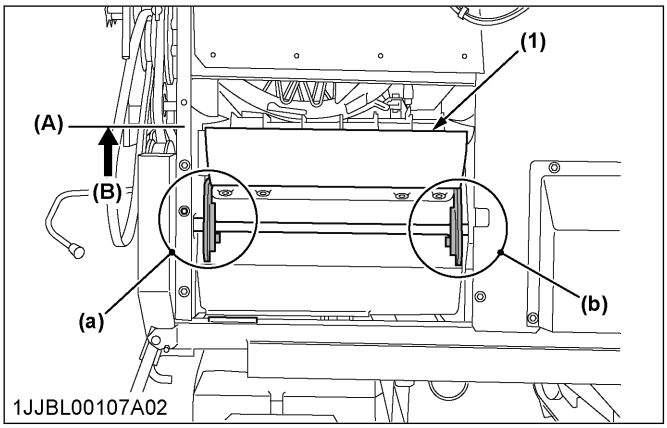
重要 :

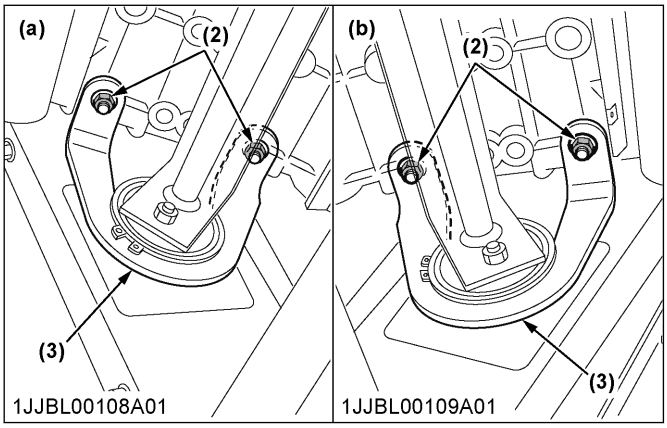
- **ストローラックの引掛かりに注意してください。**
- **シーブケースのそう入途中で、大きく上下動させないでください。**
- **そう入したあとこぎ胴を開いて、受あみを外し、シーブケースのシール（サイド）左、右が下側に折れ曲がっているときは、シール（サ イド）左、右の先端が上側になるようにしてください。**



(1) シール（サイド）

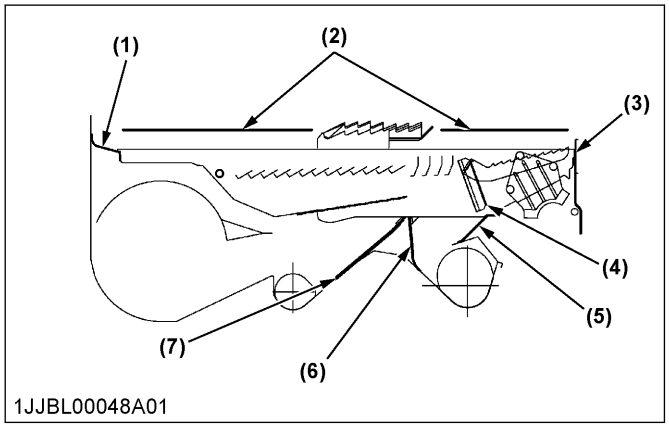
4. こぎ胴を回してシーブケースを“最上昇位置”にします。
5. 左、右の揺動ブラケットの組付け方向を合わせてナットを締め付けます。





(1) シーブケース
(2) ナット
(3) 揺動ブラケット
(A) 最上昇位置
(B) 上げる

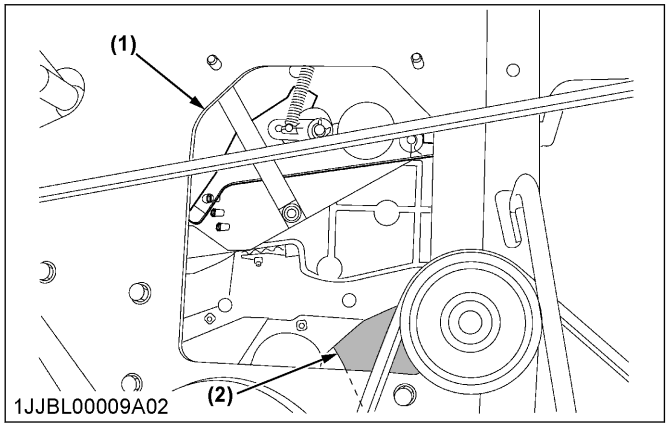
6. シール各部を次図のようにセットします。



(1) シール *1*
(2) シール（サイド）
(3) シール *5*
(4) シール *7*
(5) シール *4*
(6) シール *3*
(7) シール *2*

補足：

- **シール 2 は、1 番スクリュ上部掃除口カバーを取り外したあと、1 番スクリュ上部掃除口より手を入れて次図のようにセットします。**



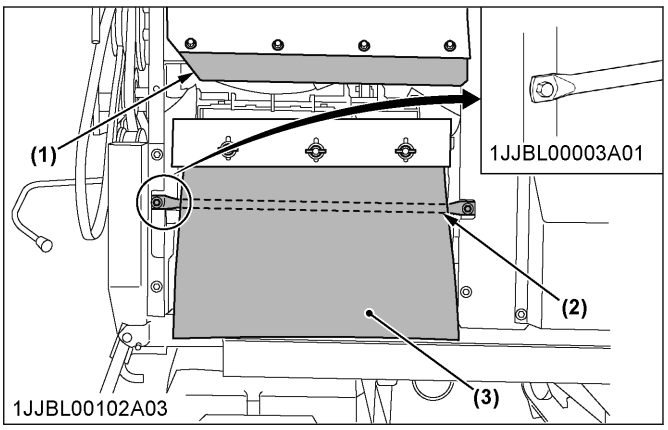
(1) *1* 番スクリュ上部掃除口
(2) シール *2*

7. 1 番縦スクリュ上部掃除口カバーを取り付けます。
8. 揺動アーム軸を揺動アームに通して取り付けます。
9. 平座金とスナップピンを取り付けます。
10. 排じんプレートおよび側板つなぎステーを取り付けます。

補足：

- **側板つなぎステーを取り付けるときは、取付方向に注意してください。**

11. シール 5 をセットし、カッタ部を閉じます。



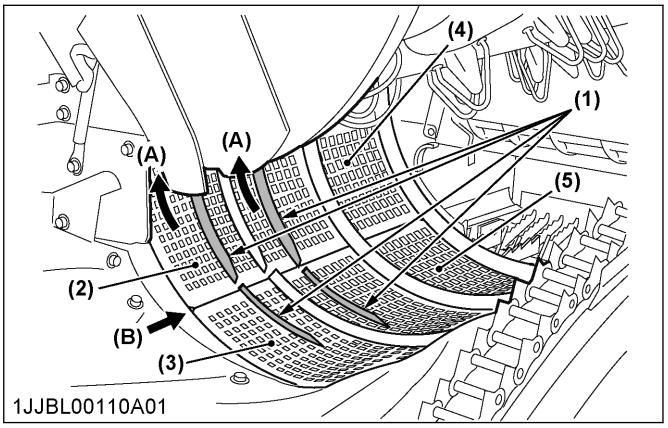
(1) 排じんプレート
(2) 側板つなぎステー
(3) シール *5*

12. 左サイドカバー上、下およびカッタ左サイドカバーを取り付けます。
13. こぎ胴を閉じます。

6. 受あみの脱着

抜出し方法

1. こぎ胴を開きます。
   （こぎ胴の開閉（115 ページ）を参照）
2. 受あみ 1、2 の各（上）、（下）を取り外します。
   a. 弓金を持ち上げます。
   b. 弓金を手前に引いて受あみ 1（上）、受あみ 2（上）を取り外します。
   c. 受あみ 1（下）、受あみ 2（下）を取り外します。



(1) 弓金
(2) 受あみ *1*（上）
(3) 受あみ *1*（下）
(4) 受あみ *2*（上）
(5) 受あみ *2*（下）
(A) 持ち上げる
(B) 取付け時にすき間が無いこと

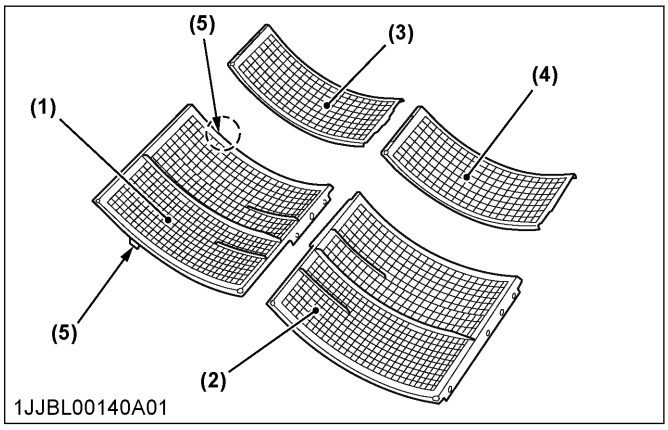
取付け方法

1. 抜出し方法と逆の手順で受あみ（下）から取り付けます。

重要：

- **取り付けたときに受あみ（上）、（下）の間にすき間があったり、受あみ（上）、（下）を逆に組み付けると、脱こく部の故障の原因となります。**

- **受あみが確実に取り付いていることを確認してください。**
- **受あみ（上）、（下）それぞれ 2 種類あります。受あみ（上）にはフックがあります。**



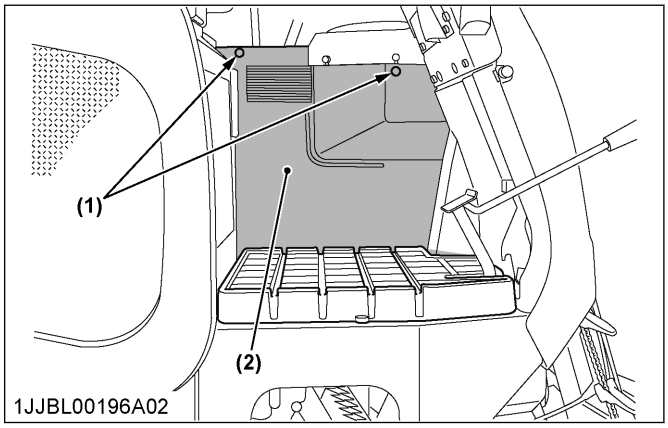
(1) 受あみ *1*（上）
(2) 受あみ *1*（下）
(3) 受あみ *2*（上）
(4) 受あみ *2*（下）
(5) フック

2. こぎ胴を閉じます。

7. 運転席左側板の脱着

7.1 運転席左側板の取外し方法

樹脂ボルト 2 本を取り外して、運転席左側板を取り外します。



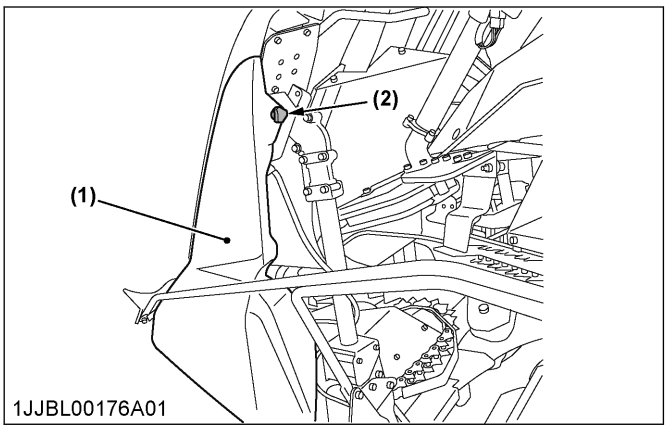
(1) 樹脂ボルト
(2) 運転席左側板

8. 引起しサイドカバーの脱着

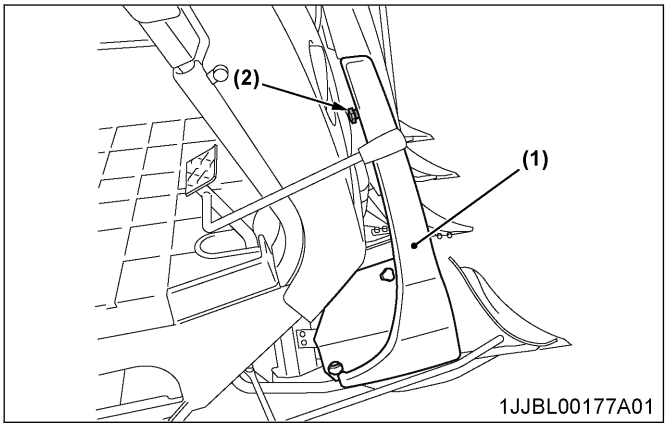
刈取部を地面まで降ろして行ってください。

8.1 引起しサイドカバーの取外し方法

1. ノブボルトをゆるめて引起しサイドカバーを取り外します。



(1) 引起しサイドカバー左
(2) ノブボルト



(1) 引起しサイドカバー右
(2) ノブボルト

8.2 引起しサイドカバーの取付け方法

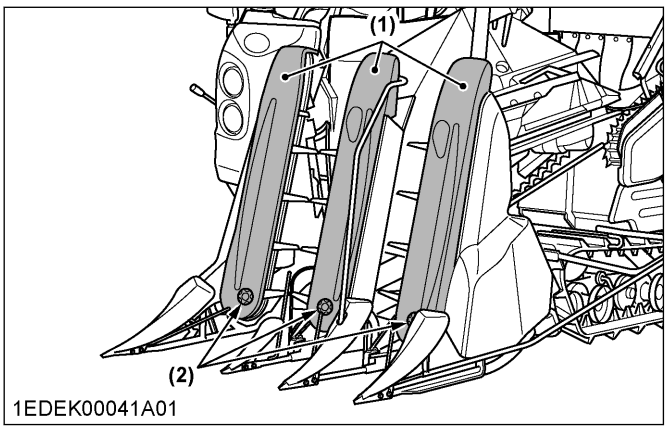
1. 引起し爪をすべて上側に倒します。
2. 引起しサイドカバーを取り付けます。

9. 引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行ってください。

9.1 引起しカバーの取外し方法

1. ノブボルトを外します。
2. 引起しカバーを少し持ち上げて取り外します。

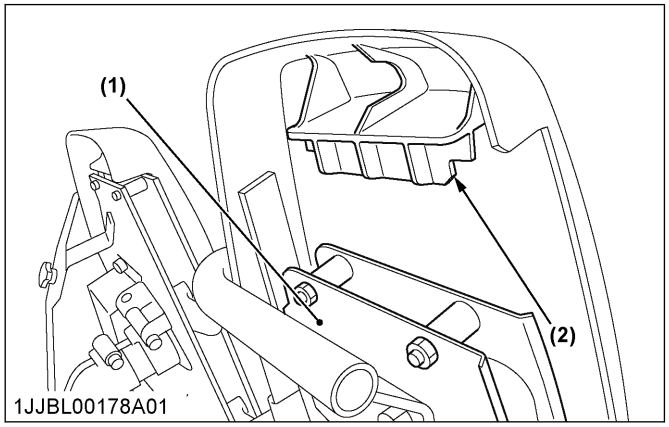


(1) 引起しカバー
(2) ノブボルト

9.2 引起しカバーの取付け方法

1. 引起しカバーを取り付けて、ノブボルトを締め付けてロックします。

補足：
- **引起しカバーを取り付けるとき、上部にある差込み金具に引起しカバーの突起部を差し込んでください。**



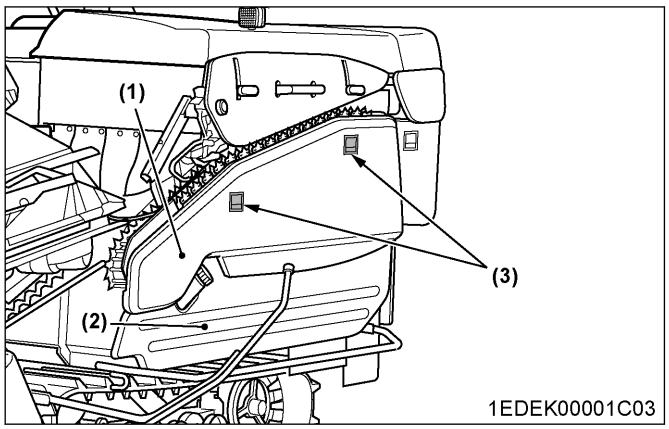
(1) 差込み金具　　*(2)* 突起部

10. 左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの脱着

10.1 左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの取外し

10.1.1 左サイドカバー上、下の取外し方法

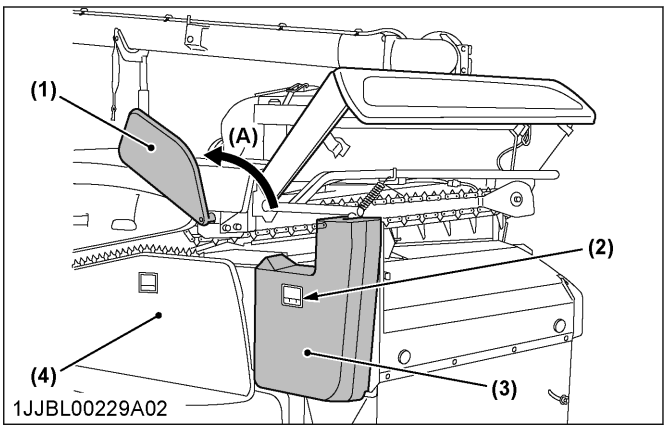
1. それぞれ取手を引いて取り外します。



(1) 左サイドカバー上　　*(3)* 取手
(2) 左サイドカバー下

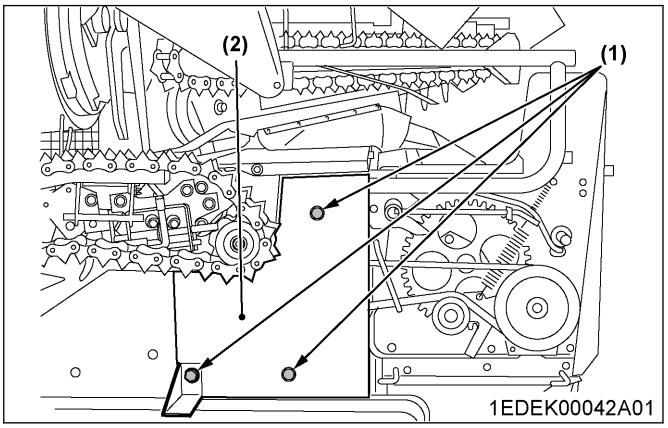
10.1.2 カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法

1. カッタ回動カバーを回動します。
2. 取手を引きカッタ左サイドカバーを取り外します。
3. 左サイドカバー上を取り外します。



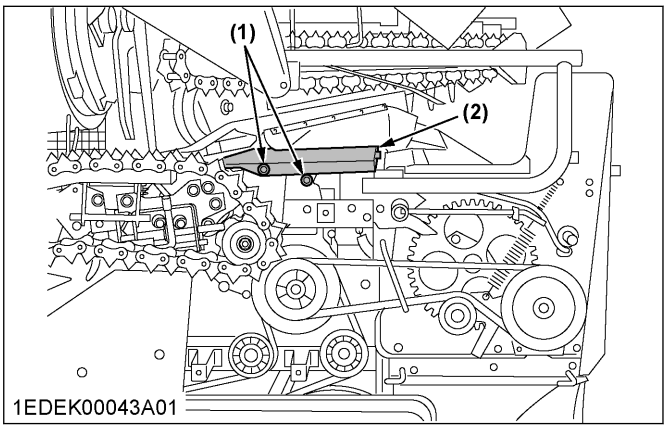
(1) カッタ回動カバー　　*(A)* 回動
(2) 取手
(3) カッタ左サイドカバー
(4) 左サイドカバー上

4. 左サイドカバー内 1 のボルトを取り外します。
5. 左サイドカバー内 1 を外します。



(1) ボルト　　*(2)* 左サイドカバー内 *1*

6. 左サイドカバー内 2 のボルトを取り外します。
7. 左サイドカバー内 2 を外します。



(1) ボルト　　*(2)* 左サイドカバー内 *2*

10.2 左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの取付け方法

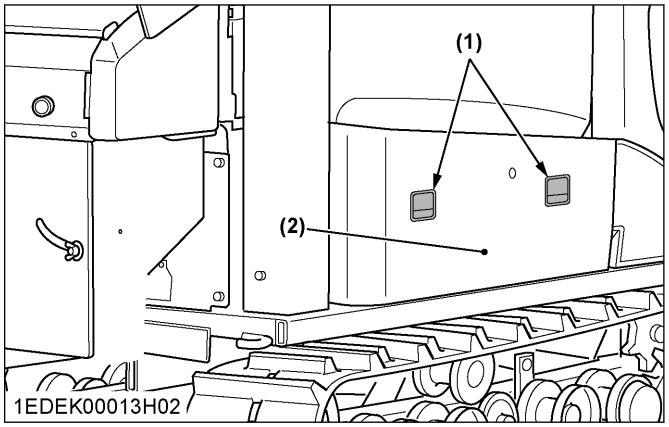
取外し方法の逆の手順で各左サイドカバーを取り付けてください。

（左サイドカバー上、下の取外し方法（124 ページ）、カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照）

11. グレンタンク下カバーの脱着

11.1 グレンタンク下カバーの取外し方法

1. 取手を引きます。
2. そのままグレンタンク下カバーを取り外します。



(1) 取手　　*(2)* グレンタンク下カバー

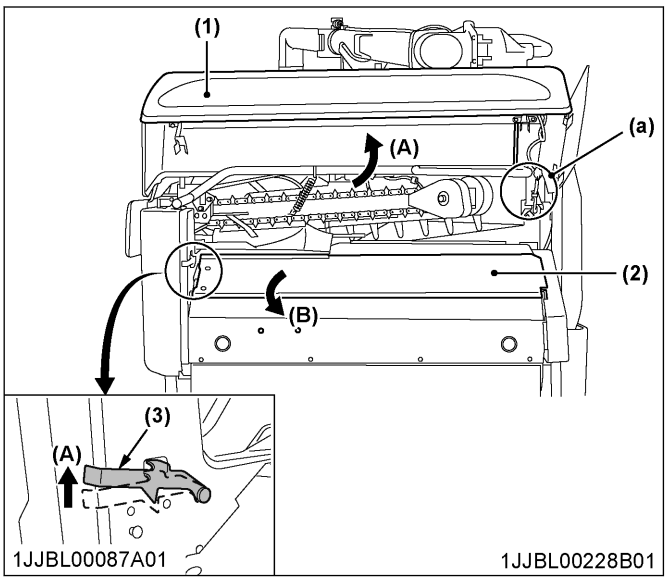
11.2 グレンタンク下カバーの取付け方法

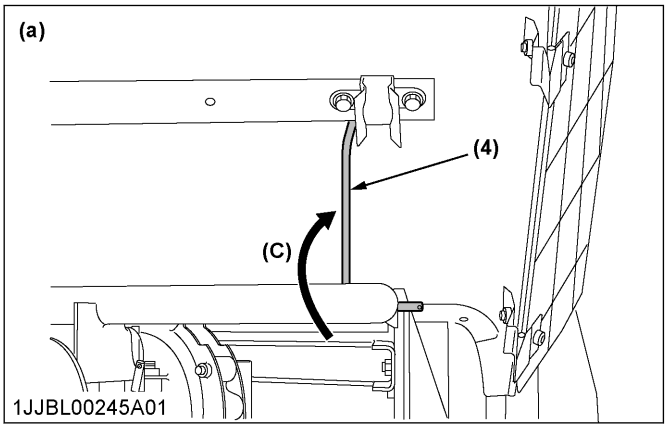
取外し方法と逆の手順でグレンタンク下カバーを取り付けます。
（グレンタンク下カバーの取外し方法（125 ページ）を参照）

12. カッタ切換えカバーの開閉

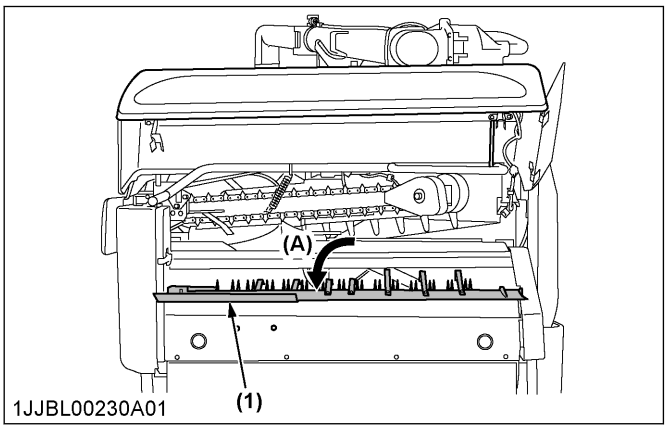
12.1 カッタ切換えカバーを開く方法

1. 上部カバーを上げます。
2. カバーステーをセットします。
3. カッタ切換えカバーを後方へ引きながらロックレバーを上げて開きます。





(1) 上部カバー
(2) カッタ切換えカバー
(3) ロックレバー
(4) カバーステー
(A) 上げる
(B) 引く
(C) セットする



(1) カッタ切換えカバー　　*(A)* 開く

12.2 カッタ切換えカバーを閉じる方法

1. カッタ切換えカバーを前方に倒して閉じます。

2. ロックレバーで確実にロックします。

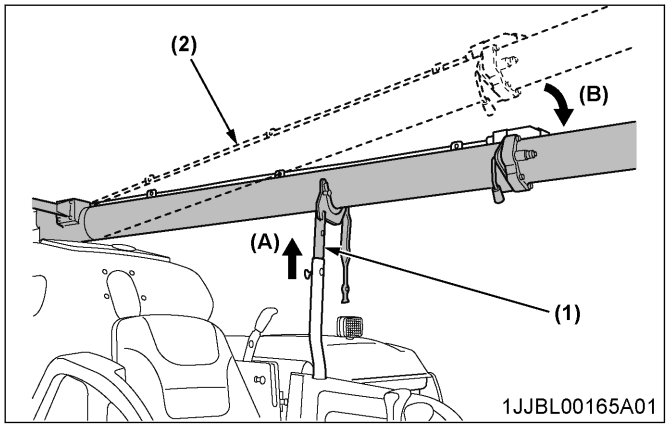
補足：
- **カッタ切換えカバーを開けたままでは、エンジンを掛けても作業スイッチを“入”にするとエンジンが止まります。**
  点検、掃除後は、必ずロックレバーを引きながらカッタ切換えカバーを閉め、ロックレバーを確実にロックしてください。

13. グレンタンクの脱着

⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

13.1 グレンタンクの取外し方法

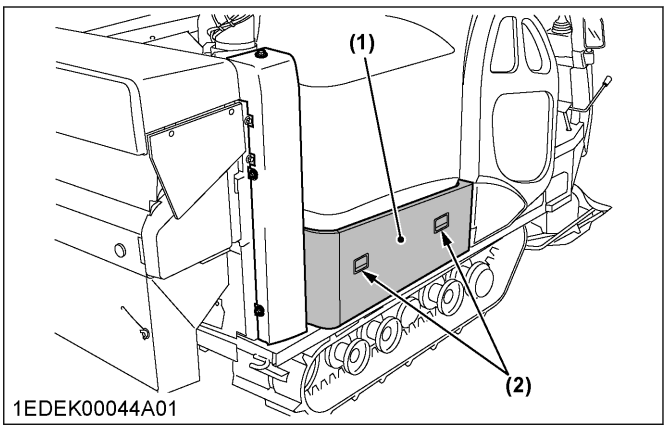
1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。
   （もみの排出のしかた（100 ページ）を参照）
2. 主変速レバー、副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にし、作業スイッチを“切（消灯）”、もみ排出クラッチレバーを“切”位置にします。
3. アンローダ受けを上位置にして、アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。



(1) アンローダ受け　　*(A)* 上位置
(2) アンローダ　　*(B)* 収納

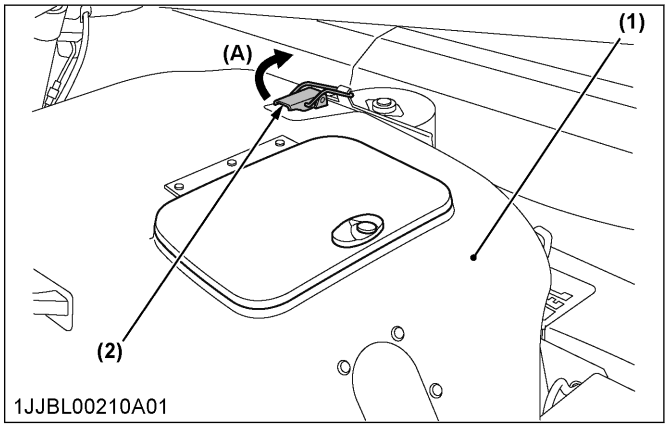
重要：
- **グレンタンクの脱着を行うときは、アンローダを必ず収納位置にしてください。**

4. 取手を引いてグレンタンク下カバーを外します。



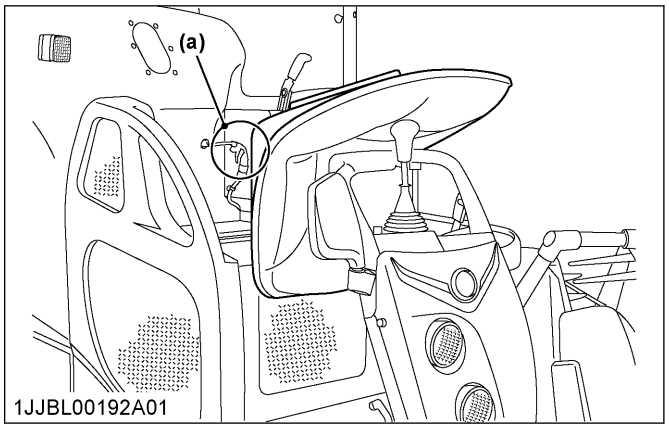
(1) グレンタンク下カバー　　*(2)* 取手

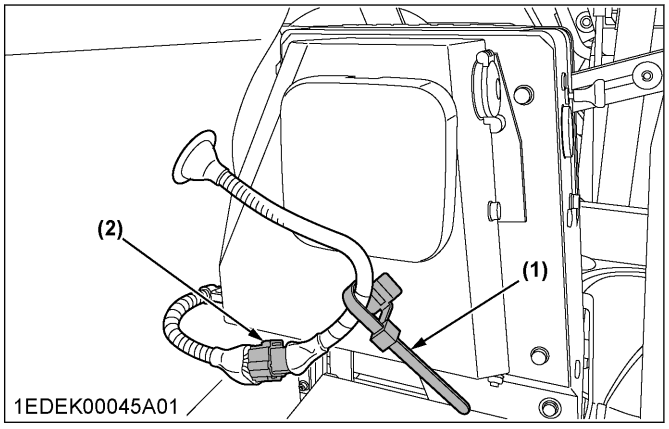
5. グレンタンクのクランプを外したあと、カプラを外します。
   a. クランプを外します。



(1) グレンタンク　　*(A)* 外す
(2) クランプ

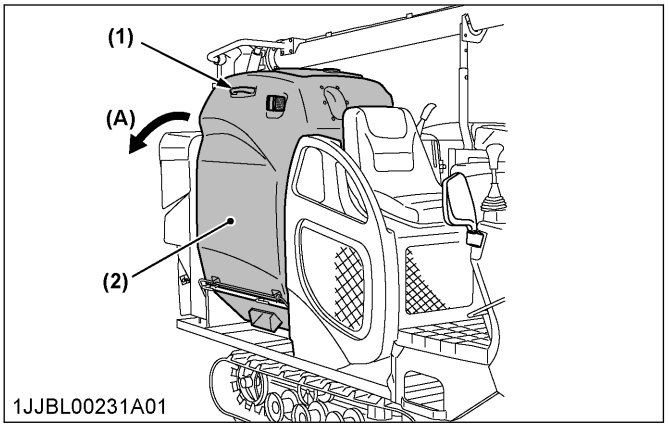
   b. コードクランプを外します。
   c. カプラを外します。





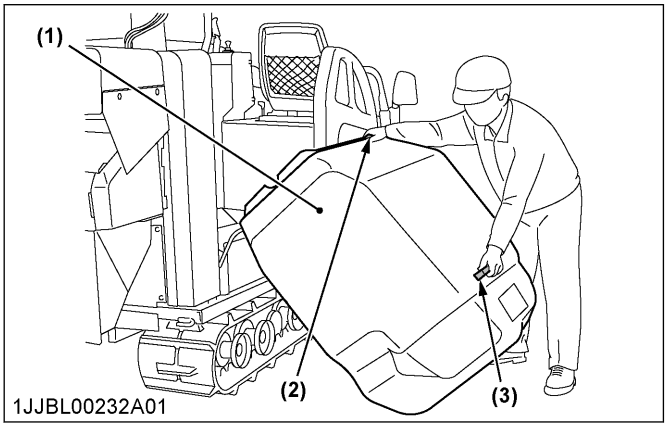
(1) コードクランプ　　*(2)* カプラ

6. グレンタンクの取手を持ち、タンクを手前に引きながら持ち上げて取り外します。
   a. 取手を引いてグレンタンクを手前に倒します。



(1) 取手　　*(A)* 倒す
(2) グレンタンク

   b. 取手、タンク下部を持ちながらグレンタンクを取り外します。

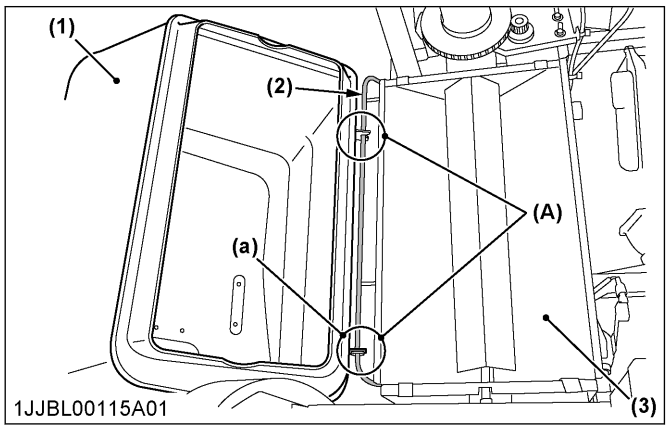


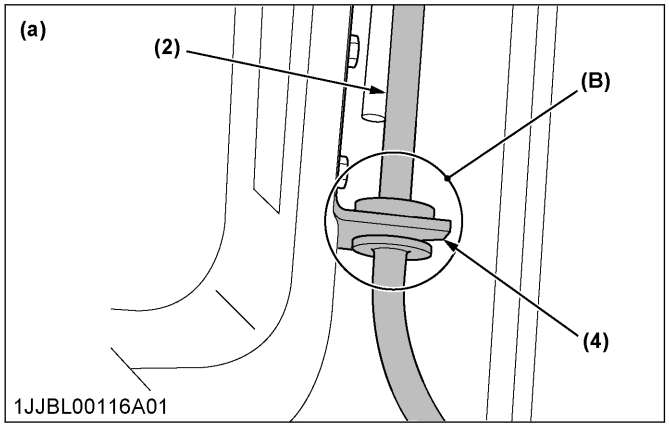
(1) グレンタンク　　*(3)* 取手
(2) タンク下部

重要：
- **グレンタンクを開いた状態でグレンタンクの 脱着はしないでください。グレンタンクを落として破損するなどトラブルの原因となります。**

13.2 グレンタンクの取付け方法

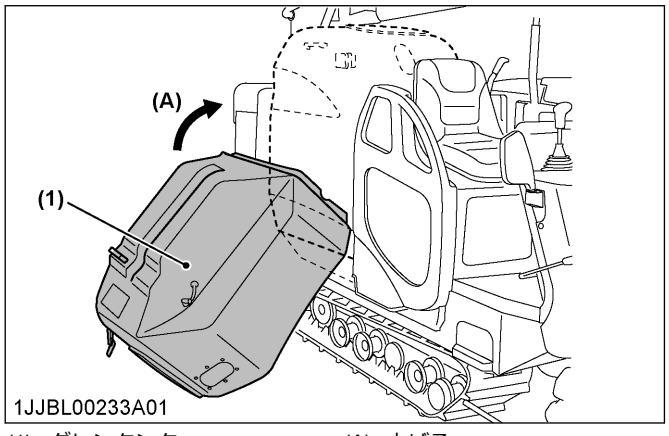
1. グレンタンクを底スクリュケースに乗せます。
   a. タンク受ロッドの固定位置に掛け金具を掛けます。





(1) グレンタンク
(2) タンク受ロッド
(3) 底スクリュケース
(4) 掛け金具
(A) タンク受ロッドに掛け金具を掛ける
(B) 固定位置

   b. グレンタンクを上げます。



(1) グレンタンク
(A) 上げる

2. カプラを接続し、固定部にコードバンドを共締めします。
3. グレンタンクのクランプをロックします。

重要：
- **グレンタンクは確実に取り付けてください。**

4. グレンタンク下カバーを取り付けます。

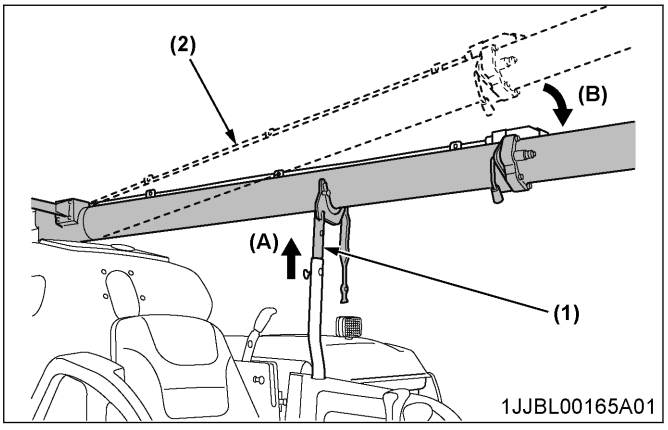
14. グレンタンクの開閉

⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。**
- **グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクの開閉を行わないでください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

重要：
- **カッタ部が開いているときは、グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後部カバーと接触し、破損するおそれがあります。**

14.1 グレンタンクを開く方法

1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。
   （もみの排出のしかた（100 ページ）を参照）
2. 主変速レバー、副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にし、作業スイッチを“切（消灯）”、もみ排出クラッチレバーを“切”位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。

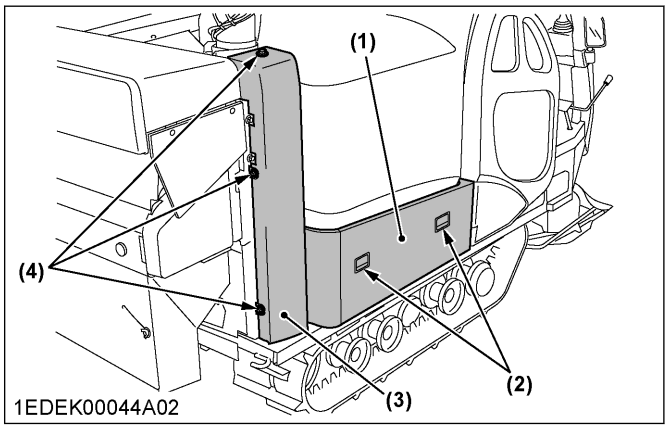


(1) アンローダ受け
(2) アンローダ
(A) 上位置
(B) 収納

重要：
- **グレンタンクの開閉を行うときは、アンローダを必ず収納位置にしてください。**

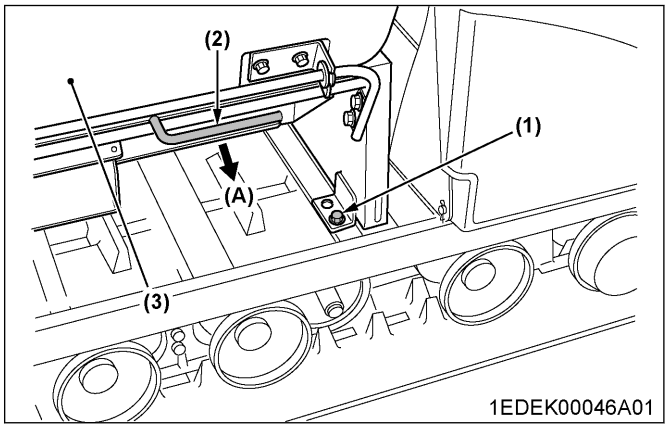
4. カプラを外します。
   （グレンタンクの脱着（126 ページ）を参照）
5. グレンタンクのクランプを外します。
   （グレンタンクの脱着（126 ページ）を参照）

6. グレンタンクを開きます。
   a. 取手を引いてグレンタンク下カバーを外します。
   b. ボルトを取り外してグレンタンク後部カバーを外します。



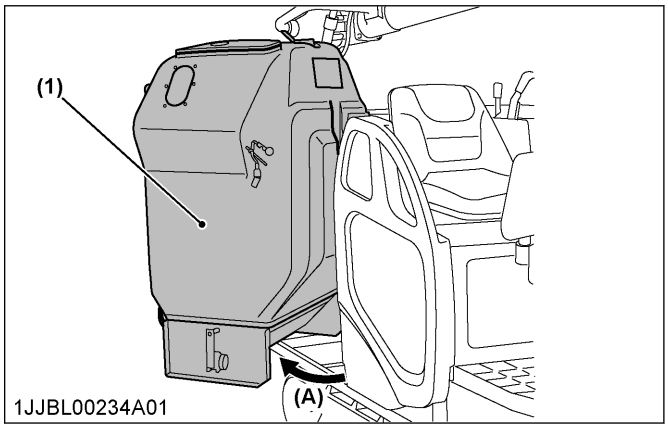
(1) グレンタンク下カバー　*(4)* ボルト
(2) 取手
(3) グレンタンク後部カバー

   c. グレンタンクを留めているボルトを取り外します。
   d. 取手を引いて底スクリュケースを開きます。



(1) ボルト　*(A)* 引く
(2) 取手
(3) 底スクリュケース

   e. グレンタンクを開きます。

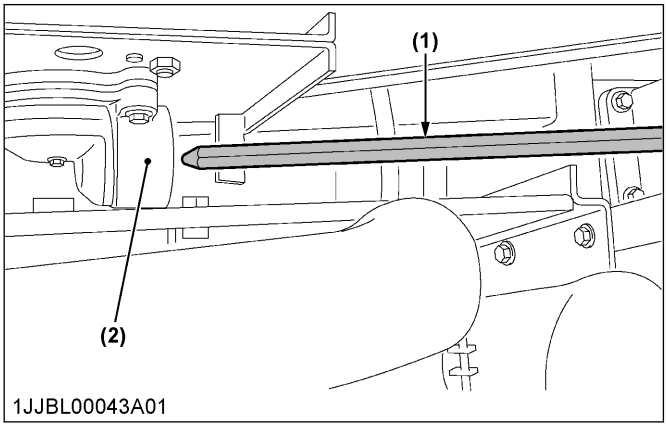


(1) グレンタンク　*(A)* 開く

14.2 グレンタンクを閉じる方法

開く方法と逆の手順でグレンタンクを閉じます。
（グレンタンクを開く方法（128 ページ）を参照）

補足：
- **グレンタンクを固定するボルトは確実に締め付けてください。**
- **タンクスクリュ駆動軸が受けに入らないときは、エンジンルームを開き、タンクスクリュ駆動軸を手で回しながら、グレンタンクを押して軸を受けに差し込んでください。**



(1) タンクスクリュ駆動軸　*(2)* 受け

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行ってください。

⚠ 警告
- **エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。**
- **バッテリ、マフラ、エンジン、燃料タンク、ベルトカバー内、プーリ、カッタ部内、または配線部周辺にごみまたは燃料の付着、わらくず、泥の堆積などの異物があると火災の原因になることがありますので、取り除いてください。**
- **刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などの固定用具を使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **空運転するときには必ずこぎ胴をセットして、カッタを閉じてください。**
- **オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **刈刃やカッタの掃除、注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。**
- **取り外したり、開いた回転部のカバー類は、衣服など着衣の一部が巻き込み危険ですので必ず取り付けて、または閉じてください。**

重要：
- **水洗いするときは、電装部品に水を掛けないでください。故障の原因になります。**
- **取り外したボルトやナットは、必ず締め付けてください。トラブルの原因となります。**

補足：
- **掃除口を閉じるときは、掃除口にもみの付着が無いことを確めてから閉じてください。また、掃除の後、ふたを取り付け忘れるともみが飛散します。**
- **脱こく部の中をよく乾燥させてから掃除を行ってください。脱こく部の中が濡れているともみが脱こく部の中に付着して残留もみが多くなります。**
- **湿田で作業したあとは、クローラおよび周辺の泥を必ず取り除いてください。**

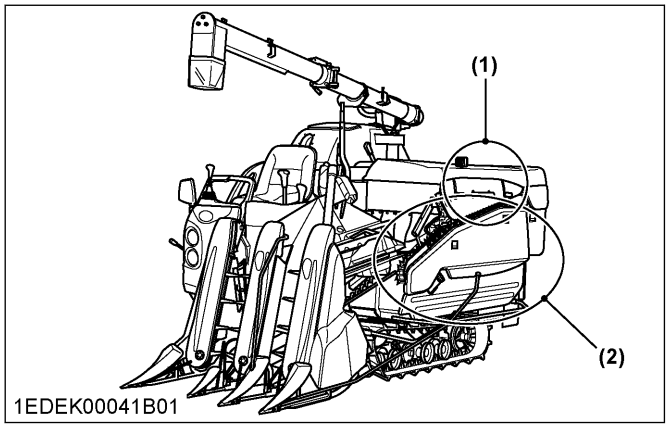
1. 各部の掃除

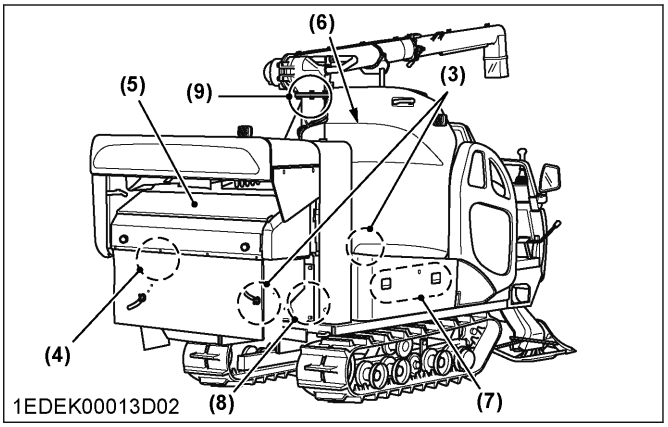
品種や稲、麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには、機内の残留こく粒をきれいに取り除いておきましょう。
また、下記について作業時は常に掃除しておきましょう。
- 湿田作業や倒伏作物収穫時、カッタ部内のわらの巻き付きがないことを確認し、付着、巻き付きがある場合は必ず取り除きましょう。

1.1 各部の掃除のしかた

1. 刈取り作業が終わり、もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約 3 分間空運転します。
2. いったん機体各部を収納状態にし、作業スイッチを“切（消灯）”にしてエンジンを止めます。
（収納状態のしかたは、刈取作業のためのコンバインの準備（82 ページ）を参照）
3. 各部の開閉部を開き、掃除口カバーを取り外して掃除します。

1.2 掃除箇所



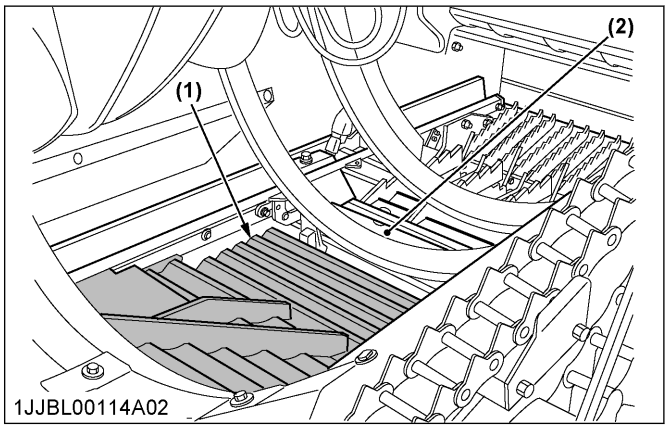


(1)	こぎ胴	脱こく部内（シーブケース内選別板上）、フィードチェーン終端部、排わら搬送部を掃除するとき開く
(2)	左サイドカバー上、下	ベルトカバー内、1 番スクリュ上部左掃除口、1、2 番横スクリュ下部掃除口を掃除するとき外す
(3)	グレンタンク	1 番縦、横スクリュ掃除口、2 番処理胴（ツースバー）掃除口、2 番縦スクリュ掃除口を掃除するとき取り外す
(4)	カッタ	シーブケース後部（3 番出口）を掃除するとき開く
(5)	カッタ切換えカバー	カッタ部内を掃除するとき開く
(6)	グレンタンク上部	グレンタンク内はここから掃除する
(7)	グレンタンク下カバー	グレンタンク下部掃除口を掃除するとき外す
(8)	グレンタンク後部カバー	アンローダ縦スクリュ掃除口を掃除するとき外す
(9)	アンローダ水平スクリュ掃除口	アンローダ水平スクリュ掃除口はここから掃除する

1.2.1 脱こく部内の掃除

脱こく部内の掃除は、シーブケース内の選別板上を掃除してください。
1. こぎ胴を開きます。
（こぎ胴の開閉（115 ページ）を参照）
2. 受あみ（上）、（下）を取り外します。
（受あみの脱着（122 ページ）を参照）

3. 選別板上を掃除します。



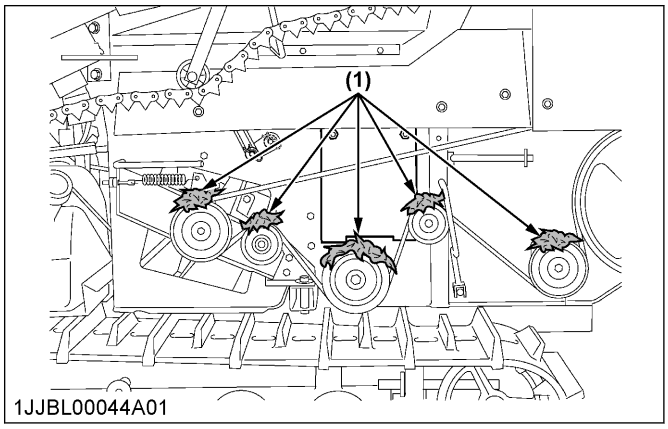
(1) 選別板上　　*(2)* シーブケース

掃除後

1. 受あみ（上）、（下）を取り付けます。
2. こぎ胴を閉じます。

1.2.2 ベルトカバー内の掃除

1. 左サイドカバー上、下およびカッタ左サイドカバーを外します。
   （左サイドカバー上、下の取外し方法（124 ページ）、カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照）
2. 左サイドカバーの内側カバー 2 か所を取り外します。
   （カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照）
3. ベルトカバー内を掃除します。



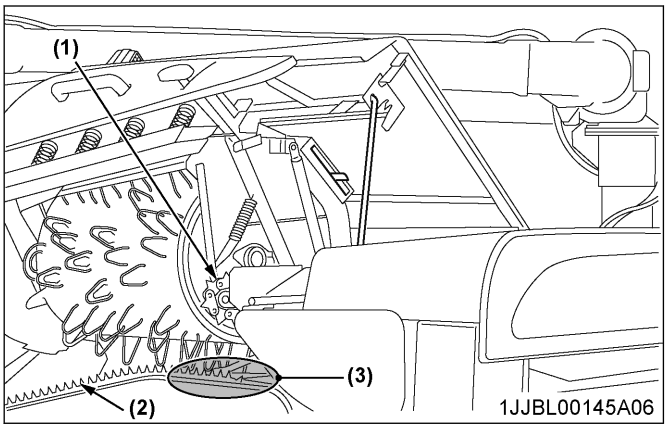
(1) わらくず

掃除後

各カバーを取り付けます。
（左サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーの取付け方法（124 ページ）を参照）

1.2.3 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の掃除

“わら詰まり”が発生し自動エンジン停止装置がはたらいたときに掃除してください。
排わら搬送部は排わら株元チェーンを掃除してください。



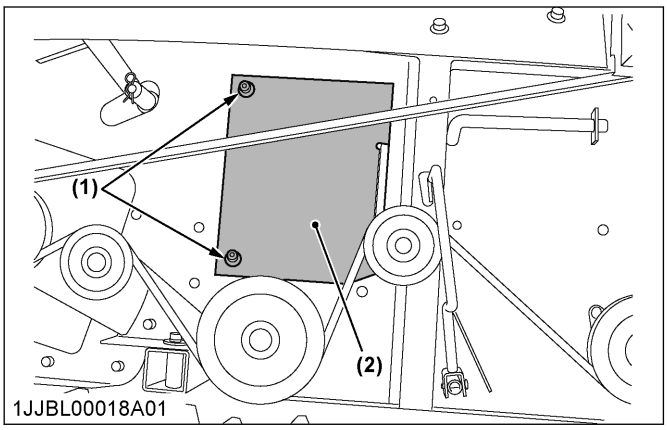
(1) 排わら株元チェーン　　*(3)* フィードチェーン終端部
(2) フィードチェーン

掃除後

こぎ胴を閉じてください。

1.2.4 1 番スクリュ上部左掃除口の掃除

1. 左サイドカバー上、下およびカッタ左サイドカバーを外します。
   （左サイドカバー上、下の取外し方法（124 ページ）、カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照）
2. 左サイドカバーの内側カバー 2 か所を取り外します。
   （カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照）
3. ナット、平座金を外し、1 番スクリュ上部左掃除口カバーを取り外します。



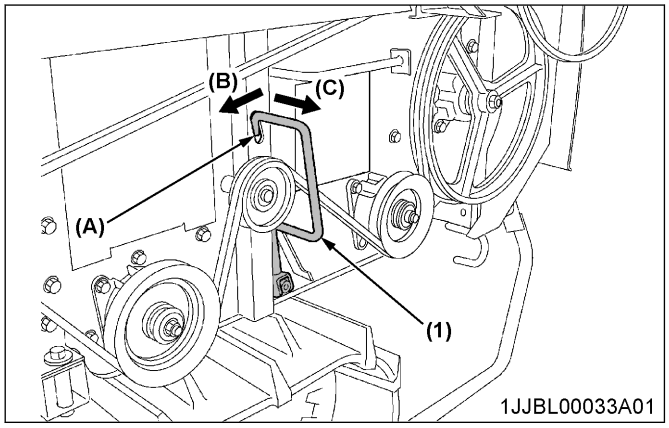
(1) ナット、平座金　　*(2)* *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー

4. 1 番スクリュ上部左掃除口を掃除します。

掃除後
掃除口カバーを取り付けます。

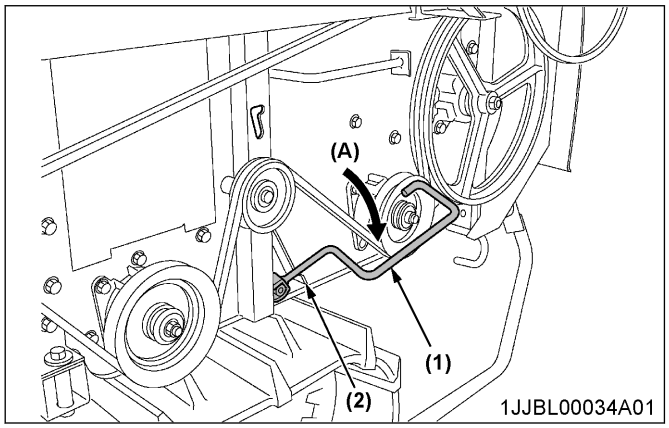
1.2.5 1、2 番横スクリュ下部掃除口の掃除

1. 左サイドカバー上、下およびカッタ左サイドカバーを外します。
(左サイドカバー上、下の取外し方法（124 ページ)、カッタ左サイドカバーおよび左サイドカバー内 1、内 2 の取外し方法（124 ページ）を参照)
2. 掃除口開閉レバーを左側に倒して収納位置から手前に引き出します。



(1) 掃除口開閉レバー
(A) 収納位置
(B) 左側に倒す
(C) 手前に引き出す

3. 掃除口開閉レバーを右側に倒し、1、2 番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開きます。
開閉カバーを開くときは、ストッパに当たるまで掃除口開閉レバーを倒します。



(1) 掃除口開閉レバー
(2) ストッパ
(A) ストッパに当たるまで倒す

重要：
- **掃除口開閉レバーを使用しないときは、収納状態にしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。**

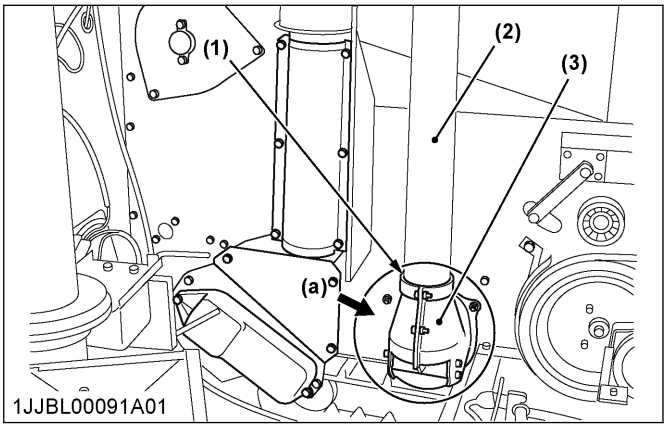
4. 1、2 番横スクリュ下部掃除口を掃除します。

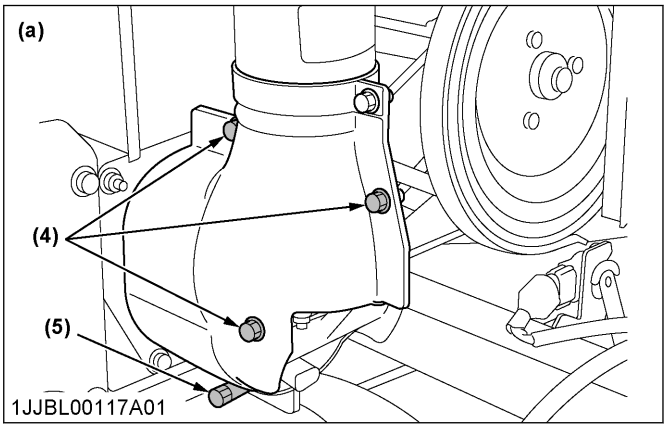
掃除後
1. 掃除口開閉レバーを起こして押し込みます。
2. 各カバーを取り付けます。

補足：
- **クローラに付着している泥は取り除いてください。掃除口開閉カバーに接触し、開閉しなくなります。**

1.2.6 1 番縦、横スクリュ掃除口の掃除

1. グレンタンクを取り外します。
（グレンタンクの脱着（126 ページ）を参照）
2. ボルトとジャッキボルトを外して、1 番縦、横スクリュ掃除口の掃除口カバーを取り外します。





(1) *1* 番縦、横スクリュ掃除口カバー
(2) *1* 番縦スクリュ
(3) *1* 番直行部板金ケース（側板固定側）
(4) ボルト
(5) ジャッキボルト

3. 1 番縦、横スクリュ掃除口を掃除します。

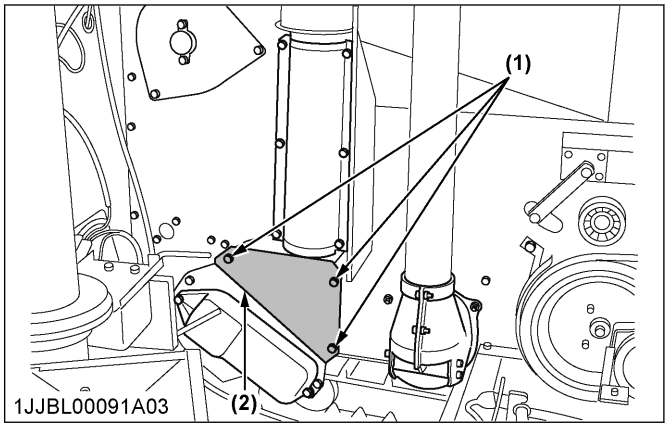
掃除後
1. ボルトとジャッキボルトで掃除口カバーを取り付けます。

補足：
- **掃除口カバーを取り付けるときは、ボルト 3 本とジャッキボルトで確実に取り付けてください。1 番直交部板金ケースと掃除口カバーの間にすき間があるともみ漏れの原因になります。**

2. グレンタンクを取り付けます。

1.2.7 2 番処理胴（ツースバー）掃除口の掃除

1. グレンタンクを取り外します。
（グレンタンクの脱着（126 ページ）を参照）
2. ボルトを外して 2 番処理胴（ツースバー）の掃除口カバーを取り外します。



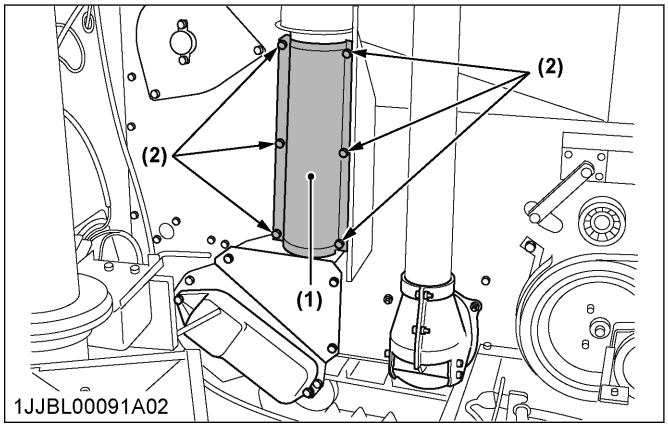
(1) ボルト
(2) 2 番処理胴（ツースバー）掃除口カバー

3. 2 番処理胴（ツースバー）掃除口を掃除します。

掃除後
1. 2 番処理胴（ツースバー）掃除口カバーを取り付けます。
2. グレンタンクを取り付けます。

1.2.8 2 番縦スクリュ掃除口の掃除

1. グレンタンクを取り外します。
（グレンタンクの脱着（126 ページ）を参照）
2. ボルトを外して 2 番縦スクリュ掃除口カバーを取り外します。



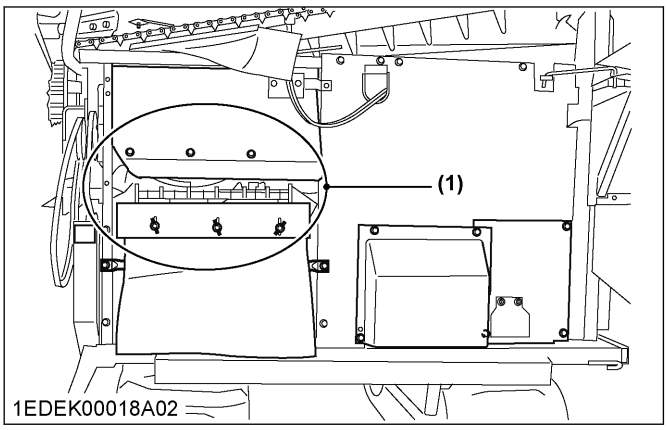
(1) 2 番縦スクリュ掃除口カバー *(2)* ボルト

3. 2 番縦スクリュ掃除口を掃除します。

掃除後
1. 掃除口カバーを取り付けます。
2. グレンタンクを取り付けます。

1.2.9 シーブケース後部（3 番出口）の掃除

1. カッタ部を開きます。
2. シーブケース後部（3 番出口）を掃除します。

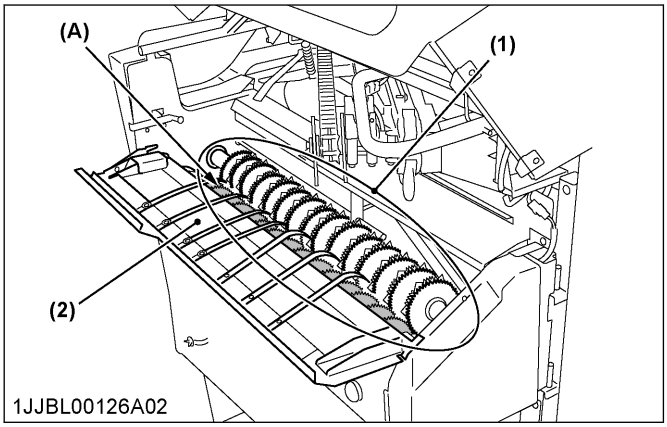


(1) シーブケース後部（3 番出口）

掃除後
カッタ部を閉じます。

1.2.10 カッタ部内の掃除

1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. カッタ部内を掃除します。
掃除するときは、特にカッタの切断軸に巻き付いたわらはすべて取り除いてください。

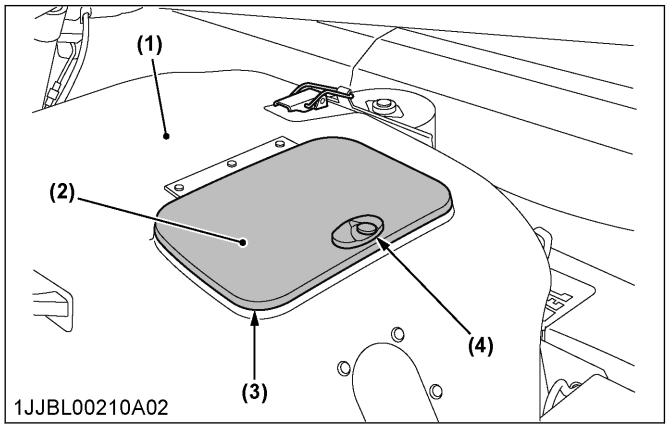


(1) カッタ部
(2) カッタ切換えカバー
(A) 特に掃除する

掃除後
カッタ切換えカバーを閉じます。

1.2.11 グレンタンク内の掃除

1. グレンタンク上部のロックハンドルを回して掃除口の開閉カバーを開きます。



(1) グレンタンク
(2) 開閉カバー
(3) グレンタンク上部掃除口
(4) ロックハンドル

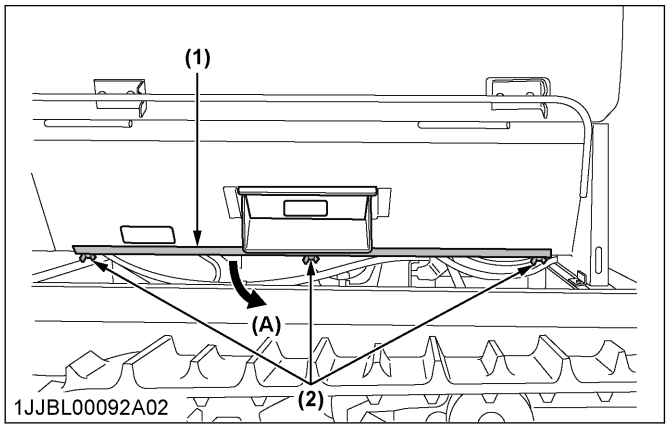
2. グレンタンク内を掃除します。

補足：
- **必要に応じてグレンタンクを取り外して掃除してください。**
  （グレンタンクの脱着（126 ページ）を参照）

掃除後
1. 開閉カバーを閉じます。
2. ロックハンドルを回して開閉カバーをロックします。

1.2.12 グレンタンク下部掃除口の掃除

1. グレンタンク下カバーを取り外します。
（グレンタンク下カバーの取外し方法（125 ページ）を参照）
2. 蝶ナットを外し、グレンタンク下部掃除口カバーを開きます。



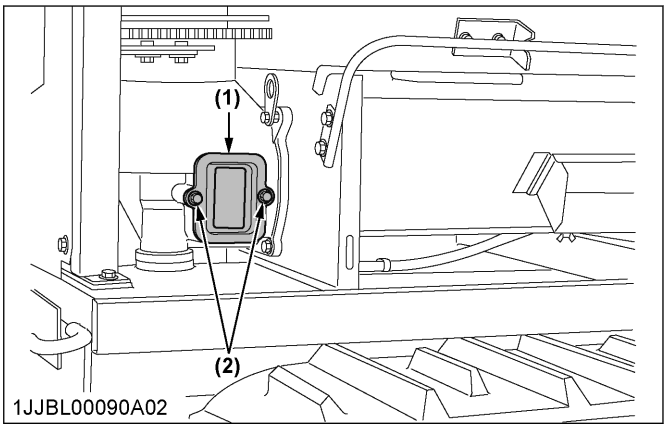
(1) グレンタンク下部掃除口カバー
(2) 蝶ナット
(A) 開く

3. グレンタンク下部掃除口を掃除します。

掃除後
1. グレンタンク下部掃除口カバーを蝶ナットで取り付けます。
2. グレンタンク下カバーを取り付けます。

1.2.13 アンローダ縦スクリュ掃除口の掃除

1. グレンタンク後部カバーを取り外します。
2. ボルトを外してアンローダ縦スクリュ掃除口カバーを取り外します。



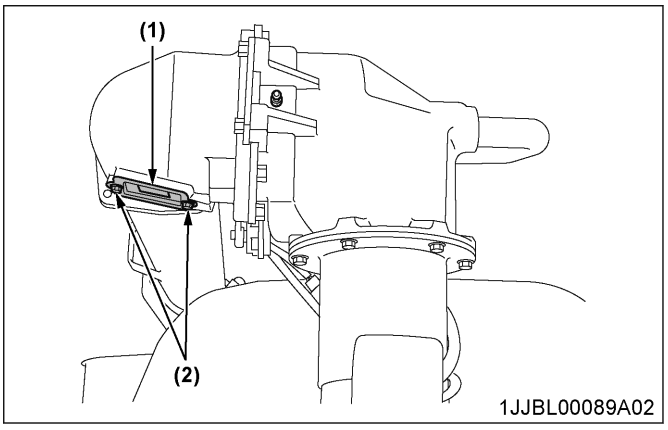
(1) アンローダ縦スクリュ掃除口カバー
(2) ボルト

3. アンローダ縦スクリュ掃除口を掃除します。

掃除後
1. 掃除口カバーを取り付けます。
2. グレンタンク後部カバーを取り付けます。

1.2.14 アンローダ水平スクリュ掃除口の掃除

1. ボルトを外してアンローダ水平スクリュの各掃除口カバーを取り外します。



(1) アンローダ水平スクリュ掃除口カバー
(2) ボルト

2. アンローダ水平スクリュ掃除口を掃除します。

掃除後
掃除口カバーを取り付けます。

1.3 掃除後の処置と確認

掃除終了後は、取り外したり開いた掃除口カバーや安全カバーを必ず閉じるまたは取り付けてください。

2. 各部の注油

⚠ 警告

- **回転物や可動部に手や腕など体を近づけないでください。巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **木片など固定できる物で車止めをし、暴走を防いでください。**
- **そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
  - **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
  - **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

⚠ 注意

- **エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは、ホーンを鳴らすなど周囲の人に始動の合図をしてから行ってください。**

機体各部の掃除が終わったあと、または刈取り作業を始める前には、各部の注油やグリースの塗布を行ってください。

2.1 自動集中注油装置による注油

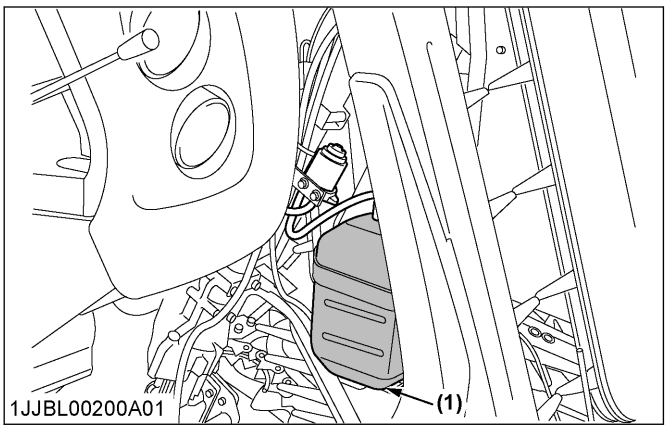
自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補足：

- **気温が 10 ℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。**
- **各チェーン部に巻き付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取り除いてください。**

2.1.1 自動集中注油装置による注油のしかた

1. 平たんな場所で刈取部を地面から 5 cm～15 cm の位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
3. 引起しサイドカバー右を取り外します。
4. オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



(1) オイルタンク

重要：

- **廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。**

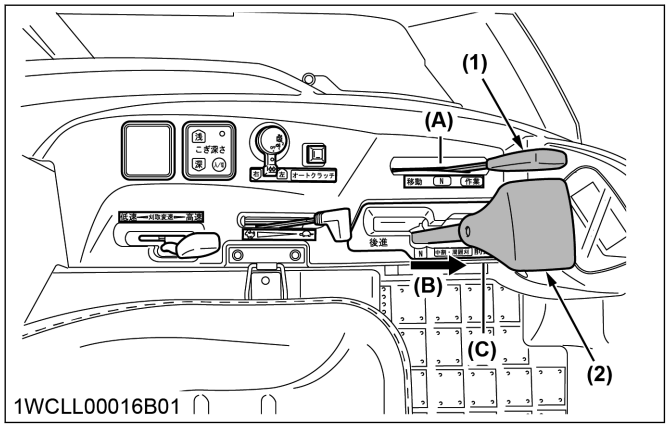
オイルの種類	オイルタンク容量
指定オイル D10W-30	約 4 L

5. エンジンを再始動します。
6. 作業スイッチを“入”にして刈取部、脱こく部を動かします。
7. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を中速回転（約 1600r/min (rpm)～1800 r/min (rpm)）に調整します。

補足：

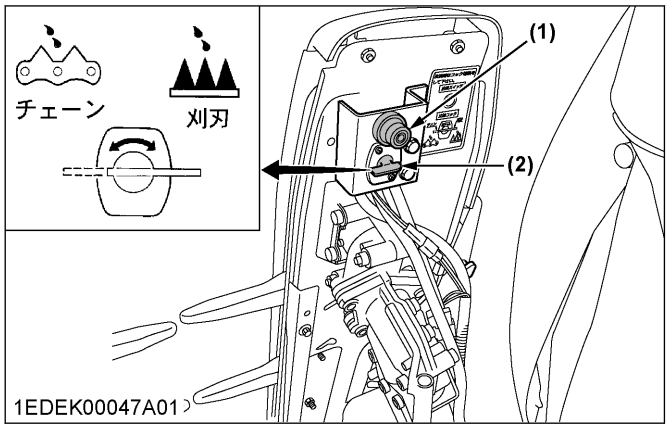
- **チェーンは中速回転で注油してください。その際、2 番警報が出ますが、異常ではありません。**
- **注油したときチェーンが停止していると、オイルが 1 か所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。**

8. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にしたあと、駐車ブレーキを解除して主変速レバーを**[前進]**側へ中間の位置ぐらいまで押します。
   a. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にします。
   b. 主変速レバーを中間の位置ぐらいまで押します。



(1) 副変速レバー
(2) 主変速レバー
(A) *N*（中立）
(B) 押す
(C) 中間

9. 切換えコックの位置が**[チェーン]**位置か**[刈刃]**位置かを確認して、注油スイッチを押します。
   注油は切換えコックを切り換えて各部チェーン、刈刃の両方ともに行います。
   - **チェーン位置**
     注油スイッチを 7 秒～10 秒間“連続”で押す。
   - **刈刃位置**
     注油スイッチを 5 秒～7 秒間“断続”で押す。



(1) 注油スイッチ
(2) 切換えコック

重要：
- **オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。**
- **万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り、注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は、エア抜きコックを開いて、エア抜きしてから作動してください。**
  (エア抜きの方法（136 ページ）を参照)
- **必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく、故障の原因になります。**
- **切換えコックが[チェーン]位置かあるいは[刈刃]位置以外では、注油スイッチを押さないでください。オイル漏れや破損の原因となります。**

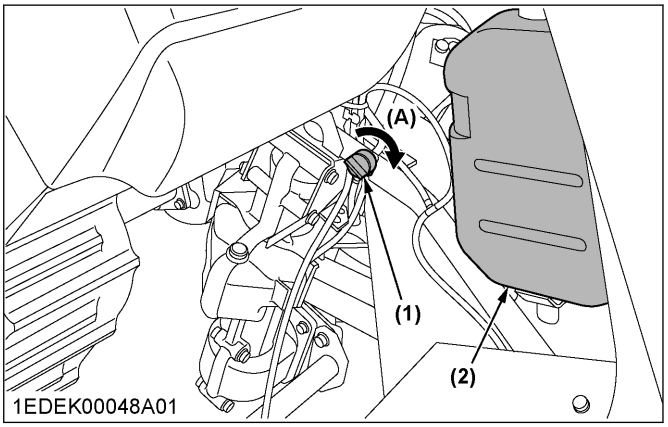
10. エンジンを停止します。
11. 各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

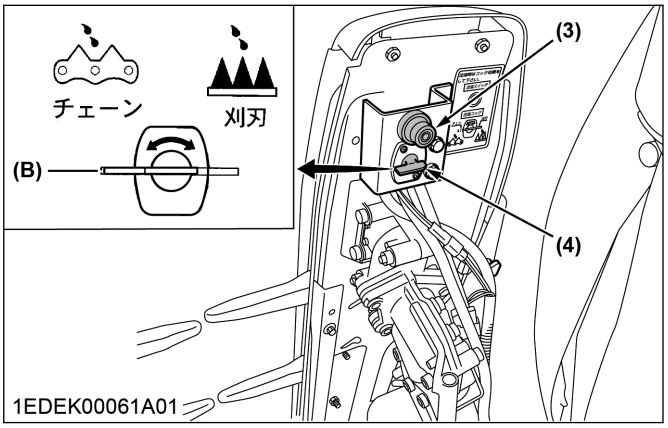
補足：
- **注油されていないときは、各注油ホースのノズルの掃除を行ってください。**
- **最初の 1 回目は配管内部にオイルがゆきわたり、配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒掛かります。**

12. 主変速レバーを**[停止]**位置にします。
13. 引起しサイドカバー右を取り付けます。

2.2 エア抜きの方法

1. 切換えコックの位置を**[チェーン]**位置にします。
2. 図示のエア抜きコックを開いてから、注油スイッチを押して、油を送出します。





(1) エア抜きコック
(2) オイルタンク
(3) 注油スイッチ
(4) 切換えコック
(A) 回す
(B) チェーン位置

3. エア抜き後、エア抜きコックからオイルが出たら、必ずエア抜きコックを閉じてください。

注油後

1. 2 分～3 分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にし、エンジンを止めます。
3. 最後に引起しサイドカバー右を取り付けます。

重要：

- **切換えコックが[チェーン]位置以外では、エア抜きできません。**

2.3 注油箇所、集中注油ノズルの掃除、グリース塗布

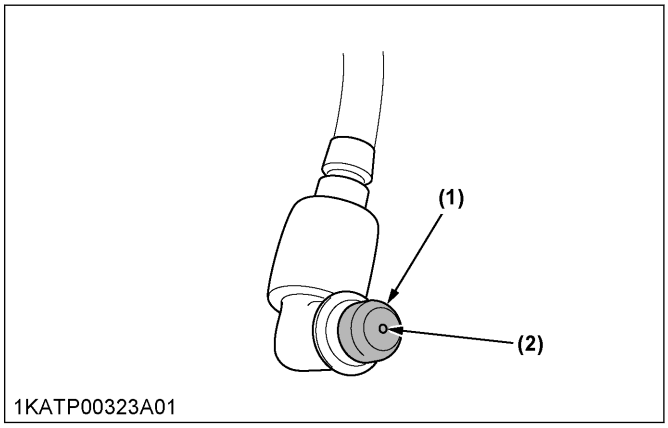
自動集中注油で注油が行える箇所以外の注油は、油差しで行ってください。

2.3.1 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは、“エンジンを必ず止めて”、各ノズルの吐出口の掃除を行ってください。掃除を行うときは、水洗い、または圧縮空気などの器具を使用してください。

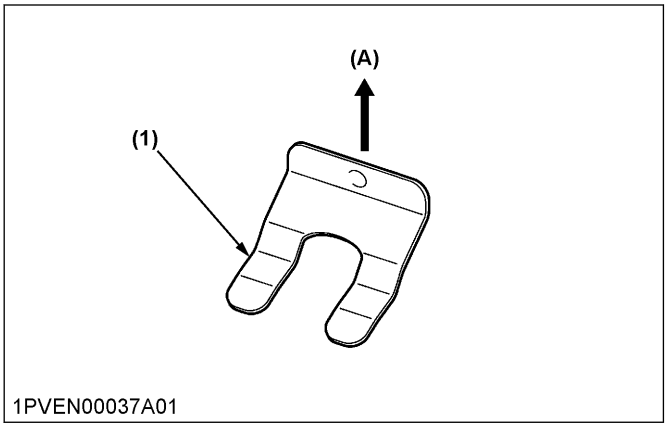
補足：

- **ノズル先端部の吐出口の掃除を行うときは、必ず針などかたい物を使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また、各ノズルの先端を固定している金具、ボルト、スナップピンなど各固定部品を取り外すと掃除が容易に行えます。**



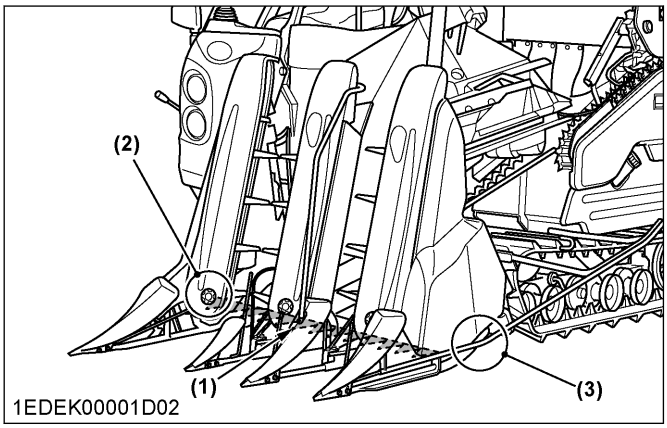
(1) ノズル　　*(2)* 吐出口

- **固定金具を取り付けるときは、必ず金具の L 字部上側に向けて取り付けてください。**



(1) 固定金具　　*(A)* *L* 字部を上向き

2.3.1.1 刈刃の自動集中注油箇所

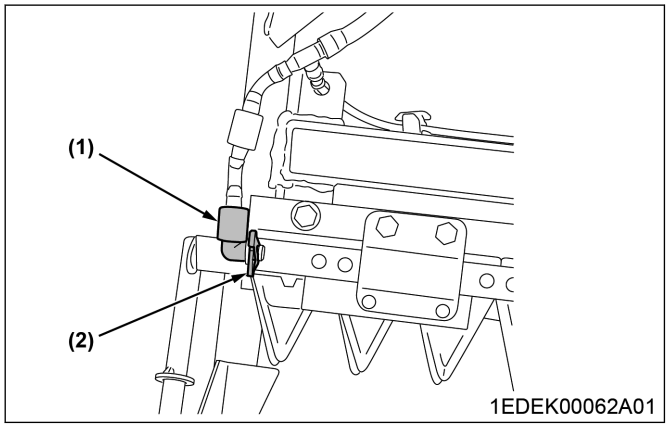


(1) 刈刃　　*(3)* ノズル（左）
(2) ノズル（右）

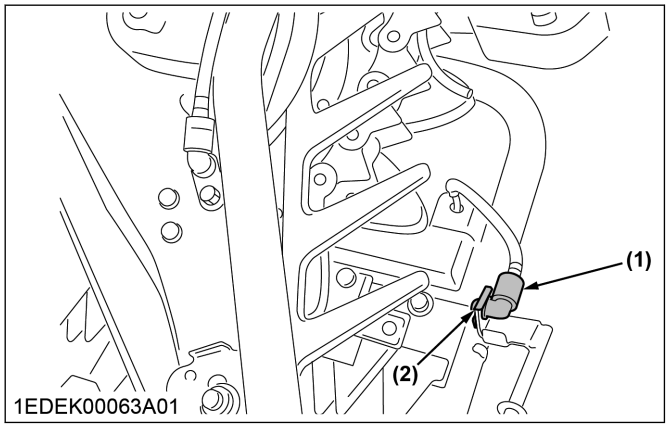
2.3.1.1.1 刈刃のノズル掃除

1. 刈取部を最上昇します。
2. 刈取下降ロックをし、刈刃に付いた泥などの異物を取り除きます。
3. 引起しサイドカバー左右を取り外します。

4. 固定金具を取り外して、ノズルを外して掃除します。



(1) ノズル（右）　*(2)* 固定金具

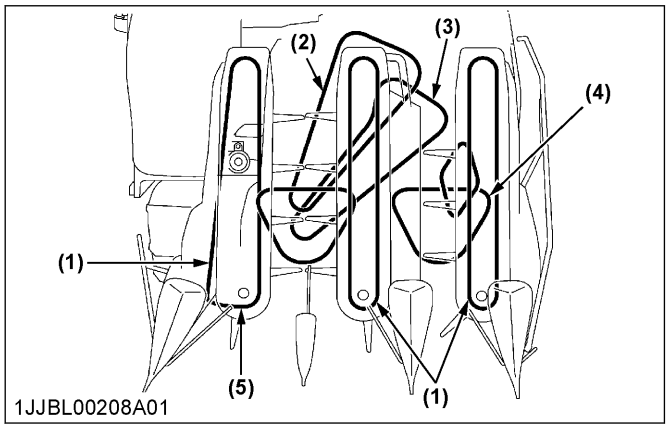


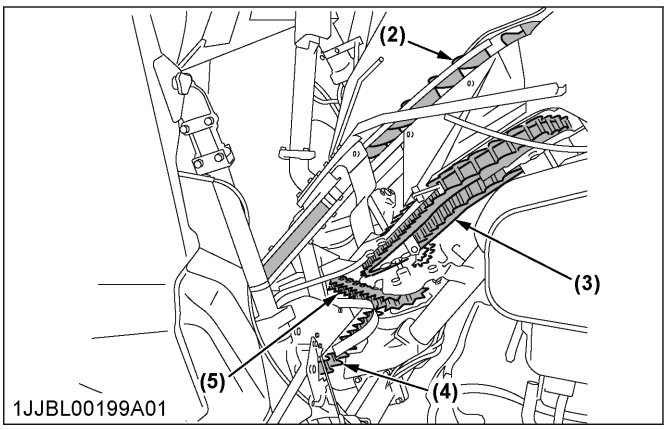
(1) ノズル（左）　*(2)* 固定金具

掃除後

1. ノズルを取り付けます。
2. 引起しサイドカバー左右を取り付けます。

2.3.1.2 引起しチェーン、右穂先チェーン、右株元チェーン、左株元チェーン、株元供給チェーンの自動集中注油箇所



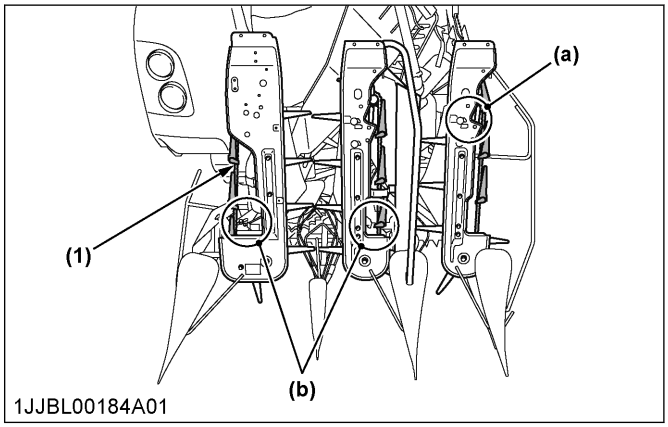


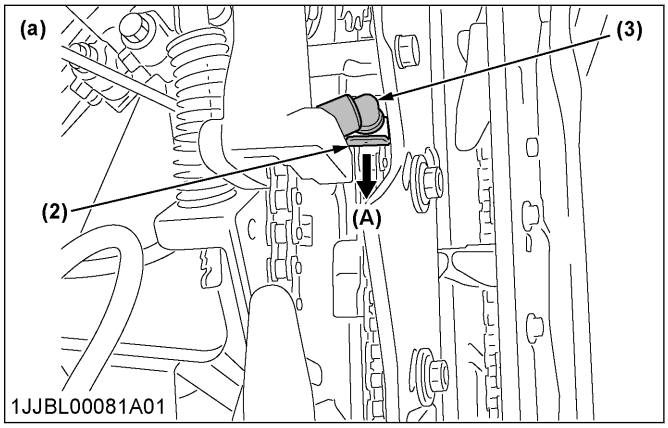
(1) 引起しチェーン
(2) 右穂先チェーン
(3) 株元供給チェーン
(4) 左株元チェーン
(5) 右株元チェーン

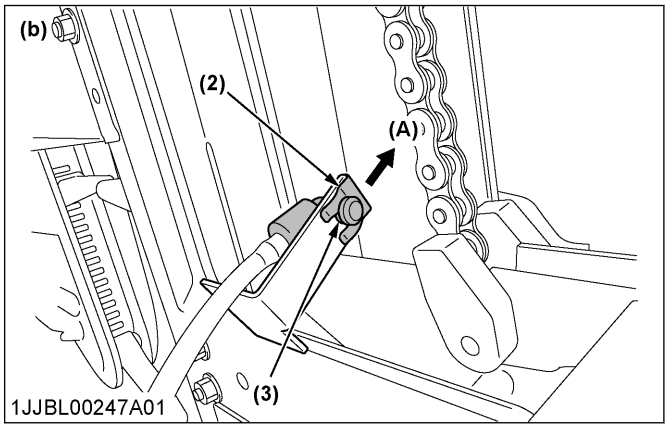
2.3.1.2.1 引起しチェーンのノズル掃除

1. 各引起しカバーを取り外します。
2. 引起しサイドカバー左右を取り外します。

3. 固定金具を取り外してノズルを掃除します。





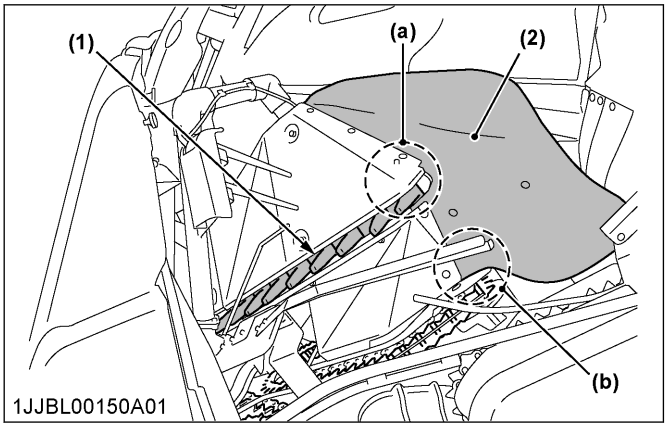


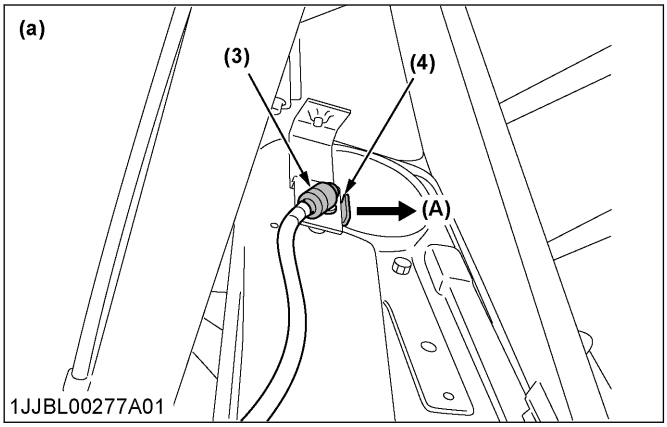
(1) 引起しチェーン
(2) 固定金具
(3) ノズル
(A) 引く

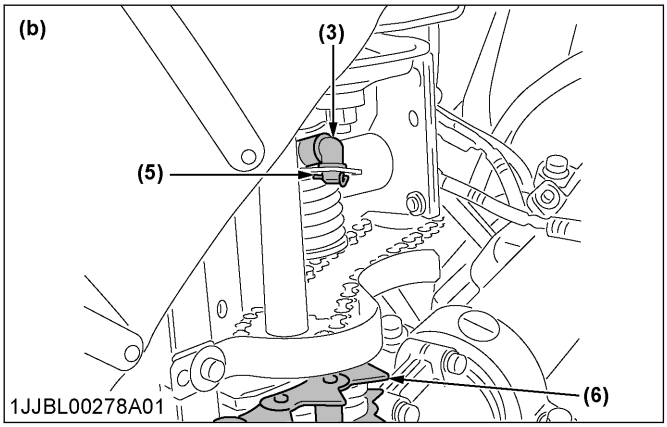
掃除後

1. 引起しサイドカバー左右を取り付けます。
2. 各引起しカバーを取り付けます。

2.3.1.2.2 右穂先チェーン、株元供給チェーンのノズル掃除







(1) 右穂先チェーン
(2) ハンプ
(3) ノズル
(4) 固定金具
(5) スナップピン
(6) 株元供給チェーン
(A) 引く

右穂先チェーン

固定金具を取り外してノズルを外して掃除します。

株元供給チェーン

1. ハンプをめくり上げます。
2. スナップピンを取り外してノズルを外して掃除します。

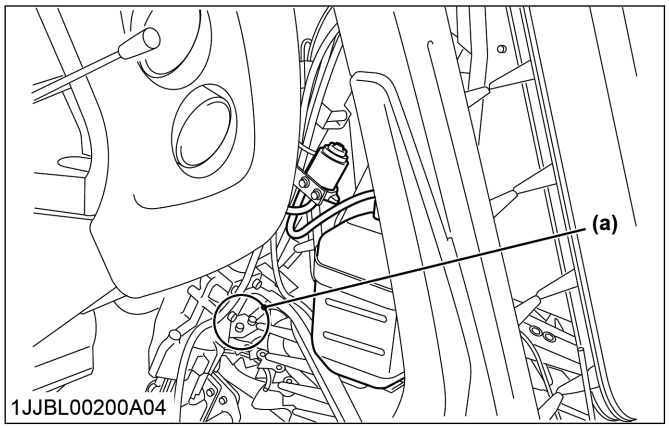
掃除後

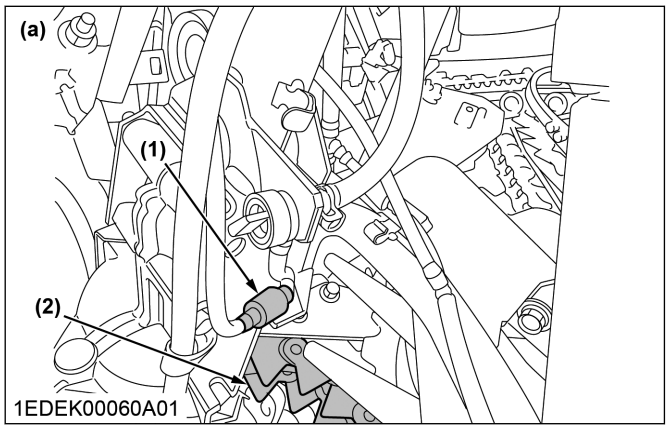
1. ノズルを取り付けます。

2. 固定金具またはスナップピンを取り付けます。

2.3.1.2.3 右株元チェーンのノズル掃除

1. 引起しサイドカバー右を取り外します。
2. ノズルを外して掃除します。





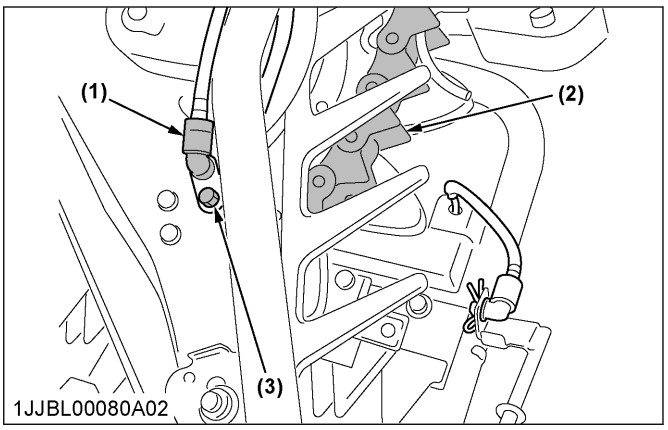
(1) ノズル　　*(2)* 右株元チェーン

掃除後

1. ノズルを取り付けます。
2. 引起しサイドカバー右を取り付けます。

2.3.1.2.4 左株元チェーンのノズル掃除

1. 引起しサイドカバー左を取り外します。
2. ボルトを取り外してノズルを外して掃除します。



(1) ノズル　　*(3)* ボルト
(2) 左株元チェーン

掃除後

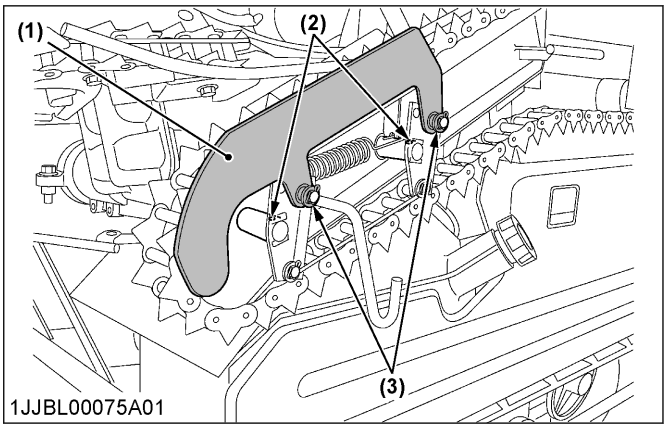
1. ノズルを取り付けます。
2. ボルトを取り付け、引起しサイドカバー左を取り付けます。

2.3.2 手差し注油箇所

油差しを使用して注油を行ってください。

2.3.2.1 枕こぎオートプレート支点部の手差し注油

1. 左サイドカバー上を取り外します。
2. 図の穴から注油します。

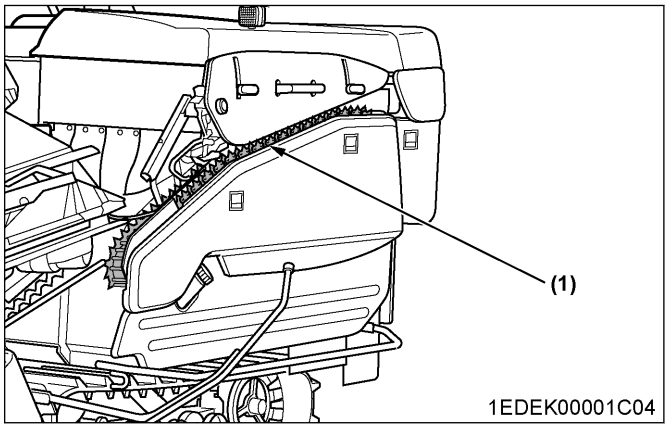


(1) 枕こぎオートプレート　　*(3)* 支点部
(2) 穴

掃除後

左サイドカバー上を取り付けます。

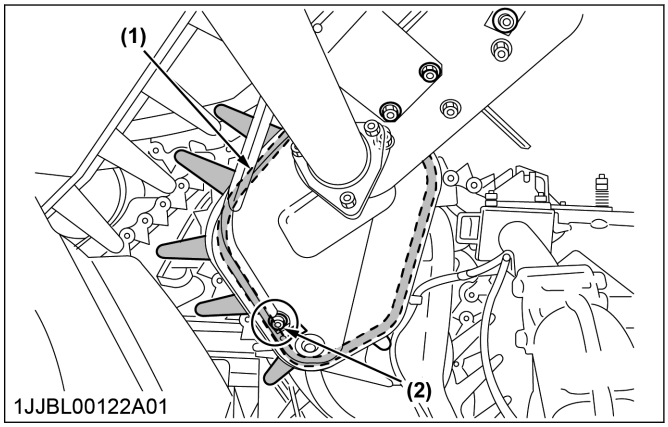
2.3.2.2 フィードチェーンの手差し注油箇所



(1) フィードチェーン

2.3.2.3 左穂先チェーンの手差し注油

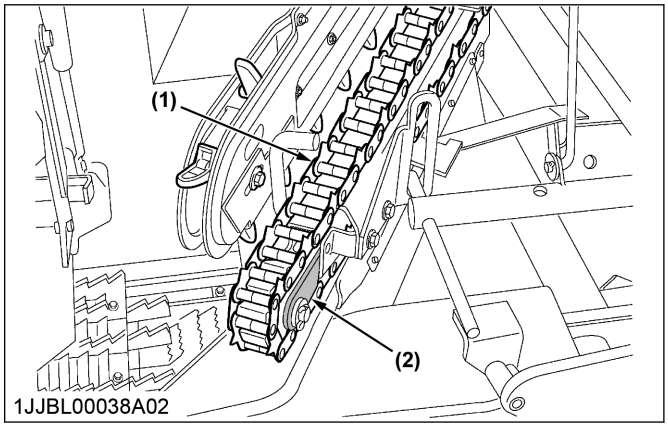
注油口から注油してください。



(1) 左穂先チェーン　　*(2)* 左穂先チェーン注油口

2.3.2.4 排わら株元チェーンテンション部の手差し注油

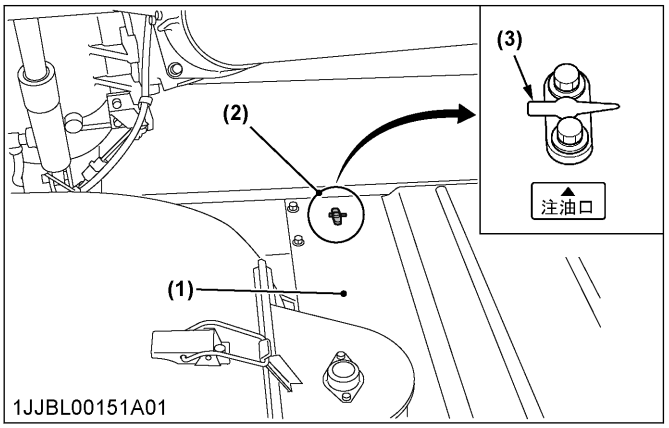
排わらテンションブラケットに注油してください。



(1) 排わら株元チェーン　　*(2)* 排わらテンションブラケット

2.3.2.5 排わら穂先チェーンの手差し注油

脱こく上部後方にある注油口から注油します。
キャップを外して注油してください。

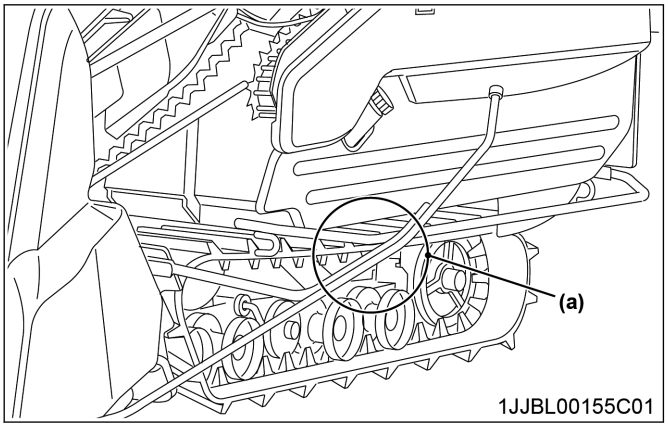


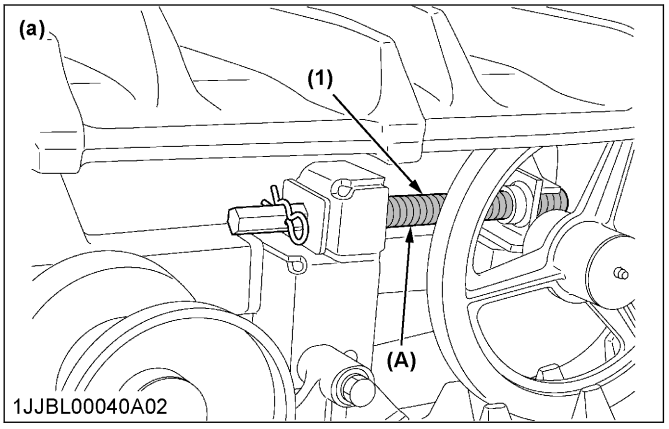
(1) 脱こく上部カバー　　*(3)* キャップ
(2) 排わら穂先チェーン注油口

2.3.3 グリース塗布箇所

クローラの張り調整を行う前にグリースを塗布してください。

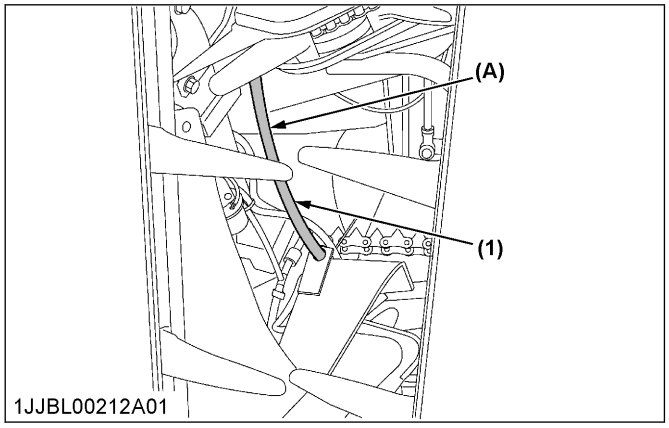
2.3.3.1 クローラ張りボルト（左、右）のグリース塗布箇所





(1) 張りボルト　　*(A)* グリース塗布

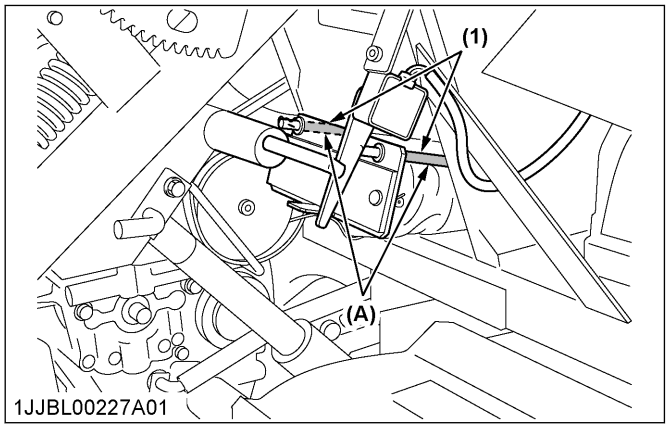
2.3.3.2 スライド軸、スクリュ軸、スライドブッシュ、スライドガイドのグリース塗布箇所



(1) スライドガイド　　*(A)* グリース塗布

2.3.3.3 サポートスプリングガイドのグリース塗布

1. 刈取部を最上昇し、刈取下降ロックを行います。
2. 枕木などの固定用具を使用して落下防止の歯止めをしてエンジンを停止します。
3. サポートスプリングガイドにグリースを塗布します。



(1) サポートスプリングガイド　　*(A)* グリース塗布

2.3.4 注油、ノズル掃除後の処置と確認

注油、ノズル掃除終了後は、取り外したり、開閉した掃除口カバーや安全カバーは必ず取り付けてください。

定期点検

定期点検は、コンバイン作業を行う人が定期的に行う点検です。

⚠ 警告

- **各部の調整、点検、交換を行うときは、各レバー類を“切”位置にして回転部を止め、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。**
- **点検、作業するときは、駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。もし刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして、刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などの固定用具を使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれが無いことを確認してください。**
- **オイル交換中は火気厳禁です。**
- **刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。**
- **機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみが無い場所へ置いてください。バッテリ、マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着、泥の堆積などの異常があると火災の原因となります。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服など着衣の一部が巻き込み危険ですので、点検後は必ず取り付けから作業をしてください。**

コンバインは、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインのもつ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう、定期的に点検を行いましょう。

補足：

- **専門的な技術や特殊工具を必要とする場合および定期点検一覧表（144 ページ）の“参照ページ”欄に☆印のある項目は、購入先または整備工場で行ってください。**
- **点検、交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。したがって 1 つの目安として早めの点検をお願いします。**

1. オイル、フィルタ類の交換とチェーン、ベルト、クローラの張り調整

- 新車時はコンバインの回転部、しゅう動部の各部品はなじみが付いていませんので、ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、オイル、フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
- チェーンやベルト類、クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間、走行（ミッション）駆動ベルトは 5 時間、クローラは初期 20 時間および 50 時間で張り調整をしてください。交換したときも同様です。

2. 廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながります。廃棄物を処理するときは次の注意事項を守ってください。

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などの事業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

3. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

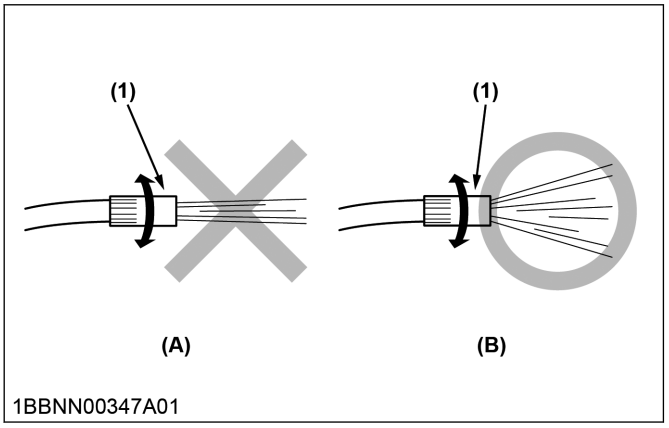
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、次のような問題が発生するおそれがあります。

- **電気配線部被覆の損傷、断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **マフラ、排気管やその周辺の断熱材の破損、はがれにより、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重要：

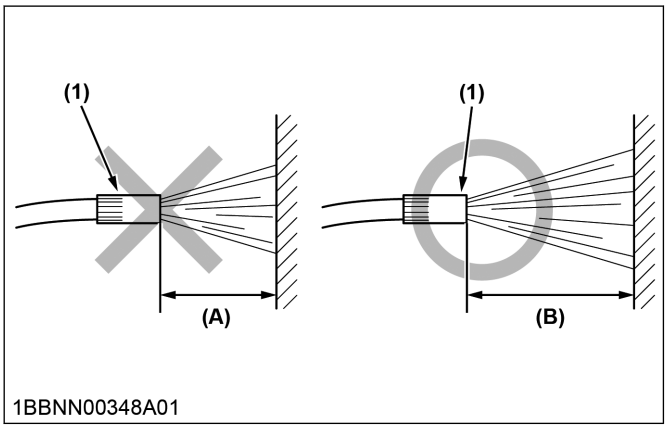
- **洗車のしかたが不適切な場合、次のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。**
  - **シール、ラベルの剥がれ**
  - **電装部品、エンジン室内、ラジエータ室内、キャビン室内など機体内部への浸入による故障**
  - **クローラ、タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなど割れやすい材質でできた部品の破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**
  - **断熱材の破損、はがれによる火災**
- **直接オルタネータに水や油類を掛けないでください。発電不良の原因になります。**

直射洗車厳禁



(1) 洗浄ノズル
(A) 直射
(B) 拡散

近距離洗車厳禁



(1) 洗浄ノズル
(A) *2 m* 未満
(B) *2 m* 以上

4. 使用者が行ってはいけない修理

次の部位に異常があるときは、購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部の結節部完備
- エンジン本体
- トランスミッション
- ベベルギヤを含むギヤを内蔵したケース類
- HST 含む油圧系統
- 電気部品と電気系統
- マフラ、排気管やその周辺の断熱材

重要：

- **分解、調整、交換などの処置を自ら行うと機械のトラブルの原因となります。また、メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。**

5. 定期点検一覧表

エンジン部

処置項目：点検、調整、掃除、バンド締付け

点検項目		点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
ファン駆動ベルト		調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	172 ☆
		交換	250 時間ごと		
エアクリーナエレメント		掃除	50 時間ごと	全型式	159
		交換	300 時間ごと（点検、掃除を 6 回するごとに同時に交換）		
インレットパイプ	エアクリーナ	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	160 ☆
		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
燃料フィルタエレメント		掃除	100 時間ごと	全型式	162
		交換	400 時間ごと		
燃料フィルタアッシ		交換	200 時間ごと	全型式	162
エンジンオイルフィルタカートリッジ		交換	初回は 50 時間後、それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルを 2 回交換するごとに同時に交換）	全型式	163
燃料パイプ		締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	160 ☆
		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ		掃除	100 時間ごと	全型式	152
オイルドレーンゴムホース		締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	160 ☆
		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース		締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	160 ☆
		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
各ホース、パイプの締付けバンド		点検	200 時間ごと	全型式	☆
		交換	300 時間、または 2 年ごとの早いほうで交換		
排水ホース		締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	160 ☆
		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換	全型式	
オイルクーラホース		締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	160 ☆
		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ、ラジエータフィン、オイルクーラーフィン		掃除	50 時間ごと	全型式	161

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：

- **各ベルトを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

走行部、操作部

処置項目：点検、調整、掃除

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
走行（ミッション）駆動ベルト	調整	初回または交換後から 5 時間後、それ以降 50 時間ごと	全型式	173 ☆
	交換	300 時間ごと		
駐車ブレーキ	調整	50 時間ごと	全型式	165

（次へ続く）

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
アクセルワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
SF ワンレバープッシュプルワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
刈取変速ワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
左分草かんワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
枕こぎオートプレートワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回は 50 時間後、それ以降 200 時間ごと（ミッションオイルを 2 回交換するごとに同時に交換）	全型式	164 ☆
クローラ	調整	初回または交換後から 20 時間後、および 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	195 ☆
	交換	250 時間ごと		
車軸のオイルシール	交換	300 時間ごと	全型式	☆
キャリアローラ、キャリアローラシール、キャリアローラベアリング	交換	250 時間ごと	全型式	☆
転輪、ドライブスプロケット、転輪ベアリング、オイルシール	交換	300 時間ごと	全型式	☆
クローラガイド 前、後	交換	300 時間ごと	全型式	☆
可動転輪、ローラシール	交換	250 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

刈取部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
刈取駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	173 ☆
	交換	300 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	174 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	交換	自動テンションのラチェット歯の終端部で交換	全型式	179
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
引起しローラ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	179 ☆
右穂先搬送爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
右株元チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	180 ☆

（次へ続く）

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
株元供給チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	180 ☆
左穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	179 ☆
左穂先搬送爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
左株元チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	180 ☆
刈刃	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	181
	交換	300 時間ごと		
刈刃クランクピン、ローラ、ベアリング	交換	300 時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ　上、下	交換	500 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	500 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各チェーンを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

脱こく部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
脱こく駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	174 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	176 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ケース駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	175 ☆
	交換	300 時間ごと		
1 番・2 番・揺動・フィード チェーン駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	176 ☆
	交換	300 時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	180 ☆
	交換	400 時間ごと		
排わら穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	181 ☆
排わら穂先搬送爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
排わら株元チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	181 ☆
排わら入力チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	181 ☆
排わらレール長さ切換えワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
わら切刃	交換	200 時間ごと	全型式	185
こぎ歯	交換	300 時間ごと	全型式	184

（次へ続く）

点検項目		点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
受あみ 1、弓金		交換	500 時間ごと	全型式	122
受あみ 2		交換	500 時間ごと	全型式	122
1 番縦スクリュ		交換	400 時間ごと	全型式	☆
1 番スクリュ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュ		交換	400 時間ごと	全型式	☆
2 番スクリュ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュケース		交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番処理ケース		交換	400 時間ごと	全型式	☆
ツース	2 番固定歯	交換	500 時間ごと	全型式	☆
	2 番処理歯	交換	500 時間ごと	全型式	☆
フロントハンプ		交換	300 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各チェーン、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

グレンタンク部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
グレンタンク駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	177 ☆
	交換	300 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	187
底スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
縦スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
水平スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

カッタ部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
カッタ駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	176 ☆
	交換	300 時間ごと		
カッタ切換えカバー開閉ワイヤ（排わら切換えワイヤ）	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	165 ☆
	交換	250 時間ごと		
カッタ刃	交換	150 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

電装部
処置項目：点検、充電

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	188
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス、バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	192 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ、スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	192
	交換	破損しているとき		
ランプの電球	点検	100 時間ごと	全型式	194
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	194 ☆
	交換	破損しているとき		

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

6. 給油、給水、注油点検一覧表

燃料

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
燃料タンク	給油	作業前または作業後	—	**容量** 約 24	ディーゼル軽油	152

- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給、交換時は次の事項を守ってください。
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

オイル

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
エンジン	補給、交換	作業前または作業後	初回は 50 時間目 2 回目以降は、100 時間ごとまたは 1 年ごとの早いほうで交換	**規定量** 2.2～3.2 オイルゲージの“下限”と“上限”の間	指定オイル D10W-30	153
集中注油オイルタンク	補給		—	**容量** 約 4	指定オイル D10W-30	135
トランスミッションケース	補給、交換	50 時間ごと	初回は 50 時間目 2 回目以降は、100 時間ごとまたは 2 年ごとの早いほうで交換	**規定量** 約 3.0 検油口からオイルがにじむまで	指定オイル スーパー UDT-2	154
フィードチェーン駆動ケース	補給	—	分解時	**容量** 約 0.3	指定オイル M80B、または M90	155 ☆
こぎ胴駆動ケース				**容量** 約 0.15		155
引起しチェーン	注油	作業前および作業後	—	適量	指定オイル D10W-30	135
左穂先チェーン						
穂先供給チェーン						
フィードチェーン						
排わらチェーン 株元、穂先						
排わらチェーンテンション部 株元、穂先、入力						

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給、交換時は次の事項を守ってください。
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するオイルは、必ず指定オイルを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

水、液

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
リザーブタンクの冷却水	補水	作業前または作業後	2 年ごと 冬期停止時は排出、または不凍液を入れる	**規定量** タンク側面の*"LOW*（下限）*"*と*"FULL*（上限）*"*の間 ***"LOW*（下限）*"*** 0.15 ***"FULL*（上限）*"*** 0.25	清水または不凍液	158

- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給、交換時は次の事項を守ってください。
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

グリース

走行部

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
転輪、後輪部	補給	作業シーズン終了後	—	内側シールから少しはみ出るまで	指定グリース No.2	156
スイングアーム部				適量		

刈取部

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
刈刃ギヤケース	補給	分解時	—	適量	指定グリース No.2	☆
パッカ駆動ケース						
刈取ギヤケース						
供給ギヤケース						
引起しギヤケース						
スライドガイド（こぎ深さ調節部）	塗布	作業前および作業後（洗車後）	—			
サポートスプリングガイド	補給		50 時間ごと			

脱こく部

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
排わらベベルケース	補給	分解時	—	適量	指定グリース No.2	☆
1 番ベベルケース						
2 番ベベルケース						
2 番チェーンケース						

グレンタンク部

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	—	適量	指定グリース No.2	☆
アンローダケース 1、2、3						
アンローダケース 2、3 接続回動しゅう動部		作業シーズン終了後				
アンローダケース 1、縦アンローダモータステー接続回動しゅう動部	塗布	分解時				

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給、交換時は次の事項を守ってください。
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するグリースは、必ず指定グリースを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

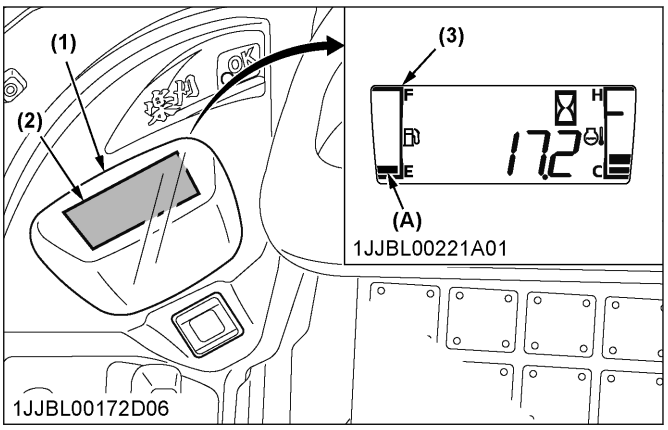
7. 燃料、オイル、グリースの点検、補給、交換

警告
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取り除いてください。**
- **燃料やオイルを補給または交換したあと、こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭き取ってください。また、燃料漏れや油漏れがあるときは購入先に連絡してください。**

重要：
- **点検するときは、水平で平たんな場所にコンバインを移動して行ってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。**
- **コンバインの故障の原因となりますので次の事項を守ってください。**
  - **廃油は使用しないでください。**
  - **オイルを補給するときは、現在使用しているオイルと同じメーカ、同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また、異なるメーカ、異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは、オイルをすべて排出してから新しいオイルと交換してください。**
  - **燃料やオイルを補給、交換するときは、ゴミや異物の混入を防ぐため、給油口付近を掃除してください。また、給油口からゴミなどの異物を入れないでください。**
  - **オイルを補給するとき、規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。**
  - **使用するオイルは、必ず指定オイルを使用してください。指定オイルの入手が困難な場合は推奨オイルを使用してください。また、指定オイルや推奨オイル以外のオイルを使用して、コンバインの機能が低下したり事故が起こった場合は、弊社は責任を負いませんので注意してください。**

8. 燃料の補給

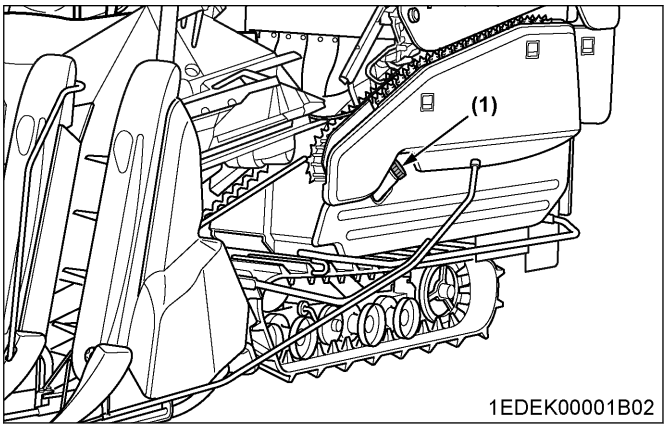
メータユニットの液晶ディスプレイの燃料計の最後の1目盛が点滅し、ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。

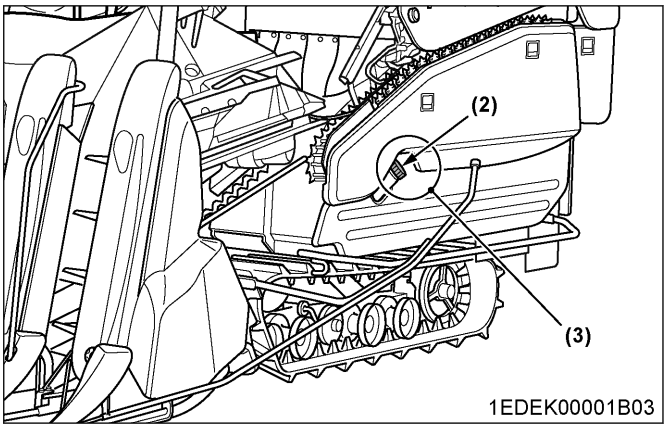


(1) メータユニット
(2) 液晶ディスプレイ
(3) 燃料計
(A) 点滅

8.1 燃料の給油

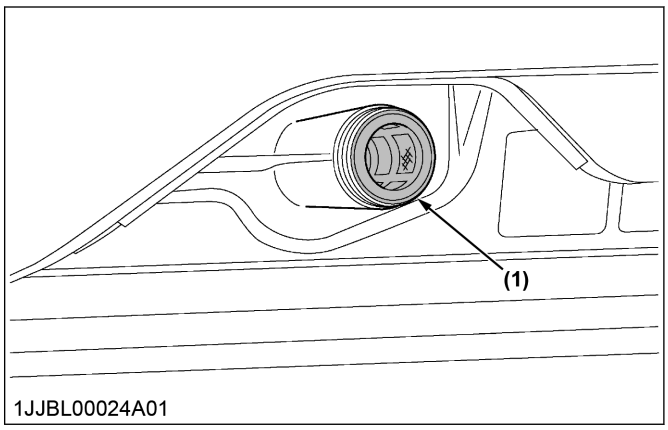
燃料の給油を行うときは、ゴムキャップを外したあと、燃料キャップを外してください。





(1) ゴムキャップ
(2) 燃料キャップ
(3) 給油口

重要：
- **給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。**
- **ゴムキャップをつけたままで燃料キャップの付け外しを行わないでください。燃料キャップのねじ部が破損する原因となります。**



(1) 燃料こしあみ

8.2 燃料の補給方法

1. 平たんな場所でエンジンを止め、ゴムキャップを外したあと燃料キャップを外します。
2. 給油口から燃料を給油します。
   メインスイッチのキーを**[入]**位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき、ブザーが鳴ります。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 24 L

補足：
- **燃料を補給するときは、必要に応じて燃料供給台を使用してください。燃料補給後は、燃料供給台を元の位置に収納してください。（燃料供給台（61 ページ）を参照）**
- **満タンお知らせ機能は、ブザーが 5 回鳴ると停止します。**
- **ブザーが鳴ったあと、あふれさせないように注意してください。**
- **満タンお知らせ機能は次の条件のとき、はたらかない場合があります。**
  - **エンジン停止後約 20 秒間**
  - **給油中に機体を揺らしたり、急激に給油したとき**
  - **給油量が少ないとき**
  - **液晶ディスプレイの燃料残量表示の目盛が半分以上点灯している状態で給油したとき**

給油後
燃料キャップとゴムキャップを取り付けます。

9. エンジンオイルの点検、補給、交換

⚠ 警告
- **エンジンオイルの点検、補給、交換をするときは、エンジンを必ず止めて、エンジンがじゅうぶん冷えてから、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。ヤケドするおそれがあります。**

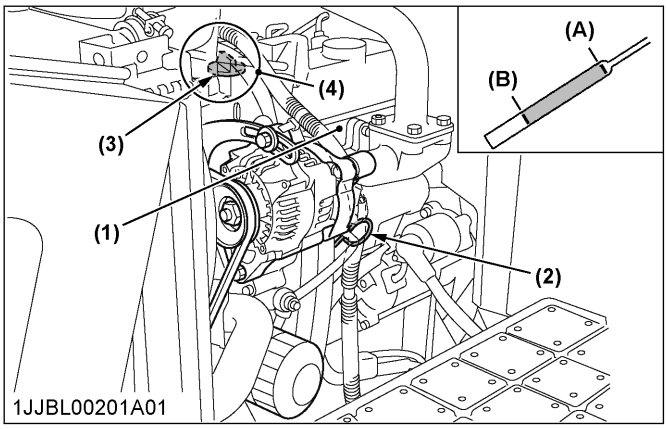
1. エンジンルームを開きます。
2. エンジンのオイル量を点検し、必要であれば補給、交換します。

   重要：
   - **エンジンオイルをオイルゲージの“上限”以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。**

点検、補給、交換後
エンジンルームを閉じます。

9.1 エンジンオイルの点検、補給

1. エンジン停止後、数分たってからオイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ります。
2. もう一度オイルゲージをいっぱいまで差し込んでから抜き、ゲージの“上限”と“下限”の間にエンジンオイルがあるか点検します。
3. エンジンオイルが不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。



(1) エンジン
(2) オイルゲージ
(3) 給油栓
(4) 給油口
(A) 上限
(B) 下限

4. さらに、油漏れの無いことも調べます。

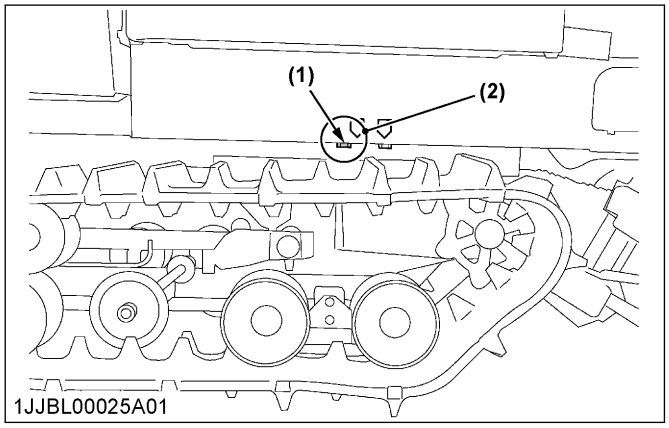
9.2 エンジンオイルの交換

補足：
- **エンジンオイルの交換が 2 回目のときに、エンジンオイルフィルタカートリッジを交換してください。（エンジンオイルフィルタカートリッジの交換（163 ページ）を参照）**

9.2.1 エンジンオイルの排油のしかた

1. 給油栓を外します。

2. 排油プラグを外し、排油口からオイルを排出します。



(1) 排油プラグ *(2)* 排油口

3. 排油プラグを取り付けます。

重要：
- **排油プラグを締め忘れると油漏れが発生し、クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。**

4. 給油栓を取り付けます。

9.2.2 エンジンオイルの給油のしかた

1. エンジンルームを開きます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締め付けます。

重要：
- **指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。**
  また、気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	規定オイル量	
指定オイル（ディーゼルエンジン用） D10W-30*1	上限線	約 3.2 L
	下限線	約 2.2 L

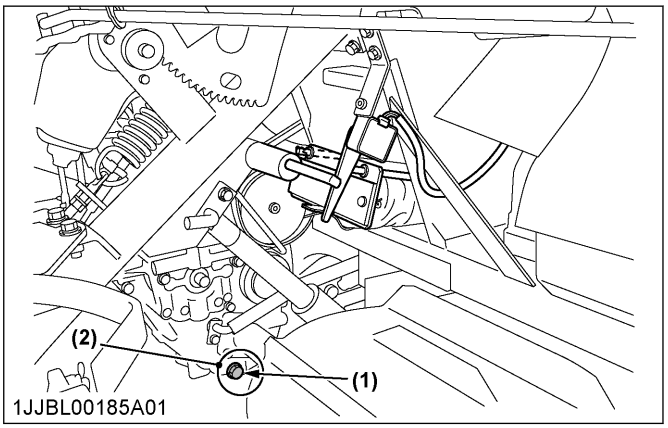
*1 D10W-30 はオールシーズン用です。

3. エンジンを始動し、アイドリング状態で約 1 分間運転します。
4. エンジンを停止します。
5. 5 分間以上たってからオイル量の点検を行います。
6. オイル量が不足しているときは、規定量になるまでエンジンオイルを追加補給します。

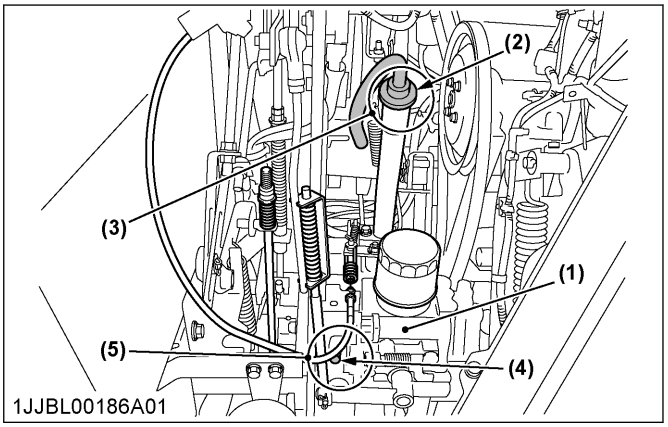
給油後
エンジンルームを閉じます。

10. トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換

⚠ 警告
- **刈取部を上げて点検、補給、交換を行うときは、刈取下降ロックスイッチを上げて、刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などの固定用具を使用して下降防止の歯止めをしてください。**



(1) 排油プラグ *(2)* 排油口



(1) トランスミッションケース *(4)* 検油ボルト
(2) 給油栓 *(5)* 検油口
(3) 給油口

オイルの種類	規定オイル容量
指定オイル スーパー UDT-2	約 3.0 L

10.1 トランスミッションケースオイルの点検、補給

1. 刈取部を最下降位置にします。

重要：
- **点検するとき、刈取部が上昇していたり機体が傾いていると、正確な量を示しません。**

2. レバーガイドシートをめくり上げます。
（レバーガイドシートを開く方法（116 ページ）を参照）

3. 検油ボルトを外してオイル量を点検します。
   トランスミッションケースオイルが検油口から出てくれば適正量です。
4. オイル量が不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。
5. さらに、油漏れの無いことも調べます。

点検、補給後
レバーガイドシートを降ろします。

10.2 トランスミッションケースオイルの交換

10.2.1 トランスミッションケースオイルの排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し、トランスミッションケースオイルを排出します。

10.2.2 トランスミッションケースオイルの給油のしかた

排油プラグを締め付けてください。

1. 検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のトランスミッションケースオイルを給油します。

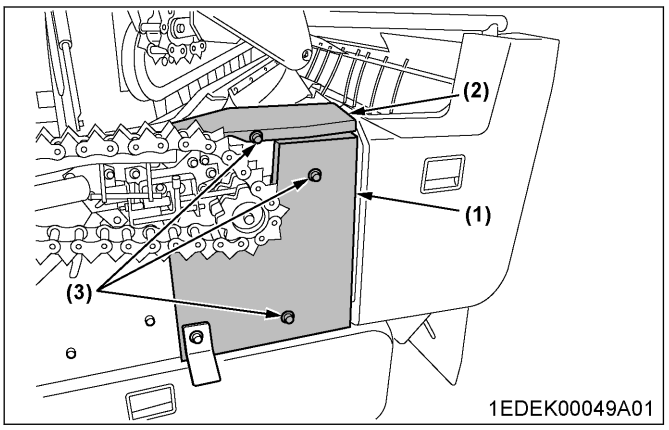
   重要 :
   - **給油したあと、エンジンを約 1 分回転させて、再度点検を行い、検油口からオイルが出ないときは、トランスミッションケースオイルを追加補給してください。**

給油後
給油栓と検油ボルトを締め付けます。

11. フィードチェーン駆動ケースオイルの補給

⚠ 警告
- **こぎ胴を開くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。**

1. こぎ胴を開きます。
2. ボルトを取り外して左サイドカバー後 1、2 を外します。

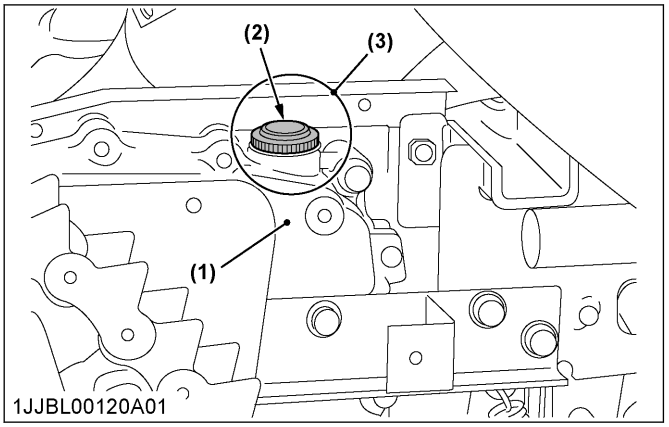


(1) 左サイドカバー後 *1*
(2) 左サイドカバー後 *2*
(3) ボルト

3. フィードチェーン駆動ケースのオイルを補給します。

11.1 フィードチェーン駆動ケースオイルの補給方法

1. 給油栓を外して、フィードチェーン駆動ケースオイルを適量補給します。



(1) フィードチェーン駆動ケース
(2) 給油栓
(3) 給油口

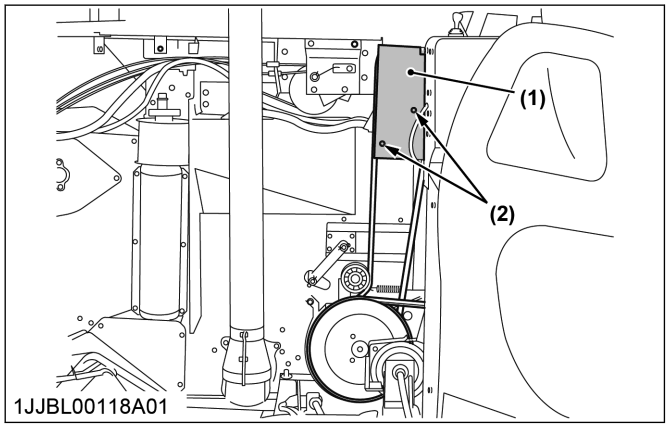
オイルの種類	オイル容量
指定オイル M90 または M80B	約 0.3 L

補給後
1. 取り外していた左サイドカバー後 1、2 を取り付けます。
2. 最後にこぎ胴を閉じます。

12. こぎ胴駆動ケースオイルの補給

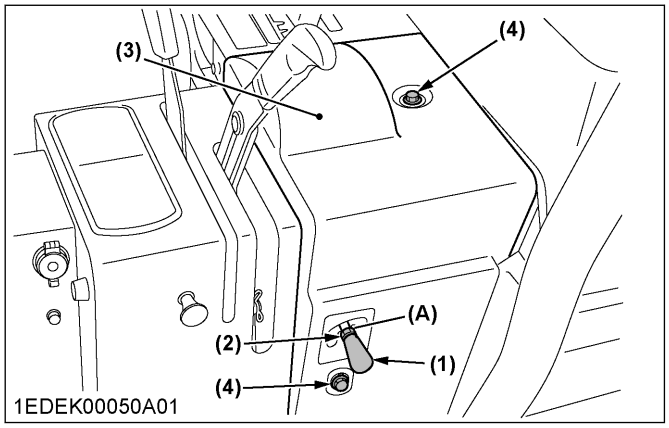
1. グレンタンクを開きます。

2. ボルトを取り外して脱こく駆動ケースのサイドカバーを外します。



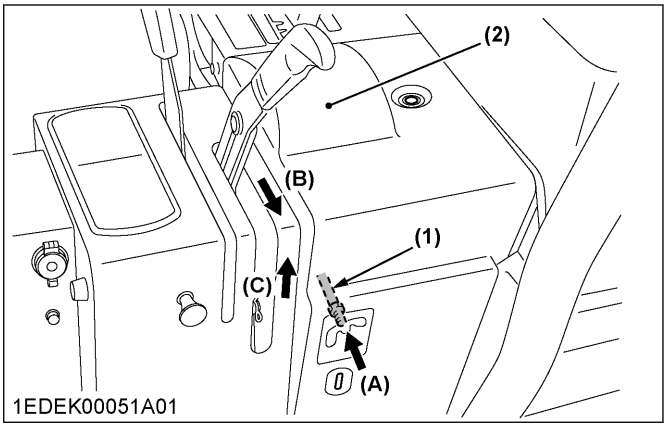
(1) サイドカバー *(2)* ボルト

3. トウミ調節レバーを“標準”位置にします。
4. トウミ調節レバーのグリップ根元にあるナットをゆるめてグリップを取り外します。
5. こぎ胴駆動ケースの上部カバーのボルトを取り外します。



(1) トウミ調節レバーグリップ *(A)* 標準位置
(2) ナット
(3) 上部カバー
(4) ボルト

6. トウミ調節レバーを押し込み、こぎ胴駆動ケースの上部カバーを手前にずらして、上部カバーを上側に取り出します。

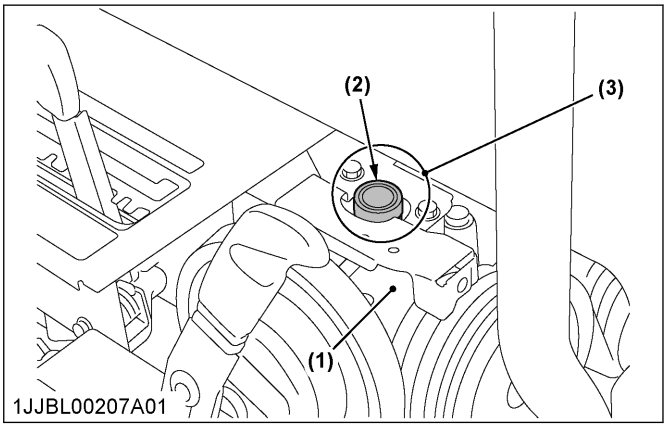


(1) トウミ調節レバー *(A)* 押し込む
(2) 上部カバー *(B)* ずらす
(C) 上側に取り外す

7. こぎ胴駆動ケースのオイル量を点検し、必要であれば補給します。

12.1 こぎ胴駆動ケースオイルの補給方法

1. 給油栓を外して、こぎ胴駆動ケースオイルを適量補給します。



(1) こぎ胴駆動ケース *(3)* 給油口
(2) 給油栓

オイルの種類	オイル容量
指定オイル M90 または M80B	約 0.15 L

補給後
1. 取り外していた上部カバーを取り付けます。
2. 取り外していたサイドカバーを取り付けます。
3. 最後にグレンタンクを閉じます。

13. 各部のグリース補給

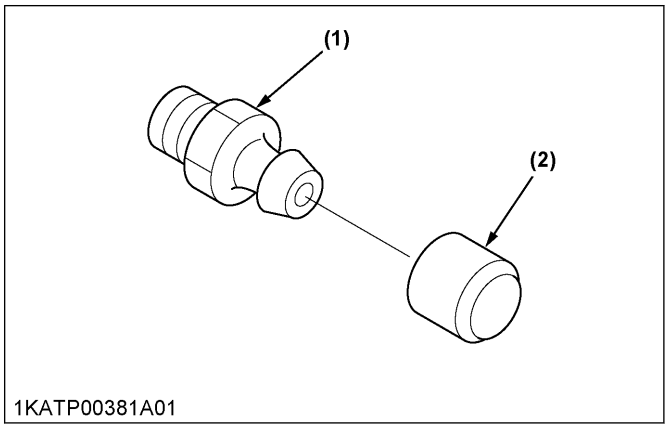
⚠ 警告
- **グリースの補給を行うときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**

重要：
- **グリースガンを押してもグリースが入らなくなったときは、補給を中止してください。特に転輪部が回らなくなるおそれがあります。**

13.1 グリースニップルからのグリース補給

グリースをグリースニップルから補給してください。また、グリースを補給するときは、グリースガンなどのグリースを補給する専用工具を使用してください。

補足：
- **グリースニップルはストレートタイプと L 字タイプがあります。**
- **指定グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。**
  走行部（転輪、後輪各部）にグリースの補給を行うときは、各グリースニップルのキャップを取り外してください。また、補給が終わったあと、各グリースニップルにキャップを取り付けてください。



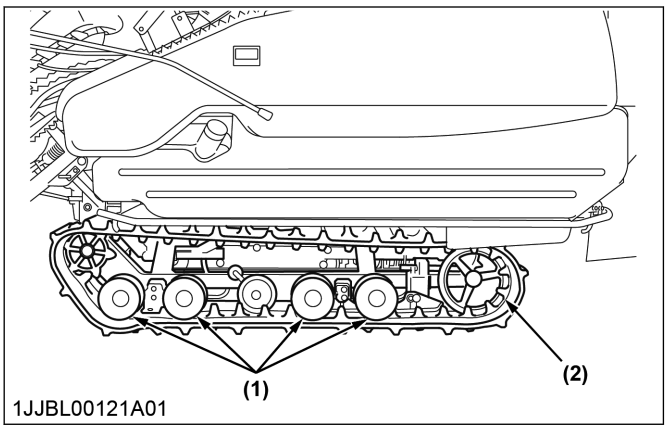
(1) グリースニップル　　*(2)* キャップ

- **グリース注入後は、グリースニップルのキャップを必ず取り付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。**

13.2 転輪部、後輪部のグリース補給

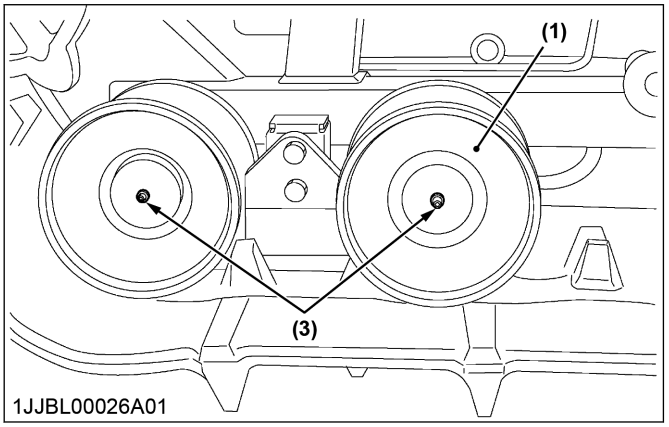
グリース補給部	グリース補給箇所
転輪部	左、右各 4 か所
後輪部	左、右各 1 か所

転輪部へのグリースアップを行うときは、内側のオイルシールからグリースがはみ出るまで各転輪部のグリースニップルにグリースを補給してください。



(1) 転輪　　*(2)* 後輪

(1)転輪の詳細

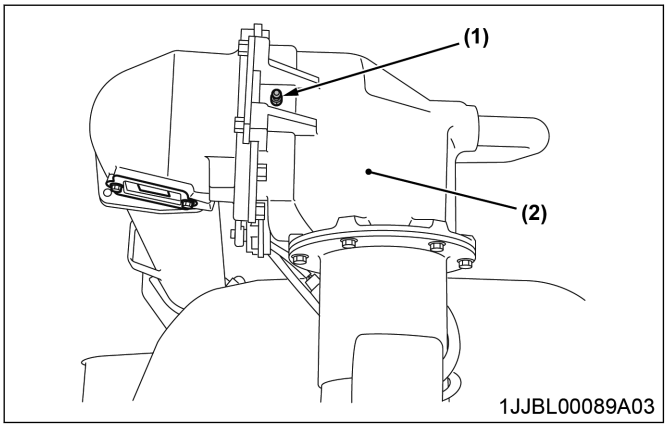


(3) グリースニップル

補足：
- **工場出荷時は、グリースを全容量の 50 %封入しています。**

13.3 アンローダ部のグリース補給

グリースをグリースニップルから補給してください。



(1) グリースニップル　　*(2)* アンローダケース *2*

補足：
- **アンローダケース 2 にグリースを補給するときは、掃除口を開いた状態でフランジの内側の面にグリ**

ースが付着しないように補給してください。もみにグリースが付着して汚粒発生の原因となります。

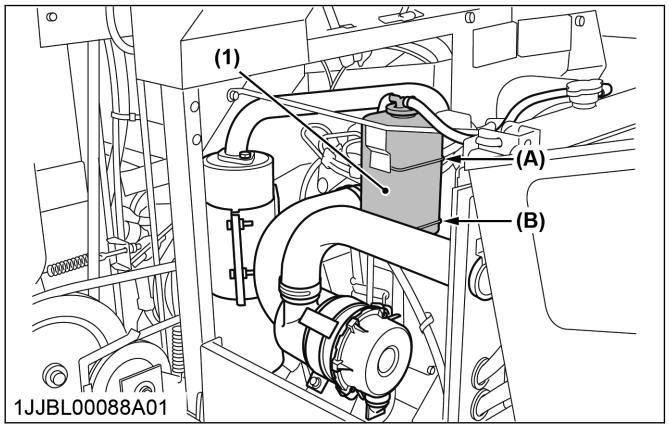
14. ラジエータ冷却水の点検、補給、交換

⚠ 警告

- **ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてから、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。**

14.1 ラジエータ冷却水の点検、補給

1. エンジンルームを開きます。
2. リザーブタンク水量が*"LOW"*（下限）と*"FULL"*（上限）の間にあるか確かめます。



(1) リザーブタンク
(A) *FULL*（上限線）
(B) *LOW*（下限線）

3. リザーブタンク内の冷却水が*"LOW"*（下限線）より少ないときは、リザーブタンクのタンクキャップを取り外して清水を補給します。

重要：

- **オーバーヒート時は、ラジエータ内の冷却水の水量を確認し、水量が不足しているときは、清水を補給してください。**
- **冷却水が自然に不足したときは、必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。**

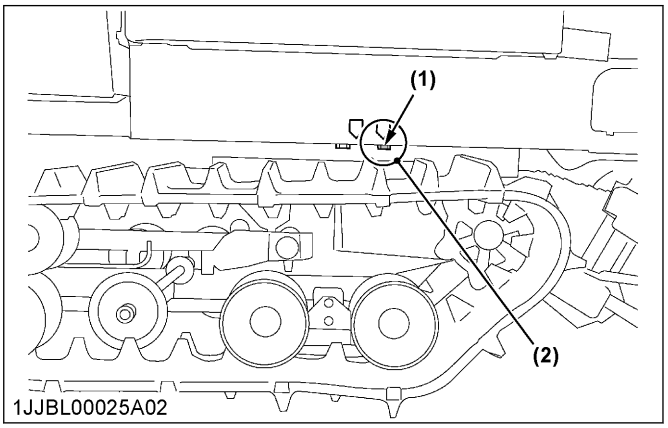
補足：

- ***"FULL"*（上限）の線以上は補給しないでください。**
- ***"FULL"*（上限）で約 0.25 L です。**

4. リザーブタンクのキャップを取り付けます。
5. エンジンルームを閉じます。

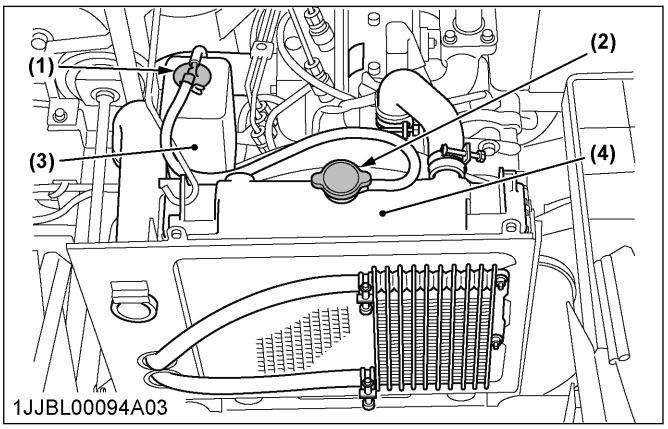
14.2 ラジエータ冷却水の交換

1. 排水プラグを外します。



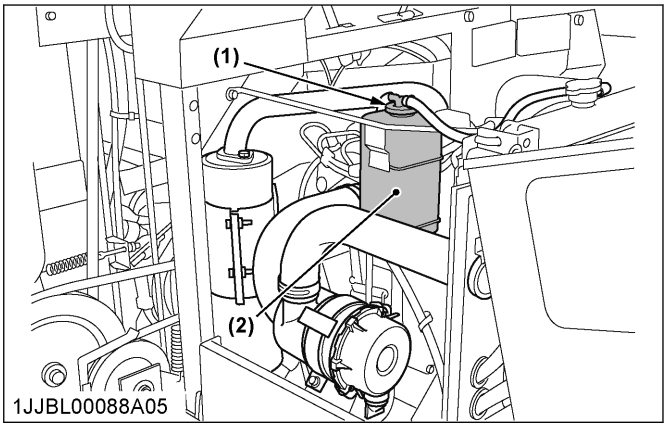
(1) 排水プラグ
(2) 排水口

2. エンジンルームを開きます。
3. ラジエータキャップを外してラジエータの冷却水を排水します。



(1) タンクキャップ
(2) ラジエータキャップ
(3) リザーブタンク
(4) ラジエータ

4. リザーブタンクの冷却水を排水します。
   a. リザーブタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取り外します。
   b. リザーブタンクを上側に抜いて取り外し、排水します。



(1) タンクキャップ
(2) リザーブタンク

5. 水道水でごみや錆が出なくなるまで洗います。
6. リザーブタンクを取り付けます。
7. 排水プラグを締め付けます。
8. 目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータおよびリザーブタンクに入れます。

重要：
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**
- **異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。**
- **排水プラグを締め忘れると水漏れが発生するおそれがあります。また、排水プラグ部を機体に取り付け忘れるとホースが破損するおそれがあります。**

補足：
- **不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、次表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール(EG)タイプのロングライフクーラントをご使用ください。**

不凍液混合比率表

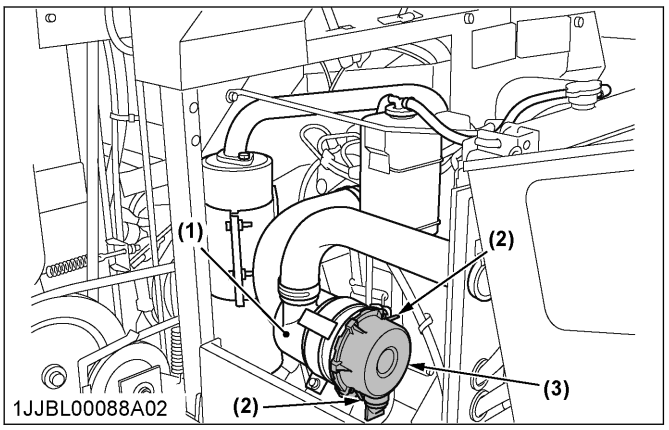
外気温度(℃)		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水(%)	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液(%)	15	20	25	30	35	40	45	50	55

  - **出荷標準は、不凍液 35 %です。**
    北海道向けは不凍液 50 %です。
  - **ラジエータ容量は、リザーブタンク容量を含まず 3.7 L です。**
  - **新しい冷却水と交換を行ったあとは、必ず不凍液を入れて、5 分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、冷却水が冷えてからラジエータキャップを取り外して、冷却水を補充してリザーブタンクの水量を確かめておいてください。**

9. ラジエータキャップおよびリザーブタンク、リザーブタンクキャップを取り付けます。
10. エンジンルームを閉じます。

15. エアクリーナの点検、掃除、交換

エアクリーナエレメントの点検、掃除、交換を行うときは、ダストカップを取り外してください。
1. エンジンルームを開きます。
2. 上、下 2 か所の止め金具を外してダストカップを取り外します。



(1) エアクリーナ
(2) 止め金具
(3) ダストカップ

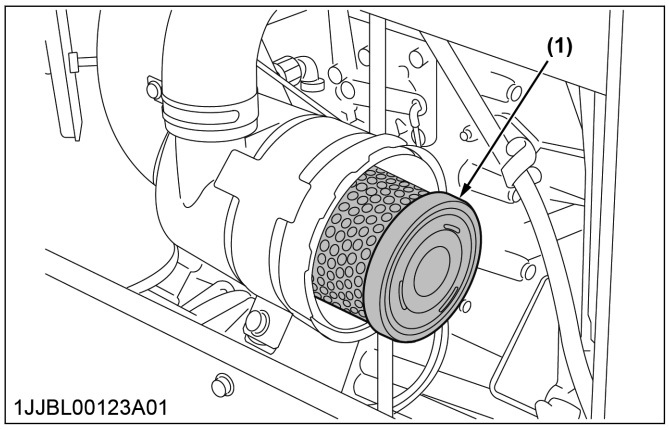
3. エアクリーナを点検し、必要であれば掃除または交換します。

15.1 エアクリーナの点検、掃除、交換方法

重要：
- **高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。**
- **エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行ってください。**
- **エレメントは傷が付かないように取り扱ってください。特に掃除時は、たたいたりかたい物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますので、しないでください。**
- **エレメントを掃除する場合、エアの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm^2)をこえないよう注意し、エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。**

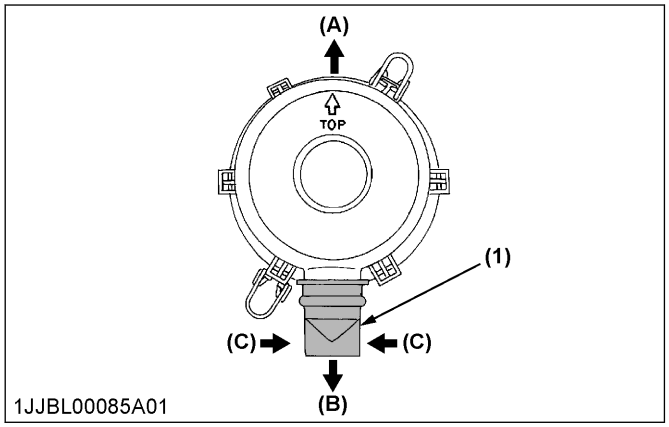
1. エアクリーナエレメントの点検を行います。

2. 掃除または交換を行います。
   - **エレメントを掃除するとき**
     a. エレメントを引き抜いて取り外します。
     b. エレメントの内側から空気を吹きつけるか、またはエレメントを軽く振ってゴミを取り除きます。
   - **汚れのひどい場合や 300 時間経過しているとき**
     交換してください。



(1) エレメント

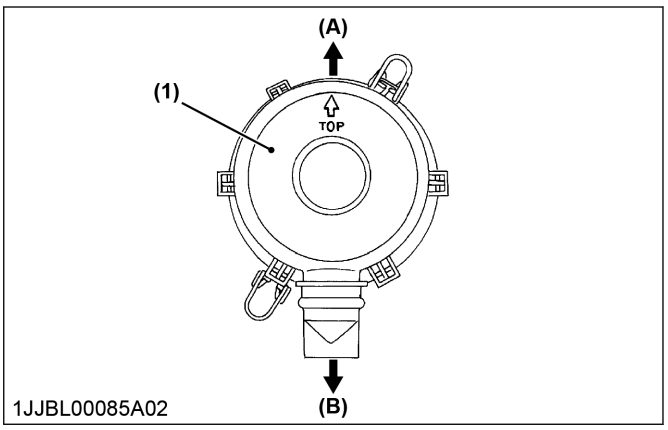
補足：
- **エアクリーナの点検を行ったときは、ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。**



(1) エバキュエータバルブ
(A) 上側
(B) 下側
(C) つまむ

作業終了後
1. ダストカップを取り付けます。

補足：
- **エレメントを取り付けたあと、ダストカップの取付け方向に注意してください。**
  ダストカップは[TOP]の文字を上側にしてください。
- **ダストカップを取り付けるときは、傾かないように取り付けてください。傾いた状態で取り付けるとすき間からほこりが侵入してエンジンの故障の原因となります。**



(1) ダストカップ
(A) 上側
(B) 下側

2. エンジンルームを閉じます。

16. パイプ、ホース類の点検

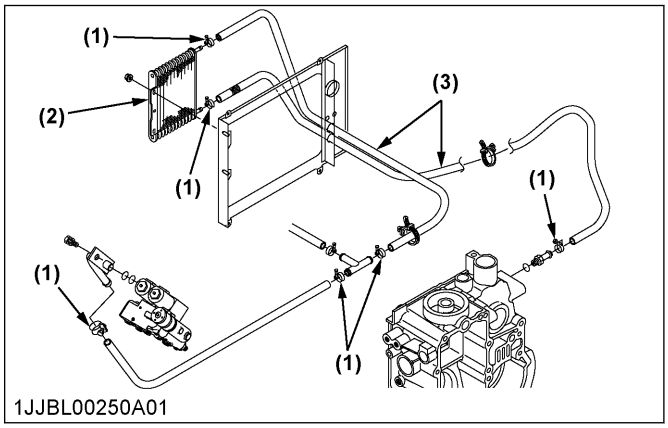
⚠ 警告
- **運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。**
- **燃料系ゴムホースが破損していると燃料漏れを起こし火災の原因となります。**
- **使用者は交換作業を行わないでください。**

16.1 パイプ、ホース類の点検方法

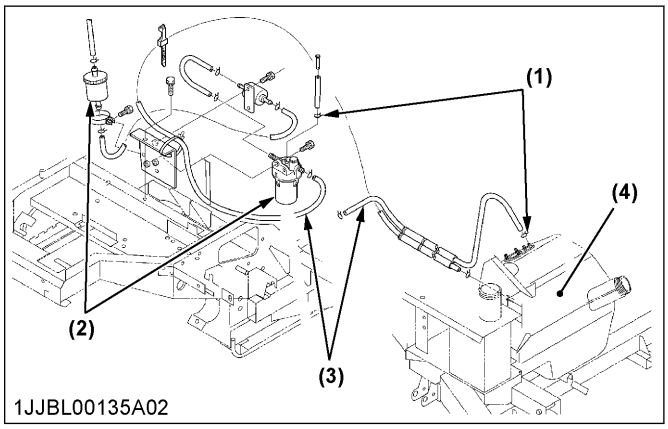
1. エンジン、エアクリーナ、ラジエータ、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検します。

2. 油漏れや水漏れが発生しているときはパイプやホースを交換したり、パイプ、ホースがゆるんでいるときはバンドを締め付けます。

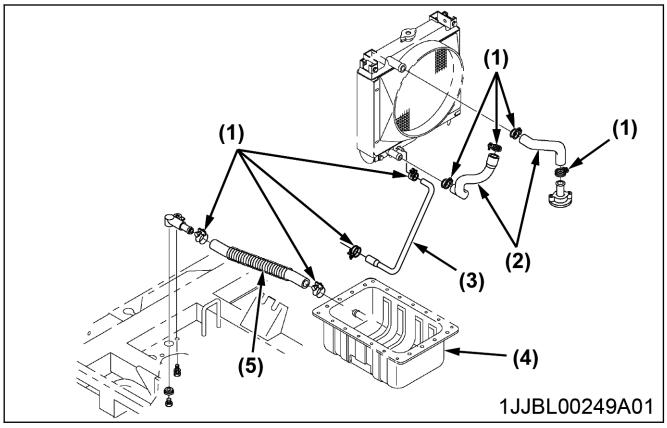
重要：
- **オイルドレーンゴムホースが破損していると、エンジンが焼付きを起こします。**
- **油漏れや水漏れをしていなくても、“2 年経過しているときや劣化の激しい場合”は購入先に連絡して交換してください。**



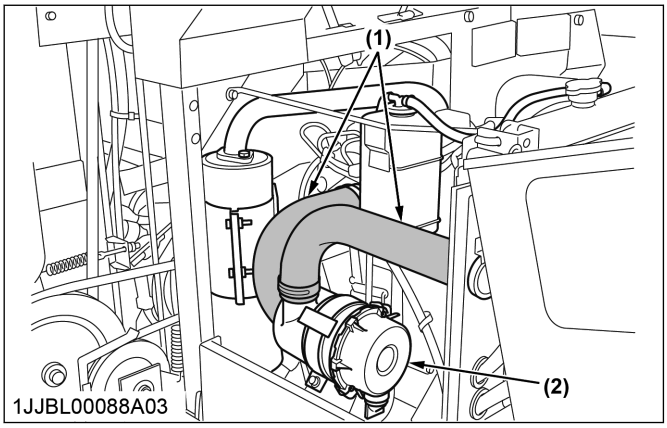
(1) 各バンド
(2) オイルクーラ
(3) オイルクーラホース



(1) 各バンド
(2) 燃料フィルタ
(3) 燃料パイプ
(4) 燃料タンク



(1) 各バンド
(2) ラジエータホース
(3) ハイスイチューブ
(4) エンジンオイルパン
(5) オイルドレーンゴムホース

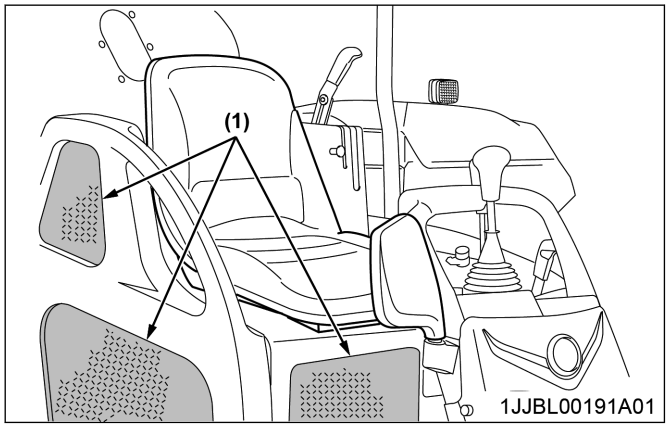


(1) インレットパイプ
(2) エアクリーナ

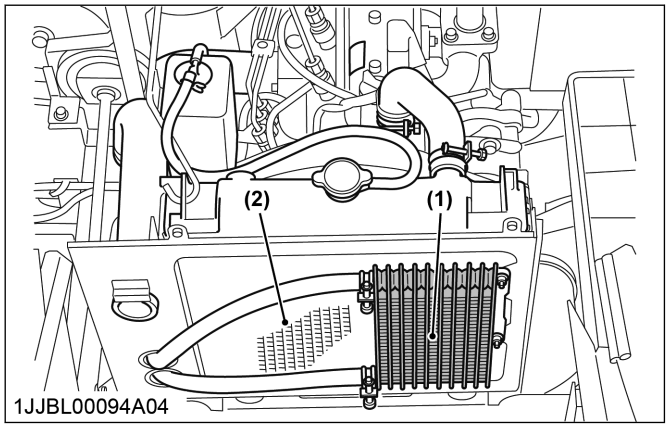
17. 防じんあみ、ラジエータフィン、オイルクーラフィンの掃除方法

1. エンジンルームを開きます。

2. 圧縮空気を使用するなど適切な方法で防じんあみやラジエータ部およびエンジンに付着しているゴミなどの異物を掃除します。



(1) 防じんあみ



(1) オイルクーラフィン *(2)* ラジエータフィン

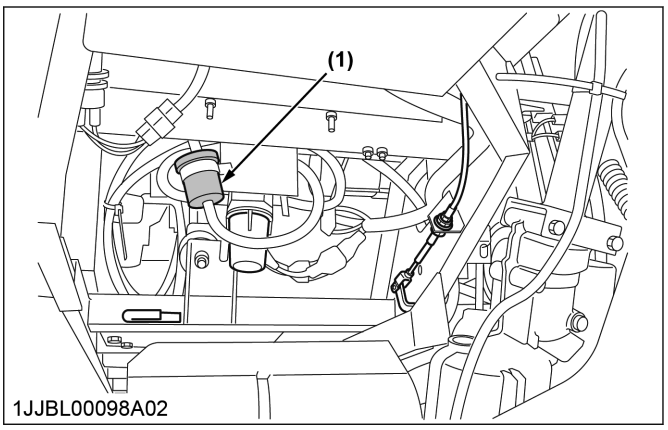
重要：
- **ヘラやドライバなどかたい物や高圧洗車機を使用して、ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷めると、ラジエータの機能を低下させる原因になります。**

補足：
- **ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は、オイルクーラを取り外してから掃除してください。**

掃除後
エンジンルームを閉じます。

18. 燃料フィルタアッシの交換方法

運転時間が 200 時間ごとに燃料フィルタアッシを交換してください。燃料フィルタアッシはステップの下側にあります。



(1) 燃料フィルタアッシ

重要：
- **フィルタ下部に水が溜まっているときは、早めに交換してください。**
- **燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。**

補足：
- **交換後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。**

19. 燃料フィルタの掃除、燃料フィルタエレメントの交換

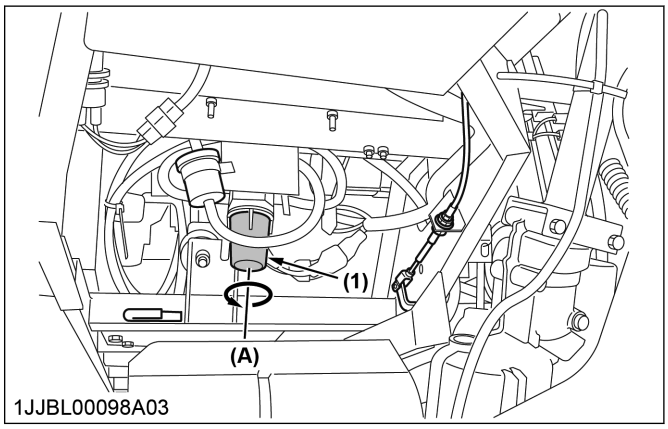
燃料フィルタの掃除や燃料フィルタエレメントの交換は、燃料タンク内の燃料が半分以下になってから行ってください。燃料が半分以上あるときにフィルタカップを取り外すと、燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流することがあります。
また、燃料フィルタはステップ下側にあります。

1. ステップを取り外します。
2. 燃料フィルタを掃除し、必要に応じて燃料フィルタエレメントを交換します。

19.1 燃料フィルタの掃除方法、燃料フィルタエレメントの交換方法

重要：
- **燃料フィルタ下部に水が溜まっているときは、早めに掃除または交換してください。**
- **燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。**

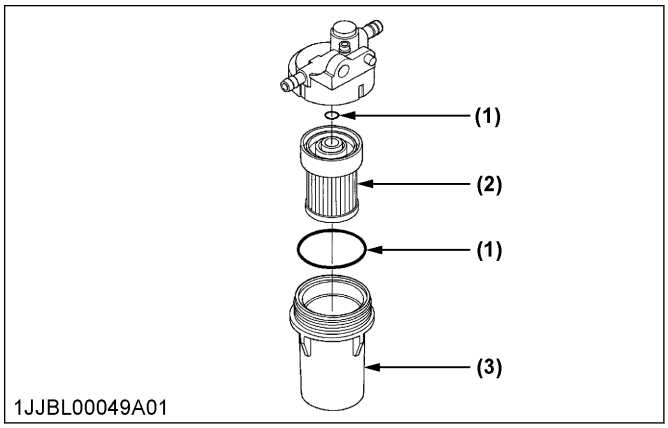
1. フィルタカップをゆるめて外します。



(1) フィルタカップ　　*(A)* ゆるめる

重要：
- **フィルタカップを外すと、燃料タンクからの燃料流出は自動的に止まります。**

2. 燃料フィルタエレメントを取り出して“軽油”で O リングを含めてすすぎ洗いで洗浄をします。
このとき、汚れのひどい場合や運転時間が 400 時間経過しているときは交換してください。



(1) O リング
(2) 燃料フィルタエレメント
(3) フィルタカップ

重要：
- **O リングは傷つけないようにしてください。また、無くさないでください。**
- **汚れや目詰まりがひどい場合は、洗浄を行っても短時間で目詰まりします。**

3. O リングやフィルタエレメントにゴミが付着しないようにもとどおりに組み付けます。

重要：
- **O リングは溝にきちんと入れて組み付けてください。**
- **ゴミが燃料内に混入すると、燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。**

補足：
- **掃除または交換後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。**

20. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

1. エンジンルームを開きます。
2. エンジンオイルフィルタカートリッジを交換します。

交換後
エンジンルームを閉じます。

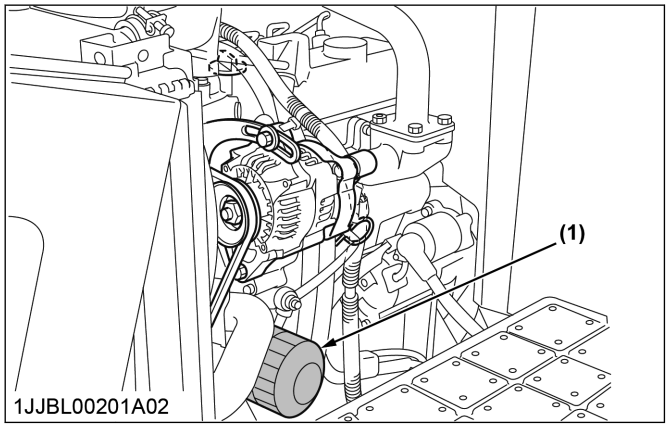
20.1 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換方法

補足：
- **エンジンオイルフィルタカートリッジは、エンジンオイルの交換を 2 回するごとに同時に交換してください。**

1. エンジンルームを開きます。
2. 専用工具を使ってエンジンオイルフィルタカートリッジを取り外します。

補足：
- **エンジンオイルフィルタカートリッジの取外し方法や専用工具については、購入先にご相談ください。**

3. 新しいエンジンオイルフィルタカートリッジを取り付けます。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

重要：
- **新しいエンジンオイルフィルタカートリッジは、O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。**
- **エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。**

4. オイルゲージの上限線までオイルを補給します。
5. 5 分程度エンジンを運転して各部に異常が無いこと、および油圧に異常が無いこと（オイルランプ消灯）を確認します。
6. エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めます。

補足：
- **オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。**

7. エンジンルームを閉じます。

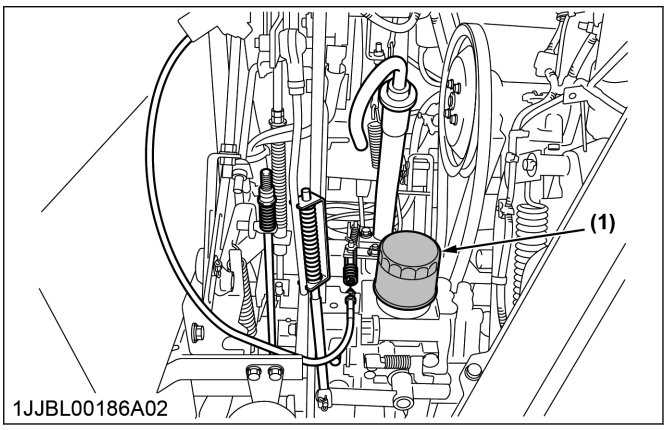
21. ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換

⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **刈取部を上げて交換を行うときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして、刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などの固定用具を使用して落下防止の歯止めをしてください。**

21.1 ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換方法

1. トランスミッションケースオイルを排出します。（トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換（154 ページ）を参照）
2. 専用工具を使ってミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取り外します。

補足：
- **ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの取外し方法や専用工具については、購入先にご相談ください。**
- **ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取り外すとき、少しゆるめたあと、左、右に 4 回～5 回程度動かして、オイル抜きを行ってください。**



(1) ミッション・*HST* オイルフィルタカートリッジ

3. 新しいミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取り付けます。

重要：
- **新しいミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取り付けるときは、O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。また、ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを交換するときにごみなどの異物が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、ミッションや HST の故障の原因となります。**

4. トランスミッションケースオイルを規定量給油します。（トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換（154 ページ）を参照）

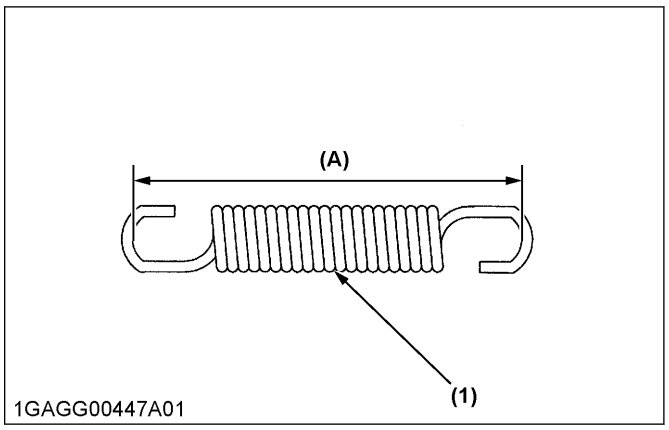
補足：
- **ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけトランスミッションオイルの油面が下がります。**

重要：
- **給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷を掛けずに回転させて、再度点検を行い、トランスミッションケースの検油口からオイルが出ないときはトランスミッションケースオイルを追加補給してください。**

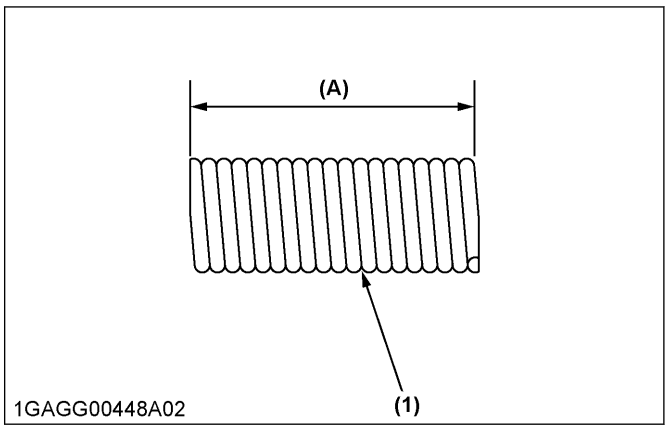
22. 各部ワイヤ、ロッドの点検、調整

重要：
- **テンションスプリングの張り調整が終わり、調整ナットまたはロックナットを締め付けるとき、テンションスプリングをねじれた状態で締め付けないでください。破損の原因となります。**

補足：
- **スプリングの取付け長さは、引張りスプリングの場合はフックの内寸法、圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。**



(1) 引張りスプリング　　*(A)* 内寸法

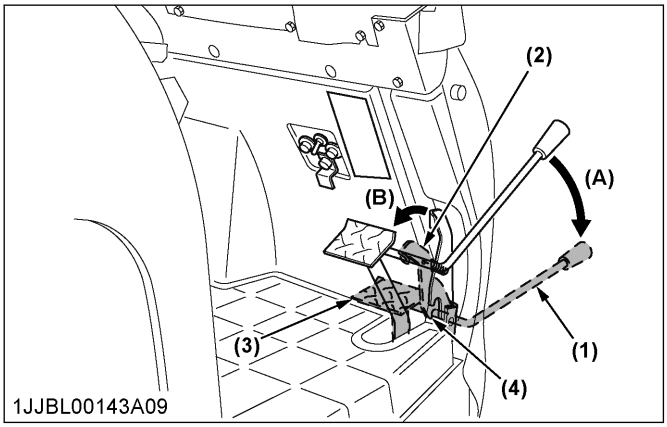


(1) 圧縮スプリング　　*(A)* 外寸法

23. 駐車ブレーキロッドの点検、調整

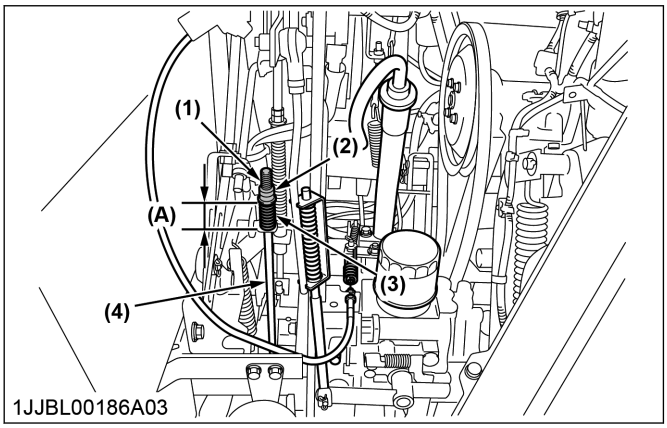
駐車ブレーキロッドの圧縮スプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 駐車ブレーキレバーを下げます。
   b. ブレーキロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックします。



(1) 駐車ブレーキレバー　　*(A)* 下げる
(2) ブレーキロックレバー　　*(B)* ロック
(3) ブレーキペダル
(4) フック部

2. レバーガイドシートをめくり上げます。
   （レバーガイドシートを開く方法（116 ページ）を参照）
3. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで圧縮スプリングを調整します。



(1) ロックナット　　*(A)* *31 mm～33 mm*
(2) 調整ナット
(3) 圧縮スプリング
(4) 駐車ブレーキロッド

4. ロックナットを締め付けます。
5. 駐車ブレーキを解除します。
6. レバーガイドシートを降ろします。
7. レバーガイドシートをハンドルにコードバンドで固定します。

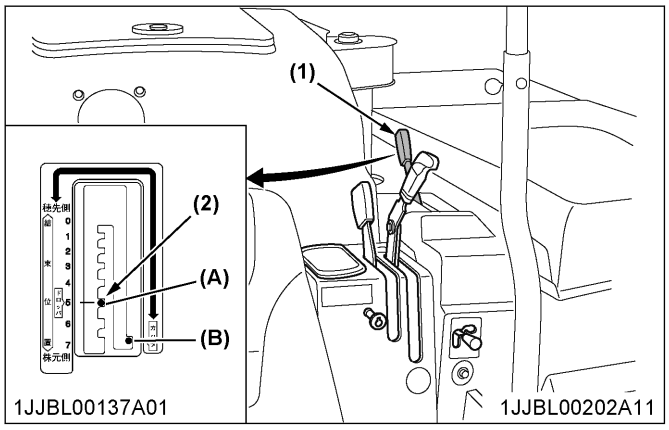
調整後
駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。

24. 排わら切換えワイヤの点検、調整

わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にしたときカッタ切換えカバーが内側へ傾いているときは、カッタ

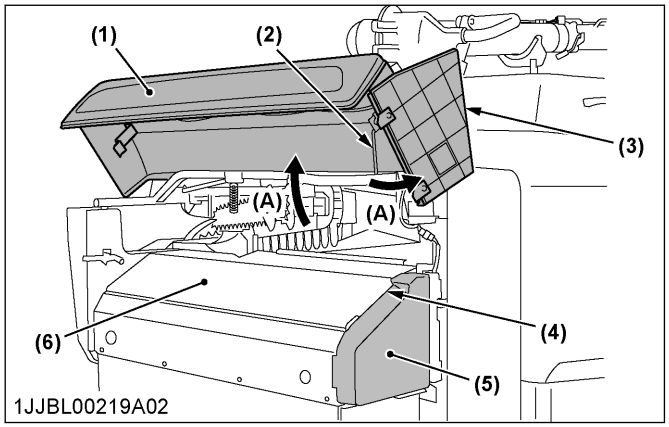
切換えカバーの開閉ワイヤ（排わら切換えワイヤ）を張ってください。

1. わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にします。



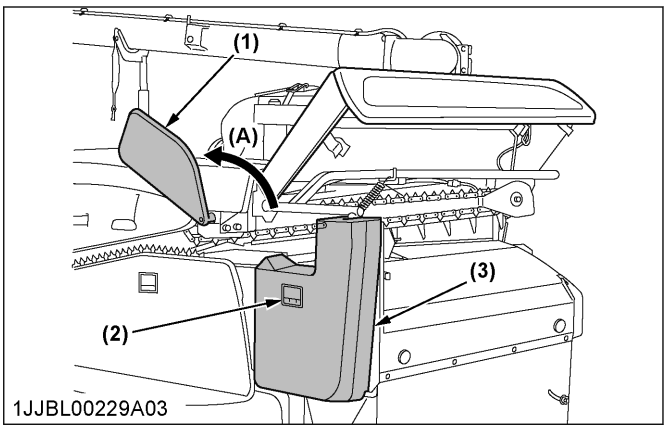
(1) わら作業切換えレバー
(2) 切欠部
(A) ドロッパ、バラ落し
(B) カッタ

2. カッタ右サイドカバーを取り外します。
   a. 上部カバーを上げます。
   b. カバーステーをセットします。
   c. 穂先カバーを上げます。
   d. ボルトを取り外してカッタ右サイドカバーを取り外します。



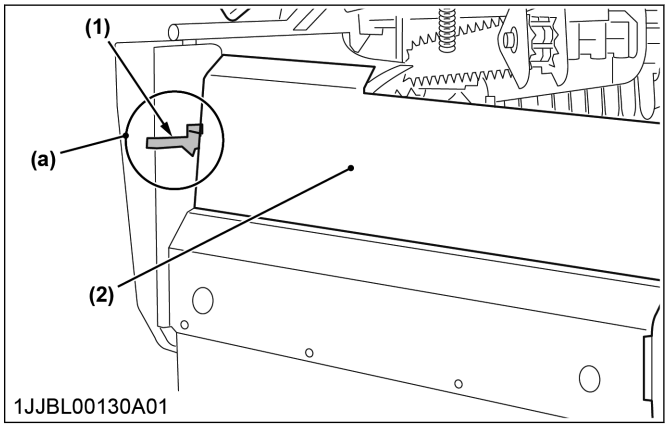
(1) 上部カバー
(2) カバーステー
(3) 穂先カバー
(4) ボルト
(5) カッタ右サイドカバー
(6) カッタ切換えカバー
(A) 上げる

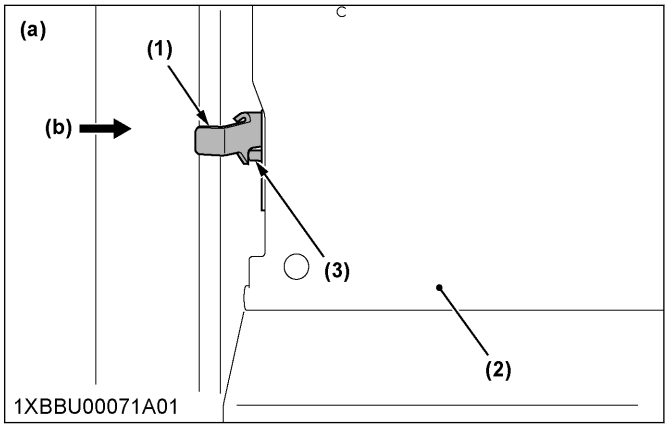
3. カッタ左サイドカバー後を外します。
   a. カッタ回動カバーを上側に回動します。
   b. 取手を引いてカッタ左サイドカバー後を外します。

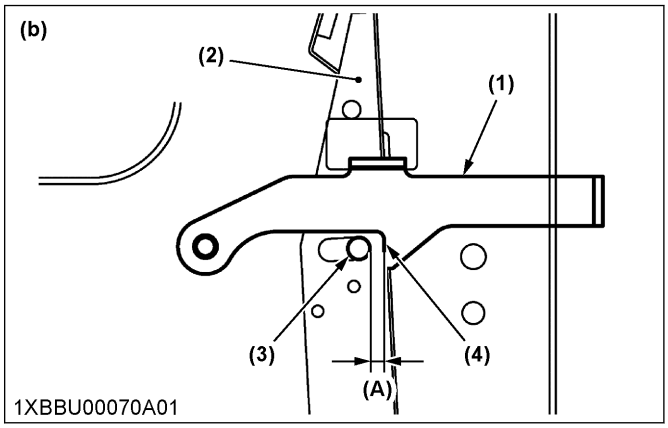


(1) カッタ回動カバー
(2) 取手
(3) カッタ左サイドカバー後
(A) 回動

4. カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間を測定します。



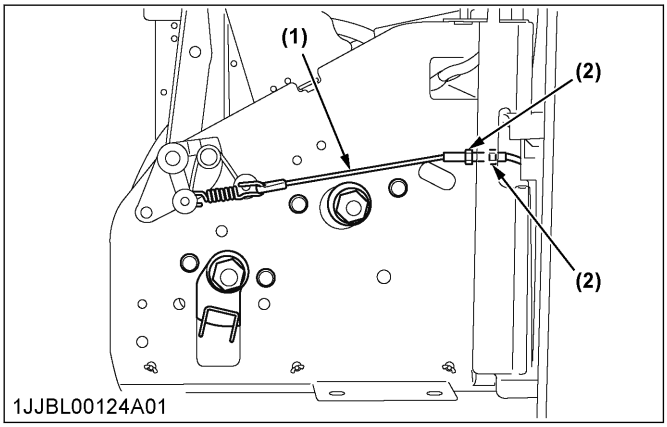




(1) カバーロックレバー
(2) カッタ切換えカバー
(3) ピン部
(4) ストッパ部

(A)	カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間	1 mm～8 mm

5. カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間が適正幅以上あるときは、適正範囲に調整します。
   a. わら作業切換えレバーを“ドロッパ、バラ落とし”作業位置にしていったんカッタ切換えカバーを閉じます。
   b. 調整ナット 2 か所をゆるめます。
   c. 再度わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にします。
   d. ピン部とストッパ部のすき間が適正範囲になるように調整ナットで排わら切換えワイヤを張ります。



(1) 排わら切換えワイヤ
(2) 調整ナット

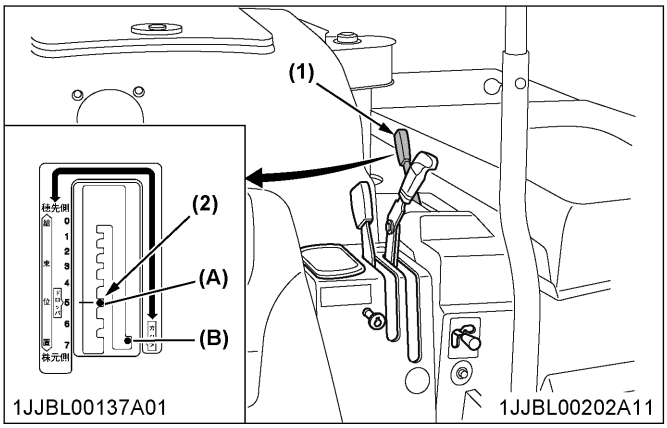
   e. 調整ナット 2 か所を締付めけます。
6. カッタ右サイドカバーおよびカッタ左サイドカバー後を取り付けます。
7. カッタ回動カバーを降ろします。
8. 上部カバーと穂先カバーを閉じます。

25. 排わらレールワイヤの点検、調整

わら作業切換えレバーを“ドロッパ”作業位置にしたとき、カッタ上部排わら株元チェーン下側にある排わらレールの出代を適正範囲に調整します。

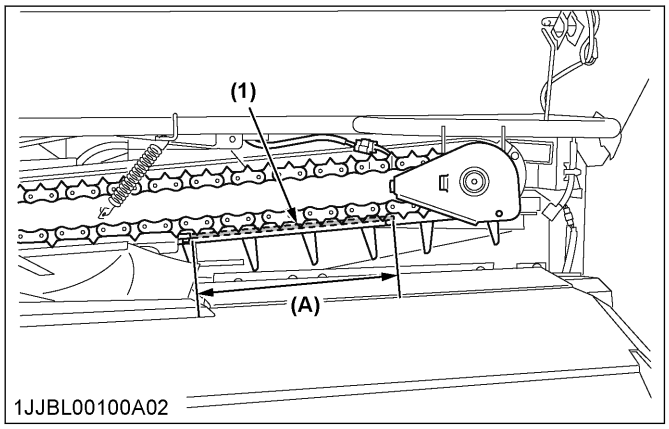
⚠ 警告
- **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクの開閉を行わないでください。**

1. わら作業切換えレバーを“ドロッパ”作業位置にします。



(1) わら作業切換えレバー
(2) 切欠部
(A) ドロッパ、バラ落し
(B) カッタ

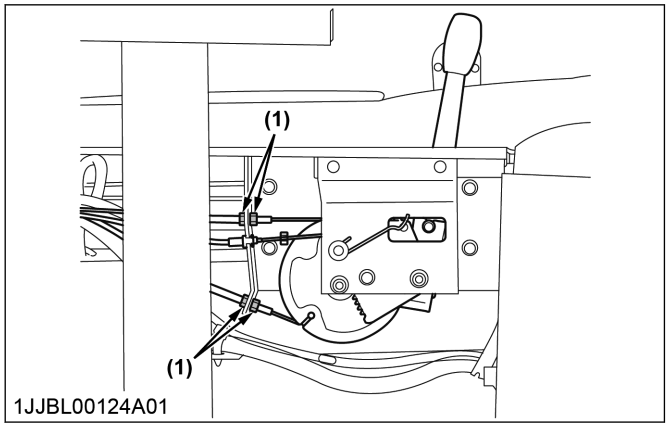
2. 次図の出代の寸法を測定します。



(1) 排わらレール *(A)* 寸法

3. グレンタンクを開きます。
4. 排わらレールの出代の寸法が規定値から外れているときは、1 番縦スクリュ後部にある 2 か所の調整ナットで調整します。
   調整ナットをゆるめて排わらレールワイヤの調整を行い、調整後は調整ナットを締め付けます。

排わらレールの出代の寸法	規定値	260 mm～295 mm



(1) 調整ナット

5. グレンタンクを閉じます。

26. 各部ベルトの点検、調整

⚠ 警告

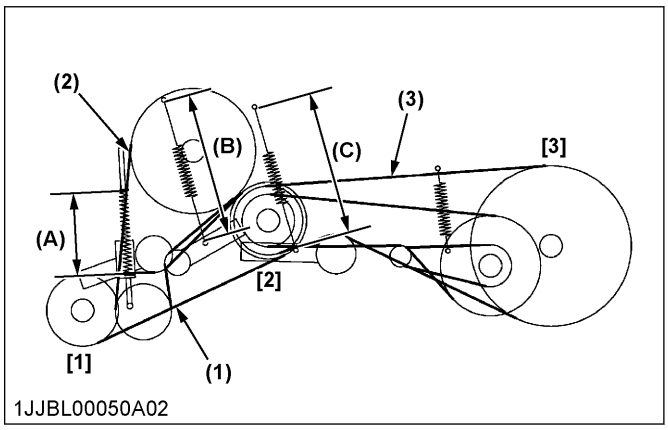
- **エンジンルーム、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
  - **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
  - **こぎ胴を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
  - **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

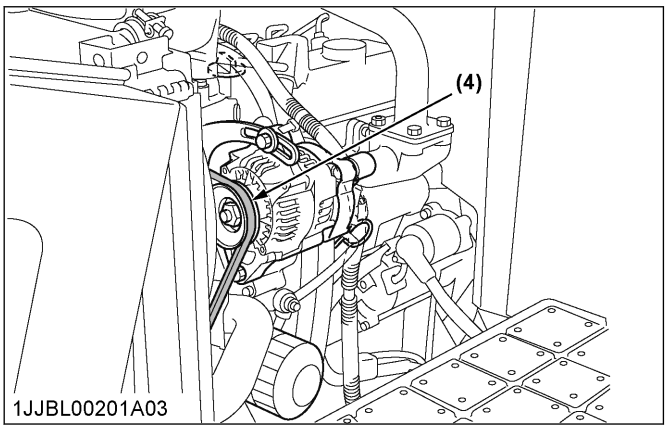
次表を参照して、各部ベルトの張り調整を行ってください。

運転席、刈取部周辺

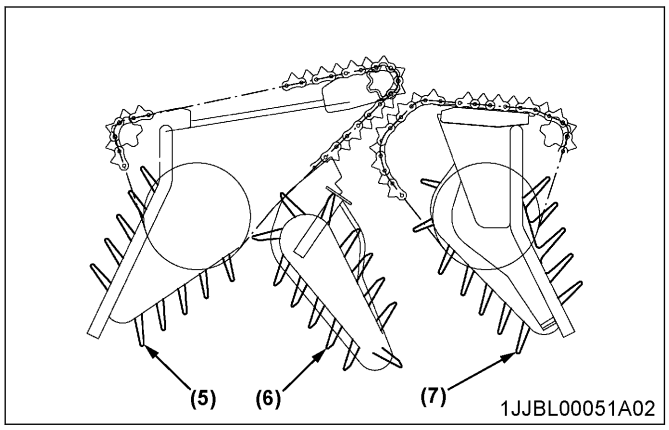
図番	名称	適応機種	サイズ	本数(本／台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
(1)	走行（ミッション）駆動ベルト	全機種	特 B45	1	(A)	*1147～153	—
(2)	刈取駆動ベルト	全機種	特 B44（コグ）	1	(B)	202～208	—
(3)	脱こく駆動ベルト	320	特 C67	1	(C)	257～263	—
		323	特 C66				
(4)	ファン駆動ベルト	全機種	37 ブイベルト	1	—		5～10
(5)	補助搬送（突起付）ベルト（右）	全機種	特 35	1	—		5～10
(6)	補助搬送（突起付）ベルト（中）		特 29	1	—		
(7)	補助搬送（突起付）ベルト（左）		特 32	1	—		

*1　走行（ミッション）駆動ベルトは、出荷またはベルト交換時は、初期伸び、なじみを考慮し、(A)よりも強めに張り調整を行っています。





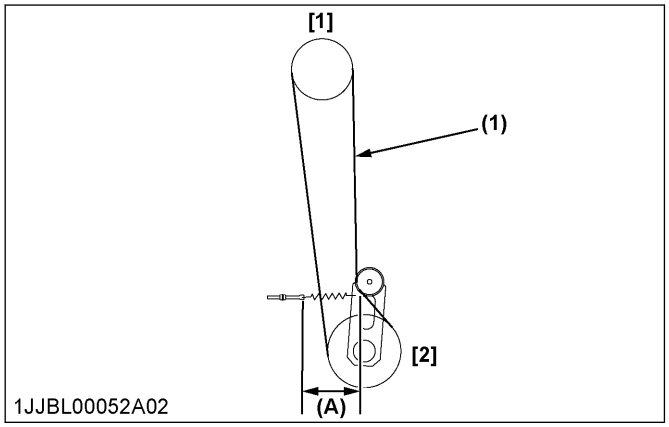
[1]　*HST*
[2]　エンジン
[3]　トウミ



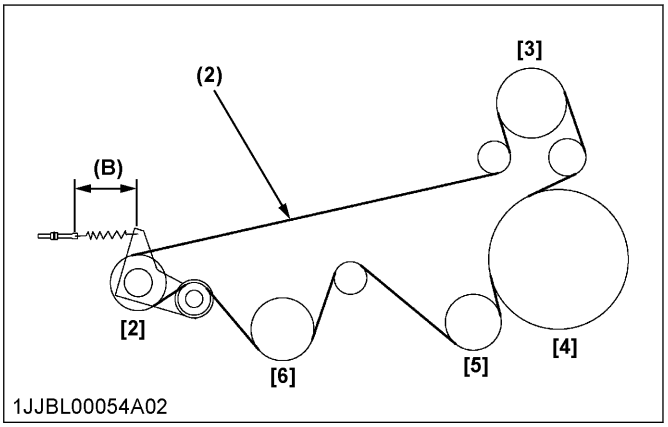
脱こく部、カッタ部周辺

図番	名称	適応機種	サイズ	本数(本／台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
(1)	こぎ胴駆動ケースベルト	全機種	特 C84	1	(A)	116～126	—
(2)	1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	全機種	特 B120	1	(B)	119～129	—
(3)	カッタ駆動ベルト	全機種	特 B47	1	スプリングの掛換え		—
(4)	こぎ胴駆動ベルト	全機種	特 B50	2	(C)	125～135	—

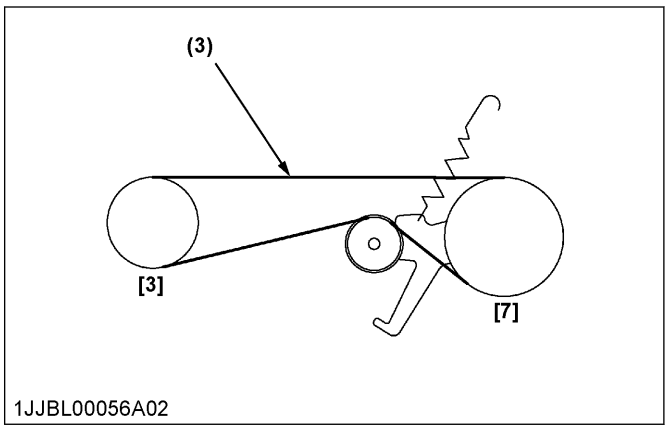
重要：
- **こぎ胴駆動ベルトの交換を行うときは、2 本同時に交換してください。単品で交換すると、新しく交換したベルトの寿命が短かくなるおそれがあります。**



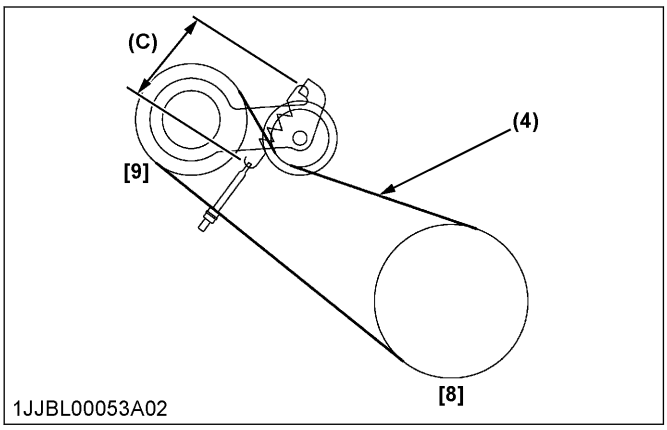
[1] こぎ胴駆動ケース駆動　*[2]* トウミ



[2] トウミ　*[4]* 揺動
[3] フィードチェーン、カッタ駆動　*[5]* 2 番
[6] 1 番



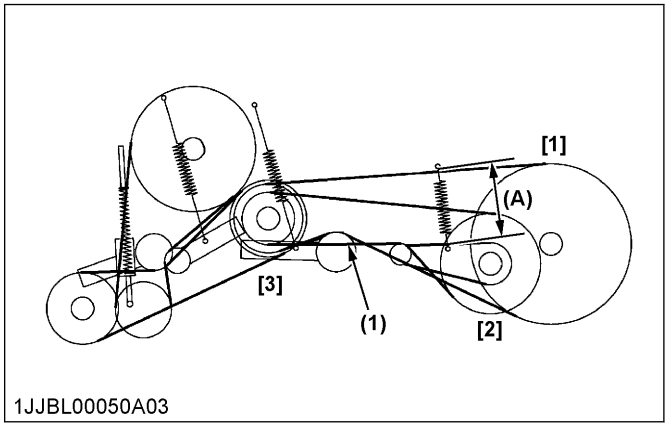
[3] フィードチェーン、カッタ駆動
[7] カッタ



[8] こぎ胴
[9] こぎ胴駆動

グレンタンク部

図番	名称	適応機種	サイズ	本数(本／台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
(1)	グレンタンク駆動ベルト	全機種	特 A47	1	(A)	142～148	—

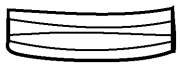
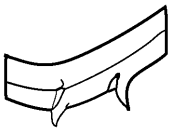
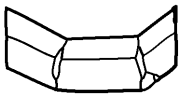


[1] トウミ
[2] タンク
[3] エンジン

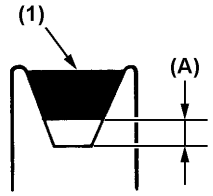
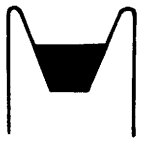
26.1 各部ベルトの点検

各部のベルトを点検するときは、次の事項をよく確認してください。

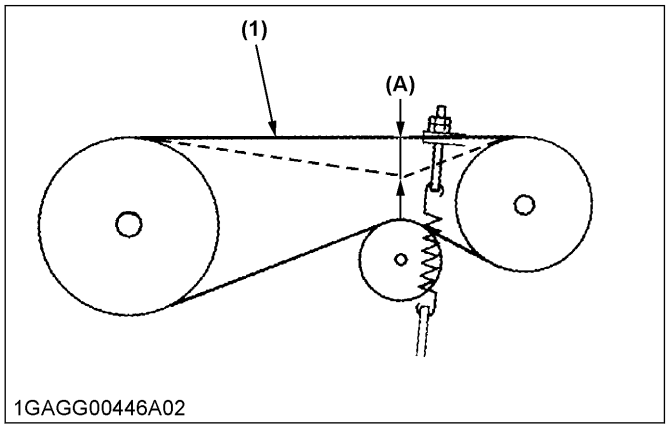
- ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1GAGG00441A01	1GAGG00442A01	1GAGG00443A01

- ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

○	×
	
1GAGG00444A04	1GAGG00445A02
(1) ベルト *(A)* すき間	

- ベルトの伸び（たわみ量）



1GAGG00446A02

(1) ベルト *(A)* たわみ量

点検事項を確認したとき、異常があればベルト交換またはベルトの張り調整を行ってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重要：

- **ベルトは必ず純正品を使用してください。**

26.2 各部ベルトの調整

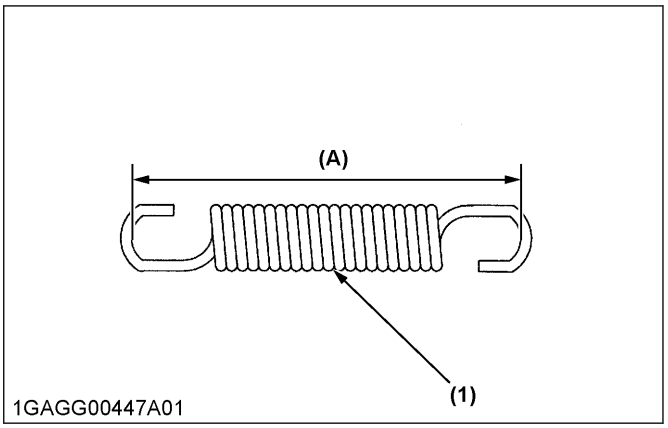
ベルトが伸びてスリップが発生しやすいときは、張り調整を行ってください。

重要：

- **テンションスプリングの張り調整が終わり、調整ナットまたはロックナットを締め付けるとき、テンションスプリングをねじれた状態で締め付けないでください。破損の原因となります。**

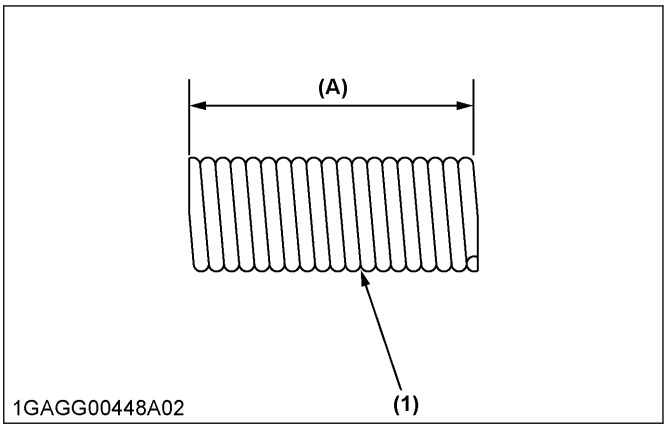
補足：

- **スプリングの取付け長さは、引張りスプリングの場合はフックの内寸法、圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。**



1GAGG00447A01

(1) 引張りスプリング *(A)* 内寸法



1GAGG00448A02

(1) 圧縮スプリング *(A)* 外寸法

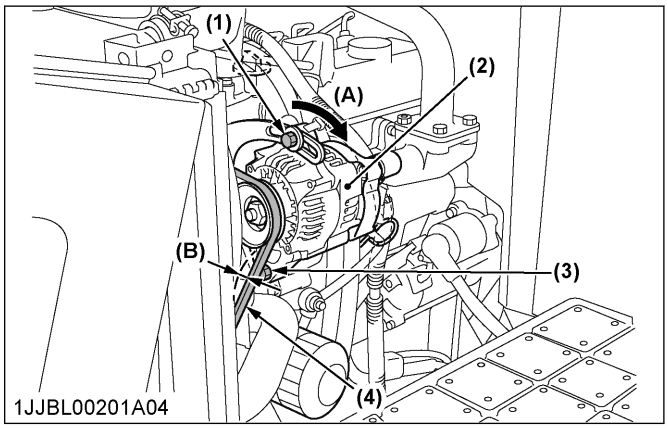
27. ファン駆動ベルトの点検、調整

指先でファン駆動ベルトの中央部を押したときのたわみ量を適正範囲に調整します。

ファン駆動ベルトへの荷重	約 60 N～70 N （約 6 kgf～7 kgf）

1. エンジンルームを開きます。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。

3. オルタネータを引っ張ります。



(1) 調整ボルト
(2) オルタネータ
(3) 取付けボルト
(4) ファン駆動ベルト
(A) 引く

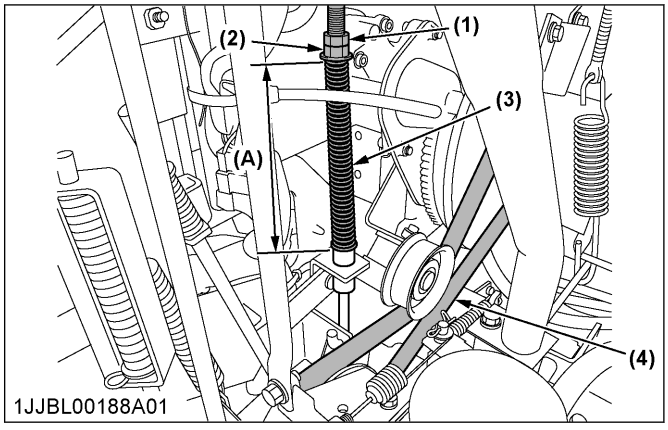
(B)	ファン駆動ベルトのたわみ量	5 mm～10 mm

4. 調整ボルトを締め付けます。
5. 取付けボルトを締め付けます。
6. エンジンルームを閉じます。

28. 走行（ミッション）駆動ベルトの点検、調整

走行（ミッション）駆動ベルトの圧縮スプリングの長さを適正長さに調整します。

1. レバーガイドシートをめくり上げます。
   （レバーガイドシートを開く方法（116 ページ）を参照）
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで圧縮スプリングの調整を行います。



(1) ロックナット
(2) 調整ナット
(3) 圧縮スプリング
(4) 走行（ミッション）駆動ベルト
(A) 147 mm～153 mm

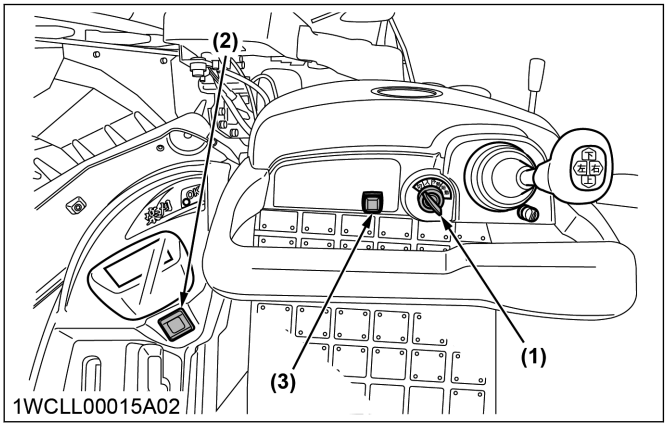
補足：
- **出荷またはベルト交換時は、初期伸び、なじみを考慮し、強めに張り調整を行っています。**

3. ロックナットを締め付けます。
4. レバーガイドシートを降ろします。
5. レバーガイドシートをハンドルにコードバンドで固定します。

29. 刈取駆動ベルトの点検、調整

刈取駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを停止します。
3. メインスイッチのキーを**[入]**位置にします。
4. 作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押して脱こくクラッチを“入”の状態にします。
   このとき、作業スイッチのランプは“点灯”、刈取かき込みスイッチは“消灯”状態となります。
5. 刈取かき込みスイッチを押して刈取クラッチを“入”の状態にします。
   このとき、刈取かき込みスイッチは“点灯”状態となります。

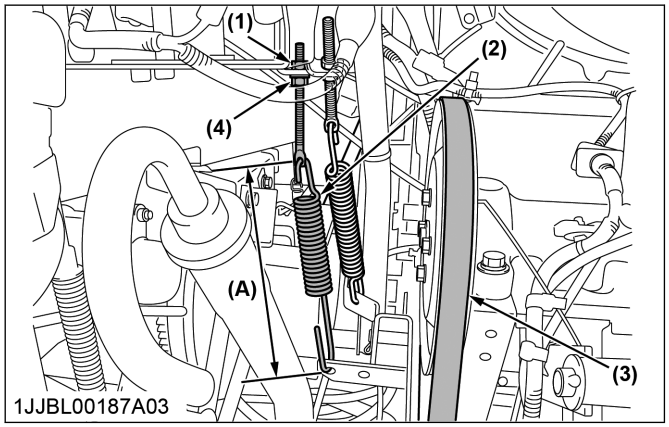


(1) メインスイッチ
(2) 作業スイッチ
(3) 刈取かき込みスイッチ

補足：
- **エンジンが停止状態のとき、作業スイッチを押しただけでは脱こくクラッチは“入”の状態にはなりません。また、脱こくクラッチを“入”の状態にしないと、刈取かき込みスイッチを押しても刈取クラッチは“入”の状態にはなりません。**
- **刈取かき込みスイッチを“切”にすると刈取クラッチが切れるため、テンションスプリングがゆるみます。**

6. 脱こく入口プレートを取り外します。

7. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットでテンションスプリングの調整を行います。



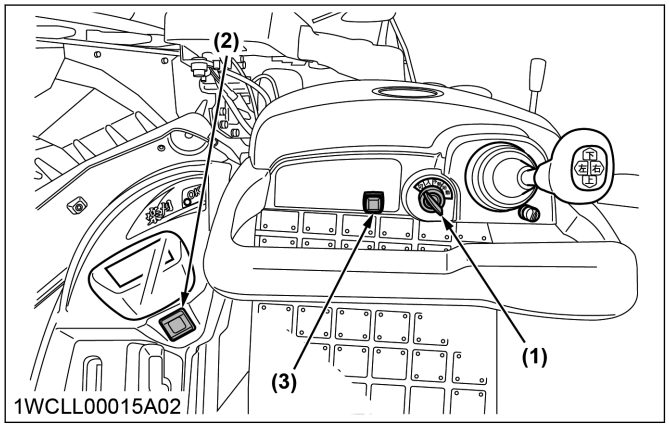
(1) 調整ナット
(2) テンションスプリング
(3) 刈取駆動ベルト
(4) ロックナット
(A) *202 mm～208 mm*

8. ロックナットを締め付けます。
9. 脱こく入口プレートを取り付けます。
10. メインスイッチのキーを**[切]**位置にします。

30. 脱こく駆動ベルトの点検、調整

脱こく駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. エンジンを停止します。
2. メインスイッチのキーを**[入]**位置にします。
3. 作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押して脱こくクラッチを“入”の状態にします。
   このとき、作業スイッチのランプは“点灯”、刈取かき込みスイッチは“消灯”状態となります。
4. 刈取かき込みスイッチを押して刈取クラッチを“入”の状態にします。
   このとき、刈取かき込みスイッチは“点灯”状態となります。

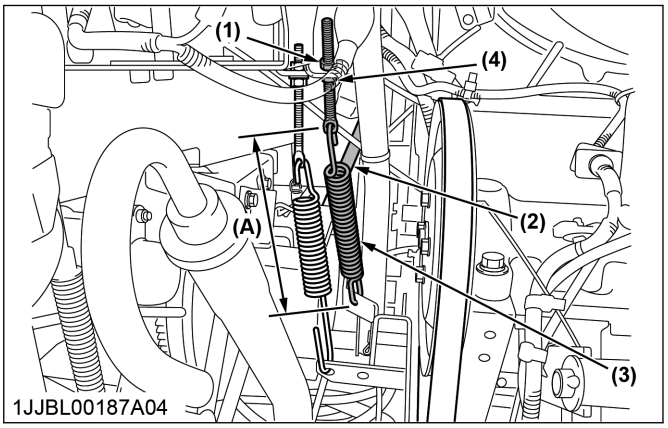


(1) メインスイッチ
(2) 作業スイッチ
(3) 刈取かき込みスイッチ

補足：

- **脱こく駆動ベルトの調整は、刈取クラッチを“入”の状態で行ってください。**
- **作業スイッチを“切”にすると脱こくクラッチが切れるため、テンションスプリングがゆるみます。**

5. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットでテンションスプリングの調整を行います。



(1) 調整ナット
(2) 脱こく駆動ベルト
(3) テンションスプリング
(4) ロックナット
(A) *257 mm～263 mm*

6. ロックナットを締め付けます。
7. メインスイッチのキーを**[切]**位置にします。

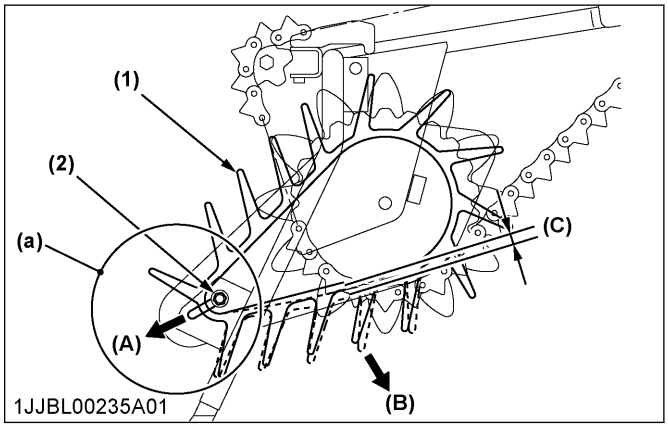
31. 補助搬送（突起付）ベルトの点検、調整

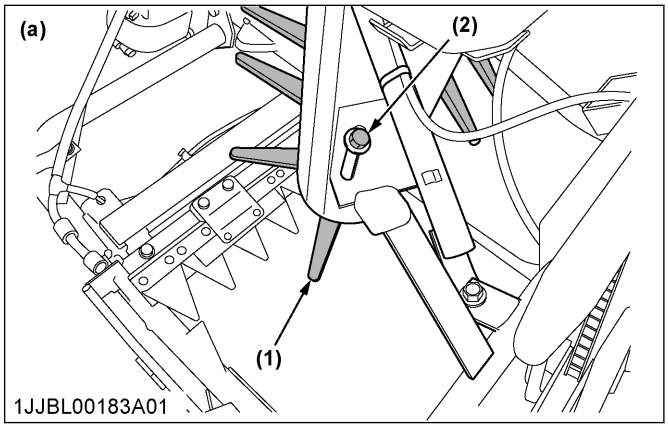
指先で補助搬送（突起付）ベルトの中央部を引いたときのたわみ量を適正範囲に調整します。

補助搬送（突起付）ベルトの中央部への荷重	約 20 N （約 2 kgf）

1. 引起しサイドカバー左、右を取り外します。
2. ボルトをゆるめます。

3. ボルトを前方に少しずつ張りながら補助搬送（突起付）ベルトの調整を行います。





(1) 補助搬送（突起付）ベルト　*(A)* 張る
(2) ボルト

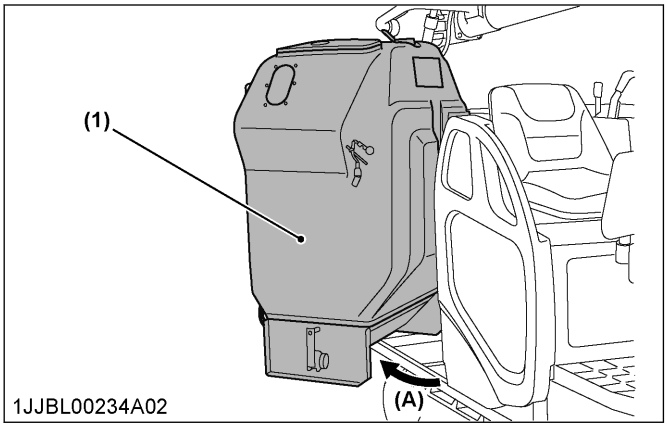
(B)	引く	約 20 N（約 2 kgf）
(C)	補助搬送（突起付）ベルトのたわみ量	5 mm～10 mm

4. ボルトを締め付けます。
5. 引起しサイドカバー左、右を取り付けます。

32. こぎ胴駆動ケース駆動ベルトの点検、調整

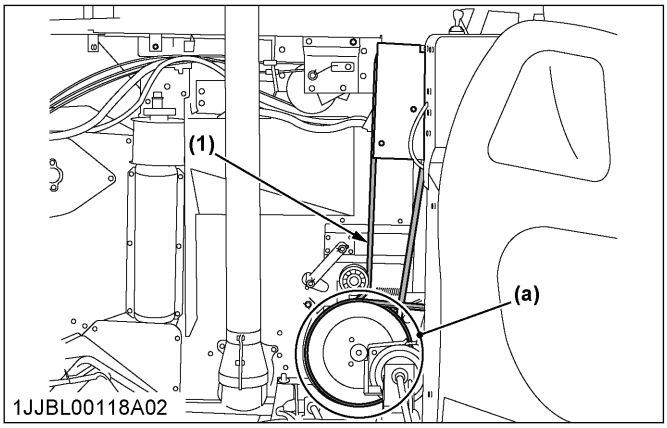
こぎ胴駆動ケース駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

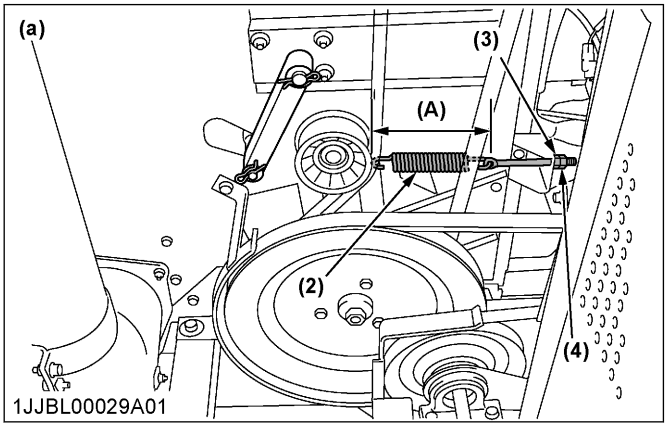
1. グレンタンクを開きます。



(1) グレンタンク　*(A)* 開く

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。





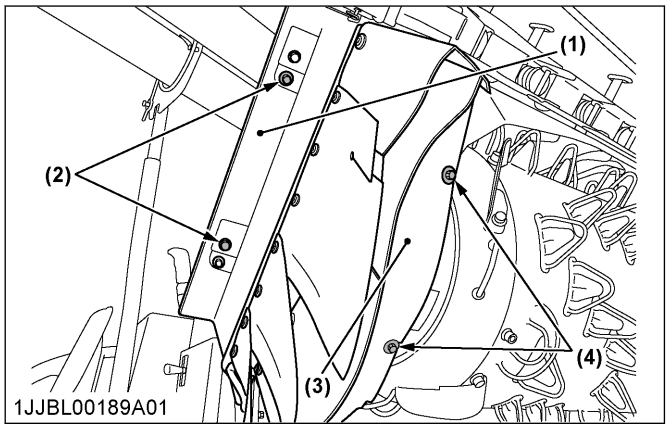
(1) こぎ胴駆動ケース駆動ベルト　*(A)* *116 mm～126 mm*
(2) テンションスプリング
(3) 調整ナット
(4) ロックナット

3. ロックナットを締め付けます。
4. グレンタンクを閉じます。

33. こぎ胴駆動ベルトの点検、調整

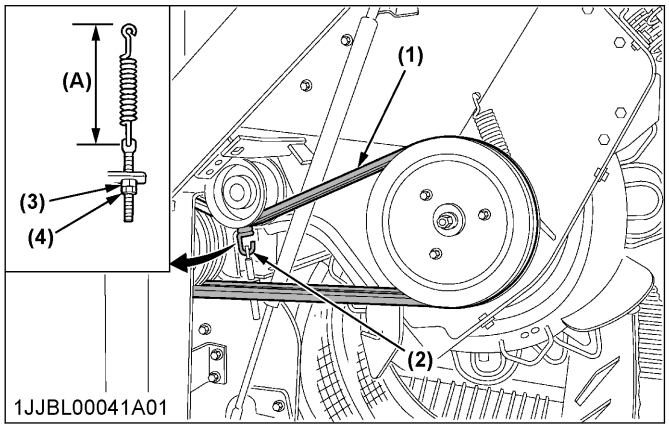
こぎ胴駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. こぎ胴フロントカバーを取り外します。
   a. 上部カバーを取り付けているボルト 2 本を取り外します。
   b. こぎ胴を開きます。
   c. こぎ胴フロントカバー下部のボルト 2 本をゆるめます。
   d. こぎ胴フロントカバーを前方に取り外します。



(1) 上部カバー
(2) 上部カバーのボルト
(3) こぎ胴フロントカバー
(4) こぎ胴フロントカバーのボルト

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットでのテンションスプリングの調整を行います。



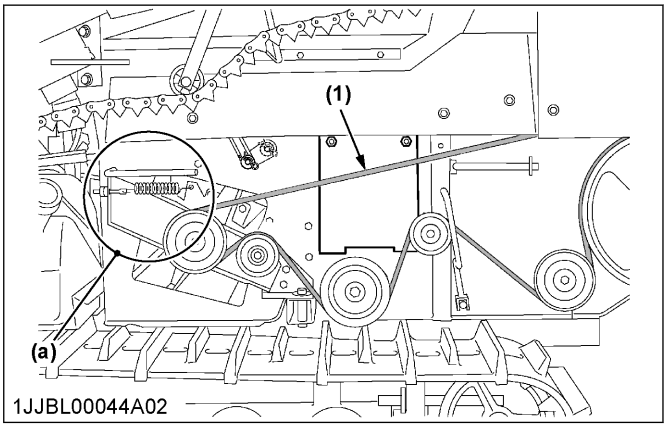
(1) こぎ胴駆動ベルト
(2) テンションスプリング
(3) 調整ナット
(4) ロックナット
(A) *125 mm～135 mm*

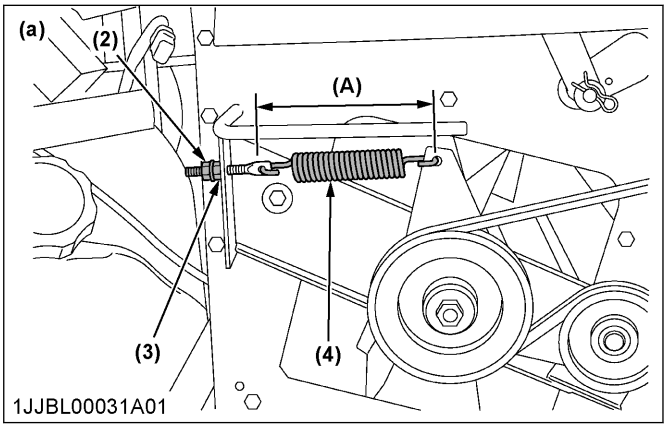
3. ロックナットを締め付けます。
4. こぎ胴フロントカバーを取り付けます。
5. こぎ胴を閉じます。

34. 1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルトの点検、調整

1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 左サイドカバー上、下を取り外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットでテンションスプリングの調整を行います。





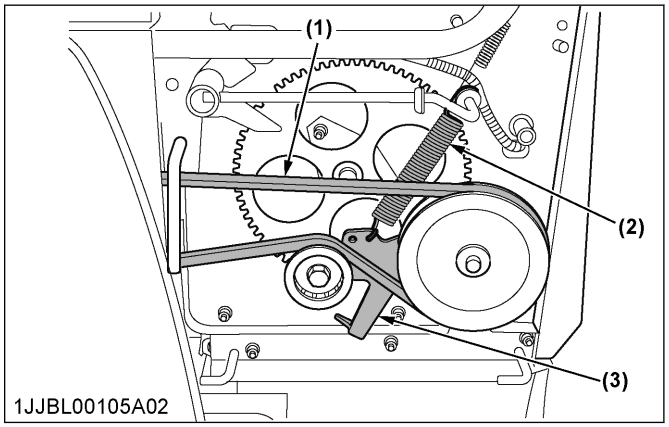
(1) *1 番・2 番・揺動・フィード チェーン駆動ベルト*
(2) ロックナット
(3) 調整ナット
(4) テンションスプリング
(A) *119 mm～129 mm*

3. ロックナットを締め付けます。
4. 左サイドカバー上、下を取り付けます。

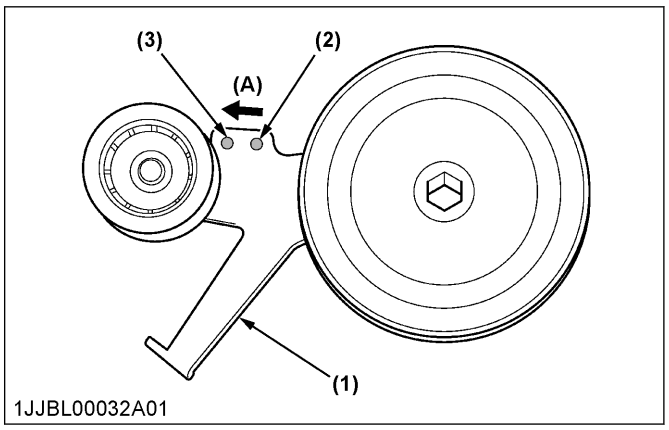
35. カッタ駆動ベルトの点検、調整

1. カッタ左サイドカバーを取り外します。
2. カッタ駆動ベルトの張りを点検します。

3. ベルトの張りが弱いときは、テンションスプリングを取り付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）します。



(1) カッタ駆動ベルト *(3)* カッタテンションアーム
(2) テンションスプリング



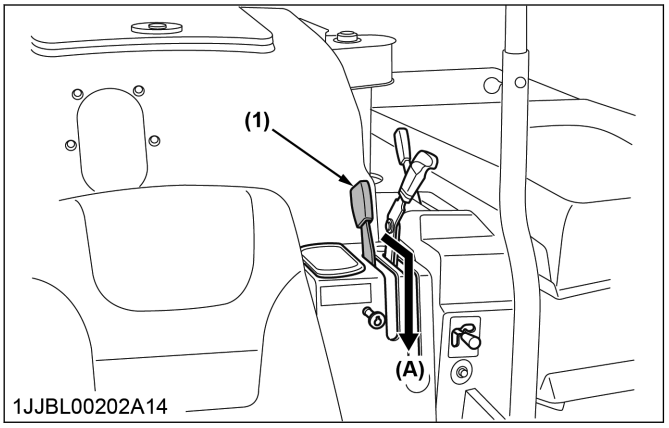
(1) カッタテンションアーム *(A)* 掛けかえ
(2) 出荷時の取付け穴
(3) 変更時の取付け穴

4. カッタ左サイドカバーを取り付けます。

36. グレンタンク駆動ベルトの点検、調整

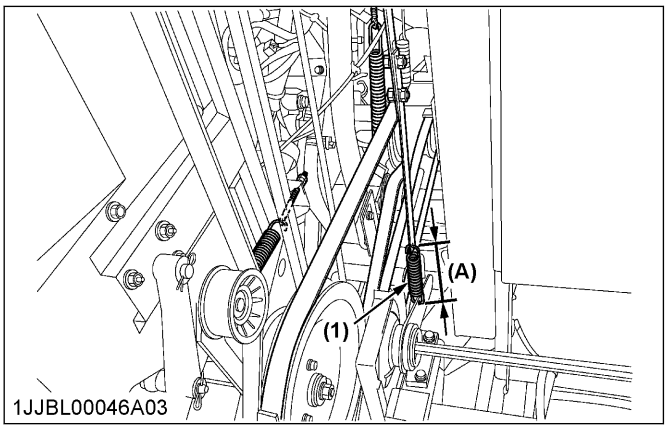
グレンタンク駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. グレンタンクを開きます。
2. もみ排出クラッチレバーを“入”位置にしま す。



(1) もみ排出クラッチレバー *(A)* 入

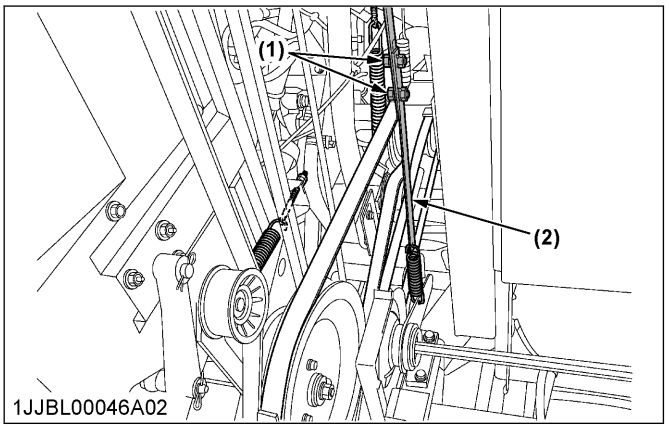
3. テンションスプリングの長さを測定します。



(1) テンションスプリング

(A)	規定値	142 mm～148 mm

4. テンションスプリングの長さが規定値から外れているときは、もみ排出クラッチレバーをいったん“切”位置にします。
5. もみ排出クラッチロッド中間位置にある 2 か所のボルトをゆるめて、テンションスプリングの調整を行います。



(1) ボルト *(2)* もみ排出クラッチロッド

6. 2 か所のボルトを締め付けます。

7. もみ排出クラッチレバーを“入”位置にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。
8. グレンタンクを閉じます。

37. 各部チェーンの点検、調整

⚠ 警告

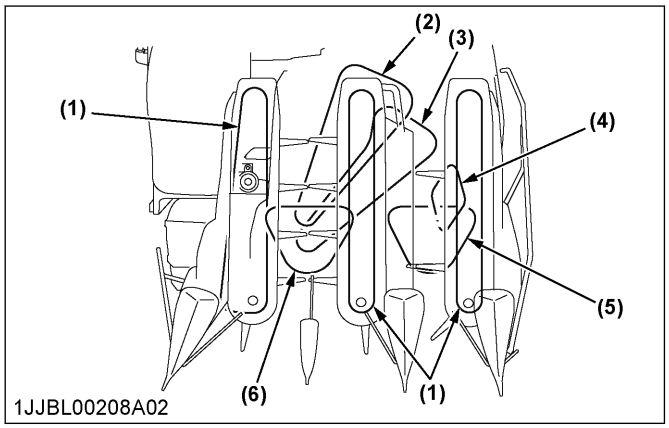
- **エンジンルーム、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
  - **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
  - **こぎ胴を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
  - **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

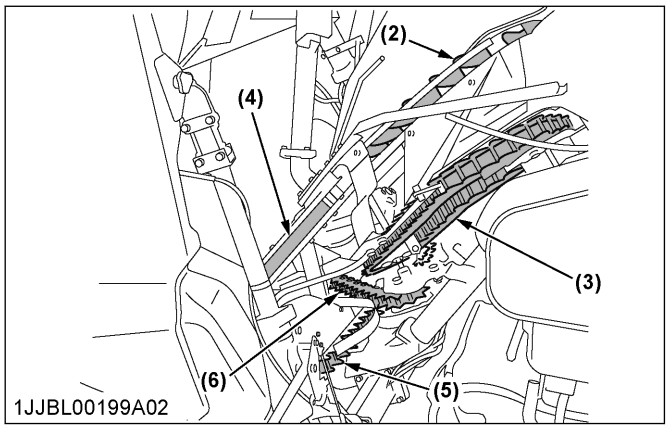
37.1 各部チェーンの点検

各部のチェーンを点検して、ゆるみがあるときは調整してください。

37.1.1 各部チェーンの点検箇所

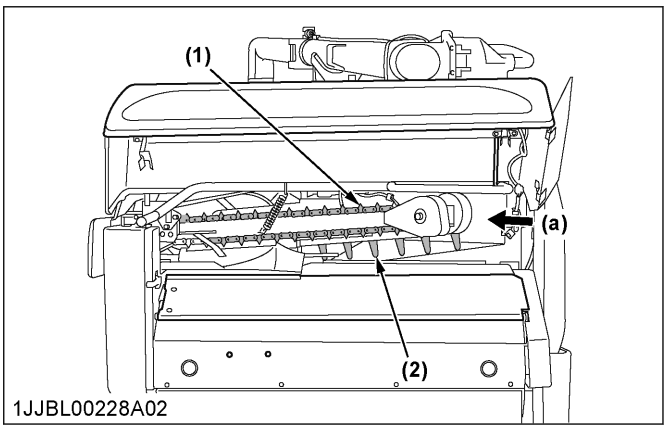
刈取部のチェーン

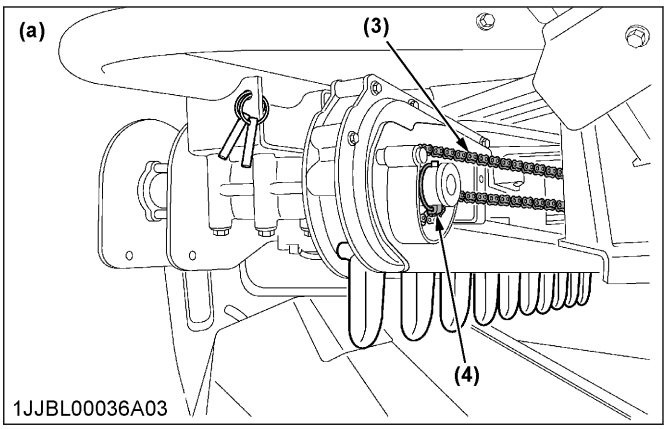




(1) 引起しチェーン
(2) 右穂先チェーン
(3) 株元供給チェーン
(4) 左穂先チェーン
(5) 左株元チェーン
(6) 右株元チェーン

わら処理部のチェーン





(1) 排わら株元チェーン
(2) 排わら穂先チェーン
(3) 排わら入力チェーン
(4) 安全ピン

37.1.2 各部チェーンの調整

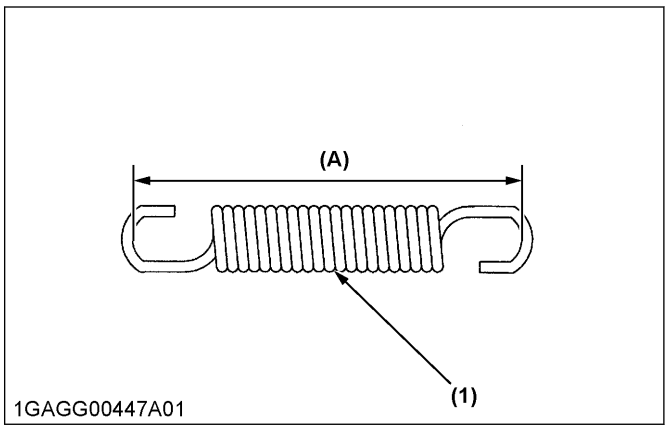
チェーンが伸びているときは、張り調整を行ってください。

重要：

- **テンションスプリングの張り調整が終わり、調整ナットまたはロックナットを締め付けるとき、テンションスプリングをねじれた状態で締め付けないでください。破損の原因となります。**

補足：

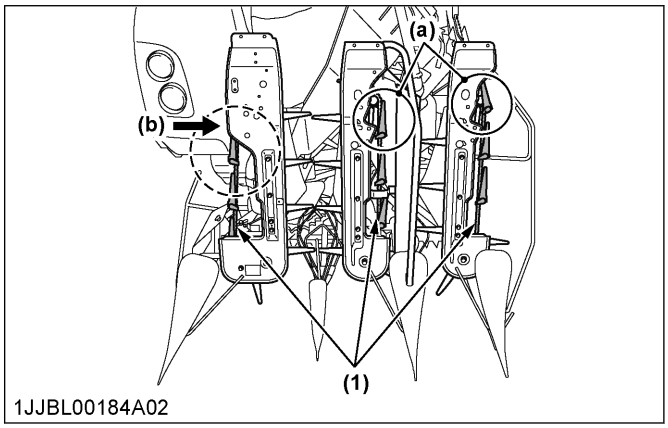
- **スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。**

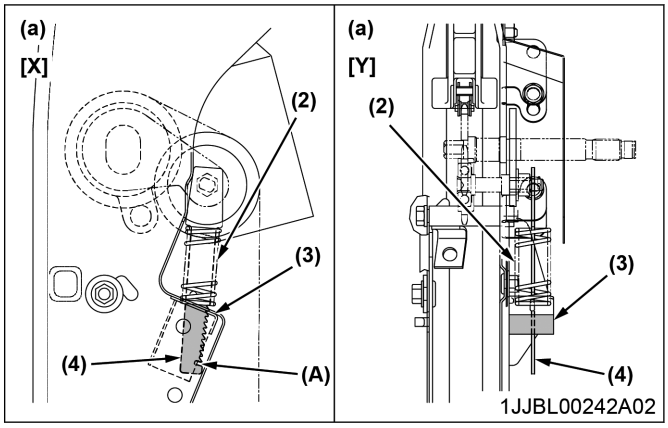


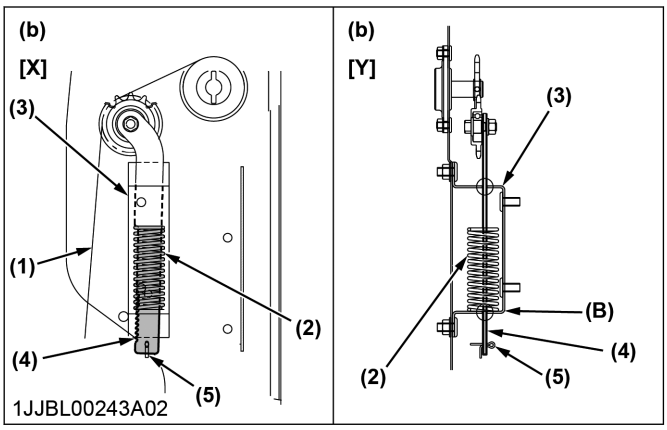
(1) テンションスプリング *(A)* 内寸法

38. 引起しチェーンの点検、調整

1. 引起しカバーを取り外します。
2. 引起しチェーンを点検します。
   右側は右横から点検してください。
   引起しチェーンの張り調整は自動(自動テンション)で行いますが、引起しチェーンを張っているテンションスプリングのラチェット歯の位置が次の位置まで移動して引起しチェーンが伸びたときは、購入先に連絡して交換してくださ い。
   - 左側と中央部は、ラチェット歯の終端がブラケットまで移動しているとき
   - 右側はラチェット歯下側にある割ピンがブラケット下端部に接触するまで移動しているとき







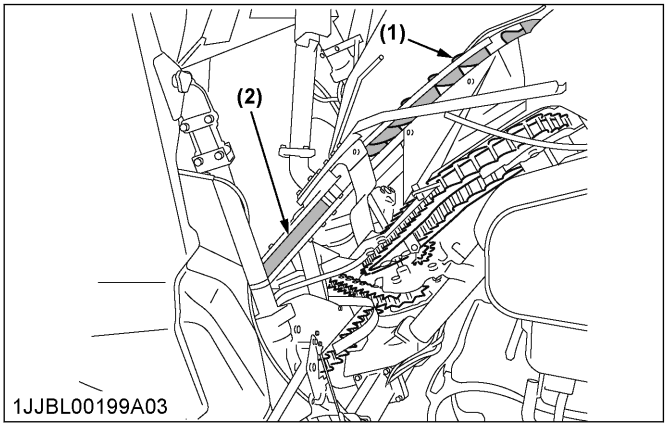
(1) 引起しチェーン
(2) テンションスプリング
(3) ブラケット
(4) ラチェット歯
(5) 割ピン
(A) 終端位置
(B) ブラケット下端部
[X] 正面
[Y] 側面

補足：
- **チェーンが伸びると、ラチェット歯がスプリングに引っ張られ上昇します。**
- **右側と中央部は、ラチェット歯が終端位置より 1 段～2 段上の位置にあるときに早めに交換を行ってください。**

3. 引起しカバーを取り付けます。

39. 左穂先チェーン、右穂先チェーンの点検

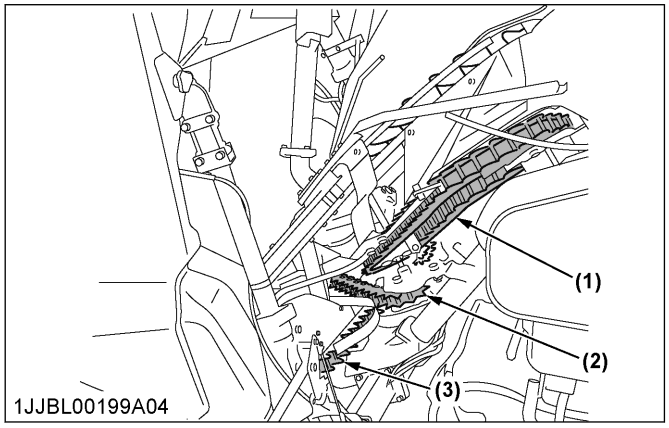
1. 左穂先チェーン、右穂先チェーンを点検します。
   左穂先チェーン、右穂先チェーンは自動テンションになっていますが、チェーンが伸びたときは購入先に連絡して修理を依頼してください。



(1) 右穂先チェーン *(2)* 左穂先チェーン

40. 左株元チェーン、右株元チェーン、株元供給チェーンの点検

1. 左株元チェーン、右株元チェーン、株元供給チェーンを点検します。
   左株元チェーン、右株元チェーン、株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）になっていますが、チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して交換してください。

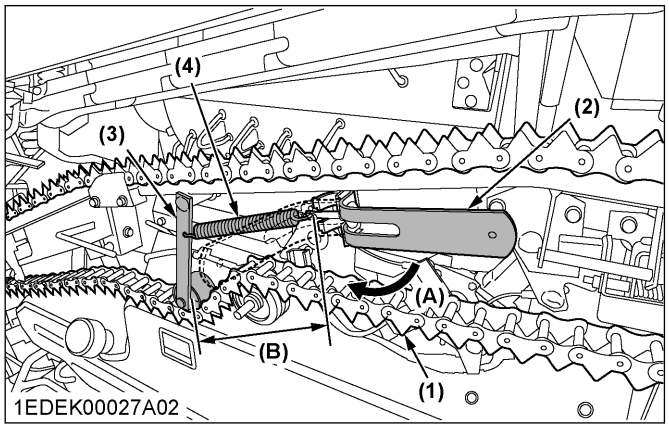


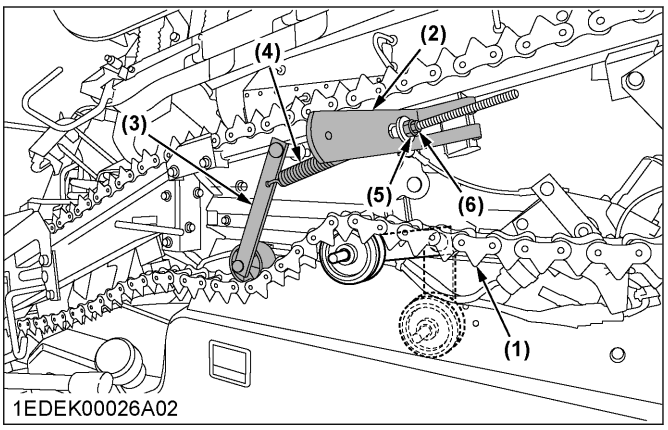
(1) 株元供給チェーン
(2) 右株元チェーン
(3) 左株元チェーン

41. フィードチェーンの点検、調整

フィードチェーンのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 左サイドカバー上を取り外します。
2. フィードチェーンテンションレバーを引き、テンションアームをゆるめます。
3. ロックナットと調整ナットをゆるめます。
4. 調整ナットでテンションスプリングの調整を行います。



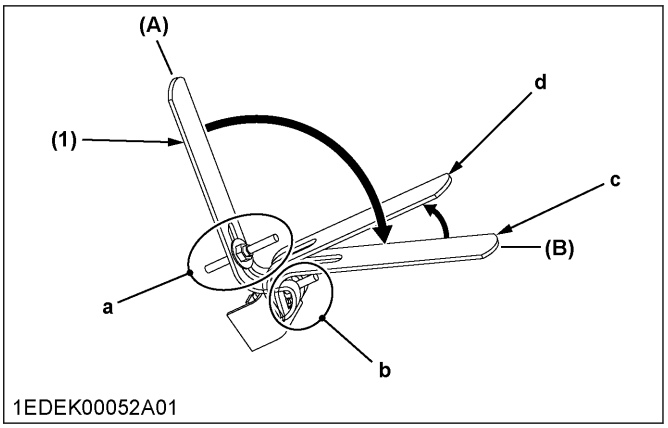


(1) フィードチェーン
(2) フィードチェーンテンションレバー
(3) テンションアーム
(4) テンションスプリング
(5) 調整ナット
(6) ロックナット
(A) 引く
(B) *207 mm～213 mm*

5. ロックナットを締め付けます。
6. フィードチェーンテンションレバーを元の位置（ロック位置）に戻します。
7. 左サイドカバー上を取り付けます。

補足：

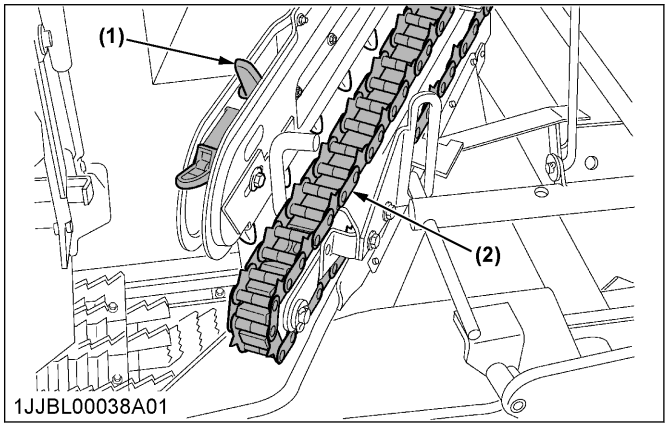
- **テンションスプリングを調整するときは、フィードチェーンテンションレバーを元の位置（ロック位置）にして、フィードチェーンのテンションが張った状態で調整してください。**
- **フィードチェーンテンションレバーをロック位置にするときは、次図の手順で行ってください。**
  a. **フィードチェーンテンションレバーの溝にネジ部をはさみ込みます。**
  b. **ステーの角穴に、フィードチェーンテンションレバーのフックを掛けます。**
  c. **奥まで押し込みます。**
  d. **図の位置で止まり、ガタがないことを確認します。**



(1) フィードチェーンテンションレバー
(A) 解除
(B) ロック

42. 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーンの点検、調整

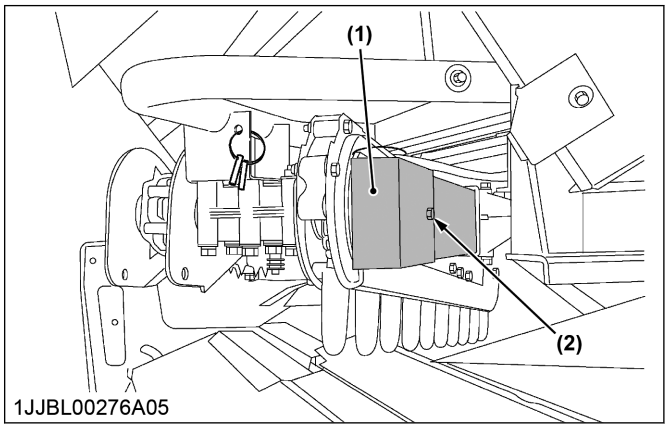
1. 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーンを点検します。
   排わら穂先チェーン、排わら株元チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行いますが、チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して交換してください。



(1) 排わら穂先チェーン　*(2)* 排わら株元チェーン

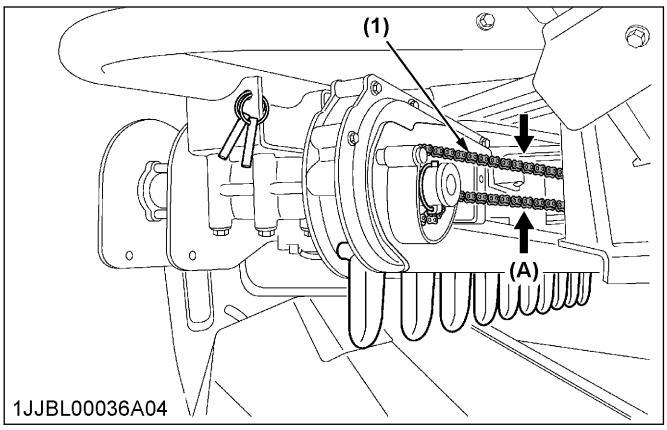
43. 排わら入力チェーンの点検

1. ボルトを取り外して排わら入力チェーンカバーを外します。



(1) 排わら入力チェーンカバー　*(2)* ボルト

2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところを挟み、入力チェーンの上側と下側が接触していないか確認します。
   排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行いますが、指で上下のチェーンを挟むと接触するときは、購入先に連絡してください。



(1) 排わら入力チェーン　*(A)* 挟んで接触していないか確認

3. 排わら入力チェーンカバーを取り付けます。

44. 刈刃の点検、調整

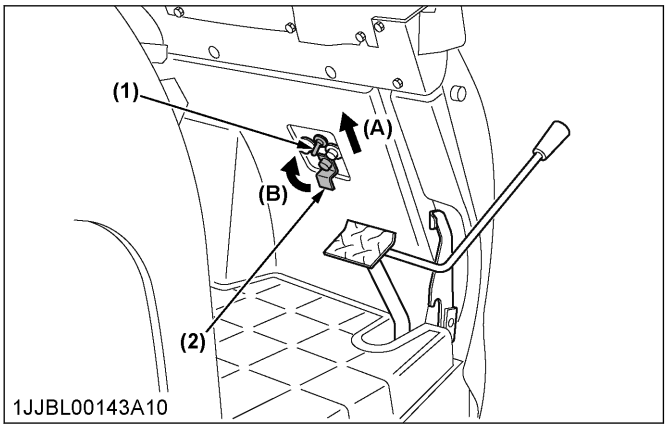
⚠ 警告

- **平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに、枕木などの固定用具を使用して、落下防止の歯止めをしてください。**
- **刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- **刈刃を左、右に動かすときは、刃先を持たないでください。**
- **脱着作業は手袋をして、二人で刈刃の両端を持って行ってください。**

刈刃の刃先が摩耗してきたり、欠けてくると、作物の刈跡が悪くなったり、引抜きを起こすことがありますので、早めの点検、調整、交換を行ってください。

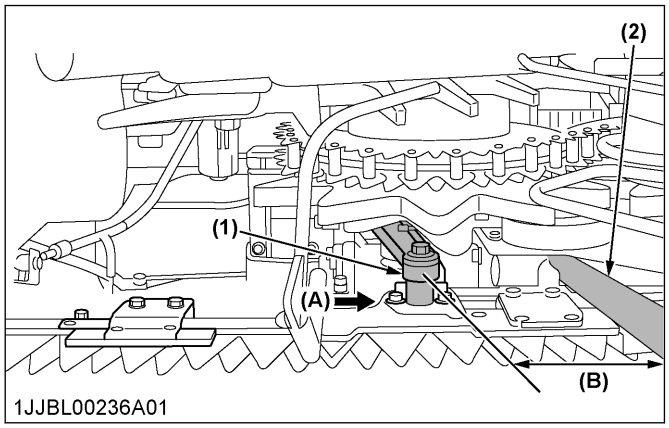
44.1 刈刃の点検、取外し

1. 刈取部を最上昇させます。
2. 刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にし、スイッチロック金具をセットして、刈取部の下降防止を行います。



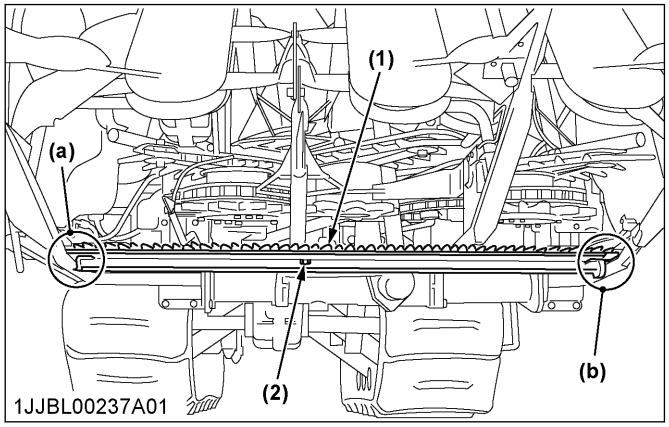
(1) 刈取下降ロックスイッチ　*(A)* ロック
(2) ロック金具　*(B)* セット

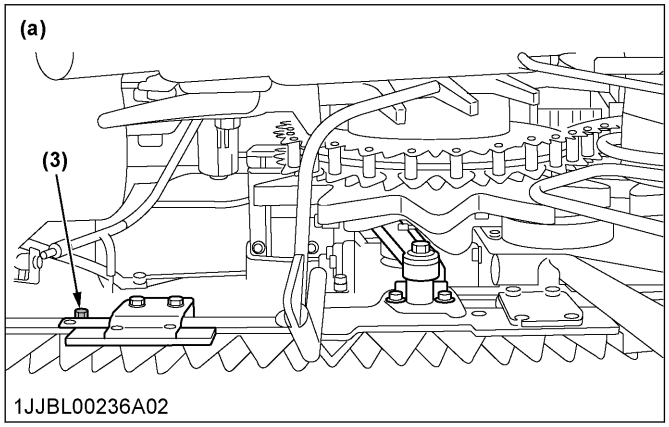
3. エンジンを停止します。さらに枕木などの固定用具を使用して、落下防止の歯止めをします。
4. クランク軸を押して、次図のようにパイプのフレームとクランク軸が平行状態になるように調整します。

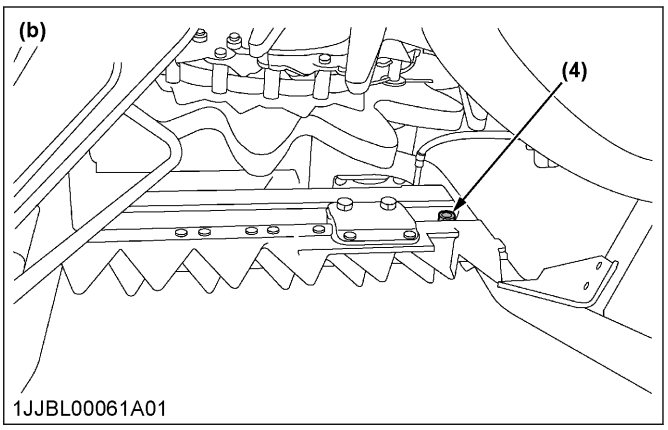


(1) クランク軸
(2) パイプフレーム
(A) 押す
(B) 平行

5. 刈刃を取り付けているボルト 3 本を取り外します。このときボルトは、左、右は上から、中央は下から取り外します。

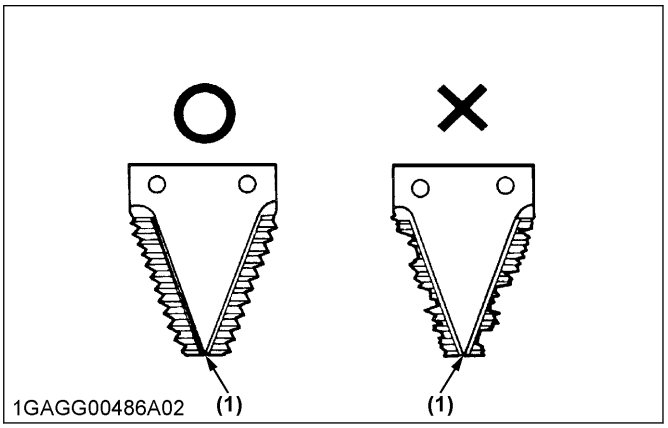






(1) 刈刃
(2) 中央ボルト
(3) 右側ボルト
(4) 左側ボルト

6. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認します。
   刈刃の動きがかたいときは、注油、グリース塗布やすき間調整を行います。
   また、刃先が摩耗したり、欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼します。



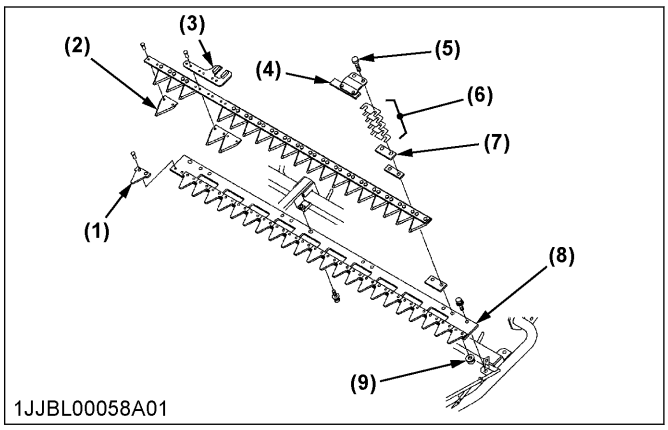
(1) 刈刃の刃先

44.2 刈刃のすき間調整

刈刃のすき間調整は、刈刃アッシの右側または左側のどちらかを行ってからもう片方を行ってください。また、刈刃のすき間を測定するときは、すき間ゲージを使用してください。

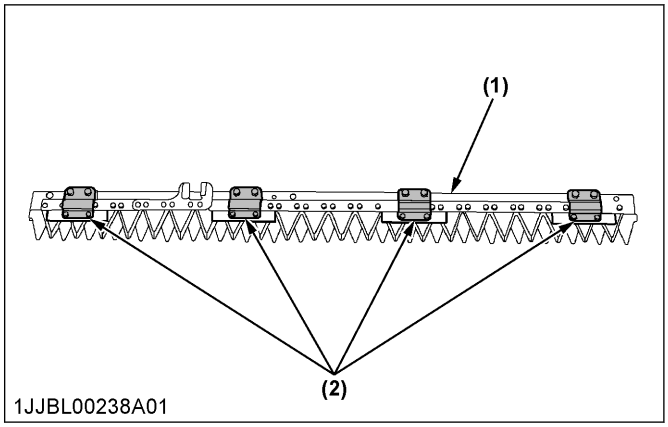
補足：

- **専用工具については、購入先にご相談ください。**



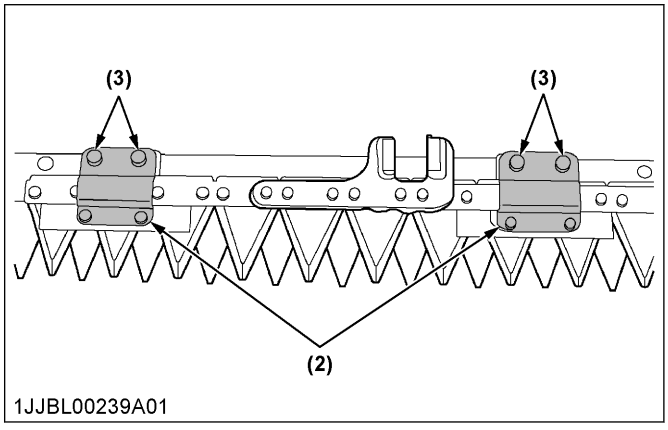
(1) 受刃
(2) 刈刃
(3) ナイフヘッド
(4) ナイフクリップ
(5) ボルト
(6) シム
(7) スライドプレート *2*
(8) 受刃台
(9) ナット

1. ボルト、ナットを取り外して各ナイフクリップを受刃台から外します。



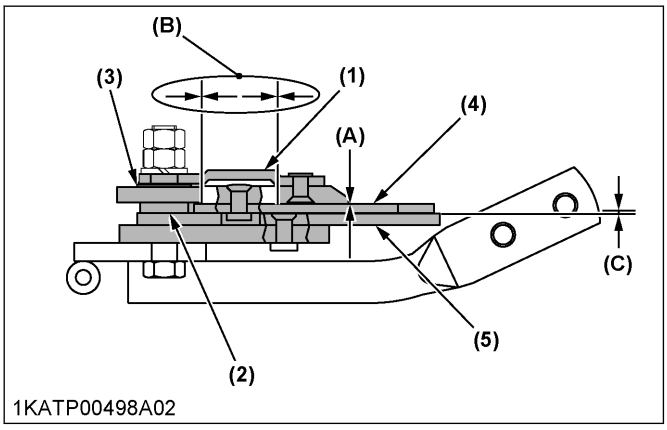
(1) 受刃台
(2) ナイフクリップ

(2)ナイフクリップの詳細



(3) ボルト

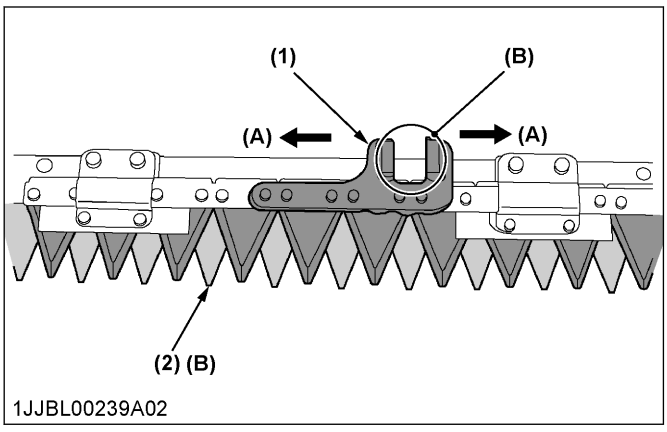
2. 刈刃を取り外します。
3. ワイヤブラシなどの掃除用具で泥や錆を取り除きます。
4. 刈刃と受刃のすき間を適正長さに調整します。
   a. ナイフクリップとスライドプレート 2 の間にあるシムを増減して調整したあと、ボルト、ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間、ナイフクリップと刈刃のすき間、およびナイフバーとナイフクリップおよびプレートとのすき間を前後合わせて次表のように調整します。



(1) ナイフクリップ
(2) スライドプレート *2*
(3) シム
(4) 刈刃
(5) 受刃
(A) ナイフクリップと刈刃のすき間
(B) ナイフバーとナイフクリップおよびプレートとの前後合わせたすき間
(C) 刈刃と受刃のすき間

ナイフクリップと刈刃のすき間(A)	0 mm～0.2 mm
ナイフバーとナイフクリップおよびプレートとの前後合わせたすき間(B)	0 mm～0.3 mm
刈刃と受刃のすき間(C)	0 mm～0.5 mm

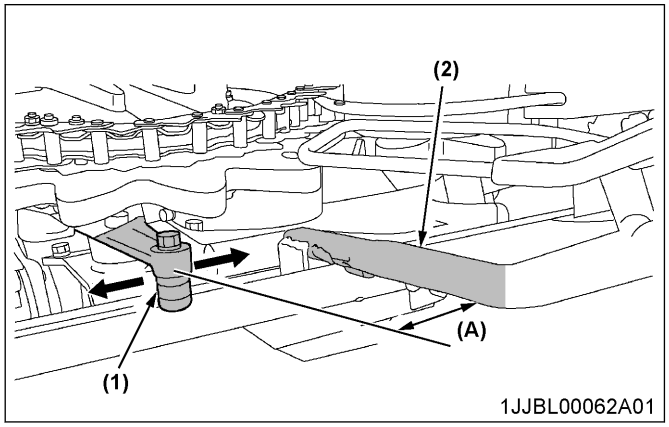
   b. ナイフヘッドを持ち、刈刃を左、右に動かします。
   動かないときや動きが軽すぎるときは再調整を行い、異常が無ければ受刃、ナイフヘッドのローラガイドにグリースを塗布します。



(1) ナイフヘッド
(2) 受刃
(A) 左、右に動かす
(B) グリース塗布

44.3 刈刃の取付け

1. クランク軸とパイプのフレームを平行状態に調整します。
   調整は、クランク軸を右または左に動かして行います。



(1) クランク軸 *(A)* 平行
(2) パイプフレーム

2. 取外しの逆の手順で刈刃完備を本機側に取り付けます。
   a. 刈刃完備を持ち上げて、ナイフヘッドにローラをはめ込みます。
   b. 本機側の刈刃フレームに刈刃完備をボルト 3 本で左、右は上から、中央は下からそれぞれ取り付けます。
   c. 刈刃ガイド左、右を刈取フレームに取付けボルト各 2 本でそれぞれ取り付けます。
      このとき、刈刃ガイドが受刃の先端に対して、下方向になるように締め付けます。
   d. 刈刃完備を取り付けます。
   e. 各部のすき間、刈刃の反りや作動状態を確認し、異常があるときは再調整を行います。

45. こぎ歯の点検、交換

⚠ 警告

- **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **平たんな場所でこぎ歯の点検、交換を行ってください。**

こぎ歯の歯先が摩耗してくると、受あみとのすき間が大きくなり、こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が適正長さ以下になったときは、こぎ歯の交換を行ってください。

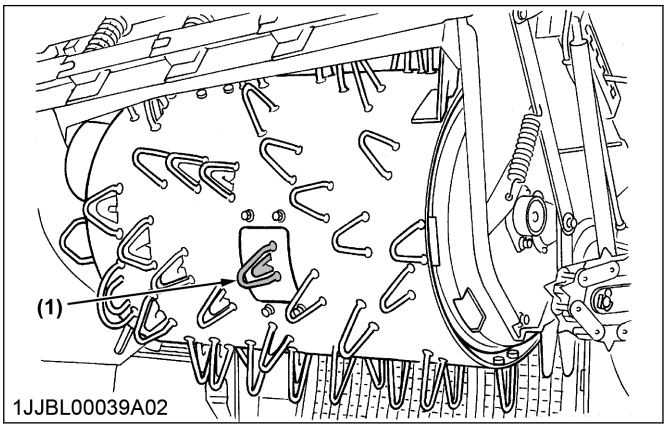
歯先の線径の適正長さ	2.5 mm 以上

重要：

- **歯先の線径が適正長さ以下になると、こぎ歯が変形したり、歯先が割れて故障の原因となります。**

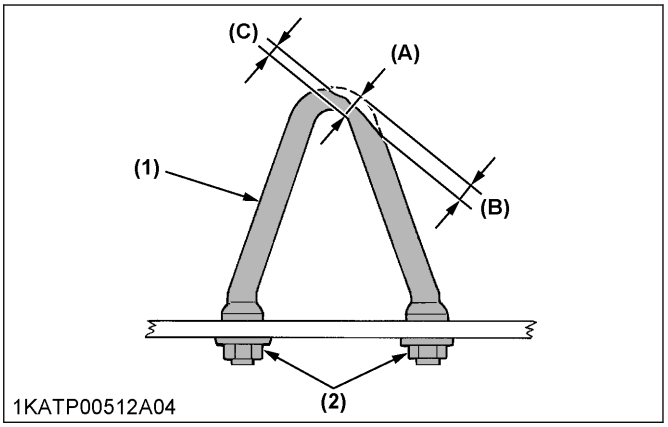
45.1 こぎ歯の点検

1. こぎ胴を開きます。



(1) こぎ歯

2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定します。
   線径が適正長さ以下のときは交換します。

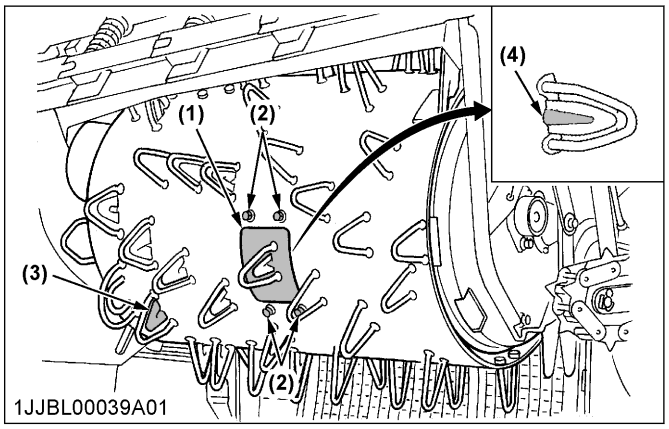


(1) こぎ歯の歯先
(2) ナット
(A) 新品時 *5.25 mm*
(B) 摩耗
(C) 残りが *2.5 mm* 以上あること

45.2 こぎ歯の交換

1. 六角レンチでボルトを取り外して円筒ふたを取り外します。
2. 円筒ふたから手を入れて、こぎ胴の内側からナット 2 個を取り外し、交換するこぎ歯を取り外します。
3. 新しいこぎ歯をナットで取り付けます。

4. 円筒ふたを取り付けます。



(1) 円筒ふた
(2) ボルト
(3) わら巻付防止板
(4) 凸部

補足：
- **円筒ふたは 2 か所あります。**
- **わら巻付防止板を取り付けるときは、凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取り付けてください。**
- **六角レンチは購入先にご相談ください。**

交換後
開いていたこぎ胴を閉じます。

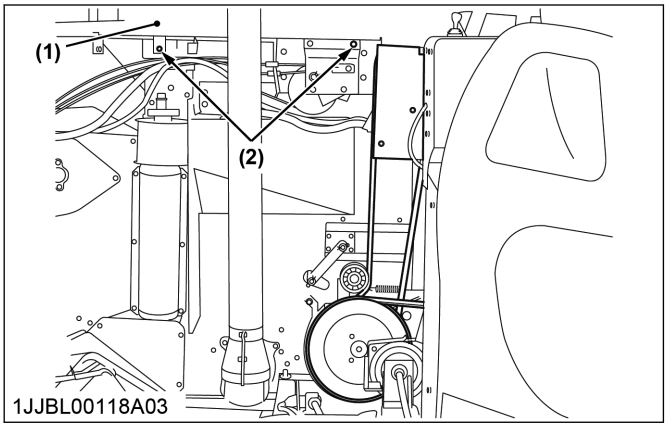
46. わら切刃の点検、交換

警告
- **刃部に手を掛けないでください。**
- **危険ですので、手袋をして脱着作業をしてください。**

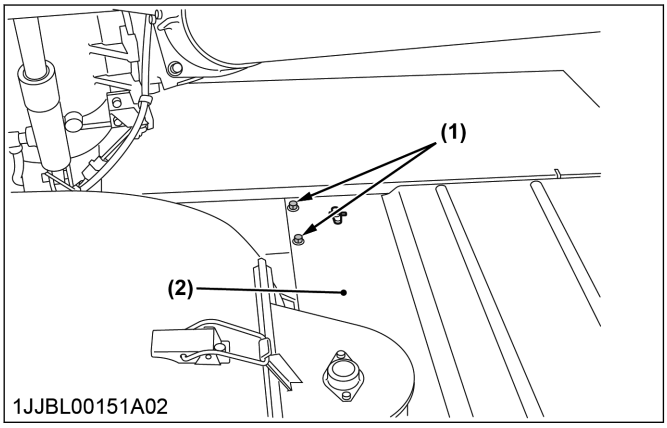
わら切刃が切れなくなると、こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため、わらくずの移動が悪くなります。また、必要以上の動力を消費するばかりでなく、排じん選別室に送られたわらくずが 2 番スクリュに巻きついたり、2 番処理胴に詰まったりします。

46.1 わら切刃の点検

1. グレンタンクを開きます。
   （グレンタンクの開閉（128 ページ）を参照）
2. こぎ胴を閉じた状態で、脱こく右上部カバーを取り付けているボルト 4 本を取り外します。

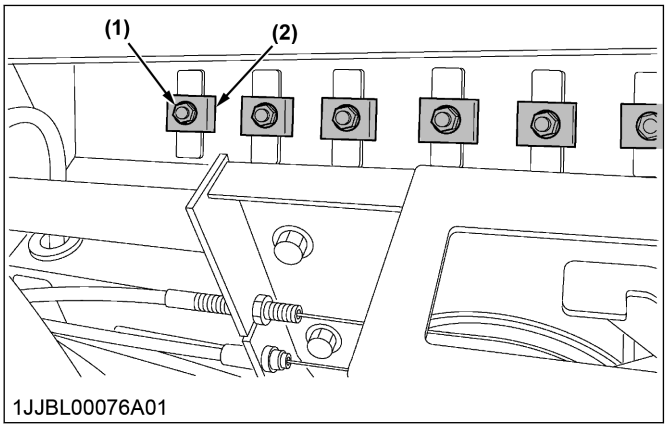


(1) 脱こく右上部カバー
(2) ボルト



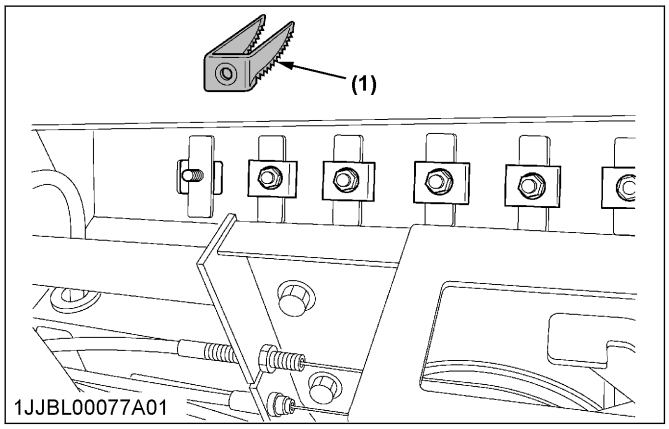
(1) ボルト
(2) 脱こく右上部カバー

3. わら切刃を取り付けているナットを取り外します。



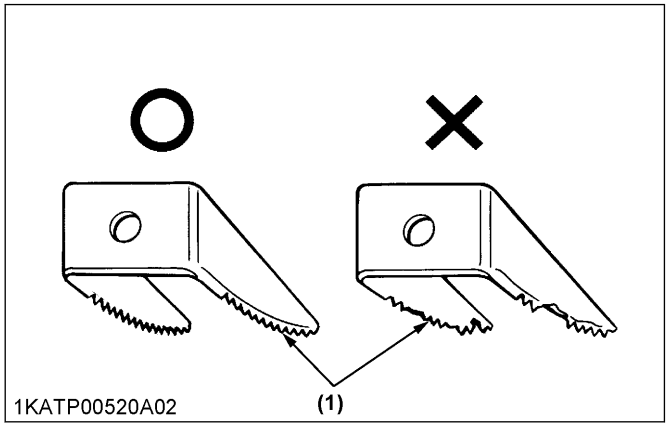
(1) ナット
(2) わら切刃

4. わら切刃を抜き取ります。



(1) わら切刃

5. わら切刃の刃先を確認します。
   刃先が摩耗したり、欠けているときは交換してください。



(1) わら切刃

6. 同じ要領で各わら切刃の点検または交換を行います。

46.2 わら切刃の交換、取付け

1. 刃先を"下側"にして各わら切刃を差し込みます。
2. ナットをボルト部に取り付けます。
3. 脱こく右上部カバーを取りけます。

重要：
- **わら切刃を取り付けるときは、取付方向や傾きの出ないように注意して取り付けてください。**

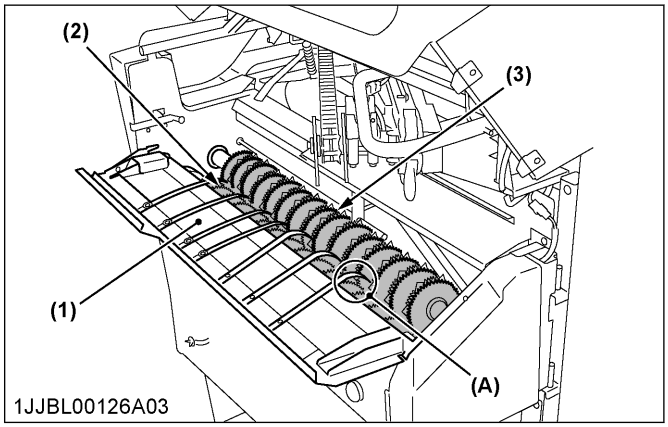
47. カッタ部の点検

⚠ 警告
- **平たんな場所でエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。**
- **カッタ部を開いているときは、カッタの刃先に注意してください。**
- **傾斜地では、カッタ部の開閉をしないでください。**
- **カッタ部を開いて掃除をするときは、オープンストッパで必ず固定してください。**

補足：
- **わらくずなどのごみは取り除いてください。**

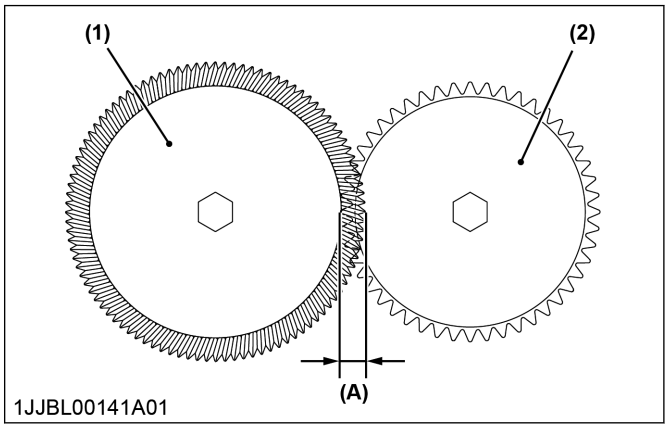
1. カッタ切換えカバーを開きます。
   （カッタ切換えカバーを開く方法（125 ページ）を参照）

2. カッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代を確認します。



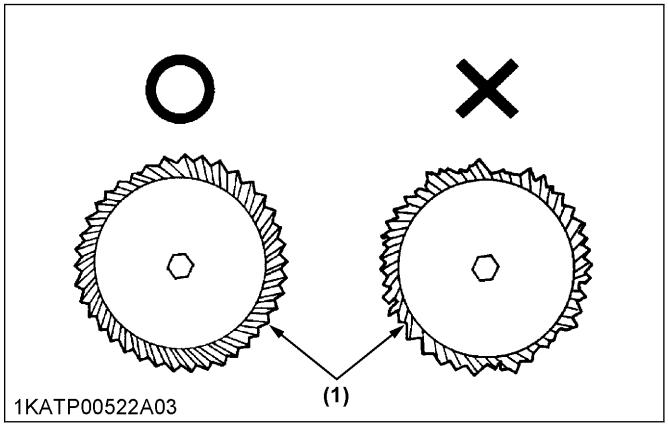
(1) カッタ切換えカバー
(2) カッタ刃（切断刃）
(3) ギヤロータ
(A) ラップ代

刃先が摩耗してラップ代が少なくなったり、欠けているときは購入先へ連絡してください。



(1) カッタ刃（切断刃）
(2) ギヤロータ

(A)	ラップ代	出荷時 12.5 mm



(1) カッタ刃（切断刃）

重要：
- **ラップ代が少なくなると、わらの切断長さが長くなったり、わらのブリッジにより排わら警報の発生の原因となりますので早めに交換してください。**

点検後
カッタ切換えカバーを閉じます。

補足：
- **カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと、自動エンジン停止装置がはたらき、エンジンが始動しません。**

48. 吐出口ブーツの点検、交換

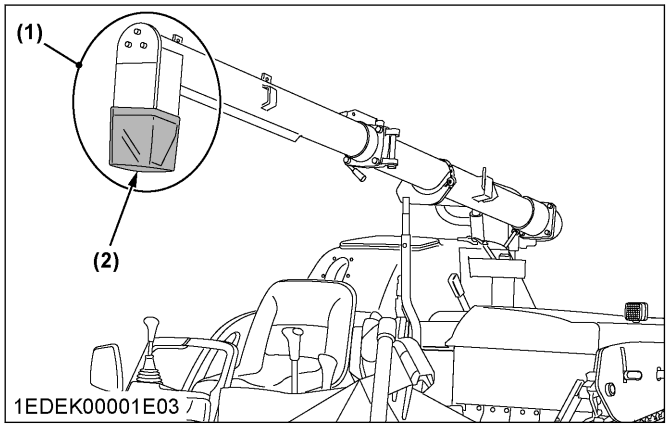
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

48.1 吐出口ブーツの交換

1. 吐出口ブーツを取り付けている樹脂ファスナを外します。

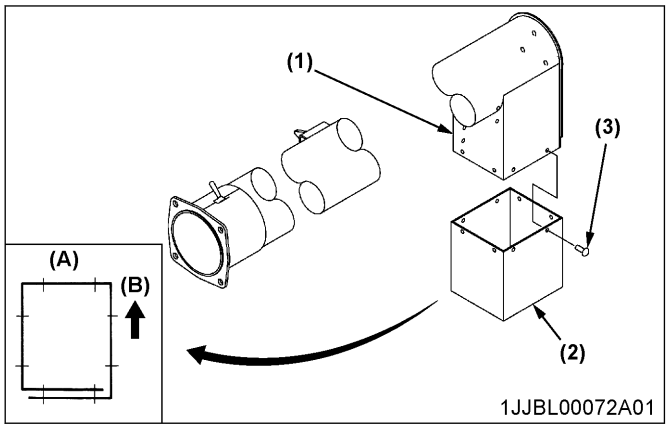
2. 破損した吐出口ブーツを取り外し、新しい吐出口ブーツを取り付けます。

補足：
- **吐出口ブーツを取り付けるとき、吐出口ブーツの重なりの方向を間違えないでください。**



(1) アンローダ先端部　　*(2)* 吐出口ブーツ

(1)アンローダ先端部から(2)吐出口ブーツを取り外した状態



(3) 樹脂ファスナ　　*(A)* 取付け方向
(B) 前

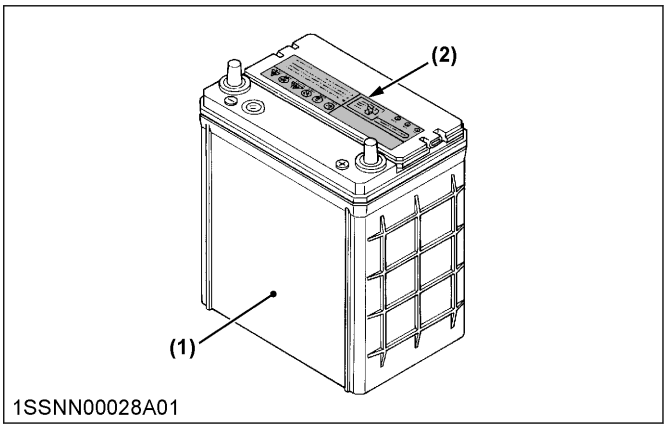
重要：
- **吐出口ブーツは必ず純正品を使用してください。**

49. バッテリの点検、交換

危険
- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（−）端子が金属工具などの導体部品との接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**
- **バッテリを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となります。**
- **充電器やブースタケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行ってください。取扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。**
- **この 12 V バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **急速充電は厳禁です。**
- **密封タイプであるため、開封は厳禁です。**

警告
- **バッテリを乾いた布などのふきん類で掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



(1) バッテリ　　*(2)* 注意ラベル

補足：
- **出荷時は、補水不要のバッテリです。**

49.1 補水が不要なバッテリの点検、交換

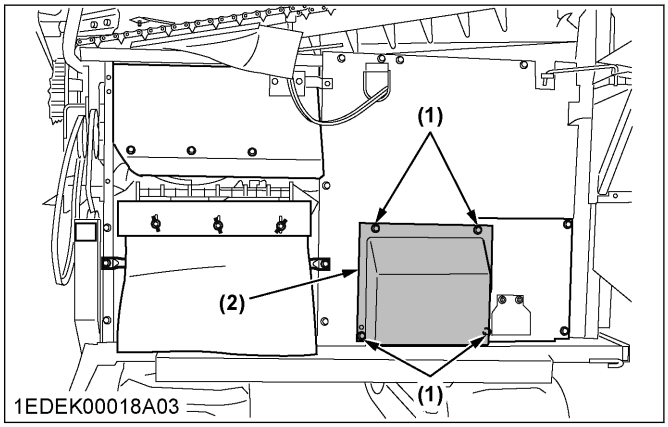
49.1.1 バッテリの点検

警告

バッテリが破損や傾いたりして、液漏れが発生しているときは、次の事項を遵守してください。
- **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに眼科医の治療を受けてください。失明の原因となります。**

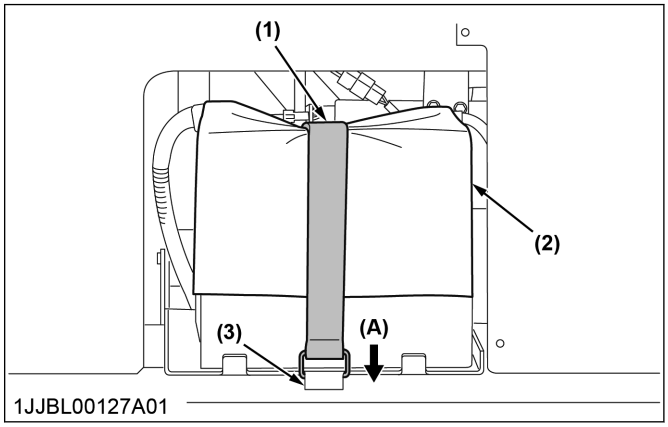
1. カッタ部を開きます。

2. ボルトを取り外して、バッテリ後部カバーを取り外します。



(1) ボルト *(2)* バッテリ後部カバー

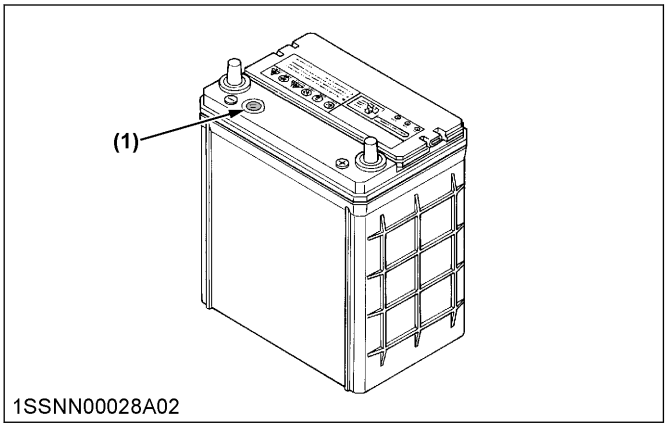
3. ゴムバンドをフックから外して、ゴムタレをめくります。



(1) ゴムバンド *(A)* 外す
(2) ゴムタレ
(3) フック

4. バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。
   a. バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。
   次表を参照し、処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



(1) インジケータ

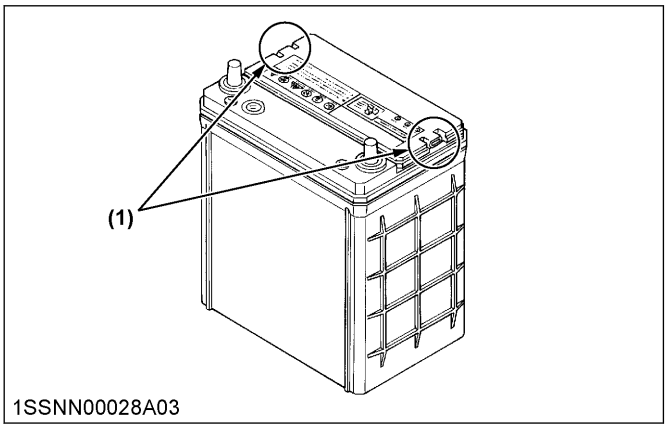
補足：
- **インジケータは真上から確認してください。**

   b. バッテリが破損して液漏れが発生しているときは、交換します。

重要：
- **バッテリから液漏れが発生すると車体が腐食する原因となります。**

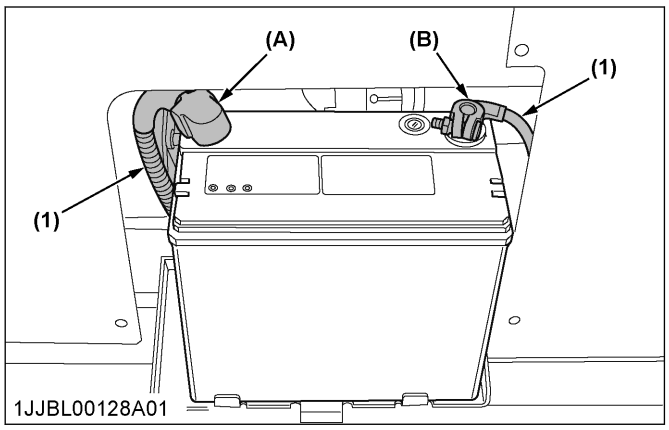
   c. ふたの排気口にゴミなどの異物が付着しているときは掃除します。

重要：
- **排気口をふさぐと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口

   d. バッテリケーブルの破損が無いか確認し、あればバッテリケーブルの交換を行います。また（+）端子、（−）端子にゆるみや腐食が無いか確認し、あれば端子の増締めや掃除を行います。



(1) バッテリケーブル
(A) （＋）側
(B) （－）側

5. ゴムタレを降ろし、ゴムバンドを取り付けます。
6. バッテリ後部カバーを取り付けます。
7. カッタ部を閉じます。

49.1.2 バッテリの補充電、交換

危険

- **バッテリは、次の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
  - **－ 取外し時は、（－）端子側（アース側）から外す。**
  - **－ 取付け時は、（－）端子側（アース側）を最後に接続する。**

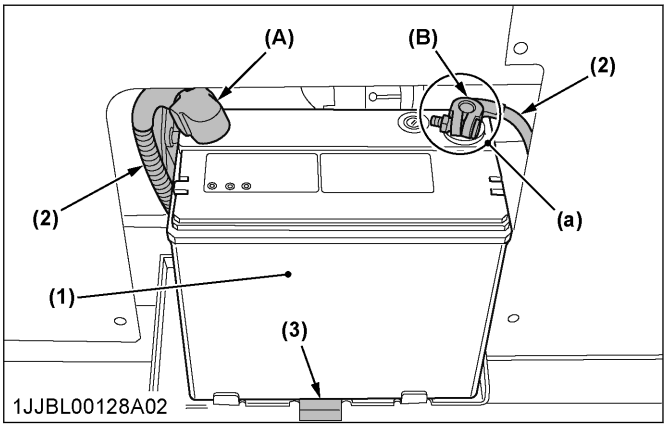
警告

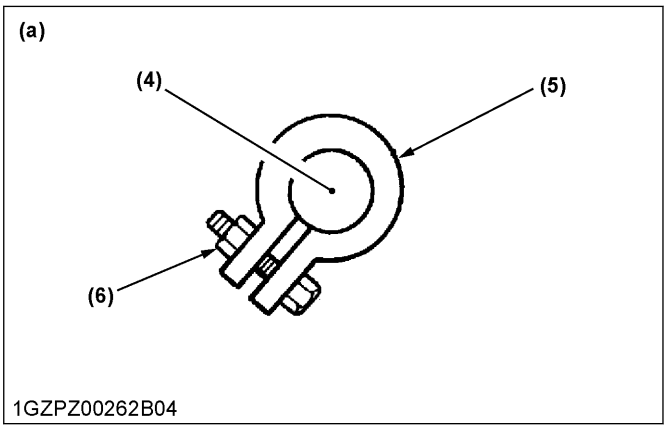
- **バッテリを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）の漏れにより、失明やヤケドをするおそれがあります。**
- **バッテリを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**
- **バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。**
- **バッテリを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。**

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また補充電を行っても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリの寿命ですので交換を行ってください。

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が、いつもより低い。

1. カッタ部を開き、バッテリ後部カバーを取り外します。
2. バッテリを機体から取り外します。
   a. ゴムバンドの端部金具をフックから外し、ゴムタレをめくり上げます。
   b. ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を取り外します。
   取り外すときは、必ず（－）側から取り外してください。





(1) バッテリ
(2) バッテリケーブル
(3) フック
(4) 端子
(5) ケーブル端子
(6) ナット
(A) （＋）側
(B) （－）側

重要：

- **バッテリを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。**

3. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補充電を行います。
   充電は、バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に、バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。

補充電終了後

バッテリを、取り外した手順と逆の手順で取り付けます。

重要：

- **新しいバッテリに交換するとき、バッテリは次の指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**

バッテリ形式	**50B24L-MF**

- **バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **バッテリは正しく取り付けてください。傾いたりすると転倒や液漏れの原因となります。**
- **機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。**
- **バッテリの（+）端子、（–）端子をバッテリに取り付けるまたは増締めするときに、端子が破損したりバッテリのポスト部が破損するおそれがあるため、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。**
  バッテリ端子の締付けトルクは次のとおりです。

締付けトルク	バッテリ端子	3.0 N·m～4.0 N·m （0.31 kgf·m～0.41 kgf·m）

- **端子を締め付けるときは端子底面とバッテリ上面部が接触した状態で締め付けてください。**

49.2 補水が必要なバッテリの点検、交換

補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。

49.2.1 補水が必要なバッテリの点検、補水

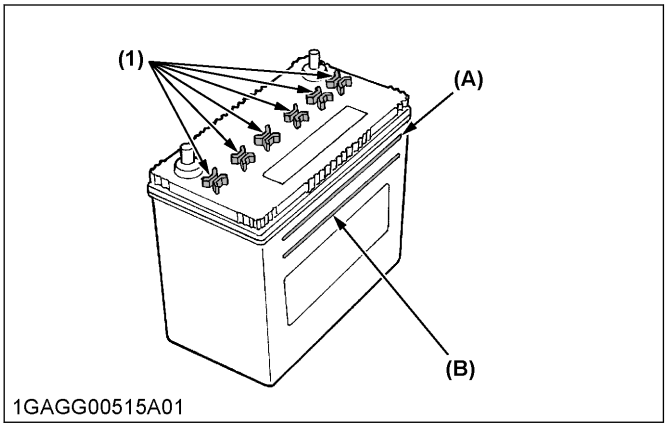
バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

⚠ 警告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの 2 種類があります。補水が必要なバッテリについては、次の事を守ってください。

- **バッテリは液面が*"LOWER"*（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。**
  ***"LOWER"*以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。**
  すぐに*"UPPER LEVEL"*と*"LOWER LEVEL"*の間に補水してください。
- **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**

1. バッテリ液の量を点検し、*"UPPER LEVEL"*（最高液面線）と*"LOWER LEVEL"*（最低液面線）の間に液量があるか確認します。
2. バッテリ液が不足しているときは補水キャップを外して補水します。



(1) 補水キャップ
(A) *UPPER LEVEL*（最高液面線）
(B) *LOWER LEVEL*（最低液面線）

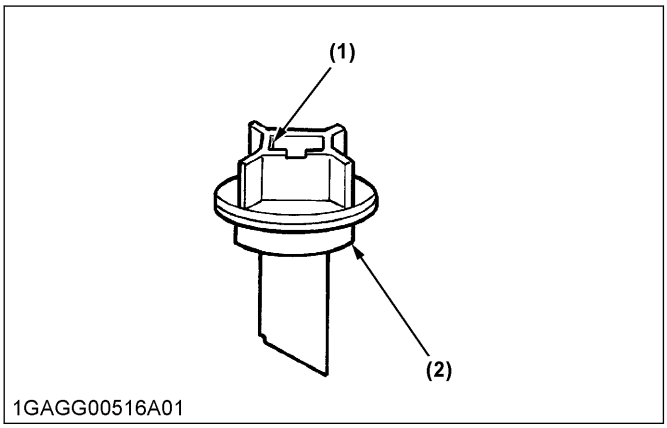
重要：

- **バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリの寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸、井戸水、泥水などバッテリ液に適さない液体は絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液漏れして機体を傷めるおそれがあります。**

3. 補水キャップの排気口にゴミなどの異物が付着しているときは掃除します。

重要：

- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口
(2) 補水キャップ

49.2.2 補水が必要なバッテリの補充電、交換

⚠ 危険

- **補充電中は補水キャップすべてを取り外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

1. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップをすべて取り外します。
2. 充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）を側に、バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行います。

補充電終了後
補水キャップをすべて取り付けます。

50. 電気の各配線コード、各ヒューズの点検、交換

⚠ 警告
- **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

50.1 各配線コードの点検、交換

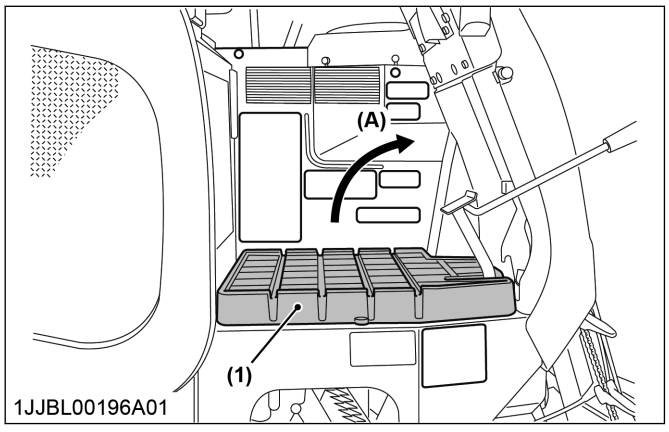
1. 各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検します。
   ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。
2. 被覆の損傷状態を点検します。
   被覆が破れているときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

50.2 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

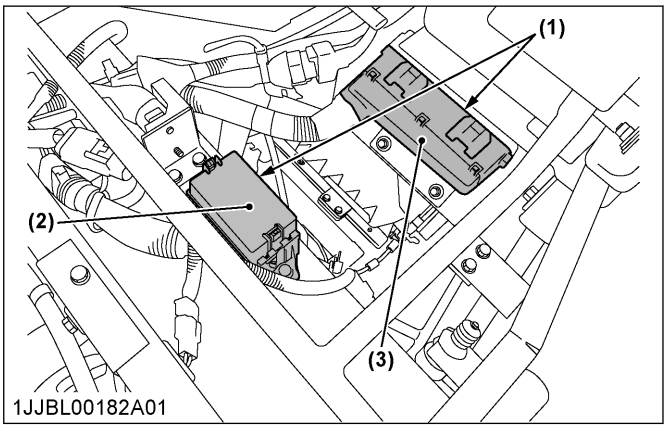
重要：
- **新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。**
- **ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、購入先に連絡して修理を依頼してください。**

1. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを止めます。
3. 運転席足元のステップを取り外します。



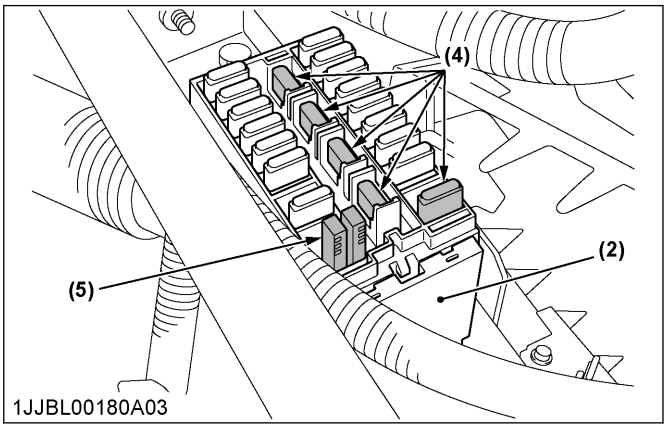
(1) ステップ *(A)* 取り外す

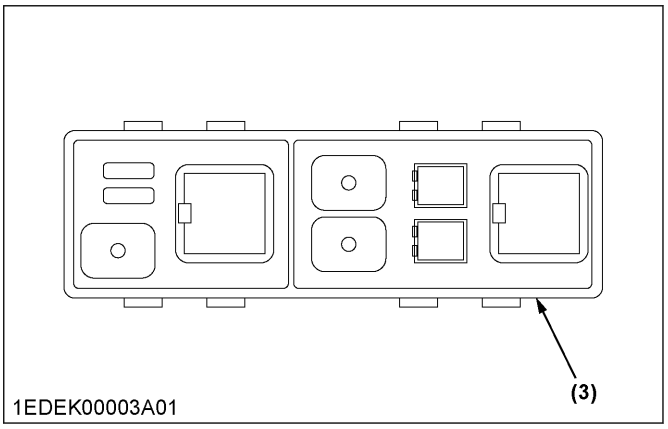
4. ヒューズボックスのカバーを取り外します。

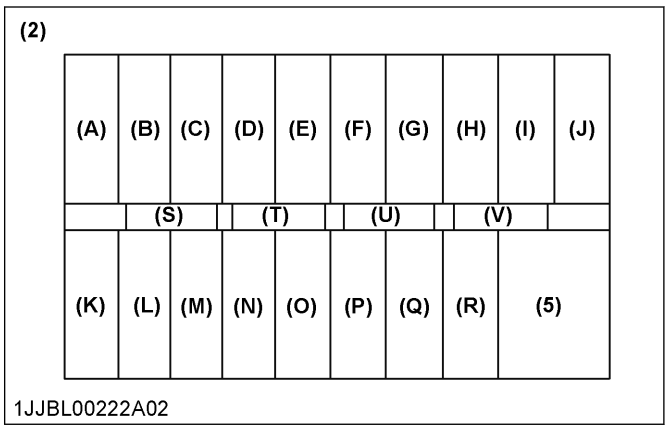


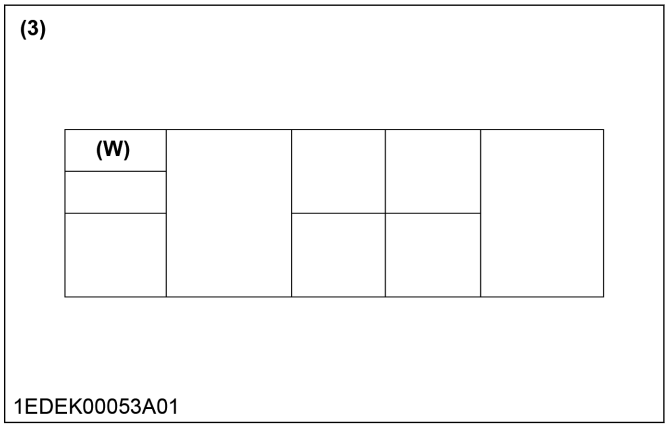
(1) ヒューズボックスカバー *(3)* ヒューズボックス *2*
(2) ヒューズボックス *1*

カバーを外したヒューズボックス 1、ヒューズボックス 2 の詳細









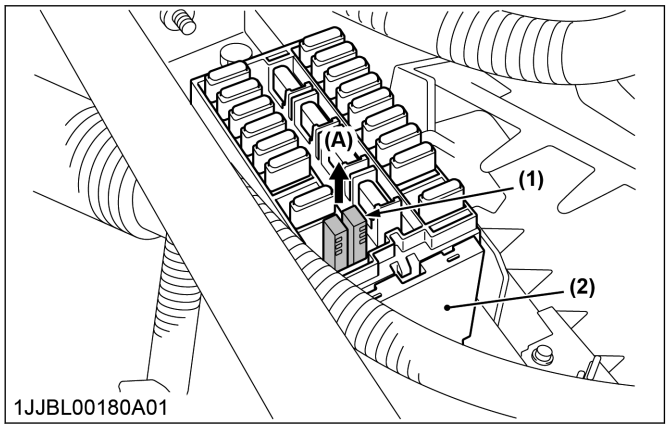
(4) 予備ヒューズ　　*(5)* ヒューズ抜き

	回路	容量(A)
(A)	アンローダ旋回モータ	25
(B)	こぎ胴ロック解除モータ	20
(C)	もみクラッチモータ、注油ポンプ	20
(D)	マイコン、メータ、センサ	5
(E)	ハイサイド SW	5
(F)	電源ソケット	15
(G)	油圧バルブ、SU	15
(H)	燃料ポンプ、レギュレータ・ALT、ホーン	10
(I)	前照灯、ウィンカ	15
(J)	スタータ	5
(K)	作業灯	20
(L)	マイコン（直 B）	5
(M)	作業クラッチモータ	20
(N)	K-OBD	5
(O)	アクセルレバーモータ	20
(P)	こぎ深さモータ	20
(Q)	フィードチェーン停止モータ	20
(R)	結束機	15
(S)	予備ヒューズ	10
(T)	予備ヒューズ	15
(U)	予備ヒューズ	20
(V)	予備ヒューズ	25
(W)	AES	20

5. 切れたヒューズを外します。

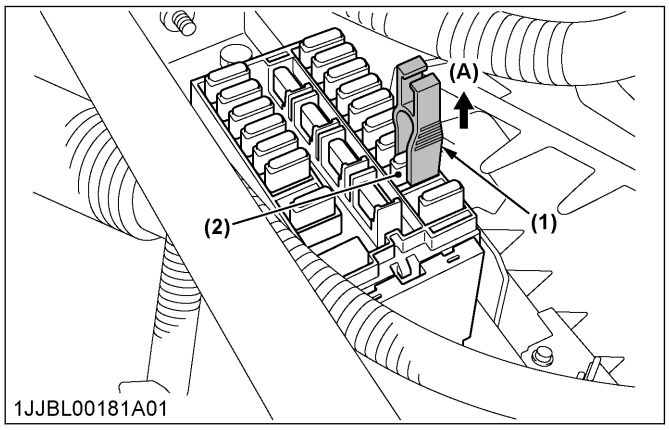
補足：
- **ヒューズを交換するときは、ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。**

a. ヒューズプーラを抜きます。



(1) ヒューズプーラ *(A)* 抜く
(2) ヒューズボックス

b. 切れたヒューズをヒューズプーラに挟んで外します。



(1) ヒューズプーラ *(A)* 挟んで抜く
(2) 交換するヒューズ

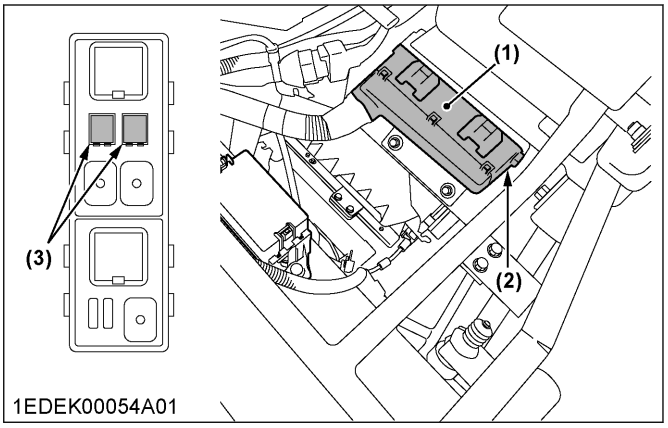
6. ヒューズが切れた箇所に、同じ容量の新しいヒューズを取り付けます。

交換後
1. ヒューズボックスのカバーを取り付けます。
2. 運転席足元のステップを取り付けます。

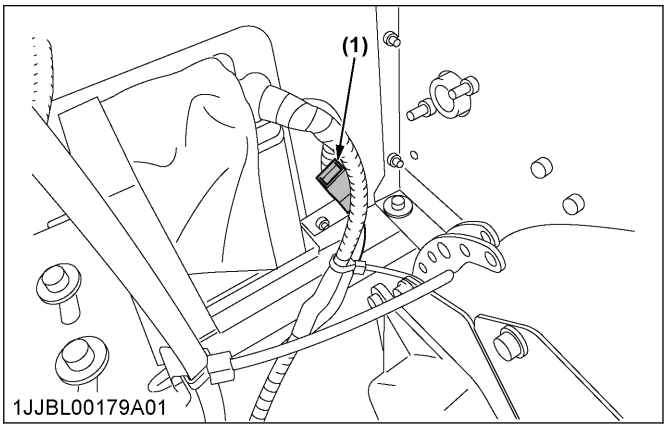
50.3 スローブローヒューズの点検、交換

スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するための物です。

1. 運転席足元のステップを取り外します。
2. ヒューズボックス 2 のカバーを外します。
3. スローブローヒューズの点検を行います。



(1) ヒューズボックス *2* *(3)* スローブローヒューズ
(2) カバー



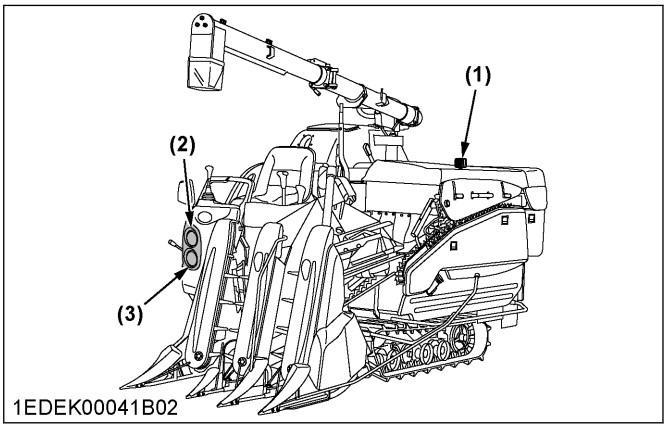
(1) スローブローヒューズ*(50 A)*

4. スローブローヒューズが切れているときは新しいヒューズに交換します。

点検または交換後
1. ヒューズボックス 2 のカバーを取り付けます。
2. 運転席足元のステップを取り付けます。

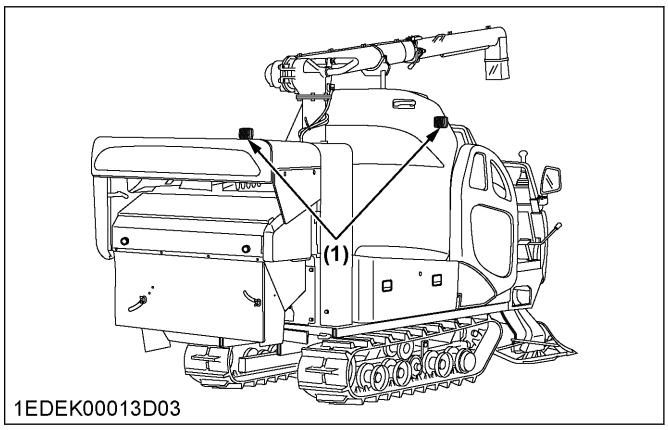
51. ランプの電球の点検、交換、ホーンスイッチの点検

機体前方



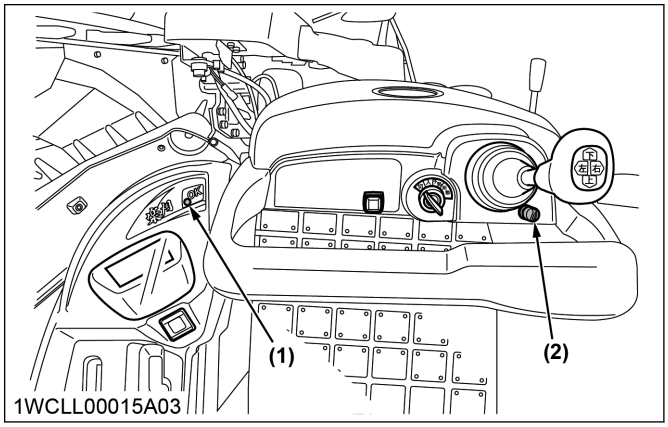
(1) ウインカランプ *(3)* 作業灯
(2) ヘッドランプ

機体後方



(1) ウインカランプ

運転席



(1) ランプ　　*(2)* ホーンスイッチ

ランプの電球の点検、交換

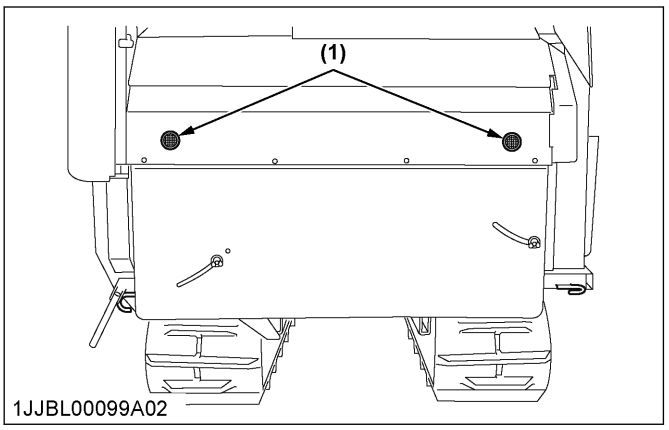
1. ランプの電球切れが無いか点検します。
2. ランプの電球が切れているときは交換します。

ホーンスイッチの点検

1. ホーンスイッチを押して点検します。
2. ホーンが鳴らないときは、配線やヒューズを確認します。

52. 反射器の点検、交換

1. 汚れや破損が無いか点検します。
2. 汚れがあれば掃除し、破損があれば交換します。



(1) 反射器

53. クローラの点検、調整

地面からクローラを約 10 cm 浮かした状態で、第 3 転輪とクローラ下側のたるみを適正幅に調整してください。

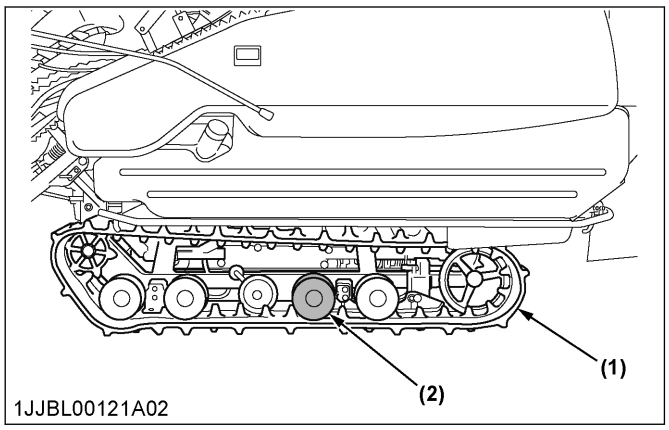
⚠ 警告

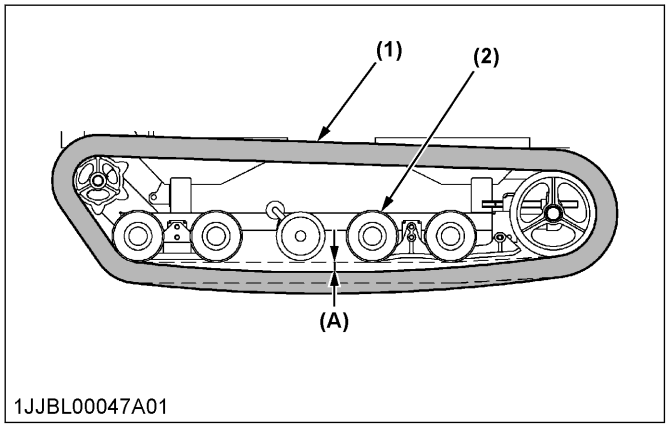
- **点検、調整を行うときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに、枕木などの固定用具を使用して、落下防止の歯止めをしてください。**
- **ジャッキアップを行うときは、コンクリートなど地面のかたい場所でバランスのとれた位置にして作業してください。**
- **ジャッキは持上げ荷重が 2 トン以上の物を使用してください。**
- **機体にセットする木材やブロックなどの車止めは、じゅうぶんな強度がある物を使用し、セットするときは機体から外れないように注意しながら行ってください。**

重要 :

- **クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケットおよび芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20 時間目および 50 時間目に点検してください。**

調整は片側ずつ行ってください。

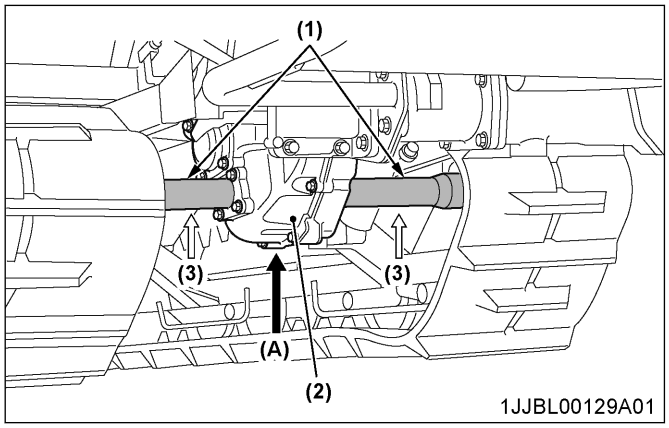




(1) クローラ *(2)* 第 *3* 転輪

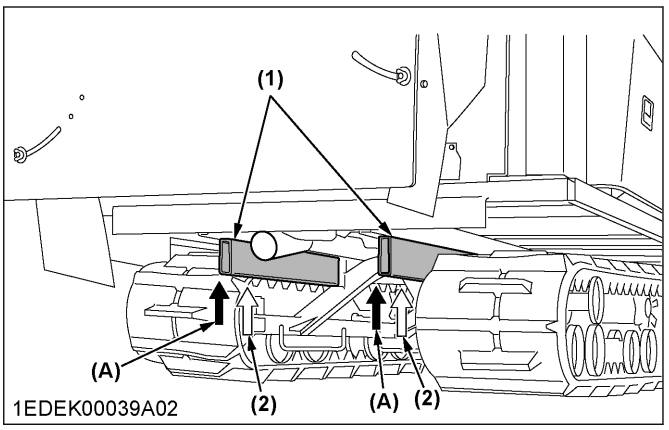
(A)	第 3 転輪とクローラ下側のたるみ	10 mm～20 mm

1. 機体をジャッキアップして、クローラを地面から 10 cm 程度浮かせます。
   a. 前部はミッションケース部の、調整を行う側の前車軸に木材やブロックをセットします。



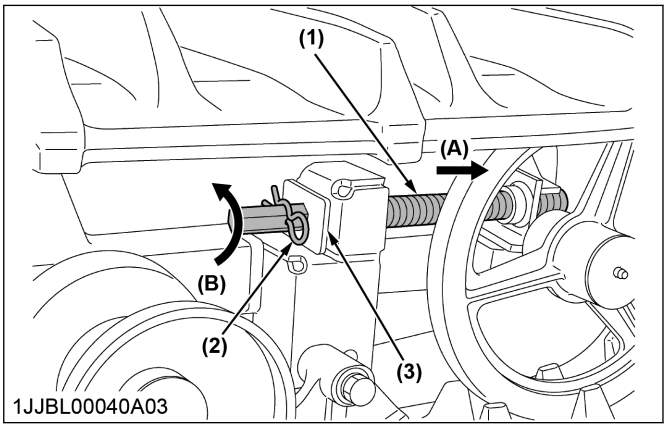
(1) 前車軸 *(A)* ジャッキアップ
(2) ミッションケース
(3) 木材、ブロック

   b. 後部は機体フレームの、調整を行う側のフレームの次図位置に木材やブロックをセットします。



(1) フレーム *(A)* ジャッキアップ
(2) 木材、ブロック

2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を、スナップピンを抜いて取り外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら、すき間の調整を行います。
   調整は左右両方ともに行います。



(1) 張りボルト *(A)* 張る
(2) スナップピン *(B)* 左回転
(3) 回り止め金具

重要：
- **クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。**

調整後
1. 回り止め金具を取り付けてスナップピンを差し込みます。
2. ジャッキおよびブロックや木材を取り外します。
   a. ジャッキアップして木材およびブロックを機体から取り外します。
   b. ジャッキを取り外します。

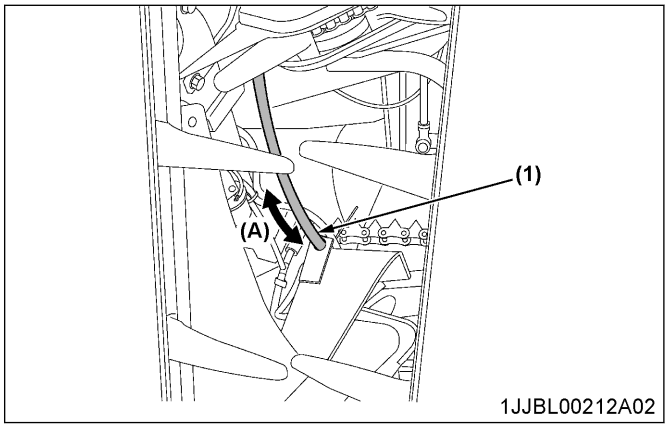
重要：
- **クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため、次の事項を守ってください。**
  - **日光や雨による劣化防止のため、屋外に長期保管しないでください。**
  - **オイルや燃料、農薬、肥料など油脂類の付着による劣化防止のため、クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。**

54. スライドガイドの点検、注油

54.1 スライドガイドの点検

1. メインスイッチのキーを**[入]**位置にします。
2. 手動こぎ深さスイッチを“浅”⟷“深”に動かします。供給搬送部が“上”⟷“下”します。
3. 供給搬送部が動いているとき、異音がする場合はスライドガイドの作動範囲にグリースの塗布または注油をします。

54.2 スライドガイドの注油箇所



(1) スライドガイド　　*(A)* 作動範囲

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは、機械の点検、整備を怠らず、翌日または翌年の刈取作業に備えてください。

1. 毎日の作業後の手入れ

⚠ 警告

- **機体に本機カバーを掛けるときは、エンジン、マフラが冷えてから掛けてください。停止直後にカバーを掛けると火災のおそれがあります。**

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取り除きます。
3. 必要なときは各部に注油を行います。
（各部の注油（135 ページ）を参照）
4. アンローダを収納します。
5. 刈取部を地面に接地させます。
6. メインスイッチのキーを抜き取ります。
7. 本機カバーを掛けます。

2. 長期格納時の手入れ

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないときは、格納する前の各部の点検、整備を念入りに行ってください。

2.1 長期格納時の各部の掃除、注油と補修

1. 機体を平たんな場所に停めます。
2. 次の事項を行います。
   - 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分を拭き取ります。
   - 各回転部分や切刃部、ベルト、チェーンなどの作動部に巻き付いた雑草やわらくずを、完全に取り除きます。

重要：

- **機体を洗う場合は、電装部品に水が掛からないようにしてください。**
- **各グリースニップルには、高圧水を直接掛けないでください。水が浸入し、故障の原因となります。**
- **作業シーズン終了後および長期格納する前には、給油、給水、注油点検一覧表（149 ページ）を参照して、各部の給油、給水、注油を行ってください。**

補足：

- **各部にもみやわらくずが残っていると、ネズミに配線部をかじられて故障の原因となるので、きれいに取り除いてください。**
- **各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には、錆が発生しないようにじゅうぶん注油してください。**
- **塗料のはがれた所には補修塗料を塗って、錆が発生しないようにしてください。**

2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の保管

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水、または不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておきます。

2.2.1 長期格納時のラジエータ冷却水の排水

1. ラジエータおよびリザーブタンクの冷却水を排水します。
（ラジエータ冷却水の点検、補給、交換（158 ページ）を参照）
2. ラジエータキャップに“水なし”と書いた札を掛けておきます。

2.2.2 長期格納時のラジエータ冷却水と不凍液の配合

1. 冷却水の補給、交換を行います。

2. ラジエータおよびリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
（ラジエータ冷却水の点検、補給、交換（158 ページ）を参照）

ラジエータ冷却水容量	3.3 L

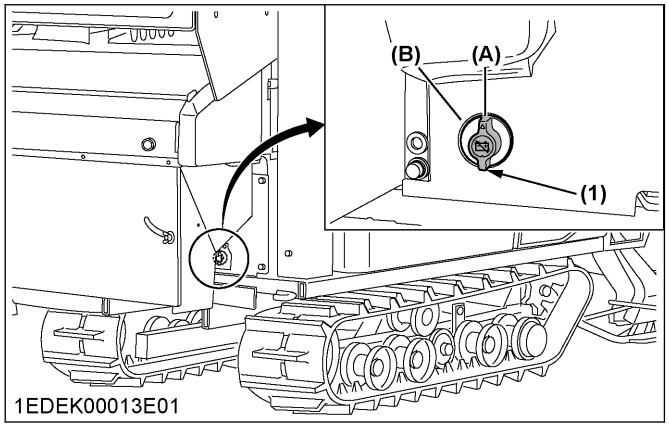
重要：
- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50 %以下）、よく水と混ぜ合わせてからお使いください。**
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**

2.3 長期格納時のバッテリの保管

危険
- **保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。**

警告
- **バッテリを点検するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**

長期間使用しない場合は、バッテリカットスイッチを**[切]**位置にしてください。



(1) バッテリカットスイッチ　*(A)* 入　*(B)* 切

また、次の点に注意して保管してください。
- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行ってください。バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行ってください。
- バッテリは保管中でも自己放電するので、夏は 1 か月、冬は 2 か月に 1 回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行ってください。
- 次のような場所に保管してください。
  - 直射日光が当たらない、温度が低く変化の少ない、乾燥している場所
  - 雨露が少なく、水没のおそれが無い場所
  - バッテリの有害なガスや液、粉じんの発生が起こらない場所

機体に取り付けている場合は、（－）側のケーブルを必ず取り外してください。

2.4 長期格納時の各レバー、その他の操作

点検、整備が終わったあと、納屋などの格納場所に停めておくときは、本項の事項を行ってください。

重要：
- **サイドシュートやリヤシュートをロープで押えないでください。変形するおそれがあります。**
- **刈取部を地面に降ろしたとき、刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。**

1. 刈取部を地面に接地させます。
2. デバイダキャップを取り付けます。
3. 分草かんを収納します。
4. アンローダ受けを下げてアンローダを折りたたみ収納します。
5. アクセルレバーをいっぱい戻して（🐢 位置）止めておきます。
6. 駐車ブレーキを掛けます。
7. 作業スイッチは"切"（消灯）にします。
8. メインスイッチのキーは、必ず抜き取って保管します。
9. 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置

コンバインの処置時の注意

⚠ 警告

- **グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
  - **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
  - **こぎ胴を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
  - **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

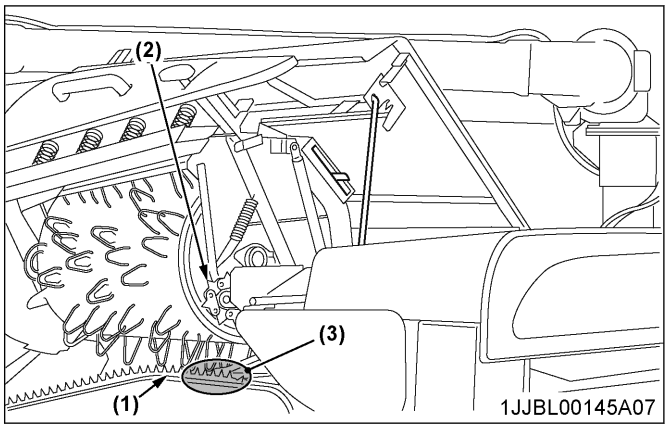
わらが詰まるときの処置

1. 自動エンジン停止装置がはたらいたときの処置

1.1 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の処置

自動エンジン停止装置がはたらき、警報パネルの排わらランプが点灯したときには、フィードチェーン終端部、排わら搬送部を掃除してください。

1. 作業スイッチを“切”（消灯）にします。
2. エンジンを停止します。
3. こぎ胴を開きます。
4. わらを取り除きます。
   排わら搬送部は排わら株元チェーンのわらを取り除いてください。



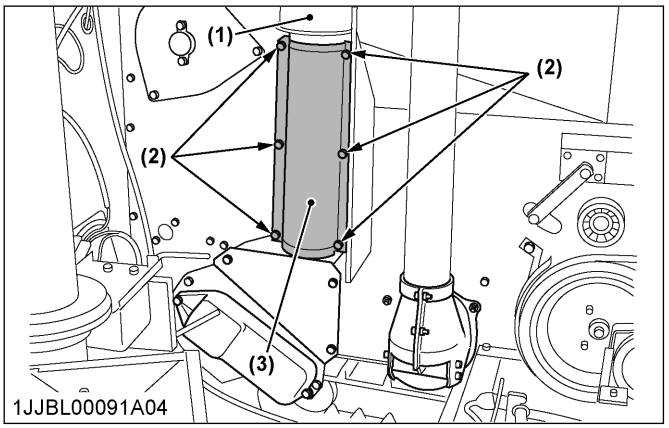
(1) フィードチェーン
(2) 排わら株元チェーン
(3) フィードチェーン終端部

5. こぎ胴を閉じます。

1.2 2 番縦スクリュ掃除口の処置

警報パネルの 2 番ランプが点灯したときには、2 番縦スクリュ掃除口を掃除してください。

1. グレンタンクを開きます。
2. ボルトを取り外して 2 番縦スクリュの掃除口カバーを外します。



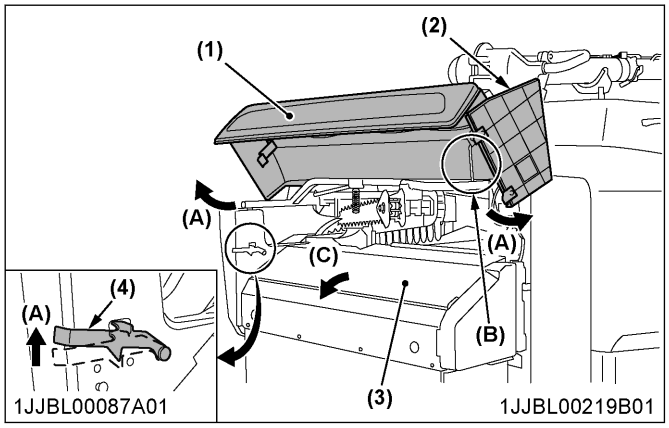
(1) 2 番縦スクリュケース
(2) ボルト
(3) 2 番縦スクリュ掃除口カバー

3. 2 番縦スクリュ掃除口内のわらくずを取り除きます。
4. 2 番縦スクリュの掃除口カバーを取り付けます。
5. グレンタンクを閉じます。

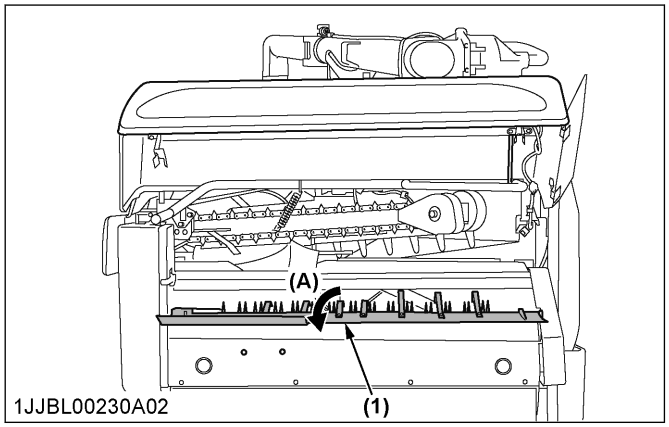
1.3 カッタ部、排わらチェーン部の処置

自動エンジン停止装置がはたらき、警報パネルの排わらランプが点灯したときには、カッタ部、排わらチェーン部を掃除してください。

1. カッタ切換えカバーを開きます。
   a. 上部カバーを上げてカバーステーをセットします。
   b. 穂先カバーを上げます。
   c. カッタ切換えカバーを後方へ引きながらカバーロックレバーを上げて開きます。



(1) 上部カバー
(2) 穂先カバー
(3) カッタ切換えカバー
(4) カバーロックレバー
(A) 上げる
(B) カバーステーをセットする
(C) 引く



(1) カッタ切換えカバー
(A) 開く

2. カッタ部、排わらチェーン部のわらくずを取り除きます。

   補足：
   - **必要に応じて、このあとカッタを開いて掃除を行ってください。**
   - **カッタ切換えカバーを開けたままでは、エンジンを始動しても作業スイッチを“入”にするとエンジンが止まります。**

3. カバーロックレバーを引きながらカッタ切換えカバーを閉め、カバーロックレバーを確実にロックします。

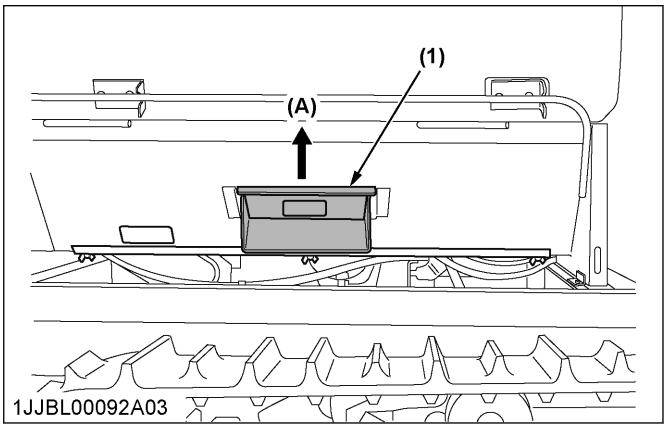
もみが詰まるときの処置

1. アンローダからもみが排出されないときの処置

本項の事項を点検し、エンジンを必ず止めてから処置してください。

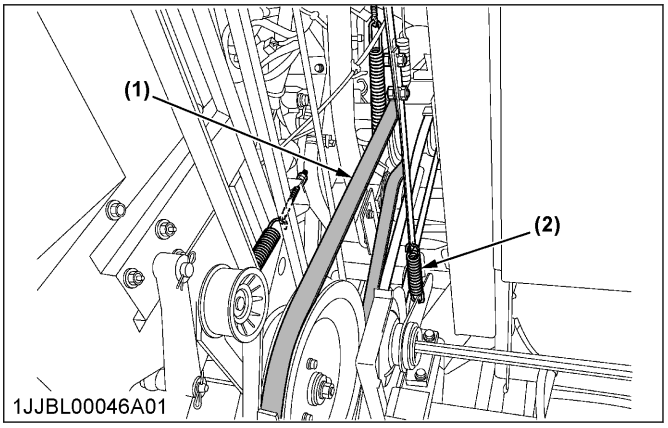
1. 次の事項を点検します。
   - 異物がかみ込んでいないか。
   - グレンタンク駆動ベルトがスリップしていないか。
2. 異常がある場合は、もみ排出クラッチを“切”にします。
3. エンジンを止めて処置します。

- 異物がかみ込んでいるときは、アンローダの各掃除口を点検し、異物を取り除きます。
  （各部の掃除のしかた（130 ページ）を参照）
- グレンタンク駆動ベルトがスリップしているときは、テンションスプリングの調整をします。
  1. シャッタを引きもみを排出します。



(1) シャッタ
(A) 引く

  2. グレンタンクを開きます。
     （グレンタンクの開閉（128 ページ）を参照）
  3. グレンタンク駆動ベルトのテンションスプリングの調整をします。
     （グレンタンク駆動ベルトの点検、調整（177 ページ）を参照）



(1) グレンタンク駆動ベルト
(2) テンションスプリング

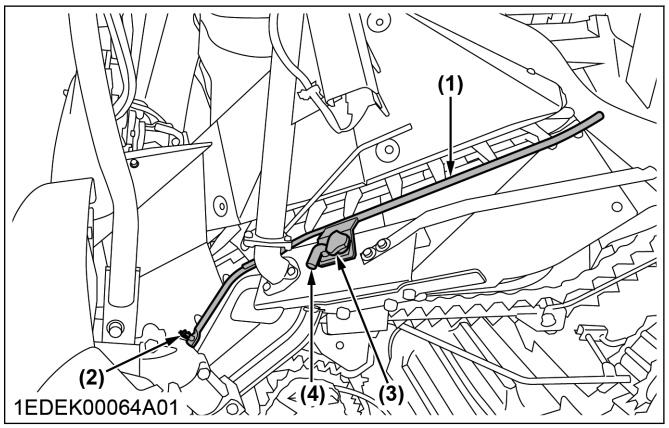
4. 調整を行ってもスリップが止まらないときは、ベルト交換を行います。

泥やわらが詰まるときの処置

1. 供給搬送部のわらを取り除く方法

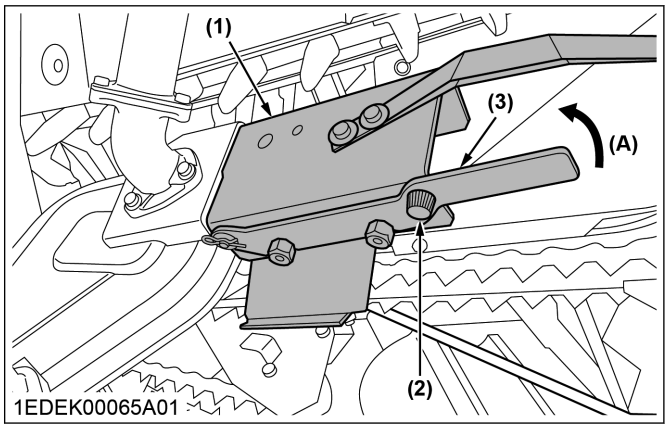
供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは、穂先ガイドと供給レールアッシを取り外して、わらを取り除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 穂先ガイドを取り外します。
   a. スナップピンを取り外します。
   b. ノブボルトを取り外し、固定ピンを抜きます。
   c. 穂先ガイドを取り外します。



(1) 穂先ガイド
(2) スナップピン
(3) ノブボルト
(4) 固定ピン

3. 供給レールアッシを取り外します。
   a. 樹脂ボルトを取り外します。
   b. ロックレバーを上側に回して、ロックを解除します。
   c. 供給レールアッシを取り外します。



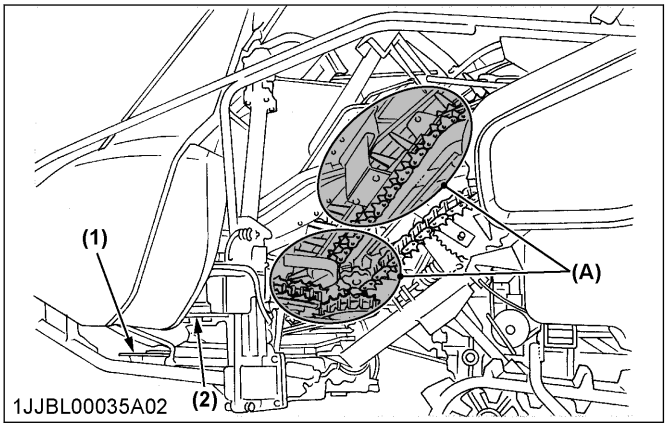
(1) 供給レールアッシ
(2) 樹脂ボルト
(3) ロックレバー
(A) ロック解除

4. 供給搬送部のわらなどのゴミを取り除きます。
5. 供給レールアッシと穂先ガイドを逆の手順で取り付けます。

2. 株元搬送通路の泥やわらを取り除く方法

湿田や倒伏作物、雑草の多いほ場で刈取り作業を行ったとき、刈取部の搬送通路が泥やわらくずでふさがったときは、取り除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈刃後方やパッカ下部などの搬送通路を掃除します。

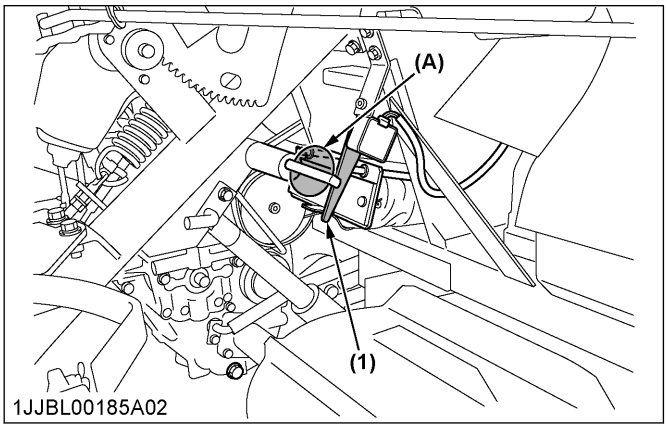


(1) 刈刃
(2) パッカ
(A) 掃除箇所

3. 刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥を取り除く方法

刈取作業中に刈取部を上昇しても刈取部および刈取搬送が停止しないときは、刈取オートクラッチセンサのセンサ部にわらくずなどのゴミや泥などの異物が溜まってセンサが作動不良の状態になっている場合がありますので、センサ部に溜まっているゴミや泥などの異物を掃除して取り除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈取オートクラッチセンサに溜まっているゴミや泥などの異物を取り除きます。



(1) 刈取オートクラッチセンサ
(A) ゴミや泥などの異物を取り除く

3. エンジンを始動します。
4. 刈取部を最上昇位置にします。

5. 再びエンジンを停止します。
6. 刈取オートクラッチセンサが戻っている（上がっている）ことを確認します。

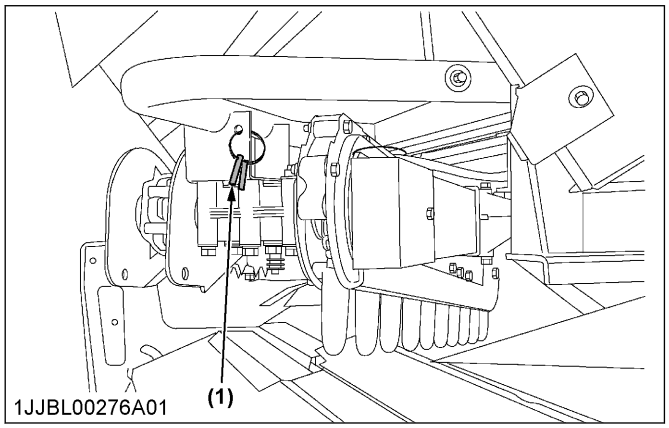
その他の不調と処置

1. 安全ピンについて

排わら処理を行っているとき、排わら穂先、株元各チェーンに負荷が掛かると、チェーンの駆動部に入っている安全ピンが切れてチェーンが動かなくなりますので、刈取り作業状態で排わら穂先、株元各チェーンが動かないときは購入先に連絡してください。

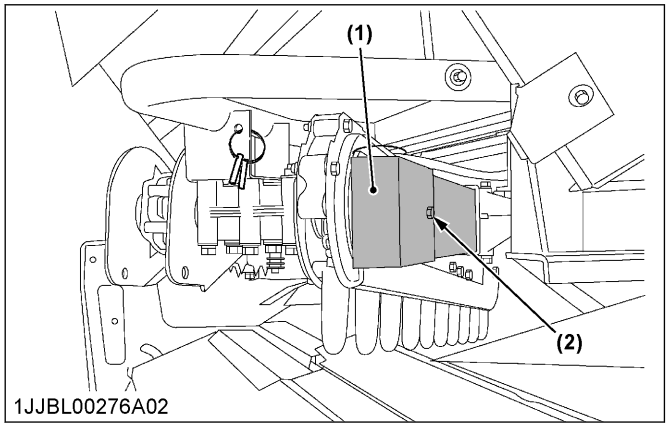
補足：

- **予備の安全ピンを出荷時は次図の所に設置しています。**



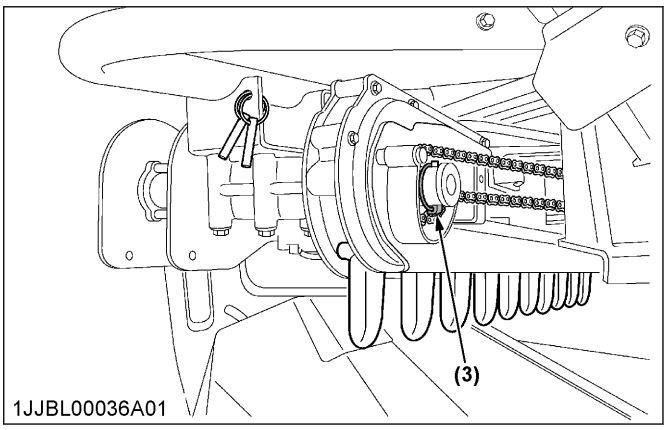
(1) 安全ピン

- **安全ピンはボルト 1 本を取り外してカバーを取り外すと、次図の位置に取り付けています。**



(1) カバー　　*(2)* ボルト

カバーを取り外した状態

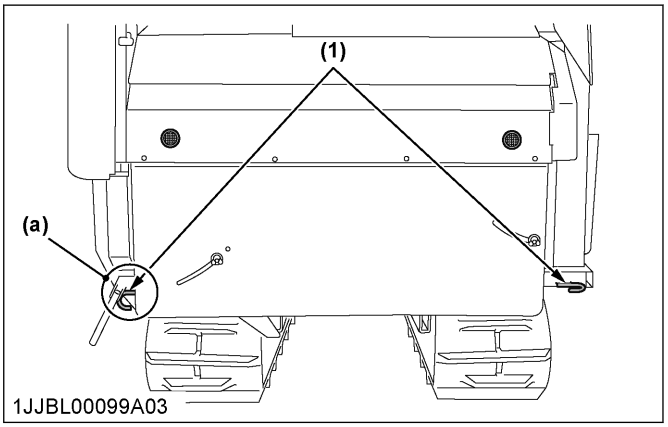


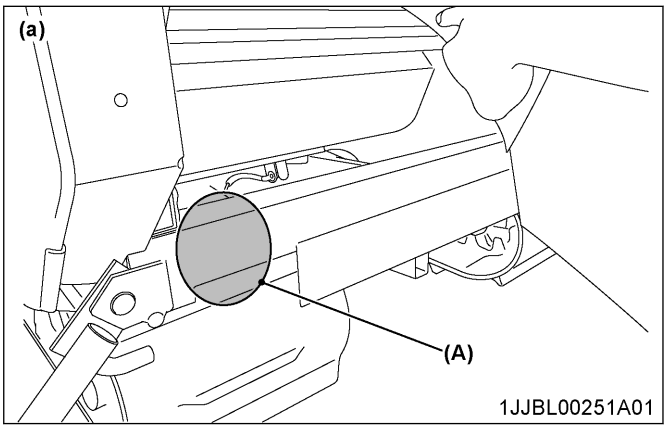
(3) 安全ピン

- **排わら穂先、株元各チェーンが動かなくなるとフィードチェーン終端部がわら詰まりにより、自動エンジン停止がはたらき、エンジンが停止しますので、わら詰まりを取り除いたあと、脱こく部を動かしてチェーンの作動状態を確認してください。**

2. けん引フックについて

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は、機体の左側後方のフレームを使用してください。このとき、ロープ掛けフックは、けん引作業に使用しないでください。





(1) ロープ掛けフック　　*(A)* けん引箇所

重要：
- **このコンバインを使って、けん引作業はしないでください。故障の原因になります。**

付表

主要諸元

[XC321]

農機型式名				クボタ R2102
商品名				XC321
区分				GC [GYC]
機体寸法	全長		mm	3425
	全幅		mm	1665
	全高		mm	1995
機体質量			kg	1300 [1320]
エンジン	型式名			D1105-E3-C-18
	種類			水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル
	総排気量		L (cc)	1.123 (1123)
	出力／回転速度		kW (PS) / r/min (rpm)	15.3 (20.8) / 2500 (2500)
	使用燃料			ディーゼル軽油
	燃料タンク容量		L	24
	始動方式			セルモータ式
	バッテリ		V・Ah	12・36〔50B24L-MF〕
走行部	クローラ	中心距離	mm	890 [910]
		幅×接地長	mm	360×1250［400×1250］
		平均接地圧	kPa (kgf/cm^2)	14.2 (0.144) [12.9 (0.132)]
	変速方式			油圧モータ式〔HST〕
	変速段数			前進無段・後進無段〔副変速各 2 段〕
	走行速度〔エンジン定格回転速度時〕	前進	m/s	移動：0～1.44 作業：0～0.80
		後進	m/s	移動：0～1.01 作業：0～0.56
	旋回方式			BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕
刈取部	刈取り条数		条	3
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕		mm	1225
	刈取装置形式			シングルアクション
	刃幅		mm	1150
	変速段数		段	〔定速〕2
	刈高さ範囲		mm	35～150
	こぎ深さ調節方式			電動モータ式（自動・手動併用）
脱こく部	脱こく方式			下こぎ・単胴・軸流式

（次へ続く）

農機型式名				クボタ R2102
商品名				XC321
区分				GC [GYC]
脱こく部	こぎ胴	径×幅	mm	390×600
		回転速度	rpm	519
	処理胴	径×幅	mm	190×100〔ツースバー処理方式〕
		回転速度	rpm	1153
	2 番還元方式			スクリュ式
	揺動板	幅×長さ	mm	510×1140
	選別方式			揺動・圧風・全幅吸引
こく粒処理部	排出方式			スクリュコンベア式
	タンク容量		L（袋）	650（約 13）〔1 袋約 50 L〕
	旋回範囲		度	255〔運転席から左回り〕
	旋回方式			電動モータ式
	昇降範囲		度	0〔水平〕～45
	昇降方式			油圧式
	排出高さ〔作業時〕		mm	1820～4335
	排出長さ〔作業時〕		mm	2235～3295
わら処理部	工場出荷仕様			• カッタ 〔カッタ切断長さ：60 mm、切断刃：標準切断刃〕
	オプション			• カッタ後部標準結束機 • カッタ後部ドロッパ • 簡易拡散装置
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○
		自動車体水平制御		—
		自動脱こく制御		○
		アンローダ	自動旋回装置	○
			排出位置選択	○
		自動エンジン停止装置		○
	刈取突込み防止装置			○
	左分草かん開閉装置			○
	枕こぎオートプレート			○
	枕こぎエンジン緊急停止 （手こぎあんしん機構）			○
	パワークラッチ〔刈取・脱こく〕			○
	集中注油装置			○
	バッテリカットスイッチ			○
	DC 電源ソケット			○
	燃料供給台			○
	ドリンクホルダ			○
	もみシャッタ			○

（次へ続く）

付表

農機型式名			クボタ R2102
商品名			XC321
区分			GC [GYC]
諸装置	アンローダリモコン		△
	パワークラッチ〔もみ排出〕		△
	刈取防じんカバー		△
	警報装置		燃料、充電、オイル、水温（オーバーヒート）、もみ満杯、負荷、2 番詰まり、シーブ詰まり、排わら詰まり、カッタ詰まり〔結束機わら詰まり／ひも詰まり／ひも切れ **[オプションで結束機を付けた場合]**〕
適応作物範囲〔全長〕		mm	550～1300
倒伏適応性		度	追刈り：85 以下、向刈り：70 以下
作業能率〔計算値〕		a/hr （分/10 a）	24～9 （25～67）

- この主要諸元は改良のため予告無く変更することがあります。
- [ ] 内は Y 仕様の数値です。
- 諸装置について、○は標準装備、―は非装備（後付け不可）、△はオプション（後付け可）を表しています。

[XC323]

農機型式名				クボタ R2101
商品名				XC323
区分				GC [GYC]
機体寸法	全長		mm	3425
	全幅		mm	1665
	全高		mm	1995
機体質量			kg	1300 [1320]
エンジン	型式名			D1105-E3-C-19
	種類			水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル
	総排気量		L (cc)	1.123 (1123)
	出力／回転速度		kW (PS) / r/min (rpm)	16.9 (23.0) / 2800 (2800)
	使用燃料			ディーゼル軽油
	燃料タンク容量		L	24
	始動方式			セルモータ式
	バッテリ		V・Ah	12・36〔50B24L-MF〕
走行部	クローラ	中心距離	mm	890 [910]
		幅×接地長	mm	360×1250［400×1250］
		平均接地圧	kPa (kgf/cm^2)	14.2 (0.144) [12.9 (0.132)]
	変速方式			油圧モータ式〔HST〕
	変速段数			前進無段・後進無段〔副変速各 2 段〕
	走行速度〔エンジン定格回転速度時〕	前進	m/s	移動：0～1.62 作業：0～0.90
		後進	m/s	移動：0～1.13 作業：0～0.63
	旋回方式			BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕
刈取部	刈取り条数		条	3
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕		mm	1225
	刈取装置形式			シングルアクション
	刃幅		mm	1150
	変速段数		段	〔定速〕2
	刈高さ範囲		mm	35～150
	こぎ深さ調節方式			電動モータ式（自動・手動併用）
脱こく部	脱こく方式			下こぎ・単胴・軸流式
	こぎ胴	径×幅	mm	390×600
		回転速度	rpm	521
	処理胴	径×幅	mm	190×100〔ツースバー処理方式〕
		回転速度	rpm	1158
	2 番還元方式			スクリュ式
	揺動板	幅×長さ	mm	510×1140

（次へ続く）

農機型式名				クボタ R2101
商品名				XC323
区分				GC [GYC]
脱こく部	選別方式			揺動・圧風・全幅吸引
こく粒処理部	排出方式			スクリュコンベア式
	タンク容量		L（袋）	650（約 13）〔1 袋約 50 L〕
	旋回範囲		度	255〔運転席から左回り〕
	旋回方式			電動モータ式
	昇降範囲		度	0〔水平〕～45
	昇降方式			油圧式
	排出高さ〔作業時〕		mm	1820～4335
	排出長さ〔作業時〕		mm	2235～3295
わら処理部	工場出荷仕様			• カッタ 〔カッタ切断長さ：60 mm、切断刃：標準切断刃〕
	オプション			• カッタ後部標準結束機 • カッタ後部ドロッパ • 簡易拡散装置
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○
		自動車体水平制御		―
		自動脱こく制御		○
		アンローダ	自動旋回装置	○
			排出位置選択	○
		自動エンジン停止装置		○
	刈取突込み防止装置			○
	左分草かん開閉装置			○
	枕こぎオートプレート			○
	枕こぎエンジン緊急停止（手こぎあんしん機構）			○
	パワークラッチ〔刈取・脱こく〕			○
	集中注油装置			○
	バッテリカットスイッチ			○
	DC 電源ソケット			○
	燃料供給台			○
	ドリンクホルダ			○
	もみシャッタ			○
	アンローダリモコン			△
	パワークラッチ〔もみ排出〕			△
	刈取防じんカバー			△
	警報装置			燃料、充電、オイル、水温（オーバーヒート）、もみ満杯、負荷、2 番詰まり、シーブ詰まり、排わら詰まり、カッタ詰まり〔結束機わら詰まり／ひも詰まり／ひも切れ **[オプションで結束機を付けた場合]**〕
適応作物範囲〔全長〕			mm	550～1300

（次へ続く）

農機型式名		クボタ R2101
商品名		XC323
区分		GC [GYC]
倒伏適応性	度	追刈り：85 以下、向刈り：70 以下
作業能率〔計算値〕	a/hr （分/10 a）	27～9 （23～67）

- この主要諸元は改良のため予告無く変更することがあります。
- [ ] 内はＹ仕様の数値です。
- 諸装置について、○は標準装備、―は非装備（後付け不可）、△はオプション（後付け可）を表しています。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

品名	数量
保証書	1
メンテナンスブック	1
取扱説明書	1
本機カバー	1
デバイダ	1 式
デバイダキャップ	1 式
前分草ガイド	1

オプション（別売品）

オプション（別売品）は純正品を使いましょう。

1. 刈取部のオプション

1.1 スイスイデバイダー一覧

倒伏した作物が能率良く刈取りできます。

品番	品名	対象型式
–	SP-XC323	全型式

1.2 刈取防じんカバー一覧

運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品番	品名	対象型式
97700001500	オプション、アッシ（ボウジン）	全型式

2. 脱こく部のオプション

2.1 種子用交換部品一覧

品番	品名	対象型式
97700001490	コウカンブヒン、アッシ（シュシヨウ）	全型式

3. こく粒処理部のオプション

3.1 無線アンローダリモコン一覧

アンローダの昇降、旋回やもみの排出の操作が無線で行えます。

品番	品名	対象型式
97700000560	パワーユニット、キット(GPK)	全型式

3.2 作業灯一覧

- アンローダ先端部から照らします。

品番	品名	対象型式
97700000570	ランプ、アッシ（G、サギョウトウ）	全型式

- 脱こく部入口を照らします。

品番	品名	対象型式
97700000870	ランプ、アッシ（サギョウトウ）	全型式

4. 排わら処理部のオプション

4.1 セラミック切断刃一覧

品番	品名	対象型式
97700000250	セツダンバ（150×17 セラミック）	全型式

4.2 カッタ後部標準結束機一覧

品番	品名	対象型式
–	KN-XC323	全型式

4.3 カッタ後部ドロッパー一覧

品番	品名	対象型式
–	S-XC323D	全型式

4.4 簡易拡散装置一覧

わら処理部で切わらの拡散と条散布の作業が行えます。

品番	品名	対象型式
97700000340	カクサン、アッシ（カンイ）	全型式

5. 運転席部のオプション

5.1 キャノピー一覧

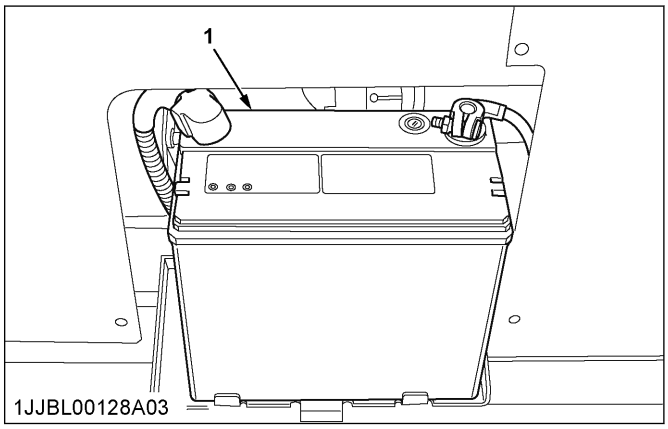
グレンタンク装着型の雨よけ、日よけです。

品番	品名	対象型式
–	CH-XC323	全型式

消耗部品

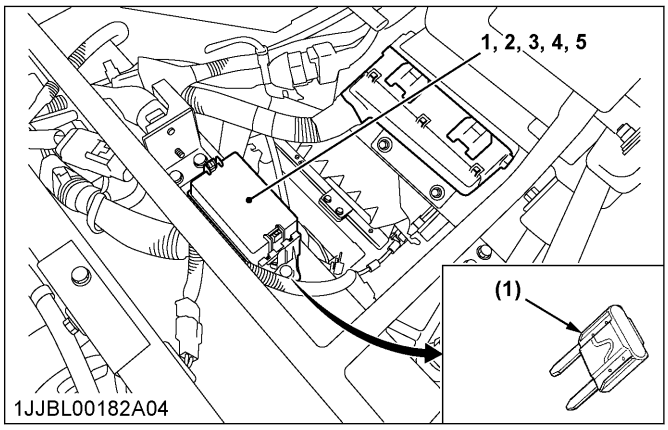
消耗部品は純正部品を使いましょう。

1. バッテリー一覧



図番	品名	品番	対象型式
1	バッテリ	99920000830	全型式

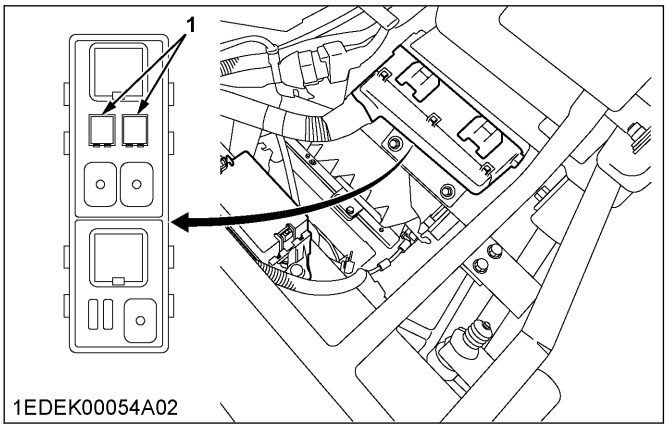
2. ヒューズ一覧

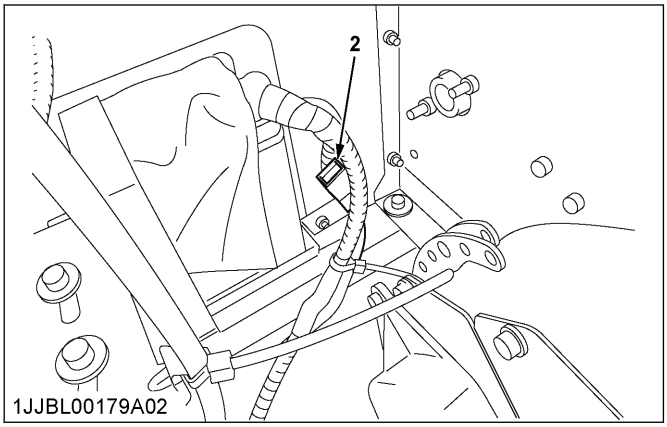


(1) ヒューズ

図番	品名	品番	対象型式
1	ヒューズ（ミニ 5 A）	99660028500	全型式
2	ヒューズ（10 A、オート）	97430000360	
3	ヒューズ（15 A、オート）	97430000370	
4	ヒューズ（20 A、オート）	97430000380	
5	ヒューズ（25 A、オート）	97520000080	

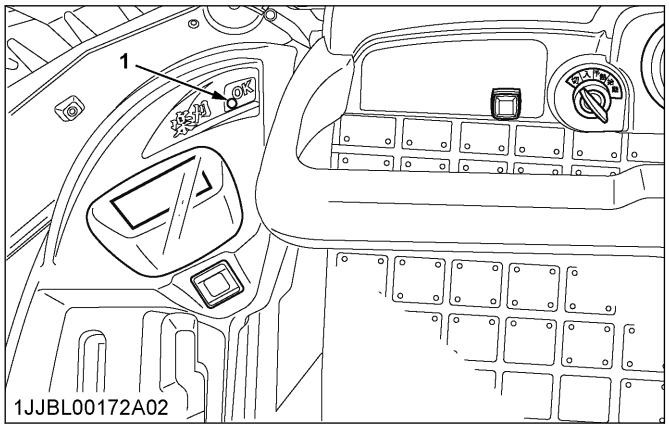
3. スローブローヒューズ一覧

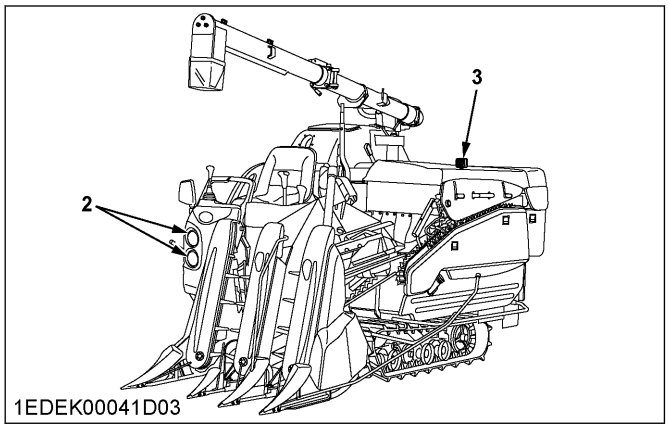


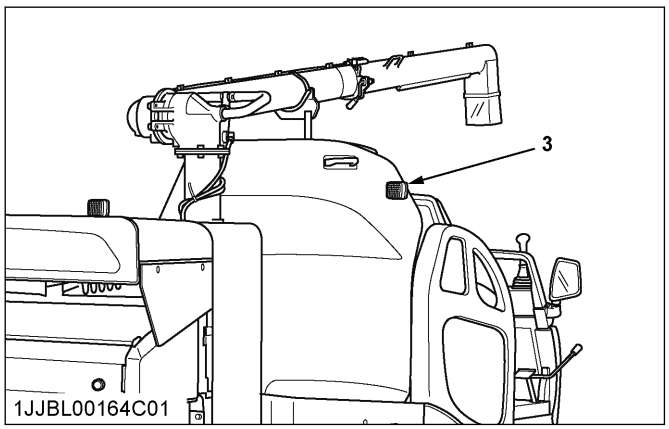


図番	品名	品番	対象型式
1	スローブローヒューズ（ミニ、40 A）	97520000070	全型式
2	スローブローヒューズ (50 A)	95410000190	

4. ランプ（電球、LED）一覧

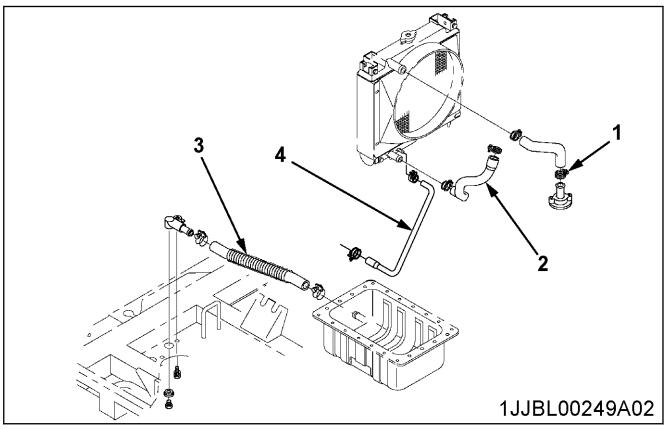






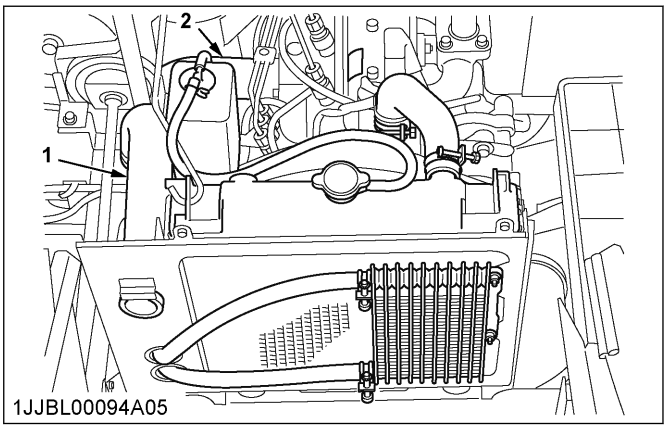
図番	品名	品番	対象型式
1	ランプ（インジケータ）	97700000520	全型式
2	バルブ（ヘッドライト 55 W）	97430000700	
3	バルブ(12 V、21 W)	99660029440	

5. ラジエータホース､オイルドレーンゴムホース一覧



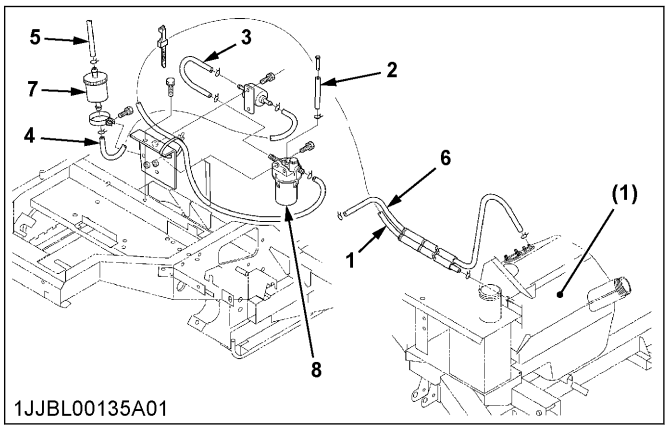
図番	品名	品番	対象型式
1	ウォータパイプ 2	97700000130	全型式
2	ホース（2、ウォータ）	97700000140	
3	ハイユチューブ	97700000230	
4	チューブ（ハイスイ）	97520000110	

6. インレットパイプ､オイルクーラホース一覧

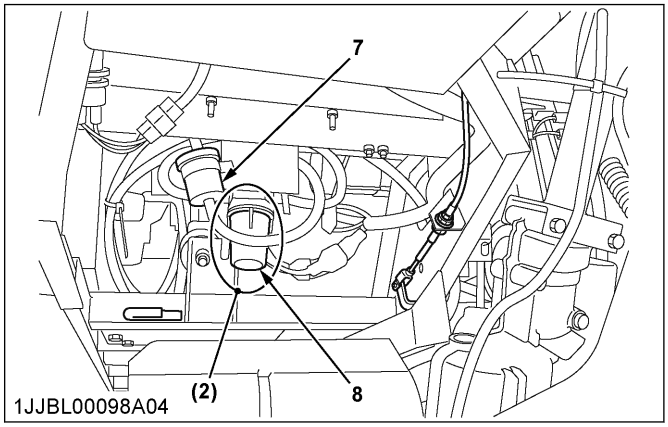


図番	品名	品番	対象型式
1	チューブ（インレットパイプ）	97700000780	全型式
2	チューブ（インレットパイプ、2）	97700000790	

7. 燃料パイプ、燃料フィルタアッシ、燃料フィルタエレメント一覧

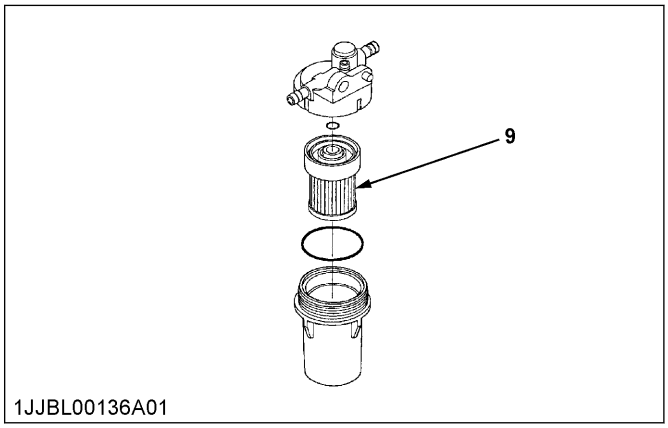


(1) 燃料タンク



(2) 燃料フィルタアッシ

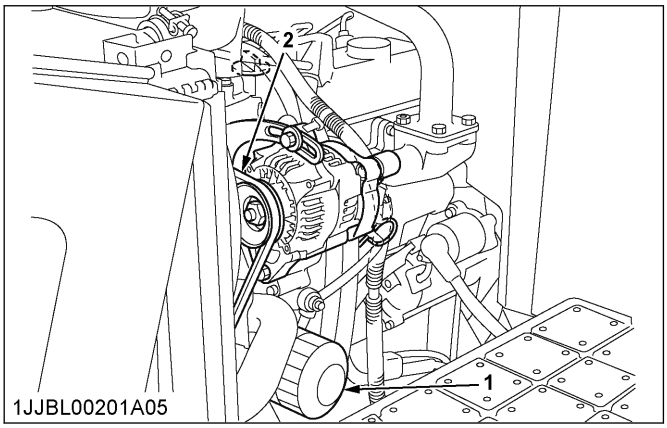
燃料フィルタアッシの分解図



図番	品名	品番	対象型式
1	フューエルチューブ	97700000090	全型式
2	フューエルパイプ	99920000970	
3	フューエルホース	95230000080	
4	フューエルチューブ	99870001270	
5	フューエルチューブ	95340001320	
6	フューエルチューブ	97700000040	
7	フューエルフィルタアッシ	97430000070	
8	フィルタ、アッシ（フューエル）	95410000240	
9	フィルタ	95410000250	

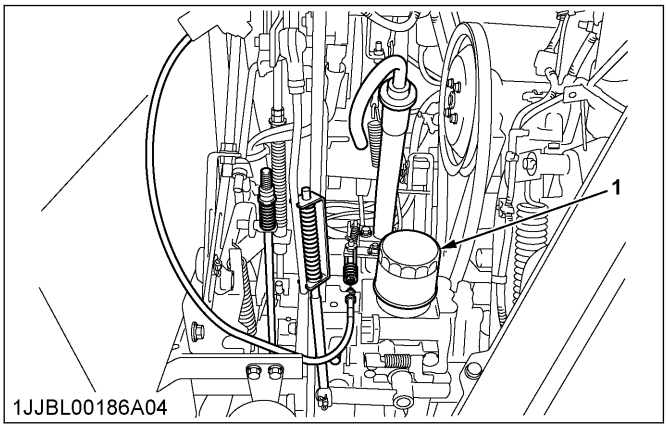
（次へ続く）

8. オイルフィルタカートリッジ、ファン駆動ベルト一覧



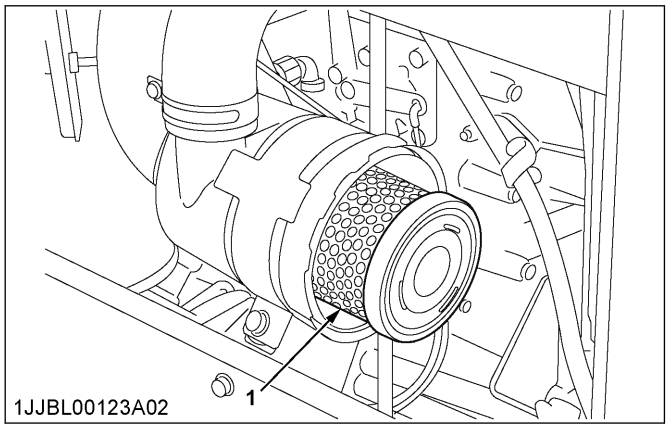
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ、アッシ（オイル、カートリッジ）	K1627132092	全型式
2	37V ベルト	97700000110	

9. ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ一覧



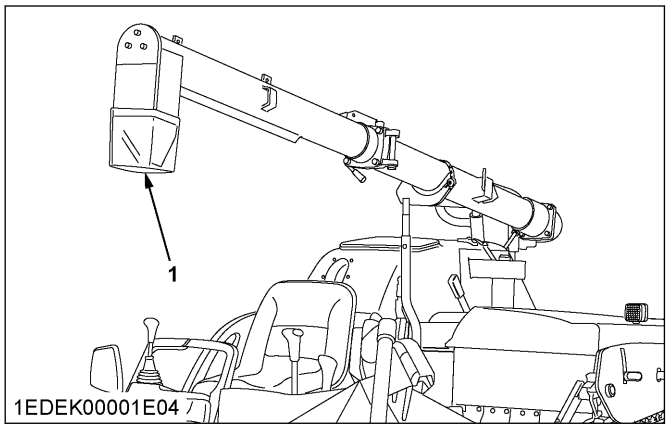
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（オイル）	97520000090	全型式

10. エアクリーナエレメント一覧



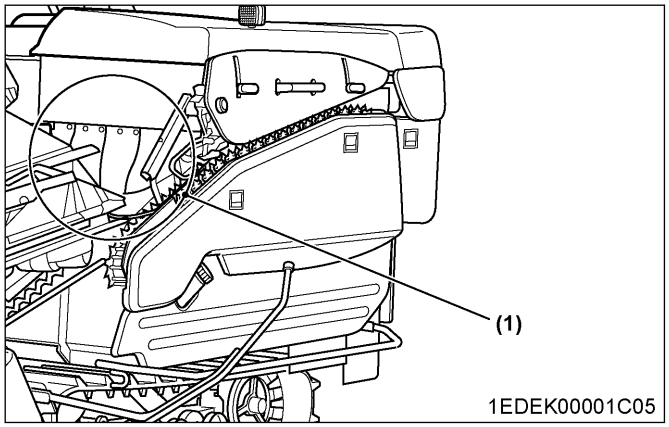
図番	品名	品番	対象型式
1	エレメントアッシ	KK731182390	全型式

11. 吐出口ブーツ一覧



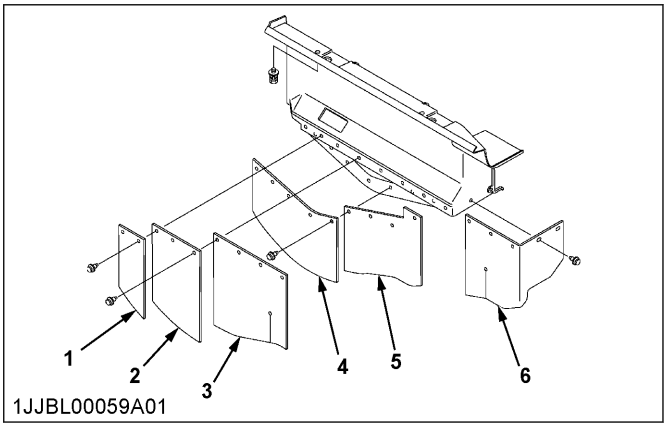
図番	品名	品番	対象型式
1	ブーツ	97700000350	全型式

12. 脱こくフロントハンプ一覧



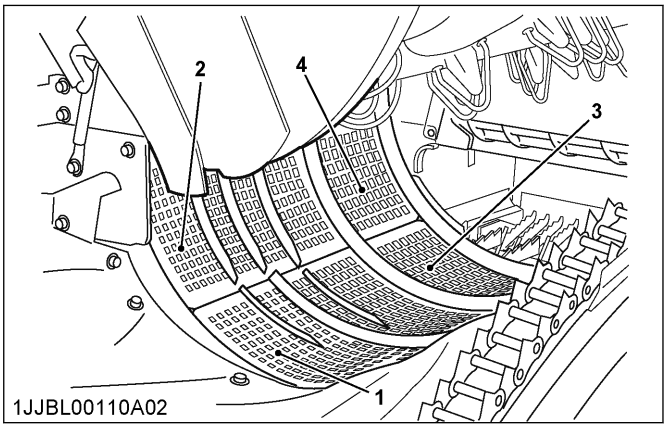
(1) 脱こくフロントハンプ

脱こくフロントハンプの分解図



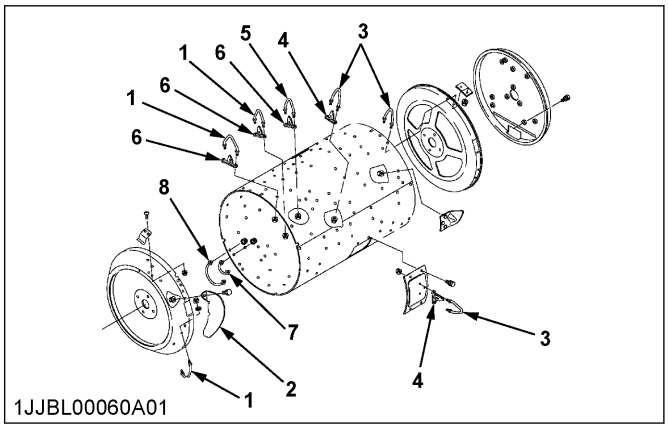
図番	品名	品番	対象型式
1	ハンプ（3、フロント）	97700001460	全型式
2	ハンプ（2、フロント）	97700001440	
3	ハンプ（1-1、フロント）	97700001420	
4	ハンプ（4、フロント）	97700001470	
5	ハンプ（5，フロント）	97700001480	
6	ハンプ（1-2、フロント）	97700001430	

13. 受あみ一覧



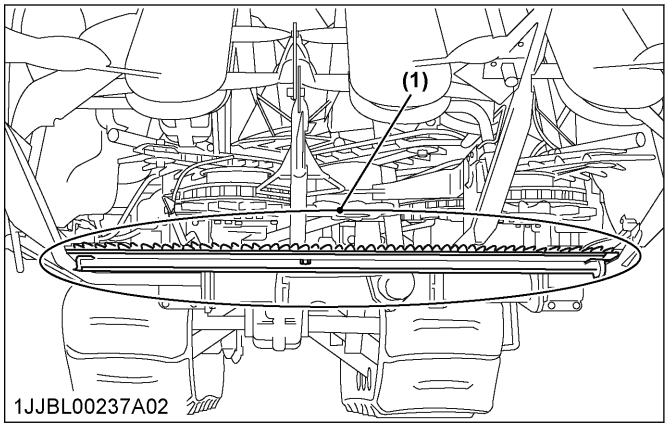
図番	品名	品番	対象型式
1	コンケーブ（10+11.5、1）	97700001530	全型式
2	コンケーブ（10+11.5、2）	97700001540	
3	コンケーブ（1、ウチヌキ 10）	97700001330	
4	コンケーブ（2、ウチヌキ 10）	97700001350	

14. こぎ歯一覧



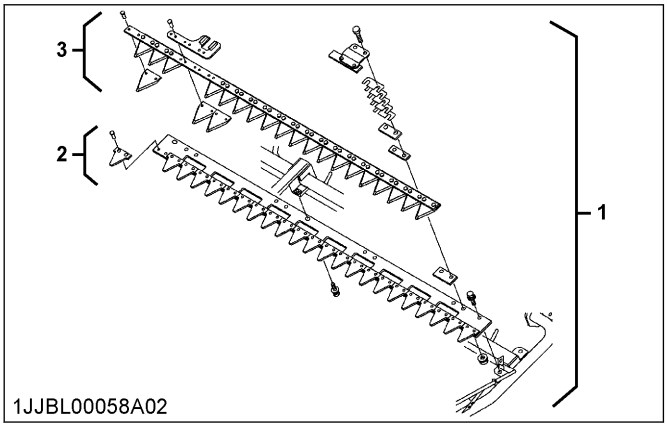
図番	品名	品番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	97700000160	全型式
2	イタセイソシ	97700001560	
3	ナミハ	97700000150	
4	イタコキハ	97430000140	
5	ダイ１ホキョウシ	97430000170	
6	イタホキョウシ	97430000130	
7	ダイ３セイソシシヨウ	97430000110	
8	ダイ３セイソシ	97430000160	

15. 刈刃一覧



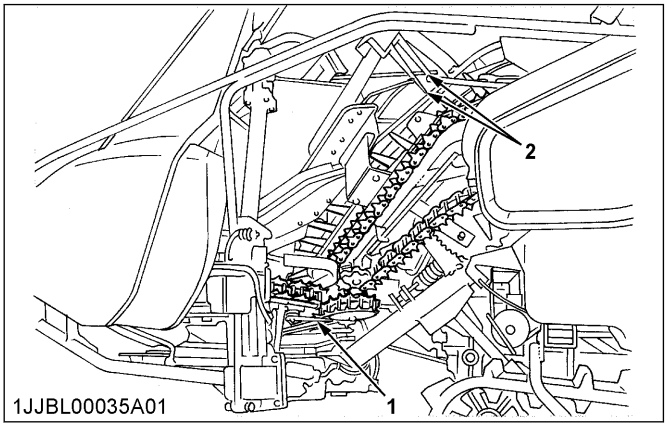
(1) 刈刃

刈刃の分解図



図番	品名	品番	対象型式
1	刈刃アッシ	97700000530	全型式
2	受刃コンプ	97700000550	
3	刈刃コンプ	97700000540	

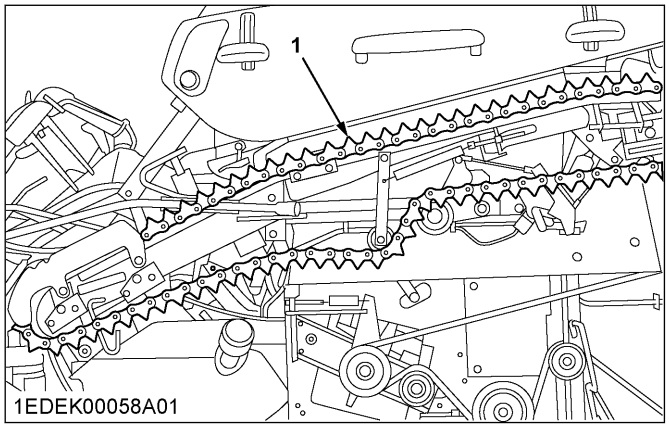
16. 株元センサ、穂先センサー覧



図番	品名	品番	対象型式
1	スイッチ、アッシ（カブモト 100）	97700001250	全型式
2	センサ、アッシ（ホサキ）	97700000860	

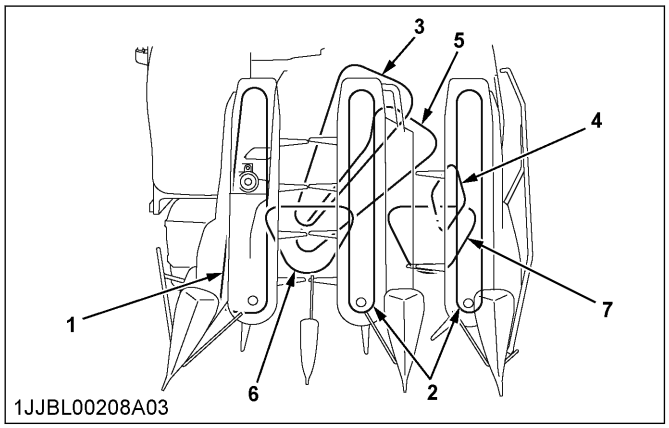
17. 各チェーン一覧

17.1 フィードチェーン一覧



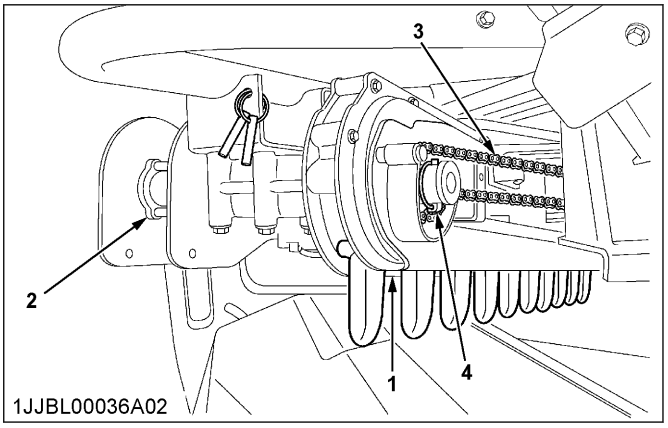
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン（フィード、104L）	97700001390	全型式

17.2 引起しチェーン、穂先供給チェーン、右株元チェーン、左株元チェーン一覧



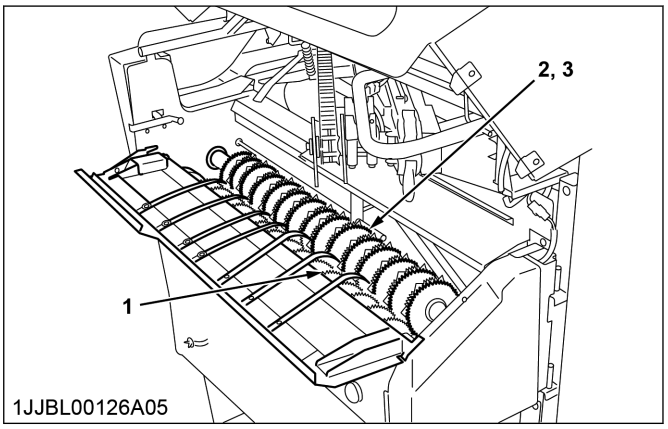
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、アッシ（ヒキオコシ、ミギ）	97430001860	全型式
2	チェーン、アッシ（ヒキオコシ）	97430000460	
3	チェーン、アッシ（ホサキ）	97700000840	
4	チェーン、アッシ（L、ホサキ）	97700000850	
5	チェーン、アッシ（キョウキュウ）	97700000830	
6	チェーン(ミギカブモト)	97700000800	
7	チェーン（ヒダリカブモト）	97700000810	

17.3 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン一覧、安全ピン一覧



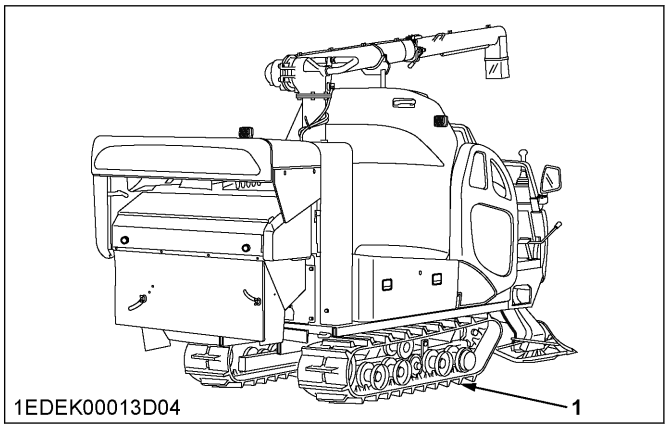
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、アッシ（ハイワラホサキ）	97700001280	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	97700001400	
3	チェーン（ハイワラニュウリョク）	97700001410	
4	ピン、アッシ	90092009530	

18. カッタ刃、ギヤローター一覧



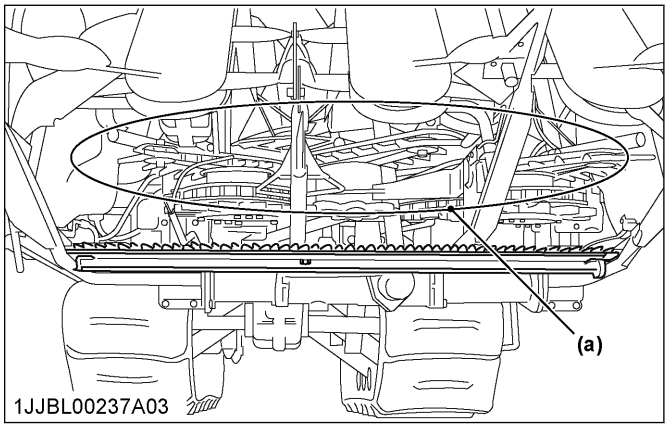
図番	品名	品番	対象型式
1	150 セツダンバ	97700000280	全型式
2	ロータ（130、ギヤ）	97700000320	
3	ロータ（130-17、ギヤ）	97700000300	

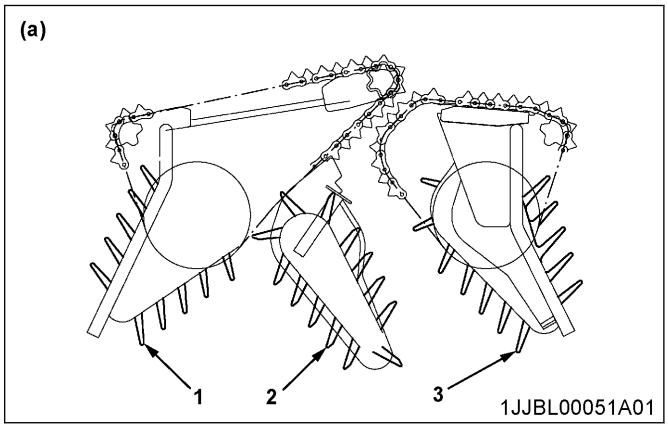
19. クローラー覧



図番	品名	品番	対象型式
1	クローラ(360-39-90)	97700000760	–
	クローラ(400-39-90)	97700000770	［Y 仕様］

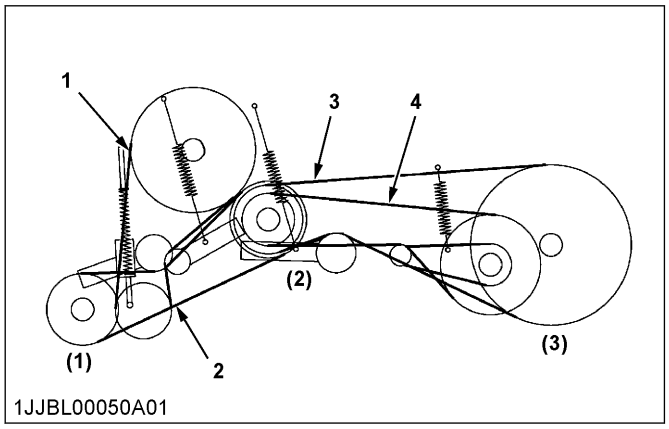
20. 突起付ベルト一覧



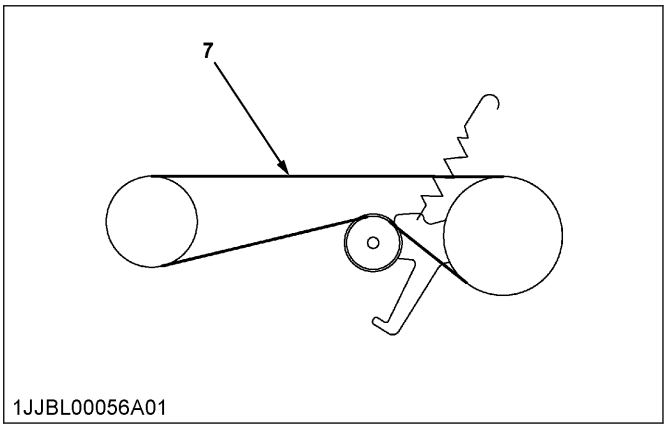


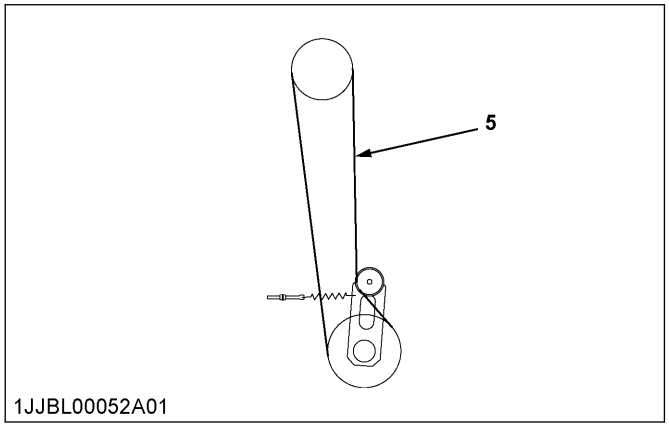
図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト（35、トッキ）	97430000580	全型式
2	ベルト（29、トッキ）	97700000820	
3	ベルト（32、トッキ）	97430000430	

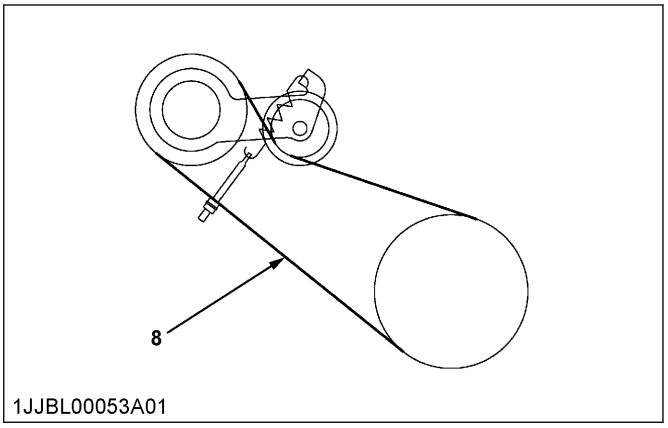
21. 各ベルト一覧

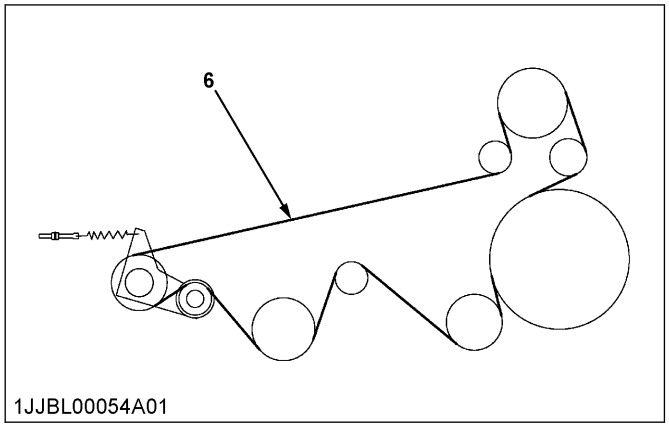


(1) HST (2) エンジン *(3)* トウミ









図番	名称	品名	品番	対象型式
1	刈取駆動ベルト	V ベルト(B44)	97700000750	全型式
2	走行（ミッション）駆動ベルト	V ベルト(B45)	97700000730	全型式
3	脱こく駆動ベルト	V ベルト(C67)	97700000890	321
		V ベルト(C66)	97700000880	323
4	グレンタンク駆動ベルト	V ベルト(A47)	97700000740	全型式
5	こぎ胴駆動ケース駆動ベルト	V ベルト(C84)	97700001310	全型式
6	1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	V ベルト(B120)	97700001380	全型式
7	カッタ駆動ベルト	V ベルト(B47)	97700001550	全型式

（次へ続く）

図番	名称	品名	品番	対象型式
8	こぎ胴駆動ベルト	V ベルト(B50)	97700001300	全型式

指定オイル

1. 指定オイルについて

オイルは指定オイルをお使いください。
オイルは、コンバインの開発研究から生まれた指定オイルを、必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。
お買求めは、購入先へご用命ください。

索引

記号・数字

1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト
　調整....176
　点検....176
1 番スクリュ上部左掃除口
　掃除....131
1 番縦スクリュ掃除口
　掃除....132
1 番横スクリュ下部掃除口
　掃除....132
1 番横スクリュ掃除口
　掃除....132
2 番処理胴（ツースバー）掃除口
　掃除....133
2 番縦スクリュ掃除口
　処置....199
　掃除....133
2 番横スクリュ下部掃除口
　掃除....132
2 番ランプ....58

アルファベット

DC 電源ソケット....59
SF ワンレバー....51

あ

アクセルレバー
　はたらき....50
あゆみ板
　準備時の注意事項.... 78
アワメータ.... 57
安全ピン
　一覧....216
　切れたときの処置.... 202
安全ラベル
　取扱い.... 40
アンローダ
　折りたたむときの注意.... 86
　折りたたむ方法....87
　刈取作業の準備....86
　グリース補給....157
　伸ばすときの注意.... 86
　伸ばす方法....88
　もみが排出されないときの処置....200
アンローダ自動旋回スイッチ.... 64
アンローダ自動旋回制御装置.... 64
　アンローダ自動旋回スイッチ.... 64
　収納スイッチ....65
　停止スイッチ....65
アンローダ手動スイッチ....65
アンローダ水平スクリュ掃除口
　掃除....134
アンローダ縦スクリュ掃除口
　掃除....134
移動走行....73
インレットパイプ
　一覧....212
ウインカスイッチ.... 59
　操作....78
カッタ部
　閉じる方法.... 118
受あみ
　一覧....214
　脱着....122
運転席左側板
　取外し.... 123
運転席（シート）.... 60
運転前の点検....67
運転免許証
　携帯....43
エアクリーナ
　交換....159
　掃除....159
　手入れ.... 159
　点検....159
エアクリーナエレメント
　一覧....214
エンジン
　寒冷時の始動....72
　始動....70
　始動と停止時の注意....70
　暖機運転....72
　停止....73
　燃料切れ後の再始動....72
　バッテリが上がったときの始動....73
エンジンオイル
　給油....154
　交換について....153
　手入れ.... 153
　点検....153
　排油....153
　補給....153
エンジンオイルフィルタカートリッジ
　交換....163
　交換の概要.... 163
エンジン回転数表示....57
エンジン停止スイッチ.... 54
エンジンルーム
　開閉時の注意....115
　閉じる方法.... 115
　開く方法....115
オイルクーラフィン
　掃除....161
オイルクーラホース
　一覧....212
オイルドレーンゴムホース
　一覧....212

オイルフィルタカートリッジ
一覧....213
オイルランプ....58
オプション（別売品）一覧表
簡易拡散装置....210
作業灯....210
セラミック切断刃....210
オプション（別売品）一覧
カッタ後部ドロッパ....210
カッタ後部標準結束機....210
刈取防じんカバー....210
キャノピ....210
種子用交換部品....210
スイスイデバイダ....210
無線アンローダリモコン....210
オートクラッチ切換えスイッチ....63

か

カッタ切換えカバー
閉じる方法....125
開く方法....125
カッタ切換えカバー開閉ワイヤ
調整....165
点検....165
カッタ駆動ベルト
調整....176
点検....176
カッタ後部ドロッパ
一覧....210
カッタ後部標準結束機
一覧....210
カッタ刃
一覧....216
カッタ左サイドカバー
取付け....124
取外し....124
カッタ部
開閉時の注意事項....117
処置....199
点検....186
内部の掃除....133
開く方法....117
株元供給チェーン
自動集中注油箇所....138
点検....180
ノズル掃除....139
株元センサ
一覧....215
株元搬送通路
泥やわらを取り除く方法....201
刈取オートクラッチ
オートクラッチ切換えスイッチ....63
刈取オートクラッチセンサ部
ゴミや泥を取り除く方法....201
刈取りかき込みスイッチ....53
刈取下降ロックスイッチ....52
刈取駆動ベルト
調整....173
点検....173
刈取部
あぜぎわ刈りのときのデバイダの条合わせ....95
ソリを浮かせた刈取....90
ソリを接地した刈取....90
ソリを接地した刈取に適さない作物....91
ソリを接地した刈取に適さないほ場....91
ソリを接地した刈取の概要....91
ソリを接地した方法が適さない刈取作業....91
通常の回り刈りのときのデバイダの条合わせ....96
中割り作業のときのデバイダの条合わせ....95
刈取変速
作物に合わせた変速の選択....100
刈取変速レバー....54
刈取防じんカバー
一覧....210
刈刃
一覧....215
自動集中注油箇所....137
すき間調整....182
点検....181
点検、調整の目安....181
取付け....184
取外し....181
ノズル掃除....137
機械の積込みおよび積降し時の速度....24
機体方向説明....44
キャノピ
一覧....210
ギヤロータ
一覧....216
給水点検一覧表....149
給油点検一覧表....149
供給搬送部
わらを取り除く方法....201
グリース
グリースニップルからの補給....157
グリースニップル
グリースの補給....157
グレンタンク
開閉時の注意事項....128
脱着時の注意事項....126
閉じる方法....129
取付け....128
取外し....126
内部の掃除....134
開く方法....128
グレンタンク下部掃除口
掃除....134
グレンタンク駆動ベルト
調整....177
点検....177
グレンタンク下カバー
取付け....125
取外し....125

クローラ
一覧.....217
調整.....195
点検.....195
クローラ張りボルト
グリース塗布箇所..... 141
けん引フック
けん引作業時の注意.....202
後輪部
グリース補給.....157
小型特殊自動車.....42
小型特殊自動車取得
届出.....43
こぎ室送じん調節レバー
調節.....106
こぎ胴
開閉時の注意事項.....115
閉じる方法..... 116
開く方法.....116
こぎ胴駆動ケースオイル
点検.....155
補給.....156
こぎ胴駆動ケース駆動ベルト
調整.....175
点検.....175
こぎ胴駆動ベルト
調整.....176
点検.....176
こぎ歯
一覧.....215
交換.....184
手入れ..... 184
点検.....184
こぎ深さ調節レバー.....63
ご相談窓口..... 41
コンバイン
移動走行前の準備..... 74
エア抜き.....136
オイル類の交換.....142
各部チェーンの調整.....178
各部の点検箇所.....178
各部の開閉時の注意..... 115
各部の脱着時の注意..... 115
各部への注油.....82
各部ベルトの調整..... 172
各部ベルトの点検..... 172
各部ベルトの点検、調整箇所..... 169
各部ワイヤ、ロッドの点検、調整..... 165
刈取作業.....91
刈取作業後の旋回..... 97
機体周りの点検.....67
クローラの交換.....142
作業速度の選択.....98
湿田作業.....97
自動集中注油箇所の掃除.....137
自動集中注油の概要.....135
使用者が行ってはいけない修理.....143
新車時の扱い.....70
旋回.....76
前日の異常箇所の点検..... 67
掃除.....130
掃除箇所.....130
掃除後の処置と確認.....135
チェーン類の交換..... 142
駐車.....77
注油後の処置と確認.....142
長期格納時の掃除..... 197
長期格納時の注油..... 197
長期格納時のバッテリの保管..... 198
長期格納時の補修..... 197
長期格納時のレバー、その他の操作.....198
定期点検.....142
定期点検一覧表.....144
停車.....77
手刈り脱こく.....103
トラック上での処置.....80
トラックへの積込み、積降し..... 79
トラックへの積込み時の準備..... 78
ならし運転..... 70
日常点検項目.....68
ノズル掃除後の処置と確認.....142
パイプ類の点検.....160
発進.....75
広いほ場の場合の刈取り.....96
フィルタ類の交換..... 142
ベルト類の交換.....142
ホース類の点検.....160
毎日の作業後の手入れ..... 197
枕刈り脱こく.....103
もみの排出..... 100
ランプの電球の交換.....194
ランプの点検.....194
コンビネーションスイッチ..... 58
ウインカスイッチ..... 59
ライティングスイッチ..... 59

さ

サイドシュート
準備.....84
通常作業時のセット.....85
中割り作業時のセット..... 85
作業可能ランプ（OK ランプ）..... 58
作業状態への復帰..... 54
作業スイッチ（楽刈ボタン）..... 53
作業灯
一覧.....210
作業灯点灯ランプ..... 58
作物
刈り取れる長さ.....81
条件についての注意事項.....81
倒伏.....81
濡れ.....81
サポートスプリングガイド
グリース塗布.....142
指定オイル..... 220

自動化装置.....62
自動こぎ深さスイッチ.....62
自動こぎ深さ制御装置
　自動こぎ深さスイッチ.....62
自動集中注油装置.....135
充電ランプ.....58
収納スイッチ.....65
種子用交換部品
　一覧.....210
手動こぎ深さスイッチ.....62
手動こぎ深さ制御装置
　制御方法.....62
主変速レバー.....51
主要諸元.....204
準備時の注意事項
　トラックとあゆみ板準備時.....78
消耗部品一覧
　安全ピン.....216
　インレットパイプ.....212
　受あみ.....214
　エアクリーナエレメント.....214
　オイルクーラホース.....212
　オイルドレーンゴムホース.....212
　オイルフィルタカートリッジ.....213
　カッタ刃.....216
　株元センサ.....215
　刈刃.....215
　ギヤロータ.....216
　クローラ.....217
　こぎ歯.....215
　スローブローヒューズ.....211
　脱こくフロントハンプ.....214
　吐出口ブーツ.....214
　突起付ベルト.....217
　燃料パイプ.....213
　燃料フィルタアッシ.....213
　燃料フィルタエレメント.....213
　排わら株元チェーン.....216
　排わら穂先チェーン.....216
　バッテリ.....211
　引起しチェーン.....216
　左株元チェーン.....216
　ヒューズ.....211
　ファン駆動ベルト.....213
　フィードチェーン.....216
　ベルト各種.....218
　穂先供給チェーン.....216
　穂先センサ.....215
　右株元チェーン.....216
　ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ213
　ラジエータホース.....212
　ランプ(LED).....212
　ランプ（電球）.....212
シーブケース
　選別板上部の掃除.....130
　脱着時の注意事項.....119
　取付け.....121
　抜出し.....119
シーブケース後部（3 番出口）
　掃除.....133
スイスイデバイダ
　一覧.....210
スクリュ軸
　グリース塗布箇所.....142
スライドガイド
　グリース塗布箇所.....142
　注油箇所.....197
　点検.....197
スライド軸
　グリース塗布箇所.....142
スライドブッシュ
　グリース塗布箇所.....142
スローブローヒューズ
　一覧.....211
　交換.....194
　点検.....194
セラミック切断刃
　一覧.....210
簡易拡散装置
　一覧.....210
選別板
　上部の掃除.....130
走行（ミッション）駆動ベルト
　調整.....173
　点検.....173
装置の名称
　機体後方.....47
　機体前方.....45
　レバー、スイッチ類.....48
損害賠償保険.....43

た

脱こく駆動ベルト
　調整.....174
　点検.....174
脱こく部
　内部の掃除.....130
脱こくフロントハンプ
　一覧.....214
チャフ調節レバー.....56
チャフ（選別板）
　すき間の開度調節.....107
注意事項
　あゆみ板.....23
　アンローダを動かすとき.....15
　アンローダを折りたたむとき.....86
　アンローダを伸ばすとき.....86
　異常に気づいたら.....16
　移動走行するとき.....13
　運転してはいけない人.....10
　運転席を離れるとき.....15
　エンジンの始動と停止時.....70
　エンジンルームの開閉.....115
　エンジンを回すとき.....19
　屋内で運転するとき.....11

改造禁止.....10
火気厳禁.....11
各部の開閉と脱着.....115
各部の掃除.....129,130
各部の注油.....129
各部の注油時.....135
各部を開閉するとき.....13
カッタ刃の調整および交換時.....20
カッタ部の開閉.....117
体の調子が悪いとき.....9
刈取作業のためのコンバインの準備時.....82
刈取作業をするとき.....15
刈取部を上げて点検、整備、および掃除するとき20
刈刃に触らない.....18
刈刃の調整および交換時.....20
機体の各カバーの固定.....24
機械の積込みおよび積降し作業.....23
機械の積込みおよび積降し前.....23
機械輸送時の注意.....25
機体にカバー（おおい）を掛けるとき.....18
機体の方向修正時の注意.....24
急旋回禁止.....13
共同作業するとき.....15
グリース補給時.....156
グレンタンクの開閉.....128
グレンタンクの脱着.....126
公道の走行.....10
こぎ胴、カッタ、結束機、およびグレンタンクを開くとき.....19
こぎ胴の開閉.....115
子供を機械に近づけない.....13
コンバインの処置時.....199
坂道での走行.....14
作業に合わせた各部の調整、調節時.....104
作業に適した服装.....9
作業方法.....9
作業前点検.....12
左右の傾きのある傾斜地での走行.....14
湿田で作業するとき.....16
指定外のバッテリは使わない.....21
周囲の安全.....11
重量物の脱着作業.....20
シーブケースの脱着.....119
すみ刈りを行うとき.....16
洗車時.....143
正しい運転.....9
駐車するとき.....15
駐車場所.....17
定期点検整備.....19
手こぎ作業するとき.....16
電気の配線コードの手入れ.....192
電気のヒューズの手入れ.....192
電気配線の点検.....18
点検、整備、交換、および掃除を行うとき.....19
点検、整備、掃除、給油するとき.....12
点検および掃除で外したカバー.....17
点検および掃除をするとき.....17
点検および掃除をする前に.....17
同乗禁止.....10
道路走行時.....77
飛降り禁止.....10
飛乗り禁止.....10
トラック荷台上での機械の固定方法.....24
トラックへの積込み、積降し時.....78
トランスミッションケースオイル手入れ時.....154
取り外したカバー類.....20
燃料、オイル、グリースの点検、補給、交換時.152
燃料噴射管の漏れ点検.....22
廃棄物の処理.....19
パイプ類の点検時.....160
初めての運転.....12
バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない.....21
バッテリの液量.....21
バッテリの手入れ時.....188
バッテリの取扱い.....18
バッテリを取り外すとき.....21
各部チェーンの点検、調整時.....178
ほ場の出入り.....14
ホース類の交換.....22
ホース類の点検時.....160
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換時.....164
道幅が狭く高所にある道路.....14
夜間の使用禁止.....11
油圧パイプの漏れ点検.....22
ラジエータの圧力キャップ.....22
ラジエータのリザーブタンク.....22
ラジエータ冷却水の手入れ時.....158
わら切刃の調整および交換時.....20
わらくずの除去.....18
わらくずの付着点検.....12
駐車ブレーキ.....51
駐車ブレーキロッド
調整.....165
点検.....165
注油
自動集中注油.....135
注油点検一覧表.....149
停止スイッチ.....65
デバイダ
あぜぎわ刈りの条合わせ.....95
出荷位置への調整.....105
上下調整.....104
ソリを地面から上げた刈取時の位置.....105
通常の回り刈りのときの条合わせ.....96
中割り作業の条合わせ.....95
デバイダキャップ
取外しと収納.....83
電気の配線コード
手入れについての注意事項.....192
電気のヒューズ
手入れ時の注意事項.....192
転輪部
グリース補給.....157
トウミ
開度による風力調節.....107

トウミ調節レバー..... 56
吐出口ブーツ
交換.....187
一覧.....214
突起付ベルト
一覧.....217
トラック
コンバインの積込み、積降し..... 79
準備時の注意事項..... 78
積込み、積降し時の注意事項..... 78
トランスミッションケースオイル
給油.....155
手入れ時の注意事項.....154
点検.....154
排油.....155
補給.....154
取扱説明書
収納場所.....42
ドリンクホルダ.....60

な

ならし運転..... 70
認定番号.....41
燃料
給油.....152,153
補給時期.....152
燃料供給台..... 61
設置.....61
燃料計..... 57
燃料パイプ
一覧.....213
燃料フィルタ
交換.....162
交換の概要..... 162
燃料フィルタアッシ
一覧.....213
交換.....162
燃料フィルタエレメント
一覧.....213
交換.....162
交換の概要..... 162

は

廃棄物
処理についての注意事項.....143
排じん調整板
調整.....107
配線コード
交換.....192
点検.....192
排わら株元チェーン
一覧.....216
調整.....181
点検.....181
排わら切換えワイヤ
調整.....165
点検.....165
排わらチェーン部
処置.....199
排わら入力チェーン
点検.....181
排わら搬送部
処置.....199
掃除.....131
排わら穂先チェーン
一覧.....216
調整.....181
手差し注油..... 141
点検.....181
排わらランプ.....58
排わらレールワイヤ
調整.....167
点検.....167
バッテリ
一覧..... 211
交換.....190
長期格納時の保管..... 198
手入れ時の注意事項.....188
点検.....188
補充電..... 190
バッテリカットスイッチ.....59
バッテリ（要補水）
交換.....191
点検.....191
補充電..... 191
補水.....191
反射器
交換.....195
点検.....195
引起しカバー
取付け..... 124
取外し..... 123
引起しサイドカバー
取付け..... 123
取外し..... 123
引起しチェーン
一覧.....216
自動集中注油箇所..... 138
調整.....179
点検.....179
ノズル掃除..... 138
引起し爪
爪高さの調節.....105
非常エンジン停止レバー.....50
左株元チェーン
一覧.....216
自動集中注油箇所..... 138
点検.....180
ノズル掃除..... 140
左サイドカバー
上、下の取外し..... 124
内 1、内 2 の取外し..... 124
取付け..... 124
左分草かん後
セット..... 83

左分草かん開閉レバー..... 54
左分草かん前
　セット..... 83
左穂先チェーン
　手差し注油..... 141
　点検..... 179
ヒューズ
　一覧..... 211
　交換..... 192
標識（ナンバプレート）
　取付け..... 43
表示ラベル
　内容..... 26
　貼付位置..... 26
ファン駆動ベルト
　一覧..... 213
　調整..... 172
　点検..... 172
フィードチェーン
　一覧..... 216
　調整..... 180
　手差し注油箇所..... 141
　点検..... 180
フィードチェーン駆動ケースオイル
　補給..... 155
フィードチェーン終端部
　処置..... 199
　掃除..... 131
負荷／脱こくランプ..... 58
副変速レバー..... 51
付属部品..... 210
不凍液
　長期格納時のラジエータ冷却水への配合..... 197
ブレーキペダル..... 51
ベルト各種
　一覧..... 218
ベルトカバー
　内部の掃除..... 131
防じんあみ
　掃除..... 161
穂先供給チェーン
　一覧..... 216
穂先センサ
　位置調節..... 63
　一覧..... 215
補修用部品
　供給年限..... 42
ほ場
　あぜぎわの手刈り..... 82
　傾き..... 82
　刈る方法..... 95
　旋回..... 95
　出入り..... 89
　ぬかるみ..... 81
　枕刈り..... 82
補助搬送（突起付）ベルト
　調整..... 174
　点検..... 174
ホーンスイッチ..... 58,59
　点検..... 194

ま

枕こぎオートプレート支点部
　手差し注油..... 140
右株元チェーン
　一覧..... 216
　自動集中注油箇所..... 138
　点検..... 180
　ノズル掃除..... 140
右穂先チェーン
　自動集中注油箇所..... 138
　点検..... 179
　ノズル掃除..... 139
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ
　交換..... 164
　交換時の注意事項..... 164
　一覧..... 213
無線アンローダリモコン
　一覧..... 210
メインスイッチ..... 50
メータユニット..... 56
　2 番ランプ..... 58
　アワメータ..... 57
　異常確認..... 110
　エンジン回転数表示..... 57
　オイルランプ..... 58
　各ランプ..... 57
　作業可能ランプ（OK ランプ）..... 58
　作業灯点灯ランプ..... 58
　充電ランプ..... 58
　燃料計..... 57
　排わらランプ..... 58
　負荷／脱こくランプ..... 58
　もみランプ..... 58
もみ排出クラッチレバー..... 56
もみランプ..... 58

ら

ライティングスイッチ..... 59
ラジエータフィン
　掃除..... 161
ラジエータホース
　一覧..... 212
ラジエータ冷却水
　交換..... 158
　長期格納時の排水..... 197
　長期格納時の不凍液の配合..... 197
　手入れ時の注意事項..... 158
　点検..... 158
　補給..... 158
ランプ(LED)
　一覧..... 212
ランプ（電球）
　一覧..... 212

リヤシュート
準備.....84
レバーガイドシート
閉じる方法..... 117
開く方法.....116

わ

わら切刃
組換え..... 185
交換.....185,186
手入れについて.....185
点検.....185
取付け..... 186
わら処理切換えスイッチ
排わら処理の選択..... 83